

東主之原方也本村培

事 白 白

牛 牛 牛

人 人 人

池 池 池

子此書

無山似我今古

富山美乃

世以爲

十月二十日

愛、山、三、河、金、正、成、海、神、即、
上、市、五、重、兵、内、二、四、道、言、一、
一、
一、

新島襄全集

9

来簡編

〈上〉

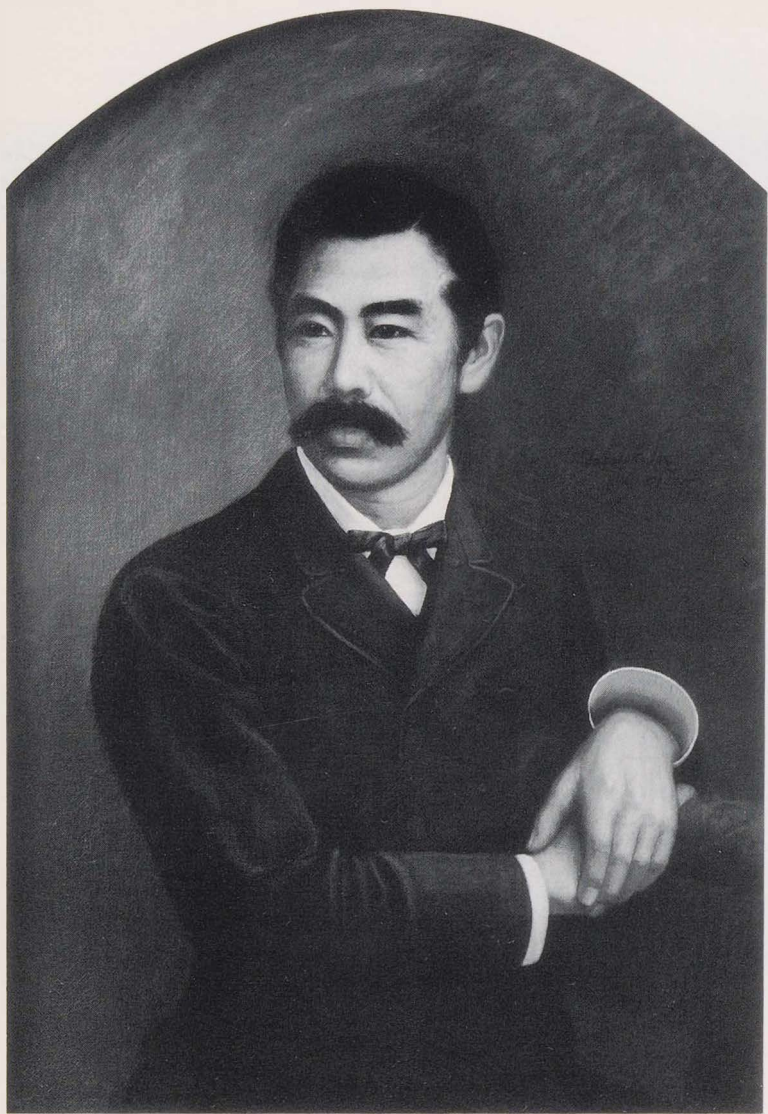
新島襄全集編集委員会 編



*The Complete Works
of*

Joseph Hardy Neesima

同朋舎出版



新島 襄 伊藤快彦画

Clara S. Davis
 Box 140
 Oberlin,
 Ohio.
 J. S. Swift
 c/o Dr. Whitney
 U.S. Dept.
 Wash. D.C.

抄手 國光 仁三
 黃存 年丹民一
 黃永倫 竹匠 宋門主
 山門 門金 一
 二五 一五 他 阿 丁 砂 稻
 但 區 四 城 山 等 郡
 湖 人 利 大 江 振 之 五
 王 受 魯 魯
 匠 匠 首 樁 本 武 楊
 其 年 沐 川 丁 勝 步 房
 其 福 也
 其 內 大 孫 宣 丁
 丹 順 國 印
 山 仁 厚 人 五
 丹 上 軍 介

高士去訪中島丁寺
片岡健芳
大坂産後三月八日
今夜去信三明日返電
沖山平通三月九日着の書
夜果已今様五日生き酒
悪年永黒上高子
良女長永保四

高橋越十郎三郎 甲七重
地男御前
○學部課 淺野長圓
根井鐸平 松師孝一
甘研廣 三師 佐
三千五百
大田五郎次郎
大田の市町内山田所
いふ地宿院
上野島村沖合
二十廿番地
市役所 市役所
大田の西条支那
○田中元三郎

得知姓名簿 (4点とも)
 大福帳仕立 80丁の内 15×44cm

長崎 山口 下 美 推

○ 山 川

○ 永 永 永

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 廣 廣 廣

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

○ 山 山 山

"Doshisha"

Received

(1875-)

Paid

Exp. Sum

Jan 1st

On hand, from American friends. 5,000.00

Rec. fr. Amer. friends during this fall 450.00

Tuition this term 145.00

5464.50

1 Bayly school land	550 00
Oct. Davis salary	100 00
Nov. " "	100 00
" " rent	10 00
" " ^{hogan} Shikien	40 00
" School building ^{Shikien} - 5	30 00
" " " rent	7 51
" School prospectus	3 60
" " furnishings	42 60
Dec Davis salary	100 00
" " rent	7 50
" school rent	14 00
" " furnishings	53 25
" school land taxes	6 00
	<hr/> 1,014.18

(1876)

Tuition this term 43.45

Jan. Davis salary	100 00
" Davis house repairs	48 20
" " rent for 3 mo.	22 50
" school rent	14 00
" Shikien on Taylor's home	50 00
" Taylor house repairs	34 50
" school land taxes	13 80
Feb. Davis salary	100 00
" school rent	14 10
" Taylor house repairs	26 58
March Davis salary	100 00
" Landed - "	51 00
" Taylor	50 00
	<hr/> 623 63

新島襄全集 9 ■ 来簡編 ■ 凡例

I 史料は編年順に番号を付して排列した。同一日付に複数存在する場合は、親族をさきにし、他は原則として宛名のアルファベット順とした。また、年月日を欠くもののうち、本文内容等から推定できるものは「」で囲んで表示した。なお、「年次未詳」、「年月未詳」、「年月日未詳」の書簡も番号を付して後に排列した。

II 各史料には本文の前にその形態・出典・所蔵者等について次の注記を施した。

- 1 ①封筒裏に差出人の住所が記されている場合に限り、これを表示した。
- 2 ②封筒表の新島裏の住所を記した。また脇付等の添書をも表示した。
- 3 ③史料がはがき若しくは電報である場合、或いは封筒のみの場合これを表示した。
- 4 ④史料が墨書の場合は「墨」、黒あるいは青インク書は「インク」、赤インクで毛筆を用いてる場合これを「毛筆（赤インク）」と表示した。

5 ⑤史料の所蔵・出典状態を示す。原史料を同志社社史資料室が所蔵する場合、これは特に記さない。ただし伝存の経緯のなかで、写真または写本で収められているものは、「写真」または、「写」と表示した。刊本、新聞・雑誌等からの転載は、書名号数（発行年月日）を示した。

6 ⑥史料全体に関わる事項について、これを表示した。

III 原史料の表記およびその体裁を尊重し、かつ読解の便をも考慮して、翻刻は原則として次の基準に拠った。

- 1 史料には適宜句読点を施した。
- 2 翻刻にあたっては、原則として常用漢字を用いた。
- 3 略字・合体字・異体字などは用いず、原則として常用漢字もしくはカタカナに直した。また、変体仮名はひらがなとした。ただし、「小生」などの卑称ならびに「陳者」「江」など、若干の例についてはもとのまま残し字

体を小さくして示し、また「京」はそのままとした。

4 仮名遣いは原文のままにした。カタカナとひらがなの混用、清濁音の混用も、そのままにした。

5 外国人名・地名、その他の外国語のカタカナ表記が、現在と著しく異なる場合は、常用の表記を「」で示した。

6 原文のルビや返り点はそのまま残した。また、踊り字は概ね原文のままにした。

7 本文中の○、△、※等の記号、および弧線、傍線、圈点なども原史料のままにした。

8 補筆は「」で囲み本文中の該当箇所へ挿入し、その右肩に「補」と記した。挿入箇所不明の場合は、記されている箇所へ掲げた。また、「朱」は、補筆が朱（赤インク）でなされていることを示す。

9 判読不可能な字句は、字数がわかるものについては□□で、字数不明の場合は「」によって表示した。

10 判読が曖昧な字句には「カ」を、不明の字句には「ママ」を、それぞれの右に傍記した。

11 抹消されている字句は、左傍に々々を付し、右傍に訂正された字句を示した。抹消文字が判読不可能な場合は■で示した。抹消・訂正が長きにわたる場合はそれぞれを「」で囲み、その右肩に「抹消」「訂正」と記した。

12 印章はその形に従い、㊦、㊧などで表示した。

13 史料にはこれに付随して、同封される形態のものがあり、これらもあわせて収載することを原則としたが、これら第三者書簡ならびに記録などの史料のうち、省略した場合があります、この場合Ⅱの⑥でこれを表示した。

Ⅳ 史料中の編集者による注記等は「」で囲んで表示した。

新島襄全集 9 ■ 来簡編 ■ 目次

凡例	1
目次	v

来簡(上卷) 一八六七—一八八八年

慶応三(一八六七)年

1	六月十七日	飯田 保	3
2	六月十八日	新島双六	5

3	六月十八日	新島民治	6
---	-------	------	---

慶応四(一八六八)年

4	二月七日	新島美代	9
5	二月七日	新島民治	11

6	十二月十四日	新島美代	16
7	[十二月十四日]	新島登美	18

明治二(一八六九)年

8	二月九日	新島民治	20
9	四月十二日	新島民治	41

10	七月二十六日	新島双六	45
11	十月十五日	栗津銈次郎	47

明治四（一八七一）年

12	〔二月初旬〕 新島民治……………	50
13	五月一日 川田甕江……………	56
14	五月二十七日 新島民治……………	57

明治七（一八七四）年

18	四月十日 田中不二磨……………	62
19	五月四日 田中不二磨……………	63

明治八（一八七五）年

22	一月十二日 千木良昌庵……………	66
23	一月十二日 植栗義達……………	67
24	二月四日 木戸孝允……………	68
25	二月十五日 内海忠勝……………	69
26	二月二十一日 木戸孝允……………	70

15	六月二十日 新島民治……………	59
16	八月十二日 R・コ……………	60
17	八月二十二日 森 有礼……………	61

20	十二月二十日 田中不二磨……………	64
21	十二月二十二日 川田 剛……………	64

27	二月二十二日 田中不二磨……………	71
28	七月九日 田中不二磨……………	72
29	八月九日 田中不二磨……………	73
30	十月十二日 福土成豊……………	74
31	十月二十九日 木戸孝允……………	76

明治九（一八七六）年

32 一月十七日 田中不二磨……………77

33 六月九日 福士成豊……………78

明治十（一八七七）年

34 三月二十八日 田中不二磨……………81

明治十一（一八七八）年

35 五月九日 柳島 誠……………83

36 六月十日 柳島 誠……………85

37 七月九日 津田 仙……………86

38 八月十二日 津田 仙……………87

39 九月二十八日 岡部長職……………88

明治十二（一八七九）年

40 二月十日 中川横太郎……………91

41 五月二日 田中不二磨……………92

42 九月二十五日 津田 仙……………92

明治十三（一八八〇）年

43	三月十一日	西 毅一	95
44	八月二日	瀬川 浅	96

明治十四（一八八一）年

46	二月十日	津田 仙	99
47	二月十四日	中村正直	100
48	二月十五日	中村正直	102
49	二月十六日	長松 幹	103
50	二月二十七日	長松 幹	105

明治十五（一八八二）年

56	二月二十五日	浜岡光哲	111
----	--------	------	-----

明治十六（一八八三）年

58	三月十四日	尾越蕃輔	114
59	三月二十三日	小崎弘道	115

45	九月十五日	瀬川 浅	98
----	-------	------	----

51	二月二十七日	長松 幹	106
52	三月二十一日	長松 幹	107
53	四月二日	長松 幹	108
54	七月三十日	新保虎之助	109
55	十月二十九日	大西 祝	110

57	三月七日	海老名喜三郎	112
----	------	--------	-----

60	五月二十六日	富田鉄之助	115
61	六月一日	湯浅治郎	116

62 七月二十七日 外山脩造……………117

明治十七（一八八四）年

64 二月十日 伊藤博文……………119

65 二月二十四日 陸奥宗光……………120

66 三月十日 古沢 滋……………121

67 三月二十二日 田中源太郎……………122

63 十月二日 田中源太郎……………118

68 五月八日 市原盛宏……………123

69 六月二十五日 池袋清風……………124

70 七月三十日 原 権四郎……………128

71 十二月二十九日 小野英二郎……………129

明治十八（一八八五）年

72 一月七日 同志社英学普通科三年

生海老名一郎外三十名 船本

梅二郎・井上清二郎・加賀山

益三郎・葛岡龍吉・河辺文次

郎・兼頭和策・増田時二郎・

松浦政泰・松本亦太郎・三谷

種吉・望月興三郎・村田栄二

郎・村上能定・縄田清太郎・

中村録三郎・岡本彦八郎・佐

藤源平・佐藤忠順・志垣要

三・白木正蔵・鈴木左馬二

郎・多賀 平・豊田通憲・津

田治郎次・矢口信太郎・山路

一三・安田勘次・依光方成・

湯浅一郎・芳松勝三郎……………131

一月十日 森田久万人……………134

一月十二日 市原盛宏……………137

一月十九日 末吉保造……………139

二月八日 桜田静馬……………141

二月十三日 伊勢時雄……………142

78	三月十日	小崎弘道	149
79	三月二十一日	松山高吉	152
80	三月二十五日	山崎新太郎	159
81	四月二日	伊勢時雄	162
82	四月二日	松山高吉	170
83	四月二十三日	小崎弘道	172
84	四月二十七日	小崎弘道	175
85	六月十八日	同志社邦語神学第三年生池袋清風外八名 足立琢・馬場種太郎・加藤寿・木下金太郎・宮川富二郎・辻籌夫・須田明忠・小野忍	177
86	六月二十六日	藏原惟郭	179

明治十九（一八八六）年

99	一月五日	山崎新太郎	205
100	一月十一日	柴原宗介	206
101	一月十三日	富田鉄之助	207
102	一月十四日	小崎弘道	208
103	一月二十一日	半田宇平次	211

106	105	104※	104	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87
二月十日	二月六日	十二月二十四日	一月二十五日	十二月二十七日	十二月十七日	九月中旬	八月十六日	七月二十日	七月十八日	七月十五日	七月十四日	七月十三日	七月十三日	六月	六月二十九日
小崎弘道	富田鉄之助	大倉組書簡	下村孝太郎	富田鉄之助	半田宇平次	藏原蘇嶽(惟郭)	内村鑑三	松山高吉	小崎弘道	大儀見元一郎	山崎新太郎	杉浦義一	下村孝太郎	大儀見元一郎	山本覚馬
215	214	213	212	203	203	201	199	194	191	190	188	186	183	182	181

125	124	123	122	121※	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107
四月三日	四月三日	三月二十六日	三月二十六日	三月二十三日	三月二十五日	三月二十三日	三月二十三日	三月十七日	三月十五日	三月十五日	三月十日	三月十日	三月七日	三月七日	三月三日	三月二日	二月二十七日	二月十七日	二月十日
富田鉄之助	富田鉄之助	富田鉄之助	松山高吉	富田鉄之助宛	富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	小崎弘道	山崎新太郎	藏原惟元	小崎弘道	小崎弘道	富田鉄之助	同志社生徒某	富田鉄之助	山崎新太郎	山崎新太郎	富田鉄之助	山崎新太郎
243	242	240	237	236	236	234	232	231	230	229	228	227	226	223	222	221	219	218	216

146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126
九月二十六日	九月十二日	九月九日	九月四日	八月二十一日	八月二十日	八月十四日	八月六日	七月二十六日	七月二十二日	七月十二日	七月八日	六月二十七日	六月二十三日	六月十五日	六月十一日	四月十二日	四月十二日	四月七日	四月六日	四月五日
富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	富田鉄之助	松倉 恂	富田鉄之助	富田鉄之助	北垣国道	山崎新太郎	堀 貞一	富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	木場貞長	富田鉄之助	富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	松山高吉	中村栄助	松山高吉
274	272	271	270	269	268	266	266	263	261	259	258	257	256	255	254	250	249	248	247	245

明治二十(一八八七)年

147	九月二十八日	山崎新太郎	275
148	九月三十日	牧野伸顯	277
149	十月四日	尺 振八	278
150	十月八日	富田鉄之助	279
151	十月九日	辻 密太郎	280
157	一月二十七日	岡部 広	288
158	三月十五日	岡部 広	290
159	四月五日	岡部 広	292
160	四月十二日	大久保真二郎	293
161	五月十二日	市原盛宏	298
162	五月十四日	富田鉄之助	300
163	五月十九日	大久保真二郎	301
163※	五月十九日	大久保音羽	307
164	五月二十一日	福士成豊	308
165	五月二十三日	大久保真二郎	309
166	五月二十五日	坂田丈平	312

152	十月十二日	牧野伸顯	281
153	十月二十九日	堀 貞一	282
154	十一月十三日	富田鉄之助	283
155	十二月四日	市原盛宏	284
156	十二月二十日	岡部 広	286
167	五月二十九日	松平正直	313
168	十一月三日	徳富猪一郎	314
168※	十一月二日	陸奥宗光書簡 徳 富猪一郎宛	315
169	十一月十九日	徳富猪一郎	315
170	十一月二十四日	伊勢時雄	316
171	十二月十四日	杉田定一	318
172	〔十二月十七日〕	徳富健次郎	319
173	十二月二十二日	岡部 広	320
174	十二月二十八日	市原盛宏	321

明治二十一年（一八八八）年

175	一月二日	内藤兼備	324
176	一月三日	松本勘十郎	326
177	一月三日	成瀬仁蔵	327
178	一月六日	中島末治	328
179	一月八日	福士成豊	330
180	一月九日	不破唯次郎	331
181	一月十三日	野尻岩次郎	332
182	一月十四日	小崎弘道	333
183	一月十六日	不破唯次郎	333
184	一月十六日	伊勢時雄	334
185	一月十六日	岡部 広	335
186	一月十六日	大沢善助	337
187	一月十六日	杉田 潮	338
188	一月十六日	橘 仁	339
189	一月十七日	小崎弘道	340
190	一月十九日	不破唯次郎	341
191	一月十九日	松本勘十郎	342
192	一月十九日	山岡邦三郎	343
193	一月二十一日	新島公義	344

194	一月二十四日	岡部 広	345
195	一月二十四日	上野松治郎	346
196	一月二十八日	杉浦義一	348
197	二月一日	西郷保吉	350
198	二月二日	沢 茂吉	351
199	二月三日	中村缸造	352
200	二月六日	不破唯次郎	353
201	二月六日	川上八三郎	354
202	二月七日	新井 毫	355
203	二月十一日	市原盛宏	357
204	二月十二日	福士成豊	358
205	二月二十一日	新島公義	360
206	二月二十三日	星野光多	361
207	二月二十七日	伊勢時雄	362
208	二月二十九日	原田 助	364
209	二月二十九日	松平容大	365
210	二月二十九日	望月興三郎・兼子	366
211	三月一日	井尻亀太郎	367

232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212
四月二日	四月二日	三月二十四日	三月二十四日	三月二十二日	三月二十二日	三月二十二日	三月二十一日	三月二十一日	三月二十日	三月十七日	三月十七日	三月十七日	三月十一日	三月九日	三月八日	三月七日	三月六日	三月四日	三月三日	三月一日
德富猪一郎	伊東熊夫	德富猪一郎	不破唯次郎	德富猪一郎	宮川経輝	金森通倫	長田時行	福土成豊	松村四朗	湯浅治郎	富田鉄之助	金森通倫	金森通倫	金森通倫	德富猪一郎	原 六郎	新島公義	三木正起	金森通倫	岩田徳義
393	392	391	391	389	389	388	387	386	383	382	381	379	377	376	375	374	372	371	369	368

251	250	249	248	247	246	245	244	243	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233
六月二十一日	六月二十一日	六月十四日	六月六日	五月二十八日	五月二十八日	五月二十六日	五月十九日	五月十四日	五月十四日	五月九日	五月六日	五月二日	五月二日	四月三十日	四月十日	四月九日	四月七日	四月五日	四月四日
三好退蔵	青木周蔵	原 六郎	湯浅吉郎	上原権太郎	高田義助	三木正起	陸奥宗光	大隈重信書簡	德富猪一郎	德富猪一郎	三好退蔵	沢沢栄一	原 六郎	原 六郎	望月興三郎	新井 毫	新島公義	石黒 務	德富猪一郎
415	414	413	411	410	409	408	407	407	406	405	404	403	402	401	400	397	396	395	394

265	264	263	262	261	260	259	258	257	256		255		254	253	252
九月十日	九月七日	八月二十八日	八月二十七日	八月十九日	八月六日	七月二十五日	七月二十三日	七月十七日	七月三日		六月		六月三十日	六月二十八日	六月二十七日
須田明忠	岩崎弥之助	岩崎弥之助	増野悦興	勝 安芳	北垣国道	矢野文雄	陸奥宗光	松浦政泰	三好退藏		同志社予備校生徒		同志社別科神学第四年生	渋沢栄一	渋沢栄一
429	428	427	426	425	424	423	422	421	420		篠田熊次郎・下 辰六・黒木米吉・森良雄・堤 門喜・福岡文太郎		阿部政雄・塩見孝次	417	416
											郎・江浪亀四郎		桐鱗太郎・富田之資・中山光五郎・高橋 優・阪田忠五郎		

286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266
十月二十六日	十月二十五日	十月二十五日	十月二十五日	十月二十三日	十月二十三日	十月十八日	十月十七日	十月十一日	十月十一日	十月十一日	十月九日	十月八日	十月六日	十月六日	十月五日	九月二十八日	九月二十七日	九月二十六日	九月二十日	九月十八日
徳富猪一郎	渋沢栄一	竹越與三郎	川本泰年	人見一太郎	小崎弘道	宮川経輝	松本勘十郎	永井 元	人見一太郎	人見一太郎	岩崎弥之助	岩崎弥之助	奈須義質	人見一太郎	三好退藏	井上 馨	金森通倫	岩崎弥之助	井上 馨	金森通倫
461	460	459	458	457	456	455	454	453	448	443	441	440	439	438	437	435	434	434	434	431

305	十一月九日	堀 貞一	490
304	十一月〔九〕日	古莊三郎	488
303	十一月七日	大迫真之	486
302	十一月六日	井深梶之助	485
301	十一月六日	人見一太郎	484
300	十一月四日	藤原直信	482
299	十一月三日	古莊三郎	481
298	十一月二日	鶴田三郎	480
297	十一月二日	古莊三郎	477
296	十一月一日	中島末治	475
295	十一月一日	古莊三郎	474
294	十一月一日	同志社予備学部生徒 中	473
293	十月三十一日	阿部政恒	472
292	十月三十一日	阿部政恒	470
291	十月二十九日	徳富猪一郎	469
290	十月二十九日	大迫真之	468
289	十月二十九日	阿部政恒・長田時 行	467
288	十月二十八日	川本泰年	466
287	十月二十七日	望月興三郎	463
324	十一月二十一日	馬場種太郎	519
323	十一月二十一日	安部磯雄	518
322	十一月二十日	田中賢道	517
321	十一月十九日	丸山福治	514
320	十一月十九日	加藤勝弥	513
319	十一月十八日	原田 助	511
318	十一月十七日	徳富猪一郎	510
317	十一月十七日	金森通倫	509
316	十一月〔十六〕日	竹越與三郎	507
315	十一月十五日	小崎弘道	506
314	十一月十五日	原 六郎	505
313	十一月十三日	岩本善治・木村祐吉宛 宮嶋正子書簡	503
313	十一月十四日	木村祐吉	502
312	十一月十四日	堀 貞一	501
311	十一月十四日	古莊三郎	500
310	十一月十三日	人見一太郎	496
309	十一月十二日	藤原直信	495
308	十一月十一日	竹越與三郎	494
307	十一月十一日	池本吉治	492
306	十一月九日	井深梶之助	491

345	十一月二十七日	徳富猪一郎	548
344	十一月二十七日	川本泰年	547
343	十一月二十七日	本城安太郎	546
342	十一月二十六日	渋沢栄一	545
341	十一月二十六日	山中 百	544
340	十一月二十六日	大久保真二郎	542
339	十一月二十六日	松尾音治郎	542
338	十一月二十五日	柴原宗介	541
337	十一月二十五日	大久保真二郎	538
336	十一月二十五日	大久保真二郎	535
335	十一月二十五日	池本吉治	534
334	十一月二十五日	海老名弾正	533
333	十一月二十四日	杉山重義	531
332	十一月二十三日	須田明忠	530
331	十一月二十三日	大久保真二郎	528
330	十一月二十三日	新島公義	526
329	十一月二十三日	新島公義	526
328	十一月(二十三)日	古賀鶴次郎	525
327	十一月二十二日	大島正健	524
326	十一月二十二日	大久保真二郎	522
325	十一月二十二日	三好退蔵	521

366	十二月二十九日	阿部政恒	550
365	十二月二十九日	金森通倫	551
364	十二月二日	徳富猪一郎	553
363	十二月二日	富永冬樹	554
362	十二月三日	阿部政恒	555
361	十二月三日	本城安太郎	555
360	十二月四日	安部磯雄	556
359	十二月五日	村上俊吉	557
358	十二月五日	長田時行	557
357	十二月六日	吉富簡一	558
356	十二月七日	有吉 渉	559
355	十二月八日	無名居士	560
354	十二月八日	渡辺洪基	573
353	〔十二月十日〕	後藤象二郎	574
352	十二月十日	小崎弘道・池本吉治	575
351	十二月十日	日下義雄	575
350	十二月十一日	伊勢時雄	576
349	〔十二月十二日〕	不破唯次郎	579
348	十二月十二日	杉田 潮	579
347	十二月十二日	徳富猪一郎	580
346	十二月十三日	市原盛宏	581

来簡(下卷) 一八八九—一八九〇年

明治二十二(一八八九)年

388	一月一日	加藤勝弥	612
387	一月一日	兼子常五郎・黒田耕・中村衡平	610
386	一月一日	広津友吉	607

377	十二月二十一日	児玉仲児	595
376	十二月二十一日	加藤勝弥	594
375	十二月十九日	岩崎弥之助	593
374	十二月十九日	本城安太郎	592
373	十二月十九日	花島健起	591
372	十二月十九日	安部磯雄	590
371	十二月十八日	金谷 充	589
370	十二月十七日	下村 房	588
369	十二月十七日	奈須義質	587
368	十二月十六日	徳富猪一郎	586
367	十二月十六日	新井 毫	585

392	一月四日	鈴木彦馬	618
391	一月四日	加藤勝弥	618
390	一月二日	奈須義質	616
389	一月一日	杉山重義	614

378	十二月二十一日	宮川経輝	596
378※	十二月二十一日	宮川経輝書簡	
	伊勢時雄宛		596
379	十二月二十一日	植木枝盛	598
380	十二月二十五日	金森通倫	599
381	十二月二十七日	加藤勇次郎	600
382	十二月二十九日	中村栄助	601
383	[明治二十一年]	新島公義	603
384	[明治二十一年]	杉山重義	604
385	[明治二十一年]	杉山重義	606

413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	394	393
一月十二日	一月十一日	一月十一日	一月十日	一月十日	一月十日	一月十日	一月十日	一月十日	一月九日	一月九日	一月九日	一月九日	一月八日	一月八日	一月七日	一月七日	一月六日	一月六日	一月六日	一月五日
鈴木彦馬	伊勢時雄	加藤勝弥	柴原宗介	大久保七熊	中山光五郎	松尾音二郎	金森通倫	本城安太郎	安永 稔	徳富猪一郎	金森通倫	不破唯次郎	富田鉄之助	伊勢時雄	大沢善助	大久保真二郎	和田彦次郎	中山甚之助	金森通倫	菊池侃二
645	643	642	641	640	639	638	637	635	633	632	631	630	629	628	627	623	622	621	620	

432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422	421	420	419	418	417	416	415	414
一月二十六日	一月二十五日	一月二十四日	一月二十四日	一月二十四日	一月二十二日	一月二十三日	一月二十二日	一月二十二日	一月二十日	一月二十日	一月十八日	一月十八日	一月十七日	一月十七日	一月十六日	一月十五日	一月十三日	一月十三日
本城安太郎	大沢善助	小崎弘道	加藤勇次郎	金森通倫	金森通倫宛	金森通倫	三嶋弥太郎	新井 毫	斎藤知行	金森通倫	金森通倫	金森通倫	浮田和民	新島公義	徳富猪一郎	津田元親	押川方義	中島信行
670	669	668	667	666	666	665	663	662	660	660	658	657	654	651	649	648	647	646

451	二月七日	松平容保	696
450	二月六日	金森通倫	695
449	二月五日	木全正脩	694
448 ※	一月三十一日	J・D・デイヴ イス書簡 金森通倫宛	693
448	二月五日	金森通倫	692
447	二月四日	吉田清太郎	690
446	二月四日	金森通倫	689
445	二月四日	伊勢時雄	688
444	二月三日	森田久万人	687
443	二月三日	藤原直信	685
442	二月二日	山中 百	684
441	二月一日	岡田松生	683
440	〔一月〕	高野重三	681
439	一月	浮田和民	680
438	一月	益田 孝	679
437	一月	奈須義質	678
436	一月三十日	金森通倫	676
435	一月三十日	金森小壽	674
434	一月二十九日	金森通倫	673
433	一月二十七日	河波荒次郎	672

466	二月十四日	加藤 壽	715
465 ※	二月十三日	大沢善助書簡 金 森通倫宛	714
465	二月十四日	金森通倫	713
464	二月十二日	安永 稔	713
463	二月十二日	兼子常五郎	712
462	二月十二日	伊庭貞剛	711
461	二月十一日	奈須義質	710
460	二月十一日	金森通倫	708
459	二月十日	伊勢時雄	707
458	二月九日	中山光五郎	705
457	二月九日	片桐清治	704
456 ※	二月八日	大沢善助書簡 金森 通倫宛	703
456	二月九日	金森通倫	703
455 ※	二月二十八日	原 六郎書簡 渋沢栄一宛	702
455	二月八日	渋沢栄一	700
454	二月八日	金森通倫	699
453	二月七日	湯浅治郎	698
452	二月七日	茂木平三郎	697

487	二月二十五日	白石村治	745
486	二月二十五日	岡田松生	744
485	二月二十四日	湯淺治郎	743
484	二月二十四日	金森通倫	742
483	二月二十三日	山中 百	741
482	二月二十三日	中山甚之助	740
481	二月二十一日	杉山重義	738
480	二月二十一日	永岡喜八	737
479	二月二十一日	北垣国道	736
478	二月二十日	丹羽清次郎	735
477	二月十九日	財部 羌	734
476	二月十八日	山中 百	733
475	二月十八日	加藤 壽	732
474	二月十八日	古賀鶴次郎	729
473	二月十七日	金森通倫	724
472	二月十六日	吉田恒久	723
471	二月十六日	柴原宗介	721
470	二月十六日	永岡喜八	720
469	二月十五日	下村 房	719
468	二月十五日	新島公義	717
467	二月十四日	森 為国	716

508	三月六日	柴原宗介	773
507	三月六日	中村栄助	772
506	三月六日	森田武左衛門	771
505	三月五日	森田武左衛門	770
504	三月五日	金谷 充	769
503	三月四日	金森通倫	769
502	三月四日	広津友信	768
501	三月二日	山中 百	767
500	三月二日	徳富猪一郎	766
499	三月二日	伊勢時雄	765
498	三月一日	大和 博	764
497	三月一日	森田久万人	762
496	二月二十八日	杉山重義	759
495	二月二十八日	中村栄助	758
494	二月二十八日	金森通倫	754
493	二月二十八日	金森通倫	753
492	二月二十八日	本城安太郎	751
491	二月二十七日	金谷 充	750
490	二月二十七日	金森通倫	749
489	二月二十六日	不破唯次郎	747
488	二月二十五日	山路一三	746

527	三月十七日	半谷高晴	796
526	三月十五日	新嶋公義	795
525	三月十五日	中村缸造	794
524	三月十五日	目加田護法	793
523	三月十五日	児嶋惟謙	792
522	三月十四日	鵜飼吉治	790
521	三月十二日	山路一三	789
520	三月十二日	三峯逸人(新島公義)	789
519	三月十二日	金森通倫	788
518	三月十二日	本城安太郎	787
517	三月十二日	広津友信	786
516	三月十一日	金森通倫	785
515※	三月八日	児嶋惟謙書簡 金森	784
515	三月十日	金森通倫	783
514	三月九日	上野栄三郎	782
513	三月九日	金森通倫	781
512	三月八日	中山光五郎	780
511	三月七日	茂木平三郎	778
510	三月七日	広津友信	777
509	三月七日	不破唯次郎	776

542※	三月二十八日	鈴木伝五郎・平	813
542	三月二十九日	森田武左衛門	812
541	三月二十八日	綱島佳吉	811
540	三月二十七日	山中百	810
539	三月二十七日	金森通倫	809
538	三月二十五日	海老名弾正	808
537	三月二十四日	渋沢栄一	806
536	三月二十三日	三郎・島田錫吉	805
535	三月二十二日	鈴木清	805
534	三月二十二日	児嶋惟謙	804
533	三月二十一日	白石村治	802
532	三月二十日	杉山重義	801
531	三月十九日	河波荒次郎	800
530	三月十九日	金森通倫	798
529	三月十八日	不破唯次郎	797
528	三月十八日	鵜飼吉治	797
		野種二・牛窪求馬・土屋兼	
		雄・久保財三郎・近藤熊	
		孺・安東貞・森田武左衛	
		門・大饗英九郎・三木	

始・小川正治・渡辺克哲・

須古織之助・宮本園丸・……………814

543 三月三十日 金森通倫……………815

544 三月三十日 三枝光太郎……………816

545 三月三十一日 森田武左衛門……………817

546 三月三十一日 宇野保太郎……………819

547 四月一日 北垣国道……………819

548 四月一日 田尻東一郎……………820

549 四月二日 長屋忠明……………821

550 四月三日 川西光三郎……………823

551 四月四日 不破唯次郎……………824

552 四月五日 金森通倫……………826

553 四月六日 花島健起……………829

554 四月六日 石黒 務……………831

555 四月六日 白石村治……………832

556 四月七日 吉田清太郎……………834

557 四月八日 網嶋佳吉……………836

558 四月九日 金森通倫……………837

559 四月十日 金森通倫……………838

560 四月十日 斎藤知行……………840

561 四月十一日 不破唯次郎……………841

562 四月十一日 金森通倫……………843

563 四月十一日 金森通倫……………844

564 四月十二日 川崎正蔵……………845

565 四月十二日 永岡喜八……………846

566 四月十二日 大塚 磨……………847

567 四月十三日 伊勢時雄……………847

568 四月十三日 長田時行……………849

569 四月十四日 金森通倫……………850

570 四月十四日 大久保真二郎……………852

571 四月十五日 柴原宗介……………857

572 四月十六日 菊池純二郎……………858

573 四月十七日 不破唯次郎……………860

574 四月十七日 中村栄助……………861

575 四月十七日 佐々城豊寿・潮田千勢……………862

576 四月十八日 金森通倫……………863

577 四月十八日 古木寅三郎……………864

578 四月十九日 井上 馨……………865

579 四月二十日 原田正之助……………866

580 四月二十一日 新島八重……………868

581 四月二十三日 松本誠直・岡崎高

600	599	598	597	596	595	594	593	592	591	590	589	588	587		586	585	584	583	582
五月五日	五月一日	五月一日	五月一日	(四月) 原 忠美	四月三十日	四月三十日	四月三十日	四月二十九日	四月二十九日	四月二十七日	四月二十七日	四月二十七日	四月二十六日	之助	四月二十六日	四月二十五日	四月二十四日	四月二十四日	四月二十四日
峯 彦郎	佐々城豊寿	小崎弘道	井深梶之助	鈴木 清	茂木平三郎	広瀬宰平	元良勇次郎	新井 毫	杉山重義	中村缸造	児玉仲児	村上 定	田口卯吉・伴直	海老名弾正	中山光五郎	中島幸三郎	金谷 充	厚	
888	887	886	885	883	882	881	880	880	879	878	876	875	874	873	872	871	870	869	868

619	618	617	616	615	614	613	612	611	610	609	608	607	606	605	604	603	602	601
五月二十九日	五月二十七日	五月二十五日	五月二十四日	五月二十三日	五月二十日	五月十六日	五月十四日	五月十四日	五月十四日	五月十三日	五月十三日	五月十日	五月九日	五月八日	五月八日	五月七日	四月二十九日	五月五日
加藤勇次郎	岡部 広	広津友信	海老名弾正	花島健起	花島健起	徳富猪一郎	大和 博	鈴木 清	北垣国道	大野侗吉	不被唯次郎	川上八三郎	川本泰年	鈴木 清	本城安太郎	市原盛宏	川本政之助宛	中村栄助
916	915	914	912	911	910	910	909	908	907	906	905	904	903	902	900	899	896	889

639	638	637	636	635	634	633	632	631	630	629		628	627	626	625	624	623	622	621	620
六月二十八日	六月二十七日	六月二十五日	六月二十四日	六月二十四日	六月二十四日	六月二十二日	六月二十日	六月十七日	六月十六日	六月十四日	員	六月十四日	六月十三日	六月十三日	六月七日	六月六日	六月五日	六月四日	五月三十一日	五月三十日
菊池侃二	目加田護法	田中賢道	新井左壽計	鈴木清	杉山重義	目加田護法	中山光五郎	鈴木清	財部節	三輪振次郎		同志社予備校生徒委	松村介石	小崎弘道	宮口二郎	小崎弘道	下村房	網島佳吉	宮川経輝	北垣国道
946	944	942	940	939	937	936	932	931	930	929	928		926	924	923	920	919	918	917	917

657	656	655		654	653	652	651	650	649	648	647	646	645		644	644	643	642	641	640
七月二十二日	七月二十二日	七月二十日	夫雄・深沢利重	七月二十日	七月十九日	七月十八日	七月十八日	七月十八日	七月十七日	七月十六日	七月十四日	七月十三日	七月五日	教会	七月日	七月三日	七月二日	七月二日	七月一日	六月二十九日
不破唯次郎	安住百太郎	志垣要三		後藤源久郎・関農	不破唯次郎	徳富久	徳富一敬	伴直之助	不破唯次郎	志垣要三	伊勢時雄	山中百	磯貝由太郎		靈南坂東京第一基督	鶴田三郎	杉山重義	不破唯次郎	不破唯次郎	中山光五郎
971	970	968	967		966	965	964	963	961	959	958	957	956	952		951	950	948	947	946

675	674	673	672	671	670 ※	669	668	667	666	665	664	663	662	661	660	659	658
八月五日	八月五日	八月三日	七月三十一日	七月三十日	七月二十九日	七月三十日	七月三十日	七月二十八日	七月二十七日	七月二十七日	七月二十六日	七月二十六日	七月二十五日	七月二十五日	七月二十四日	七月二十二日	七月二十二日
柴原宗介	不破唯次郎	大三輪長兵衛	三枝光太郎・山鹿	志垣要三	大久保音羽	大久保真二郎	市原盛宏	広津友信	徳富猪一郎	不破唯次郎	富田鉄之助	矢野万助・増田尚平	柳瀬春二郎・矢野	藤田伝三郎	不破唯次郎	大久保真二郎	小坂橋信二郎
1001	999	999	997	996	995	992	991	988	987	985	984	983	981	980	979	977	974

695	694	693	692	691	690	689	688	687	686	685	684	683	682	681	680	679	678	677	676
八月二十二日	八月二十日	八月二十日	八月十九日	八月十八日	八月十六日	八月十五日	八月十五日	八月十四日	八月十三日	八月十三日	八月十二日	八月十一日	八月十日	八月十日	八月十日	八月八日	八月六日	八月六日	八月五日
馬場種太郎	山路一三	本城安太郎	松尾音次郎	吉田清太郎	後藤源久郎・深沢利重	大久保真二郎	安住百太郎	新島公義	杉山重義	児島惟謙	渋沢栄一	新島公義	鈴木清	大村務	広瀬源三郎	木村鎮太	志垣要三	松山高吉	鈴木梅
1031	1026	1025	1024	1022	1021	1018	1016	1015	1013	1013	1012	1011	1009	1008	1007	1006	1004	1003	1002

716	715	714	713	712	711	710	709	708	707	706	705	704	703	702	701	700	699	698	697	696
九月十二日	九月十二日	九月九日	九月六日	九月六日	九月五日	九月五日	九月四日	九月四日	九月三日	九月一日	九月一日	八月三十日	八月三十日	八月二十八日	八月二十五日	八月二十三日	八月二十三日	八月二十三日	八月二十二日	八月二十二日
木村鎮太	梶原保人	大久保真二郎	田中賢道	松尾音次郎	大久保真二郎	不破唯次郎	松原藤兵衛・瀬尾武雄	不破唯次郎	小崎弘道	吉田清太郎	塩井健太郎	中村栄助	松村介石	新井左壽計	金森通倫	新島公義	永岡喜八	木村鎮太	広瀬源三郎	不破唯次郎
1066	1064	1063	1061	1059	1056	1055	1052	1050	1048	1045	1043	1042	1041	1039	1038	1037	1036	1035	1034	1032

737	736	735	734	733	732	731	730	729	728	727	726	725	724	723	722	721	720	719	718	717
十月八日	十月七日	十月七日	十月七日	十月四日	十月三日	十月二日	十月一日	九月	九月三十日	九月二十八日	九月二十三日	九月二十三日	九月二十一日	九月二十一日	九月十九日	九月十七日	九月十七日	九月十六日	九月十六日	九月十六日
三宅荒毅	山中百	宮川経輝	星野光多	加藤勝弥・松村介石	不破唯次郎	徳富猪一郎	黒木文平	西村栄治	松本勘十郎	植村保雄	茂木平三郎	松波仁一郎	大久保真二郎	不破唯次郎	木村鎮太	徳富猪一郎	不破唯次郎	上田周太郎	清水泰次郎	大久保真二郎
1088	1087	1087	1086	1085	1084	1083	1082	1081	1080	1079	1078	1077	1075	1074	1073	1072	1070	1069	1068	1067

758	757	756	755	754	753	752	751	750	749	748	747	746	745	744	743	742	741	740	739	738
十一月一日	十月三十日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十八日	十月二十七日	十月二十七日	十月二十六日	十月二十四日	十月二十一日	十月二十一日	十月二十一日	十月十九日	十月十九日	十月十九日	十月十七日	十月十六日	十月十一日	十月十日	十月九日	十月八日
五十田勇治郎	大久保真二郎	篠田昌武	伴 直之助	松村介石	古賀鶴次郎	広津友信	不破唯次郎	広津友信	横田安止	田中賢道	鈴木 清	綱嶋佳吉	伊勢時雄	広瀬源三郎	富田鉄之助	齋藤壬生雄	坂本十三也	大江頼之助	大塚 磨	辻 孝次郎
1117	1113	1111	1110	1109	1108	1106	1105	1104	1101	1100	1099	1098	1097	1095	1095	1094	1093	1092	1091	1089

779	778	777	776	775	774	773	772	771	770	769	768	767	766	765	764	763	762	761	760	759
十一月二十三日	十一月二十二日	十一月二十二日	十一月二十一日	十一月二十一日	十一月十七日	十一月十六日	十一月十五日	十一月十一日	十一月十一日	十一月十一日	十一月九日	十一月八日	十一月七日	十一月七日	十一月六日	十一月四日	十一月四日	十一月三日	十一月二日	十一月二日
横田安止	奈須義質	金森通倫	新島八重	金森通倫	横田安止	徳富猪一郎	広津友信	矢崎鎮四郎	宮川経輝	広津友信	志方之善	金森通倫	小野英二郎	広津友信	不破唯次郎	時岡恵吉	新井 毫	金森通倫	新島公義	金森通倫
1148	1146	1144	1144	1143	1141	1140	1137	1135	1134	1133	1131	1130	1129	1127	1126	1123	1122	1121	1119	1118

799	799	798	797	796	795	794	793	792	791	790	789	788	787	786	785	784	783	782	781	780
※																				
十二月五日	十二月九日	十二月九日	十二月九日	十二月九日	十二月五日	十二月四日	十二月四日	〔十二月〕三日	十二月三日	十二月一日	十一月三十日	十一月二十九日	十一月二十八日	十一月二十八日	十一月二十八日	十一月二十八日	十一月二十七日	十一月二十七日	十一月二十六日	十一月二十六日
小崎弘道書簡	時岡恵吉	小野英二郎	広津友信	広津友信	伊勢時雄	杉山重義	広瀬源三郎	徳富猪一郎	松本勘十郎	徳富猪一郎	中山光五郎	金森通倫	徳富猪一郎	時岡恵吉	住友吉左衛門	新井 毫	徳富猪一郎	時岡恵吉	時岡恵吉	大久保真二郎
時																				
	1177	1174	1174	1174	1172	1171	1169	1169	1168	1167	1165	1165	1163	1162	1162	1161	1160	1158	1156	1150

819	818	817	816	815	814	813	812	811	810	809	808	807	806	805	804	803	802	801	800
十二月三十一日	十二月三十日	十二月二十八日	十二月二十七日	十二月二十七日	十二月二十六日	十二月二十六日	十二月二十六日	十二月二十五日	十二月二十三日	十二月二十三日	十二月二十三日	十二月二十日	十二月二十日	十二月十八日	十二月十六日	〔十二月〕十五日	十二月十二日	十二月十一日	十二月十一日
不破唯次郎	広津友信	新島公義	新島八重	不破唯次郎	白石村治	広津友信	不破唯次郎	不破唯次郎	時岡恵吉	篠田昌武	広津友信	松尾音次郎	金森通倫	新島公義	時岡恵吉	徳富猪一郎	中山光五郎	大久保真二郎	宮川経輝
1213	1212	1210	1210	1208	1206	1204	1203	1202	1199	1197	1193	1192	1191	1189	1186	1185	1184	1180	1179

岡恵吉宛

明治二十三年（一八九〇）年

820 月日未詳 浜岡光哲……………1215

821 月日未詳 柴原宗介……………1216

822	一月一日	原 忠美……………	1217
823	一月一日	杉山重義……………	1219
824	一月二日	東 正義……………	1220
825	一月二日	大久保真次郎……………	1222
826	一月二日	時岡恵吉……………	1223
827	一月三日	増田尚平……………	1224
828	一月三日	松尾音次郎……………	1225
829	一月三日	森 信夫……………	1226
830	一月三日	新島公義……………	1227
831	一月四日	新島公義……………	1229
832	一月五日	福士成豊……………	1231
833	一月五日	徳富猪一郎……………	1232
834	一月六日	小北寅之助……………	1233
835	一月六日	新野 稔……………	1234
836	一月七日	遠藤能定……………	1235
837	一月七日	半田平次郎……………	1237
838	一月七日	小野英二郎……………	1238

839	一月七日	田中源太郎……………	1239
840	一月七日	横田安止……………	1240
841	一月八日	松本勘十郎……………	1246
842	一月八日	大久保真二郎……………	1247
843	一月九日	青柳新米……………	1249
844	一月九日	松田順平……………	1250
845	一月十日	原 胤昭……………	1252
846	一月十日	松尾音治郎……………	1253
847	一月十日	宮川経輝……………	1254
848	一月十一日	不破唯次郎……………	1255
849	一月十一日	小崎弘道……………	1256
850	一月十二日	不破 雄……………	1257
851	一月十二日	原 忠美……………	1258
852	一月十二日	松田順平……………	1260
853	一月十三日	浮田和民……………	1262
854	一月十四日	小崎弘道……………	1263
855	一月十四日	篠田昌武……………	1264

855 ※ 日未詳 中尾庄太郎・篠田昌武

書簡 海老名弾正・O.H. Gulick

宛…………… 1264

856 一月十五日 大久保真次郎…………… 1268

857 一月十七日 不破唯次郎…………… 1270

858 一月十七日 不破唯次郎・杉田……………

潮・杉山重義…………… 1271

859 一月十七日 河波荒次郎…………… 1275

860 一月十七日 大久保真次郎…………… 1276

〔年次未詳〕

869 一月十二日 河井 淡…………… 1284

870 一月十八日 柴原宗介…………… 1285

871 一月二十五日 森田久万人…………… 1286

872 一月二十七日 金森通倫…………… 1287

873 一月二十八日 富田鉄之助…………… 1287

874 一月三十一日 金森通倫…………… 1288

875 二月三日 金森通倫…………… 1289

876 二月三日 中村栄助…………… 1290

877 二月二十一日 伏見 通…………… 1290

861 一月十八日 新島八重…………… 1278

862 一月二十二日 平岩愼保…………… 1278

863 一月二十二日 長浜教会執事…………… 1279

864 一月二十二日 大久保真次郎…………… 1279

865 一月二十三日 原 忠美…………… 1280

866 一月二十三日 北里義正…………… 1281

867 一月二十四日 五十田勇治郎…………… 1281

868 一月二十四日 松尾音次郎…………… 1283

878 三月二日 青山長祐…………… 1291

879 三月五日 清水瀧次郎…………… 1293

880 三月三十日 徳富猪一郎…………… 1294

881 四月九日 田中不二麿…………… 1294

882 四月十日 亀山 昇…………… 1295

883 四月十六日 西 毅…………… 1296

884 六月一日 徳田利彦…………… 1297

885 七月二十七日 浜岡光哲…………… 1298

886 九月四日 板垣退助…………… 1298

〔年月未詳〕

887	九月二十三日	金谷 充	1299
888	十月四日	池袋清風	1301
889	十月七日	下村 房	1302
890	十月三十日	木村熊二	1303

891	十一月一日	徳富猪一郎	1304
892	十一月五日	金谷 充	1304
893	十二月二十三日	川本泰年	1305

894	三日	柴原宗介	1307
-----	----	------	------

〔年月日未詳〕

895	年月日未詳	青木周蔵	1309
896	年月日未詳	今村謙吉	1309

897	年月日未詳	金森通倫	1311
-----	-------	------	------

解 題	1313
-----	------

〔巻末〕索引	i
--------	---

前後の見返しは辱知姓名簿

装幀・小島友幸

来簡（上卷） 一八六七—一八八八年

慶応三（一八六七）年

1 六月十七日 飯田 保

⑤写真

千八百六十七年三月廿九日所裁^{〔載〕}一片紙之芳墨、即我慶応三年丁卯六月十有七日^{〔新島民治〕} 尊大人の許より達せり、拝読再三、惜々如夢、真ニ連床親話の思ひをなし、以既ニ知近状、佳勝供給無欠を欣慰曷已

抑賢兄先年米利幹航行之事塩田虎雄より達する所の芳翰ニ而詳ニ了悉ス、僕元より賢兄の志を知る、敢テ甚驚怪せずといへとも、唯^{〔新島弁治〕} 尊老大人、尊大人、^{〔新島登美〕} 尊慈堂ニ対して惧然として跼蹐の思なきを能わす、於是日夜空しく万里一封之

書信を望む、豈唯旱の雨を望むのミならんや、僕既ニ然り、況賢兄か家ニ於てをや、豈料々今日忽確信を得事快明了悉尽す、尊家大小之歛喜言頭筆端ニ尽しかたし、僕も漸く少しく之か為ニ徳色を為スに似たり

尊大人の書中ニ所載縷々明悉、米利幹政教隆盛風俗淳厚ト賢兄又其学校ニ在て修道講学云々之事嘆美々々、偏ニ冀ハ早く帰朝し双親之至情を慰し、且其所学之蘊奥を發出し我東方の為ニ尽力せん事を、嗚呼班超一書生、猶能投筆万里

封侯之志を遂けり、賢兄か英才大志の如きハ何啻班生のミならんや、僕昔班生ニ不及、今賢兄ニ不如といへとも豈絶海度嶺之志ならんや、如何せん、年齒近強官事羈身、匆忙消日碌々糜禄、慨嘆之至ニたへず、近来愈退恬、守愚安拙明の不利を知べなり、伏して笑察を祈る

近来 皇国形勢変換ス、諸侯自固するの勢なり、長州畔く、伐之不克、今将和平、去年 〔徳川家茂〕 照徳公薨し、一橋公將軍英

明大度殆ト中興之賢主なり、同年十二月 孝明天皇崩し 新帝立せ給ふ、爾後 朝議幕論都而閉国ニ帰し 廷論至

艱之兵庫も弥開港之 詔旨出つ、兵制も又一変せり、陸軍ハ仏、海軍ハ英、医学ハ蘭、皆洋人を招来して伝習す、

〔補〕「十年を不出して東方第一ノ強国たらんことを必せり」、於其地の評論ハ如何、藩邸無異事、惜哉熊若公子ハ元治元

年甲子十二月十七日即世し給へり、僕其傳職を辱す、一念至ル毎ニ痛五内を割り今 〔板倉紀吉〕 世子同宗福島より去年来り給ふ

て 先君之女君ニ配せり、今現ニ君上万福康寧、臣僚服役無怠、幸為国慰悦せよ、嗟乎海洋万里何日か促膝対坐抵掌

劇談之時ぞ、臨紙胸塞、伏祈為道、千万珍重、不宣

六月十七日

飯田 保

新島七五三太君

梧右

再拝

再白、愚荊より鳳声奉謝之至ニ候、猶再三拝報其辱双親賢弟ヘ云々之義了知す、即既ニ致之

2 六月十八日 新島双六

⑤写真

弟哲九拜白す、一分ち難きの携を分ちしより再度の鳳音ニ接するを得るも後御起居之安否を審せず、風朝雨夕能思念すへきのミならず思慕之情兄か故国の情と一般、願遙察を賜へ、本月十有七の朝千八百六十七年三月廿九日所裁之采雲を拝し、誨諭微悉、重厚懇惻、欣踊恍惚として、又炎暑の身にあるを忘ル

〔新島弁治〕
王父君、

家嚴、阿萱より哲に至るまで一も疾苦のさわりなし、幸に尊慮を煩わすなかれ、哲當時ハ驚津カ熟ヲ去テハ

〔貞輔〕〔塾〕

〔八〕

代洲河岸〕〔林大学〕

洲溝の林祭酒之門へ笈ヲ託しぬといへとも、天資驚下加うるに気魄菲薄、史山を攀て其高を窮むる能わす、経海を測

て其深を知らず、然あれ性命理氣の説、治乱興廢の迹、少しく領するを得、是より益性命理氣之説を講習し而後洋学

を攻めんと欲す、尤洋学を学ふも独看の力を得れハ先性理の書ヲ明了し、然る後に測量器械兵制等ニ移らんと欲す、

〔無〕

○幸賜明教○大兄早ク画錦郷ニ帰り、哲をして代て四方の志を遂しめ賜ひ、鼠肝蛙腹をして広からしめ舞事を日々冀

ヒ居候、大兄帰朝なくハ哲定省温涼を欠くへからすと存居候、後鴻明教ヲ賜へ

幕命を遵奉せず、皆自ら固するの勢なり

皇国形勢大ニ変換ス、長藩叛し薩土武を懷き、関西之諸藩多くハ

〔徳〕

照真公親征し長駕ヲ阪城ニ止メ、閤老松平伯耆守・小笠原老岐守芸州ニ在て諸軍を監す、

〔徳川茂徳〕

〔長行〕

〔宗秀〕

とも国主の兵ハ闘志なく、御普代ハ懦弱はかゝしき戦もなきに官兵一ノ勝利を得るなし、同十二月 孝明帝崩御

ニ付、休戦ノ令下リ諸藩兵ヲ罷ム、今将和平、然れとも長藩兎角六ツ敷言のミ申、未タ処置の如何成行を知らず

兵制モ亦変せり、幕府令を三千石以上ノ旗下ニ下シ団丁ヲ結び、今現二十五大隊あり、三千石以下ハ各禄給に准シ、金納或ハ歩兵五人六人宛を出す

藩邸も無異事

君上ニも誠に御康寧ニあらせられ御国表も此節ハ大分諸稽古御世話有之趣伝聞仕候、只ニ願クハ大

兄早ク帰錦、上ハ

王父、椿萱ノ御配慮ヲ慰し奉り、下ハ哲ヲしして井蛙ノ見ヲ広からしめよ、筆端不尽意、再拝

々々

慶応三年丁卯六月旬八午時

家兄礼卿君

足下

弟哲

敬白

3 六月十八日 新島民治

④墨

千八百六十七年三月二十九日合衆国マスサチユセツツ邦アントワ邑ノ大学校より之書翰、慶応三年丁卯六月十七日本
多主膳正様御藩安食鍵次郎君より持参ニ而亜墨利人名不聞横浜ニ而五ヶ年程世話ニ相成候仁より被頼候趣を以、相達
拜見いたし候、先以弥安全之趣具承知いたし候而先安心いたし候、
儲書面ニ去月三月初旬紙面差出候趣候得共、手前
方江は相届不申候事故、如何之事は安事居申候、文通之義は元治元年甲子六月十四日付之書状ニ写真焼相添、
塩田君

帛帆之節手前方江は立寄不申候而飯田君方江罷越、右書状并松前之御藩邸尾君より其元江之書状又手前より差出候書

状等飯田君方江届置、飯田君より相達申候より外、一向便宜無之ニ付、御老大人殊之外御安事被為入候処、今便ニ而

大安心被為遊候、御老大人ニは誠御機嫌克御勤被為入候、其外一同兄弟共息災罷在候

一熊若君御虚弱被為在一同心配候処、余程御健氣之処、甲子年十二月十七日御逝去被遊候、一統愁傷残念と申候而誠

無是悲事ニ而有之候

一御同性甲斐守様御五男紀吉様御事御聳養子御願濟、昨年十二月中御引移、当二月中 御先君様御女於鏤様江御婚姻

も被為濟、先は一同大慶仕候

一此節は御当地も外国人諸国御呼寄、夫々伝習有之、是迄之江戸ニ而は無之候、御屋敷向開成所江阿蘭陀人住居伝習

有之、水道橋内講武所も外国人永住之趣、多人数引移住居罷在候、就而者向開成所江日々外国人出入申候、且手前

方も甲子十二月中表御門之側ニ而北より式軒目ニ転宅いたし候事故、外国人出入日々窓より居ながら見物いたし申

候

一双六事も当時八代洲河岸林候江入塾いたし居申候、御屋敷学校江御召出御雇被 仰付、隔日ニ出席申候、右ニ付御

手当式人扶持三両被下置候、随分無懈怠出情申候

一飯田君江之書面早速呈候処、殊之外御怡ニ而返書差出度との御事、就而者今十八日夕刻ニ返書遣候処、昨日安食君

申置候間右之趣申述候処、一書御認被下置候間差遣申候、是迄日々安否は無之哉と朝暮御尋被下候

一杉田君江之書面も即日双六持参仕候処殊之外御被申候、是よりも返書差出可申候処ニ急きし事ニ而間ニ合不申候

一横井君度々御尋被下置候、右は其元一条ニ付而は厚御恵被下置候事ニ而有之候間、修行相濟帰府之呉々茂御待被成

下置候事故、出精いたし少も早く帰府有之候様存候、乍併罷越候義ニ付可相成は外国ニも巡見相成候ハ、土産に其
他国々之風土も承り度候、昨日之事故いまた申越候方々江得と御咄も不申候、何れ追々委敷御咄可申上候

一其他之便之義等具申越承知いたし候、何れ是より亦々書状差出可申候へ共、甚取込之義有之候間、余は追而可申進
候、随分時季相厭折角修業^(ヤヤ)致候、余は追々万々可申上候 恐惶謹言

丁卯六月十八日

新島民治

新島七五三太殿

尚以呉々茂相厭無油断修業可申候、家内はしめ一同宜く申聞候

一薩州人六人之内一人、其元相宿候由其外一人も無之由、其外申遣度事とも有之候へとも取込故早々申残候、
以上

慶応四（一八六八）年

4 二月七日 新島美代

⑤写真

一筆申上候、いまた余寒強御座候得共、御前様ニも何等之御障もなふ入らせられ候哉、昨年六月十七日御便御座候て誠に嬉しく御老人様御初皆々大怡いたし、翌十八日御返事差出候得共、今ニ御返事参り不申只々御便りのミ御待申上居候、定し御父上様よりも被仰聞候得共、ま事ニ／＼大へん之御時節ニ相成候、日々あしき風分^{（開）}のミ御さ候事故、私事御そんし之通身不自由故、ま事／＼心はいのミ致し居御差^{（察）}し被下へく候、双六事義も誠ニ難く執行致呉候、昨十月より此程は聖堂へ入学いたし居、かく日ニは通ひ候て学問所へ参り候得共、これも聖堂ニ而當正月末ニ役を以一宿もいたし兼候次第有難き御事ニ御座候、是迄ハ皆々様御丈夫ニ御さ候故安心いたし居候へ共、御母様事昨八月中旬より御すくれ被成す、兼て御承知之御病氣ニ而ま事ニ／＼こまり入よん所なく、双六事十二月初より四廻り程下宿いたさせよく／＼御世話致呉、扱春ニ相成候ても出氣不出氣御さ候、ま事ニ／＼しんはいいたし候得共、まつ^{（罰）}かんのほふハ

おち付候故、大きニくあんしんいたし此分ニ而は追々御せんかいとそんし候、御前様も当年五年ニ相成候まゝとふ
そく少しも早く御歸り被下候様致度、そのミ神じん致候所、御理(利)益(益)やく故か此程安食様より御沙汰下されよき御便
り之趣、ま事く有難御事とそんしまいらせ候、さ候得は先日も御姉様おとき打寄、御まへ様之御噂のミいたし、は
やく御歸りをあをき御待申上候、右之次第御世話被下候御方へ呉々御願あそはし、余り自由かましくそんし候得
共、ひとへくニ御免し被下候様御取計の程御願申上候、色々申上たき御事海山ニ申尽難御座候、しかれハ御老人様
御事も八十三才ニ被成候、御父様事六十三才ニ被相成候御事故、御丈夫とは申なからま事く安心いたしかね、双
六事ハ何ニても此内ハ御まへ様之ものと申候て居申候ま、せひく御歸り下され、是迄の思召感入候て、皆々様も
御はめ遊ハしま事く有かたき事ニ候得共、此節ニ相成候てハはやく御歸り、上へ御公奉御勤くれ候やういたし
度、皆々そんし居候、此度も急之御事故外々よりハ御手紙差し出不申候、毎度々々皆々よりよろしく申候やう御申被
成候、浅からす思召被下間しく候、時かふ御折角御厭ひあそはし候やう御念申上候、此方親類一同相替らす暮し居ま
ま御怡ひ被下へく、何かと世話敷事故くたらぬ事のミ跡や先御はん段被下へく候、安中よりもたひくの早飛脚参り
候やう之事ニ御さ候、ま事く心をち付申さす此段御差し被下へく候、呉々も御世話被下候御方様へ御礼よろしく
申上候、幾重ニも御差(察)し御返し被下候やう御願ひ申上まいらせ候、何もくあらまし申残し候、おしき筆留まいらせ
候、めてたくかしく

辰二月七日

にいしま美代

七五三太様

□□□申上候

猶々、御前様御事御道中御病なん御けんなん御水なん火なん御のかれ遊ハし候やう明暮心ニわすれる隙なくいのりまいらせ候、恙なく御帰り被下候様御願ひ申上候、左様御承知被下へく候　めてたくかしく

5　二月七日　新島民治

④墨

一筆申入候、春寒未退兼候処先以爰許　御老人様初家内一同無異罷在候、其許義無相替義も無懈怠修業罷在候儀と存候、昨年爰許慶応丁卯三年六月十七日其許より之書翰相達再応熟覽、先者安心いたし　御老人様之御歎不一方其外兄弟共同様大怡ニ而有之候、右返書翌十八日本多主膳正様御家来安食桂次郎(註)と申御仁江御頼申候而差出申候、其後杵田廉卿君より茂書状差出候付其節も一筆差出申候処、右書状相届候儀と者存候得共其後者便宜無之甚心配罷在候、尤波濤を隔り候事故と存候、都合相成候ハ、幸便次第便有之様いたし度候　御老人初子供等唯々便のミを楽ミ罷在候

(毛利敬親)

一昨年中より爰許之形勢殊之外相変申候儀者、松平大膳太夫様御家来京御所乱入炮発いたし、夫より長防御征伐として　公方様御進発有之候処、中々御征伐も不行届、御所より寛大之御沙汰有之候、然ル処公方様御不例有之、水戸様より一ツ橋江御乗込有之候御方御相続相成候処、何歟京都之方種々と長州取入、誠御不都合之次第相成、其内長

州薩州芸州土州越州因州尾州何連も御所江取入、如何之次第ニ候哉、

〔徳川慶喜〕

上様御事將軍職御上ヶ被成候而大坂御城ニ

被為入候之處、当辰正月三日御参内可被成旨

御所より被仰越候付御先供松平肥後守様、

〔赤松保〕

松平越中守様、

〔定敬〕

戸田采女〔氏共〕

正様其外公儀衆淀鳥羽辺江御越候處、薩州人数炮発乱暴、夫より大合戦相成申候荒増書、別ニ有之

一右ニ付朝敵と相唱候付御扣被成候付大敗北ニ相成、江戸表江はふくの御姿ニ而御舟ニ而御内々還御有之、夫ニ京

都より勅命之趣ヲ以諸国へ公家衆被差立、諸大名衆何連も 王臣と相成申候

一此方様御事も中山道筋江

〔俊実〕〔保実〕

勅使綾小路高松兩人下行有之候由、最早安中より四拾里先江相越候趣安中より申越候、

就而者 殿様ニも御帰城相成御固メ被成候、外ニ高崎之右京亮様も御閑所固被仰付御出立有之候へ共、此方様御内

慮之處 王臣ニ相成候外御分別無之様ニ噂申居候

追々承り候書付共之写并被仰出書

一辰正月四日付京報之写

当三日従大坂御建白為御使滝川播磨守鳥羽街道長人之固メ場所迄相越候處、

〔具奉〕

長人ハ無子細相通し候得

共、薩藩人数罷出御人数を取巻候而徳川氏之者者耆人も難相通旨ニ付種々談判ニ及ひ候へ共不聞入、終ニ薩人より砲発候間、

滝川播州も引返し相成警衛附属之人数者小勢故敗走、引続会津桑名人数等間道ニ撃薩人被打破、又伏見江大坂より兵卒并器械

等着松相成候處、是又薩人相拒ミ候上、兼而用意有之と相見、山上より大砲打込、則戦ニ相成候趣ニ御座候

一双方打死手負夥敷、

〔△△△〕

会藩式百人程之内打死手負五百人程之内六拾人程打死、

〔臆アルカ〕

其外 公边御人数も余程怪我人有之、歩兵頭窪

田備前守打死、同佐久間近江守深手、元京都町奉行大久保主膳正も手負候得共格別之事ニハ無之様子、紛敗あらく風聞、薩

長土ニも援兵全く無之趣ニ御座候

一黒谷へ追々会勢入込候趣風聞有之候付、薩人打向大砲無之空敷引揚候趣ニ御座候

一大坂近海江薩等之軍艦五艘來襲之處、三艘打沈、貳艘ハ脱出致し候〔ママ〕もの趣、京都ニ而風聞御座候

一今四日午刻仁和寺宮甲冑ニ而騎馬、堂上方三頭同立帽子錦御旗〔旗〕二流真先ニ押立、薩人数貳百人程隨從、室町通り御下り相成候

趣御座候、右ニ付京都市中婦女子等立退候儀被 仰出候由御座候

右之段荒々幸便ニ付申上置候 以上

正月四日八時過認メ

去ル六日参与御役所江家來之者被召呼別番之通リ以御書付被仰渡候段申越候、此段御届申上候 以上

正月十七日

松平彈正忠

別紙

西園寺〔公望〕三位中將為山陰道鎮撫惣督出張被 仰付候間、追々指揮之次第も可有之候間此段為心得申達候之事

正月四日

駿河守在所和州高取江高野山罷在候鷲尾殿より之使者芳野昇太郎罷越、重役共江面会致度旨申聞候付、則重役致面候〔会脱カ〕今般

天政復古被 仰出候ニ付而者 朝命遠背候節者一藩挙而悉奸賊ヲ征伐之上奉安 宸襟、下者万民塗炭之苦ヲ救候様致度段被申

入候間弥

勅命不背哉と被申述候付 勅命と有之候ハ、相背候訳無之旨及答候処、引取之節挨拶此上一藩正氣相振為国家尽力之程奉重

願旨申聞、猶又左之通口上書差出候

酷寒之節弥無御障珍重存候、先般者早速報書被贈兼而勤王誠意之段満足被存候、猶又此上抽丹心候様被申入候

右之通ニ付、此後鷲尾殿より如何之儀申越候茂難計、甚心痛罷存〔目〕去ル六日付ニ而申越候、此段御届申上候 以上

正月十六日

植村駿河守

正月十三日於大坂表仁和寺宮様御達

播州明石 松平兵部大輔

今般中国四国反逆之藩々征伐ニ付、四条前侍従為惣督近々進発ニ付而其藩城江本陣被相居候其旨相心得、諸事手当可有之候事

但日取之義者追而相達可有之候事

勢州龜山 石川宗十郎

松平万之助并重臣一同姓名書之通其方江御預被 仰付候間嚴重守衛可有之事

高拾万石 勢州桑名之城主松平万之助、松平越中守様之御嫡子 松平帶刀、三輪權右衛門、吉村又右衛門、酒井孫八郎

桑名城落城有之何茂取子(満)と相成候儀与存候、越中守様者上様御供候而江戸着有之

一本城掃除いたし可奉朝廷事

一帯刀之者不殘寺院江引退忝順可罷在候事

右之外種々申遣度事共有之候得共、辰二月七日夕七ツ時過、本多主膳正様御家来安食桂次郎方(註)江安中之小林達三郎

(J. H. Ballagh)

五男ニ而勇五郎と申者同人方蘭学修業として罷越居候処、亜墨利人ハラントカ申者近々本国へ帰候由、右ニ付安食氏も明後九日浦賀表為暇乞罷越候付、其許江文通遣し候ハ、明八日夕方迄ニ差越候様小林江伝言申聞候付、先不取

敢認候事故夜分少々認申遣候

一右之通形勢相成候事其許ニも可相成者帰府いたし呉候様一同申居候、おとみ事も兎角不快、先年之通相発、おみよ
耆人ニ而大骨折如何ニも不便ニ存候事共ニ有之候、旁ニ付、其元之帰りのミ一同申暮居候間、是迄之江戸ニ而者無
之、御家中一同いざと申候得ば夫々立退可申次第ニ付、立退場等も不定ニ而何連も安中江引越申度旨申居候得共、
未右之御処置も無之、唯々打寄動搖のミ有之候、得と勘考有之度候

一 双六義も当時聖堂江留学遣し置候、度々相越学構江句読ニ罷出、子供衆世話いたし居候、今便同人より者文通遣不
申候、右便之儀不相弁候間左様御承知可給候、先者此段荒増申進候、文通相届候ハ、都合次第返書差越候之様待入
候、早々頓首

于時慶応四戊辰年二月七日夜認

公勤新島民治（花押）

新島七五三太殿

尚以時季折角厭可申候、身養生呉々も專要存候、其内目出度帰府対面のミ樂ミ罷在候、早々以上

追啓申進候、其元江戸表出帆元治元年甲子三月十二日也、今慶応四年戊辰二月七日迄五ヶ年ニ相成候、其節御
同姓様塩田虎男君ニ者帰府之節手前方江者参り不申、飯田逸之助殿方江相越、其元より之文通并写真御同人よ
り相届申候間、対面いたし委敷様子承可申と存候処、御本家様急ニ御在所へ御船ニ而御登り被成候付、御供ニ
而御出立之由ニ付、御屋敷より相越相尋候得共何方へ相越候哉、面会不致残念ながら罷帰申候

〔板倉勝靜〕

一御本家様も御老中御再勤ニ而京都御供御詰被成居候処、薩長之乱暴ニ而 上様と御供ニ而御帰府被成候、然ル処右御敗走ニ付、松山御城も敵地之事ニ付、唯今ニ而者何方之者ニ相成候哉、一向相分り不申候、御家来等も如何相成候哉、相分不申候、未相尋不申候得共塩田君も如何相成候哉、無覚束事ニ而何とも残念之至有之候、其内御同人之事承り可申と存候

一御屋敷之儀者 公命次第 王臣と相成候得者何も御別条無之趣ニ御座候、諸家様御一統之事故 公辺江対し候而者不忠之様ニも相聞候得とも、御少高ニ而耄人計敵対いたし候処中々齒者立不申候間 王命と 御上様初御決定相成居申候、安心可有之候、先者此段も申進候、以上

辰二月七日

6 十二月十四日

新島美代

④墨

返／＼時かふ御折角御厭ひあそはし候やう御念し申上候へく候、御母様よりよろしく御修行之上御帰り御待申上候へく候、御身之上御大切ニ御厭ひあそはしてあら／＼申残し候へく候、めてたくかしく

御便りニまかせ文して申上候へく候、寒氣之節ニ御さ候得共、御まえ様も何之御障も御座なく御修行被成いか計／＼

御めて度嬉しくそんし候へく候

此方御祖父様御初皆く不相替にきくしくらし居候へく候、御あんし被成ましく候、左様御座候得者当春ハ江戸表も大へん相成、俄ニ安中引越相成、船にて参候所、船中九日相懸り、其内戸祢川〔利根川〕にて羅〔雷〕以雨にて浪強くま事ニくしん配いたし候得共、無滞中瀬〔深谷〕ト申す所江上り候得者翌日者水ましにて戸海〔渡〕も相成かねて、ま事にく仕合之事御さ候、何を申も一船五人程乗込、それより駕籠ニ而安中へ三月廿九日着いたし、双六事大分出精いたし、皆々世話屋さしくいたし居申候、さやう思召被下へく候、只今ハ御父上様ハ東京へ御勤番ニ入らせられ、御ち様事御すこやかに入らせられ候得共、明暮も御まえ様事のミ御待あそはし候ま、御繁昌之内御帰り被成候様致し度そんし候へく候、扱また大へんニ付御姉様は出羽秋田へいらせられ、おとき事信州六川へ参り居候得共、是よりは毎度く便り御座候、御まえしやしん〔写〕けふ何寄之針被下候ま、忒本遣し候届き候得はさそく大怡ひ之事とそんし候へく候、扱〔長姉〕郎もま事ニく成人いたし只今は岡崎ニ居候得共、大丈夫之事ニ御さ候、民五郎も誠ニく様子もよろしく候得共母〔わの子〕そたちゆへいか計く〔不〕ふひんニ存候へく候、右之趣御さつし被下へく候、末筆ながら御母様は大丈と夫成らせられ候ま、御安心被成候、仰ニまかせ御世話下され候御方へ御礼書さし上候得共、猶又よろしく御礼成御願ひ申上候へく候、飯田御新そう様よりもよろしく申上候へく候、来春は御出産いたし御悦ひ之御事と御さ候いろく申上度御事やま、御さ候得共後日便りニ申上候へく候

辰十二月十四日認め

めてたくかしく

美代より

七五三太様〔カ〕

参御人々

7 「十二月十四日」 新島登美

④墨

返く折からせつ角時かふ御ゐといなされ候よふニ、くれく時かふ御ゐといなされ、けふ之此地にても皆大
丈ふにてくらしおり、かなすく御あんしなされましく、何茂くめて度、かしく

十二月十二日参り候手かみ見拜致し、まつく御まへ様事もさむさの御さわりもなくしぎやうなされま事にくうれ
しく存候、御ち様御事おまへの事ばかり日々申おり、あさ夕ともニ神々様江御ねんしなされそのミ御かへりたの
みおり、此手かみ参り候へばよこはまへかへり候よふニうけ給り、そのよろこひにて御座候所、さしんきやう参り候
まゝこれでハ少々あいたかある申て新類一同皆かわりなくおり、かならず御安事のふ申候、とうそく御はやく御か
へりたのしミおり候へく候、私事も此せつハ大丈夫にて、はたらきおり、あさもはやくおきとうそく身御大事なさ
れ御かへりほとたのしミおり、飯田様ニても正月御たんじやう御座候まゝ十年ぶりにてよろこひおまへのかへり御新
そまたのしミおり、七五三太様御かへりなされさんごうしみやけ御持なされ候ゆめおミた申て御はなしなされ、大わ
らひなされ候まゝ、此せつハ安中へ参り、新水様方大和屋御みうちいろく御せわ下され、品々御持下され候、何も
ふじふなくおり、はたけもつくり、なすいんけんもとり、ききんにも何茂くくらしおり候へく候、かならず御あん
なさまし、御父様御事まい月とらの御門のこんひら様参り、御みくしとりなされ候へばま事にくよろしくいづでも
吉出、ま事にくよろしく、そのミたのしミおり、何もくとりいそきあらく申上候へく候、よろしく御せ様な

り候御方々様江くれ／＼もよろしく／＼御礼申上、何も上事も出来此中御礼よろしく
何も／＼、あら／＼申上〔な〕のこりおしく候、めて度かしく

七五三太どの

母
お

明治二（一八六九）年

8 二月九日 新島民治

④墨

（第二紙）

千八百六拾七年十二月二十五日付并千八百六拾八年三月十二日付兩度之書狀、明治二〔元戊辰〕己巳年十二月四日相達、右式封

鎗屋甚右衛門方江十日以前其許着いたし候之趣、四日朝申聞候付、着之義不審ニ存、再応承り候処、書狀御預被成直御返被成候由申聞候付、直様同人宅江罷越、書狀受取、直其坐ニ而披見いたし候処、先者無事之趣承知いたし大慶候〔申脱カ〕

爰許御老大人益御機嫌克、其他一統無異罷在候、予も無恙相勤罷在候、偕爰許之大変何とも可申様無之、昨年辰正月三日於大坂城ニ上様被為入候処、参内之義被仰越候付、大坂城御差途未御出城無之内ニ、御先供江薩土長藤堂井

伊其外炮發戰爭有之 上様方会津其外御供之者相防候得共、先方ハ兼而待受有之、何茂相働、関東一端者御勝利有之候趣、六日七日之戦ニ而殊之外御敗北之趣 上様ニ者御船ニ而漸 御帰城ニ相成、然ル処殊之外御謹慎ニ而軍を御向被成悪き事歟と一統御尊申上候処、少も其義無之御謹ニ付官軍追々関東へ御下リニ相成諸家も追々王臣ニ相成候(申脱カ)

右ニ付御家中一同昨辰年三月十五日ニ御在所へ引越を被仰付、同十七日俄船ニ而下総と安中江不残引越、誠ニ俄之事故其騒動何共可申様無之、荷物ハ不残船廻し、銘々少々風呂敷包位ニ而、手前共船ニ者乗組六拾人余ニ而、足も延し候事不相成、着座候尽起居いたし候、船中九日程相懸り安中江十三日目ニ漸着いたし申候、然ル処御長屋等も無之事ニ付、何れも夫々同居又者寺院へ仮宅一同困り入候、手前者妙光院憩意之者ニ付、同院隠居寺明有之、相越候様申聞候付、同寺ニ仮宅いたし居候、惣二階ニ而手広ニ付、坂本殿を二階ニ差置申候外々之人寄者至極よろしく住居申候一雙六儀も林家より昌平坂聖堂江入学いたし居候処、右之趣ニ付、下宿為致、同道いたし安中ニおゐて若殿様江学文御相手被仰付候而罷出申候、殊ニ格別之御意いたし難有事有之候

一安中表江相越候処、越後表江脱走殊之外有之、戦争四五月頃より九月末迄有之、御人数会津境迄罷越、又者信濃越後境三国峠を越へ出張、其外官軍之差引ニ而所々江不絶罷出、御上之御失墜多分に有之、双六も忝度儒者役ニ而罷出申候、予ハ老人之組ニ而何方江も罷出不申候

一奥羽之戦争も十月頃ニ漸平定候趣、官軍追々引揚相成、別紙之通御減高其外有之候

一天子様江戸江被為入候、是又別紙ニ而推察可有之

一江戸茂右ニ付昨年九月頃東京と相唱るやう被 仰出候事

一駿河以東拾三洲諸侯東京ニ罷出候様被 仰出有之、右ニ付若殿様為御名代御出府被遊候、右ニ付御供ニ而予も昨辰

年十月罷出申候、江戸表之相変候義者別紙御書付ニ而察可申候、僅々年不立内変りし事、誠ニ何とも可申様無之、

諸家不殘明屋計、御旗本散々相成、明地而已ニ相成申候

一將軍家之御跡田安龜之助様江被 〔應川家達〕 仰出、駿府ニ而御高七拾万石ニ相成、御供之御旗本有之候而も御手当之被成方無

之、参り候者も誠困り候由ニ有之候、就而者追々又々脱走も可有之候哉之噂有之候

一奥羽之方前条被 仰付候付是も何歟脱走其外有之、始終者戦争ニも可相成哉ニ有之候、且蝦夷松前江脱走之者相集

り凡疋万余有之、無程打テ出可申由、就而者奥羽も右ニ組し可申候、脱走之東棟 〔棟梁カ〕 二者松平越中守様御本家伊賀守様其

外諸侯御旗本衆も有之哉ニ噂申候

一前件之仕合ニ付、おまき事者出羽之秋田江相越申候、民五郎も至極よろしく御屋敷ニ而申候得者先ツ茶之間坊主同

様ニ而御勘定所江罷出相勘申候間、おまきの手助ニ相成申候、右之一条ニ而御国へ相越此程者如何有之候哉、未様子

も承り不申候、出府ニ付早速手紙差出し候、其内返事も参り可申と存候、且此度申越候趣并写真遣候ハ、嘸々怡可申

候

一おとき事同様ニ而越後椎谷江引越申候、道中安中通行ニ付、御手前仮宅往来より僅ニ付、長沢おたに同道ニ而立寄

逢申候、〔速水休次〕 林治事者其已外ニ御供ニ而椎谷へ相越居候、椎谷も脱走ニ焼打ニ相成、住居も無之、信濃六川と申所ニ御陣

屋有之同所江何れも相越申候、右之次第察可申候

一林治事〔次〕 わ此度殿様御出府ニ付御供ニ而出府ニ付、対面いたし遣し候、写真并文通為見申候、何レも大慶申候

一鍵屋甚右衛門前条ニ付右書面安中表江早速相廻し 御老人初一統大怡ニ而、おとミ、みよ、双六より返書参り候間

遣申候、前之通甚右衛門手紙受取候而使之者ヲ其許を存候様之義ニ而、名前住所も尋不申、返書可差出手懸りも無之

次第ニ而申越候義、何分不行届残念之次第ニ候

一浦賀表之御在所よりいらすやと申もの店出居候、此もの東京江折節出府候付、アメリカ人住所并申越候御方名前等承り候処不存由、然ル処相尋候へ者相分可申由ニ付返書差出候間、飛脚船成とも相頼呉候様頼遣し候間名前等も申越候義存候、予も屯人勤ニ而当分浦賀江相越候義も出来兼、何とも残念、左も無之候ハ、早速罷越相尋逢申、委敷様子も承り厚礼をも申述度候得共、此義出来兼残念之至ニ候

一杉田君も出府ニ付早速相尋候処、転宅いたし何方江相越候哉と旧宅ニ而承り候処、牛込辺へ引移候由ニ付矢来御屋敷へ罷越候而承り候処、毘沙門手前横町之趣ニ而睨と相分兼候付其辺相尋候得共、何分相分兼候付帰宿いたし、又々罷越種々承り候処、漸相知候付其許より之書面并写真像遣候処、殊之外怡、暫時形勢之咄等いたし、申越候種物之義相談いたし候処、其地ニ有之候草花種々有之候事ニ付、懇意之者ニ相談取集呉可申旨ニ付頼置申候間取集相成候ハ、早速相廻可申候

一当時其地も無事之由、去ながら大統領之所置不立ニ付退役被申付候由

(Augustine Heard)(James H. Ballagh)
一ハント申人并バルラーと申之義も承知いたし、前文之いらすや周助と申者ニ逗留其外共頼置申候

一蝦夷地之義、日本脱走之者凡屯万人余も罷在候趣、魯斯亞人^(ロシア)と同腹ニ相成、追々せめとり候之噂有之、既ニ津輕へせめ懸り候坏と申噂も有之候、松前者最早彼ニとられ候由有之候、魯斯亞人より掠取候ニ者無之哉ニ候、然ながら未此義噂のミニ而睨といたし候義者不承候

一薩長土之盛なる事夥し

一右ニ尾州紀州井伊藤堂様右ニ付添位勢をふるひ、誠ニ何とも可申様無之候始末、残念之至ニ候

一 一昨昨年三月箱館表へ差向書状差出候由、右之内箱館より米利堅迄の日記と写真を封込有之候書状、英人^(A. Porter)ボルタと申者之見世ニ居宇之吉と申者へ差向差出候由、右者一向届不申候、就神明社神主沢辺数馬と申ものへ相尋可申旨承知いたし候、然ル処、前条脱走之住居と相成候趣ニ付如何之事ニ候哉、便宜も不相分、尋方も当惑之次第ニ候、何レ夫々相尋便宜有之候ハ、沢辺方へ書状差出可申候

一 何れもの写真所望ニ候得共、安中之事ニ而出来兼申候、予ハ出府候付出来も候ハ、相廻可申候

一行灯図誠ニ珍敷道具ニ有之候、爰許も追々珍奇参り候得とも、いまた見懸不申候、夜学文ニ者至極よろしく相見申候、随分高直之品ニ而殊ニ遠路之事故届かね申候

一 アーモス学校図面誠立派之事ニ而、手広ニ而腹をやしない致す所と有之行届候事ニ有之候、右写真并^(ゴッラ)ゴレルラの写

真誠奇成獣ニ有之候、力之強き事あきれ申候、何レも驚入候^(由説カ)

一朝廷ニ者は迄御役人と申者無之事故天下之政事向中々容易ニ者行届不申、諸侯より撰人ニ者御用相勤候事ニ而未御規定相立不申、唯何事も手数かゝらぬやうニいたし、穩ニ成行候事のミ御取計有之、是より追々御規則^(則)御立被成候趣

ニ而諸侯江公議人と申者屯人ツ、差出候様被 仰出有之、会議所者大手前酒井^(雅楽)うたの守様御屋敷相成此二月十五日発会右ニ付、御屋敷ニ而も飯田逸之助様公議人被 仰付、右会席江御出席被成候、右打寄ニ而御政事之儀も御評定有之事ニ可有之と存候

一 異人館築地八丁堀辺ニ此度御取立相成、浦加^(實)同様之趣新嶋原と申けいせい屋も出来候趣、いまた一覽者不致候得共賑々敷事之由ニ候、諸侯方も大臣者車ニ乗市中被通申候、右ニ付藩之者者戦争以来惣髪乱髪ニ而西洋服着用之者のミニ有之、御屋敷も大概惣髪乱髪多分ニ相成申候^(傾城)

一此度ニケ国御約定御取結ニ相成申候

右者御書付二出居候間夫二而承知可有之候

御役名左之通

議政官	議定 三条右大臣 参与 阿野中納言 史官 同試補 書記 日誌司判事 筆生	行政官	輔相 弁事 權弁事 史官 同試補 錄事 書記 筆生 官掌 守辰	神祇官	知事 副知事 判事 權判事 書記 筆生	會計官	知事 副知事 判事 權判事 書記 筆生 營繕司 知司事 判司事 權判司事 出納司 知司事 判司事 權判司事 用度司 知司事 判司事 權判司事	軍務官	知事 副知事 准副知事 判事 權判事 判事試補 書記 筆生 海軍局 未無之 陸軍局 三等陸軍將 築造司 未無之 兵器司 知司事	外國官	知事 字和島中納言 副知事 東久世中將 小松玄蕃頭 判事 町田五位 大隈五位 山口 範藏 權判事 南 貞介 森 金之丞 鮫島 誠藏 三沢揆一郎 同試補 桜田 大助 都築 莊藏 〔等〕 一筆詔官	刑法官	知事 大原中納言 副知事 備前侍從 判事 權判事 判事試補 書記 同試補 筆生 〔鞠獄司、捕亡司〕
-----	--	-----	--	-----	------------------------------------	-----	---	-----	--	-----	--	-----	---

駅通司

知司事

判司事

租税司

知司事

判司事

権判司事

商法司

知司事

判司事

権判司事

〔戊辰閏四月二十
五日金計官ノ下
ニ殺讐
明治二年三月十
五日廃止〕

貨幣司

知司事

准知司事

判司事

判司事

民政局

知司事

判司事

権判司事

鉦山司

知司事

判司事

判司事

兵船司

未無之

馬政司

未無之

箕作貞一郎

何礼之助

石橋助十郎

立 広作

書記

岡本 弾正

二等訳官

佐藤麟太郎

筆 生

松本貞之助

遠藤 岩雄

海野 当一

〔附紙〕

監察司		京都府		東京府		伊勢渡会府		大阪府		長崎府	
知司事	判司事	知府事	判府事	知府事	判府事	知府事	判府事	知府事	判府事	知府事	判府事
副知司事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事	權判府事
判司事											
權判司事											
				筆生	書記	同試補	書記				

右之外、国々不残右之通、知府事有之候、其外申遣度事共有之候得共、先凡認申進候、右ニ而日本形勢如斯相成申候間察可申候、余者幸便申進へく候、猶期示之時候、恐々謹言

明治二年己巳二月九日

新島民治

新島七五三太殿

猶以季候折角厭、修業可有之候、家内一同申入候

一昨年三月十七日出船ニ而十三日目ニ安中江着いたし 若殿様御出府御供ニ而十月朔日安中出立ニ而罷出候処、自分専人同勤無之、何方江も難罷出左も無之候ハ、浦賀江も罷越相尋申度候へ共如何共いたし方無之残念之至候

一草木種もの之義、何レニ茂取集相廻可申候、右ハ杉田君江相談候処、同人取集呉候趣、今便間ニ合候之間、

追而相廻可申候、早々頓首

(第二紙)

明治元辰年十月八日出ル

皇国一同今般通用被 仰出候上者、当辰年租税金納之分并諸上納、都而金札ニ而上納可致候事

^(四)
^(選)
但避邑僻陋ニ至リ未全ク融通行届兼候分者正金取受上納不苦候事

九月

行政官

同十月九日出

主上此度 御東幸被為遊候儀者、先般懇書ヲ以被 仰出候通、四海一家東西同視之思召ニ而、未曾有之^(食) 御盛典被為挙候間、上下一同厚く 御趣意を可奉体認儀者勿論之事ニ付、仮初ニ茂非道之威権ケ間敷義且何事ニよらす小民を為^(儀) 候様之事、決而有之^(可脱カ) 間敷候、忝も蒼生之疾苦を御^(按) 撫被為遊候 御本意ニ基き奉り、下々茂亦一涯難有感戴仕、其分ニ応し、報效仕儀ニ候間、諸藩士者勿論、宮公卿之附屬等ニ至リ、分而正道を主とし、無作法之儀一切無之、御盛業を宣揚仕候様、主人長官より篤と可申聞旨、御沙汰候事

十月

鎮將府

同十月十日出ル

来ル十一日

鳳輦着 御之趣申達置候処 御延引ニ相成、十三日着 御可被為在候事

辰十月

鎮將府

同十月十二日出ル

徳川亀之助家来并旧臣家族ニ至迄、移住帰国之儀願出候者者、左之雛形之通押印御免許相成候間、何れ之地方ニ而も不差支様旅寓帰農可為致候事

辰十月

鎮将府

會計局	
駿州藩	何役
刻印	何之誰
	家族何人
右之者何国何郡何村誰方江	
一ト先預置候	
奉願候以上	
年号月日	公務人口
鎮将府 弁事印	

同日出

今般 御親臨被為在候ニ付、西城を奉称 行宮、并群臣登城出仕等、参 仕参 内と可称旨、被 仰出候事

辰十月

鎮将府

十月十七日

一行政官弁事方より御達

〔詔〕〔一休〕
勅皇国東西同視、朕今幸行京、親聽内外之政、汝百官有司、同心戮力、以翼鴻業、凡事之得失可否、宜正議直諫、啓沃朕心

明治元年戊辰十月

今般非常之聖断を以御東幸、既ニ御着輦ニ相成候処略及平定御満足被思食候得共、前途内外之形勢深く御懸念被為

在皇国一体之御成業、弥以御苦慮被遊候ニ付、別紙〔行〕〔詔〕勅書之通、日々臨御、万機御親裁被仰出、就而者百官有司、質

素簡易ニ原き、至正公平を旨とし、同心戮力、益可励忠勤、尤御為筋存付候儀者、何事ニよらず不憚忌諱、正義直諫可致様御

沙汰候事

十月

行政官

〔詔〕
勅崇神祇、重祭祀、皇国大典、政教基本、然中世以降、政道漸衰、祀典不孝、遂馴致綱紀不振、朕深慨之、方今更始之秋、新置

東京、親政〔監視〕
将先興祀典、張綱紀、以復祭政一致之道也、乃以武蔵国大宮駅冰川神社、為当国鎮守、親幸祭之、自今以後歲遣奉

幣使、以為永例

明治元年戊辰十月

今般御東幸被為遊候ニ付而者、祭政一致之思食ヲ以、別紙〔詔〕勅書之通、武蔵国大宮駅冰川神社、以後当国之鎮守、勅祭之社と

被為定、当月下旬行幸御参拜可被遊旨被仰出候事

十月

行政官

十月十九日出

御東臨之節以当城皇居と被定候ニ付、以来東京城と可称事

但過日被仰出候行宮之称被止候事

辰十月

行政官

十月廿日出ル

毎月五日 主上小御所ニ臨御、資治通鑑聴講被 仰付候ニ付、東京^(在留)留^(在留)在^(在留)之諸侯、極老幼若之外、有志之輩 御筵ニ陪侍し、研究可致候、若不審疑惑等有之候ハ、其座ニおゐて質問商量不苦候、就而者本月廿五日、漢高祖紀より御開業ニ相成候ニ付、銘々書卷持參可有之事

但学業未熟ニ候共、有志之面々ハ出座可致其志無之輩ハ来ル廿二日迄ニ姓名書取、調差出可申候事

辰十月

行政官

十月廿四日出

来廿七日 氷川社 行幸被 仰出候事

但強雨順延之事

十月

行政官

十一月二日出

法華宗

諸本寺江

王政御復古更始維新之折柄、神仏混淆之儀御廃止被 仰出候処、於其宗ハ從來三十番神と称し 皇祖大御神を奉始其他之神祇を配祀し、且曼陀羅と唱へ候内江 天照皇太神 八幡大神等之御神号を書加へ、剩へ死体ニ相着セ候経帷子等ニも、神号を相認候事、実ニ不謂次第ニ付、向後御禁止被 仰出候間、総而神祇之称号決而相混不申候様、屹度相心得、宗派末々迄不洩様可相達旨 御沙汰ニ候事

但是迄祭来候神儀等、於其宗派設候分者可致焼却候、若又由緒有之、往古より在来之分を相祭り候類ハ、夫々取調神祇官江可伺出候事

十月

行政官

十一月十日出

諸藩分知末家ニ而従前徳川附屬之輩、勤 王之実効有之者ハ、本録如旧下賜、実効無之輩者上地被 仰付候事

右之通被 仰出候ニ付而者、分知末家之者共、未タ御所置無之輩者早々書取を以可伺出、且春來匆卒之間、不取敢本家ニ

御預ケ被 仰付置候分ハ、今般改而御所置可被 仰出候間、早々可伺出候事

十一月

行政官

十一月十四日出

春來奉 朝命、奮戦死亡之輩、招魂祭奠式被為行候間、藩々ニおゐて委詳取調らべ、兵士死亡之月日、姓名相認、来二十五日

迄ニ東京神祇官江差出候様被 仰出候事

十一月

行政官

十一月十七日出ル

各国公使其他外国人東京在留中、諸処徘徊致し候砌、於途中宮親王^{〔家〕}、門跡、堂上、諸侯等出会候節ハ双方路上を半ニ相譲リ通

行可有之候、且外国人江附添候御国士官之向者外国人警衛之儀ニ付、下馬会釈等不致候間、此段為心得相達置候事^{〔兼テ〕}

十一月

行政官

(第三紙)

辰十一月十八日出

天下一新之御政体被為 立、第一民庶ヲ被シ、各其処ヲ得倦サラシムル 御趣意之处、倉卒兵馬之事起リ、不被為得止次第も

候得共、今日ニ至リ候上者、愈国本ヲ強クシ、皇基ヲ培植被為在候ニ付、今般新ニ治河使被設、天下之水利大ニ御所置可有之

候、就而者「差懸リ」近畿之地ニ於而澗河堤防等、十分ニ修復致し、以後水害ヲ除キ、民利ヲ起シ候者勿論、且又浪華ヨリ之

運送等も、是迄之三十石通船ニ而者徒ニ人力ヲ費シ、実以不便利故、今日之御偉業ニハ不相副候間、是非共蒸氣船ニ而も仕

掛、利用可有之候処、「何分春來騒擾之折柄纔ニ有澗河之」堤防サヘモ御行届兼候得共、東北征討略平蕩之功ヲ奏候上者、追

々右等之儀も御詮議被為在、大ニ天下水利之道ヲ起シ、民庶之福ヲ生シ候様、被 仰出候間、府藩県ニ於而も、此旨相心得、

上下同揆其地方模寄ニ就而、夫々利害得失相考、勉厲可致旨 御沙汰候事

十一月

行政官

同十一月十九日出

東京開市相成候上者、外国人府内徘徊致し候間、諸社寺庶人致參詣候場所江立入候義者勿論、其余諸家之廟所又者灵秘之もの

たりとも、差支無之分者外国人ニ一覽為致候筈ニ付、諸事不都合之儀無之様可致候、右之通東京府より社寺江布告ニ相成候

間、比段為心得相達候事

十一月

行政官

同日

来ル廿二日、三日各国公使参 朝被 仰付候、就而者 皇居御手狹ニ付、右兩日非役之諸候、中下大夫、上士之面々、参 内

無之様可相心得候事

十一月

行政官

来ル十九日より東京錢炮洲開市相成候ニ付而者武家之向、無鑑札ニ而外国人居留地江立入候儀不相成候、自然要用有之、罷越

候節者、東京府江申立、印鑑受取、出入とも鍊炮洲稻荷橋、真福寺橋、南小田原町橋三ヶ所ニ限り、通行可致候事

十一月

行政官

同十一月廿四日出ル

来ル廿八日卯半刻 御出輦、浜殿 行幸被 仰出候事

但雨天 御延引之事

十一月

行政官

同十一月廿八日出

東京 臨幸、万機 御親裁被為遊、蒼生末タ沢ニ霑ハスト雖モ、内地略及平定候付、
先 還幸被為遊候、^{〔舊〕}当明春再幸之 思食ニ付、百官有司可得其意旨、被 仰出候事
大廟江御成績ヲ被為告度、来月上旬一

十一月

行政官

同十二月四日出

天下地方藩県之三治ニ帰シ、三治一致シテ御国体可相立、殊ニ藩治之儀者、従前各其家之立るに随ひ、職制区々異同有之候
ニ付、今後一般同軌之 御趣意を以て、藩治職制大凡別紙之通可相立旨被 仰出候事

十二月

行政官

藩治職制

執政 無定員

掌体認 朝政、輔佐藩主、一藩紀綱政事無不総

参政 無定員

掌参政事、一藩庶務、無不与聞

公議人

掌奉承 朝命、代国論備議員

一執政参政ハ藩主之所任ト雖モ從來沿襲之門閥ニ不拘、人材登庸、務テ公舉を旨とし、其人員黜陟等、時々太政官ニ達ス可シ
一執政参政之外、兵刑民事及庶務之職制、其藩主之所定ト雖とも、大凡府県簡易之制ニ准シ、一致之理を明ニス可シ
但職制一定之上ハ、之を冊ニして、太政官ニ達すへし

一藩主側ラ從來所置用人等之職を廢し、別ニ家知事ヲ置、敢而藩屏之機務ニ混セシメス、専ラ内家之事を掌ラシム可シ
一公議人者執政参政中より出ス可シ

一大ニ議事之制を立ラルヘキニ付藩々ニ於ても各其制を立ツ可シ

十月

行政官

十二月四日出ル

来ル八日 還幸御治定之事

但御道筋東海道之事

十二月

行政官

十二月五日出ル

今般東北略平定之成績 神宮江被為告度思召ニ被為在候處、御艦不相調、陸路 還幸被為遊候付而者、
〔東海道〕 〔陸路日數モ相掛リ、殊

〔小〕 〔被為當〕 〔前文〕
来二十五日 先帝少祥忌之正辰 最早余日も無之付、〔以〕 勅使被為告 来年更ニ 御参拜被為遊候旨被 仰出

候事

十二月

行政官

十二月七日出ル

公議人

別紙之通被 仰出候ニ付、当年之儀者御暇下賜候間、勝手次第歸藩可致候、尤来正月中無遲滯東京江可罷出様 御沙汰候事

十二月

行政官

万民を保全し、永世不朽之 皇基を確定するハ固より万機公論出るに在、之即ち 御誓文之大本ニ候、依而當夏、議政、行政之御制度相立、各府藩県より徴貢士之法御設相成候義、即御政体之通ニ候、然所春來兵禍引続候より、御誓文之 御趣意、或者未タ周達せざるも有之候処、^(達ニ)當今追々四方鎮定、弥前条之通、広く會議を起し、万機公論に決すへしとの 御趣意を以、今般改而被 仰出、東京旧姫路邸を以、^(立)當分公議所と御定相成、來春より開議いたし候様被 仰出候間、各彼我之私見を去り、公明正大之國典確定之処に熟議を遂ケ 御誓文之 御趣意貫徹致し候様「^(御文)相心懸可申旨」御沙汰候事但開議期日御規則等者追而御沙汰可有之事

十二月

行政官

十二月七日出

明八日 御癸丑寅之刻 御供揃之事

十二月七日

弁事

十二月七日出

今般東北平定ニ付、賞罰之典被為_レ挙候而、一先 還幸被遊度 思召之処、将士功勲之等級未精密取調行届兼、時日遷延ニ及候間、尚 還幸之上、速ニ褒賞之典可被為_レ挙候、此旨一同可相心得様被 仰出候事

十二月

行政官

十二月十二日出

先般被 仰出候通、來春再 御臨幸被為_レ遊候ニ付、旧本丸城蹟ニ於而 宮殿御造營被 仰付候事

十二月

行政官

十二月十七日来

御布告書

十二月三日、岩倉右兵衛督橫濱表江出張、英仏米蘭伊寧六国在留公使面会、春來戰爭中各国局外中立申談候得共、最早国内平定ニ及候ニ付、中立之儀廢止致し候様談判、翌日以書面各国江相達ス

明治二己巳年

正月六日出

在東京

諸侯

一旧臘廿二日〔衍文〕「無御滯」聖上京都 御着聲被遊、同廿八日 女御入内、即日立后、御大礼被為濟候ニ付右為恐悦、〔衍文〕「来ル八

日巳之刻登城可有之候事、但着服狩衣直垂可為勝手事」、〔説〕「公卿、諸侯、徵士、諸官大夫以上ニ至ル迄、登城参賀之事」

正月

行政官

同日出

來春再 東幸ニ付天下之大小候伯及中下大夫上士ニ至迄ヲ被為召、与論公議を以国是之大基礎を可被為建 思食ニ付、大小候〔侯〕

伯及中下大夫上更ニ至迄、悉三月十日限り東京江参着可致、尤道路之遠近も有之儀ニ付、各其心得可有之旨 御沙汰候事

但春來兵馬統綱、国事多端ニ付而者、上下疲弊不一方、深く大義ニ被 思食候得共、右會議被為在候ハ、実ニ天下之大事件ニ付、各 御趣意ヲ奉戴成丈輕褻無用之冗費無之様、厚被 仰出候事

十二月

行政官

^巳正月十九日出

一公議人開議之期日、来巳年二月十五日と被 仰出候事

一公議人員之儀者是与大藩三人、中藩貳人、小藩壹人〔衍文〕「与被」仰出候得共先一同耆人ツ、差出候様被仰出候事〔説〕「之御規則」

候処、以來各藩一人宛可差出候事」

一公議人之儀者是迄其藩論ニ可代人才差出候様被
仰出有之候得共、右者執政、参政之内より一名撰挙致し差出「〔衍文〕候様被
仰出候」事

一是迄主人在職之藩々、公議人差出候ニ不及様被
仰渡置候得共、以來主人在職之有無不拘、各藩総而差出候「〔衍文〕様被
仰出候」事

右之通被仰出候事

正月

行政官

巳
正月廿六日

「スウェーデン」「ノルウェー」
瑞典及那耳回國

右ニヶ國ニ而一王之政令

「イスパニア」
是班牙國

右之國々ト今般條約御取結ニ相成候間、為心得此段相違候事

正月

行政官

「第二紙」
「ママ」

一父子於東京謹慎
於仙台、二拾八万石被下

是迄
高六拾貳万五千六百石
仙台
〔伊達藩邦・宗藩〕

一 父因州、子有馬江永御預
領地被召上

同
高貳拾八万石
会津

松平肥後守
〔松平容保・喜徳〕

一 領知被召上於東京
隱居謹慎拾貳万石
領知追而被下

同

出羽庄内

酒井左衛門尉
〔酒井忠篤〕

一 於東京謹慎
拾三万石領知追而被下

同

高貳拾万石

南部美濃守
〔南部利剛〕

一 領知被召上隱居謹慎
五万石領知追而被下

同

高拾万七百石

丹羽左京太夫
〔丹羽長國〕

一 貳万五千石之内
貳千五百石被召上

酒井紀伊守
〔酒井忠良〕

一 千石被召上隱居

同

高壹万五千石

南部信民
〔南部信民〕

一 於東京謹慎
棚倉城御預 六万石

同

高拾万石

阿部美作守
〔阿部正静〕

一 貳千石被召上
土地替被仰付

同

高三万石

板倉甲斐守
〔板倉勝尚〕

一 貳千石被召上隱居

同

高貳万石

本多能登守
〔本多忠紀〕

一 三千石被召上隱居

同

高三万石

田村左京太夫
〔田村邦榮〕

一千石被召上隠居

同
高七万五千石
内藤長寿丸
〔内藤政春〕

一土地替鶴翁永蟄居
其方隠居

安藤对馬守
〔安藤信正・信男〕

一四万石被召上隠居

同
高拾五万石
上杉弾正大弼
〔上杉齊憲〕

一謹慎

同
高五万石
水野和泉守
〔水野忠弘〕

一貳千石被召上謹慎

同
高貳万石
織田右近将監
〔織田信敏〕

一三千石被召上

同
高三万石
藤井伊豆守
〔松平信庸〕

一貳千石被召上

同
高貳万石
岩城左京大夫
〔岩城隆邦〕

一城地被召上貳万四千石
被下、長岡城御預被仰付

高七万四千石
牧野玄蕃頭
〔牧野忠訓〕

一隠居

堀 左京亮
〔堀 直賀〕

一 千石被召上隠居謹慎

水野日向守
〔水野勝知〕

一謹慎

内藤豊前守
〔内藤信思〕

一五万石被召上隠居

高四万八千石
久世隠岐守
〔久世広文〕

一小笠原左京大夫江
永御預

林 昌之助 (林 忠崇)

一土地替被仰付

高老万千石
牧野伊勢守 (牧野忠泰)

右明治元辰年十二月七日被 仰付候

慶応四年戊辰九月八日

明治与改元有之

9 四月十二日 新島民治

④墨

〔異筆・鉛筆〕
「Nov. 10th /69」

千八百六拾七年十二月二十五日付、同八年三月十二日付之書狀、明治元年戊辰十二月四日相達披見申候、右返書明治二年二月九日付ニ而差出候、尤おと美其外は安中表江昨年三月十七日■出立候而、當時安中住居候付、差越候書狀写真共相廻候處、御老大人始一同大慶申候而一同より書狀参り、夫より予も返書認
當時之形勢東京江 天子様 御東幸、追々被仰出候御書付類、相廻申候事ニ付、形勢相分可申候、將軍家之御相統

之義は、田安亀之助様江被 仰出、駿遠三ニ而七拾万石ニ被為立候、御当家も王臣ニ相成、昨辰年。若殿様東京江

○十月朔日

御出府、当巳年二月廿日安中江御帰城相成 殿様三月廿三日東京江御着、御交代相成申候

一天子様も昨辰年十二月八日 御発輦有之

一再 御東幸、当巳年四月朔日 御着輦有之

一諸家追々封地郡県之御願書被差出候趣 此方様ニ而も御願書御差出^{〔カ〕}ニ相成申候 御東幸之上、何と歟御所置有之趣、風聞ニ而未一向如何ニ御所置出候哉、相分不申候

一予も昨年十月東京江御供ニ而勤番罷在候付、差越候書状早速相達申候、返書之義も本多主膳正様御藩安食桂次郎殿^{〔註〕}も御家を出候趣ニ付、横浜表ニ鈴木新八郎殿アメリカ通^{〔辭〕}しいたし居候趣、杵田廉卿君申聞候付、横浜江罷越候而手

紙相頼申候、同人姓名当時尺振八と相名乗申候、住居は横浜北方村妙香寺谷戸百姓作右衛門地面内ニ罷在候、右江申越候草花種之義相廻申度存候間、差出呉候様頼置候、漸右種物取集候付、相廻申候

一右種物取集方杉田君江相談候処、小嶋仙弥隣家ニ住居、同人義巢鴨町種樹花長太郎と申植木屋懇意之趣ニ而、同人江相頼取集申候、是又同人も当時津田仙弥と申候、長太郎は大家ニ而立派之事ニ有之候

一予も又当月廿日頃ニは安中表江罷帰申候、追々老年罷成、御祐筆も手揮等ニて、最早相勤兼候間、安中江罷帰り候上者、御役相願可申と存候、左候得は東京江出府之儀も当年限りニも可相成と存候、右ニ付懇意之衆其外江も暇乞等候而、出立前彼は世話敷荒増不取敢申進候、且色々可申進と存候へ共、右付取紛申候而、不行届、去二月九日付ニ而差出候返書最早相届候義と存候、夫ニ而形勢も相分可申候、先は此段申進候、恐惶謹言

明治二年己巳四月十二日

新島民治

尚々時候折角いとゐ可申候、且養生之義申越候段、逸々承知いたし候、其元も随分心附可申候、以上

明治二年巳三月廿五日出御書付

今般再 御臨幸被為遊候儀者、兼而被 仰出候通、公卿群牧ヲ会同シ、衆議公論ヲ以國家之大基礎被為定、上下治安、万世不拔之鴻業被為立度聖慮ニ候条、諸藩ハ不及申、公卿付屬之面々ニ至迄、銘々心得方可有之は勿論ニ候得共、猶又厚く御主意ヲ奉体認、仮初ニモ不都合之儀無之、各其分ニ応し、報效之覚悟可為肝要事ニ付、主人々々より篤と可申聞様 御沙汰候間、此旨相達候事

三月

行政官

外国人通行之砌、於途中出兵候節、往來之半を譲り可致通行様、兼々御布告之趣も有之候処、近來間々不都合之儀も有之趣相聞へ、以之外之事ニ候、自然瑣末之行違より 皇威に關係候様之儀出来候而は、実ニ難相濟次第ニ候間、向後混雜無之様、屹度相心得可申候、万一粗暴之所業有之ニ於は、当人は勿論、時宜ニ寄主藩主或は主宰之者江嚴重可被及 御沙汰、此旨更ニ相達候事

三月

〔行政官〕
同

同四月三日出

庠序之教不備候而は、政教難被行候ニ付、今般諸道府県ニ於テ小学校被設、人民教育之道治ク施行被為在度 思食ニ候間、東北府県速ニ学校ヲ設、御趣意貫徹候様、尽力可致旨被 仰出候事
但学校取調として、東京学校より人撰ヲ以被差向候間、商議可致事

三月

(行政官)

同

(籍・以下同)

戸籍は治道之基ニシテ、凡百之御政事はより不生ルハ無ク、戸籍不明ニ候而は教化仁恤之道モ不相立、誠ニ以緊要之事ニ候、就而は斯ク御一新相成候上は、猶更府藩県ニ於而不可帰之地、不可入之人は無之筈ニ候処、永ク無籍、戸外之者有之候ては、率浜之儀ニも戻り、第一御施政之道不相立、蒼生之疾苦同前之事ニ候、依之戸籍之儀ニ付、先般より追々御沙汰モ有之、畢竟一夫一婦モ不得其所者有之候而は、御一新之御主意ニ戻り、不相濟候儀ニ付、御取調之上、無産無頼之者は成丈ケ其所ヲ得候様、順次ニ御世話可被遊と深き 思召ニ而、戸籍御取調之事被 仰出候儀ニ候得は、於府藩県尚又無籍、戸外之者は夫々入籍帰籍各為其所候様可取計、乍併不得止之儀ニ而帰籍、入籍難致者等ハ、素より一朝一夕之事ニ無之、右等之者は訴出候ハ、各其情実ニ任セ、至当之御処置被仰付候儀は不及申候処、問々は御主意取違之向モ有之哉ニ相聞、以之外之事ニ候、向後尚又府下末々之者共ニ至迄、厚ク御主意ヲ奉体認心得違之義無之様、無洩可相達旨御沙汰候事

三月

(行政官)

同

同三月十二日出

大政更始以来、旧弊一洗、言路洞開、上下貫徹少モ壅蔽無之、天下有志之者竭丹誠、為國家無忌憚建言致候ニ付、追々御採用相成候得共、猶実効之立不廉々有之、畢竟 御旨趣貫徹不致、有志之者撰挙相洩候哉と深ク 御煩念被為在候ニ付、此度於東京待詔局被為開候間、有志之者草莽卑賤ニ至迄御為筋之儀、早々建言可致、篤と議論相遂、其所長ヲ以夫々御用可被仰付御趣意ニ候間、向後潜伏隠遁、嚙々其志ヲ不達もの有之候而は、至誠尽忠之素意ニ相悖リ候間、尚上下一致、偏ニ尽力可致旨被 仰出候事

三月

(行政官)

同

10 七月二十六日 新島双六

⑤写真

千八百六拾八年九月一日之尊筆并ニ千八百六拾九年五月十日之尊筆、我明治二年己巳七月廿三日相達、扑躍拝読仕候、大兄御起居万福益御研学被遊候条奉恭賀候、爰許 君公御初世子君より老大人、椿萱双堂、弟公錫ニ至るまで無異儀御座候間、御煩慮有之間敷候、扱 本邦も大ひに変革し、諸侯之名目を廃し、華族と称し、邦内を府藩県の三ニ定め、府藩県ニ知事、副知事を置、是迄の諸侯ハ賢愚幼老不拘らず、知藩事に任す、且又倍臣ハ六拾歳已下、拾五歳已上朝臣相成、残りは知事に委任す、是ハ御達しのにて未御調中、拾五歳已上、六拾歳已下ハ兵隊御執立之任組ト被存候 每藩議員一人を挙て、公議局（ママ）に出し、万機を議せしむ、江戸大手前姫路邸、公議局に相成申候 待詔局を設けて、草莽の遺賢を募る、府下并ニ每駅に目安箱を出して下言を取る、雖然、宿習を洗ふ能わすして、徒に西洋の法を糊塗する故、政務苛察になかれて大綱挙らず、上に真下なければ、兎角に客氣書生時を得る、金銀乏して、紙幣を制して行ふ、姦藩姦商金并紙の賈物を制して物価湯沸す、兵馬之權強藩に在て、朝權輕し、各国に債金「凡三四百万兩之由」多して、屢督責を受く、貪欲の公卿ハ頻ニ賂ひを欲し、新参之有司ハ妓館遊場の侈を極む、今にして国力を挽回せずんは大患生せん哉と、浩歎ニ不堪候

旧幕府の脱走兵、（下野・上野・安房・上総・下総・越中・越後）野毛房総北越に出没せしも、追々に官兵の為に打敗られしか、函府を襲ひ、松前城を陥し、江支（差）を奪つて三所ニ屯集し、一時勢ハ頗猖獗にして、官兵数度利を失ふ、併根無きの木繁茂す能わす、追々潰散し、今ハ浪静に相成申候、右ニ付宗藩伊賀守様御自訴謝罪いたされ候処、縁を以御家江御預ニ相成申候、会津藩ハ御存之

通、骨梗の風ある故、最初より議論少しくも変せず、幕府と休戚を共にして奥羽十三藩を合従して佐竹津輕ハ盟ニ洩れ申候恢

復を図る、是とも同盟の各藩皆降伏しぬれば、孤城支ゆる能わすして亦降伏相成申候、君公は土藩江御預け之

由、家臣之始末委敷相分り申兼候、外各藩は減高にて相済申候

末タ御預ニ而御処置無之は會、〔松平容保〕桑名松平越中守様、〔松平定敬〕宗藩ニと三家ニ御座候、御存之御方も大ニ浮沈あり、神田孝平

君ハ公議所副議長ニ相成、吉田健輔君ハ此度駿城より御召に相成候由、杉田君ハ重病にて〔挿入〕「勞瘵症之由」玄端君沼

津江連れ帰り候由、〔逸之助・保〕飯田君ハ議員に相成申候、松本良純君ハ脱兵ニ与し候之由候、小生ハいまた安中ニ蟄伏す、併

負笈之願ひ段々双堂江歎願之处、御許容兎角無之故、小林勇五郎是ハ本次郎君舎弟にして先年出府、安食君ニ從て洋學を學ぶ小生大知己、頗る着局あり、安中の人オニ御坐候○内々兩

人ニ而猪狩幾右衛門君ニ相願、公命ニ而出府仕度ト存候、只今同君周旋いたし與居候不遠志を酬ることを得可申候

一前条申上候知藩事一件駈と御定相成不申候得共、副知事ハ世子或ハ一門大夫之内、又判事、権判事是ハ用人御側方、弁等ニ而相動候由弁

事是レハ議員又ハ監察之由の官あり、是ハ知事人撰にて右役人名前朝廷江差出候由尤數人之爲ハ前条之年齡に拘らず右ニ付本月廿二日より廿五日

迄、御家ニ而人別御改相成申候、如何様御規則相立候哉、一向相分兼候、新令出ることに兎角人心動揺いたし候、

国債一件も英仏より敵敷督責相成候处、是も追々之応接ニ而、年賦ニ而も取極相成候之由ニ御座候、陋巷寡聞、荒

増申上候間、左様思召可被下候 ○鉄三は岡崎に在り、〔植村まき〕植村よりも尊筆相達之由、書状到来、御老人御初御姉、新

次、民五〔郎〕、よね一同無異、速水林治様ニも東京在勤之处、東京勝手被仰付、一ト先立帰候節御立寄相成り、梅

ことも大丈夫之由、御安堵可被成候 ○カリホルニヤヨリ〔ママ〕(サンフランシスコ)迄之蒸気車鉄路出来之由候、白山

并銅鎮金諸山御遊覽、鉱物御探索之由、尊筆拝読之度こと御羨敷義而已、益洋行之念を發し候、先ハ御讀、後便万

縷、一筆申上候、筆端不尽意、頓首々々

明治二年己巳七月念六

弟公錫 (花押)

大兄
梧下

尚々、為國家御崇護奉禱候、此度ハハルテイー君御夫婦ニ別段不申上候間、よろしく御伝言奉希候 ○川田先〔雲江〕
生も國家之浮沈に焦思御周旋之由ニ御座候、尤大阪之役にて昨年正月二日江戸出立、蒸氣船ニ而同五日兵庫江
着船之處、戰爭中入る能わす、其内大君御退城、君公ハ御供故直様御國表罷出候處、斯く形勢ニ成行、或ハ町
人百性ニ身を変し、色々の辛苦実ニ御氣之毒千万之義御座候、当節ハ山田文作と改名して小川町御上屋敷ニ御
出之由御座候、添川子も一旦安中江引移候處、当年三月出府、昌平黌舎に罷在候 ○天皇再ひ東京城ニ御幸相
成、御帰輦ハ未相分不申候、〔板倉勝靜〕
〔鑑之助〕
東京城永く皇居ニ相成候、嚙有之候 世子昨年十月御出府、今年三月御帰城、家内類ハ五月三日御帰宅
大君公又々御出府之處、最早御暇被仰蒙候得共、未御帰城相成不申候、草々頓首

11 十月十五日 栗津銈次郎

⑤写真

千八百六十九年六月十五日之華墨〔Samuel R. Brown〕ブラオン先生より落手薰読仕候、扱逐日寒氣相増候得共、弥御堅勝奉欣賀候、然は

御家郷への御一書早速御達し申上、且今便御尊父様よりの御状御廻し申候間、御落手可被下候、兼而貴兄之御尊も委細伝承仕、小子ニ於ても不堪于欣喜候、依而日夜希望、貴兄万々花旗国ニ在て志ヲ遂ケ、速ニ帰国し広く福音ヲ講し、暗塞之民心を開き、我民をして悔改、事神之大道を教諭し、我民の先覺タラン事ヲ禱祈ス ○近来我国江も支那訳之聖書多く渡り、読者も追々出来候得共、何分支那訳のミニ而は意味多^{〔蘇〕}明ニ解し難きより、左程民心ニ貫徹不致、彼是異論而已多く、耶穌教之徒ハ鑒尽候方可然扨ト申ス説、紛興致居候 ○小子も先年中、江戸ニおゐて初学の輩を教導致し、毎日曜ニハ聖書を講し為聞候処、同地一変之際、横浜江再遊致し、一己之修行を主とし、同志之者と聖書を講し、傍ラ「James H. Ballantyne」氏之学校ニ而董輩を教導致し申候、然共 天父我全国を一変し、神子の名ニ依て、神恩を我民江下し賜の時至り候ハ、無疑事ニ候ヘハ、道ニ志ス者尽力せざるを得ざる時也、依而貴兄速に成業、帰国せざるを待つ ○当方英書を読候者多く出来候得共、道学の一事ニ至而ハ更ニ教導致候者無之、只支那訳之聖書ヲ綿密ニ読ミ候者ハ、却而仏家者流中ニ多く有之候、是ハ我道ヲ務むる為メニ無之、彼の説ヲ主張し聖書ヲ説破せんと欲する主意^{〔に〕}候ヘハ、何レ兩三年之内ニハ、種々之異論も紛興致し、少々之動揺ハ可有之候得共、恰も螭螂之車輪ニ於るも拘シキ事ニて、却而我道の扶ケニ可相成と被存候 ○擬種々申上度儀も候得共、此節別而繁用ニ有之、寸暇を不得候間、書余後便可申上候、稽首布陳

十月十五日

安食改栗津銈次郎

新島七五三太君

侍史

猶、時下折角御保護、御勉強可被成様仕度候、将又先便ハ写真御送り被下難有落手仕候

猶是よりも当便差上度候得共、持合無之候間、何レ後便可差上候、不備

明治四（一八七二）年

12 〔二月初旬〕

新島民治

④墨

〔第一紙〕

千八百七拾年四月廿二日付ニ而、ヒンステトル邑より之書翰并ニ写真荅枚、明治三年庚午十月朔日、粟津銈次郎君より相達致披見候、未春寒退兼候、先以弥健全ニ勉強之段、致承知大慶不過之候、爰許一同無異ニ罷過候条、安意可給候

一今度御一新ニ付御藩も大変革ニ相成、諸役名、別紙之通相成申候

一右ニ付閏十月廿八日御藩江明廿九日辰刻何茂出頭可申旨触有之、依之翌朔日出頭致し候之处、知事様、大参事、大参事列坐ニ而、御変革之御達書付、庁掌読上候内、従前之給禄諸役名并等、何茂御廃改而三等之事ニ御達有之由一徒小性以下、式代相動候者、御憐愍ニ而相立候家名之者、卒ニ御下ヶ相成候家数式十七軒計有之

一家禄百石以上貳拾五石、五拾石以上貳拾石、九石九兩以上拾三石、八石八兩以下九石、

一卒ニ相成候もの七石、是迄之卒六石ト相成候

一明朔日辰半刻、麻上下着用、出頭可有之旨、廊下江張出有之

但、予は眼病ニ而閏十月十五日より引込罷在候間、罷出候ものより荒増承ル

一昨日張出ニ付、今朔日一統出頭之處、右引込中ニ付、田中隆平殿相頼不罷出候処

奉書半切

現米

新島公勤

一九石

右為家禄永世下賜候事

庚午

政庁

十一月

朱印

右之書付御渡有之、名代隆平御礼、日勤いたし呉候事

一御達書之内

六拾才以上可為隠居旨、五拾才以上病身之者隠居相願可申事

右ニ付予も「^(補)六十四才相成候」隠居願十一月十七日差出候処、悴東京江罷出居候付、呼寄可申旨ニ付、同廿八日呼

手紙差出候處、十二月七日出立ニ而、九日着有之候之處、不快、然ル處、十二月十四日切紙出来有之、不快ニ付本島湊殿相頼、翌十五日差出候處、左之通書付ニ而御達有之

現米

新島文虎

一九石

右襲祿申付候事

庚午

十二月

政庁

同人

父民治願之通、其方江家督下賜候事

庚午

政一

十二月

新島民治

其方隠居致シ嫡子双六江相統之儀願之通承届候事

庚午

十二月

政一

新島双六

父民治江為隠居料老人 下賜候事

庚午

十二月

政

一 双六儀病氣至而大病ニ相成、若急変之義も有之候而は相続人無之候而は減石ニも可相成哉之趣、横井大参事被申聞
候由、依之弓削田発相頼候处、早速相調、二月朔日内々引取申候处、忤も殊之外歎、安心いたし至極能、人物一統
怡入申候、右ニ付〔以下欠〕

〔第二紙〕

大参事

横井保吉
源右衛門事

権大参事

横山昇
統之助事

同

江場金五郎

同

飯田定
逸之助事

司農會計小参事

猪狩幾衛

軍事監察小参事

星野武雄
武三郎事

文武校小参事

尾崎傳次郎

司農大属

福長士兵衛
豊

司農會計大属

丹所太平

會計大属

村上作十郎

監察兼刑法大属

齊藤左門

司農權大属

乗本晋象

軍事權大属隊長兼

星野閏四郎

監察兼刑法權大属

黒川 久

文学教授

弓削田兎

會計權大属試補

小野盛太郎

文武校同断

河合琢蔵

小属

江場新太郎

司農小属

海保岩五郎

右同断

久保庭谷五郎

軍事同断

内納規矩

監察兼刑法小属

武元束郎清太郎

權小属

小林竹七郎

司農權小属

倉林 愛

同

石川郡平

會計權小屬兼營繕

根本国次郎

會計權小屬

佐藤鎌蔵

同

関島勘太郎

文武校權小屬

丹所勘八

監察兼刑法權小屬

小林 禎 大吉事

半隊司令

茂木恒雄 盛吉事

史生兼庁掌

小野富三郎

同

岡村復四郎

司農史生

卒
清水重吉

同

津金全八郎

分隊司令

山田亨太

同

富岡槍吉

會計准史生

植栗庄蔵

同

萩原洲平

軍事史生

山田鉄蔵

同

石川源作

文武校史生試補

浦江 潮

同

猪狩銀平

右之通役席ニ有之候

右之外、定備隊其外は不殘、非役ニ有之候

役順				
監察	文武校	會計	軍事	司農
庁				

13 五月一日 川田甕江

④墨

一別以來參商隔絶、屈指已経十年、今般名古屋藩士丹羽氏〔丹羽昭陽〕其地被致遊学候ニ付、一書致啓上候

薄暑之候、弥御健康御勤学大賀此事ニ候、扱御航海後本邦之形勢大变革、定而御聞及も候半歟、去ル辰年内地戦争起り、官軍御勝利ニ相成、幕政廃止 王政復古、追々従前之弊風御革メ被成候御趣意故、近来ハ外国江遊学被仰付候者数多有之、此度同船之内、吾門人ニも鳥取藩大参事池田某〔徳潤〕、佐賀藩大臣多久某〔虎一郎〕抔其地江罷越候、何分可然御引立奉頼

上候、一昨年来追々承り候処、足下ニも学業御上達之由、且ハ先年安中に御文通も内々致拝見、竊ニ悦喜罷在候、何卒一応御帰国御墓参有之度企望仕候、定而御承知ニ可有之、先年御祖父様御死去ニ相成、其後御舍弟双六殿吾塾ニ寄寓、文芸頗上達之处、今二月中不料も病死被致、痛惜悲歎仕候、御親父様ニも御愁傷不一方、旁以機会を御見合御帰省有之度事ニ候、一ニハ為 国家異域之情態相分可申、一ニハ父子対面之歆も有之、所謂一挙兩得ニ候之策歟ト奉存候、勿論丈夫立志不成ニ安スル事ハ無之、一応御帰国又再遊御料^計り、宇内有数之人物ニ御成業所祈候、僕も其後種々艱苦を嘗メ、頗老体ニ趣き候、近状委曲丹羽氏其他之人よりも御聞取可被下候、明朝丹羽氏発程、今夕俄ニ此書相認、乱筆御推読可被下候、頓首再拜

日本明治四辛未

五月朔

剛改名

川田甕江

新島君

足下

14 五月二十七日

新島民治

④墨

一小田稔此節公儀相勤東京罷在候、右ニ付外務省より御呼出ニ付、出頭候処、左之趣

明治四年辛未

五月十三日十字〔時〕

右之者其藩籍〔籍〕ニ相違無之候哉、御尋有之候、就而者洋学更ニ被 仰付候ニ付、是迄身分柄猶書取を以可申上候段 御沙汰候

右之通、脇屋大録を以被 仰出候

但脇屋大録江文通之儀相頼候処、天朝より御用状一ヶ月ニ二日ニ老度ツ、米国へ御差立ニ相成候付、脇屋申聞候、就而者小子宅迄御遣し有之候ハ、外務省江持参いたし相頼申候間、無御遠慮御差出可被成候、

同十九日

御尋之趣、書取を以御届仕候、左様御承知可被成候

右之段、同廿二日付書状を以小田氏より申越候、政庁より小林竹七郎を以御達候付、様子柄廻と相分り候処、小田より申越候間、猶又書取申進候

辛未五月廿七日

明治

七五三太殿

15 六月二十日

新島民治

④墨

此度不存寄 天朝江被 召出候事、一ニハ仏、二ニハハルテイー君之御厚情、中々以不容易事ニ而、可奉報 御高恩様も無之、御礼等筆紙者不申及、詞ニも難申尽、其段 ハルテイー君御内君様江御礼之義、宜取繕申上可給候、先々不取敢申進候

一脱走身ニ而被 召出候儀も、藩内者不及申、承合候もの、永年之御手当被下候義、一統感伏仕居、就而者 御先君様江之 御奉公ニも相成、 御両公之 御尊名茂出、於予ニ誠以大慶不過之候

一弁務使之御方より御申立之趣ニ有之候、如何之手続ニ而被 召出候事ニ相成候哉、承度候、且弁務使様之御俗名何某と被申候哉、其外共手續旁委細認幸便可申越候、早々以上

六月廿日

民治

七五三太殿

16 八月十二日 R・コー

④インク

時分柄酷暑之候、愈御清適奉賀候、扱其後ハ打絶御無音申居候、如何御清光被遊候御事ニヤ、当節ハ御休業中二三之避暑地へ御遊行被成候事ト奉推察候、さて、此折日本より為視察諸藩士十余人、当府へ到着、諸所見物致居候、尚一ウキーキ程逗留之由、付而は御家書一通併緘仕候、御落掌可被下候、且小生も両三日同居可仕ニ付、若御間暇ニ候得は、御来駕奉冀候、先右得尊慮度、草々如此、敬具

Earle's Hotel

Corner of Canal & Centre St. N. Y.

Aug. 12, 1871

Mr J. Neesima

Yours very truly

R. Koe

17 八月二十二日 森 有礼

⑤写真

Legation of Japan

for the United States of America

Washington, D. C. 187 [sic]

別紙之通御沙汰相成候間、及御達候、御落手之上、御請書被差出候様いたし度存候、右得御意^{〔カ〕}候也

八月廿二日

米国少弁務使

森 有礼

新島七五三太殿

明治七（一八七四）年

18 四月十日 田中不二磨

④墨

爾后御動止如何、異土御保重千万是祈候、次ニ小生事航洋無恙、去ル廿四日ヲ以帰国仕候間、乍憚御放神可被成下候、さて〳〵米歐周遊中ハ通訳ヲ初、実ニ瑣々小事ニ至マテ非常ノ御煩勞ニ預リ謝テ此事ニ候、日本ノ近況異狀無之候得ハ別ニ贅言不仕候、先ハ報要ノ為勿略如斯

四月十日

不二磨
〔磨〕
麻呂

約瑟君

米國諸先生江御序之節厚御致声相願候也

19 五月四日 田中不二磨

④墨

去十二月十二日付当二月十五日兩般之貴華為閱、時下愈御慶暢不耐欣喜候、客歲御經歷後アントウ学校にて神学御研精之由、貴恙も追々御健全頭痛之御患も無之、米國ハ寒威甚敷故種々御保蓄被成、旧痾御免之条遙祝不斜候、当三月間ハ休業ニ付所々学校御巡覽、七月か九月は卒業御帰朝之趣屈指御待申候、「ママアーモストのシーレ氏長州償金始末不當ナルヲ論シ、日本へ返却スルヲ以テ公平トスル云々、新聞紙御廻し被下感荷此事ニ候、尚教育事務御心附キ之使ハ此上共御通知所仰候、御郷信ハ其節々直々川田生へ托し伝通取計候、去九月中尊椿君御入来、黄物之件拝承候、聊御需用ニ応し置候、御闔家貴兄之御帰艦ヲ〔以下、奥書き〕「日夜御翹望之趣此段分而陳述候、他ハ後信迄、草々布復

七年五月四日

田中不二磨④

新島約瑟君
為答

追而ハーデー君其余諸先生へ宜敷御致意相願候也」

20 十二月二十日 田中不二磨

⑤写真

〔包紙ウハ書〕
新島約瑟殿

田中不二磨

拝呈、過日横浜御着港之砌ハ早速御通報相成御清適御帰朝之段拝承不堪欣慰、爾後御帰省、久々ニて尊椿君御はしめ御対顔御歓悅之御義遙察候、此節如何御消日候哉、御出京相成候ハ、拝晤致度与翹企此事ニ候、右御近況御伺度旁、草々不尽

十二月廿日

不二磨

新島君

梧下

21 十二月二十二日 川田剛

⑤写真

十九日御認之貴簡昨日相達致拝見候、先以御無滞御帰朝之由大賀此事ニ候、御出京之節ハ久振可聞奇話ト從今相樂

明治7年

罷在候、別紙一封田中文部大輔殿より被相頼指出候、御落手可被下候也、不悉

十二月廿二日

新島約瑟様

川田 剛

明治八（一八七五）年

22 一月十二日 千木良昌庵

④墨

一月十一日発之尊書翌十二日到来拝読仕候、陳者先便書物届ケ方之儀相伺候処、速ニ御差図被下難有奉存候、尤モ過日開封之節片紙へ名前有之候分は逐一相届ケ、且封紙上ニ名前御認メ有之候分は其儘相届ケ申候、然ルニ小野直殿、小林楨殿より相願候分無之候ニ付、前件奉伺候事ニ御座候へ共、是レモ今便之御書翰ニて相分リ候故明了ニ相成申候、御配慮被下間敷候、扱又 先生ヨリ社中之者江書物若干御恵投被下一同難有奉感戴候、此段御厚礼申上候、真道ノ為メ寒威折角御保摂御健全之程一同奉拝祈候、謹言

一月十二日

千木良昌庵

新島教師

玉櫛下

尚々、別封之御状速ニ新邸御宅江御届ケ申上候、且後発之書物モ不遠着ニ相成可申ト奉存候、以上

〔奥書〕
〔公義〕

明治四辛未年四月 養父双六願之通 一

〔端ウラ下部逆向〕
〔明治十年一月より十一年六月までの新島公義履歴 省略〕

23 一月十二日 植栗義達

⑤ 森中章光写

未タ東京表御止宿之由ニ付愚札呈啓仕候、先新年之賀目出度奉存候、新邸御惣容様御安泰被成御起居珍重奉存候、然
は今般聖書類御求メ御遣シ被下、千木良氏方ニ而開封仕、夫々江配当仕候、不一方御厚情之段一同難有奉存候

一、十日ニ僕宅江同志之者一同打寄り、旧邸ハ千木良氏尽ク世話致シ呉一同大慶仕、何卒少しても此道江進ミ先生之
御教示ニ近キ度心得ニ御座候

一、御尊父様ヨリ小野直ノ書籍此度ノ御書面ニ而随ニ相分リ申候、此上御配慮被下間敷候、過日御廻シ之包岡村氏
行、磯部行、星野、山田亨太行、其儘速ニ新邸行、先生御仕向之通其儘随ニ相届ケ申候、其者より御厚礼申聞候、

先は右之段可得貴意如斯御座候、早々頓首

一月十二日

植栗義達

新島先教師

尚々、寒キ殊之外強相成折角御保養專一奉存候

取急キ認乱筆御仁免可被下候

24 二月四日 木戸孝允

⑤写真

〔宛名ウハ書〕
新島先生

木戸

御内披

「

先以御清適奉賀候、昨日御折角御光来被成下之由之処、外出中ニ而失敬仕候、過日より御内話之趣ハ、夫々愚按之辺を以相談し置申候、付而ハ内海参事之処江も何時御出ニ相成候而も不苦候、乍去同人も日々坂府江出勤仕候事ニ付、

其時間ハ元より差間候事と奉存候ニ付、朝夕之方^{〔カ〕}可然、尤休日ニ御座候へハ、大ニ御都合歟とも奉存候、先ハ為其申上候、草々頓首

二月四日

尚々、今日ハ参上仕候而緩々御高談も拝承可致と奉存候処、客来彼是取紛不能其事残念ニ奉存候、何卒教育等之御見込も今一際相窺度奉存候、以上

〔封簡ウハ書〕

〔川〕口与力町三番地ニ在^{〔カ〕}

新島襄様 木戸孝允

御直披
「

25 二月十五日

内海忠勝

⑤写真

前略

過日来御打合仕置候磯野一条、^{〔小右衛門〕}昨夕外用有之同人罷越候間、兼て先醒より御差送有之候一書を以て、先醒之御宿志ハ

斯く申聞候処、同人相管候ニ、素より多分之金子ハ相叶ニ申候ヘ共、身分相應之御助力は何つも御請可仕、其金之事は猶熟考之上、追て小子まで可申出との事ニ有之候、右之都合ならハ今夕同人宅ヘ参り候^カ通別論も有之間布に付、一昨夜之御約条ハ磯野より何分之次第申出まで延期候而ハ如何候哉、此段御打合之為如斯候也、草々

二月十五日

忠勝

新島先醒

几下

26 二月二十一日 木戸孝允

①河口与力町三番ニ而 ④墨、「御内披」

先以御清安大賀此事ニ御座候、弟も昨日帰坂、折角今日ハ御尋可仕と奉存候処、明日出立ニ付、不得寸暇御無沙汰申上候、御示之言筆頭ニ難尽、千万乍失敬明朝十字前土佐堀二丁目筑前橋前尾道屋と申ものゝ処迄御光来ハ相叶申間敷哉、左候てい細御直ニ御嘶可仕候、金主の方へも第一説諭いたし置候、何も御面上ニ申上度為其如此御座候、草々^カ謹言

二月廿一日

「奥の八書」
新島様

木允

上書

「

27 二月二十二日 田中不二磨

⑤写真

両回之貴信相達恭誦候、先以御無恙御着阪、爾後愈御安恬抔賀ニ不堪候、^{〔昇〕} 諸追々渡辺知府事ニ御面晤之旨、右等ニ付御諮問旨趣左ニ陳述候

初ヶ条 宣教師ヲ雇云々、右は学校教師ヲ教導職より兼勤セシメ候儀不相成旨ハ一般布告相成居候へ共、僧侶ハ不苦事ニ候、文部省雇教師サヤなり、右ハ僧侶ニ付候へ共、宣教師ニは無之候

二ヶ条 私学校設立之節ハ諸規則等取調、本人より府県へ願出、府県ニて聞届候上、府県より文部省へ届出候儀ニて、厳ニ束縛ハ不致候事

三ヶ条 修身学之方可然と存候事

○先年尊大人江御用立候楮幣之儀、木戸氏江御托相成候旨、委纏御調書之趣承了候、○中小学教則等及文部省発売之書目通送候、其内少々ハ改訂之分も有之、中学用書ハ此節取調中之者も有之未定ニ候へ共、右ニて大方御了解相成

度、尚御了解難相成件々ハ無御遠慮御申越可有之候、他期後鴻候、勿々布復

二月二十二日

田中不二磨

新島 襄君

28 七月九日 田中不二磨

④ 墨

四月十五日、六月十日、廿五日御発之郵信逐次相達展閱候、爾来貴恙漸々御快和之趣、欣慰此事ニ候

扱纏々御来示之件委悉候、近来重国之女教兩名、神戸ニて女学校設立之由ニ付、文部省出版之書籍目録通送可致旨、則別紙老綴附呈候 ○学校之儀ニ付京都へ御出張之处、至極御都合好、既ニ校地ヲ御買得、槇村氏婦京次第御靛立之由、右ニ付願書等此表へ相廻候ハ、可然取計可申旨委纏領承候 ○ボストンのハルテー氏より同人孫児シユルヘー死去之段赴告有之、小生江も伝通之旨悲歎遙察ニ不堪候、御序之節可然御致意是祈候、此頃ハ地方官会議等ニて彼は奔忙罷在、匆卒裁答不敬御高免可被成下候、楮外後便ニ讓候也

七月九日

不二磨

新島君

29 八月九日 田中不二磨

⑤写真

本月三日発貴書拝披、大暑之節愈御健吉京華御滞在之段抔賀不斜候、陳ハハルデー氏ノ孫ジョルベ―撮影御郵送被下
正ニ落収御来示之趣承了、彼是御煩手之段多謝候 ○九鬼氏貴地ニテ御對話之由、本人帰着之上万緒可承合候 ○榎
村氏過般面談致置候 ○去月九日郵信ヲ以貴答一封元大坂御僑居ヘ向ケ差出候条未々相達不申候ハ、御旧寓ヲ御穿
鑿可被下候、右要件のミ、勿々布復

八月九日

不二磨

新島君

30 十月十二日 福土成豊

- ① 函館第三大区一小区船場町七十一番地
② 京都第二十二区新烏丸頭町
④ 墨
⑥ 封筒表書新島筆「返事済、計算」

〔新島筆 s.c.〕
「Rev 十月廿日朝」

去月廿七日付ヲ以テ当税関江宛拙者住所之義御尋問之處、該所より其旨拙者方江御回達ニ付不敢取御報如左

拙者事元

福土外之吉称□、去る文久二壬戌年より慶応二丙寅年迄、英国商人ボウタ氏ニ被傭舖頭罷有候、前述ル寅年同舖ヲ去

テ当地ニ止ム、爾後官ノ職ニ在テ明治二己巳年津輕青森ニ於テ改名スル事福土五郎、爾来近頃実名ト通称之内、其ノ

〔簡〕

一ヲ発シテテク御達シニ付、前之五郎ヲ発シ、則今実名ヲ以福土成豊ト称シ、委細ハ別紙明細書ヲ相添差進候間、可然

御承知可被成下候○然ハ拙子義、当今北海道石狩国札幌郡札幌ニ於テ開拓使本庁民事局分課測量課ニ勤仕罷有候得

共、家族ハ総而函館第三大区一小区船場町七十一番ニ住居アルニ付、拙子ニ御文通被下候義ニ候半々、則左之通御認

相願候

〔函館第三大区一小区舟場町七十一番地〕

福土成豊

甚乍失敬、貴君ハ素ト新島七五三太ト云称ニ無之哉、承り度存候、若し哉前称ニ候半々其歴来御報告希フ、此段不敢

取御回答ニ及候也

明治八年十月十二日

函館第三大区一小区
船場町七十一番地

富士成豊[㊦]

京都第二十二区
新烏丸頭町ニ在テ
新島 襄様

〔附紙・異筆〕

明治元年五月九日函館府趨事席拝命、同二年三月三十日同府二等訳官拝命、同年九月廿九日開拓権少主典拝命、
同年十月十七日開拓少主典転任、同五年二月十四日開拓権大主典転任、同年三月廿七日三等訳官拝命、同年九月
十三日開拓使九等出仕拝命

開拓使九等出仕

札幌民事局測量課

開拓使管下亀田郡函館第三大区一小区船場町

平民 統豊治九男

富士成豊

天保九年戊戌十一月生

癡 通称 卯之吉

同 五郎

31 十月二十九日 木戸孝允

⑤徳富蘇峰『木戸松菊先生』所収

電信料は是より相払申候間、御送之分は返上仕候、乱筆高恕

朶雲相達拝見仕候、弥以御清安奉賀候、さては土手町宅之事被仰越御用立不申而は不本意に御座候得共、実は先日薩人其外より切迫に数度預頼談候得共、いづれも断然相断申候訳は少々弟も趣向有之候事に御座候間、総而相断申候、暫時之御事に御座候へば兎も角も御住居に而も被成候思食に候はゞ、三本木、木屋町に貸屋御座候に付、櫛村へ御談相願度、大意櫛村へ申越置候、先日薩人よりも無余儀談しに預り候へ共、右之次第に付相断申候、時々為御保養御泊り懸御出被成候とも不苦候、他へ取調らべ所にも用立候約束も御座候、大取込に付御答まで如此に御座候、其中時下別而御自愛第一に奉存候、草々頓首

十月廿九日晚

孝允

襄様

御内答

明治九（一八七六）年

32 一月十七日 田中不二麿

⑤写真

本月七日付之華翰拝誦、過般同志社御開業ニて右仮規則御投示相成正ニ領収、委縷御來諭之趣諒悉候、特別御奮勵之
段遙察此事ニ候、（八重） 諸山本氏之令妹与客歲御結納有之、新年新室ヲ御迎之条、琴瑟之和、景福無涯、小生賀ニ不堪候、
右御祝辭貴答まで、草々敬具

一月十七日

不二麿

新島君

追而、九鬼氏其他へ御加毫之趣夫々通知候也

33 六月九日 富士成豊

④墨

近日帰郷之處、本年二月二十九日付ヲ以テ足下之御履歴委細御教解、併テ御真像共御恵被下、謹而遂一奉拝見候、然ハ足下益御健康被為遊御坐、日夜国教文化ニ御勉勵実ニ感拝之至不堪、乍恐尚一層御奮発乍蔭祈望候

今般足下遂本意御帰朝ニ付御幸福ヲ奉祝シテ

足下曩ニ則、元治元年六月中旬ヲ以テ我国事ニ精神ヲ被尽給ふ事、万里之米国ニ文学ヲ志シテ遠トセス頗ル艱難辛苦ヲ忍、其尽處之実功該国ニ耀シ、大ニ欧洲ニ渡テ探究スル處アリテ今帰朝シ、以テ足下ノ志願ヲ全整シ、則同志社開業ヲ以テ元始トシ、尚一層時制之氣運ニ随ヒ、全国ニ盛進セン事ヲ喜望シ

明治九年六月九日

富士成豊

新島 襄様

再拝

一元治元六月十六日午前二時米国スターネル、ペーリエン号支那向テ函港出發之際、足下我国未開之旧習ヲ洗助セン事ヲ志望シ、小生足下之深志ニ感謝シ、乍恐秘ニ国制ヲ犯シ以テ該船ニ奉供シ、足下ノ手握テ暫時本願之達シル迄離別ヲ乞シトキ、足下ノ一首ニ

「武士の思立〔田〕の山もみす〔し〕」

〔綿〕の衣もきされば

なと帰るべき

新島七五三太手記」

前之一首ト足下是迄之經過ト比較シ、真実足下之御深志貴サルヲ得ヤ、其後小生も国制之變化ヲ日夜相待、豈料ンヤ天幸之致処、則明治元戊辰以来国之制度一変シテ今日之隆盛ニ至、足下之御志願モ大ニ其美事顕、嗚呼愉快ナランヤ○足下先年来米国ニ御着之後御実家江宛之御書簡小生ニ御托シ相成候処、彼是障碍アリテ未タ届兼候、小生所持致居云々は、一千八百七十三年二月十四日付之横文答書ニ而委細陳述之通り、何分出京都度ニ御実家在る所ヲ探シトモ終ニ探リ兼、不得止其儘所持罷有候、幸ひ此度御手元まで御返納仕候間、前条不惡御聞届被下度只管希ふ

○乍失敬御惠之御真像ハ小生寢所ニ飾付毎朝 Good morning my dear friend, How are you this morning
大ニ旧交之情ヲ厚シ、依而小生よりモ乍拙写真尙葉拜呈仕候間、御留笑被下候半々大慶此事ニ奉存候

一 小生義三四年前より北海道地理測量之事務ヲ担当シ日々尽力罷在候処、昨年初春東京江罷出事務ヲ奉ス中不意ニ魯

〔カムチャツカ〕

国領東察伽江出張ヲ被命、同所江出張、六月中旬帰函、再度、同八月末東察伽より千島近傍江出張、然而時節遅レ

ニ而此出張ハ何ノ功モ無シ、然処今般更ニ千島江巡視出張之官員長谷部開拓判官江隨行被命、則今風待及船中予備中に付少シク得寸暇候ニ付、右之一書ニ取掛リ候故、文略乱筆不敬之廉ハ宜敷御見捨被下度様伏而奉願上候、孰れ帰函ハ本年十月之頃ト見込候ニ付、其節ハ又々音信シ可仕候間、此書御落握ニ相成候半々留主後江宛御落手之験丈ケ希ふ、頓首再拜

函館

明治九年六月九日

西京第二十二区新島丸頭町
新島 襄様

函館舟場町七十一番地

福士成豊

明治十（一八七七）年

34 三月二十八日 田中不二磨

⑤写真

拝披、貴社生徒徴兵免除之件御纏述之段承了候、然ルニ頃日中陸軍省より照会にて右学科比較方法今一層確實取調中
ニ付、此節各府県等より伺出候向きハ目今指令ニ難及旨為答候次第ニ付、右一条は暫く御確報相成兼候、且女子英語
（同志社分校女
学校）
学校御設立之儀ハ京都府限りニて許可相成候事ニ有之候、右可然御領悉相成度候、草々布復

三月廿八日

不二磨

新島君

〔封筒表書〕〔異筆〕
『四六号』

京都新島丸頭町四十番地

新島 襄殿 田中不二磨

明治10年

親展

「

明治二十八年八月廿日

明治十一（一八七八）年

35 五月九日 柳島 誠

④ 墨

新緑佳適之時候益御清穆奉肅賀候、却說曩日は偶然汽船ニ道儀ヲ拝シ、鉄眼〔眼〕此レヲ識別スル之明ナク、德音ニ接スルニ及ヒ初メテ吾人之泰斗ナルヲ知り、感愧交至負荊之情ニ不堪候、一見之際、唐突之辭ヲ呈スルハ輕跳之叱拆難免処タリト雖、其時先生ヨリ二三之御諭示有之ニ依リ、晩生大ニ省悟セリ、爾来甚之レヲ敬慕シ、早晚ニも堂下ニ拝趨、愚魯之衷情ヲ叩キ多年之迷夢ヲ一掃仕度存候得共、〔弊・以下同〕敝社之事務ニ累縛セラレ、于今其志ヲ不果御慙諒被下度候、夫レ其國ニ居テ其國之独立保存ヲ謀ルハ則其家ニ居テ其家之独立保存ヲ謀ルニ外ナラザル訳ト存候、故ニ家人箇々独立相結合シテ家始テ成リ、国民箇々独立相結合シテ國始メテ成ルハ理勢之尤視易キ者ニシテ、而シテ中外各人稟性之本望も亦此レニ外ナラザル儀ト信シ候、現今吾ガ國人爰ニ念及セザル者、蓋シ外陋習其耳目ニ慣熟シ、内卑屈其心ヲ涵養スルアレバ也、夫レ農ニ工ニ商ニ其他凡百独立之事業も要スル処這之ニ原質ヲ授蕩シ、其習氣ヲ改良スルニアラザレ

バ決シテ自他之幸福ヲ来シ難ク、決シテ吾人之宿志ヲ遂クル能ハザル義ト存候、此レヲ掃蕩改良スル之方法如何、只先覺者之化導宜シキヲ得ルニアルナリ、然リト雖晩生ガ所謂先覺ナル者ハ決シテ在官諸賢ガ人民之内部ニ干渉スルヲ需ル之念ニアラズ、只在野ノ先覺率先シテ此レヲ誘導スルアラン事ヲ熱望スルノミ、蓋シ国力ヲ強壮ナラシムルノ原因ハ決シテ此他ニ向テ需ムベカラサル儀ト信シ候、前述ニ所謂先生二三之諭示大ニ晩生ヲ省悟セシムル者ハ全ク此レガ為メニ候、晩生資質粗魯、当初敝社ヲ創スル之日只^(眼)眼前之疾苦ヲ救ハント欲ルニ熱心シ、却而其必要ナル化導之点ニ漠然タリ、近々酷タ爰ニ悔ル処アリ、故ヲ以僅少ナル同志ト私訂ノ学社ヲ立テ、独立結合之要略ヲ講究スト雖、如何セン身ハ敝社之業務ニ係縛セラル、ヲ以、其志ヲ学事に專一シ難シ、生ハ故ニ今回先生ニ謁見セシヲ以全ク生力宿志ヲ遂ケシムル之天祐ト思念シ、為メニ生ガ前途ニ成立ヲ信スル学生耆人ヲ撰ミ、時々先生之堂下ニ就キ醇正ナル教化ニ薰染セシメ、以テ敝郷ニ独立之種子ヲ時カント希望セリ、願クハ先生区々之衷情ヲ御諒察アリテ生ガ熱望ヲ結果セシメラレヨ、此レ生ガ私情ニアラズ、又以社務之交誼ヲ完了セント欲ルナリ

右請願御允可被下候ハ、前途之学生ヲ携ヘ不日堂下ニ拝趨シテ正教ヲ乞ヒ、併セテ同生ニ門下之盛儀ヲ拝觀為仕度懇希仕候

学生之姓名は伏原有文敝郷之士族、年ハ二十三歳、其父は旧藩之儒官也、同生漢学ハ其概略ニ通シ英学ハ要則ニテ當時研業中、官船専少ニシテ且氣魄アリ、現今他所へ遊学セザルハ老母アリ膝下ヲ離ル、能ハザレバナリ、近日晩生之小妹ヲ同生ニ嫁与スルヲ約セリ、之レハ其母ヲ養フ者アレバ同生も亦時々堂下ニ拝趨シテ教ヲ乞フヲ得レバナリ

就而是不恭之段恐悚候得共、先生固ヨリ御多掌、生亦極メテ多忙、故ニ予メ本月廿日已後ニ於テ御閑日ヲ被差示度懇希仕候、言竭キテ意尽キズ、敬慕之情ニ堪ズ、乍慮外為道千万御自重奉希望候也

十一年五月九日

柳島 誠

新島先生

堂下

謹白

再申、曩日船中ニ而貴諭有之候化石類並ニ奇品之義、所藏主松平龜翁ナル者ヨリ手扣目錄取寄セ置候間、拝趨之節相携御参考ニ備ヘ可申候、此レは追而実品御覽之節之御利便ニもと存付故也

36 六月十日 柳島 誠

④墨 ⑥封筒表書「乞親展」

兎角不整之氣候之處、道体益御穆祥奉欽祝候、却説伏原生志学之件ニ付、特別請願仕候處、認可セラレ候而已ナラズ御指導之優渥ハ実ニ同生之望外ニ出候趣、同生昨今帰村之上逐一申述、同生愚魯ト雖、中心ヨリ大ニ感動之体ヲ顯シ候、就而は生も深ク感佩、実ニ真道人ヲ蘇スル之靈ナル不覚悚然仕候、生頃日昇堂右述之事情奉鳴謝度候處、明十一日ヨリ愛媛県下敝社支店へ罷越、暫時不在候間、不取敢以寸書此段奉深謝候、書余為道千万御自重是禱

六月十日

柳島 誠

敬白

新島先生
函丈

37 七月九日 津田 仙

④毛筆（赤インク）

御序ニ徳富氏江一封御届ケ方奉希候

六月廿九日付之中島力造子ニ御托之添書（同氏四日市より蒸気船に搭し唯今来着仕候）難有奉拝読候、〔弊、以下同〕敝社農学校教員欠

員之儀申上候処、早速御周旋被成下候段社員一同御懇情奉感謝候

扱亦上野栄三郎子も同行欣喜之至奉存候、同氏も商法学ニ志し候よし、幸今度敝社ニ而商法学教師米人ホイニー氏相〔Willis N. Whiney〕

雇申候間、種々御相談都合よろしく奉存候

窪田君も種々御尽力被下候、難有奉存候 ○葡萄苗代之儀、過日被遣候金子二十分ニ有之、先年之分ハ取扱候候は唯〔A.A.〕

今居合せ不申候、精算出来兼候儀ニ而過不及有之候とも少々之儀ニ付、兩度分ニ而先日被遣候金三円ニ而宜敷と御定

被下度候、テレカラーフ其外之入費ハ私より相償可申候間被仰下度候

○東京ニ相催候大親睦会ハ弥来ル十五日より三日間相催し申候、初日ハホン氏講義、翌日ハトクレー氏、第三日ハフ〔James D. Heburn〕 〔Robert S. MacLay〕 〔Guido F. Verbeek〕

ルベッキ其外、内国人ハ三日とも多人数講義演舌相仕候事に決定仕候、尊兄御貴臨無之段一同遺憾ニ奉存候

○富田君、杉田君其外江御伝言申聞べく旨奉畏候、右ハ中島、上野両子無滞来着之段御報知致候、貴答申上度、早々

頓首

七月九日

津田 仙

尚々、御内室様江も宜敷御鶴声奉希候

38 八月十二日 津田 仙

④ 墨

一筆啓上仕候、弥御清適被為奉拝賀候、扱先頃中島君御出府奉願上候処、早速御聞濟被成下、殊ニ唯今上野君窪田君三名ニ而諸事御注意被下候間、御床ヲ以学農社も行立候間、御序ニ尊兄よりも宜敷奉希候、猶三君ハ殊之外道之為ニ尽力ニ而、学農社之生徒も殆と一般聖書を研究いたし居候、不遠福音を落手仕候事ニ可相成と欣喜罷在候

一私倅元親と申者十二才十一月ニ相成候、英学漢学とも少々ハ相学ひ候得共、元来遊びすぎニ而勉強不仕候間、一老人高津柏樹と申者ニ付け置、漢学修業を致、英学ハメソジスト教師スクーンマーケン女師ニ従ひ相学ひ候処、今般右高津柏樹子有馬温泉江湯治ニ参り、為療養陸路歩行仕候由ニ付、倅元親同行為仕候而歸リニ元親ハ御社江相願置候〔而〕修業為致度奉存候、此段御許可被成下候ハ、若年之者甚御厄介とハ奉存候得共奉懇請度候、本月末ニ着之積リニ而一昨日当地発足仕候、委細ハ右高津柏樹並ニ元親より奉希可申候得共、此段御願申上度、早々頓首

八月十二日

津田 仙

新島愛兄

梧下

尚々、折角御自愛專一奉存候、尊兄之為 真神之愛顧を蒙り候様奉祈候、何成共当地相応之御用も御座候ハ、被仰下候也

39 九月二十八日

岡部長職

④ インク

千八百七十八年九月廿八日 合衆国 マサチウセッツ スプリングフィールド

本月初旬華書ヲ領シ、其後早速以呈書万謝ニ及フヘキ処、彼是遲滞仕リ遂ニ昨日御再信ヲ拝戴、緩漫之罪恐懼不知所謝候条、御仁免之程偏ニ奉伏願候、扱先生ニは愈御安清夙夕御励精ニテ御奉務之由了知仕リ、欣賀之至奉存候、先般小生悔改之事并ニ泉州岸和田諸友ノ義ニ付、以呈書及拝陳候処、御懇答且ツ彼地ニテ御説教ノ御細報ヲ領シ、万謝不^(機)過之候、^(伊方)彼地山岡^(八郎平)宮崎ヨリモ細報ヲ以テ先生御光来、御説教ノ様子申越候、先生ニは日夜御多忙之処、態々御操合

九月廿八日

岡部長職

乍末御内室君へ御伝声奉願候、小生ノ為メ御祈禱奉願候 不俱

別紙副啓

先生岸和田御滞留中山岡等へ御伝言ニテ小生へ御高諭之趣、一々同人等ヨリ通達致具候、小生ニ於テ先生之御深情万謝難尽奉存候、依テ御厚礼千万申上度、又左ニ拝答仕候

脩学中旋行等ニテ課業之時ヲ費サマル様御高諭厚ク心得可申候

当地并ニニウヘブンハ都会ニ付脩学ニ適當ナラズ、速カニアマストヘ転移可仕段御高諭ノ如クアマストハ（小生一度彼地ニ到リ申候）閑静ノ地ニシテ学校モ能ク整ヒ、脩学ニハ至極適當ト小生確信仕候、既ニ小生叔父鳥居忠文ナル者は迄アンドーハルフィリプスアカデミーニテ勤学仕候処、本月ヨリアマスト大学校へ入学仕候ニ付、同校ノ模様モ略承知仕候、小生モ同校ヲ甚タ好ミ候得共、小生脩学ノ目的ハ理学ニ候間、ニウヘブン、イエイル附属ノ理学校ノ方都合ニ相成候様承知仕候ニ付、同所ヘ転学ト決定仕タル次第ニ御坐候、小生クラシカルノ脩業ナレバアマストヲ最上ト存候得共、前条ノ通り理学ニテハ他校可然カト存居候、又当地小生寓所ハ市中ヲ離レ閑静之鄙ニテ、又教師モ懇切教授致具候、乍然高諭ノ趣キ深ク感承仕候間、猶又熟考可仕候、前条高諭ニ相達候ハ甚タ恐縮之至リ御坐候得共、不顧貴意愚存之儘及拝陳候間、悪カラズ御聞取り奉願候、猶此上御心付キノ条々御投書ノ節御教示奉願候、百拝

明治十二（一八七九）年

40 二月十日

中川横太郎

④墨 ⑥封筒表書「玉机下」、
「石原氏ニ挖送ス」

先日は参上相不変御こんせつにあつかり候段難有御礼申上候、さておく様へ申上候、色々御ち走の内、しやけむまき^{〔味〕}、
事三度の食の度毎に思い出し、夫婦咄しに致し申候处、私のかゝ共も私ニ向かひ、そふ云ふむまきしやけりよーりし^{〔料理〕}、
ておまへニ食わしたきと思へ共、田舎のおかゝ致し方なしなそと申して、ちようたいの時のあし^{〔味〕}を今ニ楽み、此事わ
けて奥様ニ御礼奉申上候、家内ヨリも豎市共ら御役介ニ相成候段大ニ悦び御礼申上くれと私共へ申出候間、右の段こ
めて御礼奉申上候、已上

二月十日

中川横太郎

新島両君

41 五月二日 田中不二磨

⑤写真

〔四〕
本月廿四日付貴信展閱候、御社学生徴兵免除之件ニ付縷々御来示之趣承了、右は文部省直轄学校生徒ニ比較シ、免役云々儀ハ陸軍省明治九年達第六十六号、徴兵令参考第二十條之通ニ候得共、其比較、方法之儀ハ當時同省ニ協議中ニ付、即今ニアリテハ何共御確答難致候、且又学科増加之儀も前段之次第ニ付、是又即今何分之御答致兼候、東京大学予備門之学期課目等ハ別冊規則差送候間、右ニて御承了可被下候、此段御答如此候也

五月二日

不二磨

新島君

42 九月二十五日 津田 仙

①東京麻布新堀町八番地 ②西京寺町通松蔭町 侍史 ④墨

一高津柏樹去ル廿一日陸路出立仕候ニ付、海上廻し之荷物尊宅宛ニ而差出し候間、落着いたし候ハ、御受取置被

成下度候也

一華啓上仕候、逐日秋氣相加里候処、弥御清適被為涉奉拝賀候、扱乍存御無信打過、汗顔之至奉存候、兼而被仰聞候
外国人転籍之儀ニ付、数度宮本小一郎外務省大書記官ニ而専ら御事之係りいたし候人ト行合申候、何分とも周旋可仕
候得共、伝教師等之転籍ハ事實は此上も無き美事なれとも、未だ評議中ニ而相決兼候、近々分り次第可申聞旨申居ら
れ、未だニ何も沙汰無之候、クリスチアン之事ハ右宮本君ハ好ニ居候人ニ而、右周旋ハ至極宜敷奉存候間相頼置申候
尊校之広告を農業雜誌ニ仕候事承知罷在候、早速記載可仕候、外ニ日々新聞掲載之儀ハ少々入費もかゝり候事ニ而
可相成手短かに能く分る様ニいたし広告可仕奉存候、失敬ながら申上候女学校之広告等ハ一覽いたし候は却而見合候
様ニ不相成杯と山田氏申居候、今少々御心を被用候て事實善良之学校故不日して数倍之盛を極可申候、私儀乍不及御
助力可申上候○今般高津柏樹、大内青巒両氏楽善会之用ニ而御地江罷出尊宅江可罷出候間、宜敷奉希候、両氏とも仏
学者にして有用之人物ニ御座候、私並ニ中村等別而懇意ニいたし居候、高津氏ハ仏道を廃し聖教を主といたし居、尤
未だ受洗不仕候、大内氏ハ有力者ニ而明教新誌之記者にして門跡等ニ而も被用居候人故、先生別段ニ御説被下、若し
先生に復し候ハ、大なる收穫可有之田地と奉存候、其思召ニ而開懇播種御耕力奉希上候

○中島君ハ本月三日乗船、万事都合宜敷支度も相整、旅費もオハヨウ洲まで之分周旋仕候て無滞出立仕候、後来必ず
先生幕下一手之大将とも可相成人物と奉存候○上野より時々便り有之、不相替勉強罷在候、万里波濤を隔り候ても
真神之恩ニ浴し候儀深く相感し申候○窪田君之儀、甚以て恐縮之至ながら、学農社ニ唯今卅人計リ（是ハ皆上等之生徒
のミ）将ニ新生ニ入らんといたし居候処、何分同氏居候而ハ不都合を極候間、無余義外塾為致候内、同氏之父より帰
京之儀敝敷申参り候間、一先帰京為仕候、今般同社（補）之者ニ而元農業雜誌編輯人当時広島県役人」十文字信介広島県より

出張いたし窪田氏之事相咄候處、氣之毒事故広島県庁江金貳十兩之月給ヲ以周旋仕候、窪田氏江新島先生之御目鏡ヲ以、同人之意に適したる妻ヲ娶らせ拾兩ツ、ニ而活計を立候様いたし「拾兩ツ、父母江十文字より送り」^{〔カ〕}候か、又ハ老父母を引取候而養育致し候か之ニツニいたし、其上ニ而不品行之事有之候ハ、相断可申と相談仕候、右様之事不信者（十文字）より信者に被惠候ハ甚以乍遺憾よろしく相頼置候、窪田老人と御相談被下御返事被下度候、右之儀ハ山本先生江茂宜數御相談被成下度候、敝社学校も百余名ニ相成、杉田、岡田君もよく勉強いたし呉候間、社中品行も宜數追々信者も出来仕候儀深く先生之播種ニ係る事を奉拝謝候

一三輪振次郎儀、唯今帰省中ニ而故郷ニ而可相成多人募つ^{〔カ〕}而御社江罷出候積ニは御座候

一元親儀不相替御厄介奉拝謝候、先日拾兩御廻申上候、右ニ而も四国行入費ニも足り申間數奉存候、追而又可差上候、将亦窪田君出立之砌金七兩別紙之通り立替置候分先生相納候約束ニ付、若相納候ハ、元親入費之内江御加被下度候、右申上度如此御座候、草々敬具

十二年九月廿五日

津田 仙

新島先生

侍史

尚々、折角御自愛專一奉存候、御家上様御一同

眞神、上ニ護あらん事を祈る、草々敬具

明治十三（一八八〇）年

43 三月十一日 西 毅一

①備前岡山 ②西京寺町通丸太町 ④墨

花章拝読、如諭春寒難去之候満堂益御安祥奉拝賀候、扱先達而者御来遊之處、折悪しく小生多忙中ニ而処々御陪遊茂不仕、且御出立之節ハ友人新庄東京出發之都合之處、同人茂相延^{（カ）}ハし彼是掛違ひ御見送茂不申上寔ニ遺憾失敬御海恕可被下候、しかし中川宅^{（横太郎）}ニ而御高話拝聴且御陪食之際、憂国之御論一々敬服仕候、小生従来田舎ニ生出し、師友ニ乏敷、何卒爾来益御交誼を辱し度希望此事ニ御座候、小生漫遊を好み、名山大川を跋渉する少なからすといへども、区々蜻蛉洲中ニ飛遊するのミにして、先生の如き大鵬之翼を張り五洲を翱翔被成候ニ比すれハ真ニ蝸牛上之一戯耳、然ルニ性飛揚之志あり、嵐山鴨河之風景夢寐ニ彷彿として神魂飛動、桜花爛爛之候ニハ出京、先生ニ従ひ一遊以て素懷を述ふるあらバ実ニ人生之一樂事なり与奉存候、しかし其頃ニハみかん無之候得ハ御内室様之御力量ニ驚入事茂亦無之与奉存候、米国花種御恵投何寄難有、小生花を愛する尤甚敷、花狂生ト自号するニ至り申候、梅花水仙^{（盛）}鄭郁処々

閣筆、勿々敬白

三月十一日

西 毅生

新島先生

坐下

44 八月二日 瀬川 浅

① 鹿児島天神馬場通り

② 西京寺町通り丸太丁上ル百四十番地

④ 墨

去月下旬御投函之貴紙過日落掌難有拝読仕候、時下酷暑之節愛兄ニハ恩寵之下愈御壮栄日夜御伝教之由奉恭賀候、小弟義も御愛護ニ倚り無異消光罷在候間乍憚御放念可被下候、陳者染川義ハ貴書之如ク、弟出寄内無言ニ而出京被致、其後普通ノ音信ハ両回程御座候へ共、同人信仰及ヒ一身上ニ付確タル通信無之候間、弟ニ於而モ常ニ懸慮罷在候処、貴紙ニ而始テ同人ニ付詳報ヲ得甚驚愕仕候、第一ニ同人義ハ着京以後直ニ愛兄等ニ当鹿児島ノ一基督信徒タルヲ顕彰セズ、数月之後漸日公言シタル事、又愛兄より御尋問ニ付曖昧タル虚言之如キ返答之多キ事ニハ驚入候、其砌幸ニ飛鳥〔豊次郎〕兄帰宅仕候故、早速同兄ヲ訪ヒ、猶染川義ニ付委細承了仕候、同人より愛兄ニ出状セシハ何月頃ニ御座候哉、倘シ出状ノ時十一月上旬爾後ニ御座候ハ、唯飛鳥兄及ヒ小弟ヨリ聊 聖道ヲ聞タル人ニ非ズ、即弟ヨリ聖洗ヲ受ケ教会ニ接木サレタル純然タル当地一信徒ニ有之候、^{〔補〕}「十一月以前ナレバ」縦令未タ洗ヲ受サル共、弟ノ許ニ至リ受洗ヲ希望シ

タル一人ニ御座候、唯常ノ講義聴取ニハアラザリキ、又四月以後同人ハ師範学校ニ最早出席不仕候故、理ヲ以テ申ハ当地師範校ノ一生徒タリシ染川ニ御座候、又同人出京之節同人より弟ニ相談之義、飛鳥兄被心附候処、弟より許可ヲ受候様被申候ヘ共、弟ハ其許可ヲ出タル義更ニ無御座候、何分ニモ同人事ハ常ニ曖昧之返答申者ニ御座候故、後日迷惑之件起リ勝ニ御座候、同人出京義ハ如前文都合ニ御座候ヘ共、弟同人出立ヲ聞キ、一ハ同人ノ一言モ無残キ輕卒之挙ヲ憫ミ、一ニハ同人ハ兼テ懶惰者ニ而段々ノ奨励モ聞入不申、実ニ弟モ当惑仕居候ニ付、今回ハ定而御校数多之勉強家ニ被勵、自然競争心モ發起シ、行々ハ主ニ対シ義務ヲ尽ス者ト相成可申ス、此挙ニ付兩種ノ思ヲ抱候位ニ御座候、倚而同人ニ付弟ニハ他ニ見込無御座、唯是上ハ同人義先非ヲ改悔シ、愛兄ノ御配意ニ依リ一基督信徒ニ耻ザル者ニ相成候様御誘導被下度、是弟ノ伏而愛兄ニ懇願スル処ニ御座候、弟固ヨリ同人ニ勸諭仕候ヘ共、何分紙上其意ヲ不尽候ニ付、万事弟ニ代リ御諭被下度奉願候、実ニ同人義ハ唯今愛兄ニ見捨ラレ候而ハ路頭モ迷可申候、幸ニ同人改悔ノ実ヲ願サバ其節ハ転会モ御承諾被下候義ト奉存候、先酬酢旁右懇願迄如此御座候、勿々不一

八月二日

瀬川 浅

拝

新島篤愛兄

足下

二白、御令閨様ニ宜敷御鳳声是希、荊妻よりモ同様御願申上候

45 九月十五日 瀬川 浅

① 鹿兒嶋天神馬場通り ② 西京寺丁通り丸太町上ル 親展「平信急キ」

④ 墨

先般佐藤事件ニ関シ玉章落掌仕候ニ付、其節勿々酬書投函シ、愛兄御意見如何哉ト日夜雲采至着義待居リ候処、兩三日前飛鳥兄并ニ小弟ノ兩名当テ之尊翰拝誦仕候而、佐藤義悔改之模様逐一致承知候、定而此義ニ付而ハ彼は御配意被下候義ト奉厚謝候、佐藤当地出発之義ニ付而ハ小弟ニ対し随分不都合之廉モ御座候共、^{〔補〕}「只今ニ相成候エハ」小弟ニ於而ハ此義聊モ構不申、齊同人之先非悔改之程偏ニ希望スル処ニ御座候、倚而乍御面倒同人義ニ付ハ是後モ無御見捨、御世話被下度伏而懇願仕候、同人転会薦書之義ハ追而差上可申候間、其時期至リ候ハ、乍御面倒鳥渡御報知被下度奉頼候、先者御願迄、草々不一

九月十五日

瀬川 浅

新島愛兄

足下

明治十四（一八八二）年

46 二月十日 津田 仙

④毛筆（赤インク）

一楮拝啓仕候、春寒強御座候処、弥御清暢被為奉拝賀候、扱当地聖教信徒益々勢強く、日々月々盛大ニ趣全く真神之恩恵之然らしむる処と奉感謝候、杉田君小崎君両和田君上野君毎礼拝日ニ者拙宅江相集リ申候、杉田君美教会も相助ケ尽力不斜候、小崎君者同人社江毎日曜日に参リ講義いたし候処、以之生徒聴聞仕候よし、大慶至極ニ奉存候

元親不相替いたつら仕御厄介相懸仕候義と奉存候、信仰と勉強とよろしく御督教奉懇請候、上野栄三郎江私長女琴^{本年}インケージ可仕候、粗相談仕候、一応先生之思召も相伺候而弥取極申度候、殊ニ同人西京人故、委敷事ハ存不申

候間、妻も先生之御指図相待結納等仕候方可然申間候、宜敷御探索御申越被下度奉希上候、本人年来懇意ニ仕居氣質等之よく相分リ居申候、後來ニ望み有之ル人物と奉存候

一小崎君も美教会之生徒妻之縁類之女子粗相談相極リ可申候、尤秋ニ相成候而婚姻之積ニ御座候

一六合雜誌ハ大当りと奉存候、上等社会之人多相求評判至而宜敷御座候

一先生御出府者無之候哉、私之為ニハ知事之先生ニ〔續村正直〕防害ヲする時之方か先生ニ屢拜謁相叶候、最早此種ハ消失仕候

間、御出府ハ無之奉存候得共、何卒前記御相談にも御出府被下度候、旧知事ハ誠ニ氣之毒之事ニ御座候、出府之上無程面会可仕候、此上ハ西京も官民平和相深可申候○神道之爭ハ互ニ罵詈を極メ、遂ニ政府之裁判を仰ぎ、政府にも神官相召集し会議ニ附し申候、我国人宗教之事ハ全く空手と相成居候、唯今真神之道を広むる好時節と奉存候、是天之命歟、右申上度、草々頓首

二月十日

津田 仙

再拜

新島先生

閣下

尚々折角御自愛專一奉存候、乍末御家上様江御致声奉希上候、拙荆も宜敷加筆可仕旨申出候、頓首

47 二月十四日

中村正直

⑤写真

過日は早速御答書被下難有奉存候、拟願上候本人ハ修史館一等編修長松幹殿之令息ニ御座候、大学予備門三級生ニ有

之、故アリテ華族学校（学習院）ニ移リ候処、少シ子細有之、因而貴社ノ御風儀ノ正シク精神ヲ改良スルノ事共伝聞被致、小生ヲ以テ貴社江入門為致度義ニ御座候、明後日当地発足被致候、何分御教諭被成下候ハ、小生迄の面目ニ相成リ候義ニ御座候也

二月十四日

正直

頓首再拝

新島先生

閣下

別紙入御覽候也

〔別紙〕

今度御塾の風儀正シク、人の精神ヲ改良スル事ヲ長松幹伝承被致、ソノ令息ヲ新島先生ニ御托し申ス事ニ相成リ候、御塾中之諸賢此儀ヲ御承知被下、令息被参候得共、御薰陶之益ヲ得候義と存候、何分宜敷奉願上候也

中村正直

再拝

同志社

諸彦

48 二月十五日

中村正直

⑤写真

春寒去兼候処、益御清暢奉扑賀候

陳者過日御答書被下、早速先方江相示シ候処イヨ／＼貴塾ニ相願度、仍而小生より書簡相添本人罷出可申ニ付、宜敷御教導奉願候

一等編修官長松幹男長松篤斐

學術も固ヨリ長進ヲ望ム義に候得共、心術品行純粹善良ナル義ニ御誘導被下度奉存候、本人之大人より承リ候ニ、本人經濟學ニ志アリ候由、何事ヲ為ニモ精神改良ニ不相成上ハ出来不申義故、貴塾ニ特ニ願候義ニ御座候、漢學も本人是迄進歩少ナキニ就キ、課余ニハ御地之漢學先生ニ作文等の点削も相願度、是等も御含置可被下候、勿々頓首

二月十五日

中村正直

新島襄様

49 二月十六日 長松 幹

①麴町区荻番町四番地 ②侍史 ④墨

追啓、豚兒土産之印ニテ日本西教史呈上仕候

未得披雲突如拜啓失敬候、海涵奉願候、時下春寒料峭益御清祥奉至祝候、陳者此度中邨先生ニ介シ豚兒^{スケ}篤斐儀御校留
 学奉願候処御許可被成下奉深謝候、該生一昨年大学予備門三級卒業、二級及第致居候処、病氣ニ付退校、昨年学習院
 入学七月後期五級卒業仕居候処、近来遊蕩之弊生シ深ク心配仕候ニ付、此余者西教ニ資シ精神改良ヲ求候外無之と奉
 存、此度奉依頼候付御学則遵奉ハ無論ニ候得共、学業外右之点ニ御注目被下、敝ニ御教誨御鞭撻ヲ被加候様偏ニ奉願
 候、幸ニ性行改良致し、一人タルヲ得候ハ、畢生之大幸、荷恩之深江海不齊奉存候、万一御訓戒ニモ相背キ不良之行
 有之候ハ、如何様ニモ御蔽謹被下度、北垣知府ヘモ頼遣置候間、事ニ寄候テハ同氏ヘモ御謀御処分相成候様仕度奉存
 候、平常引受人ハ村上勘兵衛ト申者^{東洞院三条上ル曹林ニ御座候}相立置候間、前件御諒察万奉依頼候、先者右懇願申上度冒瀆尊徳時今
 千万御自愛奉專要候、頓首再拝

二月十六日

長松 幹

新島襄殿

追テ月費総額別帑相認候通本人ヘ尊台ヨリ御申聞、其余者決テ消費不相段^借段モ敝ニ御申付被下度候、是モ遊蕩

ヲ防候一端ト奉存候、尤衣服料ハ一月平均五円宛ト予算シ、保証人へ別段相託置候、是亦御含奉願候

(別紙)

御依頼條款

一該生游蕩ニ流候弊有之候ニ付、厳ニ檢束セラレ、性行改良ニ趣キ候儀專一奉願候事

一御校御定規納金

受養料五十錢、月俸貳円七十五錢
雜費凡貳円、合計五円貳十五錢

并ニ本人月費貳円共毎月保証人ヨリ會計課ニ相納、該課ヨリ本人月費

モ時ニ御交付相成候様相願候事

但本人月費自然不足ニテ実地差支^(附)リ候ハ、保証人へ御申聞可^(被)下候、是者偏ニ御賢断仰候

一入校之節本籍區長之証印云々之事御規則ニ有之候間、即今東京寄留致居候故本籍ハ甚手数相掛候、兼テ御布令
モ有之候事故寄留處區長ニテ相濟候得者仕合申候、尤東京杯ニテ寄留致候ニハ寄留之届ノミテ相濟居、本人儀モ
本人ヨリ御地區長へ寄留之届致シ、本人身元保証者保証人相立候テ相濟候得者最仕合申候、右等保証人へ何分御
差図奉願候、其内入校者一刻モ早ク奉願度候事

但保証人ハ東洞院三条上書林村上勘兵衛ト申者相託候、其余北垣知府并槇村<sup>東上ナルヤ否
未詳</sup>ヘモ頼遣候間、自然事

故有之節者御打合も可被下候

右條款宜奉願候事

明治十四年二月十六日

東京麹町区老番町四番地寄留

山口県士族

長松 幹

50 二月二十七日 長松 幹

①麴町区老番町四番地 ②西京 ④墨

今朝一書拝呈候処、唯今華帖到来、忙手拝読豚児儀ニ付御厚配、且村上方へも高臨諸事御懸引被下候段御厚情奉感佩候、猶御書中御懇諭之次第別テ拝謝仕候、此余御薰陶之程偏ニ奉願候、今朝相願申上候尊家へ御召置被下候事、何卒御許允被下候ハ、実ニ不堪万謝次第ニ御坐候、本日村上勘兵衛よりモ万一下宿ナレハ該家ニモ可致万端御都合ヲ貴社へ相伺取計可申旨是は今朝台へ一書差上候節、村上へも一書遣候得共行通ヒ參候事故、尊家之事相願候事ハ彼者ハ不存前ニ御坐候也申參候得共、彼方ニテハ自由過キ懲戒之為ニ相成兼候半歟トモ被存候得共、尊家ニ被召置候事不相叶候得者他よりハ村上方可然歟トモ奉存候、今朝書面同方へ相達候ハ、直ニ相伺ニ參上可仕候間、何レニモ宜様御指揮被下、彼方ニ下宿致候事ナレハ敝ニ規則ヲ御立被下候様奉願候、鄙意ニテハ尊家之处万々奉希望候、先ハ尊書之御礼御頼旁再陳、草々頓首

二月念七午後五時

幹

新嶋襄殿

追テ千万失敬之申上ニ候得共、尊家御邸中是非共御都合御悪敷候得者万一御隣地御合壁坏ニ坐敷ノ一間モ被借候家有之候得者、借賃何程ニテモ相并可申、左候得者朝暮先生へ随行学校上下仕リ其余モ行跡御監督被下候得者至極難有大ニ安心仕候、右等も勘兵衛へ仰談宜様奉願候、頓首

51 二月二十七日 長松 幹

①麴町区壹番町四番地 ②西京寺町通丸太町上ル百四十番地 平安急用

④墨

爾後益御清祥被為渡奉至賀候、陳者豚兒儀入校相濟候段千万難有奉謝候、然処所謂得隴望蜀儀ニ候処、本人内情不得已次第有之御厄介申上兼候得共、何卒尊家御玄関而モ被置候テ出校仕候様奉願度、詳細者保証人村上勘兵衛罷出相願候間、宜御許允被下候ハ、大幸ニ奉存候、右尊慮如何ト奉存候得共、無抛相願候間、宜奉願候、時下千万御自珍奉專要候、草々頓首

二月廿七日

長松 幹

新島襄殿

再陳、豚兒儀兼テ奉願候様嚴重御鞭撻奉願候、其又御許可被下候ハ、朝暮別而御訓導奉願候

52 三月二十一日 長松 幹

①麴町区竜番町四番地 ②西京寺町通丸太町上ル百四十番地 急信 ④墨

本月六日之御手教昨夜郵致難有拝展、益以御清祥奉賀候、陳者豚兒儀御懇諭之件一々愧服不知所謝、退校之事中村先生より相願候条理当然之處、先生ヲ煩候事故、私より直ニ相願候段、今更恐縮候、尊書持參此余猶相頼ミ申候、実者此程中邨先生へも情実申入尊台へ誠ニ不相濟次第ニ付、御謝状被差出候様相頼置候事ニ御座候、扱又尊諭楨邨ノ一言ニテ相決候様御承知之様ニ候處、右者決シテ不然、根元ハ前日申上候様本人宗教上ニ付、前途之云々御坐候ヨリ、不得已大不都合ヲ奉願候事ニテ、楨邨へハ今後之處分ヲ相託候迄ニテ尊台ト信否厚薄扨ト申儀者毫モ無之候、此段者何卒御鏡燭奉願候、但折角之厚意ヲ忘失仕候様立到段者前書再三鳴謝申上候通ニテ、如何程御譴責ヲ蒙候テモ敢テ辭避スル所無之、窮極スルニ私共父子後來ニ不幸ニ歸候事ニ候得共、無拋引掛ニ付術尽不都合奉願候段御憐察奉願候、先者御答且御謝辭旁拝啓、余者後鳴不宣、頓首

三月念一

幹

新島先生

53 四月二日 長松 幹

①麴町区竜番町四番地 ②西京寺町通丸太町上ル 平信 ④墨

去月念八日之華^{〔カ〕}示到来難有奉拝読候、爾後久敷御清祥奉至賀候、陳者此般之儀ニ付反覆御懇諭ヲ蒙リ愧汗潰背不堪鳴謝候、前日尊諭固ヨリ該生御愛顧之御真情ニ出候事ハ兼テ銘肝仕候、其処へ甚不条理相願候故心腸寸断之思ヲ為候得共、不得已内情有之候故鉄面皮ニ相願候事ニテ、尊諭之次第者一点不快ヲ懷候杯之事決シテ無之而已ナラス、於理無之儀御心扱解ヲ蒙リ益愧悚相増、何共不知所奉謝候、何卒後來此大失措ヲ以テ御遐棄無之御交誼ヲ辱候得者望外之大幸ニ奉存候、中村先生へも御懇書有之候趣、先生よりも示諭是亦奉愧謝候、先者拝謝貴酬旁、草陳頓首

四月二日

長松 幹

新島先生

追テ御社中諸彦ニも豚児不都合之次第万々奉謝候間可然御取成奉願候、頓首

54 七月三十日

新保虎之助

①羽前山形

山形新聞社

②京都府下西京寺町通松蔭町百四十番地

實訓

④墨 ⑥日付は消印による

七月三十日新保虎之助謹テ再拝シテ新島襄先生ノ左右ニ白ス、天漸ク晩秋ニ入テ来ル、眠食何似、伏惟ハ万祉、是ノ月十二日ノ書ヲ辱ス、一再読テ愧赧交モ至ル、虎頓首シテ敢テ情実ヲ陳スル左ノ如シ

抑虎カ今年ノ春ヲ以テ先生ヲ西京ニ訪フヤ、豈徒爾偶然ナランヤ、蓋已ムヲ得サルナリ矣、是ノ時ニ当テ先生ノ明能ク虎ノ布衣寒素ニシテ財屋ノ既ニ空シキヲ察シ賜ヒ、忽チ借貸ノ栄ヲ蒙レリ、故ニ輒ク東京ニ至ルヲ得ル、然ト雖モ事尽ク其当ヲ失フ、当時虎益ス寒シ、是ノ故ニ嚮キニ書ヲ上リテ還期須ク猶予シ賜ハン事ヲ望メリ、先生又能ク虎カ益々寒ナルヲ憐レミ、其望ヲ聴シ賜フヤ日尚ホ長シ、先生ノ愛亦博シト謂ツ可シ矣、虎ニシテ意アル、豈其仁ヲ忘レシヤ、故ニ食ヘトモ其味ヒヲ知ラス、寝レトモ其目ヲ安ンセス、悠悠トシテ常ニ疾ク奉還セン事ヲ思ヘトモ、而レトモ吞紙抱犬ノ情愈ヨ加ハリ、遂ニ恰モ浮萍ノ如ク、赤織ヲ飄ヘシテ是ノ地ニ至レリ、然リト雖トモ又事尽ク其当ヲ失フ、一百十余日間ヲ回顧スレハ、先生ノ震怒ニ当ル者極メテ多シ矣、既ニ已ニ悚懼戰栗ニ堪ヘサルナリ、然而トモ虎ノ裕蓋亦日ナラサル可シ矣、其時至ラハ速カニ奉還ス可シ、書ニ臨テ言ハント欲シテ言フ所ヲ終ヘス、仰キ願クハ先生亦憐察ヲ賜ヘ焉、虎慙颯再拝

55 十月二十九日 大西 祝

①本郷 帝国大学宿舍 ⑤写真

一昨日は御面晤を得て大幸に存候、扱其節御約束申候プロシヤ国高等学校の教科表、今日一寸取調候分のミ不取敢御送申上候

別紙四頁の中前三頁はドクトルヴィーゼ編纂の Verordnungen und Gesetze für des höheren Schulen in Preussen より摘採致し、終の第四頁は Painter's History of Education に相見え候、第二頁に掲げ候概表は第四頁のペンターより摘出致候表とは相違致候点有之候は、同じプロシヤ国内にても所によりて幾分か教科程を異にするからのてと存候、ペンターの表は諸校の教程を概したる表に候や、将或一定の学校の表に候や、判然致兼候、別紙数表はたゞ時間表の如きものに有之候故、之のミにては科程の処くわしくは察知し難くと存候、因て後便にヴィーゼ氏の書中より「宗教」「独乙語」「羅甸語」等それ／＼の課目に付き、猶委しく訳出致し御目にかけて度存居候、ヴィーゼ氏の書は千八百七十五年出版の書に候得共、其後プロシヤの教育にさしたる変動も有之まじくと存候、且つ同書は二部に分ちて第一部には大学以下の学校の学令科程及其他総て関係の事を記し、第二部には同様の事を大学に關して記載有之候、共にプロシヤの学校にて有之候、二部合して八百頁許りの書物に有之候故、随分委しき様に存候、謹言

十月二十九日夜認メ

新島襄先生

大西 祝

明治十五（一八八二）年

56 二月二十五日 浜岡光哲

④ 墨

〔ママ〕
内

益御清適奉扑舞候、扱兼而御相談申居候共有山売却之儀、過日来山方丹波国北桑田郡藤野宗次郎ナル者入来、買請度旨申込候得共、例之該地慣習之通手附金ヲ差入、地券書換之上、全金皆済之方法ヲ以テ依願仕候、併し小生ニ於テハ是非^{〔全カ〕}金金ト引換ニテナクハ売却不致旨申聞ケ候處、更ニ左之方法ヲ以テ申込候間一応至急御相談仕候、其方法ハ本月中ニ貳百円差入、殘金之處ハ五月中皆済トし、其信任証トシテ左之山林券差入置可申、尤モ利子者相加フル約、右之通ニ候ハ、格別不安心ニモ無之ト存候間、至急御處分相願度、実者廿二日中ニ先方へ返答可致様相約置候得共、府会開期ニ迫リ居候故、調査上彼是多忙、意外ニ遷延致置候處、今朝同人入来致候ニ付、明朝否哉返答ニ可及旨相約置候間、地券相添及御相談候、若同意ニ候得者此者へ共有地券御附与相願度候、尤モ代価ハ過日通毫千五百円ニ御座候、

草々頓首

〔朱筆〕
「(百円)ハ已ニ受取

(六百五十円)將ニ来ル分

〔朱筆〕
「七(百五十円)受取ルベシ」
「十五年」

二月廿五日

新島襄様

玉机下

浜岡光哲^④

57 三月七日 海老名喜三郎

①神戸港 ②京都寺町通丸太町上ル 親展 ④墨

過日者尊堂ニ出て大ニ御世話ニあづかり奉万謝候、陳者熊本之事件一切不決、一治一乱、不都合なる事ニ而時日を費すのみの如し、生の処置未タ判然せずと雖トモ、先づ神戸ニ而数年ををくるこそ神の旨ならんかと愚案仕候、然シ未タ天運の存する所を知らず、因て今夕より出船し、鳥渡岡山ニ立寄て金森^{〔通信〕}氏を訪ひ、又都合ニよりてハ伊勢^{〔附進〕}氏を今治

ニ尋て、彼等の働を観察し帰県仕べき積なり、擬テ下村氏（孝太郎）ニ就きてハ宜敷御取斗を願ふなり、若し彼れが貴校ニ留ま
ること不都合ならば、彼生徒ノ半ハ貴校ニ入ルハ良法ならざれば、同氏をして長崎スタウト（Cherry Stout）と談判為致テも不都合ハ
あるまじと奉存候、故ニ熊本にてアメリカンボールドの力ニ及ぶ所にあらざる次第、一封スタウト氏迄御遣し被成降
度奉希候、さらバ同氏も遠慮なく相談ありて下村兄も安心する所あるべし、是れ公平の処置と存し、聊か陳し仕候間
御勘考可被下候、乍憚御家内様へ宜敷候也

三月七日

嘗テ疑フ、先生何ソ生ノ短所ヲ挙テ忠告セザル、兄弟ノ道ニ悖ルカ如ク師弟ノ道ニ戾ルカ如シ、蓋シ朋友ハ切
磋琢磨以テ修身ノ功ヲ積ムベシ、竊ニ心友ニ問テ未タ先生ノ本意ヲ解スル事能ハス、先生ハ未タ生ノ短所ヲ知
ラサルカ、木偶人ヨリモ甚シ、知テ忠諫セザルハ何ソヤ、愛ナキカ如ク勇ナキカ如シ、決然然カラザルナリ、
生力氣（性）象過チ告ル者ヲ愠リ、改ルニ吝ナリトスルカ、若シ如斯者ナラハ何ソ良友ニ富マン、先生ノ本意未タ解
セズト雖トモ先生ノ短所ヲ見テ黙スルヲ得ス

曩ニ尊堂ニ在ル際、先生ノ父母ニ事フル、其道ヲ尽サルカ如シ、先生ハ父ノ言ヲ重ゼス、又彼ヲ侮リ彼ヲ愚弄
スルカ如シ、若シ父愚ナラハ何ソ哭セザル、何ソ生等ノ前ニ笑フヤ、先生ノ短所最モ家族ノ政治上ニ見ハル、
生失敬ヲ慮ラス明白陳スル如斯、先生ヨ寛容以テ生力忠諫ヲ採用セヨ、此レ全ク先生ヲ愛スルノ熱キヨリ出、
故ニ先生生ヲ不敬トシテ怒ヲ加ルモ、毫モ怨マザルナリ、若シ喜悦シテ採用シ玉ハ、生ノ幸如何ソヤ

明治十六（一八八三）年

58 三月十四日

尾越蕃輔

②「敬復」

④墨

敬読、未得拝眉候得共、益御多祉被為在奉賀候、過日ハ田中氏へ御伝言之趣拝承、小生こそ赴任以来御尋可申上覚悟ニ而未タ御無音打過候段御寛恕被下度、明後十六日午前迄ハ在宅仕候、若も御都合相成候ハ、御来遊奉願候、其内御都合次第小生参上可仕、右貴答迄、尊啓辰下春寒殊ニ御自重奉願候也、頓首

三月十四日

蕃輔

新島賢台

貴下

59 三月二十三日

小崎弘道

①神戸 ②西京寺町通り丸太町上ル ③はがき ④墨

迂生事今治岡山高梁ノ地方ヲ巡回シ今朝帰神仕候、何レノ地方モ都合宜シク、今治ノミニテ六十株位出来申候、〔六合雜誌社〕尚ホ御地ニテモ御尽力アラシ事ヲ祈ル、迂生ハ今夕出帆ノ汽船ニテ帰京可仕候、御地方諸兄姉ニ宜敷御伝声被下度候也、草々頓首

三月廿三日

小崎弘道

拝

60 五月二十六日

富田鉄之助

①東京麻布市兵衛町 ②京都寺町通り丸太町上ル十三番戸 ④墨

拝啓御出京中度々御出被下候所何時も失敬ノミ申上候、無御滞御帰京と奉察候、拟御依托之義大坂外山脩造江内談可〔カ〕致候所、本人出発之際終ニ懇談〔カ〕ヲ得兼候ニ付、今般書面ヲ以巨細申遣候条、左様御含置被下度候、然ルニ松方大藏卿

兩三日中出立上坂ニ付、其際本行支店之開業式施行之都合ニ付、支店之方非常多忙と被察候間、賢台御下坂相成候共
実ニ拝光ハ無覺束事ニ可有之、大藏卿ニ者六月末か七月初メ頃まで滞坂ニ可有之候条、可相成者「大藏卿帰京」後ニ
御出懸被下候ハ、本人も実ニ御主意拝聴相叶候半ト奉存候、右之義一寸心付間申上置候、草々頓首

五月廿二日

東京

鉄之助

新嶋先生

御坐右

61 六月一日 湯浅治郎

①東京京橋区山城町山城軒 ②京都府上京区第廿二組寺町通丸太町上ル十
三番戸 ④朱 ⑥「埋葬ノ布達書」

御葉書ニて御安着之旨拝承欣喜此事ニ候、御帰後御多忙ニ可有之候得共、可及の御自愛アラン事ヲ望ム也、御命之葬
儀ニ関スル布達上原氏ヨリ回付之分ハ別紙之通ニ候、尚該件ニ付取調之上可申述候得共不取敢御回付申上候、草々拝
白

六月一日

湯浅治郎

拝

新島先生
侍史

二白、御家族様方へ宜敷御致声奉願候

(別紙)

葬儀ニ関スル公布之享 [省略]

[右添書]

右之外人之死亡ニ関スル布告布達ハ有之候得共葬儀ニ関スル者ハ前記之通ニ有之、今モ尚教導職ニ非レハ之ヲ施行スルヲ得サル義ナラン、尤モ政府ハ近來神官ニハ葬儀ヲ施行致サヌ旨既ニ達セラレタカト存候

62 七月二十七日 外山脩造

①大阪中島二丁目 ②京都寺町通丸太町上ル町百四十番地 貴答 ④墨

廿日付之御懇書拝見、陳者先日者御光來被成下候処欠恭ノミ赧然之至ニ奉存候、却說御企之募集金ヲ以て公債証書御買入相成、其公債を日本銀行へ御預ケ被成度旨承知仕候、何時ニても御都合次第御預り可申上候間其旨法方書中公然御掲相成候ても聊差聞無御座候、右貴酬まで、草々拝復

七月廿七日

外山脩造

新島襄様

侍史

63 十月二日 田中源太郎

①丹波亀岡本町 ②京 寺町通丸太町上ル町 貴酬 ④墨

如貴論秋冷之候益御清福奉恭賀候、偕予而御計画相成候法律専門校之義不日發起人集会御開ラキ相成、就テハ拙者義發起人中ニ加名可致様御照会ニ候得共、微力之上、居所隔リ居候義ニ付、到底其当務ヲ尽ス能ハス、有名無実之事ニ立至リ候ハ必然ニ奉存候間固辞致候、依テ尋常賛成者中へ御加へ置被下度候、尤弥募集法相定リ候上ハ可成周旋可致候得共、本年目下之景況ニテハ区郡部共頗ル不人氣之折柄ニ付、大半予想外之結果ヲ生スル哉モ難計ト思考致し候、其目的ヲ以テ発表致し候方可然と奉存候、猶緒余拝鳳ニ謝シ候、勿々拝復

十月二日

田中源太郎

新島襄様

明治十七（一八八四）年

64 二月十日 伊藤博文

④墨

（包紙）

「 福島屋

新島襄先生 博文

敬致

」

御翰拝読、冒此寒天態々鄙官為御面会当地迄御出浮被下候故不堪敬服之至候、何時も可得拝鳳候、二時旅宿へ御来照
奉待候也

二月十日

博文

新島先生

65 二月二十四日 陸奥宗光

⑤写真

横浜御出發之際御投与之尊書洗手拝読仕候、御帰京中ハ一回可得拜晤相楽居候処、懸け違ひ不得迎接遺憾此事ニ御坐候、偕ハ小生義来る廿七日横浜出帆之汽船より鳥渡大阪迄罷越候ニ付、何卒同所ニ於て相会を得申度候、尤も大坂滞在之日期ハ凡ソ旬日間之見込ニ候得者、万一御近県御遊歴中ニ相成候ヘハ、或ハ不得拜芝敷と苦心仕候事ニ御座候、若シ御操合も出来候ヘ者、其比御帰京被成下候ヘハ大幸之事ニ候
先ハ過日之御答旁如此ニ御座候、不尽

二月廿四日

宗光

新嶋老兄

二陳、小生大坂ヘ罷越候条ハ少々他洩を相嫌ひ候条、同所着迄ハ先何人ニも御話被下間敷候

66 三月十日 古沢 滋

①東京向島須崎村二百五番 ②西京寺町丸太町上ル 親展 ④墨

去月二十九日御郵書謹読、時下益御清佳之旨奉賀候、陳ハ先達而御出京之節御話仕候儀ニ付尚御熟考之旨も有之、或ハ御西航之上彼地真成之熱心家と御相談、大ニ御尽力之道御開らき可相成との段、誠ニ左も可有之御儀トハ乍申、千万感服之至ニ御座候、就而は愈々御決ニ相成候ハ、我國今日之形勢等相認め差出候様御申越承知仕候、小生ニ而相叶候儀ニ候ハ、何なりとも御助け乍不及可仕候、尤も此度御西航之儀ハ余程重大之関係有之、幸ニ御縁合相付候ハ、其前今一応御出京、(山県有朋・井上馨)内・外務卿などへも御内談御試ニ而は如何ニ可有之哉、内務卿ニテモ將た外務卿ニテモ万々異論ハ有之間敷、幸ニ相当之助力を与へられ候ハ、猶更御都合カト奉存候、尤も御申越之次第ハ縦令御出京不相成候とも相認め可申候、但御出京相成候ハ、万事御都合と奉存候ニ付、聴申上試候事ニ御座候、先は不取敢一応御答旁草々如此御座候

三月十日

古沢 滋

拝

新島襄様

侍史

再陳、先達而も御投書御返事も不仕候段不惡御海恕可被下候、此度御答も意外延引何とも申上様無之候御決心次第今一応御通知奉煩候

67 三月二十二日 田中原太郎

④墨

拜啓過日御談シ申置候件ハ常ニ予想外ニ出て、為メニ時日遷延いたし候段謝候○市田氏〔文次郎〕にハ漸く今朝面晤、懇々相談し候処、同氏之説に目下当地商工会議員之目論見ニ関ル商法学校之挙にして、猶且ツ勢氣振ハス、然ルヲ間接ナル大
学之事ナレハ到底彼ノ会員ハ今日未タ勸奨スルニ途ナシ、故ニ先ツ稍其議アル有志者而已を募り、又一方に向てハ区
長衆之勸奨にて財産家を募る方得策ナル旨相語居候、就而ハ幸ヒ知事公帰府中に付、先生一応御伺候其辺何トナク御
依頼置被下候而ハ如何、又市田氏ハ頻リニ発起者而已にても義捐ノ根を固メ、所謂先ツ財政上ヲ明ラカニシタル後ニ
アラサレバ発起中却而奔走ニ躊躇スルナラントノ掛念〔懸〕もありたり、故ニ生ハ其辺ハ今後ノ会日ニハ必ス足下出席して
局外より其説ヲ提出セラレン事ヲ冀望シ置キタリ○彼ノ仮規則草定ノ件、稍逡巡ノ模様ハ去リタレ共、又種々之障碍
ヲ生シ遷延いたし候得共、明後日迄ニハ大抵決定可致見積り御座候○名簿も漸く八九分捺印ヲ為シ、未タ充分ニハ無
御座候へ共、知事及書記官へ御面会之都合も御座候と奉存候間、不取敢捺印済ノ分而已騰写シ御廻送仕候、楮余拝鳳
ニ謝シ候、不贅

三月念二

田中原太郎

68 五月八日 市原盛宏

④ 墨

謹啓、陳レバ御出立以来已ニ二回迄御通信被成下、海陸御経歴之状況大略敬承仕リ大ニ安心仕候、先生ノ御為ニハ朝夕公私ノ差別ナク吾モ人モ赤心神ノ御前ニ祈願シ奉ル処ニ有之候間、我儕の願ハザル先キニスラ常ニ我儕ヲ愛シ玉フノ天父ヲ信ジ奉リ、御通信ナクトモ常ニ安心致居申候也、拟当地ニ於テも天恩ノ優渥ナルニヨリ御家族様方ヲ始メ内外諸教師、校内の生徒ニ至ル迄一同無異ニ有之候間御放念被下度候、御出立之節ハ色々御心痛相懸ケ、却テ後悔之至リ平ニ御容赦奉願候、併其節モ言上仕候通万事全能至愛ノ神ニ御任せ申上候処諸事皆悉都合ヨク相運ビ、御職務代理ノ事も御申残通ニ相成り、女学校ノ事もデビス、ゴルドン兩教師ヲ始メ諸教師方も内々ノ処ニテハ大抵穩當ニ閉校之御決心ラシク見受申候間、早晚彼合併之拳ニも及ビ、先生始メ我等平生ノ希望も相達スルナラント存ジ、不幸中ノ幸褊ト相明ラメ居申候、其他校内(英学校)諸般之事ハ恰モ駟馬ニ駕シテ平坦ナル大路ヲ行クガ如ク相運ビ居申候間、決シテ御心配ナク充分御休養被成下度奉願候、彼信仰再興ノ末モ今ハ略静定シ、確實徐々ニ日進仕居、生徒中(殊ニ本年五ノ生)ニも往々前途ヲ全く伝道ニ委ネント決心致候モノ輩出シ、其他ニ於テモ已ニ先安息日ニハ殆ンド三十名丈ケ程度ニ第二教会ニ加入シ日々聖書ヲ研究致居候間、此亦御安心被下度候、又彼専門校之儀も其後郡区委員も御遺命之如く承諾致シ呉レ、創立規則も草稿相整候上、先日山本先生御宅ニテ委員会ヲ聞キ一応議決致シ尙兩日中新撰之主意書ニ附加シテ出版致候筈ニ御座候間、成就之上御送致申上べく候也、彼一錢講之方モ弥至急ニ実施之胸算ニ御座候、併御

出立後ハ実ニ多忙、漸ク昨今ニ至リ少々荷落之致シタル如キ心地仕候故ニ猶御通信申上度事ハ山々有之候ヘ共、先ヅ
今回ハ此ニ擱筆御許容被下度奉願候也、頓首再拝

乱文乱筆御推読被下度候

五月八日

劣生
市原盛宏

新嶋襄先生

坐下

69 六月二十五日

池袋清風

④墨

謹而鄙翰ヲ新島恩師ノ足下ニ呈ス、恩師我國ヲ去テヨリ錫蘭島ヨリノ玉翰ヲ第六月一日第二教会説教後、公義君朗読
シ玉フヲ聴キ衆ト共ニ恩師ノ安全ナルヲ欣賀シ、且異域ノ実況ヲ珍重セリ、其後特別ニ基督ノ恩寵中ニ益平康遊歴シ
玉フナラント遙ニ欣慕ニ堪エズ、勿論恩師ノ為ニハ毎朝礼拝堂ノ公会、金曜夕ノ祈禱会、安息日ノ説教会、其他種々
ノ会ニテ常ニ多クノ兄弟赤心以テ祈禱シ、生ニ於テモ右ノ外毎朝毎夜ノ祈禱ニ恩師及ビ高齡ノ尊父母等ノ為ニ祈ラザ
ルナシ、而シテ尊父母ヲ始メ令室公義君及ビ高族家一同基督ノ恩下ニ安全也、必尊慮ヲ煩ハシ玉フ勿レ、亦我校ニ於
テモ平康救主ノ擁護下ニ在リ、而シテ神学生・第五年生卒業式モ既ニ迫リ各予備モ成レルカ如シ、五年生ハ三輪ハ去
〔乳太郎〕

ルベシ、^{〔文太〕}三好ハ米国行ノ予備、^{〔岸本能武太〕}滝、^{〔明治〕}重見ハ未定、自余ハ皆我校ニ在テ更ニ神学ニ就クベシ、近来我政府ニ於テモ条約改正上ヨリ視ルモ、道德腐敗点ヨリ思フモ、到底我基督教ヲ度外視シ能ハザルノ氣運ニ迫リ、始テ活眼ヲ開キ基督教ニ傾向セシ以来、京都ニ於テモ未府知事モ中村氏等モ^{〔栄助〕}婦ラレズト雖、明治専門学校創立ニ就キ恩師出發後ニ至リ新ニ賛成ノ人々日々高家ヲ訪ヒ、公義君応対其主意書殊ニ同志社設立始末ノ小冊子ヲ示サレテ、始テ驚愕シ日本ニ新島先生アル事ヲ知ルガ如シ、亦三条公モ先日ヨリ西京ニ来ラレシガ、使ヲ以テ例ノ規則等ヲ乞ハレシ故、公義君即我規則、同設立始末及ヒ明治専門校主意書ヲ呈セラレシニ甚善ミセラレタリトカ、其レトモ知ラズ愚昧ノ僧侶ハ例ノ癖言ヲ言ヒ散ラシ、殊ニ五月二十二、三日ノ兩夜寺内大宮上ル寄席ニテ説教セシニ、僧侶匪類ヲ煽動シ、前夜ハ惡口罵詈訾ニテ説教スル能ハズ、翌夜ハ愈激シク巡查モ制スル能ハズ、説教終テ解散ヲ命セシニ一人モ去ラズ、数百名ノ聴衆ランブヲ消シ此方二十名許ヲ囲ミ蹂躪セントスルノ際、警部巡查更ニ米リ僅ニ制ス、然ルヨリ帰途数百名ノ匪類我等ヲ追ヒ、^{〔新〕}真木瓦礫ヲ飛バス雨ノ如ク、為ニ我方五六名小傷ヲ得タリ、其レヨリ僧侶ハ大勝利ヲ得タル氣取ニテ翌夜ヨリ仏教大説教会ヲ兩夜開キテ罵詈訾セリ、其後六月二日頃京都滋賀新報編輯長高堂ヲ訪ヒ、公義君ヨリ右ノ事ヲ聞キ然ラバ新聞ニ出スベシト草稿ヲ乞ヘルヲ、生力筆記ヨリ出セシニ後六日ノ新聞ニ始テ掲ケタリ、同頃東京ニテ警察長大会議アリシニ外務卿ヨリ内達アリ、其意ハ全国一般ノ人民ヲシテ外国人ニ無礼スルノ弊ヲ矯メ、且耶穌教徒ヲ害セザラシムベシ、殊ニ西京同志社ハ諸報ニ扱レバ将来国家ノ為ニ望アリ、其生徒ハ他日耶穌教ノ為ニ尽力スル目的ノ者ニシテ表向ニ政府ヨリ^{〔干〕}関涉セザルモ内々保護スベキ者也、亦常住ノ西洋人モ在レバ決シテ輕卒ニスベカラス云々、其中京都警察長婦テ視レバ早ヤ之ニ反对シタル大宮通ノ騒アリシ後ニテ、警察ハ格別之ヲ保護セズシテ基督教徒ニ傷ヲ負ハシムルニ至リタレバ、警察長驚キ直ニ各署長ヲ集メ敝シク右ノ内命ヲ達シタル由、六月二十四日西宮ノ横田氏来

リ彼友署長警部某ヨリ得タル書翰ニ報ゼリト曰ヘリ、而シテ大宮通ノ騷キ日々新聞ヲ始メ諸新聞ニ誌シ、全国ニ弘マリ、或新聞等ニハ信者中ニ横死セシ者アリシ等事タシク書立テタリ、然レトモ是ガ為ニ僧侶ノ惡行益世ニ顯ハレ、神ノ榮ノ伝ハルベキ先導トナレリ、又警察ヨリ警部、探偵、巡查等屢我校ニ来リ子細ヲ聴キ、且医ヲ列来テ時日過キ既ニ愈エテ痕モナキ疵等ヲ検査シ、或ハ暴動ヲ掲ケタル毎週新報ヤ暴徒ノ擲ケタル真木マデモ借り〔毒〕（此方ニ一本拾ヒ置タリ）且暴徒ニ追詰ラレタル賄夫ニ向ツテ巡查〔墨丸〕ノ爾日本ニ生レナガラ何故ヤソヲ奉スルヤノ語ヲ吐キタルニ就キ、其巡查ニハ相当ノ処分ヲ申付ケタレバ、其方ハ忍耐シテ公言ヲ為サヌ様ニ頼ム云々、賄夫ニ来テ謝罪等アリ、以来諸説教所夜会ハ勿論第二教会安息日昼間ノ説教会マデ巡查保護ニ来リ、一名ハ説教者ノ傍ニ、一名ハ門ニ守衛セリ、而シテ前ノ暴徒ハ五十名許（内僧侶ヲ混ス）縛ニ就キ、中ニ刃器ヲ携ヘタル者ハ罪重キ由、然ルニ此事ヨリ遂ニ大宮他所ニテ天主教宣教師仏人ニ乱暴セシ徒、昨夏松原通説教ニテゴルドン氏ニ乱暴シタリシ者マデニ連絡ヲ起シテ捕ハレタリトカ、此等ノ事件ニテ京都人民目ヲ覚シ大ニ伝道ノ幸機ヲ得タリ、近来ノ伝道所ハ大宮通寺内上ル藤井宅、又堀川ノ西葭屋町出水下ル説教所、又松原通説教所及ヒ先日新ニ開キタル寺町四条下ル、即神宮教会ト大雲院トカ云フ僧侶ノ基督教防禦ノ集会スル寺ニ近キ説教所等、皆毎会四五十名ツ、聴衆アリ、今ハ僧侶モ匪類ヲ集メ暴行以テ我説教ヲ妨クル能ハザレバ止ヲ得ズ、例ノ惡口演説ヲ六月十五日四条南ノ演劇場ニ開キタルモ、心アル聴衆ハ固ヨリ惡口ニ左袒セズ、然レトモ僧侶ハ近来愈奮発シテ新旧約聖書ヲ研究スル由、六月七日ヨリ十四日マデデビス氏、グリーン氏、ゴルドン氏大阪ニ往ケリ、同十日大阪ニテ上原氏〔カ立〕按手礼ヲ受ケラル、同二十一日京極道場ニテ演説会アリ、米國ノ景況、上野栄三郎氏声低ク辞拙ナルヨリ聴衆騒然擯斥ス、次ニ基督ノ賜、宮川氏〔経師〕例ノ雄弁聴衆肅然、次ニゴルドン氏仏教論ニテ終ル、聴衆凡千名内三分ノ一ハ僧侶、又当夏休業伝道ハ竹原氏〔善人〕京都ニ尽力ノ賦、福井ニハ新原、新潟ニ

ハゴルドン氏、^{〔千葉塚〕}足立塚、山中百、丹波ニハ竹内磯雄、山口健起、岸和田ニハ片桐氏、^{〔安部〕}讚岐ニハ依光等其余未定却説、尊託ノ聖靈降臨記実ニ就キ曩ニ呈シタルハ初メ其兄弟ニ乞ヒシトキ各数日内ニ其草稿ヲ認テ出セシヲ一冊ニ清書シテ呈セシ故ニ、恩師出發後モ速ニ集ルベシト心得、直ニ諸兄弟ニ乞ヒシガ案外中々集ラズ、始終催促シテモ多忙忘居タリトカニテ、漸ク遷延スルニ随ヒ定期試験ニ近ツキ愈多忙ナリトテ書カズ、然レトモ生ヨリ覲ル処ハ其人々皆多忙ナルニ非ズ、或ハ庭ニ立テ長談時ヲ移シ、或ハ久シク食後ノ遊歩ヲ為シ、又土曜ニハ遊山等スル人アリ、生ハ病體ナレドモ若シ生ガ如ク食後ノ休歩モナサズ土曜日モ朝カラ夜寝マテ瞬間モ休マズ從事セバ僅ニ多クテ四五葉ノ履歴ヲ書クトテ何事カアル、況ヤ皆健康也、是レ多忙ナルニ非ズ怠惰ノ故ノミト察シ、五月下旬ヨリハ毎日食堂ニテモ庭ニテモ逢フ毎ニ促シ、後ニハ各寮ヲ日々巡回シテ求メタルニ漸ク集リ、人ニ因テ文ヲ綴ルヲ厭フ人ニハ生聞書ヲ為シ、且一々清書シ、又他ノ兄弟ニ清書ヲ頼ミタリ、然レトモ猶湯浅・山路・三輪・藤田ヲ始メ其他目論見タリシ数名ノ履歴草稿ヲハ遂ニ得ル能ハザリシ、而シテ各ノ履歴ハ重ニ内心変革ノ論文ニシテ互ニ關係ヲ絶ツ故、生ハ自ラノ履歴記事文ヲ以テ今回我校聖靈降臨記実ヲ総括シ、首尾貫徹セント欲シ、五月中旬ヨリ日課出席トグリーン氏往教二時間ノ外ハ毎日朝ヨリ夜寝マテ全ク此草稿ニ從事シ、終テ更ニ清書シタリガ固ヨリ鈍筆進マズ、六月上旬デビス氏ニ間ヒシニ曰ク、其レハ先生ガ^{〔ロンドン〕}倫頓ニテ開封ナサルベク郵送センニハ今月十五六日限ニハ発セズンバ間ニ合ハザルベシ云々、生稍失望ナガラ恩師ノ約ハ六月末、七月初限ニ出セトノ事ナリシヲ^{〔德〕}記憶シタレバ猶望アリト急忙從事、遂ニ試験ニ迫リシモ全ク其下見モ棄置キ、辛フシテ今日始テ書終ヘタレバ^{〔ス脱カ〕}急ニデビス氏ニ出シ、一刻モ速ク送り玉ヘト託シ、恩師ノ遺命ノ如ク倫頓ヲ向ケ郵送セリ、或ハ恩師既ニ倫頓後ニ投シ、跡ヲ追フテ米國ニ往クカ如キ恐アレトモ、願クハ右ノ事情ヲ斟酌シテ偏ニ遷延ノ罪寛有シ玉ハン事ヲ、^{〔方成〕}頓首敬白

明治十七年第六月二十五日

池袋清風

新島大恩師

玉櫛下

追啓、今朝公義君校庭ニ在リ曰ク、先生スウエズヨリノ玉翰昨日著シタレバ次ノ安息日ニ会堂ニテ朗読スベシ

ト

70 七月三十日 原 権四郎

- ①上州南勢多郡才川村四十七番地寄留 ②京都上京区第貳拾貳組松蔭町
要用書留 ④墨

仰御推読

未得拝眉候得共益御隆昌奉恭賀候、^{〔カ〕}偕双君之御尽力ニテ明治専門学校設立之御旨趣逐一拝詳、就てハ甚菲薄之至ニ候得共、別紙郵便為替金拾円郵送致し候間、^{〔カ〕}前段御用途之内へ御差加へ被下度乍略儀御願出候、^{〔カ〕}不尽

群馬県南勢多郡才川村四十七番地寄留和歌山県士族

原 権四郎 ⑩

七月三十日

新島襄殿

山本覺馬殿

椅下

71 十二月二十九日 小野英二郎

①米國オハヨ州オベリン大学 ④墨

一翰拝呈仕候、時下寒冷之候御眠食如何被遊候哉、野生今春京都にて拝顔ヲ得候後、久々御疎遠ニ打過し多罪御海容可被下候、野生事本月五日当地到着仕リ、目下当校にて無異勉強罷在候ニ付乍憚御安意可被下候、今春御面会申上候節御話申上候通、其之節ハ上京之途中にて東京大学予備門江入学之為東京にて閑静之地ヲトし用意罷在候処、不幸にして入学前頗健康ヲ害し、甚無申分次第第二御座候得共、漢学之一件ニ点数ヲ不足にて遂ニ不合格之仕合ト相成候、擬て野生其之節入学志願致セシモ全く徴兵之為メニテ、右之仕合ト相成候て者全く前後方向ヲ失シ大ニ失望罷在候、就而ハ當時学友中大ニ洋行ヲ相勸メ候者も有之候得共、愚父も別段之余蓄とても無之、一時者絶念罷在候得共、徴兵も已ニ切迫ニ相成、別ニ処分之方法も無之候得者委細之事愚父江相談仕候処、同人も家計ハ至極困難ニ御座候得共教育ニ者頗る熱心之者にて、若し洋行之方法如何とカ相立申候得者留守中ハ活計之道有之候ニ付、五百円丈ハ支給可致吳様申越候、依之京都へ到り、
(Dwight W. Leaned)
ラルネト先生江委細御相談申上候処先生も彼此御熟考之上当校江可罷越旨御奨励ニ相

成候、外諸先生も皆々御賛成ニ相成、^(下)コルソン、ラルネット、^(カ)ケチー、テウス諸先生より当校々長諸教授江丁寧ナル御紹介頂載仕候、依而野生ハ去月六日横浜解纜仕り、東京内村鑑三、家永豊吉両氏ト同道、海陸無異本月五日到着仕り候、且ツ目下校長并ニニウトン、ライト、チューヘット諸先生之非常ナル御厚配ニ預り、^(俄然)瓦全勉勵罷在居候、野生目下僅ニ百八拾弗ヲ残し、総前途之事全能之天父江信任仕居候

野生者本年之経歴ヲ回想シ益々神慮之我々一箇人之上ニ在ル事ヲ理會仕候、野生我校ヲ去リテ東京ニ行キシモ決シテ無益ニ者無御座候、東京ニテハ官吏及大学諸教授江面晤^(晤)スルノ機會ヲ得、大ニ彼之人々之志想且ツ者現今社会進歩之方向ヲ審ニシ、愈々今日基督教ヲ基トスル教育家と学者之必要ヲ切ニ相感シ申候、野生如キハ所謂滄海之一粟、微力其之任ニ堪サルモノニ御座候得共、幸好機會ヲ得候得者以後六七年間当地ニ在リテ神学及一二之科学ヲ專攻致シ、且ツ当地教育理財上ニ係ル事物ヲ觀察致し、帰朝後ハ先生御働之一部分江御協力申上、神ト真理ヲ友トスル人物ヲ養生^(成)シテ天父之栄光ヲ彰ハシ、我國ノ柱石ヲ堅フセント切ニ希望罷在候、先生近頃御病氣如何御座候哉、^(補)時下寒冷御自愛之段^(カ)切ニ奉願候、右之外之事も御話申上度次第御座候得共不日当校江御枉駕之趣承り候得者拝顔之上委細可申述候、謹言

明治十七年十二月廿九日

米國オハヨ州オベリン大学

小野英二郎

新島襄先生

玉椅子下

二白、同道之内村氏ハフラデルフーヤ江赴カレ、家永豊吉氏者当地江滞留相成居候、京都并ニ学校トも野生出発之頃ハ別段之事も無之、御留守も御変リ無之様子ニ御座候

明治十八（一八八五）年

72 一月七日

同志社英學普通科三年生海老名一郎外三十名

② Care of Hon. Alpheus Hardy, Boston U.S.A. ④墨

新春之賀儀芽出度申納候、伏而惟ルニ先生楚雲秦月東西相隔リ居候へ共均シク 神恵之下ニ無恙御加齡被成下候事ト遙察仕リ大慶之至ニ奉存候、 諸客春当地御発軻之後ハ或ハ孤嶋索居之勇將ヲ訪ハレ、或ハ五洲無雙ノ絶景ヲ眺メラレ、其他異境殊域ノ奇事珍聞時々ノ委數御書翰ニヨリ歴々見ルカ如ク承ルヲ得、私共ニ取リ裨益スル所鮮ナカラス、実ニ感銘之至ニ存シ候、願レハ昨年ハ我国モ万事都合能ク運ヒ来リ、殊ニ我基督教之進歩ハ尤モ驚クヘク候テ、朝楚之別ナク皆賛成ノ模様ニ相見ヘ、教導職ノ廃止、埋葬ノ自由ノ如キ幾分カ我政府ノ針路ヲ伺フニ足リ申スヘク、降テ民間ニハ信者ノ増加セシ事著シク六割ノ比トカ承リ、昨年ノ夏休ニ帰省セシ人々モ客秋相会シテハ孰レモ地方ノ好景況ヲ談セサルナク、現ニ京都四条ニ、摂州西宮ニ、筑前福岡ニ、筑後柳川ニ、伊予松山ニ或ハ会堂ヲ新築シ、或ハ教会ヲ設立スル等ニ而、私共只天父ニ其恩恵ノ斯克迄優渥ナルヲ泣謝スル許ニ御坐候、只此一般ノ景勢ノミカ我同志社

モ徴兵令ノ率制ニモ拘ラス意外ニ新入生多ク、現今ニテハ先^{〔礼〕}靈拝堂モ余地ナキ程ニ御坐候ヘトモ、^{〔M. R. Gaines〕}ゲーンケヂ^{〔Cat〕}

一兩先生モ参ラレタレハ教授モ偏^{〔偏〕}ク行届キ、今年ハ我校モ一入盛大ノ域ニ進マント教員モ生徒モ共ニ望ヲ抱テ悦ヒナカラ先生ノ御帰朝ヲ翹望致居候、願クハ先生ニモ御宿痾ヲ養ハレ御企望モ宜敷ク運ヒ居候上ハ一日モ早ク私共二百許^{〔ママ〕}名ノ生徒ヲシテ温顔ヲ拝セシメ益々我校ノ進歩ヲ御奨励有之度、猶白烟寒雲風土モ相異リ且ツ氣候モ次第ニ烈寒ニ相向ヒ候ヘハ只管御注意御撰生之程奉祈候、先ハ新年ノ祝賀ヲ兼テ御見舞旁近状ノ概略迄、草々敬白

十八年一月七日

三年生

海老名一郎

船本梅二郎

井上清二郎

加賀山益三郎

葛岡 龍吉

河辺文次郎

兼頭 和策

増田時二郎

松浦 政泰

松本亦太郎

三谷 種吉

望月興三郎

村田栄二郎

村上 能定

縄田清太郎

中村録三郎

岡本彦八郎

佐藤 源平

佐藤 忠順

志垣 要三

白木 正蔵

鈴木左馬二郎

多賀 平

豊田 通憲

津田治郎次

矢口信太郎

山路 一三

安田 勘次

依光 方成

湯浅 一郎

芳松勝三郎
百拝

新嶋先生様

机下

73 一月十日 森田久万人

①日本 京都同志社 ②Care of Hon. Alpheus Hardy, Sears Block,
Boston, U. S. A. ④墨

新年之御慶賀千里同風芽出度申納候、愈御壯健^{〔健〕} 天父御洪恩之下可被遊御起居大悦之至ニ奉存候、二ニ弊家儀皆々無

異消光寵在候間乍憚御休神可被下候、陳者当年ハ我邦之進歩モ去歲ニ倍シ万事真正文化ノ徵候ヲ見届ケタク存シ、目

今日韓閭ノ葛藤モドーケ平和ニ其結ヲ修メカシト祈リ居候、今度井上馨外務卿彼地出張セラレタルニ付キテハ、トス

ルニ戦争ニ至ラスシテ十中八九ハ平和ノ手段ニ留ルコトト考ヘラレ候、何分當時清國ト我邦ノ交際ハ彼琉球事件後今

ニ至ルマテ交誼ノ密ナラサル事ヲ覚ヘ候、依テ今度モ朝鮮國トノ応対ハ決シテ困難ナルコトニハアラサルベケレト

モ、日清閭ノ關係ハ随分氣遣ハシキ事ニ候、朝鮮ハ誠ニ觀察スベシ、支那國ノ干渉ハ未タ其理ノ存スル処ヲ見サルナ

リ、昨年来我邦キリスト教ノ進歩ハ御熟知ノ事ト存シ今茲ニ贅言セス、今ニ至リテ教導職廃止、埋葬自由ノ発行後ハ彼僧侶社会モ尤ニ落胆イタシタル体ニテ、当時ハ外教預防ノ手段中時々暴ヲ以テ論評スルノミナラス、或地方ナドニハ愚民ヲ教唆シテ伝導者ヲ放逐セント試ミシ事モアレリ、ナレトモ百試ミテ無効、遂ニハ囑囑ヲ以テ外教ヲ防カントスルモノ、如シ、何ニモ憐ムベキサマニ有之候、昨年年始、徴兵令発行後我政府ハソレト共ニ全国教育令ノ改正ヲナシ、大中小学ノ教則規則等ヲ高尚ニシ、反面上ヨリ見レハ彼令ニヨリテ全国少年ノ就学スルモノハ前年ニ倍セン如ク相考ヘラレ候、大学中、独逸語仏語ヲ修習セシムル事ノ如キ、入学試験ノ高等ナル事ノ如キ、中学ハ必ス三学士ヲ要スル事ノ如キ、小学年齢ノモノナレハソノ初等課ヲ終ヘサレハ他ノ職業ヲ営ム能ハサル事ノ如キ、一々教育上ノ進歩ヲ来セシモノ、如シ、然レトモ彼ノ道義ヲ養成スル方法ニ至リテハ未タソノ良果ヲミス、近時ハマタ長州薩州ナドニ高官等ノ発意ニテ私立大学ヲ設立スル評判ハ幾分カ我邦教育上ノ著シキ事變ト思ハレ候、該明治専門校モ如此キ風潮ト共ニ廿三年騷擾以前ニ於テ確固タルノ基ヲ据ルコトヲ得ハ実ニ祝賀ノ至リニ候、該専門校モ御出立后ハ著キ進歩モ無之候得共、時々投金者ノ姓各々増加スル様相覺ヘ候、現ニ昨日現金百円ホド彼神戸河本氏ヨリ送金アリタリ、京都人民ノ保守ニハ実ニ驚キ入リタル次第ナリ、何分御帰国ノ時期ヲ待チ居候、甚タ遺憾ノ至リ、マタ恐縮ノ至リナリ同志社英学校ニテモ彼彰栄館ノ竣功ト共ニ教員生徒モ相俱ニ増加シ、今ハ已ニ二百名ニ垂ントスルニ至リ、少年教育上一層ノ困難ヲ来シ候、先ツ當時ハ何ノ變動モ無之駭々進歩スル模様ニ候、ケーデ氏来リテ英語ヲ正シ、ゲーンズ氏来リテ生物学、天文学ヲ担当サレ、ソレノト専門科ヲ修習スルニ至リ、此上ハ教員ノ学識モ上等ニ進ム事ト考ヘラレ心竊ニ悦ブ処ニ候、先般ノ決議ニテマタ数屋ノ建築、礼拝堂、書籍館、教場、寄宿舎等ヲ見ルニ至ラントスルハ実ニ大悦ノ次第、然シ何分ニモ生徒ノ見ル処ニヨレハ公立大学ト其ノ整頓ヲ共ニセサレハソノ満足ヲ得サルナリ、復タ

書籍、器械等ニ至リハ何レモ高価ナルモノニ候得者充分思フマ、ニ至ラサルハ残念ナルコトニ候、今茲ニ書籍ノ為ノミニモ数千金ヲ費サ、レハ迨モ一般ノ書籍館ニ備フルタケノモノハ無之コト、ハ考ヘラレ候、願ハクハ外部即チ建築ノ増加ト共ニソレニ満ツル良教師、良生徒又数万卷ノ書籍ヲ要スルコトト希望シテ止マサルナリ、日本ヨリ注文セシ書籍中、時々古書(殊ニ哲学部ニ関スルモノ)中ナドハ手ニ入ラサルコトアリ、御逗留中御見聞ノモノハ御記録被下間敷哉、不日数卷ノ注文ノ時ハ願ハクハ善良高尚ノ書籍ヲ求メタキモノニ候

当時漢学科ハ岡本氏^(鶴)来校后、大ニ面目ヲ改メタル体ニ見受ケ候、時々生徒ノ文章中美ナルモノハ上梓シテ生徒中ニ播布スルナトノ事ヲ以テ奨励ヲ加ヘ、生徒モ随分悦ヒテ漢字ヲ修ムル体ナリ、爾後邦語科ナドヲ盛ニ至スコト、ナレハ支那日本ノ良書モ蒐メサレハトテモ完全ナル書籍室トモ相成リ不申、将来ノ希望ハ如此ク大ナレトモ義捐金ノ少キニ至リテハ慨嘆ニ堪ヘサル処ニ候、米國御滞留中、随分ノ御周旋偏ニ願上奉リ候

○當時御療養ハ如何 真神御恩寵ノ下幾重ニモ御保養專一ニ祈リ上候、願クハ御帰國ノ節ハ御全癒ノ体ヲ拝覽致シタク、是レマタ我 主ノタメ、我邦ノタメ、我校ノタメニ并セ願フ処ニ御坐候

○一女忍儀モ去ル三十日ヲ以テ誕生ノ祝日ヲ迎ヘ、満一年十二日ト相成リ、當時身体健全ナル方ニ候、先ツ御安心被下候

○本月十三、十四ノ両日ハ第三教会ニ綱島氏按手礼、第四教会(五条)(竹原氏仮牧師)ノ設立ノ日取りニ候右迄、新年之祝賀申上タク旁平素ノ御無音ヲ謝シタク、勿々如此ニ御坐候、頓首百拝

明治十八年一月十日

森田久万人

拝白

新島襄先生

玉几下

74 一月十二日 市原盛宏

② Care of L. S. Ward Esq., 1 Somerset St., Boston U. S. A. ④ 墨

光陰実ニ流水ノ如ク、明治十七年も已ニ過去リ又十八年ノ新旦ヲ神恩ノ下ニ相迎ヘ、歎喜之中ニ早十日余リヲ送り校内新年会モ最ト賑カニ且快ク相済、開業式モ終リ、初週ノ祈禱会モ第二教会堂ニ於テ相開キ昨年ニ倍スル会衆ハ堂内ニ充滿シ各自熱心ニ祈禱感謝且奨励等ヲ被致申候、当地ニ於テも御高堂ヲ始メトシ弊家ニ至ルマデ一同無異、諸教員衆生徒中サシタル病氣ノ噂モナク皆々學事ニ勉勵シ、信仰ニも進歩致居候間御放念被下度候、殊ニ学校内ノ事も一二ノ事件ヲ除クノ外万事意之如ク運居申候間御感謝申上、猶益御誠禱被成下度奉願候事、彼ノ屯錢講も自今ニ至リテハ凡ソ忒千余株ニ上リ候故、其半額ヲ以テ四五人ノ生徒ヲ扶助致居申候、又専門校ノ事も追々加入者も有之、已ニ数日前ニも神戸川本泰年氏より百円ノ投金有之候由ニ御坐候、併此ハ目今ノ処ニテハ先ヅ／＼中絶トモ云フベキ状態ナルヲ以テ百方焦慮も致シ見候ヘ共、畢竟先生之御帰朝ヲ待ツノ外策尽き申候故、今ハ唯全能全智ノ天父ニ任セ奉ルノミニ御坐候、扱今般第二教会堂間狭ニ相成候ニ付而者御友人セーヤス君(Josiah M. Sears)より若干金ノ御寄送有之候由誠ニ欣喜之至ニ奉存候、然ル処右会堂増築ノ儀ニ付而者当地ニ於テも色々意見有之、日教無之候故衆説取纏メ候儀ハ出来致兼候ヘ共、小生ノ愚見ヲ以テスレバ折角之御厚意ニ候故充分京都ノ公益ニ供シ度存候ニ付、方今ノ会堂ヲ増築スルヨリモ(若セーヤス君ノ意ニ適ハシ)幸ニ五千ドル程ノ御寄附ヲ被成下、其ニ当地有志家ノ寄附金ヲ募リ添ヘ、京都基督教青年会演説堂トデモ称スベキ一大会堂ヲ三条か四条ノ近傍ニ建築致置ナバ、啻ニ基督教ノ為ノミナラズ京都全市中ニ補益ア

ル固ヨリ同日ノ論ニアラズト存申候

今第二教会堂増築ヨリモ寧右之如キ新会堂建築ノ儀ヲ主唱スル理由ノ大略ヲ列記センニ

第一 第二教会ノ将来ヲ思ヒ見ルニ必ズ其性質ニ変易アラント存候、目今ノ処ニテハ学校内外ノ信徒混和致居候中ニも其之多數ハ学生ニ御坐候間、第二教会ハ何トナク学校教会ノ如ク相成リ、説教モ必ズ諸教員ノ交代シテ為ス所ニ有之候ヘ共、将来ニ至リテハ同志社ノ教員タル者皆必ズ説教ヲ為スベシト云フ規則モ行ハレ難ク、且市中ニアル他ノ教会ニ対シテモ現今ノ有様ニテ第二教会ノミ有名ナル人々ノ交ルノ説教スル所ニ定メ置キテハ自カラ權衡ヲ失スルノ憂アラント思ハレ候間、自然左ノ甲乙中何レニカ変易スベキ事ト存候

(甲) 学校附屬ノ教会ハ全く学校生徒及ビ之ニ關係アルモノノミニ限り諸集会ヲ校内ノ礼拝堂ニ引払フベキカ

(乙) 他教会ノ如ク一定ノ牧師尙人ヲ置キ説教等モ専ラ此人ヲシテ為サシムル事

右甲乙ノ中何レニナルトモ第二教会ノ聴衆ハ多分ニ減少スベク、左スレバ当分ノ中増築ヲ要セザルベシ

第二 先日已ニ教員會議ニ於テ議決致シ、続ヒテ宣教師會議ニ於テモ一決ノ上ポストン本局ニ請願セラレ候由ナルガ、今般同志社生員増加ニ付テハ從來ノ礼拝堂狹隘^(隘)トナリ、更ニ四五百名斗入ル、可キ新礼拝堂建築之議起リ候間、若此事ニシテ成就致ナバ目今第二教会堂ニ於テ開設致候説教ハ此会堂ニ引移スモ障ナカラン

第三 是ヨリ聖教愈流行致候ニ付テハ説教会、演説会等モ益繁クナリ又追々諸方より有名ナル諸先生方ノ来遊セラル、ニ當リ其演説等ヲ請求スルニ際シ、彼東京ノ明治会堂ノ如キモノヲ京都ノ中心ニ建築シ置ナバ其益擧テ算フルニ違アラザルベシ

先大要如斯ニ御坐候間篤斗御熟考之上貴意ニ叶フ所アラバ精々御周旋被下度奉願候、尤右之如キ会堂愈建築セラル、

トアラバ当地ノ府會議員其他有志家之中多分ノ賛成者ヲ得ルナラント確信仕居申候
右ハ取急相認申候間乱文暴筆不堪読々恐御推読被下度奉願候、頓首百拝

一月十二日

市原盛宏

新嶋襄先生

坐_下

75 一月十九日

末吉保造

② Care of Hon. Alpheus Hardy, Boston, Mass. U. S. A. ④ 墨

新曆之佳節ニ相遷万邦和風復新之際尊師御迎福被為在御層歲候条欣殖奉拱祝候、并ニ貴閣列位御降昌是又悚悅之至極
奉賀候、二ニ小子共無渝事過年候間乍憚抹願而御優慮可被下候、先以歲端之慶詞迄奉捧賀章候以上、恐惶俯宣、頓首

末吉保造

九拝

新嶋襄先生

閣_下

再曰、尊師数年之久しき曾て御会合無之、御親友と御会遇之事奉恐察候、誠ニ是人生一大快愉と奉存候、内に
は我同志社も追日隆盛ニ趣き到处其名声を聞かざるなし、実ニ雀躍此事ニ奉存候

聞く此度朝鮮事件之為め遣されし井上全權大使は七日金宏集と議政府にて談判あり、八日又同氏と同処にて談判調ひ、九日条約に調印す、条約之件ハ五ヶ条にて

謝罪状を差出す事

死傷者ニ償金を出す事

磯林其他之者を殺せし者を罪する事

公使館を建つる事

日本兵營を建つる事

等なり、償金の高は総て十二万円なりと雖モ或は十三万円と云ひ、十五万円と云ひ、未だ一定せず、去りなから之ニ依て見れば十万円余にして左程大金にては無之様子ニ御座候、斯くて大使ハ十日国王に謁し別を告て十一日仁川に出て、十二日戦死者其他の招魂祭をなし、其日午後済物浦より帰朝せらる、右ニ付き礼曹参判徐相于是大使となり穆麟徳副使となりて近日来朝すと

如斯談判之迅速にしてヶ条之簡易なるは、朝鮮をして我ニ傾向せしめんと欲すると主犯者たる清国に対し談判を急かるゝ故ニ非すやなと（噂）譚仕居候、竹添公使も共ニ帰朝せらる、聞く、公使ハ何れハか榮転せられて後任

ハ大島圭介氏なると云ふ風説に御座候

高島中将、樺山大輔ハ共ニ大使と別れ去ル十三日上海ニ着し、十七日我横浜へ直航す、多分大使（馬関へ滞留中）と同時ニ右へ着せらるならんと電報ありたる由、去ル十三日参謀本部より糧食被服之両課へ軍兵三万二千余人の糧食被服を用意すへしと達せられし由、清兵五百釜山浦に着せし由、一昨日之新聞へ見ゆ、借金克復た神奈川県下

へ頭はると聞承仕候、右者新聞中より抜摘仕候者有之候得共、尊師ハ早や御承知之事と奉存候、然し若し御参見之為めにもやと愚筆を願ミす陳述仕候、先は年甫之御祝詞旁々、御無信ニ打棄候為御寛典御垂下之程奉願度如斯、右 九拜

76 二月八日

桜田静馬

⑤『福音新報』三卷八号所収

移切支丹賊徒檄

切支丹賊徒ニ告ク、爾輩恭ク生ヲ我 神州ニ得テ而我 邦制ニ通曉セズ、天ヲ無テ行ヒ 神州廉潔之俗ニ背キ、甘テ腥羶之風ヲ事トシ、神聖之大道ヲ棄テ、好デ蕃夷之教ヲ奉ズ、想其面目何ヲ以テ人ニ臨ムヤ、且ツ方今澆淳之秋ニ当^{〔季〕}テ、妄ニ名ヲ興道ニ托テ而蛮教ヲ闔国ニ蔓延セシメ、以テ人心ヲ籠絡シ礼義敦行之民ヲ率テ左衽被髮之域ニ陷、以テ醜虜吞^{〔噬〕}筆之勢威ヲ助ント図ル、然而未ダ有識之士ニ乏ト為サズ、是等之士已ニ切支丹之外仁義ヲ裝飾シ、内毒剣ヲ貯含スルヲ看破シ、真ニ鄂酋^{〔ビョートル〕}比 德之遺言ヲ空ク為サルヲ信ズル也^{〔鄂酋ト宗族ヲ異ニスト雖ドモ、其胡神妖経ヲ不異〕} 是以肥後神風党等之組織アリテ、爾等奴輩 皇国人ニ而 皇国人ニ非ザル者ヲ誅殺無余ヲ以テ志トス、此論勇為果斷賊担^{〔担〕}ヲ寒ラシムルト雖トモ、爾輩亦元ハ神明之赤子而、利慾之為ニ之ニ陷溺ス少ト為サズ矣、豈ニ殘ニ害之ニ忍ンヤ、惟爾輩熟慮省察悔恨シテ腥

羶之胡教ヲ脱シテ再ビ神明ノ赤子ニ帰シ、反始報本之義ニ背カザラン事ヲ欲ス、如シ或ハ迷ヲ執リ邪ヲ甘シテ悟ラズ而腥羶之喋賊トナラバ、則天地之許サミル所、天地之許サミル所ハ則我等之許サミル所ハ則宝劔之許サミル所也、順逆二途蚤ク宜シク処ヲ扱ベシ、天罰已ニ逼ラバ雖悔何追

明治巳酉二月八日

寧馨会幹事 桜田静馬

白

77 二月十三日

伊勢時雄

④墨

此節は御病氣如何ニ御坐候や御安事申上候、然し神はかならず我等の祈を聞玉ふ事と信し申候、当教会の者とも皆々□□□□為ニ祈り居申候、此写真少々不出来ニ候ヘハとりなをし差上度とそんし候ヘとも、あまり延引致し申候間、其まゝ差上申候間御笑納可被下候、日々智恵付家内中の大たのしみニ御坐候、西京の親も受洗を願出し由、ま事雖有仕合御坐候、神さま我等ノ如きものも捨玉ハす御恵を下し玉ふノ難有事ニ御坐候、右迄早々以上

十二月十七日御認之尊翰東京松山君ヨリ送来、再三奉読不相替御厚情之至感佩之至ニ奉存候、又道ノ為異郷ニあり、

大なる肉之難之中ニありて御尽力、御精神ヲ承リ懦夫モ亦為ニ益奮起せざらんや、又更ニ主が我国人民ヲ愛シ玉フノ深キ、我儕之弱キ祈ヲモ聴キ玉ヒ、先生之手ヲ以テ將ニ目前ニ切迫ナル一事業ヲ助ルノ道ヲ開キ玉ハントスル事ヲ承リ感謝ニ堪ヘ不申候、只タ尤モ憂フベキ事ハ先生之御病氣ニテ、松山氏よりも益為ニ神ニ祈ルベシ、又クラーク先生(N. C. Clark 氏)ノ為ニモ祈ルベシト被申越候ニヨリ、小弟モ更ニ熱心ヲ以テ祈リ申候、トモ而テ神ハ必ス我儕之祈ヲ聴キ、不日ニ先生御快癒之報ヲ賜フベシト信シ居申候、次ニ小弟ハ幸ニシテ近頃ハ大分快ク相成、昨夏草堂建築候以来、海水ノ入江門前ニ有之候間掌ニ海水ヲ以テ温湯トナシ浴シ居候処、近頃ハ例ノ風ヒキハ更ニ止ミ、腦ノ不活潑ナルガ為ニヤ、困却仕候へは先ニ伝道文ニハ随分堪ヘ申候間、決シテ小弟ノ為ニは御懸念被下間數様奉願候、近頃者主之渥誨ヲ蒙リ(優渥)日々伝道責任身ニ迫リ、東西南北道ノ救ヲ呼フモノ益甚シク、千載一時トハ即今日ナリト信シ相働申候、先生御承知之通り小弟者は迄種々學問之事ニ付キ欲望多ク為ニ心ヲ悩マセシ事共多ク御坐候へ共、幸ニシテ近頃其煩惱殆ント相止ミ幸福此事ニ御坐候、是ハ學問ヲ蔑視スルニ由ルニ非ズ、只當時我邦創業之際ニシテ此大好機會目前ニ迫リタレバ誰ゾ己レノ名譽モ學問モ脱却シテ教会之基礎トナルベキノ人ノ切用ナルヲ感セシニ由リ候、大河ニ橋梁ヲ架スルガ如ク、人目ニ見ユル欄干も入ルベク橋板モ入ルベシ、去レトモ第一ニ入用ナルモノハ人ニ見ラレサル橋柱ノ註坐ル処(マ)ノ川床ニ置ル処ノ石ナリ、此石泥中ニ埋没シテ人ノ之ヲ見ルモノナキモ亦甚入用ナルモノナリ、我邦人兄弟ノ中、上仕上ケノ業ヲナサントスルモノ多ク候へ共泥中ノ礎トナルヲ欲スル人少シト奉存候、因テ自甘シテ學術知識ノ華耀ナル働ハ他ニ譲リ、人ニ知られず貴まれざるなれとも、尤モ切用ナル基督ト其十字架ヲ宣伝スルノ一事ニ働キ可申候、學術研究ハ閑暇ノあり次第ニ任せ、晝夜自ら信仰ノ修行ト伝道トニ心ヲ傾申候、今回愈松山ニモ教会設立致シ(邦次郎)ニ宮氏ヲ牧師ニ頼ミ都合よく按手礼式モ終リ申候、二宮氏ハ中々ノ信仰アル主ノ忠僕ニシテ小弟ハ同氏ニ付キ後來ニ大希望

ヲ属シ申候、又小松ニ者迫害日ニ消滅ニ帰シ、主ヲ求ムルモノ日一日ヨリ甚シク、已ニ先日十九人受洗仕此後も続テ二十名位ハ有之可申候、奥亀太郎氏假牧師ニ定メ申候、松山ニテモ此回十二人受洗仕候、共両教会ノ人員各六十人以上ニ御坐候、其他吉田地方モ日ニ都合宜敷、又讃州坂出村ト申処ニモ伝道ノ門戸相開ケ候ヘ共、何分人数工者ニ乏しくシテ思フガマ、ニ運ヒ不申御憐推可被下候、高慮ノ如ク當時ノ策ニテハ九州ヲ取ル第一着ニシテ、小弟不敏ナリト雖モ他ニ其人ナキガユヘニ自ラ任シテ参リ候筈ニ候、五六中明後日頃ニ当地発足スルノ目的心組ニテ居候、福岡ニテハ会堂ヲ建築シテ福岡人ノ耳目ヲ一新スベシト目論見居、其予算経費ハ如何ト問ヘバ曰ク二百円ナリト云フ、好シ其会堂同県無二ノ高壮美麗ノ大厦ナランモ家ヲ以テ福人ノ心ヲ動カス事能ハサルハ勿論ナリ、況ンヤ僅ニ二百円ノ建築ナルニ於テヲヤ、維馬維車人所頼、耶和華之名我称揚之トダヒデガ歌ヒシ如ク、腕力ニ非ス勢権ニ非ラアラス、只主ノ聖靈ニヨリテノミ能ク勝ヲ制スルヲ得ベシ、福岡ニアル我兄弟ハ未タ真能ノアル処ヲ知ラザル歟ト奉存候、因テ小弟モ同地ノ人ノ為ニ数日ヲ費ヤシ申度、可相成ハ今回度(五月前ニ)独立シテ教会ヲ結ヒ候様有之度願申候、否ハ来五月年会ノ時ニ者必ス福岡伝道ヲ引上ルニ至ルベシト恐レ申候

小弟此度ノ九州行ハ予メ四十日ノ目算ニテ御坐候、熊本ニ者田中、(野道)徳富等ト相謀可申候、徳富ノ弟ニ健(次)二郎ト申スモノアリテ先年同志社ニテ御世話ニ相成居候モノ、其後兄ニ從テ学ヒ居候处、大分学問モ出来、ギゾー文明史、スペン

ソル教育論ハ読ミ候由、是非常文才アリテ文章ノ一点ニ於テハ猪一郎モ及バザル由、昨年ヨリ其督教ヲ信スル事厚ク、今回(道)愈(カ)伝導師トナルノ志願ニテ父母モ猪一郎モ同意ニテ小弟ニ托スル旨申越候間、今回参リ候ハ、帰リニ健(次)二郎ヲ連レ一応今治ニ参リ候筈ニ御坐候、頑固ナル一敬翁モ二男ヲ伝道者トナスニ決シ、其妻ヲ信者ニナシ喜ンテ会堂ニ遣ハシ候、相替ハレバ替ル世ノ中ニ御坐候、実学連(レ)中ニテ嘉悦(氏)、山田ニモ今回ハ十分説キ込ミ候筈ニ御坐候、小弟ノ

目算ニテハ八代ハ見合セテ山鹿ニ outstation ヲ置ク事却テ可ナラント奉存候、然し是等該地ニ参リ候上ニテ相定可
申候、爰ヨリハ本年卒業邦語生ノ一人ヲ遣ハシ、小弟モ又外ニ神戸原田助モ時々交代リニテ参リ候筈（原田助ハ松山ノ後任トナリ舊タ宜敷良牧モ又小弟等モ喜ビ申候）

杉浦義一〔補〕「如何ナル目的カ知ラズ、ドウゾ好結果アレガシト祈申」〔果〕「近日高知ニアル也、先日來該地ニテ植村正久参

リ居候由、此後如何結果ナルベキ歟、小弟方ヨリハ暫時着手セズシテ見物仕居候、神ノ導明カナラハ小弟等も参リ度存し候へ共中原鹿ヲ争フノ笑ヲ取り度無之候

同志社ニモ昨年伝道会社ノトキ参リ候後参リ不申候、都合ハ学問ノ一点ヨリシテハ宜敷由、然しリバイバルノ後又前ノ冷淡ナル空氣ニカヘリ候由ニ承リ候、蓋シ神学生卒業、校ヲ離レタルト、許多ノ新生來校セシトニ由ルナラン、神

ハ必ス又一洗ノ日ヲ來ラセ玉フベシ、只祈ルベキノミニ御坐候、小弟決シテ校ノ事ヲ閑等ニ付スルニ無之候へ共、種々ノ事情アリテ参リ得不申候、何れ五月ノ年会ニ者参可申候、市原、下村、森田ヨリモ何タル報知無之候へ共、聞ク

処ニヨリ察シ候へ者外国教師ハ六人トナリ其勢力益強ク、我三友ニトリテハ余程困却ノ事共有之可申候、只先生御帰朝ノ日ヲ待チ候ノミ、申上候迄モ無之候へ共御序ニ該三人ヲ励マスノ御書御遣シ可被下候、然し小弟者推察ノミニテ

目撃セシ事ニ無之候間、此書狀ノ故ヲ以テ御心配ハ無之様奉願候、トウゾ物理学試験用ノ器械藥品等御約束ノ如く御周旋、下村ニ満足御与へ可被下候、神ハ必す先生ト共ニアリ玉フテ別事ヲ遂ケサセ玉フベシト信し祈り申候、御病氣

近々ハ如何、定メテ不相變御困却ト奉存候、何分御養生御專一ニ奉祈候

〔補〕氏ノ嫡男「ウィリ」ナルモノ、ベルリ氏ノ滞留スル処 Auburndale, Mass. ニ居候由、御序アラハ御見舞賜ハレガシト申候、小弟ヨリモ此処御願申上吳候様申聞」

〔John Laidlaw Atkinson〕宜敷申上呉候様申聞候、彼ハ帰来後、中々憤発ニテ説教等モ前日ヨリ者勝レテ勢力アリト被
存、何レモ満足ノ由、御喜ヒ可被下候、^{〔補〕}「氏帰阪シテ教会ノ有様ヲ見、驚愕措カス、大ニ自ら奮勵致サレタリト承
リ、近頃ハ時ニ断食シテ祈ラレ候由承リ候」

〔John Kinney Hyde DeForest〕余程打カハリ候様子ニ聞キ申候、宮川ハ前日トハ頓斗説教ノ風ヲカエ、今日ニテハ只信仰上ヨ
リ出ル事ノミト承リ申候、「金森モ不相替奮発致居候」岡山ニテ千五百円ノ会堂建築候、教会ノ在様ハ余程宜敷候
由、ケレ氏ハトテモ岡山ハズシハ六ヶ敷有之可申候、余程多忙ニテ働キ居申候、押川^{〔方義〕}ハ五月大親睦会ニテ参候由、委
敷相談可申候、今度組合教会ヲ結ヒ簡單ナル規則ニテ自由主義ヲ以テ交誼^キヲ厚クスルノ目的御坐候、是ハ昨年年会ニ

定メタル処ナリ、其規則編輯委員宮川、市原、松山、小崎并ニ小弟ニ御さ候、今年ノ年会ニ持出シ候筈ニ御坐候

〔Dr. William W. Curtis〕

「ロルチス氏ノ事ハ何分確然ト見込立不申、然し是非一人ヲ遣ハストナラバ、外ニ代ルベキ少シク力アル人参るハ却テ

宜敷ト奉存候、大阪ニハデホレスト一人ニテ、外ハギユリキ、オルチン等好人物ナルトモ氣象ナク被思申候、
〔N. G. Clark〕

クラーク氏ニシテ此意ヲサトル事アラバ遣ハザル方却テ宜敷ト奉存候、目今ノ処ニテハ第一流ノ人物ニアラザレハ新
シク来リテ新教会ヲ益スル事能ハサルベク、宣教師ノ地位ヲ占ムル事能ハサルベシ」

之ヲ要スルニ我邦目今ノ形勢直接伝道ニ者前古無曾有ノ好時ナリ、又各教会モ相応ニ憤発致居候、祈ノ切要ナル事ヲ

大ニサトリ居候由ニ存候、欠クル処ハ新聞ト同志社学校ノ事ナリ、此二事ハ切ニ先生ノ御尽力ニ関ス、因テ日夜其

為ニ神ニ祈り候、然レトモ決して、其為ニ無法ノ御尽力無之候様奉願候、仮令警醒社ハ滅亡シ、同志社大学ハ不被

行候トモ、先生ノ生キテ御帰朝有之様奉願候、人ヲ戒メテ自ラ御戒メ無之テハ相叶申間敷、玉鉢御保養御專一ニ奉願

候

蓋シ目今ノ急務ヲ掲ケ置候ハ、左ノ如クナラン

一、警醒社ヲ助ケテ学者社会ニ勢力ヲ奮ヒ基督教主義ヲ皇張スル事

二、^{〔採州〕}同志社ニ日本教員ノ数ヲ増スベキ事はハ多クハ要シ申間敷、一人カ二人カニシテ至極信仰ノ点ニ於テ生徒ニイ

ンフリユエンスヲ与ヘ得ルノ人タルベシ、然し是ハ六ヶ敷事ナルベシ、神学生、好神学生ヲ起スニハ是非共其人入
用ト奉存候、今ノ神学課ハ生徒ニ蔑視セラレタル有様ニ候」

同志社大学ノ事（是ハ申スニ及ハズ）

三、当時我邦ニテ宣教師不用ニ非ス、工者ニ乏シキトキナレハ随分入用ナリ、岡山ケレ、神戸アツキンソン、大阪テ
ホレスト等ノ如キ諸師ハ甚タ益ニナル人ト奉存候、然し是ヨリ後來ルニハ格別ノ事ナリ（日本教会已ニ逃シタレ
バ）其人信仰活潑、学問才識ニ富メル人タルベシ、余程得難カルベシ、無ケレハ送サル方宜シ、アレハナルベク送
ルベシ、来タル上ハナルベク第一ニ日本ニテ有力ナル牧師ト交ハリ、其勸メヲ納ル、様、クラーク氏ヨリ申込ミ置
カルベシ、先生御面会ノ人々ノ申ニモ人物アラハ日本伝道ヲ御すム被成ても決して好キ人ハ不用ニ者無之候、然
し猥リニ人ヲ送ルガユエニ切用ノ事業ヲ助クル事能ハザルニ至リテハ実ニ失策之至ニ御坐候

四、^{〔同志社〕}京都女学校ハ愈宜敷無之候曰、アツキンソン氏モ閉校説ヲ唱ヘ候、先生ノ御尽力ニテ閉校ト決シ却テ神戸女学校

ヲ更ニ盛大ニスルニ至ラハ無此上ト奉存候

五、若シ警醒社ヲ助クル事ニ相成候ハ、如何様トゾ方ヲ付ケテ^{〔補〕}「ギュリキ兄弟或ハアツキンソンノ如キ人ニ新聞ノ事

ヲ委ルハ不可ナリ、機ヲ見ル能ハズ、又其規模大ナラサレハ也」^{〔朱補〕}「ゴルドン、デビス（D.J.）、グリーンノ如キ人ヲ
以テ後見人トナシテ可然敷、当時ノ処ニテハ全ク東京ノ兄弟ノ手ニ有之候、（若シ宣教師ヲシテ其人ヲ撰バシメバ

必スギユリキト云ハン)、(毎号ニ之ヲ檢査セズトモ大牀ヲ閱檢セハ可ナラン、小崎松山等ノ如キ人ハ万事ニ信任シテ可ナラン)編輯人ニハ尤モ有力ノ人ヲ撰ムベシ、年ニ千円ツ、五年モ助ケラレナバ十分ナラン歟、素ヨリ該新聞ヲ「コングレゲーション」派ノモノトナスヲ好マズ、然レトモ亦他ノ压制主義ノモノトナシテハ更ニ不可ナリ、因テ若シ補助金ヲ出ストナラバ、之ヲ警醒社ニ渡ス前ニ関西ニテ有力ナル諸牧師ノ意見ヲ問ヒ、其方法等ヲ定メラルベシ

六トルコニテハ毎年其翌年ノ其伝道学校等ノ入用ノ予算ヲ定メ、本局ニ送ル前ニ之ヲ宣教師ノミニ任セズ、土地ノ牧師伝道師等ト協同シテ相談ヲナス事ニ相成候由、新聞ニテ屢々承リ申候、日本マテモ若シ如斯ナサバ機ヲ誤ル事ナキノミナラズ内国人ヲシテ外国伝道会社ノ情実ヲ知ラシメ、出金等ニ於テモ大ニ励ム処アルベシ、地方ニテハ外国ノ金ハ所謂「ソコナシ袋」ト思ヒ候もの不少候、相互ニ相談シ打明ケテ謀ラバ必ス相互ノ一致ト奮発トラ生シ可申候、是者小弟等ヨリ申出シ候ハ、何カ権力ヲムサボリ候様ニ被思申候又宣教師ニ敵対スル歟ニ候間、若シモ先生ニシテ御同意被下候ハ、御序ニ御述置可被下候

右者二三日カ、リテ相認メ文面粗陋之書ニ御坐候、御免可被下候、小生先日来奔走続キ、大ニ腦ヲ傷メ、何分深思ニ堪ヘ不申御海容可被下候、今ヨリ二三日シテ快復致サバ直ニ態本ニ出立可仕候、時下御自愛御專一ニ奉願候、お悦ノ写真取り申候間入御覽申候、幸ニ神ノ祝福ヲ御祈可被下候、お峰より宜敷申上候、一家ヨリも同様申上候、尚思ヒ付候事有之候ハ追々可申上候、又熊本福岡ノ都合ハ次便ニ言上可仕候、以上

二月十三日

在米国

伊勢時雄

拝

78 三月十日 小崎弘道

④墨

〔V〕
二白、聖書翻訳之事件近頃内外委員之□ニ意見異ナリテ甚タ迷惑罷在候、多分調和整フ事トハ存スレトモ、事
ニ依リテ或ハ委員ハ解散シ、松山兄ハ其職ヲ辞セラル、事アルヤモ図ラレズ候

其後ハ御無沙汰申上候、過般警醒社其他之事ニ付一方ナラサル御尽力被下難有奉謝候、却説、警醒社之事昨年十二月
廿九日御認之御状着次第、早速御教示之通り西京宣教師之許ニ早々本国伝道会社ニ警醒社ヲ扶助スル事ヲ賛成スル旨
御報アリタキ様申送候処、其後グリーン氏ヨリ之書状ニ、警醒社ヲ扶助スル事ヲ賛助スル事ハトクヨリ伝道本局ニ申
送リシ処、本局ニテモ此事ハ能ク承知シテ居ル筈ナリ、今更斯ノ如キ事ヲ申来ルハ甚タ不審千万、或ハ何カノ間違ニ
アラン、然シ兎ニ角其事ハ再ビ送リタリト申来候、依テ宣教師之書状ハ多分既ニ御地ニ着セシナラン、何卒ゾ御尽
力ニ依テ彼之方法ノ速ニ出来ルヤウ相ヒ運ヒ度偏ニ奉願候、警醒社ハ目下維持方甚タ難困ナレドモ、今二三月ハ維持
セサル可ラズトテ種々工夫仕居候○会堂寄附金之事モ多分御尽力ニ由テ都合出来キシモノト見ヘ、此前ノ便ニテ愈金
五百弗寄附致ス旨京都ヨリ申来、信徒一同モ大ニ悦ビ居候、早速適当ノ地面ヲ撰ミ建築ニ着手致シ度心組ニテ目下地

〔詮〕
所穿索中ニテ御座候○御依頼之徴兵令改正ノ案之事早速伊藤公ヲ尋ネ依頼致スヘキノ積リニテ一度ハ同公ヲ訪ヒ候得

共、生憎留守ニテ面会ヲ得ズニタビ同公ヲ訪ハント致シ居候折柄、同公ハ遣清大使ニ選ハレ甚タ多忙ナリシヲ以テ遂ニ伊藤公ニハ御書面之趣キヲ申述フル機会ヲ得不申候、依テ止ムヲ得ズ森有礼氏ニ面会シ御書面之趣キヲ申述ヘ纏々相談仕候処、同氏之言ニ御意見ハ御尤ニテ拙者モ甚タ同意致ス所ナレトモ徴兵令モ漸ク一昨年冬改正ニナリシ折柄ナレバ今之ヲ言テモ迫モ行ハレ難ケレバ暫ク時ヲ待ツニ如カズ、拙者モ此義ニ尽力セント欲スルナリ、然レトモ今差当リ同志社ヲシテ徴兵令ノ困難ヲ免レシムル方ニ策アリ、一ハ同志社ヲシテ准官立学校ト為ス事ニシテ、一ハ同志社ニ歩兵科ヲ設ケ歩兵科卒業ノモノヲシテ徴兵令第二章第十二条ノ特典ヲ蒙ラシムルニアリトス、然リト雖モ同志社ヲシテ准官立学校トスルニ於テハ多少文部省之干涉ヲ受ケサル可ラサルヲ以テ、此事ハ致シ難ケレトモ第二ノ策ハ必ズ行フヲ得可シ、此事難キニ非ズ、唯非役ノ士官ヲ雇ヒ入レ其科ヲ設ケシムルニ有リトス、愈此方ヲ行フニ於テハ其手続等知ラスベシ云々、今迄迂生ノ考ニテハ此事ハ唯官立学校ノミ行フヲ得テ私立学校ハ行フヲ得サル事ト存候故私立学校ニテモ差支ヘナキカト其事再ヒ尋ネ候処、私立学校ニテモ差支ナシト森氏ハ答ヘラレ候、今森氏ノ言ノ如クナラバ早速同志社ニ歩兵操練科ヲ設ケサル可ラサル事ト存候、何卒ゾ先生ニ於テトクト御熱考之上速ニ此事ヲ行フヤウ御決定有之度奉願○過日、伊勢兄ヘノ御書状ニ仙台之押川氏ト図リ、仙台ヘ宣教師派遣云々有之候ガ、目下之有様ニテハ之モ或ハ他ノ教会ノヂエロシーヲ引キ起ス事トナランカト甚タ心配罷在候、今度一致教会ニテ高知ニ伝道ヲ始メシヨリ少シク関西之教会ト一致教会トノ間何トナク面白〔カ〕ラヌ有様アリ、高知ニハ近頃迄ハ植村正久兄ガ伝道致シ居候ヲ数日前帰京致候ニ同兄ナドハ今度頗ル関西ノ教会ヲ敵視スルカ如キ意見ニナリテ帰京致候、其故ハ何カト尋ネ候ニ、今度東京之宣教師ガ突然土州ニ伝道ヲ始メシニ付神戸ノ宣教師ニテ不承知ヲ云フモノアリ、且ツ高知ノ伝道ノ頗

ル盛ニ赴クラ見テ何トナク関西教会ヨリ之ヲ窓ムノ模様有リテ伊勢兄ナドハ幾回トナク高知ニ書状ヲ送リテ伝道ニ参
 リ度旨ヲ申遣ハシ候事アリ、又先月末ニハ杉浦義一兄カ高知ニ来リシ事アル等ノ事ヨリト云フ、其他大阪ニテ一致会
 ノ盛ニナルニ付テ互ニ競争アリ、又伊勢地方之伝道ニテ互ニ伝道地ヲ争フカ如キ事アリテ関西地方教会之処置甚タ宜
 シカラズトノ事ヲ申サレ候、此等ノ實際ハ迂生更ニ知ラサル処ナレバ何トモ評決シ難ケレトモ、兎ニ角互ヒニ競争ス
 ルカ如キ跡ハ事ニ現ハレ迂生モ少シク不愉快ニ覺ヘ候、何トカ初メテ基督教我國ニ伝ハルトキニ臨ミ兄弟牆ニ閲クカ
 如キ事ヲ成ルヘク避ケ度存候、却説、高知ヨリ神学修業ノ為メ植村兄ト同行シテ来シ河野修ト申ス人（此人ハ元ト大
 阪神戸辺ニテ教ヲ聞キ終ニ明石ニテ洗礼ヲ受ケシ高知人ナリ）ノ話ニ、板垣氏始メ自由党ノ重モノナル人々未タ洗礼
 ハ受ケサルモ最早ヤ道ニ入ルノ決心アリ、過日其中尤モ信仰ノ進ミタルモノハ、九名ハ洗礼ヲ受ケタリ（補）元トヨリノ
 信者ト合セテ二十余名アリ」今度杉浦氏カ高知ニ来ラレ更ニ説教場ヲ開キ、元ト神戸大阪明石等ノ信者六七名ニ杉浦
 氏方ノ教会ニ属スベキノ相談アリタレドモ、此等ノ信者ハ其事ヲ好マズ寧ロ一致教会ト共ニセントスルノ意アリト有
 之候、植村兄ノ話ニ依テ考フルニ、一体高知ニテハコングリゲーションナル教会之評判頗ル悪シトノ事ナレバ多分此等
 ノ事ヨリ然ルナラン乎、兎ニ角高知ハ全ク一致教会ニ任セテモ互ヒニ教会ヲ惡シク云フ様ナル弊ハ避ケ度事ト存候○
 教ノ開クルノ機会ハ十分有之候得共之ヲ伝フルノ人ニ乏シク、且ツ教会モ近頃ハ一体ニ少シク睡レルカ如キ有様アル
 ハ実ニナゲカワシキ事ト存候、何卒ゾ我国ノ為メ十分御祈禱被下度候○伊藤大使ハ已ニ上海ニ着セシナラン、此回ノ
 評判ハ多分平和ニ治ルナラン○近頃別ニ異事ナシ、唯益開明ノ氣運ニ向フ趣キアルハ賀スヘキ事ナリ、然シ歐洲ハ近
 来併吞政策頻リニ行ハレ却テ退歩セルノ如キ有様アリ嘆スベキ至ナリ」右要用迄、草々頓首、

三月十日

小崎弘道

拝

新島先生

二白、同志社之為メニ寄附金アリシハ実ニ賀スヘキ事ナリ、尚多クノ寄附金ヲ御募集アリテ同志社永遠之基礎ヲ置キ玉ハン事ヲ祈ル

先般迂生一身上之事ヲ申上ゲシガ少シ無理ヲスレバミーンスハドウカ出来ル積リナリ、然シ尚ホトクト勘考之上行フベシ、迂生ハ元来如何ナル事業ニ適當シタルモノナルヤラ自ラ之ヲ知ラサレバナリ、伝道ハ迂生ノ最モ希フ所、生涯必ズ之ニ身ヲ托スベシ、然シ余性頗ル学問ヲ嗜ム、若シ万一ニモ主ノ御意ニ忤テ学問ヲ致サバ是レ罪ナリ、如何セバ可ナランカ、頗ル惑フ所ニ御座候

愚妻ヨリモ宜敷伝言申上候、時下国家ノ為メ御自愛アラン事ヲ祈ル

79 三月二十一日 松山高吉

①日本 東京京橋区日吉町十二番地 楠山方 ②Congregational House, 1
Somerset Street, Boston, Mass. U.S.A. ④墨

〔譯〕
旧藤ハ御病を犯して懇篤なる御衷情を細々御もらし被下難有くりかへし拝誦仕候、早速貴答を呈し度ぞんじ在候へども、彼の翻訳事件ニ付内外之間ニ多少相合ざるが如き事ありて為ニ大ニ心神を勞し居りたりし故ニ思つゝも荏苒今日

ニいたり申候、然し漸くニ略々落着も附申候間多分来る月曜日頃より兼ての規約ニ従ひて着手するを得可申と存候、
訳者ハ始に撰ばれし植村、井深、小生之三人ニ候

○愛兄之御疾病ハ近來如何なる御容体ニ候や、万里大洋を隔て居るからに格別ニも御案事申候、今や我日本之大切な
る時期ニ向ヘリ、固より主之為日本同胞之為ニ充分その御身を加養被下候事とハ存候へども或ハ人間之弱きところよ
りして事ニ当り、過度之勞力を精神上ニも肉体上ニも致すこと往々ありて五十年之働を五年四年ニ縮るの誤り免れ難
きニより、大任を負へる愛兄ニハ万々然ることハ有まじと信じながらも杞憂ニ似たる煩勞いたし申候、愛兄よ、たと
へ事思ふが半ニ及ばずとも寧ろ身を全うして主之御用を永く御勤め可被下候

○東京会堂之事ニ付てハ常ニ主ニも祈り心をも勞し居りしが幸ニ天父我らが微衷を空しくなし給はず、今日愛兄之御
尽力ニより海外兄弟の愛ニより大なる助勢を得しハ誠ニうれしき事ニ候、無程我らが望み待し頌栄之美会堂を見ルニ
いたらんと樂ミ極りなく候

○警醒社之事ニ付ても一方ならぬ御尽力殊ニ疾苦之御厭なくクラーク先生ニ懇々事情を吐露し、略々同社之絶なんと
する命脈を回復するの望を再び与へ給ふこと難有奉存候、時々此義ニ付てハ種々の事情を醸し来り殆んど窮し申候、
そハ兎角諸会中ニ宗派を重んず人多きが故ニ若シアメリカンボード社方より扶助あらバ（アメリカンボードにてハ我
が派を助んとニハあらねども）、正しく之を其派を助るものとして警醒社をいよく疾視して別ニ一致派にて一新聞
を發兌するニいたるの景情あり（御周旋之扶助の事ハ未だ他人しるニハあらず今日までの状況ニよりて推知せらるゝ
也）されバ如何ニすべき乎、小生も甚だ惑ひ居申候、イッソ彼の新聞を一致派へ渡す方よからんかとも思へど、然バ
新聞ハ死し且ツ従前之株主ニハ不平を与へん（廢絶せしむるよりハ勝るなれど）、宗派連ハ如何ニ思ふとも助ハたとへ

無くとも唯だ一片の真心をもて神ニたよりて内国幾多之有志者と外国兄弟との助にて立貫くやうニなすべきか、（他ニ宗派新聞を出さば出せ）若しいよ／＼外国兄弟の助あらんニハ是なん我が主義を世ニ顯すの一大機具となりて他日益する処大なるべし、勿論我より決して分離せんとニハあらず彼より致す情状著しるき也、我よりハ力の限り共同を求ることをすべし、但シつら／＼考るニ彼らが若し別ニ宗派新聞を発売するニ於てハ尚々我が主義の新聞を興隆するハ切要と存候、故ニ何れニしても該社の為ニ外国兄弟の扶助あらんことを渴望ニ堪ざるなり

○伝道之事ニ付てハ此五六年が尤も日本ニとりて油断すべからざる時と存候、兼て小生が熱し主張する所なるが東京

シク

シニチャウ

ニ力をこめる事大切と存候、眞の伝道ハ地方ニ及ハなし、然ど我主義を公ニあらはし其実を学士論客及び廟堂紳士ニ目撃せしむる働ハ東京ニ於てせざる可らず、且亦上州（既ニ我主義の教会あり、今や旭日の東天ニ上るの勢を漸くあらはせり）、総州常州奥州越後（新潟公会ハ兎角宣教師との間なれあはざる乎おもはしからぬよし也、此儘ニなし置候ハ終ニハ公会が腐敗するか又ハ我党の教会を厭ひ一致会ニでも属せんことを希望するや必せり）等ニ伝道を盛ンニするニハ東京を根拠とせざる可らず（西京ニてハ事情も通ぜず且ツ働き上ニも不便なり）、故ニ日本の情ニ通じ学あり才あり徳望ある宣教師一名を東京ニ置き、旨として士を養成し隠ニ東京公会を助け前ニ掲たる数国の伝道を監察し、斯て東西相応じ主之榮を顯揚する事誠ニ肝要と存候、既ニ此事ハ西京へも屢々申送りし事なるが西京ニハ宣教師及び内国兄弟ニも感を同うせざると見え、未だニ応ずるの傾向少しも見え不申候、或ハ思ふ、アメリカンボードの定る所ありて日本在留宣教師之意の如くなし難きニもあらんか、將た東京ニハ諸派の宣教師輻輳いたし居候間自然遠慮之姿あるか、又ハ蛇足之思を持たるゝか、何れニ在るかハ知らねども此事ハ伝道上頗る大事ニして今之を軽々看過なしおカバ他日必ず切齒之歎を来らせんと確く信知仕候、万一アメリカンボードの定ありての故をもて東京へ宣教師を

派出なし難き義ニ候ハ、前件の事情を細ニ米地兄弟友人ニ御通じ可被下様願上候

○同志社之事、日々首を長くして御報道を待くらし居しが頗る好模様ニ相運び行き候由雀躍欣喜之至ニ候、未だ相見ざれども米地之兄弟が主之愛を豊かに我が日本ニ注ぎくられるゝこと喜ニ不堪、その愛のうるはしき顔ハ目の当り見ゆる心地いたし候、別してクラーク先生之厚情ハ感するニ余りあることニ候、主の名ニよりて問安す宜敷致声被下度奉願上候、同氏ハ常ニ多病なるよし朝暮之が為ニ相祈り申候、さて日本一般ハキリストの光を受いるゝ時期ニ臨みたれど、大学ニ至てハ弥々不信ニ堅固なり何れの日か大学の中ニ主之光を入レン、主之能力ハ人之思之外なれば或ハ早晩その暗が光ニ変ずるやも難計けれど多くハ皆光が暗ニ化せらるゝの勢ニて海外より光を受来りし信徒又他所ニて信を与へられし兄弟も十中の八九百十中の十ハ不信ニ化する也、然バ是非とも一日も早く彼ニ相比対する完全なる学校を興さざる可らず殊ニ浮屠氏輩も各宗同心協力いよく京都伏見桃山ニ大学を設立することニ定りたる趣ニ聞及候、旁以て同志社学校をして完成ならしめざる可らざる事ハ無論之事なるが預て亦用意せざる可らざる一事あり、そは其完成なる学校ニ用ゐる教員なり、是ハ今ほしきとて直ちニあるべき者ニあらず、若し之なくバよしや資本ハ備はり校舎ハ美麗光を日光に争ふニもせよ所詮実力なければ如何ともしがたし、同志社ニ用ゐる教員ハ他の学校之如く金のミにて得ること難し大学より聘せんか清水の中ニ汚物を投入するが如し、且亦彼ニ対峙せんとするニ其教員を彼の中ニ求む可ニあらず、必ず我党中ニて之を養成せざる可らずと存候、愛兄ニハ竊カニ計画あらんことゝハ存候へども、過日西京なる或宣教師ニ会せしニより談此件ニ及たれど一向その用意もなく且ツ無頓着之様子ニ見受申候、我思ふニ西京之宣教師ハ多年日本ニ居られし事故ニ日本現今之事情ニハ明かならんとハ思へど矢張るとき所あると見え左程深くハ学校之事ニ心及ばざるの故ならんと存候、伝道ハ時と場所とニ大ニ関係あれば基督之真理ニハ永久万古変りなきも

之を布き施すニハ国と時とニよりて異ならざる可らずと存候、今日之宣教師が即ち往昔之使徒之生涯とハ大なる異りあり、是その時を殊ニせるによりての故なるべし、然るニ今の日本ニ処するの活法ニ疎きハ合点ゆかぬ事と存候、大學にて八年々歳々学生中之俊秀を撰びて英に独に米に仏に遊學せしめて他日之備をなせり、然るニ我党中より未だ一人之同志社學校之為ニ欧米に送られし者あるを見ず、實ニ怪しきことと存候、聞く所ニよれば下村氏ハ近き内ニ米ニ遊學せらるゝよし喜ばしく存候、然ど一人位にてハ尚足るべきニあらず見込ある人を撰抜して洋行せしめ度ものニ候、茲ニ一人惜しき事ニ思ふハ宇野作弥之事ニ候、同人ハ今ハ信仰も少しく疑しき所なきニあらず、いつぞや西京にて怪しき演説などもありし由にて宣教師中（日本兄弟中ニモ）ニハ余程好まれざる様子なれども、この人物ハ性質直なる所あり又人を憚ることなき風あり且ツ反動之強き癖あるニより不都合の事もありしなる可けれど、廉恥心ハ極めて厚し將た義理ハ重んずるの風あり、故ニ取るべき所尤も多し學ニ志篤き男故ニ必ず學業ハ成るべし、今本人その志ニハあらねど洋行の便ニも哉と外務省ニ奉職いたし居ル也、この儘にて捨置バアタラ人物を失ふことと存候、若し幸ニ愛兄米地にて御周旋ありて學深く徳篤き人之世話ニなり勉學するを得バ、他日同志社學校之好き働人と相なるべく存候、且ツ同人を世話するニ其人を得バ終ニハ本人之信仰も立直り可申と存候、本人ハ破廉恥之腐根生物とハ違ひ決して世話して後ニ失望之歎を懷かせるが如きことハあるまじきと存候、若し此事叶はゞ愛兄より本人へ直ちニ勸め遣しなざるゝ様ニなさらバよからんと存候、但し旅費位ハ出来るかも知れ不申候へども同志社の為ニするニハ旅費ハ同志社之費用より助ケやらば本人をして増々同志社を思はするの情を起さしめて益ならんと存候、浮田氏之如きも學の志ありて資力為ニ果し能はず、空しく東京ニ唯だ生計之働ニ日を送りをられ申候、是等之人ハ皆その志を助ケ成さしめバ大ニ他日ニ益せんと存候、心緒尽す能はず余情後鳴を期し申候、草々不一

追啓

本書したゝめ終り既ニ駅通局へ出さんとする折から、宇野氏来り告て云、今般独国へ其公使館詰として渡航之内命を受しと、然バ本書ニ陳^{ノベ}しことハ最早手おくれと相成申候、同氏独国行之事ハ其志願成就ニ付てハ同氏之為ニ祝すべきなれど、其信仰上ニとりてハ終極如何ンと少しく危ミ有之候、將た同志社之為ニ一人之働手を失へるかと惜しき心地いたし候、此後ハ唯全恩之主ニ懇求し同氏をして再び信仰を燃えしめ且ツ忠僕たらしめ給はんことを祈るの他無之候、愛兄も同氏之為ニ祈り且ツ時々書を通して愛心を送り下さるゝ様いたし度候（独り愛兄のミならず宣教師諸氏ニも此こと望む所ニ候）、然バ同氏も固より同志社を思の情ハ未だ失せざるべく候ヘバ他日或ハ該校ニ働く主之忠僕とならるゝも難計候、ヨシ誤て不信ニ陥るも常ニ愛の綱をもて引おかバ敵ニハ決してならず間接ニ矢張我が主之働の助となるや必せり、人ハ実ニ弱き者ニ候ヘバたとへ躓くことあるも敢て之を咎めず疎んぜず、我が彼ニ所を得させ其志を満たしむるの道を誤り其人を失ひし事を歎きひたすら主ニ求め又自ラ力を尽し再び主に帰せしめんことを勤め度ものニ候、人各々得る所異なり才力同じからざれば其人ニ応じて之を助け宜しきニ叶ふ働をやるやう致し度ぞんじ候、況や今や日本の情況を察するニ独り直接伝道のミにてハ足らず、殊ニ目の当り同志社学校を隆盛ならしめざる可らざるの運ニ向へり、之ニハ政治文学理學種々の学士を要するなり其人之才能ニ応じて養成せしめずバ如何ニして良師を得べけんや、然るニ竊ニ惜しむハ宣教師之癖として徒^{タガ}直接之伝道士をのミ得んと汲々たるが故ニ直接伝道ニ従事する見込なき者ハ置いて問はざるの状況なり、又少しく説を異ニする所あれば立刻之を忌ミきらふの姿あり故ニやゝもすれバ弥々反動を起して互ニ相合ず情を疎ニするが如きこと無ニあらず、誠ニ口惜しきことニして其人之為ニも氣之毒、

道之為ニも損する所多し、何卒茲ニ悟る所あらしめ度ものニ候

○浮田之事も本書ニ少しく陳し候ひしが同氏も頗ニ洋行ニ尽力いたしをる也、多分之も遠からず或人之周旋ニより洋行いたすことならんと存候、若し幸ひニ愛兄之周旋ニより米地ニ招き給らば此人も必ず後日用立つ人とぞんぜられ候、且ツ同人こと宇野と至て懇志の中なれば彼の望を満たしめ彼をして他日同志社ニ働かしむるが如きことあらば宇野を引くの助ともなりて其益尤も大ならんと存候、愛兄それ謀事をめぐらし一人たりとも失はざるの策を立給へ切望
ニたえず

〔朱・補〕

御出帆之砌、また其後の書翰ニも依頼いたし置申候神戸女学校なる小久女、常女之兩人之事ハ如何相成申候や、御身ハ御不快がち、御用ハ種々の大切なる件多ければ中々斯ることニまで御尽力なさるゝ暇あらじと推察ハ致し居候へ共、女教育之事ニいたりても男子の教育ニつれそふて日ニ月ニ進歩いたし行申候、然ど此亦男子之教育ニ同じく其学校ハ頗る智識を開き技芸ニ達することを得るなれど徳義の点ニいたりてハ相かはらず見るべきものなし、然ど是も若し我がキリストの光を彼らの中ニ入るニハ智識ニ於ても彼らに劣らぬ様いたし我党中の婦女ニ完全の教育を受たる立派なる者を続々養成せねばならぬことゝ存候、昔しハ世間ニ女学ハなかりし故ニ格別ニ力を用ゐずとも多くの婦女を招き且ツその所ニて育てられし女ハ世の婦女よりも勝れたるが如き有様ニ見えしが、今ハ昔しと大ニ異なりて世間ニ在る女学校ハ余程高等ニ進み其数も亦多く出来たれば此儘ニて昔の夢をのみみて時と共に進むことを知らず且ツその備へなくバ自然と世ニおくれ我党の女学校ニ来りて業を修むる女もなくなり可申候、又我党中の婦女ハ無智ニ陥り可申と存候、然バ世の不信不徳の女学中へ主之光を入れること能はざるのミならず大ニ主の榮を輕視さるゝの恐あり、故ニ女学校之如きも世と共に進歩を競はざる可らず、之を成すニハ日本婦女ニ勝れたる人なか

る可らず預て其用意をして養成するニあらずバ能はざる也、故ニ志の篤き学才に富る婦女を撰て海外ニ送ること肝要と存候、さて海外へでも送り度くおもふ婦女ハ必ず目下その学校などニ於て入用なるべければ多少離るゝに困難なる所もあるならん、然ど今の困難ハ小なり将来の事ハ大なり目下之不便之為ニ向後の益を計らざるハ智ニあらざと存候間、此らの事ニ思ひおかずニ日本女子教育を重んずる慈善の姉妹ニ御周旋可被下様願上候、若し二人かなはずバ迫てハ一人ニてもよろしと存候、かへすゝも御身大切ニ御自重可被下候

○いつ頃御帰朝の思召ニ候や

80 三月二十五日 山崎新太郎

①日本 羽前米沢元東馬喰町 ④墨

尚々、錦地文明教育の模様御報道被成下候ハ、幸福之至ニ奉存候

以手紙申上候、陳者余寒猶未た退き兼候処増御勇壯にて御消光被為在候趣き奉大賀候、近頃御内子様より御懇篤なる御鳳章を辱ふし候段難有奉存候、退いて拙者儀頑健陶冶ニ従事罷在候得ハ乍畏懷御休神被成下度奉願上候

御渡洋之上欧米諸国御遊歴被遊候由は客歳五月頃の郵報表にて拝閲仕り爾後御安否等御伺可仕存候得共兎角御住所も確知不仕候より遂ニ懶惰ニ陥り今日まで御左右を御伺不仕候段不惡様思召御裕恕被成下候様奉願上候

御内子様より承賜ハレハ脳病ニて悩ませられ目下紐育温泉ニて御湯治被遊候由、拙者悲痛哀憂ニ堪へず、九鼎大岩より重き責ニ任せられたる御身体ニして斯る難病ニ罹せられ候は天下の爲め如何計り不幸ニ候哉、折角御療治御保養專一ニ被遊、一刻も速ニ御痊愈ニ被赴候様公私の爲め奉祈禱候

回顧すれハ三年世以前、幽谷の温泉ニ於て図らずも拝顔を得候節ニハ當時拙者も亦在京の時より脳病ニ罹り、爲めニ入湯ニ参りたる際ニて候ひき、爾後専ら脳髓を仕用不致様注意致候処脳病之輕症と見江唯今ニては悉皆平癒致候、御承知も被為在候はん、客歳より引続きたる朝鮮事変ニ付先きニハ井上参議全權大使として朝鮮ニ赴かれ、償金等の約束を取り結び帰国致され、今度は伊藤参議全權大使ニ西郷参議御用掛りとして去七日清国へ差し遣さる、十四日天津へ御到着被致候由、又彼国よりは大使ニは李中堂副使ニは吳大澂を以て談判を開かるゝ趣き、唯今頃は必ず談判最中ならんと想像罷在候、該談判も旗鼓之騒〔繪組〕き祖櫓の間ニ取纏まるゝ歟と被考候、又仏艦は已ニ台湾島を略取し益々銳進之勢ニて寧波をも攻撃し遠からずして上海をも略取するやも難計候、兎ニ角殺氣濛々たる有様なるは東洋の爲めニ執りて慨歎ニ堪ざる次第ニ御座候、又唯今入りたる事時新報を一見仕候処本月二十二日発ニて上海電報ニ英國公使パークス氏死去スト有之候、錦地は坤輿ニ冠たる一大文明国ニ御座候得ハ學問宗教政治等百般の事物等日進月歩之情況なるは竊かニ欽羨慕ニ堪へず候、当地の如きは日本鉄道会社ニて奥羽間の鐵路布設七年間ニ二百余里之線路を成就す可き計画と聞き及ひしニ、目今の処ニては三年間ニ三十里丈の設置ニ止まり候得ハ此の割合ニては悉皆落成する迄ニは自今十七八年を閲さゞれハ全成就すまじと被存候、無形の文明も亦如斯の有様歟と思考罷在り申候、即ち學問上ニ非常ニ干涉を加へ、独乙人を文部省ニは勿論其他の學校ニ聘し、専ら独乙語に變更するやの由伝聞仕候、拙者は淺学の者ニて未だ独乙学の門を窺ふたる事無之、随つて高妙深邃なるヤ否を承知致さずして該字ニ関して彼是申上候而

は寔ニ嗚呼^{〔鳥音〕}しく候得共、新入の言語は記憶ニ難渋ニして今日まで開けたる英語と同日の話ニ無御座候へハ、職替へ同様の姿にて学問の精妙滅却致すやも難計候、そは兎も角も政略の便利ニ依り学問を交換致す様の事有之候ては文明の一大障碍と愚考罷在候、即ち学者は政治家の玩弄物と相成り候ては国の衰頹是より生す可く被存候、是非学問を政治範圍外ニ斬然と独立致させ度熱望ニ堪へず候、已ニ拙者一度身神^{〔ママ〕}を教育に投して効を奏せずは已まざるの精神ニ御座候へ共、固より劣才寡聞教育の大任を誤るの恐有之候得ハ是非錦地蓬萊国殊ニは我が国の先覚師ニも有之候得ハ渡航以て大ニ文明の学を研鑽致し度き熱心ニ罷在候得共如何せん鬼瑣たる寒陋の貧生ニ御座候得ハ其方便なく不如意なるは残念至極ニ存じ居り候、依之御帰国を俟ち御伺の閑を得参館仕り親しく御教諭を拝聴仕り度き心底ニ御座候、又来る五月頃当中学校より書生一名御校へ御依頼申上け度奉願候、右は御左右御伺旁々、御無沙汰御申訳まで如斯ニ御座候、頓首再拜

明治十八年三月廿五日

山崎新太郎

新島襄様

玉机下

81 四月二日 伊勢時雄

①伊与国今治旧三ノ丸旧廓内 ②% Rev. N. G. Clark D. D., Nol. Somerset Street, Boston, Mass. U. S. A. ④墨

尚々、小弟躰養ノ事迄御申越被下難有奉存候、日々養^{〔下部破損 以下同〕}ヤラ出懸申御安心可被下候、当年ハ小鳥ハ更

ニ見当^{〔一〕} ^{〔二〕}ノ為ニ死シヤラント中人御坐候、四国九州同様ニ鳥サ^{〔三〕}持越申候、又港川ヲ学ヒハ致

申間敷候、我等ノ^{〔四〕}後題^{〔龍翻〕}ゴ帝ニ非スシテ主キリストナリ、忠誠^{〔五〕}ザルベシト雖モ港川^{〔漢〕}ハ学申間

敷候、御安心可^{〔六〕}

三月末御認之尊翰飛来難有奉拝誦候、陳者大風ノ海水ヲ巻が如き大精神筆頭ニ溢レ一網シテ天下ヲ收弭スルノ大経編殊に其細目些少ノ点ニ至ル迄悉ク御教示被下拝誦再三敬承感服之至ニ奉存候、一ニ以テ御尤千万之御論ニテ定テ今回会社ノ集ニ於テ委員ヨリ其要点議題トシテ持出サレ可申、小弟等モ亦御教示ヲ根拠トシテ及フベキ丈ノ尽力周施^{〔旋〕}可仕奉存候、今回議題トシテ已ニ委員ヨリ持出サレタルモノハ、一ハ伝道事務ヲ拡張セン為ニ從來ノ四分六分ヲ廃シ二分八分ト改メン事^{〔但地方伝道ハ是迄ノ通り 四分六分ノ事〕}一、作州落合ハ都度、教会ヘ依頼スル事、一、組合規則編製ノ事ノ三ヶ条ニ御坐候、孰レモ尤ノ至ト奉存候、第一ヶ条ノ如キハ頗ル遺憾之至ニ御座候ヘ^{〔と〕}も当時内国ノ疲弊実ニ甚シク当地方ノ如キモ兩三日前ヨリ教会ニテ十七八円ノ金ヲ集メ、毎朝カユヲ炊キテ三四百人ニ施シ候位ニテ御坐候、餓死スルモノ不少、日ニ三回ノ食ヲ得サルモノ多ク、物品ヲ購求スルニ白米二錢丈ヶ炭二厘丈^{〔タキヤ〕}新五厘丈位ツ、購ヒ候モノ多ク其凋衰

御察推可被下候、之ニ由テ考ヘ候ヘ者此ノ議案^{〔カ〕}ノ如キモ亦已ヲ得サルニ出ルモノナルカ、規則編輯ノ事トハ昨年ノ集會ノトキニ定メ候事ニテ、目今我自由主義ノ教会ヲ皇張スルニ於テ其主旨ヲ世ニ顕表シ且相互ノ交際ニ於テ不都合ナキヤウスルニ要用ナル文ノモノヲ簡單ニ編製スル等ニ御坐候、委員ハ松山、小崎、市原、宮川及ヒ小弟ニテ御坐候、来月一日ヨリ集候事ナレハ其上ニテ委曲ノ事言上可仕候

新原ハ高知ニ参リ居候処今夏ヨリハ福井ニ参リ候由伝聞仕候、日向ニハ岡山ケレ氏ト同志社ニ居候滝某ト頃日参られ候由ニテ都合ハ至極宜敷由賛成家聴衆ノ中ニハ田地持等多ク今ニシテモ人ヲ遣ハスナラハ月二十五円位ハ出スナド申候由、然し接続シテ伝道スル事果シ^{〔テ〕}出来ルヤラ、其人ナキニハ困却仕候、宣教師ヲ仙台ニ^{〔註〕}註在セシムル事御申越ノ通リ至極ト奉存候、押川来月ノ大親睦會ニ付キ出テ参リ候間其節ハ十分ニ咄シ合申候等ニ御坐候^{〔西京ニテ開會ノモノナリ〕}、目今工者ニ乏シキ際宣教師ノ日本ニ来リ働クハ甚タ好ムベキ事ニ御坐候、但其人ノ真ニ「ミシヨナリ」精神ニ富ミ思想ノ力ニ富ミ実地ノ才ニ富メル人ナルベシ、然ラザレハ無益之至ニ御坐候、我社ノ人物ヲ以テ之ヲ譬ヘンニ、「デヒス」「ゴールドン」「ラールネド」^{〔此人中々感心スル精神ニ、富マレ候ト奉存候〕}、ケレ氏等ノ如キ人物ヲ要シ候ナリ、日本宣教師ノ中ニテケレ氏ハ尤モ「ミシヨナリ」ノ資格ト心得ヲ有セル人ト奉存候、デホレスト、アッキンソン両氏モ老練ノ士ニテ中々入用ナリ、然レトモ新タニ送ルニハ如此位ノ^{クラリファイケーション}資^{〔質〕}ノ人物ニテハ不十分ト奉存候、金森心得ハ出来可申敷、当人モ非常ニ多忙ノ由、出来候ハ、可成行ク事可然奉存候、宮川ハ大阪ニテ只一人ニテ多忙甚シキ由、且先日来咽候病トカニテ更ニ音声ヲ発スルヲ得ズ、変化シテ腦病トナルカ肺病トナルカ不可定トテ^{〔Wallace Taylor〕}ラール氏申サレ候由伝聞仕候、然し其後已ニ二週間余ニ相成、何ノ左右モ無之候間定メテ都合宜敷ト奉存候

頃日西京ラーネド師ヨリ書状ヲ以テ如何ナル理由ニヨリテ本課卒業生ノ中ニテ神学ヲ学ヒ候モノ少ク候ヤ、又何故ニ

神學課ニ入リシモノニテ卒業スルモノ少ナキヤト被問候、或ハ學問ヲ高尚ニナセシユエナルヤランナド申シ越サレ候間小弟ハ左ノ通りニ答詞仕置候

一、我輩旧神學課在校ノ時ニ者未タ西洋ノ哲學日本ニ周^{アヤ}ネカラズ、ミル、スペンソルノ名ヲ知ルモノ誠ニ少カリシカ近年ニ至リ小学校生徒ニ至ル迄其名ヲ唱道スルニ至ル、是レ目今ノ神學生ヲシテ神學ヨリモ寧ロ哲學ヲ切要ナリト思ハセ、直接伝道ヨリ間接^{アボロゼチクス}防禦^{アボロゼチクス}伝道ノ方ヲ重セシムル所由ナリ

二、目今ノ神學生未タ神學ノ深キ味ヲ知ラズ、神學ト云ハ、至極淡泊ノモノニシテ容易ニ修メ得ラルベシト思フモノ不少候、蓋シ是等ノ神學課ナルモノハ重ニ神學生中ノ學力尤モ劣等ノ人々ニ適スルヤウニ立テタルモノニシテ優等ノモノハ之ヲ賤シメ甚タ修メ易キ學課ナリト心得居リ候、蓋神學課ハ何ナリヤト問ハ、曰ク

〔補〕此一項ハラネド師ニハ書キ送ラズ

Barrows companion to the Bible

Right's Evidences

Lectures on Old Test. theology and New Test. theology

Lectures on Homiletics

Lectures on Systematic theology

Lectures on Church History

」

其教授ハ宣教師ニシテ其中ノ或ル人ハ格別骨折リテ其講義ヲし「ら」ベ来らざる向も有之やニ聞及ベリ右等ノ事情アルガ故ニ其改良ヲ謀ルニ当リテハ能々其時ト場合ニ適合スルノ法ヲ立サルベカラズ、其法如何ト云フ

第一同志社ノ諸教師一層^{〔奮〕}填勵シテ本課ニアル諸生ヲ励マシ、直接伝道ノ精神ヲ起サシメ、身命ヲ全ク主ニ奉獻スルノ心ヲ立テシムル事ヲ勉メラルベシ、次ニ西京ノ牧師ヨリ僻遠ノ地ニアル牧師伝道師何れも深ク此事ニ注意シ祈禱ハ素ヨリ応分ノ尽力ヲ可致、毎年一回伝道ノ日ト云フヲ設ケ、目今有力ナル牧師等ヲ一二人若シクハ二三人西京ニ招キ直接伝道ノ切用ナル事ヲ論セシメ、又信者ナル本課生ヲ集メ、伝道上ニ付キ其質問ニ答エシムベシ、蓋西京ハ其地形ノ如ク其人氣自ラ世情ニ疎ク、目今活潑ナル伝道ノ景況ハ或ハ知らされるノ有様あらん、活潑ナル伝道ノ精神ヲ生徒ノ心中ニ吸込^{〔吸〕}ムニハ其精神アル地方ヨリ人物ヲ招聘^{〔招〕}シ援助ヲ受ザルベカラズ

第二目今ノ課目ノ中ニ「レクチュルス」ヲ改メテ「テキストブック」トナシ左ノ如キ書ヲ用ユベシ

Oehler's Old Test. theology

Van Oosterzee's New Test. theology

H. B. Smith's Systematic theology

日本人ハ奇異ニ「アムビショス」ニ右之少シクハ我カ学力ニ過ル処ノ書ヲ読ムヲ好ムナリ、今右ノエーラ氏旧約書神学ノ如キハエール大学ノ校本ニ有之候て旧約書ノ事ヲ審論シ明白可驚ノ至ニ御坐候、右等ノ書ヲ用ヒテ書生ヲ励マサバ必ス神学ノ高尚ナルヲさとらん、而テ読ミ易キ書者之ヲ書生ニ指示シテ独読セシメテ可ナリ、或ハ学力劣等ニシテ右等ノ書ヲ読ムノ力ナシト云ハンカ、然ラハ其等ノ人ハ邦語課ニ入レテ学ハシムベシ、英学ヲ五年修メテ後右位ノ書ヲ読ミ得ザルモノハ英学課神学生トシテ本業スルニ足ラザル也、否ザレハ神学ハ才智学力共ニ劣等ナル生徒ノミノ修ムル処トナリ才力アルモノハ相卒テ文学部等ニ加ハルベシ

第三神學課中ニ二ノ撰採課ヲ置ク事

エレクトーチーフコルズ

一ハ「ギリキー」語學、一ハ哲學

右ハ生徒ノ好尚ニ從ヒテ教授スベシ、若シ「エレクトーチーフ」課ヲ學フノ余力ナキモノハ之ヲ免シ、正課丈ニテ卒業スルヲ許スベシ、如斯ナシテ正課ハ中等以下ノ生徒ノ全力ヲ込メテ修ムル処トナシ、上等ノ生徒ハ撰採課ノ一ヲ加ヘ修メシムベシ、素ヨリ右ノ如クナサバ教師ニハ今ヨリモ幾分力多クノ手間ヲ呈スベシ、然レトモ閑ニシテ生徒ナキヨリハ寧ロ繁ニシテ生徒ノ多キヲ好マル、ナラン、況ンヤ今回文學部ヲモ置カル、ニ於テハ殊更ニ右等ノ改良ヲ要スト奉存候

第四今ノ神學課ヲ改良サル、ニ於テハ其ヲ確定スル前ニ一応海老名、小崎、宮川、金森等ノ諸氏ニ意見ヲ問ハルベシ、蓋シ一ニハ西京ニテ者目今ノ切要ニ適セサル処モアラン、二ニハ如斯ナサバ幾分力生徒ヲ満足セシムル処アランカ、生徒モ之ヲ信スル処アルベシ

右ノ通ノ事共書キ送り置申、果シテ採用ニ相成候ヤ否存不申候、然シラーネド師ヨリ下問ヲ蒙リ候事ハ一ハ小弟ノ榮譽ナリ、又一ハ宣教師ニシテ日本人ヲ信スル事アル事ノ一証ナリト思ヒ喜ヒ申候、本月末ニ者殆ンド一ケ年ぶりニ西京ニ参リ候間実地ノ景況ヲ目撃し及フ丈尽力仕丈可申、其上ニテ事情言上可仕候

○九州伝道策

先回福岡ヨリ言上仕置候通り福岡も近日ハ大分^{〔篤〕}憤勵之徴候有之、六月始ニ者会堂新築并ニ教会設立可仕、不^{〔唯次郎〕}破も大分^{〔マ〕}任^{〔マ〕}勞致居候間、牧師ニデモナリ愈以任シ参リ候ハ、却テ宜敷ト奉存候、信徒ハ随分不^{〔カ〕}破ニ服シ居候ものゝ如ク、目今工者ニ乏しき時ニ者福岡ニ取りテハ得難キ人物ナラント信し居り候ものゝ如ク候、一ツ感心ナル事ハ是迄五年間福岡

ニおきて働キ候中格別ニ品行上咎ムベキ処も無之、又忍耐シテ参り候事ハ可感事ニ御坐候、学問も大分進ミ候て近日ハマコレ先生ノ書等ヲ読ミ居候、只実地適用ノ才ナク統御ノ知ナキヲ憾ムノミ、今回福岡独立スルニ付テハ外ニ一人伝道師として福岡県ニ遣ハス事ヲ得策ナラント奉存候、蓋シ不破モ生計ノ道ヲ助クル為ニ毎日三四時間学校ヲ教ヘザルヲ得ズ、彼是ニテ福岡外ニ手ハ延ヒ申間敷ト奉存候、此事ハ本局委員ニ於テモ同説ノ様被存申候

(熊本事情) 小弟熊本ニ留ル事十五日間外四日田舎ノ親類ノ方ヲ尋ネ道ヲ伝ヘ申候、扱熊本ハ可驚之打變ニて実学連中ノ如キハ政論等モ大ニ進歩、聊カモ宗教ヲ嫌ヒ候有様無之、三年前ニ参り候時トハ雲泥之相違ニ御坐候、甚以小弟ヲ信し候有様ニて内密ノ事モ或ハ小弟に者咄候位ニて御察可被下候、今回ハ徳富ト内藤泰吉(是ハ亡父カ家ニ數十年門人として参リ候、常ニ親炙シ居タルモノナリ、医考ナリ)ノ家ニ滞留仕候、内藤ハ三年前ニ参り候時ニ者一杯ノ茶ヲ出ス事モ好マサルノ有様ナリシモ、今回者は非来リ

宿セトテ切りニ申候間不憚参り泊宿仕候、徳富ノ宅ニテ講義ヲナシ候ても差支ハ無之、猪一郎ノ姉二人今回受洗仕候

(メソヂスト、音羽)、内一人ハ大久保ノ妻タルモノナリ、此二人外ニ一人ハ先キニ受洗致候、猪一郎ノ兄弟七人ノ中今不信者タル

ルモノ猪一郎ト外ニ一人ノ姉アルノミ、(補)「一ハ遠方ニ嫁シ居未タ道ヲ聞カズ」健二郎ハ今回小弟連テ当地ニ参リ居

候、メソヂストニテ飛鳥賢二郎熊本ニ伝道致居、甚タ活潑ニ働キ居候、(補)「先年鹿児島ニテ失敗シ大ニ變リ居候有様喜

ヒ申候、信仰ノ第一ナル事大ニ悟リ候由」信者目今ニテ二十余名有之候

其弊ハ、一、飛鳥ハ將ノ才ナク信用ヲ受ルニ足ラズ、佐官尉官トシテ働カバ甚タ宜シカルベキニト惜ミ申候、熊本ハ人ニ苦情多キ土地ニ候間、飛鳥ニテ一般ノ信用ヲ受ルハ難キ事ニ御坐候、一、メソヂストノ大將ハ長崎ノ某宣教師、

信徒ノ心中ヲ察スルニ我儕ハ米國メソヂストノ信徒ナリ、若シ宣教師来ラハ是モ頼ムベシ、彼レモ願フベシト云カ如

キ卑屈ノ心中ニ候、然シ今回熊本滞在中ニテ三四人道キシモノ等ハ悉ク飛鳥ノ方ニ遣ハシ申候、蓋シ「セクト」ノ事

ヲ申スハ後來ノ為ニ好マシカラズト存ルニ由ルナリ

監督会ニテ洪常太郎ナルモノ居候、是ハ碌々ノ人物ナリ、是会ハ随分頑固盛ニ自教会ヲ主唱ス、High Churchノ由、信徒十四五名アル由

徳富田中等ハ切ニ我儕方ヨリ着手致シ候事ヲ頼ミ申候、田中ハ不相替信仰致居候、徳富ハ賛成説ハ前日ヨリハ盛ニ吐キ候ヘ共胸中ノ信仰ハ前日ヨリモ少ク御坐候、熊本民権家ノ如キ一般ノ有様同様ニ目今着手ノ方よく束手シテ機ヲ待ツノ有様、疲弊ハ日々ニ甚シク糊口ノ道サヘ立ち難キ有様ニシテ、餓テ死なんよりハ寧戰フテ死ナント云ノ心中不^{スボイルス}少、可恐世中ニ御坐候、真ノ民権ノ皇張ニ非スシテ分捕希望ナラント被存、日本ノ為可憂ニテ熊本ハ大運動ノ舞台ニ

シテ目今ニテハ鹿兒嶋柳川福岡佐賀等ヨリハ熊本ヲ仰キ見ル由、蓋他ニ者人物ナク熊本ノ宮川、山田、嘉悦、徳富等ハ何ヲ云フテモ人ナキ中ノ人物ノ由、先日モ日清ノ事破レントスル有様ノトキニ高知ヨリ二三人ノ有士板垣ノ使節トシテ九州ニ参リ候節、第一ニ熊本ニ参リ候、右ノ都合ナルガ故ニ熊本ニ基督教ヲ布キ一般人心ニ福音ノ生命ト光明ヲ受ケシムルハ日本ノ為ニ尤モ切迫ノ事務ニ有之申候、人民基督教ヲ信シ一國ノ本心ト相成、民権家モ其歛心ヲ得ザレハ事ハ成シ難キニ至ラハ政治ノ改良、社会ノ進歩期シテ待つベキノミ、故ニ至急ニ一人ノ聖書売ト一人ノ伝道師ヲ熊本ニ差立ツベシト本局ニ建議可仕奉存候、一般人心ハ更ニ基督教ヲ嫌疑致候有様無之、聴衆も必ス多ク可有之奉存候、小弟モ時ニ九州ニ罷越助援可仕奉存候、今治ニテモ先日留守中ニ十八人受洗入会仕候有様ニテ信徒勵ミ働キ候間時々留守ニナリテモ安心ニ御坐候、福岡ハ咽喉ノ地ナリ、九州ノ横浜神戸ニ候、由テ一教会是非無カルベカラズ、熊本ハ九州ノ東京大阪ニ候、此処ニ強大ナル教会起てざる可らず、此ニケ所ニ基本ヲすヘナハ直ニ進ミテ鹿兒嶋ニ来リ^{〔来〕}込ムベシ、然シ是ハ一、二年後ニアラズハ着手ハ六ヶ敷アルベシ、誰ゾ旅用ヲ与ヘダナラバ小弟ハ視察ノ為ニ参リ見

度奉存候、日向ニ者何トカ近日ニ着手ノ相談付キ可申ト察申候、ケレ氏ノ報知次第大分ニ者吉田宇和嶋ノ序ニ着手スルヲ得ベシ、先生ハ世界ノ大國ナル米國ニあり、小サキ日本島嶼ノ地圖ヲ開キ一網シテ之ヲ収獵セント御思考被成候ト奉存候、然レトモ小サキハ小サキナルベケレトモ目今ノ工者ノ教ト人民ノ疲弊ト旅行ノ不便トヲ以テ見レハ六十余州ハ随分ト広キ田園ニ御坐候、主ヨ願クハ良工者ヲ多ク此園田ニ送り玉ヘヨ、亞孟

四月二日認

在米國

新嶋先生

玉机下

伊勢時雄

拜

尚々、一家無事ニ御坐候、老人共モ小兒ノもリニテ至テ壯健ニ御坐候、小兒日々生長仕候、御笑草ニ先日写真一枚呈上仕候、山本家一統受洗ノ由、御留守様皆御無事ト奉存候、乍末毫無理ノ御腦働無之様、閑養シテ元氣ヲ貯ヘラレ御帰朝ノ日ヲ待入申候、御滯米ハ來年迄懸り候ても宜敷御坐候

82 四月二日 松山高吉

①日本 ② Congregational House, 1 Somerset Street, Boston, Mass.
U. S. A. ④墨 ⑥日付は消印による

事繁くして筆乱れ文とゝのはず御読がたき所多かるべし、御考読之程希上候、失礼ハ御免候

過日愚衷を吐露いたし一書を呈せしが定めし御落掌ニ相成候ことゝ推しまゐらせ候、其中ニも浮田氏之事を少しく陳し置候如く、何卒同氏之為ニ勉強之個所を御周旋なし被下候ハ、将来之為ニ益する所少々ならずと存候、先般も申上候通り、宇野兄ハいよく来る廿日頃澳國ウインナ府日本公使館詰にて洋行いたし申候、同兄之志ハ官吏にて生涯を果すの所存^{シヨソ}ハなく、必ず學問を大成し他日同志社學校を助け度の望ニ有之候、之ニ付ても浮田氏を周旋して他ニそれしめざる様いたし置候ハ、兩人之間至て睦敷互ニ親しみ助け合ふの情密なるが故ニその影響ハ自ら宇野ニも及び、彼をして今有する所の同志社を助んと志をいよく固からしむるならんと存候、浮田ハかたく洋行之志を決し既ニ路用之支度もほど調ひたる模様ニ候間、若し愛兄之御手にて御周旋なくバ誰^{タレ}ぞの周旋ニよりて早晚渡洋いたすべしと存候、ホイットニー氏も同氏之為ニ非常ニ力をつくし居られ候間、或ハホイットニーの周旋にて洋行致すことを得るならんと存じ候、然し前件ニ陳する次第故可相成ハ愛兄之御手にて周旋あらんことを切望仕候

○過日小崎氏よりも自ら洋行之望あることを愛兄ニ申送られし由なるが是ハ断乎として無益と見留申候、兎角同氏之心ハ多端ニシて一ニ精神を注ぐこと能はず、之が為ニその働を妨られ勞して功なきの歎を免れじと存候、同氏ハ信仰

も慥なり性情ハ穏和なり又熱心もある人なれば一ニさへ心を傾けられなバ必ず結果ある働をなし自らも楽み人ニも福を予ふことを得ル也、心多きハ同氏の為又主之働之為ニ実ニ惜しむべき義ニ候、且ツ同氏之考ハ漠然として大綱なき網をひろげたるニ似たることあり、是も即ち心の多端より起ることト考られ候、同氏洋行などいはるゝも例の漠然の一として考の結ばぬことニ候、そハ同氏ニハ母あり妻あり子あり兄弟あり兎ても海外ニ留学などの出来る位置ニあらず、殊ニ今や日本ハ主之働の好時機也、この好時機を顧みずして若し目下働ニ要用なる小崎氏の如き者我も／＼と渡洋せバ誰人が好時機ニ応じて働くべきや、実ニ目下我党中にてハ小崎、伊勢、金森、海老名の輩こそ頼むべきの働人なるハ一目了然なること也、故ニ伊勢ハ四国ニ主之榮旗を翻かへし、金森ハ西国ニ、海老名ハ上州ニ、小崎氏ハ別して杞要なる日本大都東京ニ在リ幸ニ親しむ所の人も多し、是ぞ主より予へられたる屈強の働地也、必ず手ニ唾して此好時機ニ投して相働き東西南北応援して一挙勝を奏するの策を立つべき筈と存候、同氏も実ハ此事を知らざるニハあらねども、例の多端の癖が妨て充分精神を茲ニ注がしめず、或ハ洋行などの空想を發せらるゝことト存候、愛兄願くハ前件之情況を御洞察ありて後便充分ニ小崎氏ニ今之時を失はず、心を多端ニ渡らせず、一直線ニ精神をこめ東京ニ働かるゝ様御勧め可被下様願上候、かく申せバ少しく同氏を誘ふニ似たれども決して左ニあらず、人各短所なきハなし、同氏の一短所を挙たるのミ(同氏ニハ人之及ばざる善き所多し)、之も猥ニ人之短所を挙しニあらず、今同氏が心ニ多端の弊わだかまる時ハ同氏の不幸、宣教之不幸、且ツ麻布公会之振不振ニ関して預る所大なり、殊ニ麻布公会ニハ今会堂建築之事もあり、若し小崎氏が心浮雲の如くバ、其成功も或ハいかんと危まれ候程なれば時事ニ感じて止を得ず書つらねし義ニ候、野弟も成丈東京之為ニ力をつくし度候へ共何分翻訳之業頗る繁冗ニして思がまゝならず、故ニ只侍とする所ハ小崎氏なり、將た同氏心さへ専らニなし被下候ハゞ公会ニも全東京ニも大ニ益を与へんと被

存候間他事ハ全く断じ、唯だ一ニ伝道ニ東京ニ而精神を注がるゝ様いたし度候、警醒社之事ハ如何ニ相成候や、仮令

この事幸ニ立行やう相成候ても記者ハ我党中より他ニその人を撰びて当たる方よろしからんかなども思ひをり候、ナンデモ小崎氏ニハ早く多端の癖を取除かせ、一ニ精神を注がせる様助ケはからふこと肝要と存候

○澳國ニ信仰篤き人ニて好き学士ハなきや、御懇意之米人ニ然る学士を知れる者なきや、あらバ紹介書をもらひて宇野の方へ送り被下候て同國ニて信仰篤き好学士と交るやうさせ度ぞんじ候、恐々

83 四月二十三日 小崎弘道

①日本 麻府仲之町二十番地 ② Congregational House, 1 Somerset Street, Boston, Mass, U.S. A. ④墨

三月九日御認メノ芳翰正ニ落手忝ク奉拝読候、尚ホ御病氣御全快ニ赴カサル旨奉承ス、天父ノ御祐護ニテ速ニ御快復アラン事ヲ祈ル、次キニ迂生無事、伝道ニ従事仕居候間御安心被下度候、却説、警醒社之義ニ付キ色々御心配被下難有奉謝候、同志社之事ニ付テハ曾テ過日之書状ニテ申上置キタレバ其後ノ事情ハ多分御承知之事ト存候、一致教会云々ノ事ハ別ニ公ニ談判シタル訳ニテモ無之候、但シ委員ノ一名ヨリ若シ維持ノ法立タサルトキニ於テハ之ヲ引受クル存意ナキヤト問合セシ迄ノミニ御座候、然シ之ヲ為スニ於テハ全ク社ノ組織ヲ変セサル可ラサル事故甚タ困難ノ事ナリ、又一致教会、メソヂスト教会、アメリカンボールド一致シテ之ヲ助クル事ハ協フマシキヤト、略彼此ノ宣教師ニ

尋ね候得共皆々此事ハ到底行ハルヘカラサル事ト申サレ候、夫故何トゾ是非共アメリカンボールドヨリ扶助致シクル、ヤウ御尽力奉願候、日本在留宣教師云々ノ事ハ甚タ不審ナリ、グリーン氏其他教師ノ云フ所ヲ聞クニ警醒社ハアメリカンボールド宣教師ノ飽クマデ賛成スル所ナリ、其事トクヨリ本局ニ送り置キアル事ナルニ今更本局ヨリ其事ヲ問合スルハ何カ事情ノ行キ違ヒナラン云々、然シ此事ニ付テハ過日デビス、グリーン両氏ヨリ本局ニ申シ送リタル筈ナレバ多分其疑モ解ケシナラン、事成ルニ於テハ經濟ノ事ナドハ如何ニモ堅固ニ致ス積ニ御座候、編輯ハ是迄暫時一致教会ノ人ニ依頼シタルモ当人ノ都合ニヨリ之ヲ辞シタル故、再ヒ浮田兄ヲ編輯ニ雇入レル事ニ相定メ候、何分事ノ速ニ成ルヤウニ願度候

○会堂建設費ノ事モ御心配被下難有奉謝候、此教会員中皆々大ニ悦フ所ニ御座候、然シ此ニ疑ハシキハ過日グリーン教師ヨリノ言ニ、米國ヨリ金五百弗会堂ノ為メ寄附ストアリタル事ナリ、先生ノ話ハ此金ヨリ別ナルモノナルヤ、又別ニ五百弗ノ寄附アリシ外ニ千弗借用シテモ差支ハナキカ、尤モ当地ニテモ少クモ千円ハ募ル積リナリ、今二千五百円モアリタラバ可ナリ大ナル会堂ハ出来クベシ、若シ御申越之金員ハ全クグリーン教師ヨリノモノニ別ニシテ、又更ニ右金員ヲ借入レルモ差支ナクバ、右金員ノ御周旋ヲ希ヒ度存候、尤モ教会員全体ニハ未タ相談致サズ候

○迂生ハ去ル十三日ヨリ上州前橋及ヒ安中地方ヲ巡廻シ、去ル廿日ニ帰京仕候、前橋ト原市ニハ今度新ナル会堂出来タリ、前橋ノ会堂ハ幅四間長五間ニテ小ナルモノナレドモ、原市ノ方ハ稍大ニシテ幅五間長七間ニシテ頗ル壯麗ナル建築ナリ、富岡、高崎等ニテ説教会ヲ催フセシニ何レモ好都合ナリシ、此分ニテ進歩セバ上州地方ハ日ナラズ主ノ國ニナルベシ

此ハ兎ニ角、過日申上ケタル高知一件ヨリシテ奇異ナル結果ヲ生シ、当地一致教会ニテハ関西諸教会ヲ惡シ様ニ云フ

モノ多ク、為メニ双方ノ不愉快ヲ来ス事少カラズ、仙台ノ押川氏ハ数日前迄当地ニ滞在セシガ此等ノ影響ニヤ、遂ニ一致教会ト伝道ヲ共ニスル事ニ決セラレタリ、此ヨリ先キ伊勢兄ハ今度同兄カ編輯セラレタル組合教会規則ヲ押川氏ニ送ラレ、又ギユリーキ氏ハ仙台ニ到リ度キ旨ヲ押川氏ニ申送ラレタルガ、押川氏モ或ハ一致教会ノ人言ヲ聞キ関西ノ諸教会ヲ疑ハレタルヨリ遂ニ一致教会ト聯合スル事ニ決セラレタルナラン、致シ方ナキ事ナリ、但甚タ遺憾トスヘキハ高知一件ヨリ両教会ノ不和ヲ来シ、互ヒニ近時歐洲ノ侵略政略ニ似擬スル計画ヲ為スニ至ルヲ、一致教会ハ近頃頻リニ諸方ニ手ヲ出セリ、迂生ハ此侵略政略ノ如キモノヲ好マズ、成ルヘク平和ニ事ヲ運ハセ、何レノ処ニテモ教ノ伝ハル処ニ道ヲ伝ヘ教会ノ実力ヲ付クル事上策ナリト信ズ、殊ニ目下ハ成ルヘク一致教会ト競争スル如キ形跡ナカラン事ヲ要ス、押川氏ハ此ノ模様ヲ見テ大ニ両会ノ一致ヲ希望セリ、迂生モ之ニハ同意スル所ナレトモ但恐ル、ハ事ノ成ラサラン事ナリ

○迂生ハ来ル二十八日ヨリ神戸ニテ開設スル伝道会社ノ集ト京都ニ開カルヘキ大親睦会ニ行ク積ナリ、今回ノ集会ニハ十分主ノ恩寵アラン事ヲ御祈リ被下度候、近來諸方ノ教会トモ稍眠レルカ如キ有様アリ甚タ患フヘキ事ナリ、又近頃京都ヨリノ便ヲ聞クニ、信徒ノ生徒中不品行ヲ為シテ退校ヲ命セラレタルモノ七名アリタリト、歎スヘキ事ナリ、然レトモ今度ノ大親睦会ハ必ス教会ヲ復興セシムルノ機会トナルナラン

○宇野兄ハ去ル十八日当地出發ニテオーストリヤノ公使館ニ赴キタリ、加藤兄ハ多分前橋ノ学校ニ聘セラル、ナラン、植村兄ハ今度聖書翻訳ニ従事シタリ、憂フヘキ事ハ甚タセクタリヤンニナリタル事ナリ

○北海道ニハ誰カ行ク事ニナルナラン、ナレトモ右一致教会トノ関係アレハ余程注意セサレバ一致教会ノ人が其事ヲ妨クル事アルヤモ知ル可ラズ

○当地ハ大分春暖ニ赴キ候ガ御地ハ如何、主ノ為メ十分御自愛アラン事ヲ祈ル、草々頓首

四月廿三日

新島襄先生

小崎弘道

拜

二白、判妻ヨリモ宜敷申上候

84

四月二十七日

小崎弘道

④墨

数日前一書ヲ呈シ置キタルモ再ヒ三月十八日御認メノ芳翰ヲ領収セシヲ以テ更ニ此書ヲ呈上ス、警醒社之事ニ付毎々御配慮被下実ニ感配^(兩)之至ニ堪ヘズ、該社之事ニ付先般申上ケタル事ニハ少々御誤解アリシ事ト存ス、該紙ニハ未ダブレスピテリヤンボールドヨリ着手セシニアラズ、唯委員ノ一人ヨリ私カニ其意見ヲ問合セシノミナリ、迂生ハ又全ク該社ト関係ヲ絶チシニアラズ尚ホ常ニ之カ為メ尽力アルナリ、該社担当人ハ過日来變更シタレトモ是レハ別ニ主義ヲ變セシ訳ニモアラズ殊ニ来月ヨリハ再ヒ浮田兄カ編輯ニ従事スル積ナリ、ブレスピテリヤンボールドニ渡ス事ニ付キテハ委員中種々異論アリテ今ヤ見合セノ姿トナレリ、何トナレバ之ニ渡サバ全ク日本人ノ手ハ離レ警醒社ハ解散セ

サル可ラサルノミナラズ此迄ノ僅カアル負債モ社員ニテ負担セサル可ラサレバナリ、却説、御申越之コーオペレーションノ事モ容易ニ行ハレ難キカト存ス、何トナレバ昨年ノ末、在東京諸宣教師ノ集会ニ其意見ヲ問フタルニハ諸宣教師等ニ於テハ到底新紙ヲ扶クルノ見込ナキ旨ヲ答ヘタリ、此ヨリアメリカンボールド宣教師ノ尽力ニ由テ此事或ハ成ルヲ得ベシト雖モ、此事ノ成ルニハ少クモ此ヨリ四五月ノ日子ヲ費ヤサ、ル可ラズト存ズ、然ルニ顧テ警醒社ノ実況ヲ察スルニ漸稍ク此迄維持シ来リシトハ雖モ、尚ホ此上四五月ヲ維持シ得ルハ甚タ覺束ナシ、目下警醒社ノ有様ハゴルドン將軍ガカールツームニ於ケルカ如ク、援軍ノ未タ達セサルニ落城セントスルニ似タリ、今日ノ急場ニ臨ミ四五月ヲ費シテコーオペレーションヲ計リ居バ、到底落城スル外致シ方ナシト信ス、夫故御狀着次第、早速意見書ヲグリーン教師ニ送り何ニトカアメリカンボールドニテ致シクル、ヤウ早速本国ニ申送り被下度旨申送りタリ、宣教師ヨリ書狀着サバ必ズ其事ノ成ルヤウ御尽力アラン事ヲ祈ル○本年ノ伝道会社集会ハ来月一日ヨリ開場ノ積リ、迂生ハ之カ為メ明日当地ヲ出発スル筈ナリ、今度ハ関東伝道ノ為メ是非共左ノ二三条ノ相談ヲ遂クル積ナリ、第一、三人ノ宣教師ヲ東京ニ置く事、第二、関東伝道本部ヲ東京ニ置キ盛ニ上州、奥州、越後、北海道辺ニ伝道スル事、第三、邦語神学校ノ如キモノヲ東京ニ置く事等ナリ○新潟宣教師ノ評判宜シカラズ、之カ為メニ貴論ノ如ク当夏休業ノ節、松山兄ノ出張ヲ乞フベシ○北海道ニハ必ズ誰カ出張スルヤウニ定マルナラン○Misses Alden 方ニ宜敷御伝声ヲ乞フ、同氏ヨリ問合セノ三原親輔氏ハ目下当府下谷教会ニ出席セラル、其信仰堅固ナルカ如シ、追テ書狀ヲ同氏ニ呈スベシ

四月廿七日

小崎弘道

拝

85 六月十八日 同志社邦語神学第三年生池袋清風外八名

①日本 京都同志社 池袋清風外八名 ②Care of Hon. Alpheus Hardy Esq., Bar Harbor, Maine U.S.A. ④譯

扁楮欽而啓上、時下梅霖之候、俯而惟れば校長閣下起居清寧益天父之恩下に沐浴被成欣喜不斜奉祝候、弟等一統無恙勤学罷在乍憚御安慮を垂られんことを乞ふ、扱、先生御遠遊以来殆んと一裘葛余、爾来専ら御撰生之由、就而者目下在再御快復之趣、百事御煩悶中尚弟等を回顧し玉ひ、為めに御錦書を煩はされ其刻々領承仕、御心切之段千万無辱奉万謝候、然るに弟等よりは心外之御疎遠に打過ぎ、一回の御伺ひも不申上、多罪々々千万御寛恕被下度奉願候、定めし如何様御恠訝之事と奉存候、実は毎々先生之御恩愛を懷ひ御左右をも御伺可申存居候得共何分遠隔之地と云ひ、御不予中と云ひ、却て御煩擾を憚り乍遺憾枉けて口を箝し罷在候事に御坐候、何卒此段不惡幾重にも御諒察被下成度奉願候、回顧すれば弟等神の御導きによりて当校に入校、以来既に三星霜を経過し、其際多少之困難ありしにも拘らず天父の優握なる恩恵と校長及び諸教師の推輓慈愛とによりて無恙勉学罷在候、就而者愈々本月廿七日を以一統卒業致し候間此段乍略儀片紙を馳せ御参礼申上候、爾後所在に散居し、各自応分之伝道を目的とし神の栄光を現はすべく存念ニ罷在候、聞く処によれば、先生来る十月頃より帰途に上られ候趣き、不日の御拝顔を期し一統欣抃屈指相待居申候、吾国基督教之勢力者瞰光之昇るか如き好景況にて、上下貴賤競て真理を求め飢餓も啗ならず、独り恨らく者目下吾国需用と供給と不相償、偏重偏輕之恐れも有之、惟此上者 神の聖意に相適ひ候良将神卒の所在に崛起して千歳之

暗黒を踏破し、勇々敷大捷を奏せんことを一統常に唇を併せて祈り居り候、願く者、先生鉄石の健康を得て速に吾邦に帰り弟等之如き愾兵驚卒を鞭撻し、一層之御奮励下されんことを今より^{〔熱〕}熱望いたし居候、先者右御参礼旁御見舞迄呈寸毫候、頓首肇白

明治十八年六月十八日認メ

邦語神学第三年生

池袋 清風

足立 琢

馬場種太郎

加藤 寿

木下金太郎

宮川富二郎

辻 籌夫

須田 明忠

小野 忍

校長新島襄先生閣下

尚々時下將に炎熱^{〔熱〕}に向へんとすれ者先生何卒真神の爲め、国家の爲めに御自愛あらんことを祈り候

再白、御留主御家族御一統様靈肉ともに御清勝に被被在候間、御放念あらんことを乞ふ
三白、過日当校諸教師を聘し、英邦兩神学生一統写真を摸し候ニ付、右屯葉先生に御送呈可仕存意ニ有之候
処、何分遠隔之地殊に不日御帰国之御様子承り候ニ付、乍不本意御留主宅へ差出置キ候間左様御承知被下度候
也

86 六月二十六日

蔵原惟郭

① Mt. Hermon Boy's school, Northfield, Mass. ② 4 Joy St., Boston, Mass. (Mr. Hardy's home) → % President Seelye Amherst, Mass.

④ 墨

乍恐急書御返事奉祈上候

奉拜呈候、伏而惟ルニ先生万福小子天父之寵愛ヲ蒙リ幸ニ無恙乍憚放懷シ玉ハン事ヲ祈ル、却説、過日御奉酬旁我儘
願上置候処、マツコオ、ン氏之神政論、スミス氏之神学、直ニ御慮投ニ相成、先生之小子ニ於ル愛情不過之、奉万謝
候、伏而希クハ高察アラン事ヲ祈ルナリ、殊ニスミス氏之神学ハ頗ルシステマテカルニ詳論セルモノ、如クニ思考
ス、之ヲ読テ必ス大益アルヲ信ス、ホント氏ハ一覽仕候、スミス氏ニ比スレハ論鋒英敏ナラス、浅薄^(ニ)シテ尽サル
処アルニ似タリ、然レトモ同氏ニ申テ神学ノ大意ヲ知ヲ得タリ、当校今週ヲ以テ休業トス、因テ可相成ハ休業中^(ポスト)坡

府^ン當ニ於テ旅館或ハ食店之如キ処ニ勞役シテ聊カナリト雖金錢ヲ儲サレハ不可ナリ、当校ニテハ勤勞賃薄クシテ以テ

儲金スルニ足ラス、因テ休業中此策ヲ果サントス先生以テ如何トス、二三日前在坡之友人之原君ハ此段聞合置候、何

レ近日何トカ報道アルヘシト信ス、先生ヘハ御見込有之間數ヤ奉伺候、^(Bangor, Chicago Theological Seminary)バンゴルチカゴ神学ヘハ御掛合中ト奉

察候、ソーヤル氏ハ幾分カ小子カ為ニ週旋^(週)アルモノ、如シト雖トモ小子ヲ以テ *Self Confident* ニ過ル者トナスニ似

タリ、且ツ神学ヲ第一トスルヨリハ実務ヲ以テ第一トスル者ニ似タリ、想フニ是ムーデ氏之精神ナラン、ソーヤ氏曰

ク、^(Hartford)ハルトフルト大学ハ尤モ好キ学校ナリト云ヘリ、先生知リ玉フヤ否ヤ、先ハ要用事件并ニ奉謝迄、草々頓首

六月廿六日

北野^(Northfield)

惟郭

在坡府

新島先生

二白、此愚書認ムルニ臨テ勃々乎トシテ慷慨シ思想発ス、不覺汚玉竭シテ一詩ヲ作テ奉仰、高覽呵々

浮沈得失任天意、々々分明有所由

慷慨惟磨魂一片、精神偏在照皇州

伏而乞叱正

阿蘇山人

乍末華赫炎々時、乞為国家玉体御保養アラン事ヲ天父ニ祈テ止マサルナリ

87 六月二十九日

山本覚馬

④墨 ⑥代筆

一別以來ハ絶て御左右も伺ひ不申上御寛恕可被下候、小生モ幸ニシテ身無恙神恩之下ニ起居安康ニシテ渡光籠在候間御休神ヲ奉乞候、扱此度者御懇愛身ニ溢ル、計ニ御恵書ヲ賜リ感喜奉拝読候、小生モ兼て御承知ノ通身不自由ニシテ是迄尊下及ビ諸兄より主ノ救、道ヲ被説已^{〔敬填・以下同〕}□十年ノ星霜ヲ相経候处、近来ニ至リ□リニ良心洗礼ヲ受ン事ヲ望ミ、神誘日夜ニ加ハ、リテ断シテ此礼ニ預ラズンバ心中不安ノ思ヲ起シ来ルニ付此度受洗仕候、幸□御祝謝可被下未ダ聖書ニモ暗ク諸事□不行届ニ候得共兼てノ素志ハ尺寸モ退カズ、生已ニ老ヒタリト雖トモ此心未ダ不盲、偏ニ御安慰可被下候、寔ニ此度ハ過分ノ御賞辞ニ預リ難有奉鳴謝候、小生受洗ノ事ヲ御喜ビ被下候ハルデー様御夫婦へ呉々モ宜敷御礼御陳被下度候、尊下神ノ為、国家ノ為、折角御身御大切ニ奉願候、草々拝白

六月廿九日

山本覚馬

新島襄様

88 六月 大儀見元一郎

④ 墨

弟不肖ニして第四回大親睦会之議長ニ被挙其故ヲ以テ全会ニ代リ聊か兄之同会ニ恵レシ書ニ答ントス、抑大親睦会之代員者西より東より南より北より各西京ニ来集し広ク日本基督教会之為メニ計リ大ニ其目的ヲ達し將ニ洛陽ヲ去ントシテ独リ恨ム処者兄ヲ見サル一事なり、兄之西京教会ニ属スル者嵐山鴨川之西京ニ属スル如し、西京教会之厚待ヲ受ケ西京信徒之愛心ヲ覚え、西京姉妹と交ルヲ得此ニ一週間、而シテ独リ兄者数千里外ニ客タルヲ以テ相見ヲ不得、固より之ヲ主之摂理とせん歟余輩甘ンシテ従フ而已、然レとも之ヲ私情ニ訴レハ黙シテ止ヲ不得、幸ニ開会ニ際し兄之尊信ヲ辱し右喜而不堪、然レとも其書ニ拠レハ代員輩之情、憂歎相半ハスルヲ免レス、即チ一ツ者兄肉躰者遠ク北亞ニ在ルも精神者我大親睦会と共に在シ事、一ツ者兄遙ニ愛スル家族ヲ離レ客土ニ客とナリ肉躰ニ患アル事等ヲ知ル是なり、余輩全能之神ニ祈リ兄ヲシテ健且強ならしメ尚数年我日本之為メ我主之榮之為メニ神之器械タラシメン事ヲ望ム而已、兄之西洋ニ渡ル豈養痾之為メならん哉、蓋シ大ニ為アラシヲ望マル、も余輩堅ク信シテ已す故ニ主之常ニ兄と共に在リ、兄之行処ニ行キ、兄之止ル処ニ止リ、兄之事業ヲ祝福し給ハン事ヲ祈ル而已、我弟今回大親睦会之景況者業已ニ新聞ニ又通信ニ由リ知り給ハン事ヲ察ス、故ニ此ニ贅せず、唯弟之演ントスル者其議事タル一致之精神ニ出テ其奨励之言タル、熱心中ニ充テ外ニ溢レシモノなり、各代員其他其席ニ列リシモノ者大ニ靈直益ヲ得タリ、又聖靈之感化〔恩〕ニ由リ己レ之罪ヲ感せし者も少カラず神之我大親睦会ヲ祝福し給フや如此、故ニ其会ヲ終ルニ当リ各

之ヲ惜シム之情アルヲ免レス、両日之演説会も盛ンニシテ其結果者必後來漸ク見ルニ至ラン、演説者之精神も進撃ニして退守ニ非ず、然レとも公衆者皆謹聴せり、彼之嵐山之郊遊之如キ一大快樂と云テ可なり、代員輩ハ当日夙ニ腕車ヲ走セテ亀岡ニ至リ、其より舟三艘ヲ浮ヘテ保津川ヲ下レリ、其水路之壯觀者今之ヲ兄ニ説クヲ要セす余輩頻リニ造物者之妙工ヲ歎賞せし而已、此日ヲ以テ全ク大親睦会ヲ終レリ、爾後各帰路ニ就キ其途次基督ヲ所々ニ説キ其結果も已ニ少シと為〔サ〕ず、深ク神ニ謝ス処なり、次回明治二十年之同盟会者東京府下ニ開カン事ヲ決せり、其会タルヤ兄必来会スルアツテ今回之失望ヲ補ハレン事ヲ今より切ニ望ミ候、終リニ兄幸ニ弟之多忙ヲ察シ此便書之今日ニ遅引せシヲ許し給ハン事ヲ願フ、敬白

六月

大儀見元二郎

新島愛兄

89 七月十三日 下村孝太郎

② Care of Hon. Alpheus Hardy, Boston, Mass. U. S. A. ④ 墨

私モ八月上旬ニハ熊本ヲ立退キ可申候

六月四日ノ御書状正ニ相届キ拝読仕候、然バ彼事件ニハ怪からぬ御世話ヲ被リ其上ニ留守中家族ニマデ御恵金なし被

下トノ思召、何トモ御礼申上方ナキ事ニ御坐候、一時拝領可仕候、御洪恩ノ限り何ノ世ニカハ忘レ申サン神前ニ謝候事ニ御坐候、然ル上ハ正敷米国留学ノ都合出来タル者ト心得申候、旅費ノ所ハ既ニ湯浅吉郎君カ其母ヨリ内々受ラレタル金子三四百円有ル中ヨリ私ニ二百円丈無利足ニテ貸シ申ス様ニ相成候間之ヲ借用致可申候、二百円有レバ今日ノ旅費ハ足り可申ト存候、其上デビス、グリーンノ両師ハ早キヨリ愈々打立ノ日ニ相成申サハ幾分カ寄附セント兼テサレタル事モ御坐候へば、衣服等凡テ打立ノ仕度ハ之ニテ足レリト存候、代人ノ処ハ教師中皆打集リテ相談中ニ御坐候、浮田ハ近頃洋行ノ事断念ニ御坐候、来京ノ志アルカ如ク聞及候、市原、森田ハ私洋行ニ付キ大ニ同意ニ御坐候間乍憚御安心被下度候、私ハ何時タリトモ打立出来可申候、留守中母共ハ熊本ニ存し置申候、御書状到来ノ時ハ私事熊本ニ在候、奥様ニモ御面会申上テ御相談申上クル事出来ズ残念此事ニ御坐候、只愚書ヲ呈し御書状ヲ封込ミ御回送申上候事ニ御坐候、先生ノ御恩ニ依リ安心シテ古郷ヲ立退キ申ス事出来可申候、愚母諸共ニ御書面ヲ拝見シ落涙仕候事ニ御坐候、寔ニ先生ハ我父ナリト思候、此度打立テ留学ヲ遂ケ後志ヲ達シテ帰朝致サバ我カ得タル処凡テ先生ノ賜ニ外ナラズトコソ思居ル事ニ御坐候、愚母モ愈々一決シ悦ヒテ私ノ打立ヲ見送ルトマデ申候事ニ御坐候、先生万国ニ御遊ニ相成リ御入費モ多クアラセラレシニ、月々ニ五円マテモ御恵下サルトハ実ニ恐レ入リタル次第ニ御坐候、心苦シキ事ナレドモ一時拝領致可申候、何時カ亦報恩ノ時モ是アルヘク存候、私ノ如キ不運ナル者亦私ノ如キ好運ナル者ハナキ事ト存候、一錢ナシニ英学ヲ遂ケ、一文ナシニ洋行ヲ致ス、天ノ恵之ヲ去リテ何処ニ在ランヤ○市原ノ事ハ嘸々御心配ニ相成リタルト推察申上候、一時御申越ノ通りノ覚悟ナリシカ朋友前後ノ勸メニ依リ同志社内ノ伝道ヲ受持校内ニ関係シテ京地ニ留ル様ニ相決し申候、既ニ同人ヨリ御報道申上候事ト存候、先づ御安心被下度奉願候兼テハゼルマン語ヲ始メ度心組ニ御坐候処、時迫リ打立ノ仕度ニ時日ヲ要スル事ナレバ此儘ノ有様ニ打立可申候、兼

〔Vocational Institute〕

テ聞申候ニハウーストルノ専門校ニハゼルマンヲ大事トスト思候事ニ御坐候、スチンブソン氏モウーストルニ在リ、又フーロル先生ハ彼校ノ校長トカヤ、皆グリーン先生カ知人ト聞及候、然バ願クハウーストルノ専門校ヘ入校シ度存候、尤モ初学ヨリ始メ度心組ニ御坐候、近頃湯浅君モ洋行ノ志御坐候、此人ハ十分学資モアリ何時モ出掛出来可申候、私行ク時ハ一所^{〔緒〕}ニ行ント約束致し置候事ニ御坐候

先生ニハ何時頃御帰朝ニ相成申スヤ、米国ニテ拝顔可仕存候カ、此事出来可申ヤ、願クハ此事ヲ果シ度存候、兼テ十月頃ニハ御立退ニ相成ルト聞申候カ然バ愈々御拝顔ヲ得可申樂ミ居候○ブララン夫人ニハ宜敷御伝声被下度、其宿所ヲ知り不申候間礼書ヲ只今差出スト云フ理ニ行カズ、先生ヨリ承ハリテ後出サバ私ヨリモ却テ後ル、ト存候、何レ面会シテ礼ハ可申候

七月十三日

熊本県下託摩郡本山村御殿跡 石光方

下村孝太郎

新島襄先生

玉机下

同志社ノ事ハ御安心なし被下度候、私此度ノ洋行ニ付キ決シテ大ナル變動ハ之ナキ事ニ御坐候、先日モ一寸申上候通りゲーンズ氏ハ好キ教師ニ御坐候、私ノ代人ヲ致サルヘク候

グリーン先生ニハ万事相談致候間御安心被下度存候、早速書状ヲ遣し、御申越ノ趣キ報道致し置候、此夏ヨリ^{〔ママ〕}打立ノ事ハ先生且氏ノ之ト望マレシ事ニ御坐候

90 七月十三日 杉浦義一

②% Mr. Langdon S. Ward, No. 1 Cong. House, Boston, Mass. → %
Hon. A. Hardy, Bar Harbor, Maine ④墨

明日出船日ト聞キ倉卒相認め前後乱雜御推説被下〔度〕候〔脱カ〕

主の御恩下ニ厚ク御養生も相調ひ、愈々御全快ニ御運ヒ被成候様ト祈居候、定テ当方ヨリ急ニ難件ヲ申上候テ屢々貴
聴ヲ煩ス事ナラント推念致候、先般京都ニ於テ大親睦会の際、先生ヨリノ芳書ヲ拝聞致候ハ、御書中ニ依レハ御快
方ノ運忽卒速ナラサル趣キ、甚タ残念ナカラ外ニ尽ス可キ術無ク只タ神前ニ御全快ノ運ヲ偏ニ祈候、冀クハ御全快の
上且つ御宿望モ相達シ、速ニ御帰国ノ期ヲ屈指待居候、過日大親睦ノ景況并ニ当夏休校中諸士各地ヘ伝道ニ派出致シ
タル事等ハ定テ既ニ御承知ト存候間別ニ贅セズ、先生モ兼テ御心ニ掛ラレタル土佐高知ノ伝道ハ近来次第ニ好都合ナ
リ、一致教会ハ昨冬ヨリ着手致シ既ニ近頃一教会ヲ設立シ、之レニ属スル信徒殆ト四拾人余ナリ、片岡氏も其ノ中ノ
一人ナリ、^(E. R. Miller)ミロル氏該教会ノ仮牧師タリ、右会員中ヨリ集ル寄附金貳円七八拾錢ナリト、教会ハ既ニ設立シタレ共我
カ組合伝道会社本局ノ伝道地ニ於ケル如キ仕方ナリ、故ニ教会ハ伝道会社ノ支配ノ下ニ有ル者ノ如ク思ヒ居候、弟等
ニ於テハ甚タ残念ノ至リニ存候、当方ヨリハ本年二月着手已来既ニ受洗シタル者拾四人、内男九人女五人未タ教会ハ
設立致サザレ共、講義所ノ家税并ニ伝道者新原俊秀氏ノ月給等ニ至ル迄右信者中ヨリ自給ノ姿ニ御坐候、尤も新原氏
ノ給料ハ僅カ五円ニ未滿ナレ共、氏ハ夫ヲ甘シ満足致居候、此ノ精神頗ル該地伝道上ニ好景況ヲ与ヘ候、目下洗礼志

願者モ続々増加致候、幸ヒ此ノ節者休暇ノ際、高知産ノ同志社生徒三四人者帰郷致シ、専ラ新原氏ヲ相助ケ働居候、今日ノ有様ニテ進メハ本年内ニ完全ナル教会設立ノ日有ルナラント希望シ居候、先生御出帆後基督教ノ日本全国ニ於ケル有様ハ非常ノ進ヲ得タル事ト存候、然シ教会内ノ実景ハ別ニ異タル進モ無之也ニ被存候、諸テ万々不得止爰ニ貴聴ヲ煩ス一事件有リ、先生モ御透知ノ通り本会多聞会堂新築後金員不足上ノ大困難ニ御坐候、其ノ見積リ方ハ

一金貳千貳百五拾円也 新築費地代并ニ堂内備附品代

一金老千九百円也 既約寄附

一金貳百五十円也 建築ノ為メ從來積立金

右ニテ出入百円ノ相違有レトモ見込立ツ者トシテ建築ニ取り掛リシ所、実地ニ当リ作事方ニ於テ貳百五十円ノ増額ヲ生シ、且ツ商法上非常ノ不景況ヨリ信徒モ格外ノ貧困ニ陥リシ者多ク、為メニ非常ノ奮發ヲ尽シ候得共中ニハ主人タル者ノ眠ニ就シ者有、旁以テ三百円程ハ約定ノ通り出金スル能ワズ、又從來新築ノ為メ積立金貳百五十円、是レハ貸附ケ置シ所、同断不景況ノ為メ五十円者迎も返却ノ見込ミ無ク前後七百円ノ不足ヲ意外ニ生シ、此ノ七百円ノ為メニ毎月拾四円ノ利子ヲ支払ヒ居候、今尚ホ七百円ノ不足ナレ共、爰ニ到ル迄ニハ非常ノ策ヲシテ出金致シタル事実ニ有之候、目下当港辺ノ不景況実ニ氣の毒、見ルニ忍ヒサル有様ナリ、右金難の為通常集金高モ次第ニ減少シ、從テ伝道ノ働モ暢ビズ宣教師アツキンソン氏モ非常ニ色々ト尽力致異候得共何分良策無ク、遂ニ宣教師ノ年会ニ此ノ難件ヲ提出シ米國ボードニヨリ無利子ニシテ右七百円ヲ借用シ年附^賦ニテ返却致度、宣教師方ニ於テモ色々ト協議被成下候得共、遂ニ此ノ事モ調ワズ、既ニ百方策竭テ困却極ニ迫リ候、会堂ヲ抵当トシテ不信者ヨリ借金スルハ万々忍ヒサル事ナリ、又主ノ名ヲ汚シ相成候得者能ワサル次第ナリ、信者中ニ不動産ヲ持ツ者モ有レ共此ノ時節柄何れも抵当ニ入レ

居候間会堂ノ代ニ致ス事モ六ヶ敷ク候、此ノ情実御透察被成下候テ幸ニ本会の為メニ無利子ニテ返却ハ年附ニシテ貸呉レル策者御知己中ヨリ御取計ハ出来難キ者也、伏テ御相談申上候、右者御依頼旁申上候、□□草々不一

明治十八年七月十三日認ム

杉浦義一

新島襄先生

閣下

主ノ格別ノ御恩下ニ貴重ノ御身ヲ幸ニ厚ク御祝祐有ラン事ヲ冀フ

91 七月十四日 山崎新太郎

①日本 羽前米沢元東馬喰町 ②% Hon. Alpheus Hardy, 4th Joy Street, Boston, Mass. → % Mrs. A. W. Hill, West, Gouldsboro, Maine ④認

早や更に五月雨之候ニ際し最とも不堪懷旧候処遙々最良之珍書を御惠贈被成下御鴻恩之至不堪感佩深く奉拝謝候過日御内室様より御遣し被下候玉章を拝読仕候処御病症之儀漸々被為趣干御快氣候由欣悦至極ニ奉存候、唯今は如何被遊候哉斯際頻りに治療を竭され一刻も速く御平癒被為在候様公私之為め日夜奉祈禱候

錦地の文明を熱望し身の不肖なるを顧みず竊かに自分担任し乍不完全陶冶ニ從事罷在候処追々生徒増加し、目下、二

百余名ニ相及び内寄宿舎ニ寄寓するものは殆んど六拾名ニ相近付き候、今日までは株主は当地の六千戸の士族に限るの約束ニ御座候ひしが、今度は誰彼れを問す当地ニ居住する者は悉く株主たるを得る事ニ取極め候、然るに株主を求むる者随分有之候、尚ホも規模を拡張し瘞れて已まんにと覚悟を定め候得共乳臭の拙者兎角教育之大義を誤る恐渺なからず、依て一層の御教訓被成下候様奉懇願候

去る五月中、当校生徒竹前又次郎と申す者御校へ入学志願ニて上京致し万事御内室様の御配慮ニて入校致したる趣き申来り候間尚御教育被成下候様奉頼候、当年は凶荒の徴候ありとて上下一般ニ兢々致し居り候処、去月下旬より全国一般ニ霖雨降り灑ぎ全国の大洪水と相成申候、就中、肥後、筑後、摂津、河内、大和、伊勢、美濃、信濃、遠江、駿河、越後の諸国は其甚しき所なる由其頃の新聞ニ相見江候、殊ニ劇しきは大坂府之由、流失したる橋梁とて新聞ニ掲けたるを列挙致し候はんニ天神橋、千代崎橋、大江橋、難波橋、天満橋、渡辺橋、栢檀木橋、田簀橋、淀屋橋、玉江橋、肥後橋、堂島大橋、筑前橋、船津橋、常安橋、京橋、越中橋、清水橋、湊橋、備前島橋、木津川橋、安堂寺橋、亀井橋、安綿橋、大浅橋、川崎橋、松島橋、大平橋なる由ニ御座候、東京の出水は東京ニ取りては近来ニ稀なる大水ニて弘化三年丙午の出水以来蓋し今日程の事なしと云へり、東京は去月下旬より降り続きたる霖雨は卅日ニ至りて遂ニ強雨となりたれば府下低湿の地は何れも溝瀆の水溢れて街路は一面之水となり家屋の床を浸せる処も少なからざる由、又荒川、利根の水勢二日の夜ニ至り急ニ増し千住大橋、吾妻橋を押流したる由ニ御座候、元来千住大橋の杭は徳川二代將軍の治下伊達家の献進ニ係る楠揃ニして、其堅固なる事二百余年間橋板は取換るも今日ニ至りて依然欠損する所なかりしものなる由ニ御座候、御地方ニも水害有之哉ニ聞及び候故不取敢以書中御伺仕候得共、未だ御返書ニ接せざるを以て其詳細を知るに由なく候得共、新聞の報道するニ依れば鴨川筋の仮橋は悉く流失し残るものは賀茂、荒

神口、御幸、丸太、二条、三条、四条、松原、五条の九橋と有之候得ハ大に安堵仕候、時下大氣温熱変更之際御保養
張要ニ奉存候、右御礼申罄し度御機嫌御伺まで如斯御座候、草々頓首

七月十四日

新太郎

拝

新島大人

玉机下

92 七月十五日 大儀見元一郎

①日本 東京市谷仲之町八番地 ②Care of Hon. A. Hardy, Boston,
Mass. U. S. A → % Mrs. A. W. Hill, West Gouldsboro, Maine ④墨
⑥日付は消印による

聖書翻訳之業も追々捗り、既ニ京橋日吉町十四番地ニ翻訳所ヲ開キ、訳者者松山、植邨、井深之三氏ニ而詩篇之校正、伝道書之起草其他成り候故御よろこひ可被下候、井深氏者兼而約せし如ク、六月限り翻訳ヲ辞し候故、当時訳者者二人ニて、是迄松山、植村之両氏者訳者ニして委員ヲ兼居候処、此程両氏とも委員之他ヲ辞し翻訳専任ニ相成候、是者事情大ニ都合よろしく候、其代りとして監督教会之牧岡鉄弥、美以美教会之相原英賢之両氏ヲ依頼いたし候、當時者木邨熊^{〔次〕}二氏者會計、弟ハ書記ニ有之、何分今ニ集金之充分ならざる処より大ニ困難ヲ生し居候、前大親睦会ニも諸代員江此事ヲ托し候間追々集り方よろし^{〔く〕}成事ニ存候、先者此義別紙ニ弁而御通知申上度、如此草々

七月

大儀見元一郎

新島愛兄

折角御不快御大節ニ被成候様願候、御帰朝者何時頃ニ候哉、御無事ニ御帰りヲ待候事ニ候

93 七月十八日 小崎弘道

④墨

(P.P.) 別紙書狀タウロツト女教師へ御届ケ被下度奉願候

五月廿二日及ヒ廿四日御認之芳翰前回之メールニテ落手仕候、先生ニハ爾来御無事ニ主之為メニ御勤勉之趣キ奉賀候、却説、警醒社之事ニ付テハ一方ナラサル御尽力ヲ蒙リ難有奉謝候、右一条モアメリカンボールドヨリ先ツ本年丈(巷ケ年)八百弗之補助ヲ致ストノ返事ヲ受ケ実ニ欣抔之至ニ存候、早速前途之立行キノ方法ヲ考へ、此迄ノ方法ヲ一変シ雑務之事ハ一切横濱製紙分社大西正雄ト申ス人ニ委任致シ、浮田兄ヲ以テ専任之編輯人トシ、迂生傍ハラ之ヲ補助致シ、其他全体之総轄ハ迂生之ヲ務メ、他ニ湯浅治郎、井深梶之介、三浦徹、秦吞舟之四君委員トナリテ之ヲ助

ケ編輯之事モ整頓セシムル積ニ御座候、此分ニテハ益盛大之勢ニ運ハンカト相樂ミ居候、尚此為メ常ニ天父ニ御祈リ被下度候、又右之次第クラーク先生ヲ始メトシ其他ボールド之委員諸氏へ御通達被下度候、一致教会トノ關係ニ就テハ先々ハ如何ナルヘキ乎、今ヨリ定メ難ケレトモ同教会ボールドヨリモ之ヲ助クル事ハ或ハ難キ事ナランカト存候、唯稍心配致ス所ハ或ハ将来外ニ一致教会之機関タルヘキ新聞ヲ起シ我カ新聞ト拮抗センコトナリ、然シ此モ近々ニハ無之事ト存候○浮田兄^{〔カ〕}へ関ハル事ハ逐一貴論之趣キ通達仕候、同兄洋行ハ今回暫時中止スル事ニ相成リ同兄は爾後専ハラ新聞ニ従事致ス事ニ相決セラレ候、此義御安心被下度候○当地教会モ近来ハ少々進歩致候、今回長田兄^{〔時行〕}帰京ニ相成候故爾後ハ一層進歩致スナラント相樂居候、此度ハ長田兄、松山兄及迂生三人各其受持場ヲ定メ伝道仕ル運ニ相談仕候、当地ヘ宣教師ヲ招ク事ニ就テハ其理由ハ多分松山兄ヨリ申上ケシナランガ東京并ニ東京近傍之伝道ヲ盛ニスルニハ目下ノ工人^{ハタラキテ}ノミニテ甚タ手少ク迫モ著シ進歩ヲ見る事難し、且つ此迄ハ宣教師ヲ輕別スル風盛ナリシモ近来世上ノ風潮一變シ西洋ノ事モ何テモ好シトスルノ風ニ相成候故宣教師モ以前ヨリ一層ノ尊敬ヲ受クルニ至レリ、且又東京ハ広キ地ナレバ爰ニ幾人ノ宣教師ノ入り来ルモ他ニ何ノ感格ヲ感セサル事ト存候故他教会トノ關係ハ心配ニ不及候、此義ニ就テハ已ニ京都ニ掛合ヒグリイン、ゴルドン両氏カ若シクハ両氏之内一人当地ニ来リ呉ル、ヤウ相談仕候得共、両氏共同志社ヲ離レ難シトテ其義未タ相行ハレズ候、グリイン教師ノ言ニテ、当時米国ヘ帰省中ナルタウカツ女教師ヘ東京ニ来ルヲ乞ハ、如何トノ事アリシガ此義ハ迂生等ノ尤モ同意スル所ナリ、先生ニテモ若シ右女教師ヘ御面会カ又ハ書状ヲ御送アル事アラバ其事ヲ御勸メ被下度候

○福島地方伝道之事ハ迂生等ノ尤モ渴望ス所ニテ御座候、此義ニ就テハ過日来関西之諸教師ニ相談仕候得共何分然ヘキ人無之旨ヲ以テ未タ之ヲ賛成致スモノ無之候、先日モ已ニ其義ヲグリイン教師ニ相談仕候得共唯目下致シ方ナキト

ノミ申サレタリ、奥州地方之伝道ニ心痛致スモノハ目下松山兄ト迁生ノミニテ余ハ唯眼ヲ関西地方ニノミ回ラシ他ヲ省ルノ暇ナキカ如し、此義ハ頗ル心痛致ス事ニテ御座候、然シ本年ヨリ関東地方ニ二名ノ伝道委員ヲ置キ右委員ニテ伝道ノ計画ヲ為ス運ヒニナリタレバ多分従前ヨリハ都合宜シカラント存候、已ニ当夏ヨリ陸中水沢ニハ片桐氏(清世)伝道者トナリテ出發致サレ候○迁生一身上ニ就キ懇々御忠告ヲ辱フシ欣喜措ク能ハズ、爾来先生之御忠言ヲ簪々服膺セン事ヲ期ス、尚此上御心付ノ処又迁生ノ為メ心得トナルヘキ事ヲ時々御忠告被下サラン事ヲ奉願候○迁生洋行云々之事、昨年冬先生御意見ヲ伺フタル以来色々考ヘタル末、遂ニ放棄致ス事ニ決候(但シ二三月ノ頃ナリ)熟目下ノ形勢ヲ考フルニ唯一人ノ学門(門)ヲノミ省ル時ニアラサレバ一身ヲ全ク主ノ御導キニ任セ如何ナル事ニテモ之ヲ為シ之ニ安セント相決候、右先目下要件マデ、草々頓首

七月十八日

小崎弘道

新島先生

二白、近来ハ各地トモ非常ノ疲弊此先如何ナル果ツヘキヤ皆々心配罷在候、カ、ル故過日来之霖雨ニテ各地共前代未聞之大洪水、殊ニ大阪ノ如キハ大橋ハ大概流失シ且ツ死傷者モ少カラサル趣キ、サナキダニ困却致ス処ニ斯ノ如キ災害アリ、我国靈肉共危急之時ト謂ッベシ、愚妻以下家内一同無事ニテ御座候得者御安心被下度候

94 七月二十日 松山高吉

② Congregation House, 1 Somerset Str., Boston, Mass. U.S.A. → %
Hon. A. Hardy, Bar Harbor, Maine ④ 墨 ⑤ 日付は消印による

両通之貴書（後ナルハ六月四日御認ニ係ル）難有拝読仕候、御宿病中懇々細々尊旨在る所を教示なし被下件々肝銘いたし候

再三惠字を読んで一ハ喜び一ハ恐れ申候、喜ぶの故ハ愛兄之御病近頃非常ニ重り人と面晤し筆とることなどハ医師禁じたりとの風説を伝聞し愚翰を送呈するをも憚り四五之友と相計り愛兄之為ニ時々祈禱を始し折からなれば其直書を見て御病の幾分か緩ミなるならんと思へバ也、又恐るゝ故ハ異郷ニ在て御身病床ニ臥しながら遠く故国之事ニ熱衷し万般ニ思ひを焦し給ふニより大任を負ふ君ニまたゝ病魔之押し迫らんことを危ぶめバ也、願くハ愛兄よ、主之事を思ひ国之事を思ひ、三千七百万之塗炭を救ひ、旧慣之汚物を一掃し真誠之天国を日本ニ臨ましめんと望ミ給はゞ、假令万感身に迫るとも断然除き棄て病魔ニ勢を逞くするの機をあたへ給ふ勿れ、他日之働之為ニ充分身を養ひ給へ、主之為ニ自重し給へ、郷国之為ニ自愛し給へ

○警醒社之事ハ段々の御尽力にていよく本月十七日ニ休刊をときて再び発兌いたす様ニ立いたり候、今や浮図氏等も非常なる奮発にて新聞ニ雑誌ニ演説ニ法話ニ百法手を尽し居るの時なれば、我が基督教教ニも必ず之ニ相對して主義を公けニする器具なかる可からず、殊ニ日本之大都たる政權學力之集処たる東京ニなかる可らざるの折から、再び該

新紙之活ることを得しハ天父我が日本を捨玉はず、我が日本を垂憐したまふの恩慈ニ出ることゝ感謝ニ堪ず候、又米
 国兄弟之我が日本を愛するの深きの致すところと喜び身に余り申候、警醒社之細かなる事柄ハ小崎兄より陳述いたす
 筈ニ付別段弟よりハ申上べからず候

○浮田之事ニ付御心配を相掛申候、仰越しの趣早速本人ニ申きけいらたゞ主之許し給ふ時を待べきよし伝へ置申
 候、野弟も固より資金なしニて欧米之大学ニ遊ぶことの難きを知り且ツ愛兄ニ亦一ツの煩ひを増し加ることを知りし
 が、つらく日本目下之形勢を察し同志社現時之情況を見れば、実ニ日本人之好学士なかる可らず、之ハ時ニ臨ミて
 得んとして得やすからず、得やすからぬ^(の)ミならず他ニ求るとも同志社ニ益となるべき好学士ハ皆無ならんと存候、
 故ニ止を得ず今より兼て其用意をせざる可らずとおもひたるが故のミニ候、その実ハ同志社之現情を察するニ今既ニ
 おくれたりと存候、一日も早く今日ニ適する様ニ謀らざれば望を属すべき人物ハ皆高飛して同志社学校ニハその影だ
 ニとゞめざるニ至らんと思考いたし候

○小崎兄之米行ニ付てハ最早御心を煩し給ふまじく候、同兄ハ東京諸会之振ハざるを深く慨嘆し且今や日本之収獲時
 なるを洞察し断然伝道ニ従事するの志を確く執られ候、而して警醒社之事ニ付てハ旧ニ殊ならず、任とし居られ候間
 御安心可被下候、同兄今日之儘ニて永く変更するところなくバ新紙之為ニも伝道之為ニも頗る好都合ニて益所多から
 んと存候

○東北地方伝道之事ハ野弟之見る所計画する所皆愛兄ニ同じ、幸ニ夏休暇を得バ何卒御申越之旨ニ従ひ東北之地を普
 ねく巡回いたし度希望仕居候へども、宣教師之存意ハ我らの如く切迫ならず、其意云ふ伝道之地ハ広し、今俄かにい
 ら立て手を出すハ他人ニ取られじと働を貪るニ似たり、一致会ニもせよ、他之信者ニせよ、手を着んとならバ充分着

手せしめ、定りて後ニ静かに我より働を始るも敢て不可なからんと、然ど是大なる誤ニして今日までの實際の経験ニよりて見れば第一着が尤も肝要にして始に無精神之教会を起さば更ニ之を振興せしむる事容易ならず、即東京諸会之如し、又始に失敗をとり宣教をしそこなはど再びその地ニ道を布くこと難し、始ニ覚束なき信者をつくらば之が為ニ大ニ伝道之門を閉らるゝニ至るなり、故ニ尤も切要なるハ未だ他より着手せず弊習のあらざるに先ち恥なき工人をして良種を急ぎ播しむるニ在り、しかし茲ニ恨なき能はざるハその工人に乏しき事ニ候、しかれども若し内外の主任者、この志を同うせば仮令工人乏しくも他ニ又法なきニあらず、そハ一地方を担当の人ニても年ニ一二ヶ月ヅ、かはるゝ之が働に身をゆだね、二人ばかりにてこゝぞと思ふ地ニいたり、説教会演説会などを開きてその地ニ有志を得之と親ミを結び置き、帰り後も時々文通をもて其親ミを絶たざる様ニいたし、他日工人を得たる時之を派遣せしむる様ニせば策の得たるものと存候、今日ニ於て此の如く行はずバ恐らくハ将来臍をかむの事あらんと愚考仕候、されど此等之事ニ付てハ只ニ外国宣教師のミならず内国教師ニても見込の合ざる所あるよりして余が計画をして空中の樓閣の如く思ひなし画餅たらしむるの嘆あり、余ハ敢て血氣ニ走り猥ニ空想を懷き大言を貴ぶニあらず、又實際行はれ難き事を徒らに吐んとするニハあらねど、各一方ニのミ力を用ゐ心を注ぐよりして自ら他を視るニ暇あらず、他を説けば笑て顧みず遂ニこの嘆あるを免れざることニ存候、右之次第故御教示之東北巡回之事、本年ハ果す能はざる傾向あり残懷之至ニ候、しかし前条之計画ハ余強ち二人之考を恃しニあらず、術策を喜ぶ訳にもあらず、主ニ頼りて深思し主ニ祈て日本現情を示されて如此せざるべからずと確信する義ニ候へば、目下こそ同意者少くも程経で同感之士多くなり必ず果すの日あらんと望ミ居申候間愛兄よ此事ニ付深く心を煩し玉ふ勿れ

○神戸公会のことも余が信じて疑はず主ニ委ねて断行いたし候ひしが今日ニいたり弥々其信仰の空しからざりしを視

て喜び申候、そハ原田助兄も遂ニ去る五月四日本牧師の職ニ就き公会ハ日ニ月ニ引統て隆盛ニ立いたり余が神戸を去りしハ公会之為ニも損とならず、主之働上之為ニハ一人之良工を増し加ふるニいたり、是ニ附ても余つく／＼考ふるニ、伊勢氏之如き、金森氏之如きも永く一地方ニ止り居るべきにあらず、既ニ土台堅固ニなり信徒公会を負担するの日ニいたらバ新らしき篤信の良工を撰びて代らしむるニ及^{シテ}なからんと存候、されバ自らハ新たに他ニ主之領地をひろむることが出来、未だ方向之定らざる人にハ断然身を献げて主之道ニ直接従事するの志を定めしむべし、若し然らざれば神学校など卒業せし兄弟或ハ文学をもて主ニ仕んか、政事をもて主ニ仕んか、曰く何、曰く何と心ニ惑を生じ、断然直接伝道ニ身を委んと決意する人少くアツパレ主之良將を失はんとするの恐あり、(たとひ現時公会を治理する人ニても凡てニ是を望むニあらず、大抵之人之為ニハ却て一所ニ尻を据てをる様ニいたし度候、此事ハ小崎伊勢金森等之人ニ望む義ニ候) 一人も余計ニ主之工人を要する目今ニ在てハ忍び難きを忍びて自ら葡萄園を退き未だ働の定らざる兄弟ニその働をあたへて身を定めしむる事肝要と存候、^{〔補〕}「教会を他ニ譲らしむる論ハ殊別之事ニして、一般ニハ永く其会ニ居て恋々離るゝに忍びざらしめ度ものニ候、恋々其公会を思が如き人ニ他譲を望む義ニ候」

○先般も東京伝道之事ニ付意見を奉呈せしが是非とも東京ニハウンと力を入ねばならずと存候、且ツ東北地方ニ広く伝道を施さんとならば必ず宣教師夫婦者一組、婦人教師一二名置ざる可らず(学力もあり人品もよく上下ニ交際の出来る日本の事情ニ熟したる人グリーン氏かグリーン氏か女教師ニハトウカツ氏之如き人)、^{〔条〕}以前之情況ニてハ却て外国教師之無方がよろしき景情なりしが今日ニいたりてハ然らず、役人も学士もかの定約改正ニ付熱心するところよりして頓ニ世間の有様一変し外人と交ることを喜ぶの風ニなり、貴婦と称るものだちも外国婦人と交際することを憚らず今ハ信と智とを備へたる宣教師たらんニハ随分面白き働が出来可申候、且一致教会などゝ伝道上ニてをり／＼不

都合の事出来するも、必竟わが党の宣教師ミな関西ニのミ居るよりして事情通ぜず大ニ誤解の生ずることあり、夫が遂ニ内国教師ニも及び頗る不都合を来らすの憂あり、此らの事ニ付ても好き宣教師東京ニをりて互ニ情を通じ合ふ様ニいたさバ伝道上ニも不都合を醸すの憂を除き可申と存候、故ニ是ニ付彼ニ付目今宣教師を東京ニ置く事ハ急務之尤も急なる事と存候、しかし是亦己身東京ニ在て情況を目撃せざるよりして感覺至て薄く、道理上ニてハ我らの説を尤もとせざるニあらざれど甚だ情切迫ならず、如何ニ迫りても急ニ宣教師を東京ニ送るの様子なく誠ニ慨嘆ニ堪ず候、愛兄よ、之が為ニも祈り將タ謀ごとを回らし給へ

○男女の学校ハ是非とも進めざるべからず、男女の良師を得ざる可らず、（内国人ニて）是等の事ニ付ても其情由をくわしく陳述いたし度候へども余り長文ニわたり申候間先ヅこの位ニて筆を擱き可申候、愛兄よ、余りニ心を勞し給ふ勿れ、今ハ日本之大切なる時なり、愛兄之御身ハ関する所甚大なり為ニ自重したまへ、自愛したまへ、病魔ニ勝を得しめ給ふなかれ、主ニ祈て待つ、愛兄が強壯を得て速かに御帰国あらんことを、頓首不一

高吉
拝

野弟、此度湯浅兄と共に溜池榎坂ニ居をならべ去る日転寓仕候

そのくわしき所名ハ下ニしるす、（東京赤坂区溜池榎坂町五番地）

95 八月十六日 内村鑑三

① Webster House, 9 Pleasant St. Gloucester, Mass. ② % A. W. Hill,
West Gouldsborough, Maine ④ イェンタ

グロースター港八月十六日午前九時

在メーン州西グロースボロー 日本 新島先生ニ呈ス

今朝快晴、冷風西北ヨリ来リ誠ニ得難キ好天気ナリ、独リ海浜ニ至リ主耶蘇^{〔蘇〕}ノ御父ナル上帝ニ祈リ御互ノ上ニ聖靈ノ降ラン事ヲ願ヒ只今帰宿セリ、先生ヨリノ花墨昨日午後拝受シ実ニ一昨年以來非常ノ御厚情ニ預カリ今日西半球ニ迷フニ当テ又モ只ナラザル御役介ニ相成リ何トモ御礼申上方無之、先生ヨ、弟先生ニ報ユルニ言ナシ術ナシ、只後日弟ノ力アラン限リ先生ノ主、弟ノ主ナル基督ニ事ヘンノミ、先生願クハ弟ノ心中ヲ察セラレ弟ノ溢ル、バカリノ感謝ヲ受ケラレヨ、弟今日断然伝道ト決心セシモ御存ノ通リノ弱信者ニシテ且ツ父母親友トモ同意セザル道故、後來モ数多ノ艱難トハ存候エ共良心ノ責メル処如何トモスル^{〔能〕}欲ハズ、只十字架ノ耶蘇^{〔蘇〕}ヲ目的トシ後ヲ願ル事ナク進ムノミト存候、願クハ後來モ御見捨無之弟ノ非常ニ弱キ処ヲ御見察被下御誘導被下度偏ニ願上候、願レハ明治十四年以來、幾度トナク漁舟ト漁網ヲナゲ捨テ人間ノ漁ニ着手セントセシモ、外ハ一家ノ貧ヲ思ヒ、内ハ己ノ愚ト不足ヲ悟リ、進マントスレバ妨ケラレ、退カントスレバ良心ノ推ス処トナリ、実ニ進退度ヲ失ヒ梃ナキ舟ノ心地致シ、何時カ天ヨリ声アルアッテ弟ヲ安キ港ニ導クナラント待ツ事コ、ニ五ケ年、然レトモサカ巻ク浪ハ益々高ク、一家ハ御存ノ通ノ次

弟ニ相成、終ニ当国ニ漂着スルニ至レリ、心ハ武ク思ヘ共、己ノ不足ヲ思ヒ又己ノ責任ヲ思フ時ハ一時モ手ヲ策シテ居ル能ハズ、実ニ心中猛火ノ如ク一時ハ早如クス困メラル、ナラムシロ生ヲ絶ツニシカズト迄決心セリ、然ルニ神ハ弟ヲ見捨賜ハズ、常ニ慰言ヲ賜ハリテ今日ニ至ラシメ賜ヒシハ実ニ感謝ニ堪ヘザルナリ、弟今日又何ヲ言ハンヤ、只神ノ御意ノ通りニナラン事ヲ願フノミ、先生ヨ、後來弟ヲ見賜フトキ願クハ先生ト共ニ艱難ト十字架ヲ負フ処ノ一人ト見ナシ賜フテ、魔軍ノ機ヲ探リ世ノ風潮ヲ察セラレテ、弟ノ当ルベキ敵アラバ願クハ指揮ヲ賜ヘ、弟、父モ母モ、妻モ子モ、家モ富モ、顧ミハセジト思ヒ候間、身ヲ捨テ主ニ従ハン事ヲ望メバナリ、イサ、カ心中ヲ聞ヒテ先生ノ見聞ニ供ス、先生之ヲ他ニモラス必^{【勿】}レ

(Julius H. Seelver)

シーライ先生ノ御深切感謝スルニ余リアリ、入費ノ義ハ今日別ニ目途ハ無之候エ共、先ツ始メノ一ケ年丈ケ如何ニカ致スツモリニ御座候、先日以來少々 Literary work ヲ致シタレ共其報酬ハ幾程ナルヲ知ラズ、然シ開校迄ハ如何ニ

カ致シ籠城致シ候間御心配被下マジク候、且ツ未タ少々貯モ有之候間先ツ安心ト存候、今日ヨリハ少々度胸ヲ括メ、ツマラヌ遠慮ハ絶去リ候積リニ御座候、悪魔ノ基督ヲ誘フヤ先ツ第一ニ「パン」ヲ以テゼリ、我等ヲ誘フモ同シ、常

ニ第一ノ誘ハ「汝如何ニシテ食スルヤ」ノ問題アリ、然レトモ It is written 汝何ヲ食シ何ヲ着ン事ヲ思慮スル勿レ

ノ言ヲ以テ立ツヨリ他ニ手段無之事ト存候、弟未タ荷物ハ「エルウキン」ニ置キタレハ事ニ依リタラバ今一度ペンシ

ルバナニヤニ參ラント思ヒ居候、然シ弟ノ弱キ又モ心ノ変セシヤハ己ナガラ心配致シ候間一応入校ノ上荷物ハ送リモライ、ソレ迄ハ「ポストン」近辺ニ滞在致サントモ存居候、然シ何事モ主ノ御命令ニ従ヒ度、不怠祈禱致居候

先生御病氣ハ如何ニ御座候ヤ、弟義ハ大ニ快クコノ分ニテハ秋冷ノ候ハ大丈夫ト存候、且ツ望ミ居リシ教哲理ノ和合ニ着手スルニ当テハ今一尊^{【尊】}ノ勇氣ヲ振ヒ赤鬚碧眼ノ書生輩ニ後背ハ見セジト存居候(是ハ少々不信者然タル言ナレ

共^{〔イザハ〕}、イザハ今日ハ米国ノ痴愚ノ尻ヲ^{〔サ〕}搦ヒ支那人視セラル、ノ耻ヲ受クトモ、遠カラズシテ進路ヲ我最愛ノ日本ニ
転シ、福員^{〔音〕}ノ名ヲ以テ十字ノ旗ヲ不二山麓ニ樹ルトキハ又快ナラズヤ、惡魔ヨ退ケ、汝我ト為スベキナシ、生ハ死ニ
勝テリ、基督上天セリ、何ゾ鬱々トシテ消光センヤ、新島先生^{〔ヨ〕}モ、是ハ去ル八九日ノ弟ノ氣力ナリ、記シテ以テ御閑
暇ノ御一覺ニ^{〔覽〕}供ス、願クハ御病軀幾重ニモ御加養アラン事ヲ、弟常ニ先生ノ為メニ祈ル、アーメン

新島先生

鑑三

拝ス

再白、弟ノ日本文ハ御存ノ通りナリ、御察読ヲ乞フ

96 九月中旬

蔵原蘇嶽（惟郭）

④墨

余辞去頓府、以九月九日来着于此地、一教師告余以大兄為余殊將^{〔Barrow〕} 来遊千萬古、余聽之歛然不能措、乃賦七絶句俟、
君来而聊欲慰君之万里遠遊情而已

休憂万事不如意 不如意中却有真

天父為君與皇国 伸君愛国愛民神

明十八 九月中旬

(マサチューセッツ、バンゴア)
於滿州万古 蘇嶽生

百拝

奉呈
先生
梧下

録述懷二首奉呈

新島先生
玉座下

浮沈得失委天命 々々分明有所由

慷慨惟磨魂一片 誓真神欲與皇州

研摩心鏡十余年 世上紅塵猶相牽

切思東山々没月 不研不磨自晴鮮

明治十八秋九月

於滿州万古 蘇嶽生

百拝

97 十二月十七日 半田宇平次

①上州碓氷郡原市村 ②今出川相国寺門前町同志社英学校 ⑥電報

ヒチヒヤクエンキシヤ センモンコウヘキフス カ子ハアトヨリヲクル

98 十二月二十七日 富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②西京寺丁通丸太丁十三番地

④墨

廿三日出御懇書昨夕拝読仕候、過日ハ久々として尊来且御高話共不浅奉多謝候、但し早々之拝別遺憾之事共多々ニ御坐候、尊大人様ニも少々、御快方之由恐悦、尚時節柄御愛護專要ニ奉存候、御添書之義愚妻よりも申聞候、宜敷申上候様申出候

扱御内話之一条ニ付纏々之御細示無残拝承、小生ニハ勿論大賛成乍不及十分之尽力仕候覚悟ニ御坐候、尤少々愚按も候得ハ在京之郷友一兩名ニ内談仕度と心懸居候所、月迫ニ際シ何茂も多忙申故未タ寛話ヲ遂ケズ候、一月早々對話之

上、尚亦何分之義申上候様可仕候条暫ク御待被下度く、御書中之土地と建築費二千円位ヲ得候義ハ余リ難事ニも有之間敷とハ被察候得共確タル義ハ不日申上候様仕度候、不取敢一応之拝答ノミ如此ニ御坐候、草々、時下御自愛專一ニ奉祈候、頓首

十二月廿七日夜

鉄之助

新島学兄

台下

明治十九（一八八六）年

99 一月五日

山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町

②西京寺町通丸太丁拾三番地

要旨

④墨

寸楮奉拝呈候、陳者客月廿五日御惠投被成下候尊翰拝読仕り候処御厚意段々紙面ニ溢る小生不肖と雖も心感高誼不堪落涙候、将又書籍之御惠贈被成下候趣き重々之御厚貺を辱ふし候段不堪感銘深奉鳴謝候、小生閑を得肝胆を吐露し、情素を陳述し以て高教を仰かんと欲する久しと雖も、いまた之れを果さず候内倏知嘉音を蒙り奥羽地方まで學術拡張之策を御計畫被遊、小生も間接尽力可致旨御懇命を蒙り、雖有小生九鼎之御鴻恩は銘心鑲骨、造次顛沛ニも忘れ間敷存居り候、小生ニ於ても予てより遂ニは眞正教育御実行之一臂とも相成らん事を熱望仕り為めニ生死不易之之精神を繼蓄いたし候得共浅学寡聞擁腫之材なるを悲む而已、臨書嗚咽不能悉所欲陳候、幸ニ微衷御諒察被成下度奉願上候、本日龜華數技通運会社ニ托し奉呈仕り、聊か芹意を表し度存候間着次第御笑納被成下度奉仰候、頓首再拝

一月五日

山崎新太郎

100

一月十一日

柴原宗介

④墨

謹呈、然者御帰京後万事御多端ニ御起居被遊候御事ト奉察候、付テハ為めニ御病氣如何と懸念罷在候、可成御保護奉祈候、却説、当地之人ニ而曾而私共保証人トナリ貴校エ入学罷在老年生ニ有之候岡部辰四郎義、御留主中御校則ニ違犯シ罪科ニ寄リテ退校ヲ被命、謹而奉命致シ奥太一郎君之宅へ先般迄下宿罷在候、右ニ付何卒本人悔改し実切ヲ表し再ヒ帰校可致様精々忠告ヲ加へ亦内国人よりも切諫致シ被呉候処、兎角グツミトシテ埒明不申、無止過日帰国為致、早速親族及野生等立会之上同人之考ヲ承リ候処誠ニ落涙仕、同志社之学校ヲ去ル事ハ更ニ本意ニアザルモ悲哉帰校之上同級生及其他之人江面目も無之、此上もナキ恥辱ニアレハ夫レガツラサニ前途之目的ヲ失ヒ帰国スレハ敵數切諫シラレル故、只々途方ニ暮レテ荏苒奥氏ニテ光陰ヲ費シタルノ外更ニ考迎無之申出、如何共憫然之至ニ御坐候、付テハ親族中之者同志社ヲ除クノ他決而學問修業許シ不申、學資金も送ラヌトテ不一方心痛罷在候へば、た之兄弟共よりは非一先帰校之御許シヲ願ヒ呉度申出候ニ付、右本人江種々説諭之處、真ニ悔改メタル模様相顯レシニ付、御留主中之事故、市原氏へ此義御文通申上候手續ヲ以テ同氏へも歎訴致置候、何レ同氏より御相談ニ相成可申候間何卒

今一度帰校御差許被成下度一入奉懇願候、然者一日も早ク帰京為致度、当人も悔改仕帰校致ス上者一日も早ク帰京致度段申出候、何卒破格之御恩典呉々渴望仕候、先者右之段以書中御願迄差出候、多忙中文意首尾錯雜ニアレハ宜敷御補読之程希上候、恐々拝白

一月十一日

柴原宗介

拝

新島先生

梧右

101

一月十三日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
戸 親展 ④墨
②京都寺町通丸太町上ル十三番

新禧奉慶賀候、然ハ旧冬中御懇書ニ一大美華、郷友一両輩ト内語相尽候所何茂大賛成ニ候、然し富有之者共ニ無之唯百方尽力之上御申越之土地ト忒千円前後建築費を募集可致と申見込ニ御坐候、乍去右金額位ノミにてハ創業如何可有之哉ト懸念不少ニ付、兎も角も篤と御相談相願候上計画ニ決心致度候得ハ、一寸御出京被下候義相叶申間敷哉、可相成ハ当月廿日頃までニ御出京相願度候、同志之耆人廿日過帰県候得ハ其前ニ確定、県地之尽力相托シ申度候、御繰合御出京被下候様御一報奉待候

一旧冬御面晤も仕候通り、此一挙タルヤ県令学事之好悪ニ大関係有之候所、爰ニ好時機到来ハ森君文部之長ト相成候一事ニ御坐候、随〔カ〕て県令ヲ身方ト為ス得ル機會此時ニテ、万端好都合ニ可有之と想像仕居候得ハ一寸御出京ノミ奉待候、草々右ノミ如此御座候、頓首

一月十三日夜

東京 鉄之助

新島先生

侍史

尚々御出京候ハ、拙宅江御止宿被下度候、無用之出費を省き且御相談等之為メ一層便利ヲ得両全之都合ニ有之候、草々再白〔カ〕

102 一月十四日 小崎弘道

①東京赤阪溜池榎阪町五番地 ②京都上京区寺町通り丸太町上ル東側

侍史下 ④墨

本月十一日御認之花翰昨夜落手忝ク奉拝読候、却説米沢学校教師云々之義ニ付テハ迂生方ニモ先般別紙之如キ書状山崎氏ヨリ到来シタレハ早速其由ヲ先生ヘ申上ケント存居候際、先生之御書面ニ接シタレトモ少シク其事情ヲ申上度候

右 Joseph Coward^{〔Joseph Coward〕}ハタウエカルノ宣教師ニテ昨秋我國ニ来リ、目下 Howie Kitt^{〔Howie Kitt〕}トニー^{〔William W. Whitely〕}氏ト同居致シ居候人ニテ迂生^{〔William W. Whitely〕}之知人
ニテ御座候、同氏ハ目下^{〔熱考〕}熱考中ニテ多分米沢ニ参ル事ニ決スルカト存候、同氏ヲ周旋シタルハ、ハリス氏ナレドモ同氏
ニハ亦一個ノ主義アレバ其主義ニテ別ニ伝道致ス事ト存候、今ヤ米沢ニハメソデストヨリ一個ノ伝道士参居ルナレト
モ、未タメソデストニ領収セラレタリトハ云ヒ難シ、今ヨリ我教会ヨリ手ヲ出サハ右ニ教会ト共ニ同地ノ伝道ヲ為シ
得ヘキ事ト存候

杉田、星野之兩兄ハ愈一昨十二日当地発程、先ツ若松ヘ向ケテ出發仕候、兩兄ハ夫ヨリ米沢ニモ赴ク積リナレバ同地
将来之事モ多分都合ヨク相運フ事ト存候、尚ホ右兩兄ノ為メニ御祈禱アラシム事ヲ乞フ

先生何時比御出京被下候や、都合ニヨリテハ迂生モ先生ト共ニ奥州地方ヘ巡回致度候、同志社十年期祝会ハ非常ナル
盛会ニテアリシ趣キ承リ感謝ニ堪ヘズ、海老名兄祝会之帰途拙宅ニ立寄り、諸兄御相談アリシ趣キヲ以テ、迂生ヘ同
志社ニ参ルヘキノ談アリシガ、此事ハ重要ノ事件ニテ容易ニ決シ難キ事故トクト^{〔熱考〕}熱考シ後チ決セント答ヘ、其後色々
熱考仕候ニ決シ難キ事多ク頗ル狐疑罷在候、先ツ其最重要ナル理由ヲ挙クレバ迂生ハ神学教授ニ適否ノ一件ニテ御
座候、御存之通り迂生ハ東京ニ来リシ以来其事業雜駁、別ニ何トテ確手タル学問ヲ為シタル事ナク浅学ハ勿論神学上
定見アル事少ク、自省ルニ如何ナル学ヲ如何ニシテ教授スヘキ乎ヲ知ラズ甚タ惑フ所ニ御座候、若シ今ヨリ二三年ノ
支度ヲ為サバ或ハ幾分力其任ニ堪ユヘキ乎トモ存候得共、目下之勢ヒ迫モ斯ノ如キ事出来得可キトモ考ラレズ、斯ル
事ハ断念セサル可ラサル事ト存候、サレバ迂生ハ御社ヘ参リ神学教授ノ列ニ加ハルナド到底行ハル可ラサル事ト存
候、万一生徒ニ伝道之精神ヲ吹キ込ムニ迂生ノ如キノモノガ御校ニ参ルニ必要トアラバ別ニ御校之教師トナルニハ及
ハサルベシ、一二年之力ヲ為メニ加勢ニ御地ニ参ルハ迂生ガ甘シテ為サント欲スル所ナリ、尤モ邦語神学課之教師ニテ

御座候ハ、幾分カ出来(V.A.)キルカト存シ候、若シ之ニテ御座候ハ、辞セズシテ御招キニ応セント存候、迂生之考ニハ神学課ヘ日本之教員ヲ置クハ最モ必要ノ事ナレドモ、其人ヲ得サルニ於テハ却テ不都合ナラン、中島力造氏外海外ニ遊ヒ居ル人ニテ Regular Theological Course ヲ経タル人ノ帰朝スル遠キニアラサルベシ、斯ノ如キ人ヲ撰テ神学ノ教授ニ任セバ如何、右之次第故迂生ヲ御校ニ御招キアル事ハ尚一応御勘考被下度奉願候

海老名兄ガ奥州ニ趨カル、事ハ至極御同意ニ御座候、同兄目下今春年計リハ前橋ヲ去リ難キ旨申越サレ候、甚タ困リ入タル次第ナリ、同氏カ奥州ニ赴カレナバ其根拠ノ地ハ先ツ福島カト存候、尤モ奥羽伝道之端緒略開ケ、伝道士モ多ク出来候ハ、仙台ニ移ラル、事都合宜シカラント存候、右貴酬旁愚見迄如此ニ御座候、早々頓首

一月十四日

小崎弘道

新島襄先生

尚々、御令閨様ニモ宜敷御伝声被下度候

103

一月二十一日

半田宇平次

①上州原市 ②西京今出川通 御几下 ④墨

謹奉賀新年候

花翰二通共近々拝読仕候、尊君 天父ノ恩寵ニヨリ益御多様且無事御帰国之段奉欣賀候、陳者今回些少ノ金員専門校へ寄附仕リ候所御受納被下且過分ノ御称賛ヲ蒙リ慙羞ノ至ニ御座候、エルサレムノ殿ニレプタ二ツヲ投入セシ貧婦ニ比スレバ取ルニモ足ラザル程ニハ御座候得共、天国ニ宝ヲ積ムヘシトノ御教ニ従ヒタル一端ニ御座候得者若専門校御設立ノ万分ノ一ノ助トモ相成候ニ於テハ大幸ノ至リニ御座候

尊影御投与被下難有頂戴仕リ永ク妙藏可仕候、先者右御廻答迄、早々頓首

一月廿一日

半田宇平次④

新島先醒

二伸、私儀昨冬ヨリ肺病ニ罹リ今ニ病辱ニ臥居候、御祈ノ節ハ何卒御記臆^{〔憶〕}被下度候、乍末筆御家族様へ宜敷御鶴声被下度候

一月二十五日

下村孝太郎

②日本国 京都寺町通り丸太町上ル
 ④インク
 ⑥新島朱筆「下村ヨリ来
 ル 家族ニ送金乞」

千里ノ大洋御恙カなく御帰国被成候由、市原氏ヨリ申来リ奉敬賀候、冬中ノ御渡海ナレバ嘸々御不自由ナリシナラン
 ト推察仕候、次ニ小生事モ相変ラズ無異ニ勉強仕候間御休神被下度奉願候、扱コ、ニ困ツタ事ノ出来申候、他ニ非
 ス、小生預置候金子ノ一条ニ御坐候、去年十二月廿六日仕出ノ叔父野田豁通ヨリノ手紙ニ別紙ノ通りノ書付ヲ送り来
 リ候事ニ御坐候、此上ハ如何ニ致スヘキヤト問来リタル事ニ御坐候、先づ其ウツシヲ先生ニ御目掛申候、実ニ是テハ
 宿元モ大ニ困却スル事ナラント存候、私モ此事前方ヨリ氣遣ハサルニハ非サレドモ預リ証書ニハ去年五月一日ヨリ来
 年五月一日迄ノ約束ニ致シアル事ナレバ如何ニ利足ノ割合ヲ減スルニセヨ来年即チ今年十九年六月迄ハ世話なしト思
 居候事ニ御坐候、実ニ数千里外ノ異国ニ有リ如何トモ詮方ナク神ニ祈ルヨリ外ナキ事ニ御坐候、神ハ我ヲ捨〔玉〕ハズ
 神何ゾ我母ヲ捨玉フベキト存候、何トカ良策モ生スベシト信シ候、然しナガラ差当リ大ニ母供カ困ル事ト存候、寔ト
 ニ先生ノ御洪恩心胆ニ銘シ死テモ忘レ難ク、此上モ亦御世話御愛憐ヲ被ルトハ恐レ多キ事ニテ申上兼候ヘ共、骨肉ノ
 餓死スルニハ忍ズ御願申上候、差当リテノ処何卒仰セノ月々五円御恵投被下間敷候ヤ、近頃先生ノ御家政上、公義様
 ノ御話しニ大金ヲ御失ヒニ相成リタル最中、スル事ハ申上間敷ハ存候^{〔ト〕}ヘ共何分詮方ナキ事ニ御坐候
 生モ斯ル事情ナレバ可成ニケ年ニテ業ヲ終リ帰国可仕存候、彼大倉組ノ金子モ其内ニハ如何トカ致して是非一割ニハ

回ハシ度存候事ニ御坐候、其レ迄ノ処月々ニ四五円ノ御恵投被下〔候〕ハゞ実ニ再生ノ御洪恩ト親子思ヒ申候、生力心中御察被下度候

○先日ハ同志社十年会ヲ御開キニ相成タル由、盛会ナリし由、うれしき事ニ思申候、生徒モ二百四五十名ト相成リタル由実ニ賀スヘキ事ト存候、我心常ニ同志社ニ有リ幾夜京都ニ帰タル夢見候事ニ御坐候

○当地ハ近頃寒氣厳敷御坐候へ共小生ハ余リ寒氣ヲ感セヌ事ニ御坐候、思ヒシ程ニハ寒クハナキ事ニ御坐候

○奥様ニ宜敷御伝声被下度打立ノ折リニハ色々御世話ニ相成リタル事ニ御坐候、公義様ニモ宜敷御伝声被下度候、申上度事ハ山々ニ御坐候へ共此度ハ之迄ニ致置申候

一月二十五日

下村孝太郎

新島襄先生

机下

〔別紙〕

記

金五拾七円／但六弔七リ

右ハ七百円五月一日より十二月三十一日迄分ヲノ日掛

右之通り為帳上留御請取被下成候也哉

十二月廿四日

大倉組

下村孝太郎殿

一下村君利足ノ段ハ是迄年一割弔分仕有候へ共、外トノ振合も御座候間九朱ニ不致ハ不相成、右ニ候間来ル一月ヨリハ九朱ノ割

ニテ利足ハ差上可申付キ、右宜敷御通知被成度奉願候、外方預利足ハ年八朱ニ御座仕候も御含マテ申上候

右ハ大倉組ヨリ野田ニ送リタル書付ノウツシニ御座候

105
二月六日 富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②京都丸太町上ル町百四拾番地

④墨

三日之尊書拝読、其後御持病ニ而御難義之處速ニ御全快、四日御帰京之段態々御報道奉多謝候、拙宅御滞在中ハ甚失敬共奉恐縮候、御高配之義松倉仙台江帰着直ニ申合之有志者名江内話致候処大賛成ヲ得候段申越候、就而ハ地方之情況も機会到来候事と被察申候、津田氏江薄々御内話相成候義も承知仕候、此上ハ押川氏之方可然様御都合被下度相願申候、仮規則等之義も追々御腹稿置被下候様仕度候、先ツハ頃日之御礼併而御帰着後之御左右相窺度草々如此ニ御座候、山妻も追々輕快之方ニ候得共今ニ床中ニ起居致居候、御高志為申聞候、宜敷申上候様申出候、頓首

二月六日

富田鉄之助

106

二月十日

小崎弘道

①東京赤阪溜池榎阪町五番地 ②京都上京区寺町通り丸太町上ル東側
至急要信 ④墨

拝啓、先日当地発足之節ニハ御送りモ不申失礼申上候、却説、迂生一身之進退ニ付早速先夜之相談之趣きを教会之兄弟其他友人ニ相談し候処、何れも一片ならぬ驚愕にて是非共暫時東京に滞在致し呉よとの請求にて、日夜迂生に迫り来り幾と困却仕候、退いて右兄弟之云ふ所を思ひ進て目下当地伝道之実況を察するに、右兄弟等之言強ちに理なきにあらず、目下当教会は益盛大に赴く形勢なるも信徒多くは近頃信せし者にて其信仰未だ堅固ならず、教会尚未た確立せず動もすれば迷はんとするものあるの姿なり、又伝道之事を考ふるに近頃ハ三好氏の如き人を始めとし有力者中に道を求めるもの甚多くあるに迂生にして今此地を去らは、或は斯る人々を失はんことを恐る、殊に教会中にも過日来日々集会して迂生の滞京を求ることなれば、今其言を聴かず、断然此地を去り跡に伊勢兄来るも跡の事思やられて甚た不安心なり、何となれば教会中伊勢兄を知るもの甚た少く、多くは同兄之事を少しも知らざるものなればなり、迂生又西京ニ於ての事業を考ふるに、曾て申上候通り十分の学力もなく教授之事ハ慣れず甚た危む事多し、氣遣ふ所を跡に遺して危き所を為すは如何、果して得策なる乎、是れ迂生の甚た惑ふ所なり、依て迂生ハ若し出来ることならば先づ二三年は当地に止まり度願ふ所に御座候、若し二三年止らは此迄計画せし所も略緒に就き、安心して此を去るを得べしと相考候、何卒此義一応御勘考被下度奉願候、松山兄ハ今度略翻訳之事を止めらるゝ都合に相成り

（退蔵）

候、就ては同兄には西京表へ行き伝道会社専任委員となり、傍へら邦語神学課の監督を為されたらは双方の爲め至極便利かと存候、又同兄御地へ参らるゝ事にならば仮令ひ迂生か御地ニ参ずとも生徒に伝道心を吹込むことには欠くる所なかるべきかと存候、尚ほ同兄の爲メにも御勘考被下度候、右用件迄如此御座候、早々頓首

二月十日

小崎弘道

新島襄先生

二白、伊勢兄ハ兎ニ角当地に参ル事ニ致シたし、同兄之尽力にて迂生か此地を去りても宜しきやうにならば案外早く当地を出る事出来るかも知れ不申候、殊に東北之伝道甚た急なり、又東京も今は非常之時と存候得者二人此地ニありたるとして決して多きにあらざる事と存候

107
二月十日
山崎新太郎

- ①羽前米沢元東馬喰町 ②西京寺町通丸太丁上ル拾三番地 要旨 ④墨
⑥新島朱筆「Keep」英語作文高等代数測三角術等」

今以て余寒難凌候処皆々様御揃益御機嫌克御起居被遊候段大慶至極ニ奉存候、随つて小生方無異消光罷在候間乍畏懼

御休神被下度奉願候、過日御惠贈被成下候共和政府論一昨八日到着致し難有拝受仕り候御厚意之程深奉感謝候

先日申上げ候通り、築地ハリス氏の紹介ニ依リコーサンド氏招聘之方略調へ候処、昨日俄ニハリス氏より同氏雇入れ

之事見合呉れ可き旨申来り候、又ハリス氏厚意を以て同氏知己米国学校長に東京迄の旅費先持として相当之教師周旋

依頼ス可キ旨合せて申来り候得共、先生より先きニ已に御懇命も有之ニ付、ハリス方ニ一と先ツ言断申候、前頭之次

第二御座候得者甚た恐縮之至ニ存候得共、敝校教師適當之米国人人名御周旋被成下度奉懇願候、此の事件過日委員会

(株主より選舉シタル拾名多くハ會計ニ熟達シタルモノナリ)ニ附し得失討議之末辛ふして認可を得、月給百円を以て来る

九月より聘する方決議致候、斯の如き薄給を以聘する事心中竊かニ慚愧ニ堪へず候得共、御承知之通り私立ニ御座候

程ニ迫も多分の給金を差出候事不相叶候、依て自分の学校と思ひ我が子弟と見倣して教ユる教師ニ礼金として贈り度

き微意にて給料と名くるに足らず候、^{【君】}倘し右御周旋被下候ハ、拙者八月休暇を以て右教師迎旁ニ参館可仕所存に候、

何卒相應之人御周旋被下度重て奉願候、余は猶追々可申上存候、時下寒氣甚矣、御自愛之様奉祈禱候、早々頓首

二月十日

新太郎

拝

新島襄様

梧下

二月十七日

富田鉄之助

- ①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
 ②京都寺町通丸太町上ル百四十番
 ④墨

過ル十二日出之尊書昨夜拝読、御着京後続テ御尽力大阪ニ於テ總會議御開設之景況縷々御細示拝承、弥々方向一定至極之好結果御配慮感佩之至リニ御坐候、当表ハ宮城県令上京致候、森大臣より直ニ同人江内話相成候赴き伝聞候ニ付、小生も面会之上大略主趣開陳之上意見承り度申入候所、大要賛成致候、然ルニ押川ニも英学校開設致度段兼而内話も承り居候所同種同類ノモノニ校相立候ハ、両校之得策ニ有之間敷、其辺之見込承り度との問ヒニ有之候故、押川之発意も粗承知候得共右ハ未タ目的之定リ候程之涉シニも無之模様ニ付薦と相談候ハ、競争忤出来候事ハ万無之見込と相答置候条、押川氏江必らず御出会之上十分御相談被下候様切望ニ御坐候、尚亦向後県令と再会之上相談致置可申候、教師出京云々拝承仕候○学兄ニはもはや御全快之由奉賀候、山妻も追々快方ニ御坐候まゝ拝答ノミ如此ニ候也、
 頓首

二月十七日夜

鉄之助

新島賢台

109

二月二十七日

山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町

②西京寺町通丸太丁上ル拾三番戸

要旨

④墨

尊翰拝誦仕り候、陳者過日御依頼申上候外国教師之儀早速御承引被成下御厚意之条々難有奉鳴謝候、先翰申上候通り、来る九月より右招聘之方辛ふして取り極め候得共長日月間ニは不慮之事起る哉も難凶、依て可成の速ニ確実なる約束取極め置き度存候得者精々御尽力被成下度、猶々御依頼申上候

今度仙台表へ私立英学校御設立御計画被遊候ニ附き該地方には有志家も有之候趣き大慶至極ニ奉存候、予は仙台地方ニは皮相輕卒之輩多く、朝ニは政党を組み、夕ニは西教に擬シ、絶て教育ニ熱心なる堅忍不拔之士無之様聞及候処、高報ニ依れば随分有志家有之候趣、畢意御精神之所致只管感歎仕り候

小生ニ於ても我が奥羽は米国之印度人ニ於ける觀なきに非ざるを憂ひ、之れを救はんには大学設立之外他ニ術なき事と存し、之れを熱望する事茲に六七歳然れとも斯の大業を興すに小生力乏しく才足らず、依て先ツ当私立学校ニ尽力し之れが基礎を固ふし、漸次ニ規模を拡張する策を蘊蓄仕り候処、種々障碍横ハリ、去る十五年之頃には政府より政党之学校〔廢〕の嫌疑を蒙り、又当地出身之官吏輩百方政府ニ誂ひ之れを地方税之県立ニ變更するを企て株主を誘惑致たる事等有之候、当時小生当地ニ自由之元氣蕩然跡を絶ち又生徒は器械的に變するを憂懼し頗る苦心仕り候ひき、一昨十七年ニ至り稍く人心を結合したるを以て外国教師之事を相談仕り候得共容易ニ賛成者も無之候処追々賛成家も出来致し、十八年ニ至り愈々精確なる賛成者出来致候得者日として先生之御帰国をハ冀望せざる無し、其内偶々築地のハ

ルリス伝道之為当地ニ来遊スルニ遭遇致し、即ち説くに外国教師之事を以てす、是れ人心之変せず結合するニ乗し早く外国教師を聘するを欲すればなり、然るニハルリス氏厚意を以てコーサント氏を紹介致呉れたる際に当り先生より御厚意を辱ふし候も如何せん、先きニ進てハルリス氏に依頼ニ及ひたれば今更小生より同氏ニ対し言断ハるは頗る精神ニ安せざる事なれば不得已御厚意に背き候、敢て他意あるに非す不悪様御賢察被成下度奉願候、為めニ折角の御計画仙台ニ遷され候事無撓次第、今更小生の浅見輕忽なるを悲む而已、小生真正を以て企図するも齟齬するは命なり如何ともす可らず、目今ニ至り当地有志家尽く団結致し教育上大ニ利益を見るニ至り候、從來之校舎ニては手狭ニ付来三月下旬雪の融解するを待ち四間巾十八間の長さ惣二階之校舎一棟新築可致議決ニ相成り候、来る七月迄ニは、悉皆就成致見込ニて是非々々九月より外国教師相聘度所存ニ御座候、猶詳細之事は来る八月参館之節縷々陳述可仕存候、^(ママ)今度星野、杉田両君御紹介被成下候段難有奉疎候、余り冗長ニ流れ候得者爰ニ毫を攔き候、乱文早々頓首

二月廿七日

山崎新太郎

新島先生

梧下

三月二日

山崎新太郎

④墨

尊翰拝誦仕り候、陳者弊校ニ於て外国教師招聘之儀ニ付已ニハルリス氏へ言断ハリたるニ依リ同氏迷惑致し、為めニ紛紜有之趣き御申越被成下一読大ニ驚愕仕り候、是れが為め先生之御心神を悩し奉り候事恐縮千万ニ奉存候、熟々考ふるニ此事は頗る怪訝ニ堪ざる次第ニ御座候、何となればハルリス氏より未だ何等の苦情も申来らず、又申来る理由も無之事と存居り候、左れば此事或は訛伝ニは非ざる哉と格^(段)団鬱結仕り候、却説、小生ニ於て今度之一儀ニ付決して曖昧両端之行為不仕候得は宜しく御安神被成下度奉願候、先翰に申上候通り、客冬ハルリス氏コーサント氏を紹介致呉れ候際に、先生より御厚意を蒙りたれとも、先きニ已ニハルリス氏の紹介を以て右コーサント氏と略契約仕り候得は御厚意ニ背き候、尙し先方より破約ニ及ハ、其節速ニ御依頼申す可き云々（一月五日付けにて奉呈候大約なり）、然るニ去月九日ハルリス氏より来翰にはコーサント氏来る能ハざるニ付米国社友之許へ書を寄する云々申来候ニ依リ、小生直ニ書を以て米国^(朱点)へ周旋之事を拒ミ決して其儀致し呉れ間敷申越候、最前よりハルリス氏コーサント氏を見出さるニ先ツて米国へ周旋之事を申遣ハしては如何ニ哉と申来り候事屢々なれとも其儀は初より固く謝絶致居り候（是れは入費其他誰々の關係有之為めなり）、ハルリス氏去月十四日付けを以て厚意ニも米国より東京迄の入費は尽く負担し、且ツ貴意ニ合ハすは他に周旋スル道も有之ニ付介意なく依頼す可き旨申来り候得共十八日付の書を以て此を辞す、故ニハルリス氏へ小生より米国へ申越す^(シカ)呉れ可き様一言隻句も依頼不致候、尙しハルリス氏米国より教師招きたるニ於て

は酷ニ申さば即ち越權之所置と云ざるを得ず、小生其責に任する能ハす、併し果して此等の事有之とせばハルリス氏弊校を愛するの所致なれば猶小崎君へ如何の事なる哉問合可申候、又未た小崎君より小生へ芳墨来らす候

右儀ニ付ては嘸々御立腹被為在候はん、汗顔之至リニ奉存候、願くは暫時御竝被成下候様奉仰候、先つは不取敢御申訳まで、乱文如斯御座候、御推読之程奉氣望候、早々頓首

三月二日

新太郎

新島襄様

梧下

111 三月三日 富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目 ②京都丸太町上ル町百四十番地 ③墨

拜啓、今以春寒去兼候処愈御安泰奉賀候、然は同志社江一少年入塾奉願度候所、昨今指出候共寄宿所等御指支有之間敷哉、他ニ下宿為致候義ハ好さる所ニ付、此段相窺申候、且亦一事相願度ハ右少年之月俸月謝金等御監護奉願度候所甚御手数之至リニ候得共御引受被下候義相叶可申哉、此段も併て相窺申候、右少年と申ハ小生旧主家之隠居、当時別戸主と相成候華族伊達宗敦之長男ニ御坐候、只今まで近藤之私塾江通学為致置候得共、両親之傍故何分十分ニ参リ不申ニ付、同志社江相願候方可然内談致居ニ付、前書相願候次第ニ御坐候、当年十七歳ニ相成候少年ニ御坐候、否之義

(真知)

(改玉社)

御一報奉煩候、草々頓首

三月三日

鉄之助

新島賢台

尚々、森文部大臣と宮城県令相招キ創立方之大要後話相尽候故県令ニも大賛成致^{〔カ〕}シ諸事好都合ニ候間御安心被下度候、先書も申上候如ク押川氏之方可然様御協議被下度候、同氏は今以高知ニ滞留候哉、東京へ参り候義ハ未承リ不申候、草々頓首

112

三月七日

同志社生徒某

②京都府下丸田町松蔭町 乞親展、大至急用
④鉛筆 ⑥日付は消印によ
る

校内苦情ノ風説

- (1) 西洋教員ト日本生徒ノ不和ナル事
(2) 就中グリーン氏ヲ蛇蝎視スル事

(3) 邦語神生ヲ本科生ト雜居セシムベカラザル事

(4) 邦語神学生カ英学ヲナスヨリ一年生ノ小児カラマデ輕蔑誹謗セラル、事

(5) 邦語生カ良教師ナル、ラーネット氏ヲ奪ヒ本科生ニ与ヘサル事

(6) 英語神学生ガ邦語神学生ト共ニ教授セラル、ニヨリ下級生ヨリクソ三文ニ云ヒナサレ、少モ校中ニ勢力ナキ事

(7) 五年生ハ学校ヨリ公然一年延期セヨトアラハ五年生ノ面目ナキヲ以テ口ヲ以テ争ハス直ニ退校シ共ニ東京某校

ニタヨリ発足スルト云フ事

(8) 四年生ハ一年延期ノ事ハ會議シタルモ四五名ノ確乎タル不同意アルヲ以テ全級ノ同意ヲウル能ハス、教員ヨリ
表向キ説諭アレハ不平ナガラ黙諾スルト云フ事

(9) グリーン氏ノ四、五年生ノ学力タラス、ト学校内ニテ公言セラレタルニヨリ大ニ兩級ノ評判アシク終ニ下級
ノ輕蔑ヲ受クルニ至リシ事

(10) 三年生ハ建白ナシタルモ少シモ採用セラレス、教授法ハ同志社ニ一定ノ規則ナキヲ以テ各々ノ教員ニ苦情ヲナ
スベシトテ校長ヨリ論サレ大失望ノ至リニテ且ツ四、五年生共ニ一定ノ点数ヲエテ本校ノ規則ニ從ヒ進級シタル
ニ、グリーン氏一己ノ心ヲ以テ一年延ハシタリ二年延シタリスルヲ見レハグリーンノ心カ同志社ノ規則ニテ後來
如何ニナルカ、同志社ノ規則ハ當テニナラヌ規則ヲ踏ミテ登リ来リタルモノ、学力ノ足ラサルハ生徒ノ罪ニアラ
スシテ教員并ニ教授法ノ罪ナリ、故ニ教員教授法ノ建白ナセバ採用セス、又四、五年ニ至ルトモ終ニ五、四年生
ノ如ク一年カ二年カ延ハサル、ニ至ルカト思ヘバ、グリーンヲ放逐シ良ナル日本教師ヲ是非雇入ル、ト云フ存念
アル事

(11) 二年生ハ既ニ一科ノ専科ナル代数ニ入リタルニ助教古賀、田中兩氏ノ如キ生徒アガリツマラヌモノニ教授セラ
ルハ皆ナク不満足ニテ助教ヲ廃シ本教員ノ然ルヘキモノヲ雇入レヲ望ム事

(12) 一年生ハ岸本氏ノ高慢ナル教授ニ不平ヲ抱キラル由、愛憎ニヨリ人ヲ上下スルニヨリ是又下級トテモ必ス良教
師ヲ与ヘラル、ヲ望ム事

(13) 大切ナル教授法ヲ西洋教師ノ手ニノミ委ネ米國風ニナス傾向アリ、日本教員ハ之ヲ駁セス却ツテ賛成スルコト
アルハ尤モ生徒ノ不平アル所ナリ

(14) 西洋教師ノ來校ハ無用、日本ノ大學卒業生ヲ雇込ムカ下村氏ヲ呼返ス事又ラーネット氏ハ直チニ本科ノミヲ教
ヘ邦語生ヲ助教ニ教ヘセシムヘキ事

(15) 四年生ハ守旧党、五年生ハ改進黨ノ如クシテ其交リ甚タ宜シカラス

(16) 伏見通拜ニ賄方乙吉ハ共ニ下級生ヲ無礼ニ取扱フヲ以テ放逐スル事

右御注意ヲ乞フ

新島様

某

三月七日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
 ②京都寺町通り丸太町上ル百四十番
 ④墨

〔William E. Hoy〕

五日付之尊書今夕拝読、然ハ仙台ニテホイット氏有志家を募リ土地ヲ買入レ校舎ヲ築ク事ニ取懸リ候云々御細示拝承致候、ホイット氏と申ハ何頃より仙台在留ニテ如何ナル種類之人物ニ候哉、一見一聞も無之候得共遠大之目途ヲ以学校創設之企ニ候ハ、其動作必ラズ聞知可致之所、曾テ伝聞之事も無之、御書中ニテ初テ承知致候ノミ、要スルニ至大之目途有之訳ニハ無之事かと暴想被致候、就テは御書中之通、飽マテ御申合之初志貫徹候様致度懇願此事ニ候、米国より好報有之候ハ、直ニ仙台ニ御下リ御計画被下候様希望仕候、過便も粗申上候如ク、県令ニハ十分納得為致候得ハ先ツ着手上ニハ懸念無之候、此上ハ押川氏との協議円滑相成候様御所分切望致候ノミ

一、同志社江一少年入塾相願度一条過便相願候通りニ御坐候、御指支之有無何分速ニ御一報奉得候、御返事併テ此段如此ニ御坐候、草々頓首

三月七日夜

鉄之助

新島賢台

尚々、山妻江之御添筆奉謝候、兩三日前より快方坐中歩行相初メ申候、御安心被下度候也

三月十日

小崎弘道

①東京赤阪溜池榎阪町五番地

②京都上京寺町通り丸太町上ル東側

④墨

過日来ハ迂生之事ニ付種々御心配ヲ懸ケ恐入リ申候、松山兄ハ明後日ヨリ出発セラル、筈ナレバ万事同兄ヨリ御聞取
リ被下度奉願候

却説、過般御申越之米沢之事ニ付早速同処へ書状差出候処、山崎氏モ大ニ心配サレ兩三回続ケテ書状ヲ送りハリス氏
ニ依頼セサリシ事并ニ事ノ速ニ成ルヤウ尽力アリ度旨申来候、其後ハリス氏ニ面会仕候ニ、同氏ニハ固ヨリ一己ノ意
見ニテ教師招待之事ヲ米國へ申送シ事ナレバ先方ニテ不用トアレバ何レニ致スモ異義ナキ旨申サレ候、前陳之次第ナ
レバ早速米沢ノ為メ教師招待之事ヲ御運ヒ被下度奉希望候、今度米沢ニテ外国教師ヲ雇入ル、ハ同処ニ取リテハ大奮
発、殊ニ社員中ニハ異議ヲ唱ルモノモアル由ナレバ、万一教師雇入之事ニ付キ何カ紛紜アルト力又之カ為メニ其事延
引致ストカスルニ於テハ、或ハ行ハレサルニ至ルヤモ知レズトテ山崎氏モ大ニ心配致サレ候趣キ紙面ニ溢レ居候間、
幾重ニモ先方之事情ヲクミ取、断然之御処置アラン事ヲ乞フ

先般申上置候内藤魯一氏之子息之一件ハ如何、何トカ御工夫ハ出来キ不申候ヤ速ニ御返事被下度、此事ハ頗ル大切ノ
事ナレバ出来ル丈ケ御尽力アラン事ヲ乞フ、内藤氏モ近頃テハ大分信仰起リ申候、十分之信仰出来キ聖書之大意ヲモ
学ヒ終リタル後ハ十分伝道之為メ尽力セントテ樂ミ^{〔補〕}「日々迂生ニ付テ」勉強致居候、一致之事ニ付テモ申上度義モア
レトモ松山兄之出京近キニアレバ愛ニ略シ、又右用事迄如此、早々頓首

三月十一日

小崎弘道

新島先生

二白、本年年会之順席ハ已ニ整ヒタルカ御序ニ委員等ニ御注意ヲ乞フ

115

三月十日 小崎弘道

④ 墨

過日之書狀ニ公義君之事ヲ申上候ガ同君ハ上州富岡ニ參ラル、事相叶ヒ不申候ヤ、若し出来ル事ナラバ速ニ同地へ參ル、事ヲ希望ス、〔壽雄〕齊藤氏之言ニ五六月比ニハナレバ養蚕之事忙ハシケレバ迎テモ十分之伝道出来キ難キニ付キ速ニ来ラレン事ヲ乞フト有之候間左様御承知被下度候

奥州ヨリノ書狀ニ抛レバ同地方之伝道ハ益都合好キ趣キナリ、今度星野氏三春福島二本松等ノ地方ニ赴カレタレバ速ニ同地方ニモ伝道士ヲ送ラサル可ラサル事ト存候、我等何処ヨリ其伝道士ヲ得ヘキ乎頗ル惑フ所ニ御座候

三月十日

小崎弘道

新島襄先生

昨冬御帰朝之際呈一翰、其已来御無音失敬之至御仁免奉願候、其後東京江御遊歩之由惟昇ヨリ報知無^{〔カ〕}之間御旅行御苦勞奉敬承候、惟郭儀ニ付而ハ御旅中不一形御高配を戴、御蔭を以^{〔Barao〕}ハンコル大学入校相叶、終身之望を相達何とも難尽筆頭御高恩を蒙難有仕合ニ御座候、右為御礼参京之旨ニテ彼是用意罷在候処ニ男惟曉儀今一応正則執行致方存念申出、晩学ニハ御座候へ共於私も兼々遺憾ニ罷在候旁応其意此節上京ニ相決申候、左スレハ之江之手当も幾分積有之私之往復入費を引欠キ其手配心底ニまかせ不申、不得止事取止、奉得尊顔候事不相叶、不本意千万御憐察可被下候、因テニ男江代理兼申度候儀不惡被思召上可被下候、奥様江は未得拝顔候得共懇々宜ク申上候段御鳳声奉願候、扨娘松代事ニ付而ハ米国御旅行中惟郭より御賢慮も奉伺候由申来、又々別紙之通申来候得共、何分任心底不申、遺憾^{〔カ〕}千万被存候

一、米国御滞留中、惟郭危闇之際、拾円余之書籍并金拾式トルヲ賜リ、尚其上御宜敷御中柄式拾五トル之金を拝借仕候段申来、誠ニ以余計之御配慮を奉勞候ノ已ならず向後之御世話様兎角難申上仕合ニ御座候、右拝借之金も返上仕候而ハ難相済都合ニ御座候得共、不手操ニテ心ならず更ニ拝借仕候式拾五トルヲ才覚仕、則三拾円指上候間、何卒御落握被成下候様奉願候、前段申上候通、奉得尊顔積ル御高話をも拝聴致度存念ニ御座候得共、子ゆへニ自身之心を差押、来年ニも期して如何様卒工風仕、参京之心組ニ御座候、乍憚御憐察奉願候

一、何そ土産之品奉獻度奉存候得共田舎之儀ニテ熊本産之朝鮮飴苧箱取寄則献上仕候、何卒御笑留奉願上候、家族共ヨリモ懇々御礼加章申上候、返ス／＼も奥様江宜被仰通可被下候
右之段迄申上度書外奉期鴻音之時候、以上

三月十五日

藏原惟元

新嵐襄様

117

三月十五日

山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町

②西京寺町通丸太丁拾三番戸

要旨

④墨

寸翰拝呈仕り候、陳者過般來奉煩尊慮候一条ニ関し小生よりハルリス氏へ対し早速申越す可く存候得共万一事之齟齬せん事を懸念致し、即ち小崎君に深く依頼仕り置き候処、同君より去る十日付け之雲書を以て愚意をハルリス氏へ御通し被下候趣き申来り候間、此儀は宜しく御休神被成下度奉願候、右之次第ニ御座候得は今度は是非願意相叶候様御周旋被成下度重ねて奉懇願候

予て御尽力被遊候仙台地方之御計画、目今如何之実況に相進み居り候哉、右御通知を仰き度奉願上候、先立て御厚意を以て御紹介被成下候杉田、星野兩君いまた御光来不被為在候、是れ必ず積雪半融道路悪き為めならん歟と存居候、

併し来月初旬ニは悉皆融解致す可く候、時下時節变换之際、折角御養身專一ニ可被成奉祈候、早々頓首

三月十五日

山崎新太郎

新島襄様

尚々、御内子御令息様へも宜しく御鳳声被下度奉仰候也

118

三月十七日

小崎弘道

墨 ①東京赤阪溜池榎阪町五番地 ②京都上京区寺町通り丸太町上ル東側 ④

本日米沢ヨリ又々別紙之如き書状到着仕候間御覽ニ入レ申候、別紙之次第ナレバ何卒ゾ速ニ事ノ成ルヤウニ御決定被下度奉願候

本日本村熊二君来訪アリ、女教師御雇入レ之事談判アリタルガ多分此義ニ就テハ已ニ松山兄ヨリ巨細之事情御聞取リ
アリタル事ト存候、同君之言ニ拠レバ明治女学校ハ何レノミツシヨニモ関係ナク其委員ハ島田^(三郎)、田口^(卯吉)、波多野^(五三郎)之諸
氏ニシテ同委員ヨリノ依頼ナレバ別ニ嫌疑モナキ事故、是非共アメリカンボールドヨリ女教師ヲ依頼致度シトノ事ニ

テ御座候、此義ニ付テハ篤ト松山兄ト御談判被下度候

タウカツ氏東上之事ハ如何、未タ何トモ決シ不申候や、若シ宣教師ニテ東上致シ難カラバ唯女教師ノミニテモ東上致ス事好都合ト存候○今般御地御相談之事如何決シ候哉、日々其決定之事ヲノミ相待居候、早々頓首

三月十七日

小崎弘道

新島襄先生

二白、過日御尋置候内藤氏子息之事如何ニテ御座候や○近頃栃木之有志者ニ計リ同地ニ伝道ヲ開ク積ニ御座候、又神奈川県下小田原近傍ノ有志者ヨリ招待ヲ受ケタレバ松山兄御帰京次第其形况視察之為メ迂生出張仕度心組ニ御座候

119

三月二十三日

富田鉄之助

- ①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
②京都丸太町上ル町百四十番地
親展 ⑥新島朱筆「三月廿七日来ル」

本月三日之尊書拝読、一少年之義相願候処御懇篤之御返事奉多謝候、右少年学級等御問合ニ候所是迄攻玉社即近藤氏

江通学致居候得共所謂華族之子弟不勉強勝ニ而英漢学共十分之成績不相見得候、右ニ付一応御手許江相願度次第ニ御坐候間御手数恐入候得共指出候上本人学力等御試験被下可然様御指揮被下度候、来月二日三日頃下阪之友人有之候間右江相托し御手許迄指出候条、着京之上万事御引受被下候様奉願上候、右少年之姓名左ニ

東京府麻布簞笥町六十二番地

華族伊達宗敦 長男

伊達直知

明治三年二月生

伊達宗敦と申は伊達宗城之二男ニ而、小生旧主家即仙台家江養子ニ参り候所、維新之変ニ而隠居と相成兩三年前別戸

主ニ相立候華族ニ御坐候

(William E. Hoy)

一 ホオート氏之義ニ付縷々御申越ニ付仙台之方探偵候所、別紙之通り松倉より申来候、兼テ申上置候如ク勢力等有之者ニハ無之候、企度中之事ニ更ニ妨ケ無之候○押川氏トノ御内話如何相成候哉、御一報被下度候、草々拝答旁々頓首

三月廿三日

鉄之助

新島賢台

[別紙]

記

米人 本国教会ノ名ハプレスビタリアン

ホーイ氏 新島君ヨリホーイ氏ト申来リタルハ此人ナランカ

仙台区中ノ町ニ寓ス、当地ヘ英学校〔ママ〕女子校ヲ設立セトン其計画ノ為メ即今出京中ノ由、尤畑君及外一人ノ教師ヲ伴ヒ来ル積リノ由

ナリ、右計画ニ賛成ノ者トテハ即今更ニ無之、尤小校ヲ設クル迄ノ事ニテ大挙杯ノ事ニハ決シテ有之間敷ト申事ナリ、押川氏ハ賛成補助致シ居哉ニ候、同氏モ此節出京中ノ趣ナリ

英領米人 本国教会ノ名ハバプテス〔ト〕

デヨンス氏

仙台区北三番丁ニ寓シ、曾テ北荅番丁ヘ英学校ヲ開ク、経費ノ都合ニモ候哉即今廃校セリ

米人 本国教会ノ名ハメソテス〔ト〕

スワルツ氏

宮城県中学校雇教師ナリ

右之外ニハ米人ノ来リ居ル者即今無之趣ニ候事

三月廿日

120

三月二十三日

山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町

②西京寺町通丸太丁上ル

④墨

尚々、松山君より芳翰を御投与被下候間宜しく御鳳声被下度奉仰候也

尊翰奉拜誦候、陳者今般外国教師招聘之儀御承引被成下候段御優渥之至、^{〔放〕}摩頂敬踵^{〔未〕}未足仰答候

前翰ニ申上げ候通り弊校ニ於ては資金余裕之れなきより、向きニ弊校委員会ニても外国教師ニは不相当なるも報酬として月百円を給する事及び東京より当地迄の旅費等決議致候得共、米国より日本迄の旅費等取り極め不申、又右用意も致し兼る事ニ御座候、是れは曩きニ日本駐在せる外国教師を聘する心組ニて委員へ相談ニ及ひたる為めニ御座候、ハリス氏最前より米国へ周旋之事を申され候得共其厚意に応せざりしは種々之事情有之、就中外国より態々教師を聘するには大業ニて其旅費等は亦も弊校の負担に堪ゆる所ニ非ざる故なり、然るニ今度鼎力を煩ハし御厚意を以て米国へ御申越被成下難有奉存候得共前陳之次第を以て心中竊かニ赧然たるなき能ハす実ニ不堪歎愧候、甚た申上げ兼る事なれとも此辺如何か心得て可然候哉御高諭を仰き度、不取敢謝辞旁懸念之事迄御伺申上げ度如斯御座候、早々頓首

三月廿三日

山崎新太郎

拝

新島襄様

予て御紹介被成下候杉田君〔梅〕去る十九日当地へ御来臨あり種々面晤仕り裨益不尠候、又演劇場ニ於て西教の御演説等有之聴衆頗る多く余程感動を起せし哉ニ見受け候、同君昨日東京へ向け御出発ニ御成申候

三月二十五日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
 ②京都丸太町上ル町百四十番地
 親展 ④墨 ⑥松倉恂書簡同封

一少年伊達直知學事御依頼之爲メ兩三日前一書拝呈致置候、來月四日頃之郵船ニ而指立度都合ニ候間万事宜敷御直被下度候、且亦右書中ニ仙台表之景況申上置候所、再度之報告別紙之通り松倉より申來候間御一読被下度候、何之障りも不相見得候、御安心被下度候、草々右ノミ如此ニ候、頓首

三月廿五日

鉄之助

新島賢台

尚々、同志社江歩兵科御^(マツ)設之義如何相成候哉、多分文部之御許可ヲも被得、御創立ニ相成候事とは奉察候得共爲念相同申候、御序之^(カ)節御洩被下度候也

〔別紙〕

拜啓、陳ハ米人ホラー氏之義付過日一応拝答仕候筈定て御了承被下候半、尚又岩淵君ニ於ても聞糾被下候処先日申上候趣与粗同様ニ而爲差儀ニハ更ニ不相聞、周旋人ハ昨年前より仙台へ來り居タル宗教者ニ而越後人之由、吉田亀太郎と申者之由、其他ニハ仙台地方代言人共五七人へ英学校設立^(教)云々亀太郎より相嘶候処、夫レハ地方之幸福ナル事ナリと何レも賛成之語ヲ演候までニ而

更有志者募集之等之手続ヲ施シタル訳ニも無之、詰リ嘶一篇之事ニ相聞申候、然ニ押川と申人ハ最前より仙台へ参リ宗教之周旋等致居候趣ニ候得共何カ都合有之、同志へハ無断同様ニ而帰郷し頗ル地方之人望ヲ失シ候様子ニ候間、今般之挙ニ万一同氏も発起人之内ニ加リ来リ候而ハ地方之人氣ニ障リ可申哉も難計云々岩淵之嘶ニ御座候、同人ニは小生帰国前帰京致候事故更ニ其事情も不相弁候共岩淵氏ハ其頃之風唱も被聞居候趣ニ候間一応御参考之為メ申上候、草々要用のミ如斯候、頓首

三月廿三日

恂

鉄之助大兄

侍史

追テ黒川も又明日頃登仙之様子ニ候間段々御紙面之趣は相伝置候様可仕候

又辨

122

三月二十六日

松山高吉

①東京溜池榎町五番地 ②西京寺町通り丸太町上ル 親展 ④墨 ⑥日付
は封筒ウラ書きによる

〔光多〕

星野が説を聞けバ或ハ想ふ程之地ニもあらず、且ツ有志者と称る如き者も恃ミ難き土地風あるニ似たり、之ニ反して福島こそ一日も緩がセニしてハならぬが如く思はれ申候、故ニ学校之如き大業を創るニハ第一地利、第二有志者之丹心を篤と觀察すべきことゝ存候、星野氏も折よく余が帰京之一日前着京ニ相成東北実見之模様をもきゝ且ツ湯浅、小

崎氏と共に東北伝道上之将来ニ就て種々相語り申候、若松ニハ必引統て伝道士を置ざる可らず、又福島ハ実ニ東北繁盛之地ニして国富ミ人物も亦近傍ニ頗る多きが如しと云、東北ハ必ず伝道を速カニせざる可らず、東北ニ伝道を盛ンニせんとならバ先福島ニ拠りて根居をすゑざる可らずと存候、学校を福島ニ置き度心地いたし候へども米沢ニ余り近切なるが故ニ如何と少しく掛念せられ候、若し米沢之故ニよりて男子学校を置ずとならバ必ず女子学校なりとも起し度ものと存候、加藤勇二郎氏之事ハ同志社ニいたる事ニ略決定いたし申候、但し其西京ニ引移るニ付てハ旅費と月々の支給欠乏せざる様御あたへ可被下候、但シ上州ニて受しより多分なるハ却て宜しからじと存候、茲ニ一ツ加藤氏ニ就て困る事ハ同氏近来私塾之如きものを開き四十名計の青年輩を集め居ることニ候、之を棄去るハ世間之信用上ニも甚だ不都合ニして自然布教之上ニも響を瞶々ニ及ぶすならんとて湯淺、海老名共ニ心痛いたし被居候、然るニ幸ニ不破兄他所へ転じ度存念あるよし伊勢氏より聞及び申候、同氏をして其跡を嗣がしめバ如何と存候、されバ近傍ニ星野あり、杉田あり、何れも熱心之士ニ候へバ常ニ之と交際之益大ニ不破氏ニかゝり申さんと考られ候、至急伊勢兄と御謀り被下候間、前橋へ不破氏を移す様御はからひ被下度候、同氏が伝道之精神も之より振起せんと存候、神港ニ^{〔松村〕}て森本氏之事ニ付伊勢兄と相談せしが帰京後つく／＼考るニ矢張同氏ハ筆をとる方が其益多くして適する所ならんか、殊ニ福岡ニハ村井とか云人既ニ伝道いたし居候由ニ聞けり、浮田氏之事ハドウ考ても同志社ニ用ゐべき人物と思ひ申候、警醒社ハ此後之所ハ森本之方が適當なるべし、浮田氏ハ同志社ニ働きて大ニ学校ニ益をなすべし、信仰之事等ニ付余リ忌ミ拒むが如きあるハ却て学校之為ニもよろしからず、且ツその人をして強て蹟カするの恐あり、^{〔朱、輔〕}「警醒社ニ森本をほしき故浮田を同志社ニすゝむるニあらず、浮田を同志社之今日之急ニ臨ミ居りながら招かざるハおしきことゝ存候が故也、亦人も訝かり可申と存候へバ也」、但し同氏之信仰ハ近来大ニ改まり申候、決して生徒之蹟を来

すなどの憂ハあるまじと存候、殊ニ之が他ニ伊勢伊勢か金森金森か小崎小崎か主として信仰之事ニ働をなすべき人を入るニ於てをや、速かニ浮田を同志社ニ呼び、森本を東京ニ来らす様御工夫願度候、森本が東京ニ来らばまた例之不平病や起らんと案事られ候へども、今ハ我党も東京ニ居り警醒社ニて働働くハ即ち我が党中ニて働働ニ埃埃しくして、他之方ニ関係するニ及ばざれば其点ニつきて勞するニも及ばざるべしとぞんじ候、さて東北地方及び東京ニ伝道を盛んなさんとならば是非ともシツカリしたる人物二人ハ置かざる可らず、小崎伊勢と金森海老名伊勢と金森若し、小崎を同志社へ取らんとならバ同氏ニ代るニ海老名でも置かざるべからず、然ど海老名氏ハ福島ニ住かるゝ様いたし度候、同志社ハ金森兄ニてハ如何ニ候や、されバ東京ハ小崎と伊勢とニて受持、かはり〳〵上州地方を出て助け又栃木県下ニ伝道を開き候やういたし候ハ宜しからんと存候、若し東京ニ二人居られ候ハ海老名氏或ハ上州を離るゝこと能ふべしと存候或人同志社ニ付金森、伊勢を論じて云、金森氏ハ生徒を扱ふニ至極適當なれど一方ニ適せざる所あるべし、伊勢氏ハ教授をなして人を薰陶するニ尤も得る所あり、然ど生徒を扱ふニ於てハ如何と危まるゝと也、余その評語之適不適を知らず、是即ち人のなる所以也、その足らざる所ハ神の力之加る所ニ候ヘバ両兄之内一人同志社ニ御働ぎ被下候てハ如何ン、而して一人東京ニ来り働ぎ給ふやうなされ度候、小崎氏を同志社ニ移さんとせば福島前橋ニ困却仕候、御熟考を乞ふ、金森氏ハ是非此度之大運動を機として岡山を離れなさるゝ方同氏之為ニも岡山之為ニも所益大なるべしと存候、必ず此事ハ金森氏ニ勧め申度候、同氏もし福島へ出張なし被下候ハ小崎氏を同志社ニ移すこと能ふべし、されバ東京ハ伊勢兄と海老名兄とニて御働下され候ハ是亦事成り而て前橋も海老名を東京へならバかす事を難んぜざるべし、亦同氏も東京ニ居るならバ前橋を護り行ことが出来可申候

篤と伊勢兄とも御談示被下候て何卒速かに断行して各その所を得る様仕度候、金森氏之岡山を離るゝことハ是非行オコサは

せ度候、殊ニ福島之如きハ中々岡山之如きニあらず、日本之半を占むる枢要之地と考られ候、丈夫天下之大勢を通観して恋々の情ニ束縛せられざる様いたし度ものニ候

高吉
拝具

123
三月二十六日 富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②京都丸太町上ル町百四十番地
親展 ④墨 ⑥新島朱筆「三月廿九日来ル」

仙台松倉より第二回之報告接手ニ付右在中之上一書昨夕相認メ送呈致候後、過ル廿二日出之尊書落手拝読、押川氏と御相談之顛末同氏より申述候件ニ了承仕候、然ルニ昨夕申上候如ク仙台ニハ未タ一の英学校創立不相成ノミカ有志家之賛成と申も不相聞得候、御書中之意味と仙台より之報告と全ク符合不致候得ハ押川氏之心情甚不審之次第ニ有之候、彼是レ前後を相考ヘ候得ハ一時も早く仙台表ニ発表之上有志家ヲ募リ候一策コソ緊要と被考候、然ルニ当春も御面談仕置候通り米国之模様確定不致内輕忽ニ公言候て万一米国之方引受ラレサル節ハ如何とも難致次第ニ付、昨今極秘密ニ両三輩と相計リ居候ノミ故如何トも致方無之候、御書中ニ（新島仙台ニ赴クヘシ）と電信御受取ニ付多分二月御指立之御書状先方江着候返事ナランと御申越ニ候所右等之御推察ニ而弥々御確信ニ候ハ、一時も早く御出京被下候

上直ニ仙台江御下リ被下候様仕度候、其実ハ第一ニ創立趣意ヲ綴リ申度、尤創立者ハ賢兄并ニ小生輩在京の仙台人兩三名并ニ仙台之有志家若干名連名ヲ以發表之上、県令初メ江賛成尽力ヲ乞ヒ候得ハ兼而申合之者共一同奔走尽力、必らず見込相立候義無極候、繼テ学校設立之地位并ニ自余之計画ニ着手、米國より來着之教師ヲ待受候様ナレハ尤好都合ニ御坐候、右之着手ニハ前文之如ク米國より教師幾人、何月頃着と申義確信致候一事緊要ナルノミ、右相志シ候上ハ片時も速ニ着手候機会と愚按仕候

一前書着手ニ付て創立趣意書学校教則等荒増ニも編成致置申度候、其外御心付候事共御書取置被下度候、先ツ拝答右之通り之愚見ニ御坐候、草々頓首

三月廿六日

新島賢台

鉄之助

尚々伊達直知ハ可成九月頃入塾可然段被仰下候所少年既ニ決心致現今之学校も退校も致候得ハ昨夕申上候如ク不日指出候間乍御手数宜敷御取扱被下度奉願上候、草々頓首

四月三日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
 ②京都寺町通丸太町上ル町百四
 十番地 親展 ④墨

尚々、本文之義ハ小義ニ泥ミ大義ヲ失フ様ニ所置無之様仕度候、創設ニ際シ区々タル小議論相生候共更ニ關係不致、成効ヲ以テ論定ムルト御決心被下度偏ニ希望之至リニ御座候、御意見御一報被下度候

去月廿九日同三十一日付と市原君御持参之尊書と三ヶ度共拜読、来示之趣無残了承、右三ヶ度之拝答左ニ、押川氏企度之義ニ付てハ尊兄至極御懸念之様拝察致候処小生ニハ左ノミ心配ハ不仕候、其子細ハ押川氏仙台ノ人望と動作ハ過日兩度申上候如ク決テ恐ル、様ニハ無之候、且亦御互ニテ企候義ハ未タ発表コソ不致候得共已ニ三四名ノ名望家ニ相謀リ何レモ大賛成、加ルニ県令へも篤と内談相遂ケ着手之節ハ尽力致候事ニ内約相調居候得ハ小生ノ方指置キ他人ニ尽力候事難相成今日之場合ニ御坐候、押川氏自力ヲ以テ創設致候事ナレハイザシラズ他力ヲ借り得ル事ハ十分出来得ヘキ場合ニ無之故先ツ恐ル、ニ足ラザル事と自信致居候、カ、ル場合ニ候得ハ押川氏ト創設ノ前後等ヲ弁争候様ノ口筆ヲ相示シ候ハ甚不得策と推考致候、仙台ノ名望家共「クリステアーン」の必要ナル感触ヲ来ス之機会ニ候得共何ニヤラ宗派の争ヒ忤致候様ニ相見得候てハ（縦令兩派の徳義上ヨリ起リタル事件ニモセヨ）御互創設企度ノ主趣ニ悖リ却而名望家の氣込ミニ関シ不宜事と相察候間、押川氏と彼是レ意見ノ異ナル様ノ義一言半句も不申遣方得策ニ御坐候、就キテハ矢張先達御内談致置候主趣ヲ以創設ノ要領ヲ発表、着手順序ヲ計画致度所存ニ御坐候、然レトモ段々御

申越之次第も有之候間御手許ノ方ト仙台ノ方ト兩端宜敷ニ斟酌シ、先ツ着手之場合丈ハ小生初メ名望家四五名の名義ヲ以テ發起人と相定メ発表シ有志家ヲ集メ金力家ヲ誘ヒ尊兄ト米人トヲ相聘シ候事ニ致候ハ、御斟酌之筋道ニも相叶候半と愚按致候、尊兄如何か若右愚按之通りニテ可然と御見込ニ候ハ、尚篤と御相談相遂度候条一寸御出京相願度候、御相談ノ様ニヨリテハ仙台迄御下リ不被下ハ難相叶場合も可有之候宜敷御含ヲ以御出京相願候、着手ハ速ナル方、機会ハ不可失候得ハ御繰合次第速ニ御出京奉願上候、右要用ノミ如此ニ候、頓首

四月三日夜

鉄之助

新島学兄

侍史

尚々、尊大人様ハ不勝之由御心痛奉察候、御看護専要と奉祈候、小生も兩三日眼疾故細書難叶大要ノミ申上候、可成ハ速ニ御出京希望仕候、頓首

125

四月三日

富田鉄之助

①東京麻布市兵衛町

②京都寺町通丸太町上ル町百四十番地

④墨

拝啓仕候、然者兼而相願置候伊達宗敦長男伊達直知同志社江御入塾相願度此度大阪迄知人江同伴相托し大阪より知人

之手配ヲ以為送御手許迄出京為致候故此状相副申候、着京之上ハ万事可然様御指揮被下度、少年ニは如何共ホームンツキは決而不相起事受合ニ御座候間御懸念不被下候様奉願上候、読書ハ不得手方ナリ之レ御手許江相願候一事ニ候、学資并ニ小遣一兩月分三十余円知人ニ相托し途中諸入費引^去リ残ハ手許江指出筈ニ御座候間御受取被下、右ヲ以諸事可然様御都合奉願上候、夜具ハ持參不致候得ハ書生相当之品御買入御あたひ被下度候、小遣ハ一錢も本人手ニ相渡候事無之候得ハ先ツ当分は右等も御手許ニ相渡願置度候、甚御手数之事ノミ相願恐入候得共都而御引受被下候様切願仕置候

一毎度御懇書候通り本人学力直ニ入校修行^ニ難相成候節は当秋迄御地にて遊び居候ても更ニ指支不申候条其節は御手許ニ於て可然様御指揮被下度候、草々右申上度如此御座候、頓首

四月三日

鉄之助

新島先生
侍史

126

四月五日

松山高吉

①東京 ②西京寺町通丸太町上ル 親展 ④墨 ⑥同封の二月十一日付木
村熊二の松山高吉宛書簡（明治女子校模様書）省略

拜啓、加藤氏いよく今般同志社ニ赴くことニ相成、一安心仕候、引続他之件ニも都合よく相運び候様致し度万望仕候
○仙台学校ノ事○東京并ニ東北伝道ノ事○不破氏前橋行ノ事○森本兄ノ事○過日ノ退校生ノ事等すべて加藤氏ニ口囑
いたし置候間万事よろしく願上度候

仙台学校之義ニ付てハ一兩日前小崎兄ニ願ひ富田氏ニ面晤いたしもらひ候が、同氏之談ニよれば是非此事ハ果さざる
可らずと考られ候

東北伝道ニ付てハ杉田、長田ニ代リ引続働きくれる者目下無之甚心痛いたし居候、願くハ金森氏ニ福島之働を請求い
たし度候

東京之事ハ小崎兄同志社ニ行かるゝならバ警醒社ハ森本兄ニ、府下直接伝道ハ海老名兄と伊勢兄とニ願ひ度候、但シ
内一名ハ上州常陸及び東北等之地の伝道を助けもらふ義ニ候間その実東京ニハ一名ニ有之候、^(ハ)海老名兄と伊勢兄と東
京ニ居らるゝことハ親戚之間がら故ニ實際ハとまれ外見之為ニ不利ならんとの説もあり、然バ金森氏と交換せんか
加藤氏前橋を去り候ニ付てハ不破氏ニ是非同地ニ行てもらひ度候、況んや海老名兄も同地を離るゝニ於てハ尚々此事
肝要と考られ候

小崎氏ハ必ず同志社ニ招く様いたし度ものニ候、されどもし金森氏でも之ニかはらるゝ事ニ相成候ハ、小崎氏ハ警醒社を専任して傍ら是までの働を繼續し、伊勢兄が東京伝道を専務とし海老名氏ニ福島之伝道を願ふ様いたし度候、されバ森本兄ハ京坂辺ニて教会之為ニ働きくれらるゝ様いたさバ大益ならんと存候、浮田氏ハ同志社ニ招き給はゞ至極よろしからんと考られ候、同氏ニ付掛念する人もあるが如く思はれ候へども、その人之思ふ如き事ハあるまじと存候、必ず益あらんと存候、今日之如き場合ニ際しながら尚同氏を置いて問はざるが如きハ同氏ニもよからぬ感覺を与へ、夫より是彼ニ連及して同志社之為ニも不利を與々の中ニ生ぜんと遠慮いたし候、麴町講義所之義ニ付グリーン氏より相談有之候ハ、好模様ニ運ぶ様御はからひ可被下候、来ル土曜日(十日)に開堂式を行ひ、小崎氏この新築之城壘ニよりて盛ンに主之戰を開く心組ニ有之候

伝道会社年会ハ成丈早きを要し可申候、未だ沙汰なきハ如何ン、但シ前条之件々の内可相成ハ年会を待ず^(し)て略定め能ふところハ定むる様いたし候方よろしからんと存候、小崎同志社ニ行なら森本必ず警醒社ニ無るべからず候へども、若シ然らずバ金森氏岡山を出て森本氏之ニ代り働きくれらるゝ様してハ如何

明治女学校之事ハ木村氏よりも定めし新島先生へ向ケ依頼之願ありしならんと存候、該学校ハ随分助力いたさバ伝道之一助とも相成可申候、女教師ハ是非東京ニ来もらはねバならぬ事なるが、然る時ニ伝道之端緒と相成至極便利をあたへんと存候、且木村氏之事も惜しきものにて、今や一致教会之ミツシヨンハ離れたり、何方よりも助の手出ずバ甚だ危険ニ陥らんと存候、同氏之事ハよき助人さへあらバ必ず役ニ立働をなすならんと察し申候、今日までの同氏之有様ハ幾分か一致之人が然かせしめたる所やあらんと考られ候、明治女学校之模様書御覽ニ入申候、御勘考被下度候、

四月五日

新島
伊勢 兩愛兄

足下

高吉

127

四月六日

中村栄助

④ 墨

拝啓、陳ハ昨夜ハ御馳走ニ預リ難有奉万謝候

扱テ看病婦学校寄付金計算之義ニ昨日計算之内John C. Berryベルリ氏金七円四十錢及ヒ下拙分金拾円ノ二口広告外ニ付全ク不足致

候哉ニ心付約束済ノ分取調候処、収税部員ノ金十壹円ト外ニ貳円五十錢矢張京都府ノ分ニテ昨日差送候未領収書付外

ニ相洩し居候間左様御承知被下度、左候ハ、今少々不足ニ相成候様奉存候間、今一応取調之上申上候、且ッ下拙手許

ヨリ直ニ支出仕候金額左之通

。四十一円六十八錢 大井ノ分

。百六十円 武井ノ分十円ト百五十円

。貳拾円 吉岡ノ分 土屋ノ口

メ

右

尚々、宝町上長者町角ノ分則チ土屋手付之受取書入封仕候間御入掌被下度、余ハ参堂拝眉ヲ得万縷可申述候、匆々頓首

四月六日

中村栄助

新島先生

閣下

128

四月七日

松山高吉

①東京赤坂区溜池榎坂町五番地 まつ山たかよし（印判）
丸太町上ル ④墨 ②西京寺町通

〔前欠カ〕

専門学校之事ハ其後如何ニ相成在候や、島田三郎之如も始め本氣ニて助力いたし度所存なりし様見受候、当今同人との関係如何ニ候や、又尾州之三枝サキグサと申者も（山城軒ニて御目ニ掛りし人）尽力いたし度積ニて過般わざ／＼西京ニ赴き申候よしニ聞き申候、しかし折あしく先生ハ御出京（東京）中、他ニ知人ハなし空しく帰りたる様子ニ候、是等も折角力を添ふとの志出候ても中絶して何之沙汰もなく候へばその志も自ら亦失せ果可申と存候、島田之如も一時御談

合被遊候とも後絶て文通もなく何之音沙汰も無之候へバ返て妙な感覺を起すならんと察られ申候

近來陸奥氏大坂へゆき居る由ニ候、或ハ西京ニもいで可申と存候、同氏ハ自ら金力ハなかるべけれど、真ニ助んとせ
バ金を他より引出す事を得べし、先生ハ兼て同氏ハ御存之筈と存候が矢張亜細亞英雄と考られ候間斯る人をして本氣
ニて助力せしむる事ハ骨之折る仕事と存候、草々頓首

四月七日夜

高吉

拝

新じま先生

梧右

129

四月十二日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八十八番地

②京都寺町通丸太町上ル町百四

十番地 親展 ④墨

拝啓、伊達直知事御手許江安着致候段申來候、万事御手数と奉万謝候、同人ハ学才ニ乏敷性質かと被察候得共未タ純
粹之少年ニ〔候〕得は悪醜ヲ帶ズ順良ニサイ成長致候得ハ外ニ望ミ無之候、ホームシツキハ起り不申と安心仕居候
一同人出立之日、郵便ヲ以学校一条ニ付愚見申述候、定而御落手被下候半と奉存候、右ニ付如何ナル御高按か可相成
ハ請願候通り御出京之上御相談相願度、仙台之方は不相替変松倉外両三名隠然と尽力致居候得共兼而申上候如ク県令

より先キニさわき立候てハ難相成情况ニ付、未タしらぬ顔ニ致居候次第故是非共早目ニ発表之手段相付申度候、別紙松倉より今日落手致候条懸御目、右書中他事ハ御読流し奉願、尤御一読之上御戻し被下度候、過日呈上候御返事^{〔折〕}節角相待居候、草々頓首

四月十二日

鉄之助

新島先生

130

四月十二日

山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町 ②西京寺町通丸太丁上ル 要旨 ④墨 ⑥新島朱
筆「一九九年四月十九日来ル」

本月六日御投函被下候鳳翰恭しく奉拝読候、陳者過般米御承引被成下候良教師之儀ニ付不容而御周旋被成下段不堪感佩候、今度御下問被下候儀ニ先ツて内々申上度き事情出来致候

依ツて左ニ、去月廿五日岡山県令千坂高雅氏（我旧家老ニて明治五六年頃旧主君ニ随ひ欧米を遊歴セシモノナリ）当地ニ来リ候、已ニ同氏は東京ニ於て当校外国教師招聘之事を耳ニしたるを以て荐リニ当校長ト小生等ニ対し外国教師之聘す可カラサル所以ヲ説き且ツ米国より招聘するの尤も不可なるを論セラル、小生之れを論し其必要なるを臚列シタリ、千

坂県令曰く、設令ひ必要なるも外国人の取扱ニ困難なるを如何せんとして引例杯をナシ論セラル、小生之れニ抗シ且ツ委員の決議を以て校長の命を奉し己ニ新島先生へ依頼ニ及ひたれば未だ明文の証書交換セサルモ無形之約束略結ひたり、今更何等の事情あるも容易ニ之れを變更し難しト弁シ、且ツ委員会ニ於ては米國より直ニ招聘する事は議セサレトモ先方ニテ都合アリて米國へ申越されたる事ならん、何となれば先ニ米國ニ於て三名の大學卒業者と約束云々有之候得は定めし其名を送らるゝ趣意ならんと思はると弁し、此他種々論議致したる末、県令も深く論セラレズシテ帰県セラル、明治六年頃、当地ニ於て英人ダラス氏を教師として聘シタルニ、同人は無頼ニテ貪欲深く、為めニ当地之不幸を來タシたれば此等を追懷し外国人を嫌ふの風今猶老長者ニ存す

扱、千坂県令來リ洋教師招聘之儀を非議したる以來種々故障起リ、当校内ニ^(イ、イ、イ)も多少の議論出て來リ、当校長尚ホ且

ツ逡巡躊躇するあらんとす、小生大ニ之れを憂慮し之れを論し憤激之余一時断然袂を払ひ心身を貴館ニ投せんと決したる位なりしが、今日ニ至リ再び纏まらんとする傾向出て來リ安心の日近きニ在ラント信居リ候、倘シ此の議論をし

て今より三十日以前ニ起らしめば人心の變更豈ニ爰ニ止まらんや、嗚呼、危殆なりき、事茲ニ臻らざるは皇天の当校を憐み賜ふと先生の已ニ業ニ書を米國ニ御遣ハシ被下たるニ因るなり、右之次第ニ御座候得ば今度御下問之条々倘し御不都合なくは、御遷延被下間敷候哉、今此際ニ右の箇条呈出致さば多少故障を埋すノ恐有之為めなり、尤も御下問之箇条其他細密之条々目下確定するは杞憂と存候得共^(朱点)実^(朱点)は教師御來着之節小生参館仕リ御高説を仰き返リ定約取り結ひ度存候、左候ては不都合ニ御座候や、併し右御下問ニ對し返リニ小生一箇之私意を述べん

一、以前洋教師を聘シタル例ニ依れば、条約は一ヶ年と期限を定め、都合宜しければ一ヶ年ツの年期ニテ雇続けた

り、多分此の例ニ倣ふならん

右第壹ニ答ふ

一、休暇なりとも百円の礼金ヲ呈スル、勿論ならん

右第二ニ答ふ

一、毎日授業時間は五時間と仮定被下度候

右第三ニ答ふ

一、家屋之賃錢其他食物等悉皆百円の礼金中ニ而御支弁と御心得被下度候、但し家屋は来年ニも都合次洋館様のその新築致し可成的諸雜費減する様致度き旨内々評判致居り候

右第四ニ答ふ

先きニ当校委員ニ迫まり、辛ふして洋教師招聘之認可を得、月ニ百円（紙幣）之報酬を呈する決議を得たるも小生心中窃カニ赧然たるなき能ハス

一、去月廿二日付け差上げたる手紙御落手被下候哉、〔黒点〕米国より東京迄の教師の旅費之儀当校ニ於て其準備等之れ無く候得は小生頗る懸念罷在候也

一、今度御周旋被成下候良教師は小生何となく先きニ先生米国へ御滞在之節御約束被成候三名之中と存し、当校長其他へも左様相談居り候処、唯今の尊翰ニ依れば有名なる碩儒シーレー先生の御周旋ニ相成たる由、実ニ弊校之為め幸福限りなき事と奉存候、然るニ過般来申上げ候通り、先きニ委員会ニ於て決議は日本滞在中の米国人より聘する事ニ〔黒丸〕て態々米国より招く事相談致し置かす、依て甚た恐縮之至リニ存候得共、倘し御不都合無之ときは先生御滞米中予て薄々御約束之処弊校より御周旋を請ふたるニ依り殊ニ其人を御招き被下候儀と心得ては如何ニ御座候哉、実は此事種

々關係を有し居り候得は尙し御不都合なくは是非々々左様之儀御承諾被下度奉願上候

一、去月十五日御投函之尊翰と同十六日松山君よりの来書〔黒丸〕とニ依り、已ニ先方へ御約束被成下たる事を当校長以下承知致し居り候得は此後〔黒丸〕は益々御約束之手順相運ひ不日ニ米國ヲ発途被致ならんと、御報導被下候様单ニ奉冀望候

嗚呼一度斯機を失へハ宿昔の願望水泡ニ属せん、死するも尚瞑〔黒丸〕する能ハす、孤心の切なるを御遙察アレ

今御投与被下候尊翰は右之次第を以て秘し度存候間左様御承知可被成下、又此の手紙も私書と御見做し被成下度奉願候

一、弊校ニては去月廿二日付けを以て奉呈したる旅費之儀ニ付懸念仕り居り候得ハ可成速ニ答書を煩ハし度奉願候、外ニ山々申上け度き事情有之候も後事ニ譲る、乱文御宥恕被下度奉願候

四月十二日

山崎新太郎

拝

新島襄様

梧下

六月十一日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②京都丸太町上ル町百四十番地
 親展 ④墨 ⑥新島朱筆「六月十四日来ル」

東京御出立後定而御安着之事と奉察候、老大人様御容体如何被成候哉御看護專ニ而御閑暇も無之事と奉察候、梅雨中ニも相成不順之時候ニ候得ハ御加養別而御大切と奉祈候、扨デフォルスト氏ニも宮城より安着、已ニ今日出立帰阪相成候、縷々出会致度心懸居候所一兩日中頗ル多忙之所江帰京、はや今日ハ出立と申事故碌々会話致候時間も無之誠ニ残念ニ御坐候、然仙台ハ至而得意之模様ニ相見得一入安心致候

扨其後松倉并ニ十文字方より通信有之候処諸事好都合ニ相成候段申来候、十分とハ難申も最前見込相立候位ニは無間違成効相成可申、此上は賢台御尽力ニよりて地方有志輩増加可致候

一扨御出立之節御申置之内規草案相認メ在中致候条外国教師ニも御相談決定被下度候、右写仙台之方江もさし遣置候、同所発起人ニ而評議致置候て賢台仙台江御出之上、相方ニ而協議決定致候はこびニ致度候、先ツ以御下り後之御模様相窺度旁々如此御坐候、頓首

六月十一日

鉄之助

新島先生

尚々、デフオルスト氏ハ仙台江下り候、返事十分ニ決定候よふニも無之候、皆新渡之教師計ヨリも日本情態相心得候デフオルスト氏之如キ人一名出張致具候方好都合と奉存候、草々

132

六月十五日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
②京都丸太町上ル町百四十番地
親展 ④墨 ⑥新島朱筆「六月十七日来ル」

八日九日と兩日之尊書今日拝読、扱御安着尊大人様ニも先ツ少々御快方之段御申越家内一同奉敬賀候、然し御老体向暑之事ニも有之候間十分之御加養專一と奉祈候

一、エグリーメント之義被仰下無残拜承、即草按相立兩三日前送呈致候筈ニ御坐候間デフオフスト氏杯江御協議之上、速ニ御申越被下度候、送呈致候ト同様之もの仙台江相下し置候、右ハ昨今創設ニ懸リ居、大要不相示候半テハ趣意之順序ヲ被誤候恐レ有之、即商議委員ヲ相立維持之計画致候如キ事共、創立之際誠ニ要用之ケ条ニ有之候、尤確定之モノニ無之故篤と評議致置候様申遣候

一、十ヶ年と相約候義必要ニ候ハ、有志家ニ於て千円ツ、ギアレんテ要候半と御申越之所、右ハ極テ不用之様ニ御坐候、エグリーメントニ十ヶ年と相定メ候ハ其体面上ヨリ相生候事ニテ、縦令十年と相約候共学校不起節は維持致候

も不用ナル事、又学校隆盛ナル時ハ十年ニ限り候訳ニ無之、旁々少額之金員千円位ニテギアレन्テ一抔相立候てハ却而盛大ニ赴クヘキ進路ヲ妨候様ニ相成甚面白ク無之様ニ相考候、此度仙台御一見被下候通り有志家共十分ニ入心致居候故、出来キ得ル丈ハ一同尽力致居候間其辺ニ御懸念不被下候様致度候

一、学校敷地も已ニ入手相成候模様ニ候得ハ此上ハ可成速ニ御着手被下候様御尽力希望致候、今後之策ハ学校押立候上事務上より信任ヲ得ル事ニ致度左候得ハ前途ハ更ニ懸念無之と愚案仕居候、草々拝答、頓

六月十五日

鉄之助

新島先生

133

六月二十三日

木場貞長

②京相国寺門前同志社 ④墨 ⑥封筒表書「官第一四八号」、同裏書「文部大臣秘書官木場貞長」

六月十六日付ヲ以テ貴校神学科之儀ニ涉リ森大臣之御内意御承知相成度旨御申越相成候处、文部省於テハ神学科ト雖モ他ノ学科ト同様ニ取扱候事ニ有之、凡テ私立学校ニ於テ教授スル学科ハ弊害ノ生セサル限りハ可成不問ニ相付シ、又弊害ノ有無ハ地方官ノ意見ヲモ問合候上ニテ判定相成候儀ニ付、例規之手続ニ依リ御願出相成可然歟ト被存候、右

大臣ニ代テ御回答申上候、敬具

六月二十三日

新島襄殿

文部大臣秘書官 木場貞長

134

六月二十七日

富田鉄之助

- ①東京麻布区市兵衛二丁目八拾八番地
②京都丸太町上ル町百四十番地
④墨 ⑥新島朱筆「六月廿九日」

爾後御左右御疎遠ニ打過居候、追々薄暑之時節に候処尊大人様御容体如何被成候哉、賢兄ニは御看護等ニ而御多事之事と奉遙察候、小家幸一同無事ニ御坐候間御安易被下度候

一、仙台表其後之情況ハ兩三日前之郵便ヲ以新聞紙指出置候、大略ハ右ニ而御承知被下度候、追々共意外之好評ヲ得居候、仮り事務所ヲ松倉方ニ相設ケ六七名委員と相成、松平県令ニは総理と申事ニ而諸事取極メ居候様子、学校敷地未タ入手不相成候、官府より之払下ケ候故兎角手間とり居候哉ニ被察候、乍然早晚入手可相成候

一、先日指出候内規草按如何御評議被下候哉、御内決相成候ハ、被仰下度候、仙台地方之人心大ニ打合居候場合故、此機会ヲ外サズ諸事速ニ決定候様致度候、仙台書生ニ而當時東京留学之者共も当夏休業間帰省候ハ、直ニ新設之学校

ニ相入り、郷里ニ於テ修業致度抔申居候もの共も相聞得候得ハ、生徒も意外ニ集合可相成哉と喜悅罷在申候、此上ハ一ト御尽力被下候様切望之至リニ御坐候、爾來之御様子共窺申度草々如此ニ御坐候、頓首

六月廿七日

鉄之助

新島先生

尚々、東京大学并ニ予備門等之學則英文之モノ有之候ハ、送付候様デフォルスト氏より被相托居リ候、聞配候ニ英文之モノ無之、此セツ編制中と申事ニ候間出板次第摺送り可申候条御序之セツ右之義同氏江御話し置被下度候、草々又拝

135

七月八日

山崎新太郎

- 略
- ①羽前米沢元東馬喰町
 - ②西京寺町通丸太町上ル
 - 要旨
 - ④墨
 - ⑥別紙省

爾後御左右を御伺不仕候処已ニ流金之時節ニ相成候得共々様益御機嫌克御起居被遊候段珍重ニ奉存候、随つて小生方ニは無異相暮らし居り申候間乍畏憚御休神被成下度奉願候

御老父様御病氣は如何ニ御座被成候哉、いまた全く御平癒ニ至らせられず候哉、時節柄一入御養生之様奉祈候
乍遅引予て御質問ニ相成リ候箇条夫々聞合之上別紙へ認め差上げ候間御台覽被成下度奉冀望候

当校從來之教則教課書等不完全なりとも可成的正則ニ近き様改正致す可く存居リ候、依て從來之学科課程表一葉描写
之上差上げ候間是非御教示被成下候様奉懇願候、今度之改正と申しても当地之有志者坏は悉く政府之一挙一動を模範
とするの俗眼者而已なれば真正之事は中々至難之事ニ御座候、此儀宜しく御推察之程奉冀望候、時下折角御自愛之様
奉禱候、先つは要用旁々御伺まで如斯候也、早々頓首

七月八日

新太郎

拝

新島先生

玉机下

136

七月十二日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地

②京都寺町通り丸太町上ル町百

四十番 親展 ④墨

七月一日并ニ八日之両通正ニ拝受、疾ニ御答可仕筈之所甚多忙、乍存自然今日迄延引相成候、不惡御有恕被下度、扱
両通之拝答左ニ、副校長推選ニ付種々御高按之末同志社之市原君ナレハ充分ナル御見込ニ付同君御割愛ニ付月給五拾

円と相定メ三年代理相務メ候後同給ヲ以二ヶ年間米国江遊学ノ約相立候様被成度云々、御細書篤と拝読致候、学校創設方追日進歩土地も不日入手之模様募集金も多分目的丈ハ集合可相成候、然ルニ右ハ学校建築ト書籍器械買入レ、もし残余有之候とも僅少諸雜費ニ可相当丈位と予想致居候、尤教員月給ノ事より維持方法之相談ニ至リ候てハ未タ相纏リ申間敷、乍去早晚何ニとか評議相整ヒ不申^候半てハ始業相成兼候、其辺之義ハ貴台御出張被下候上ならてハ決定難相成事と存候、尤小生草按相立候規約中ニも副校長ハ新島君の特選ニ可任と相認メ置候、右ハ發起人中ニも異議有之間敷と推察致居候間、可成丈善良ナル副校長御推選被下候事緊要ニ候得ハ月給五拾円ヲ要候ハ、右ヲ以御内定被下候て異議無之と存候、乍去三ヶ年後遊学為致候と申事迄只今より約定候義ハ得策ニ無之様被考候、其理由ハ維持ノ見込も未タ相定リ不申レハナリ、維持ノ見込ハ学校開設後ノ信用ヲ得候上、其信用ノ度ニ從ヒ難易兩路ニ相分レ可申、將シテ目的ノ通り信用ヲ得候ハ、後來校長トナルヘキ資格ヲ備フル為メ御見込ノ通り費用ヲ出シ候テ海外遊学ヲ為サシムルノ相談相整候時機も可有之候、前文ニも認候通り現今第一着手ハ有志者ヲ纏メ創立ノ準備ニ有之候、此次第二着手ハ開業ノ上学校ノ信用ヲ以テ維持ノ計画ヲ定ル事ニ候、其次第三着手ハ漸次ニ更張ヲ計ル事ニ有之候、此ノ時ニ當リ校長ヲ仕立ル為メ海外派出ヲ為サシムル策も発言被致可申候、^{〔折〕}（即此度御申越ノ市原君云々如事共ニ）

右大略ハ御問合ニ対スル拝答ニ御坐候、乍然^{〔格〕}節角御配慮被下候て同志社一二之人物御割愛ニ就てハ甚不充分ナル愚見ヲ陳述、不本意千万ニ候得共此度之企ハ兼て御相談相願候通り資金ヲ積立十分ナル余有^{〔格〕}ヲ以着手候事ニ無之、学校敷地と三千円位募集、先ツ右ヲ以着手之端ヲ開キ候事ニ有之、然ルニ貴台之名望より予定外五千円も集合之企ニ相成、是レ偏ニ拝謝仕候より外無之候、一体宮城地方ハ他県ニ比較候得ハ極テ困疲致居候故、今後之所中々油断難相成、整頓迄は幾個ノ困難可相生も難計候、尤創業ハ易ク守成ハ難スト申事ニテ、社会事業之通慣故覚悟ハ致居候得共、發起

人等一同協力堪忍、着々一步ツ、進路ヲ取り後來大成ヲ望ム様希望致候

一、市原君仙台出張候ハ、貴台ニハ御出無之候とも可然哉云々御尋越之所、御承知之如ク創立趣意書ニも明言致置候
通り、貴台御引受と申事より地方一時ニ結合候次第ニ有之候得ハ、市原君出張ニ拘ハラズ一兩年間ハ万事貴台直チニ
御指揮不被下候半テハ好結果ヲ得ル能ハズト確信致候、同志社ノ方も有之候事故御常住ハ勿論難相成候半、此節ハ副
校長代理と相定置不苦候得共、此創業之際ハ是非御繰合セ御奮発被下候様相願置候
右拝答ノミ、草筆誠ニ幾度ニも認継キ候故前後之所宜御推読被下度候、草々頓首

七月十二日

鉄之助

新島先生

137 七月二十二日 堀 貞一

④ 墨

〔欄外朱・新島筆〕
「六円三十銭内十銭印紙」

拝啓、高堂主恩ニ浴し益々御清迪奉賀候、二ニ当地一同無事送光罷在候間乍憚御休心可被下候、陳ハ看病婦学校寄附

金兎角意の如ク集リ兼ネ甚タ僅少ナガラ左之通御受納被下奉願候

金拾銭 深井十七藏 同上 西川弥太郎

金拾五銭 大塚忠太郎 金貳拾銭 吉田 錫

金五拾銭 大塚吉三郎 金五拾銭 女信徒中

金壹円 提 泰吉 金三円 当郡長 林 撲〔脱アルカ〕

右ノ六円三拾銭也

十九年七月廿二日

新島先生

閣下

当地近在ニモ有志者無キ〔ニ〕非サレトモ、客月来小生少々病氣ニ付き奔走モ行届カス、然し追々募集仕候様致シ度き存念ニ御座候間此段御承知可被下候

堀 貞一

拝

138

七月二十六日

山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町

②西京寺町通丸太丁上ル

奉煩親展 要旨

④墨

⑥消印「京都一九・七・三〇」新島朱筆「十九年八月廿五日来ル」

寸翰奉拝呈候、陳者酷暑之候御一統様益御清穆にて御消光被為在候段奉拝賀候、今般当校之事ニ関し内々申上げ度き事件出来致候ニ付左ニ開陳し御考案を煩し申度奉願上候

今度私立中学校及び当県社金（県社金は謙信、鷹山両公を祭る金なり）等士族共有之事を議する為め士族会を設立致候、即ち当校従来之委員を解き、立法部を該会ニ於て司る組織なり、士族会之代議士二十名中にては丸山氏最も正義家ニして又随分多数を占める勢力を有する事ニ御座候、然るニ丸山氏の建議を以て当綱島校長を廃し、會計其当を得る迄士族会長池田氏（池田氏藩政之際政務ニ与カリ又旧君主沖繩県令たりシトキ書記官たり）を以て兼任せしむる趣旨なり、丸山氏の建議案を呈する所以は種々之事情原因ありて一応道理ある事ニ御座候得ハ不日ニ該会ニ於て校長之更迭は避く可らざる事ニ御座候、然るニ惡む可きは高梨氏なり、抑も同氏の如きは節操なく、唯私利を営む之奸智ニ老け、公利を名義としテ無用の業を起し他人の利害ヲ顧みず己れの名譽を博せんとするの白物なれば、先きニは綱島校長を戴き己レ其蔭ニ立ちて万事を経営せしも、今は勢力之権衡地ニ傾くを見て翻然局を變更なしたり、同氏ニ誠懇忠実之心なきは郡長始め具眼者皆識る所ニ御座候、而して又当校の資本金は唯今高梨氏ノ掌握ニありて運動し居れハ甚た危剣ニシテ確實ならざると事より追々株券或は公債証書ニ引直し、高梨氏の手を離す有志家の心算ニ有之候由、倘シ株券等ニ

引直すトキは実地なりと雖モ其利子低き為め歳入は大ニ減少す、左すれば過日差上げ置き候歳入表ニ齟齬を生ずる事ニ御座候、然ルニ小生は今度丸山、池田氏等以下の有志家の顧問を頼マレ候、小生百方辞シたるも条理を以ての依頼なれば不得已、一と先ツ情を枉げ該集会へ出席致候処、教則之改正其他教員の黜陟等を内々托せられ、加之督業とか言ふ名義を以て不日ニ任せられるゝ由なり、併し教則改正は専ら小生の方寸に任するノ實際ニは固ヨリ之レ無く、丸山氏始め有志家皆文部の模範ニ一々則る考なれば小生の如きは肘ヲ掣せられ一の器械の如き観なきニ非ず、されバ先生と御約束致したる主義ハ迎モ今日の実際ニ於て中々行ひ難き事ニ御座候

嗚呼進ンデハ真正之教則を実行する能ハす、退ひては校長以下を已墜に救ふ能ハす、義を尊はん歟恩に背かざるを得ず、恩ニ背カサラン乎義ニ従フ能ハざるを如何せん、恩義両ながら重し、小生進退茲ニ谷ル御推察之程奉願候

然るニ又東京ニ居る官員有志者等の会議ニ於て此程決議したる数ヶ条^(ケ)当委員会へ差出したる建白書ニ左の一ヶ条^(ケ)あり、即ち「外国語学教師は耶蘇伝道師たらざる事」の件あり、当有志者内々に於ても多少議論ある由、併し小生の目前ニ於ては遠慮するより^(か)誰モ人口外する者なし、俗人の凡眼ニは形而下より外は見へざる事ならんと存居り候、小

生彼此熟考し已ニ不肖ながら教育之大任を自任シタルモ、当時彼の事あり又学問淺薄ニシテ陶冶肯綮ニ当る事覚束なく、向來先生と教育上の主義を共ニし首尾相応するの大計を行ハんには、須らく先生元治の故事ニ倣ひ憤然志を立て飄然文明の泰斗たる自由の鼻祖たる合衆国ニ投し、学該博、行端正なる碩儒ニ付哲理之玄妙を操り、宗教の蘊奥ニ溯り、以て我か社会改良之基本を定めざる可らずと覚悟仕り候、是れ虎の真似をなす猫の譬ヘニ泄れずと雖トモ、兩三日昼夜思案を竭し候、小生固より瑣々たる寒陋之一書生ニシテ旅費位は携ふるを得るも、迎モ該地ニ坐食シテ研窮するの独力なし、されば学問研窮サヘ相叶ひ候ハ、如何なる賤業を取るも厭ふ所ニ非ず、小生米國ノ事情ニは不案内ニ

候が何か大家へ学僕様の事出来候へ、灑掃應對之務をなし以て勉学仕り度き所存ニ御座候、切に冀ふ、小生の衷情御
憫察之上右願意相叶ひ候様御配慮被成下度、伏して奉懇願候也、早々頓首

七月廿六日

山崎新太郎

拝

新島先生

玉机下

尚々、乱文之儀御宥恕被成下度奉願候

小生来月中旬頃学校之命ニ依り上京致す哉も難計候、是れは文部省より中学綱領發布之為めニ有之候、其節錦
地へも参り度存し居り候

御承知之鈴木千代吉君当校正則教師として暫く雇ひ度き積りニ御座候、本人之条々勿論御家内いも知ラセヌ事
ニ候得ハ篤と御勘考被成下何分の御願指奉仰候、書留ニ致して差上げ可存候得共事々しく相成るを以て態と左
様不致候

139

八月六日

北垣国道

②親展

④墨

別啓、今朝同志社松山高吉、中村栄助両氏参リ候ニ付学校ヲ準官立之資格ニ願立之事協議致候、早々其願書ヲ文部省江差出し候事ニ決定候間此段御了承可被下候也

八月六日

国道

新島先生

140

八月十四日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地

②西京寺町通り丸太町百四十番

地 親展 ④墨

今以大暑ニ御坐候、御安泰奉賀候、御帰京後兩度之尊書正ニ拝読仕候、市原君安着小家江一泊之上直ニ仙台江被越候、多分廿日頃迄ニは帰京可相成候、兼而御内話致置候通り小生之愚意も薦と同君江申述置候

一、仙台学校敷地ハ追々価額引キ上ケ何分致方無之ニ付、^{〔ママ〕}先前之地地ハ全ク断念之上、更ニ清水小路九番地^{〔カ〕}内松倉恂之居住地ヲ譲リ受、又其隣家ヲ合セ合坪数五千坪之所ヲ以学校と確定致候由申来候、教師館建築地ハ其向^{〔ヒ〕}ヲ側ニ而入手之談判中と申来候、場所は御承知之通り少敷南方ニより候得共町家ニも不接、前町ハ広ク殊ニ水ハ仙台ニ而第一等と申所ニ候得ハ敢テ御異存も無之事と奉察候、地図も指上候半ト存居候、其外募^{〔ヒ〕}集^{〔ヒ〕}金之事モ七八分通り相集リ候模様ニ御坐候

左原兄江御立替金ハ同君御帰京之セツ御送り申上候様可仕候、草々右ノミ、頓首^{〔市〕}

八月十四日

新島先生

鉄
拝

尚々、高等中学校之学則取調中ニ候処未タテツキストブツクハ定リ不申、当時教員方避暑中故当月^{〔未〕}末、来月初ナラテハ相定リ申間敷、定リ次第指上候様可仕候、草々頓首

八月二十日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
 金子入、親展 ④墨
 ②西京丸太町上ル町百四十番地

市原君江相托拝呈、未タ殘炎不相除候愈御安泰奉賀候、然ハ市原君昨日仙台より帰京相成候、同地之模様万事同君より御聞取被下度、扱同君ニも貴台と御相談之上弥々仙台江出張之義決定可相成との事ニ候得ハ、何卒御賛成之上是非尽力有之候様松倉初十文字より申来候、扱弥々仙台出張江相成候上、来ル十月頃より仮ニ開校可然御見込、尤仙台ニ於ても希望之模様ニ有之候条万事御相談申上、仮リニも学則相設ケ生徒募集着手之義御計画被下度、百名位ハ可也教授相成候右長屋有之様子ニ御座候、其辺も万事市原君承知相成居候条御相談被下度候

一、御立替之金員廿五円在中致候条御落手被下度候、且亦市原君仙台移住ニ付てハ路費其外費用として何程出金可然や、御内示被下度候、草々頓首

八月廿日

鉄之助

新島先生

142

八月二十一日

松倉 恂

①宮城泉清水小路九番地

②西京寺町通丸太町同志社英学校長

親展

④墨

拜啓、今以久旱炎熱之^{〔ママ〕}之処尊大人奉始メ御清福可被為涉奉遙賀候、陳ハ最前市原君御来仙之節ハ縷々御懇書被下候処爾来御返事延引多罪之至御海恕被下度候、学校設立方百般手續之景況ハ市原君親く御視察被下候上御帰京相成候間定而御聞取被下候半と奉存候、地所之議ハ十分ならされとも不得止清水小路之弊邸及南隣と相決し、最早地ならし等粗相出昨今木材運搬中ニ有之候間御了承被下度、将又建築ハ段々手後レ、本年中ならてハ落成六ヶ敷可有之存候得ハ開校期節相後レ生徒之不幸ニ可相成旁十月より仮校ヲ開き候方可然冒市原君御氣付、宮城知事始メ大賛成ニ付其運ヒニ仕候間デフオレスト氏及市原氏ニハ九月中ニハ御来着被下候様相願候筈ニ候、其通ニテ貴兄御異存も無之候ハ、是非両氏御来仙之義御取計被下度、尤縦令仮校ヲ開き候事ナリトモ其節貴兄ニも一兩日之御滞在ニテナリ開校之日御臨席被下候事ナラハ誠ニ後來百事之都合無此上幸福、併市原氏ト一同御来臨被下候而ハ同志社之御都合如何かとも奉存候故強テも申上兼甚困却仕候得共僻遠之地方始メテ開校之事ニ候間此等之情実御洞察可相成ハ御東下之程余而奉願候、米教師居住地兩三ヶ所相談中ニ候得共差向之処ハ借宅之手配仕置、本人来着実地一見之上取極め候方可然哉と相考居申候、市原氏住宅之儀ハ勿論手配仕置可申候、右之条々委細ニ富田へ申遣置候間定て御相談可申上事ニ存候、先ハ早々御返事旁如此御坐候、殘炎之節御自愛奉祈候、頓首

八月廿一日

松倉 恂

新嶋襄様
侍史

追テ市原君ニハ昨今頃御着京と奉存候、過日中之御礼旁書状可指上之处、兩三日来□邪ニ感し平臥同様之仕合甚懶く、此度御紙面認兼申候間何共恐入候得共可然御致声奉願候、将又仮学校ニ而用候〔朱丸〕イス、テ。プ。ル新製仕度候処追々本校ニテ用候様之品ヲ調ヒ申度、〔朱丸〕仍而兩品ノ寸尺及図面何卒御調至急ニ御遣し被下度奉伏願候

又拝

143

九月四日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地

②西京寺町通丸太町上ル

親展

④墨

華墨拝読、海水浴江御越相成候由多分御保養相成候事と奉察候、当夏ハ非常之大暑実ニ苦熱ヲ極メ候、漸ク兩三日前より朝夕冷キ相覚候事ニ御坐候、然ハ市原君仙台行御決心被下候由誠ニ大慶仕候、弥々学校之組織も上出来ニ可相成と段々之御尽力奉多謝候、仙台ニ而も文字、信介、区长と相成候得ハ是も吾か物ニ一ト都合と察居候、然ハ市原君家族引纏ニ付右入費之義御相談逐一拝承致候、至極尤千万之事ニ而已ニ生ニも心付居候故、先般市原君江相托し拝呈候書

状中ニも右申上置候事と相心得候、素より一人之旅行とは相違ひ老弱夫人等相添候得ハ一書生之旅行通りニハ不参事ニ候、然ルニ何程位之予定候ハ、間ニ合可申哉、大凡ハ聞合被仰下度候、小生方ニ而何様ニも縁合相弁候様致度候条否御返書被下度候、其余被仰下候件々拜承致候、一々拜答不仕候、草々頓首

九月四日

鉄
拝

新島先生
御坐下

144

九月九日

富田鉄之助

墨 ①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②京都寺町通り丸太町上ル ④

三日之尊書拝読、市原君旅費云々ニ付てハ先便拜答仕置候、更ニ御返書次第金員御回付可仕候○初歩之数学教員之義御心当之者屯名御雇入被下候て可然候、高等之分は先ツ開業後ニ涉り候事故市原君なり賢台ナリ御出張被下候上、宮城ニおゐて御相談被下候方可然と奉存候、先ツ当十月より仮り開業丈間ニ合候様丈之教員ヲ以昨今御決定被下候様奉願上候、仙台之方ハ昨今建築方ニテ松倉非常之奔走致居候模様、過半は見込相立候様申来候、可成早ク市原君出張希望致居候事申来候、デフルスト氏来仙仮宿所も相調居候哉ニ御坐候、草々頓首

九月九日

鉄之介

新島先生

145 九月十二日 山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町 ②西京寺町通丸太丁上ル 乞御親展 ④墨

尚々御家内様へ宜しく御鳳声被成下度奉仰候

去月卅一日御投与被成下候玉章謹て奉拝読候、陳者過日奉懇願候儀ニ付骨肉啗ならざる御配慮を蒙り種々詳細之事まで御懇篤なる御教示被成下御厚意之条々難有奉感佩候、切ニ願ふ、微志是非成就致す様何とか御尽力被成下度重ねて奉懇願候、且又先日小生出京致度積りにて申上げ置候処、近年未曾有之暑氣之為歟脳病再発之気味あるより丸山君等の勧告ニ依り入湯を思立ち、七月卅一日高湯ニ参り候、五ヶ年以前先生に邂逅致せし事を回想し懐旧に堪へず坐ろに袖を絞り申候、二週間余入浴之後帰宅仕り直ニ上京可仕存候処学校改革之事紛々不纏、種々討議之末本月六日を以て遂に委員会ニ於て綱島校長を廃し、委員会長池田氏校長之職を兼ねる事ニ決議致候、此の変動前後種々之事起り、一日遷延致し不思御無礼仕り嘸々御待ち被成下何程か御立腹被為在候へん、御違約之罪不軽、今更御申訳け無御座平ニ御宥免被成下度単ニ奉願候、孰れ近々上京之事は六ヶ敷御座候、又昨十一日池田氏より小生等へ更めて依頼ニ相成り

候、右動搖も当月中ニ静まらざる可存候、実は池田氏は近来まで当私立学校を鼎立或は公立ニ変する首唱者にて、小生等と固より取る所は大ニ異にして、且ツ先生と盟約せし真正之教育を實行する益々至難なるを以て辞表を呈度存候得共、先きニ先生より御教諭もあり暫らく不平を吞み居り申候、又予て御依頼申上げ置候外国教師之事会長より不日ニ明文を以て有無申上くる様催促可致存候、右之次第ニ御座候得ハ仰き願ハくは微衷御諒察之程切望に堪へず、時下不時候之折柄御自愛奉禱候、先ツは御違約謝罪旁々改革実況申上げ度乱文如斯御座候、早々頓首

九月十二日

山崎新太郎

拝

新島先生

玉机下

仙台へ御計画之学校御成就之趣き奉大賀候、爾後弊散たる覽者ノ奥州も扁倉之恩を蒙り不日ニ平癒シ、数年を出して全国平均之権理を得るニ至る事遠きニ非ざる可し、斯る盛事を以て弊校之成り行きを想遣り候へば実ニ腸九回畜ならず

竹前君之事遙かニ懸念在り候、倘し重症に趣くの徴候有之候ハ、帰国之方可然存候、尚ホ不日同氏へ手紙を出す可く候

九月二十六日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②西京寺町通り丸太町上ル百四
 十番 親展 ④墨 ⑥新島朱筆「十九年九月廿八日来ル」

秋涼ニ相成候所愈御安康奉賀候、市原君ニも過廿三日横浜出立ニ相成、昨日仙台江安着相成候事と遙察罷在候、教科書類も一ト通り当地ニおめて買入携帯相成候、多分来月十日前後より始業之事ニ可有之、仙台之氣込は弥々によりしく、入校申込も日々兩三名ツ、有之模様ニ候、弥々開業時日確定之上は生徒之方向も一定可致事と遙察致候、デフォルト君も引続キ京地出立之模様市原君より伝聞致候所、幾日頃仙着ニ可相成候哉御洩被下度候、始業より外国人不居合候ハ、全体之氣受ニも相関候半と一時も早く出張希望致候事ニ御坐候、始業一兩年間ハ別而注意可致機會ニ候間尚此上幾重ニも御配慮被下度候○市原君旅費之義拝承致候、相知候次第早々御申越被下度候、且同君之事而御申越之義承知、即仙台江申遣置候○伊達直知之義拝承、華族種族之不振は常態致方も無之、彼は相願候次第ニ候得は今一兩年間御試ミ被下候様相願度モノニ御坐候、仙台之方江遣候も可然候得共昨今之所ニては未タ該校之仮り始業ヲ開き候丈ニ而一兩年後ナラデハ転校も六ヶ敷可有之、彼是当分御取扱被下候様相願度事ニ候、草々頓首

九月廿六日

鉄之助

新島先生

尚々、私立学校ニ兵式課設立之一条ニ付てハ森氏内々尽力致居候模様確ニ伝聞致候、其中何とか可相渉哉と被
察候、然し仄ニ伝聞候事ナレハ御他聞ハ御無用被下度候也

147

九月二十八日

山崎新太郎

①羽前米沢元東馬喰町

②西京寺町丸太丁上ル

乞御親展

④墨

寸楮奉拜呈候、陳者去る廿一日付けを以て小崎君より華書御投与ニ領^{〔預〕}かり、同絨中先生より小生宛ニて御恵投被成下
候鳳章封し来り候ニ付直ニ拝読仕り候処鄭重なる御教示を蒙り且ツ一方ならざる御厚待被成下候趣き御鴻恩之儀難
有奉感謝候、当暑中ニは遂ニ高館御伺ひ奉る能ハす残念至極是事ニ御座候、弊校改革之模様は過日申上げ候通り案外
ニて真正教育之主義と益々離隔し青年陶冶之望茲ニ絶ス、小生不肖自ら任じ拮据従事于当校已ニ五年、竊カニ先生済
民之大業ニ一臂之力を致さんと欲し道ニ横へるの大難を攘拆し日一日斯の方針ニ近ツクを計画し、着々歩を進め今や
將ざニ彼岸ニ到達せんとするニ際し一朝颶風之為め蹉躓し容易ニ挽回す可らざるニ至る、小生日夜歎息痛恨ニ堪へ
ず、先生ニ訴ふるニ非されば夫れ將た誰れニか訴へん、御察し被下度候、当校改革之余波今以て鎮まらず、近頃高
梨、丸山二氏当校之幹事となる、奸人正義家を瞞着し以て名利を博せんと欲ス惡みても猶余ある事ニ御座候、社会澆
季人心腐朽シ上下相欺く之俗をなすニ至らんとす、先生此の大敵を拉き匡済之大業を御計画被遊候ニ就ては小生学成

るの後涓埃之報を致さんと欲ス、幸ニ御承諾被成下候様奉願上候

池田氏病氣ニて引籠り出勤無之為めニ外国教師之儀ニ付未だ談判致さず、孰れ不日ニ池田氏より表向きニ有無申上け可く様取り急ぎ可申候間暫時御待被成下度奉願候、併し実際今日と相成り候ては招聘之儀到底六ヶ敷存居り候、何となるニ士族会の委員杯は皆々俗人ニて見識鄙陋ニして道徳もなく、且ツ理も非もなく西教を罵詈訾し確實之心なく且ツ契約を重するの精神ニ乏しく実ニ以て不堪慚愧次第ニ御座候、唯願ハくは先生国家之為め康壯なる御身体ニなられん事日夜奉禱候、乱文早々、頓首

九月廿八日

新太郎

拜

新島先生

玉机下

別紙、綱島校長改革後、滑川温泉入浴之際小生ニ宛られた手紙ニハ、外国教師之事記載有之候得ハ御台覧ニ供し度存候、又小崎君ニも介意なく何事も御相談致来り候得ハ今度改革之模様も不日ニ申上け可く存候、且ツ同氏綱島校長と三人ニて深更まで学校の前途之御相談致したる事有之候得ハ別紙御覧之後御序手之節小崎君まで御送り被成下度奉仰候

148

九月三十日

牧野伸顕

②京都寺町丸太町上ル 親展 ④墨

拝呈、益御多祥奉賀候、然は過日ハ御伺申上候得共不得拝面遺憾奉存候、実は先般一寸得貴意置候通り舎弟一人御校へ入学為致度、夫ニは少々御直話申上度事情も有之候故、過日御都合相伺候次第ニ御坐候、就而ハ近日の内御出神の御序無御坐候哉、外ニ御用等有之御出神相成候得は御出先御通知被下度偏ニ奉希望候、若し近々御出掛等無御坐候得は代人を以願上候敷又ハ小生都合を見テ御伺申上候様可仕、此段御伺旁申上候也

九月卅日

牧野伸顕

新島襄殿

十月四日 尺 振八

①牛込区北山伏町廿三番地 ②京都寺町通丸太町上ル町百四拾番地 無事
④墨

御書面拜見仕候、陳者尊兄ニモ近頃腦病に御悩被成候趣定而御難渋之義と奉存候、過日仙台表御旅行中首藤生ナル者御面晤ヲ致シ趣旨委ク同人ヨリ書面ニテ承申候、又先頃は尊君御委托之由ヲ以て津田君ヨリ結構之品頂戴仕御厚意之段深ク感銘仕候、小生義も其頃迄は猶ホ少ク氣力ヲ余ン起居坐臥等に差支候様之事無御座候処、其後追々衰弱致昨今は全身疼痛ヲ覺ヘ咳嗽劇敷相成夜中も安眠ヲ不得実ニ困却仕候、右之次第ニ付少々無理ナガラ熱海表江籠越彼地にて今一回療養相試候心得ニテ只今発足之点ニ御座候、荊妻病氣御尋被下難有、同人義は一時重病ニ有之候得共惟今ニテハ先全治ニ至候間乍憚御安堵被下度奉願候、先御答迄如此ニ御座候、早々頓首

十月四日

振八

新島賢兄

几下

二白、熱海表にて療養相加へ少々ナリト快氣ニ赴き候得は其節は猶ホ委曲申上候心得ニ御座候

150

十月八日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地
墨
②西京寺町通り丸太町上ル
④

過ル五日之尊書拝読致、市原兄ヨリ宮城学校之近況御報道致候由縷々被仰下候処御申越之通り先ッ好都合之模様ニ御坐候、明後十日ヨリ開業之由生徒ハ多分百名近ニ可相成候、市原君江約速上^{〔束〕}ニ付御心付之義正ニ拝承、先日御申越之義ハ御意見之如ク相はこび候哉ニ御坐候、爾後ハ外人と市原君之尽力ヲ以盛大ニ入り候事ノミ切望致居候、先ッ草々拝答ノミニ御坐候、頓首

十月七日^ハ

鉄之助

新島先生

十月九日 辻 密太郎

① 阪地 ② 京都寺町通丸太丁上ル 御返書 ④ 墨

御投函之貴書速に請手拝読仕候、然は御聞合之五年生事帰校云々の風聞ハ全く虚説に御坐候、数日前当時神阪に在る六名の者丈神戸に於て集会を為し決せられたる所を聞くに六名ハ謝辞モ調和(カ)も帰校も賛成同意に御坐候、しかしながら其中色々一家及び一身上之不得已事情のあるありて直ちに帰校するを得ざる兄弟も御坐候へ共三名丈ハ当月中旬に帰校する筈なれど、是も尚ホ遠方に在る三名の同級生方の賛成の報を得て帰校する積に御坐候、二三日の中には其返書ある筈なり直ちに帰校するを得ざる兄弟ハ決して反対論者には無之候故其辺充分御推察之上帰校したるものと同視せられん事を乞フ、(広瀬孝次郎) 舎弟義二三日の中少々要用も御坐候故御地へ参り先生にも御面会可申候間充分御聞被下度候、小生も其後何とか御報道可申筈之處彼是他事に打過ぎ甚た御失念之段奉謝候、先は御返答迄如此に御坐候、頓首再拝

再白、小生九州行の一事も色々教会の事情ありて甚だ艱難なる有様に御坐候、就てハ伊勢兄も今日ハ下阪に相成筈に御坐候故氏と篤と御相談申上て万事都合能く致度存念なり、決着の節ハ必ず御報道可申上候、以上

152

十月十二日

牧野伸顕

②親展 ④墨

拝呈仕候、然は当分御出神の序も無御坐候趣拝承仕候、就而ハ柿本直五郎ナル者小生代として差上候間事情御聞取の上何卒よろしく御配慮願上度候、小生舎弟事、先ニハ陸軍士官学校へ入学の目的ニ御坐候処試験之予定いたし候適當の学校無御坐、且道德上之教育ニ乏く候間、甚々御迷惑の願筋ニ御坐候得共学僕ニても御家ニ住居候義相叶候ハゞ別而仕合ニ奉存候、宗教上の御教訓ハ総而御見込通り為し被下度、右大略申上候間委細は柿本より申上候付御聞取奉願上候、早々敬具

十二日

牧野伸顕

新島襄殿

153

十月二十九日

堀 貞一

①江州長浜永保町 ②京都寺町丸太町上ル 平信 ④墨

〔補〕
乍憚別紙伊勢君へ御伝送奉願候

拝啓、今回ハ御多忙之中御来浜被下万事主之恩恵ニ都合宜敷鳴謝罷在候
態々御苦勞相願ヒ何の風情無之不敬ノミニテ、御帰京之際モ混雜ノ為御弁当サヘ失念仕リ宜敷御断り申上候、教会モ
追々進歩ノ色ヲ呈シ候、御祈り際御記憶被下度奉願候、右御礼ノミ、勿々不敬

十月廿九日

堀 貞一

拝

新島先生

閣下

乍憚加藤君へ宜敷御伝礼相願度、御老人様御家内様へモ宜敷御伝声奉願候

154

十一月十三日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②西京寺町通り丸太町上ル百四十番地 親展 ④墨 ⑥新島朱筆「十九年十一月廿十六日来」

本文之金員二タロ合金四十円之為替手形壹葉在中候間御領収被下度候也

鉄
拝

過日來度々尊書之所俗事ニ紛レ御返事相おこたり居候、先ツ秋冷之事ニ候所御全家御多样之事と奉慶賀候、扨宮城英学校も御尽力ニ而弥々好都合と申事、生徒之氣込も十分と相見得、賢台初諸君江拝謝仕候ノミ、米国教師兩名も過日上着と承り候間、過ル九日横浜江出張致候所、四日ハ已ニ宮城ニ向ひ出立相成候日ニ而懸ケ違ひ終出会不致候得共何茂も無事之由ニ伝聞仕候、只此後ハ資金十分集合之上校舎初メ諸器械之全備ヲ希望仕候次第ニ御坐候、近來殊ニ種々なる義務様之事朝野共ニ盛ナル故募集方至而困難ニ有之候○市原君旅費御立替之分廿円指出候間御落手被下度候、右計ニ而ハ不足之様ニ被察候、残余ハ如何相成候哉、当地ニ而市原君江ハ一円御立替不致、何レ宮城江下り候上惣計ヲ以賢台江被申遣との之事に御約速致置候、其辺御遠慮ナク御申越し被下度候○伊達直知之義拝承、即式拾円指出置候間御書中不足之所江御たし加へ御都合奉願上候、不都合之義ハ十分ニ御譴責被下度候、且亦直知より小生江洋服新調致度候故金五六円其外附屬品用意の分合テ十二三元送金致呉候様申來候、洋服要用ニ候ハ、貧生相応之者御見立御買入被下度、代料ハ申越次第指上候様可仕候、右等ハ右少年之望ニ任セ置候ハ、如何様之事仕出候哉も難計候条甚御手

數之事ながら奉願上候、取込中草々御返書指出候、山妻よりも御添筆之御礼宜敷申上候也、頓首

十一月十三日

鉄之助

新嶋先生

尚々、宮城之方江当地青山学校之和田某氏〔正幾〕参り候都合、諸事之はこひ相調大慶不過之候也

155
十二月四日
市原盛宏

- ①仙台東三番町柳町通西南隅 ②西京寺町通丸太町上ル 御親披 ④墨
⑥封筒裏書「松倉氏ハ当時上京中ニ御坐候」

先月廿三日発之尊書忝拝誦仕候、錦地ニ於ても先生始メ各位愈々御清適被遊候由欣喜此事ニ御坐候、殊ニ弊宅ニ於てハ如玉男子出生仕候趣詳カニ御通知被成下劣生之欣喜更ニ大也、重て男子ヲ得ナバ如何ニ名称スベシトテ奇説御洩被下候へ共其節ハ先生ニ献上可仕候間何トナリトモ御望次第ニ御名ケ被下度奉願候呵々○当地之模様ハ追々都合よろしく、義捐金之募集ハ未ダ全く相済不申候へ共最早尽力致居申候、校舎之建築少々相後レ申候へ共最早尅兩日中ニ上棟式ヲ挙グル程之運ニ相成居候故必ズ来年一月半ニハ落成スベシト之事ニ御坐候、着仙以來頻リニ依頼サレ申候故発起

人諸氏及ビ諸教員トモ協議之上明後六日ヨリ別紙之如キ夜学会ヲ開設致候筈ニ御坐候、此ハ頗ル布教之為ニも可相成
と存候故外国教師方ニも大賛成ニ御坐候、今回七十名ヲ限り會員ヲ募集仕候処直チニ満員ト相成候勢ニ御坐候、以て
弊地英学之流行ヲ御察知被成下度候、説教所ハ東二番町大町通南エ入ル所ニ有之ル元東本願寺別院跡ヲ借受ケ先月末
ヨリ相始メ候処是亦甚好都合ニ御坐候、此屋舎ハ夜学会場ニ兼用仕候○兼て奉願置候通開校式之節ニハ是非〳〵御来
仙被成下候様奉願候、又御舎之為予て貴意ヲ伺置度候儀ハ、劣生儀未ダ妹之戸籍改正ヲ遂ゲズ又外ニも雜用有之候
故、来年早々是非尅回旧里ニ参向可致事ニ御坐候ヘ共遠隔之地ニ御坐候マ、可相成バ、来二月先生御来仙之節尅ケ月
間之御滞在ヲ願上、家族迎取り兼ねテ右事務ヲモ弁度存候間、願クハ願意御聞届被下度切望仕候事○先日來再度マデ
御依頼申上候同志社学科成績点数規則之写ハ何故御送附不被成下候哉、此度ハ御憐愍ヲ垂シ玉ヒ至急御惠送被成下度
候○御令閏様ニハ別書差上度存候ヘ共多忙ニ付キ休業マデ延期奉願度候間よろしく御鳳声被成下度、又内外諸教師方
エもよろしく御伝言有之度候、且又同志社教會員諸氏エも一書差上候筈ニ御坐候ヘ共今回マデハ本意ニ不任候間御臨
会之節小生も神恩之下ニ無恙勉勵致居又同会之昌栄ヲ祈居候由御伝言被成下度奉願候也、先ハ拝復旁忽々如斯ニ御坐
候、頓首再拜

十二月四日

盛宏

新嶋襄先生

虎皮下

公義君如何被成居候哉拝聞仕度候、別紙中幹事遠藤ト申スハ当県會議長、首藤ハ常置委員、佐藤ハ議員ニ御坐
候、色々の事情も有之幹事ノ名称ヲ与ヘ置申候儀十文字黒川等ト協議之上ニ取斗申候事

十二月二十日

岡部 広

①福井元無矢町金子方 ②京都府上京同志社英学校長 必親展 ④墨 ⑥
 封筒裏書(印刷)「福井県会議員 岡部広」

謹啓、過ル十六年北陸御漫遊ノ節ハ幸ニ御立寄被成下難有奉存候、爾来杉田^{〔定〕}ヨリハ御伺申上候へ共生ハ欠礼仕候、且ツ当秋ハ同人身上ニ関シ不一方御厚配ニ相成奉厚謝候、偕近来一般不景氣徳義衰頽ノ折柄、就中弊地方ノ如キ開明其度ニ后レ教育ニ物産ニ将来一モ進歩ノ目的無御坐甚タ心痛ニ罷在候、生等数年来世上風潮ニ連レ聊カ竭尽セシ処ハ只タ皮相ノ理論ニ馳セ、今ヨリ之ヲ顧レハ毫モ實際ニ利益無御坐慚愧ノ至リニ御坐候、是レ全ク事ヲ処スル前后本末ヲ識別セサルノ致ス所深ク猛省仕候、付テ弊県ノ如キ蒙昧退歩ノ民度ニ対シテハ其施設只タ尋常ノ手段ニ出テ候テハ益々委縮遲暮ノ域ニ陥候様奉存候、何トカシテ米国人ニテ徳育熱心ノ良教師老名御厚配ノ上、一時御指向被成下間敷ヤ、有志者ノ熱望此事ニ御坐候、果シテ然ラハ此機ニ乗シ徳育ニ智育ニ同心戮力、大ニ県下ノ面目モ一洗可仕候様奉存候、却テ説ク、真理又ハ一致等ノ諸派モ御坐候へ共何分弊県ハ数年来先生ノ御配下ニ在リ、殊ニ生等ハ先生ニ対シ幸ヒ師友ノ好意ヲ辱フスルノ間柄、何卒^{〔格〕}角別ノ御取斗ヲ以テ右御指向被成下候様御都合被成下間敷ヤ、右ハ杉田在国中モ兼テ計画仕候へ共時機未タ会セス甚タ苦慮罷在候処生両三年来県会議員相勤メ居、議員中此儀ニ関シ同志ノ者モ夥多出来仕、今回右惣代トシテ本月廿七八日頃ヨリ来一月七八日頃ニ兩三名上京仕、拝芝ノ上委曲可願上候条、御多忙中トハ奉存候共何卒御都合被下度奉願上候、尚前申上候日取ニ御指支モ御坐候ハ甚タ乍欠礼端書ニテ御報旁御^{〔願〕}

候、頓首敬白

十二月二十日

新島襄殿
侍史

岡部 広

明治二十（一八八七）年

157 一月二十七日 岡部 広

- ①福井県福井無矢町三十一番地 (A.A.)
②西京寺町通り丸太町上ル十三番戸
④
墨 ⑥別紙省略

拝啓、今月廿三日ヲ以テ御恵送ノ玉状本日拝読仕候処先生益々御壮康ノ段奉敬賀候

今回ノ拳ニ付テハ一方ナラサル御厚配ニ相成弊地有志ノ者共深ク感銘仕居候、小生帰県来別紙ノ趣意書〔私立専門学校設立移文〕ヲ以テ発起者ヲ相募リ仕候処、今日迄ニ首唱者ノ主格ヲ以テ尽力可致ト承知仕候者は亦別紙〔発起同盟者

姓名〕ニ御坐候敦賀一郡ヲ除キ、七郡ノ内南条、今立、足羽、丹生ノ四郡ハ略定仕候ニ付小生ハ二月一兩日頃ヨリ吉田、大野、坂井ノ三郡ニ巡回可仕候ヘハ是レ亦中旬ニハ取片付可仕存候、由テ下旬ニハ発起大会ヲ福井ニ起シ三月上旬ニハ有志者惣代ヲ上京セシメ夫々御相談願上度奉存候、従来ハ郡村ノ者ト福井ノ者トハ兎角ニ一致セサル勢モ有之候ヘ共氣運ノ然ラシムル処カ今回ハ大ニ相方共都合能相運ヒ申候、右三郡略定ノ上ハ亦々福井ノ銀行員、医師、諸商

人等ヲ發起者ニ加入セシムル存意ニ御坐候、今日ノ処ハ資金ヨリモ第一ニ私立学校ノ無カルヘカラサルヲ論ヲ生出スル事ニ従事仕候、輿論既ニ一定セハ資金ノ処ハ亦タ工夫モ出来スヘキト奉存候、弊地ハ御承知ノ如キ国柄ニ付先ツ各郡町村屈指ノ者ヲ發起者ニ相ヒ加ヘ他日ノ紛議無之候様予メ取計仕度候、県會議員ノ者モ十二八九ハ同感ニテ是レ迄小生ノ面会セシ者ニハ一人トシテ不同意ノ者無之ノミナラス各自發起人ニ相成候、由テ地方税ヲ以テ校資ヲ補助セシムルハ或ハ難キニアラサルヘキカ、此上ハ小生、山口共ノ地方ニ待スル誠心ト来福セラルヘキ米教師ノ忍耐ト否ヤトニテ其結果ノ良否ヲ見ルヘキモノナリト存仕候、米國教師ノ家屋ハ先年来福グリフス氏ノ家屋今尚ホ存スレハ其儘借用スル事ニ該持主ト談判取定メ仕候、今一家ハ宕山ナリ足羽川近辺ナリ眺望絶佳ノ処ニテ何時ニテモ心配仕候、校舎ノ処ハ今年四月ヨリ学区ノ改正ニテ各小学校ヲ合併スル事ニ相成候間至極都合宜敷校舎モ出来可仕候、何分福井市中ノ屈指ノ者發起人ニ加入仕候ニ付諸事大ニ都合宜敷御坐候、却テ説ク發起人ハ県會議員各連合戸長其他屈指ノ者ヲ以テ組織スル事ニ取定メ仕候、先ツ七郡ニテ五六十名ヲ相募リテ可然ニ存候、校名ハ多分英語専門学校トナルナラン、然シテ別紙趣意書中或ハ事実ニ相違スル処モアラカナレトモ、此ハ米人來福迄ノ手續キヲ示メシタルモノト御諒察被成下度候、^{〔補〕}「事実ニ相違云々ハ趣意書中米人ノ來ル四五月ニ在ル断言セシカ如キナリ」グリーン先生ニモ少々書状ヲ呈スヘクノ処、殊ノ外多忙ニテ失敬仕居候、先生小生ニ代リ宜敷御伝ヘ被下度願上候、今回ハ發起人モ十分ニ取定マリシ上ナラテハ諸新聞ニ一切記事ハ見合セ仕候、然シ二月下旬ニハ發起者ノ名ヲ以テ公告仕候、グリーン先生ノ履歴ノ一端ハ小生在京中間キ得シ儘ヲ綴リシ事ニ相違モ無之候、^{〔歎欠カ〕}尚ホ先生御心附ノ件々ハ時々御教示ノ程奉願上候、何レ式月上旬末ニハ三郡ノ模様モ申上候、乍筆末御令室様ニモ宜敷申上被下度願上候、此中南都公義兄ヨリ端書到来、昨日御返答仕置キ候、^{〔喜〕}新井氏ハ過ル二十日頃ニハ一段関東ヘ罷越ス旨過般小生上京申述居候カ其后何等ノ通知モ無

之、先生御面会ノ節ハ宜敷御伝ヘ被下度願上候、山口氏ヨリモ別ニ書状ヲ呈セス、宜敷小生迄申上呉レトノ事ニ御坐候、同氏ハ福井市中ヲ取定メニ従事仕居候、杉田老人ニハ帰県来未タ面会不仕候ヘ共今回坂井郡巡回ノ次ハ立寄、同老人モ發起人ニ加入スル事ニ御座候、右ハ要用ノミ大略申上候、時下嚴寒ノ候先生為國家御自愛專一ニ奉存候草々、敬白

二十年一月廿七日

岡部 広

新島襄先生

先生御序モ有之候ヘハ在坂ノ宮川経輝氏ニ大坂青年会々則一部小生ノ処江回送可致様御伝ヘ願上候

158
三月十五日
岡部 広

①福井県坂井郡伊井村八十二番地 ②京都府寺町通り丸太町上ル 御親展

④墨

拝啓、近来甚タ御無音ニ打過候段奉万謝候、就テハ英語学校ノ義各地到ル処トシテ一人ノ之レヲ不可トスル者無之ハ実ニ氣運ノ然ラシムル所ト奉存候、然ルニ比年不景氣ノ余、其資金徵集ノ一点ニ至リテハ多少ノ困難ニ御坐候、又敦

賀港ヨリ武生迄ノ新道ノ寄附金ノ徵集ト一同ニ相成リ都合惡敷御坐候、且ツ本県學務部ノ人ニハ何ニカ此ノ英語學校
 ニシテ設立ニナラハ中学校モ不用ニ属スルナトノ感覺ニテ陰ニ大ニ苦情ヲ申述候、其上此中東本願寺執事渥美氏ノ来
 福ニ際シテ米教師云々ヲ申込シテ彼ノ社会ヨリ之レヲ不可トセシメル様ニ尽力致居ル事也、彼社会時運ノ如何ヲ知ラ
 サルハ実ニ一笑ニ堪ヘタル義ニ御坐候共、是亦多少ノ防害ニ相成候、然レトモ村落ノ有志家ニテモ米教師一件ニ付テ
 ハ聊カノ異議無之義ニ御坐候、福井商工會議所ノ第二次回ノ決議ハ未タ取り係リ不申候、又小生共有志家ニテ其中ニ
 ハ福井市中ノ者大針路ヲ商業ニ取ラント欲スルナラハ他ニ別ニ校舎ヲ設立セサル可カラザル云々ノ議論モ有之候、然
 シテ山口ノ學校ハ日ニ月ニ生徒モ増加仕、今日ニテハ八十名許リモ有之趣キニテ、右學校ノ一件ハ同氏カ全力ヲ尽シ
 居ル義ナレハ必ラスヤ好結果ヲ得ヘク奉存候、右等ノ情況ヨリ弊地方ヨリ上京委員ヲ定ムルハ今一時延行可仕候間左
 様御諒察願上候、石黒知事モ本月下旬カ来五月上旬ニハ帰県可仕候間俗吏一部ノ議論ハ十分ニ説教仕度候、米教師一
 件ノ義ハ不相變御配意ノ段願上候、近日山口ヨリ地方ノ情況委曲上申可仕筈ニ御坐候、右時下伺上傍タ要用ノミ、草
 ヲ頓首

三月十五日

岡部生

新島先生

四月五日

岡部 広

① 福井県越前国坂井郡伊井村 ② 京都府丸太町上ル 侍史親展 ④ 墨

謹啓、春暖愈御壯康被遊御坐候条奉敬賀候、偕テ御厚情相煩申候件ニ付^先本月末ニハ是非当方ノ実力ヲ取纏上京拜晤可仕ノ処、トカク僻地萎靡不振ノ人情、一時ハ随分人氣盛ニシテ当地商工会議所ノ一問題トナリ為メニ臨時会ヲ相開キ生等二三ノ有志者モ此議員ノ列ニ入り十分其急務ヲ主張セシモ、費用支出等ノ實際論ニ至リ乍遺憾町村多数衆心ノ一致ヲ得ス、去リトテ僅々ノ有志ノミニテ着手モ仕兼、為メニ今日迄不計延滞仕候条不惡思召被下度、今生等同志ノミニテハ誠ニ微力ナレハ到底外人之満足ヲ得ス、永統方ニ付キ不体裁ヲ相讓シ候テハ恥入申候次第ナレハ今一層有志ト全力ノ目的ヲ相立、然ル上上京御協議願上度、何卒此儀御推量被下宜敷御取斗奉願候

四月五日

岡部 広

拜具

新島襄先生

侍史

160

四月十二日

大久保真二郎

① 広島県備後国尾道久保町

② 京都府上京二条寺町通

煩親展

④ 墨

回顧スレハ八年前、則明治十貳年一ヒ足下ニ背ヒテヨリ、殊ニ仏魔ノ為ニ誘惑セラレ、又固疾ノ懶惰放縱トニ迫害セラレ、遂ニ今日ニ至リ、今更後悔帰順スルモ甚タ面伏セニシテ忍フヘキ事ニアラサルモ、此羞ヲ忍ヒテ以テ懺悔スルハ足下ノ愛スル所ニシテ吾永生ノ門タル事ヲ確信シ、加フルニ足下最終ノ惠雲ニ曰ク「終ニ臨ミ一言ス、曰ク兄ノ為ニ真神ニ祈禱止マサルヘシ」ト、此一節漸ク今ニ至ツテ足下ノ慈愛ノ深キヲ知ルニ余リアレハ、思ヒ切ツテ左ニ懺悔帰順ノ情ヲ御報道申上、又益生ノ為ニ祈禱ヲ請フ

初メ、僅ニ仏ノ説ヲ聞ク、忽チ疑團イエスノ神性ニ凝結ス、説漸ク進ム、疑團却テ漸ク薄ク遂ニイエスヲ神性ナリトスルノ信仰ハ全ク無智迷信ノ影法師ナリト、是ニ於テ断シテ曰ク、汝イエス汝ヨクモ不文ノ世ニ生レ野蠻ノ世間ニ人ト成リ而シテ却テ文明ノ世ニ生レ文明ノ教育ヲ受ケタル吾レヲ籠絡シタル哉、吾今汝ノ籠絡手段悉ク看破ス、豈ニ汝ノ籠中ニアツテ碌々汝ノ轍ヲ守ランヤ、吾又別ニ一主義アリ、茲ニ艦隊ヲ纒キ快ク満腹ノ帆ヲ掲ケ將ニ左右ノ翼ヲ縦ツテ進撃セントス、又須臾ク汝ト相見サルヘシ、然リト雖、汝亦万世ノ英雄ナリ須ク自愛スヘシ、他日襟ヲ解ヒテ汝ト戦略ヲ笑語スヘシト、書クモ畏ロシキ事ナレトモ是レ誠ニ二十三年中ノ思想ニテアリキ

十三年ヨリ門出シテ東洋会社ヲ組織セントス、世間賛成者尠カラス殆ント当時ノ一門題トナル、惡魔ハ則チ吾全副ノ力ヲ提ケテ己ニ忠セシメント欲スルナリ、漸ク自負心増長シ加フルニ放蕩横縦、遂ニ二十四年中事ノ見事ニ失敗シ羞耻

ノ極、身ヲ縊レシメントスルニ至ル、十五年中故国ニ在ルヤ民権党ノ招キニ応ス、又失敗ノ体ナリ、是ノ時ニ當ツテ身已ニ妻子ヲ有ス、輕々徒過スヘカラス、是ニ於テ初メテ心動キ狼狽界ニ墮落シタリ、十六年中出京、唯企謀スル所ナラサルノミナラス多ク己ニ有スル所ヲ失フタリ、十七年中阪地ニ降り計画スル所アルモ何ソ成就スヘキ、十八年中遂ニ当地ニ流浪シ来ル、十九年中家ヲ迎エ少々ナリト雖容易ナラサル資本ヲ父母ヨリ受ケ當地ニテ貸金ヲナス、是亦狡徒ノ為ニ惑ワサレテ失敗セリ

是時ニ至ルモ十三年中ノ思想ハ未タ全ク去ラス、常ニキリスト教ノ蔓延ヲ聞ク毎ニ不快ト云フニモアラサレトモ嫉妬ノ念沸騰セサルハナカリキ、則自負ノ精神未タ衰エサルナリ、是ヨリ先キ荊妻ナルモノハ生ノ留主中伊勢君ノ導ニ因テ信者タリ、當地ニ来ルモ矢張其信ヲ失ハス、動モスレハ間ニ乗シ却テ生ヲ動カサントス、生乃チ充分ノ不快ヲ生シ、之ヲ論破シテ曰ク、法華經中有之曰ク一切衆生仏ト等シキ如来蔵ヲ含ムト、故ニ人ハ唯冥悟ニ因テ仏人トナル、冥ナルトキハ人畜タリ草木タリ、悟スルトキハ仏タリ菩薩タリ、汝輩カ所謂天子ナリ、天父ナリ、何ソ別ニ天父ナルモノアツテ其造化ニカ、ル人ナランヤ、人豈ニカ、ル卑屈奴隸ナランヤ、本来自由ナルモノナリト説クトキハ黙シテ去ルト雖又動モスレハ間ニ乗セントス、況ヤ説諭ノ瞬間餐ニ向ヘハ唯々ノ返辞中尚ホ祈禱ヲナス、尤モ忌マノシサノ余リ罵詈トナリ恐喝トナリ、家内和熟ト云フ意味ハ知ル事能ワサリキ

本年一月初旬、将ニ樓

生ノ借寓ニ少ナル三階アリ眺望ニ富ム

ニ登リ書ヲ読マントス、思想ハ身体ノ寂然静坐スルニ似サルナリ、或ハ既往ニ

遡リ或ハ将来ニ入ル、吾又故ニ之ヲ制セスシテ其自由ニ放任セシニ、マメノシクモ奔走シテ殆ント天下ニ普キ旧故知人ニ及フ、然ルニ其昔シ相携エテ花ヲ東山ニ探リシ者モ、最ト惜シキ離盃ヲ零落タル牛店ノ樓ニ酌ミシ朋友モ、今ハ大抵皆肥馬輕裘交際広ク功名高ク最ト榮モシキ生涯ナリ、其ト是トハ事替リ吾ハ功名モナク交際モナク、加之ス旧

故知人ノ多分ニモ冷斥セラレ悵鬱ノ生涯ハ日ニ月ニ其深キニ沈ムハ何ソヤ、嗚呼人世ハ無常ナリ、生者必滅会者定
 離、何ソ一向ラ悵鬱ニ沈ムヘケントハ云ヘ、吾レモ已ニ昔日ノ吾ニ非ルナリ、世間幸ニ我ニ地ヲ仮スモ時ハ一日モ我
 ニ仮サ、ルナリ、人生五十已ニ疾ニ其五分ノ三ヲ經過シ去ルモ我將ニ達セントスルノ都ハ前途未タ遠遠ト言フニモア
 ラス、却テ益々我レヨリ心アツテ遁クルモノ、如ク、加フルニ吾笈モ雨ニ濕レ雪ヲ積ミ益々重キヲ加エタルノミカ今
 ハ早ヤ足サエ勞レ腹サエ痛ク空シキカ如キハ抑モ如何ナル訳ナルヤ、將タ又斯ル有様ニテモ矢張り吾目的ハ達シ得ヘ
 キモノナルヤ、抑モ人世ニ未來ノ空望程勢力アルモノハナキトカヤ、承ルモ之ヲ思ヒ彼レヲ思ヘハ前途実ニ思束ナキ
 ヲ覺フルナリ、思ヒ是ニ至ツテ胸全ク閉チ神氣通スル事ナシ、唯此ノ胸ノ戸ヲ漏レ出ツルモノハ滴々タル熱涙ノミ
 須臾ニシテ頭ヲ擡ケ茶ヲ煎シテ之ヲ吞ミ起ツテ障子ヲ開ヒテ四面ヲ觀望スレハ天朗カニ風和カニ向島ノ諸景尤モ美
 ナリ、吾ヲシテ無罪ノ文人ナラシメハ予芻ノ山ノ白雪ヲ頂キタルハ綿帽ヲ冒シテ我ニ入嫁シタル新婦トモ云フナラ
 シ、港門ノ入海ハ三々九度ノ盃トモ見做シ最ト無罪ニ淡泊ニ經過スヘシ、然リト雖吾レ已ニ五塵ノ火宅ニ煩悶スルモ
 ノナレハ一頓ニカ、ル高潔ナル快樂ヲ喫スルモ其味ヲ知ル能ワサルヘシ、寧ロ吾レヲシテカ、ル悵鬱ナル生涯トナラ
 シムル物質ヲ胸間ヨリ排除シ去リタラハ又浮ム瀬モアラサラメヤ、サラハイザ先ツ其物質ヲ搜索セン、四面ノ眺望ト
 共ニ女々シキ思想ヲ放逐シ毅然トシテ再ヒ靜坐シ徐ロニ過キ来シ方ヲ想起スレハ忽然トシテ先ツ眼中ニ浮ヒ来ルモノ
 ハ生田中村ノ寓中、某日ノ祈禱会ニ足下ノ宅ニ於テ暴論ヲ吐キシニ其后生ヲ蜜室ニ招カレ懇々説論ノ事ナリ、悉クハ
 記セサレトモ今尚ホアリノト五臟六腑ニ殘留スルモノハ曰ク 神ノ豐饒ナル慈恵ト其寛容トヲ見ヨ、我輩如何シテ
 憤怒セラルヘキヤ生ノ足下ヲ辞シテ東京ニ出テントス、足下故ニ三条日光屋ニ枉ケヲ曰ク、唯信仰汝失フ勿レト、其
 后東洋会社モ民権党モ其他百般ノ企謀トモ責メテ足下ノ后段ノ忠告ナリトモ保存シ居ラハ其結果ハ今如何ソヤ、況

ヤ足下ニ從ツテ全ク教ヲ受クルニ於テオヤ、嗚呼吾カ今日ヲ得タルモノハ尤モ言フニモ忍ヒサレトモ吾才ヲ負ンテ自
ラ陥リタルモノナリ、而シテ其才モ果シテ頼ムヘキノ勢力アルモノナリセハマダシモノ事ナレトモ、頼ミ甲斐ナキモ
ノヲ頼ミトシテ傲慢放蕩、虚偽巧弁、姦淫苟合、嫉妬狡詐等ノ如キ諸惡德之ヲ是レ行ヒ、而シテ其志ハト人間ハ、將
ニ天下万世不世出ノ事業ヲ以テ對ヘントス、嗚呼又何等ノ愚妄ソヤ、嗚呼又何等ノ懦弱ソヤ、之ヲ筆誅セントスルモ
能ワス、之ヲ言殺セントスルモ能ワス、則勿論本来万々ノ等外ナリ、赫然トシテ卒電面ヲ射ルナリ、身自ラ愛相ツキ
起ツモ悶^{モガ}キ坐スルモ悶^{モガ}キ泣クモ其煩悶ヲ医スル能ワサルカ如ク憤ルモ感応ナキカ如ク五臟煎ユルカ如ク胸塞ル如ク腸
痒ユキカ如ク、固リ以テ筆ノ形狀スヘキナク覺エス躍^カツテ柱ニカブリツキヒドク之ヲ噛シム、是ノ如クナル事時久
フシテ漸ク煩悶去リタルニ似ルト雖モ、矢張底ニ沈澱シテ又將ニ風波ヲ待ツテ起ラントスルモノニ似タリ

是ニ於テ初メテ教法慕ワシクナリ、聖書ヲ讀ムノ希望沸騰^騰シタリ、然リト雖未タ荊妻ヲシテ吾聖書ヲ讀ム事ヲ知ラシ
ムルヲヒドク潔カラサル事ニ思ヒタレハ、竊ニ彼レノ新約全書ヲ携帶シ去リ又三階ニ登リ人ノ出入ヲ禁シ昼餐ヲ断チ
乃チ朝餐ヨリ晚餐ニ至ル迄一心不乱ニ聖書ヲ翫味ス、如此スル事一週日、昔日同志社ニアツテ散見セシトキトハ全ク
其味ヲ異ニシ全ク初メテ讀ムモノ、如シ、其飢タル者ハ幸福ナリ、其人ハ飽ク事ヲ得ヘケレハナリ、心ノ貧キ者ハ幸
ナリ天国ハ其人ノ者ナレハナリ、汝己レノ眼ニアル棟^梁ヲ見スシテ他人ノ目ニアル塵云々、汝神ノ豐饒ナル慈恵ト寛容
ト恒忍トヲ藐視スルヤノ如キハ故ラニ吾カ為ニ設ケラレタルカノ如ク甚タ樂ミアリト雖未タ聖靈ノ実ニ降下ヲ知ル能
ワス、心竊ニ失ツテ曰ク、曩ニ同志社ニアツテ信者ノ名ヲ冒シタリト雖決シテ真信者ニテアラサリシナリ、此度コソ
ハポーロノ聖靈ヲ得タル如ク著シキ聖靈ヲ得ル迄ハ折ツテ止マサルヘント、幾度カ奮発スレトモ肉体ノ弱キ遂ニ勤行
ニ堪エス、未タ注文通りノ事ヲ得スト雖モ又御慈ミヲ賜ワル事ノ日ニ加ワルヲ覺フルナリ、其初メテ感スルヤ人間実

ニ肉体世界ノミナラハ実ニ醜々竊々住ミ甲斐モナキ世界也、何ソ肉ヨリ出ツル外ニ高潔ナル靈体世界ナカラシヤ、大丈夫何ソカ、ル醜々竊々事業ニ従フヘキ、須ク靈体世界ニ遊フヘシト、其レヨリ真神ノ存在 イエスノ声ノ枯レ賜フ迄吾レハ夫レナリ信スヘシト呼ワリ賜ヒシ声モ聞エ、少々ツ、ハ聖靈ノ降ルニテアランナラント想像セラル事モ相分リタリ、愛兄ヨ、否最愛兄ヨ、吾今汝ニ向ツテ從來重々ノ罪ヲ犯シタルヲ謝ス、最愛兄ヨ、汝吾ヲ不潔トセン、吾亦自ラ不潔タルヲ知ル、吾亦願クハ交ワラサルヲ好ムナリ、然リト雖吾未タ肉体ヲ殺ス能ワサルノ理由アルナリ、故ニ自ラ忍フナリ、汝亦幸ニ今一ヒ吾ヲ願ヨ、神ハ已ニ吾罪ヲ定メ吾レヲ死罪ニ行ヒ賜ヒタリ、今アルモノハ汝ト共二十字架ヲ負フモノナリ、汝幸ニ為ニ祈リ野ハ已ニ熟キタレトモ工人尠ヒ哉ト、サモ忙シゲナル 父ノ工人タラシメヨ、吾レ今汝ニ向ツテ何等ノ辞ヲ以テスルモ汝ニ謝スルノ詞ナキヲ知ル、然リト雖吾罪已ニキリストニ譲ル、汝吾ヲ有ルシテ余リアル事ヲ信ス、吾レ書シテ茲ニ至ル、流涕禁スル能ワサルナリ、筆亦渋滞シテ進マス、唯慈愛ノ深キヲ畏ルノミ、汝幸ニ諒察セヨ、アーメン

明治廿年四月十二日

大久保真二郎

新寫襄殿

足下

追啓、当地ハ兵庫馬関間ノ尾道ト申シテ中国三港ノ一ナリ、今治ト相對シ海上僅ニ十八里ナレトモ商法ノ盛ナルニ至ツテハ広嶋岡山ノ及フ所ニアラス、戸数六千余、金満家少カラス、然ルニイエス教ハ今日迄或ル宣教師兩度程来ツテ演舌セシニ聴衆ハ随分アリタル由ナリトモ未タ一人モ信者迎ハ無之候、然ルニ郡書記長金谷充ト云フモノ、家内広嶋ニテ洗礼ヲ受ケ居ル由、過日金谷ト面会セシニ当地ニモ是非教法ヲ広メタシ、又自身モ今

少々不審ヲキケバ大抵信者トナリ申候、就テハ英学ノ出来ル宜教師ノ派出ヲ請フ訳ニハ行クマジキヤ、左スレ
八十人十五人ハ直ニ会員ヲ募リ一ヶ月五円位ノ給料ヲ差出ノミニテ足レル事ナレハ自身其責ニ任スル事ニ候ガ
ト申シタレハ一応御訪申上候、又生モ色々聞合セ候ニ果シテ英学生トシテ募リタラハ二十三十ノ人ハ決シテ即
坐ニ募集セラルヘシト存候、誰レソ^カ人至急御遣シ下サレ候テモ宜敷ヤ、至急御報知被下度奉願候、徳富健二^次
郎君ハ如何ニ御坐候也、果シテ御差支ナクハ当地早速組織シテ其會長ヨリ御招キ申サセ候様相運度存候、又過
日来一宜教師ヲ聘シ^カ演舌ヲキカントテ会員ヲ募リ居タル派モ有之候、是等モ糾合スルトキハ随分好機會カト奉
存候、右至急御尋申上候也

四月十二日

161

五月十二日

市原盛宏

- ①仙台清水小路宮城英学校前 ②京都寺町通丸太町上ル ④墨 ⑥新島朱筆
「清奇園ノ注文」

本月七日発之貴翰忝拜誦仕候、扱先生ニハ先頃危篤之御病症ニ御罹被成候由松平県知事より始メテ敬承致誠ニ痛入申
候、乍去最早漸々御快復被成候段御通知被成下先々安心仕候、御病中トハ不存過般ハ不平ケ間敷書翰忝差上今更大ニ

後悔仕居候、何卒今度ハ充分御加養被遊^カ猶行久く同志社之為メ、斯道ノ為、御尽力被成下候様奉懇願候、弊校ニも別ニ異状無之建築ハ追々捗り今月中ニハ全く落成可致と存申候、就而ハ開校式も何来月文部大臣之来仙ヲ待合セ、其節富田先醒方々も御来会之上執行可相成様子ニ御坐候事、但何日と云ふ事ハ未ダ断言難致候、数日前当地高等中学校長吉村寅太郎氏来仙相成候ニ付和田兄と同伴致し其旅宿ニ訪問仕候、将来我校と該校トノ関係ハ頗注意ヲ要スル事柄と存候故色々尋問致見候処、先我校ニ対してハ賛成之意ヲ表セラレ候ヘ共該校ニ於テ尋常中学校三年以上之科目ヲ教授スル予備科ヲ設立スル事ハ随分我校ノ為ニ不都合ヲ来スべくと懸念仕居候、兎ニ角未ダ確定シタル事ニも無之儀被思候間可相成ハ尋常中学位目ナリトモ全く我校ニ於テ引受候様ニ致度希望仕候○二三日前清奇園主より態々頼ミ出候事ニハ、先般先生御来仙之節^カも鳥渡御噂申上候通、今般封入之見本ニ準し染物壺反御命シ被下来月御来仙之節御持参被成下、若御来仙無之時ハ先払通運ニ而御送致被成下候様小生より歎願致呉ヨト之儀ニ御坐候、御多忙中誠に恐縮之至ニ御坐候ヘ共可然御取計被下度奉願候也、地ハ七円ニテも八円ニテもよろしく御坐候由にて、紹の極上ニして厚キモノ、色ハ封入ノ見本通、紋ハ見本ハ八分ノ由ニ御坐候処、七分ニ被成下度願出申候、外ニ茶ふくさ、赤五枚、紫五枚御求被下候様願出候処ハ熊谷在榎堂ニ御下命被成下候ヘバ同店にて御周旋可申上と存候、右代金ハ合計何程ニ相成候哉、鳥渡御知被下候ハ早速御郵送申上候筈ニ御坐候事、乍末筆御令閨様御始メ同志社内外諸教員方ヘよろしく御鳳声被成下度奉願候、先ハ御見舞旁匆匆々如斯ニ御坐候、謹言

五月十二日

市原盛宏

新島先生

膝下

再伸、兩親共ハ喜寿と次恵ヲ召連レ当地より凡十五里程南方ニ有之候遠刈田温泉へ入浴中ニ御坐候

162

五月十四日

富田鉄之助

① 東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地

② 西京丸太町上ル町百四十番地

④ 墨

兩度之尊書拝接、陳ハ先達中より御不快之事ヲ伝承、甚御あんじ致居候所漸々御快方之事ニ御書中家内一同御悦致居候、乍此上万事御打捨御加養專一ニ希望致候、仙台学校之義御尋之通りコンステーションを起草し、松平帰鼎之節為持差出置候、彼地之商議員中評議相調候ハ、又々為登候て貴台之御意見ヲも承り候上確定候事ニ可相成、校名も東華学校と相改メ候様起草致置候、右は昔古黄金ノ産出ハ陸前にして其節之古歌ニ

御皇の御代栄んと東ナル陸奥か山に黄金はなさく

と申より東華の字ヲ撰ヒ申候、如何評決相成候哉

又デホヲルスト氏商議委任ニ相加ヘ候事も申遣置候、外人ニ内部之情況ヲ知らセ置候事も緊要と被存候間是非相加ヘ候様致度心得ニ御座候、多分仙台ニ而も異議有之間敷候、開校式ハ六月中と猶予申遣候、日限の所ハ当月末、^(末)来月始方ナラテハ難相定候半と被察候、其節ハ貴台御下り無之テハ甚遺憾ニ候得共余事と違ヒ不得止候間必らず無御心配御

加養被下度候、小生并ニ松倉ハ是非下り度心得ニ御座候、総て着実ヲ旨と致候得ハ花々數事ハ無用と相心得居候、尚追々御打合可致候

一、デホオルスト、^[George Allchin]ラルチン兩氏上京何レニも出会致候、西京仙台兩地之模様くわしく承り申候、仙台江之鐵道も日

々延長、もはや過半ノ出来当十月頃迄ニハ大凡鐵路ノミニテ旅行可出来と樂居候、^[か]旁々學校之都合ニも頗ル便利相極可申候、先ツ兩度御たノミ草々、小生も甚多忙困却相極居候、頓首

五月十四日

富田鉄之助

新島先生

163

五月十九日

大久保真二郎

① 広島県備后国尾道港久保町 ② 京都上京寺町通丸太町南^[△△] ④ 墨 ⑥ 封筒表

書「先生御留主ナレハ奥様公儀様御開封可被下候、急」なとお目付、大久保音羽書簡同封

汚レタル身見ルモ穢ナキ我身ナガラモ愛相ツキタル罪多キ身ナレハ中々私ヨリシテ 天父ノ前ニ愛セラル最愛兄ニ書面ヲ献スル杯ハ思ヒモヨラヌ事ナレトモ、 真神ノ豊饒ナル慈恵ニヨリ今ハ凡テノ罪ヲ十字架ニツケ イエスト共ニ

復活シタル僕真二郎謹テ 神ニ祈リ全ク聖靈ヨリシテ書カシメ賜ワン事ヲ祈ツテ最愛兄ノ聖靈ニ献ス

過日出京ノ節ハ初メ大ニ疑懼シテ曰ク、今ヤ流浪零落ノ極ニ至ツテ今更悔悟シタリトテ參上スルモ人或ハ謂ワン、汝生活ニ窮シタル故又候詐偽シテ生ヲ偷マン為ニ来レルヤト、此疑念ハ始終私ノ頭上ニ掛リ恰モ万斤ノ石ヲ以テ压セラ、カ如ク又左様ニ思惟セラリヨト思ヘハ実ニ耻カシサニ堪エ難ク、時トシテ腹ヲ割ヒテ死スルモ寧ロ此面ヲ提ケテ京都ニ出テ諸兄ニ面スルノ耻シサニ勝レリ抔ト思想シタル事ハ実ニ一度ヤ二度ニテハアラサリシ

然リト雖、最愛兄ヨ、請フ聖靈ヲ来タシテ我聖靈ヨリ謂フ所ヲキケヨ、吾今度ノ悔悟ハ真誠ノ悔悟也〔補〕「前書ニ言フ如

シ」至精ノ悔悟ナルヲ如何セン、尤モ其初ハ肉体ノ零落ガ後悔ノ種子トナリ漸ク往事今来ヲ追想シテ千恨万悔立ロニ到リ、恰モ千万ノ劔ヲ以テ身体ヲ刺サル、如クナリキ、是千恨万悔忽チ聖書ヲ恋慕セシム、其聖書ヲ読ムヤ

キリス〔墨丸・以下同〕トノ限リナキ慷慨忽チ我腦髓ニ射入シ、是ヨリシテ弥吾レノ罪状益々明白シ天帝ノ初メテ活潑々地ナルヲ知リ畏懼初

メテ生レタリ キリストノ靈ヲ以テ罪ヲ贖ヒ仁慈ヲ以テ惡魔ヲ征スルノ声ハ千山万里外ノ雷声ナルカト思惟セシニ漸

ク耳ヲソバダテ、漸ク明カニ、遂ニ千軍万馬ハ吾目前ニ進ミ来リタレハ遂ニ降ヲ乞フテ吾亦其一卒タルノ誉レヲ得タリ、其レ然リ、実ニ其レ然ルナリ、故ニ断然勇奮シテ曰ク、タトヒ人吾ヲ疑フトモ 神何ゾ。吾真ヲ知ラサラン。果シテ

神ノ愛ニアル人ナラハ何ソ人亦吾ヲ疑ワントテ思ヒキツテ出京シタルモ信仰薄キ身ハ未タ危疑全ク晴レザリキ、然ル

ニ出京シタルヤ不幸ニシテ最愛兄ニ拝謁ヲ得ザリシモ、其慈愛ハ忽チ溢レ其他相見ル諸兄諸姉皆喜ヒヲ以テ迎ヘラレ、殊ニ山本御袋様ノ旧時ヲ語リ涙ヲ以テ迎ヘ賜ワリシ如キハ如何ニ冷淡ナル胸中モ、如何ニ氷塊シタル胸中モ如何

ンソ慈愛ノ熱情ニ隔解セラレサルヲ得ン、真在京中羞恥ト悔悟ト喜ト難有ト勿体ナサトニ絆サレテ却テ惡魔ヨリ出テ、自由ノ身トナリシモノガ再ヒ嬉涙ノ奴隷トナリシカト思フタリキ、固リ意外モ方外ナル意外ニテアリキ、於是益

々 天父ノ活恵ノ深キヲ感謝シタリキ

偕今日申上候要件ハ、全体当地ハ中国ノ一都会ニテ伝道上一ステーシヨンヲモ築クヘキ処ト存ラレ候ニ付概略事情申上候

戸数七千戸、人口三万余、唯商法ノミヲ以テ立ツ、全市ヲ大別シテ久保町、十四日町、土堂町、尾崎町トス、十四日町其中心ニシテ金満家モ多ク此郭中ニ住ス恰モ大阪ノ船場ノ如シ、而シテ其尾道ノ本体タル十四日町ハ甚タ頑固ニシテ学文モ殆ントタエテ明治年間ノ学文ナク、アルハ十八史略日本外史ノ如キナリ、風流ハ甚^{〔英〕}將^{〔英〕}基双六三絃諸遊芸茶花ノ如シ、学文ハ矢張産ヲ失フモノトシテ恐懼致追々演舌会杯アレトモ聴衆ハ凡テグルリノ走り巡リ連中ニシテ本体ヨリハ出テス、久保町ニハ才判所警察監獄アルヲ以テ官吏代言人等住居——尤狡猾——区々タリトモ常ニ与論ヲ組織スルノ処タリ、扱私復起シテヨリ郡書記長金谷充ト申スモノト交際ヲ始メシニ非常ノ親蜜^{〔密〕}ヲ来タシ彼レモ殆ント信者ト相成候、嘗テ共ニ仏教演説杯致セシ野田茂吉ト申医師随分当地ニ人望モアルモノナルガ是モ余程信仰ニ近キタリ是ハ私より幾分カ誘キタルモノナリ、然ルニ才判所下ニ又代言代書人等蛇蝎視セラル、連中又希望ヲ生シタリト聞キ居タレトモ格別頼信セスニオリシニ、不計、去ル十六日岡山教会ノ丸毛真応兄来リ私ヲ訪問仕暮候間、夢カト喜ヒ是非一泊ヲ乞ヒ、其夜ハ金谷夫婦私夫婦及今屯人兄ノ宿ニ行キタリ、十七日ハ午前ハ私ノ宅ニ於テ四人ノ信者ノ祈禱会ヲ開キ、夜ハ私より兩人ニ依頼して聴衆ノ希望者ヲ募リシニ左ノ人名寄リタレハ丸山兄^{〔毛〕}奮ツテ講話セラレタリ

秋^{〔金〕}谷 充夫婦

秋山 某

郡役所役員 秋田 力蔵

名田 広八郎

恵美 雅二郎

金子 宗象

鶴見 清吾

西川 七郎

白石 正房夫婦

代書

河野 久槌

代言

根本 熊二郎

代人

難波 泰慈

之類

平野 四郎

小林 類二郎

井上 正助

藤田 久二郎

素文之進

御所谷 春吉

学校教員

田村 正一

加藤 吉野

医 者

岸 勇 吉
野 田 茂 吉
安 東 某

商 人

益 田 政 助
阪 井 達 三

右ノ外飛入傍聴多分ニ有之候、丸毛兄心切ニ演説スルニモ関ラス生ハ一向ラ兄ガ聖靈ニ充タサレ又一同ニ聖靈降下アリテ何卒各々感發セシムル様ニト始終祈禱致シ候、且ハ何分其夜ノ演説満足デアルマイトバカリ思ヒ、聴衆モ定メテ感發セサリシナラント存シ居タリシニ、昨日今日ニカケテ悉シク承リ候ニ聴衆ハ皆大ニ感發シタリトノ事ニ御坐候ヘハ実ニ生ハ満足仕候、偕尤モ忝ケナキハ其入費モ成ベク曾テ狡猾ナリト蛇蝎視セラル代書人ノ如キモノガ忽チ義氣ヲ出クレテワレニモ是非出サセテクレト互ニ進ミ来リシ事ナリ、尤モ奇ナルハ席ヲカリシ席主江席料モ払ヒニ行キシニ、席主曰ク、カ、ル有リ難キ事ヲ承ハルニ何ソ席料ヲ頂カンヤト言ヒシトナリ、其ヨリ右ノ人々ノ内ニテ亦有志者ト云フ連中ト申合、家ヲカリ今度ノ日曜廿二日より集リヲスル事ニ相究メ申候処如何ノ結果ナルカハシラサレトモ恐ラク記載シタル人々ハ大抵洩レナク集リノ人数ニ加ワリソーニ相見申候、然ルニ金谷ト野田ハ当地ノ本体ト申十四日町ニモ信用アレハ大ニ都合宜敷カラント存候、然ルニ是ニ於テ尤モ残念ナル事ハ今ヤ 神此地ニ此ノ如ク道ヲ開キ賜フタリ生是迄ノ迷ヒナクンハ態々当地江踏込ンデモ来ラネハナラヌ事ナルニ自業自得トハシナカラ、是ノ機会ヲ見ルノ見捨テ、修業ニ出ネハナラヌトハ誠ニ残念ノ事ナリト返ラヌ事デハアリナカラ幾度モ悔ユルノ外無之候、愛兄幸ニ生ノ心中御察シ下サルヘク候、然ルニ此ノ如ク罪多キ汚ワシキモノナレトモ今日ノ機会ニハ幾分カ感動アツテ生引

今ナクナリシナラハ又冷淡ニ相成ヤモ計リ難ク、唯願クハ生ノ当地ニアル内ニ何名多ク至急此状着次第御奮臨被下、
三四月モ御滞留被下候へハ存外ノ收穫アランカト奉存候、ドーカ神算ヲ巡ラシ玉ワツテ至急御廻答ノ程奉願候、私ハ
甚タ恐レ入りタル事ナガラ、贅沢ナル申分カハシラサレトモ此内ヨリ家内トモ申合セ最愛兄ヲ初メ其他諸愛兄ノ恵ヲ
カリテ夫婦共三ヶ年間同志社ノ傍ニアツテ勉強サセ被下候様是非々々御願申上、勉強業成り候上ハ専ラ伝道ニ従事セ
ント深ク決心仕居候、ドーカ三ヶ年間靈肉共ニ生ノ夫婦ノ糧ヲ賜ワラン事ヲ願上奉リ候、尤モ私ノ学フ所ハ唯聖書及
教法ニ関スル事ノミ、其他ノ事モホシハ人情ナレトモ其レハ決シテ望ミ申サス候、故ニ一日ノ内僅々ノ時間ニテ宜
敷御坐候、其余ノ時間ハ幸ヒニ身体丈ハ強健ニ御坐候へハ如何様なる働キモ仕ルヘケレハ何トカ此願ヲ御聞取被下候
様偏ニ奉願候也

当地ニ聖書無之、小生金ヲ送リテ御送致ヲ願フ訳ニ至ラス、望ミ人ニ貳三拾人モ直ニ可有之奉存候、^(補)「聖書ノ読会致
シタケレトモ其レモ出来不申」何卒代価ハ後ヨリ売リタル上ニテ差上ケ候様ニシテ新約全書五十カセメテ三拾至急御
送り被下候訳ニハ至ルマシクヤ、御願申上候也

右ハ甚タ御面働又如何ニ御咎メアルカハ存シ申サス候得共毫モ自ラ欺ク事ナク良心ノ命スル儘認メ差上ケ申候、若シ
不届キナル処アラハ私ノ信仰ノ足ラサル所ト二ツニハ智ノ足ラサル所ニテ御坐候、御諒察御垂憐賜ハリ度奉願候也、
カ、ル書流シ乱雑ナル書面ヲ献シ候ハ甚タ恐レ多ク候得共縷情雑錯是亦御憐察奉願候也、右恐惶々々謹言

明治廿年五月十九日

大久保真二郎

最愛兄新嶋襄殿

拝具

返々、末ながら愚弟健次郎事昨年より猶又御世話様ニ相成誠ニ愚者ニ御さ候へハ万事よろしく御願申上候、又々めて度、かしこ

今タ御目もじハ不申上候へとも一筆申上まいらせ候、先々其御元様ニハ先生御事長々の御大病の由其後如何あらせられ候哉、嘸々御なんき遊し候半んとかけなから大ひニ御氣遣ひ申上まいらせ候、一日も早く御全快あれかしと御祈申上候、左候へハ先比ハ真次郎事神様の御めくみニて風とキリス〔ト〕教を信こふ致し、付てハ是迄非をくい誠ニ神様ニそむき先生にそむし事非の程ハ海ニも山ニもたとへかたく候て実御地に罷出候面ハ御さなく候へともはちをしのび御わびの為罷出申候処、誠ニ存かけなく先生御初皆々様御深切ニ御世話被下れ、終ニ私とも迄も御地罷出御教示被下れ候様ニなし被下候由、誠深き御めくみの程難有く御礼筆紙ニこくしかたく存上候、かくの如き非深き我ら夫婦を神様すて給ハす、却而めくみたまいて御前様の御そは御引入れ御教育被下候事難有かきりなく存上、是よりハ御そはニ罷出万事御教育をうけ信こふをかたくなし、及〔す〕なから後日ハ十分神の御為ニはたらきをなす者と相成度望居、大ひ〔に〕樂しみ一日早く当地を出立致し度存候へとも余り長々悪まの中ニすみ申候故当地のあと方付ニこんなん致し、未タ出立も出来不申候へとも非是当月中ニハ当地を出立致し度物と存、かれ是心配致し居申候、とふそく〔ママ〕罷出候ハ上ハ万事よろしく御願申上候、真次郎事、私同人江かし付申て六年ニ相成申候へとも、当年キリスト教を信こふ致し申候迄ハ只一度も我か悪しきと申候事御さなく、只々昨年比ハごふまんニつのり、実ハ私も失望致さんほとありさま世かい非の中ニをはる者かと思ふ様ニ御さ候処、しかし誠神様ハ力ニをひてハあたハさる事なきを信し、日々神ニ祈居申候処、風と一月より右如く非をくい、日々是迄の悪しき事と申候様ニ相成、誠ニく〔ママ〕私もこれしく神ニをひてハ弥々如〔何〕なる事ニてもあたわさる事なきをますく信こふ致し、かんしや致しまいらせ候、此上ハ早く先生の御そはに罷出十分御教育をうけ、後日神の御為ニはたらきをなして弥々天国に入るゝからたとならん事のみ日々祈居申候、色々申上度儀ハ山々御さ候へともつたなき筆ニこくしかたく、先右迄あらくめて度、かしこ

五月十九日

新しま先生御夫婦様

大久保音羽

拝

164

五月二十一日

富士成豊

①〔札幌〕北四条東一丁目一番地

②西京寺町通丸太町上ル十三番 貴酬要旨

④墨

本月九、十兩日發ノ御信書則刻到達、^{〔即〕}洗手披見候処一昨年末帰国已来又々御不例之由御推察申上候、右御療養之為メ七八ノ兩月間ハ当地ニ御出向相成候ニ付而ハ氣候ノ如何御質問ニ対ス、左ニ所見ヲ申上候

札幌七八兩月ハ別冊之通去ル十八年ノ分手元ニ有之候間差上申候、右表中ニ示セル如ク朝六七時ノ間ニ僅カ十分間ニシテ其余ハ晴天午後二時過キニハ極暑、大概華氏八十五六度ニシテ九十度ヲ示セルハ僅カニ一ヶ月間式回位ナリ、依而断然本年ハ御妻君御同伴御来札ヲ待上候、借家之義ハ夫ニ手配可致ニ付函館ヘ到着ノ上ハ左記ノ名宛ニテ電報ヲ發サレタシ

札幌北四条東一丁目一番地 富士成豊

小生義ハ去ル十六年三月貴地ニ於テ拝眉之後、不相替地理ニ從事近々初發見込之通上地測量等ノ事モ長官ノ信用ヲ得

〔ママ〕
へ近頃ハ大ニ進捗致候、御安神被下度候、書外近日御来札拝眉ニ相譲リ申候、勿々不具

五月廿一日

札幌北四条東一丁目一番地 福士成豊

新島襄
賢台

165

五月二十三日

大久保真二郎

① 広島県備后国尾道久保町

② 京都府上京区寺町通丸田町

急要辞

④ 墨

余リ著ルシキ神ノ働キノ顕ワレタルニ付甚タ汚レタル頑固ナル小弟迎モ感ニ堪エ兼候ヘハ申上候也、過日ノ人員昨日
曜日初メテ集リ、互ニ感ジヲ話シ合フ事トナリ又左ノ約束ヲ取り結ヒタリ

明治廿年五月廿二日会員集合シ左ノ項目ヲ協議決定ス

一、当分ノ内本会ヲ名テ尾道教会ト称ス

一、本会創業ノ際ハ久保町百八拾六番次新一番邸大場楨四郎方ヲ以テ仮会場ト為ス

一、本会ハ当分毎日曜日ヲ以テ会日ト定メ午后六時ヨリ会合ス

一、本会ハ当分大久保真二郎ヲ以テ仮ニ教話者トナシ毎会教話ヲナス

本項ハ私ニ於テ甚タ耻チ且ツ畏ル、所ナレハ再三再四誨シテ曰ク、未タ教法上何事ヲモ心得ス加フルニ信仰甚タ

微弱ニシテ唯惑ニ入ラサラン事戦々競々恐ルノミ何ノ違アツテ諸君ヲ導カン、去レ共一步タリ共小生心得アル事ハ肉体ノ続カン限リハ諸君ノ為ニ勉ムルハ勿論ノ事ナリ、唯約束ノ表面ニ記載スルハ実ニ羞耻ニ堪ヘサレハ堅ク辞スルナリト云ヘトモ皆々聞入レス、余リ頑固ニ云フトキハ他一同モ之ニ真似テ絡ラサルノ恐レモアリタレハ羞耻ト畏懼ニタエサレトモ其儘ニ承諾致置候事ニ御坐候

一、本会ハ当分金子宗象ヲ以テ長老トシ鶴見清吾ヲ以テ執事トシ白石正房西川七郎ヲ以テ幹事トシ河野久槌ヲ以テ書記トナス

金子宗象ハ土佐人ニシテ篤実醇良且法律経済等ニ通曉シタルモノナリ、一般土佐人ノ如ク巧弁浮薄ノ人ニアラサルナリ

一、本会ハ当分他ヨリ入会ノ申込アリタルトキハ教話者長老執事幹事ノ意見ヲ以テ其入会ヲ許否ス、若シ教話者長老執事幹事等其人ノ性質ヲ知ラス可否ヲ決スル能ワサルトキハ會員三分ノ二以上ノ意見ニ依テ其入会ヲ許否ス

一、本会々費ハ当分一ヶ月一戸ニ付金五錢トス

一、会費ハ毎月廿七日之ヲ徴収ス

右項目ヲ決議シ其夜ハ少々バカリ教話杯^{〔杯〕}アリテ解散シタリ、偕本日ハ午前早々ヨリ郡吏ノ妻杯聖書讀ニ来リ、午後ハ約束ニ依リ小生鶴見清吾ノ方ニ聖書讀ニ出掛ケ候処、僅カニ金子ノ妻ト鶴見ノ妻ノミ来ル事ナルヘシト存シタルニ豈計ラン、生ノ行クヤ否ヤ忽チ使ヲ走ラシテ所々方々ヨリカケ来リ十人程集リ熱心ニテ求メ申候、又昨夜ノ集リ迄ハ皆々初メテノ者共ナレハ余リアツカマシクテハ却テ頤カス事モアラントテ祈リモセス讚美モ歌ワサリシニ、却テ本日ハ金子ヨリ此次ヨリハ祈禱ヲシテハ如何ト申出テタリ、又夜分ハ生ノ家内ヲツカワシ讚美歌ヲ教ヘニヤリタルニ又モヤ

五六人モ集リ快ク習フヨシ、余リ嬉シサニ私モ今ハ昼夜共ニ己レヲ忘レ尽力シ且一向ヲ汚穢拙劣ナル小生ノ為ニアタ
ラ萌シヲ損ワサルヨフ又益々著シキ 御作用ヲ願ワシ賜ワン事ヲ熱心祈禱罷在候、願クハ 最愛兄ヨ、此状着シタラ
ハ早速諸愛兄姉ト共ニ当地ノ為ニ 生ケル神 最ト高キ神江祈禱アラン事、次ニ何トカ御工夫アツテ斯ク迄頑固ナル
土地、斯ク迄萌シヲ生シタレハ此機失ワサルヨフ、何名多ク三四ヶ月御遣ワシ被下候事ハ出来間數ヤ偏ニ奉願候、而
シテ小生ノ尤モ 神ニ感謝ニ堪エサル所ハ此文ケノ人々ノ集リタルハ或ハ最愛兄ヲ初メ小生等ノ尽力ト誤認セラレン
カモ知レサレトモ決シテ左ニアラス、過日丸毛兄来ラレシモ突然ナリ、三十余名集リタルモ突然ナリ、又丸毛兄ノ講
話ニ感シタルモ意外ナリ、其后日曜ニ集ル事トナリタルモ意外ナリ、何ヲモ知ラサル小生迄モ接クルモ意外ナリ、何
モ苦心シテ斯クナリタルニアラス、各々互ニ随喜シテ斯クナシタルナリ、サレハ偶然ノ出来事則チ 生ケル神ノ御作
用ニアラスシテ何ソ、実ニ感謝ニ堪エサレハ早速御報道セスニ居レ申サス候

就テハ聖書モ僅カニ五六部外ニ無之、皆々聖書ノ到着スルヲ日々小生ニセマリ相待居申候、甚タ御面働ナカラ小生ハ
何処ニ注文スルヤモ分リ不申候ヘハ何卒御尽力被下度一向ヲ奉願候、又讚美歌ノ本モ御一所ニ奉願候、但シ聖書三拾
部讚美式拾

万一執事足下ヨリ返翰賜ワリ候ハ、伊勢兄ハ最早ヤ帰京サレタルヤ一寸御書載被下度奉願候也

五月廿三日

最愛兄襄新島先生

梧下侍史丞丈

大久保真二郎

拜具

万一最愛兄ノ一日御奮臨被下候事モアラハ実ニ当地ノ喜ヒ天下何物カ之ニ加エン、申上クルモ勿体ナケレトモ

情緒ノ程御諒察奉願候、再拝

166

五月二十五日

坂田丈平

① 一条室丁西ニ入 青山方 ② 「御侍者」 ④ 墨

玉章拝見仕候、陳者今日午後五時より三本木茨木屋ニ而晚餐ヲ賜リ候旨御案内被下厚意難有承知仕候、実ハ余リ御無沙汰仕居候ニ付、今朝ハ高堂へ伺上候心得ニ而同勤之人とも申合セ居候処へ御書翰被下候ニ付今朝ハ指扣へ御示之時刻ヲ以拝趨可仕候、先ハ不取敢御答匆々頓首

五月廿五日

坂田丈平

新島先生

梧下

二白、五時前より随意ニ歩行、三本木へ罷出可申候間腕車御差向ケハ御止リ被下様御頼申上候、以上

167

五月二十九日

松平正直

②親展 ④墨

一書拝呈、時下温暖之砌ニ候処老台愈御安泰奉賀候、陳ハ先般貴地へ罷越候節は御病中之由ニテ不得拝顔遺憾之至ニ奉存候、其後ハ御伺も不致候得共兼て御配慮有之候宮城英字校之儀東華義会ト改称致し、本則附則等別紙之通相定メ学校新築落成式執行之時ヨリ実施致度候間、夫々御一閱之上御意見相同度候得共一両日中ニハ帰県致候ニ付仙台へ御回報被下度、尚又右落成式執行之節ハ遠路ニテ御苦勞之義ニハ奉存候へ共何卒御臨席被下候様希望致候、右奉得貴意度、時下御加養專一ニ奉存候、草々敬具

五月廿九日

松平正直

新島老台
侍曹

十一月三日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

此の書状ハ先生丈けの奉入御覧心得ニて草稿仕候、愚弟儀ハ乍此上御教諭の程奉万望候

肅啓、愈御清健奉大悦候、却説頃日御申聞ニ相成候フレスベリアン (Presbyterian) 派合併云々の一条、小生も今春以来別段心ニモ懸け不申、先ハ冷淡ニテ罷在候処、頃日より篤斗深思熟慮致候処、愈先生の御申聞同様漫りに今日に於て合併を經画するハ基督教前途の爲め甚た憂ふ可き事件と存上申候、就てハ小生に於ても甚た乍不束何卒今後の成行如何ニハ可及的の尽力は仕度精神ニ有之候間左様奉申上候、若し御申含めに相成候儀も有之候ハ、無御遠慮御申聞け被下度、左すれハ小生に於ても応分の尽力可仕候

猶又同志社徴兵免役一条ニ関しては小生に於て甚た僭越とハ存候得共、頃日陸奥宗光氏に面会の第一愚見陳述仕置候、同氏も可成尽力致度様子にて追々書状の往復等も致候、別紙に其の証として一通丈け入貴覧候

右ハ勿論小生一箇人の資格を以て相談致候迄にて、敢て先生の尊名を煩したる訳ニハ無之候間左様御承知被下度、尤も右は極秘密ニ致し、未だ湯浅氏にも話さる程ニ御座候

右ハ甚た差出かましき次第とハ存居候得共事の序ニ申陳置たる迄にて、若し成就せは幾分か同志社ニ向て多年の旧誼を償ふ可しと存候迄なり

先ハ右迄申「進」め候、時下秋冷の時節幸に為天下自愛是祈上候、頓首

十一月三日朝

徳富生

新島先生

玉几下

〔別紙〕

同志社之一条ハ少々手を付ケ置候得共、此件ニ付而ハ今一応御相談ヲ要シ候間其中拜会ヲ期シ書外可申述候

十一月二日

宗光

徳富先生

169

十一月十九日

徳富猪一郎

⑤森中章光亨（孔版）

時下秋色愈深きを加江候処閣下益御清安奉大賀候、扱彼の免役一件に就ては、頃日陸奥氏を頼み青木周蔵を以て桂次官に対し談判相試み申候処、存外都合よく全く免役を許すや否やは確然不致候へ共時間の「クウヲリフキケーション」にて除役するの特許を与ふるは篤と認許可致様子に御座候、左れハ陸軍省の方はさしたる困難も有間敷候へ共、独り文部省の方は未だ充分の都合を得ず候間何卒御面倒従来同志社より文部省に向て差出したる願書手続及一切の

模様御報導被成下度奉願候、若し只学校維持金の完全ならざるか為め文部省の許を得る能はざる場合の共候ハ、小生も少々愚案有之随分一時融通作用を以て之を操回す事の出来間敷ものにはあらざる可しと相考申候、何れその内愚案を捧して御教訓相願可申候、右は極機密の事件に候へは申す迄もなけれど漏泄の患は御注意被成下度候、小生当時腸カタルを煩ひ就褥中に候へは、平素信用ある友人に托してあらまし申述たる次第に御座候、外に申上度事は数々相重り居候へ共何れ全快の時に譲り万々申述ふべく候、草々不整

廿年十一月十九日

徳富生

新島先生
座下

170 十一月二十四日

伊勢時雄

①東京本郷西片町十番 ②西京寺町丸太町上ル ④墨

奥様御手元并ニ久保田氏ニある衣類ハ幸便御送奉願候、久保田氏ニある中ニ老母ノ冬のもの有之候由にて少々困りし由

頃日は参館、御取こみの中御邪魔申上御厚情之程奉恐謝候、陳者当日は船参り不申、又一夜ヲ神戸にて費ヤシ、漸ク金曜日十八日深更帰京仕候、其後小弟風邪にて昨日はグヅ／＼仕居候、本日ハ夕刻より大隈氏専門校ニ講義ニ参り候

管ニ御座候、近來ハ百五十人程集リ道ヲ聞キ候由、陳者先達湯淺氏ニテ一寸御咄有之候事ありしニ付大胆ニも御相談
 申上候他ニ非ず、小弟家計ノ事ニ候、目下伝道会社より四十円ヲもらひ候へ共是迄ノ入費ノ都合ニヨレハ色々不時ノ
 入用ヲ算入候へは六十円ハ入り申候、其ニテモ書籍等^{〔籍〕}ハ一切購求仕得^{アテ}不申、も早本年も家資ノ中ヨリ百円余ヲ減し且
 今後今治ニテ利足下落仕候間其方よりあまり期ニスル事不能場合ト相成、誠ニ当惑仕候、程次第ニは一致神学校ニ相
 談して毎週三四時間も教へ候様仕候ハ、少々^{アテ}の給ヲ得候故当分凌キ相付可申とも存候へ共、其事の果して成ルヤ否も
 未タ分らず、且御承知通の弱軀ナレハ伝道上却て不利益ニハ有之間敷ヤト存申候、今度赤坂教会ニ当分ノ中安息日夜
 毎ニ説教ニ参る事頼まれ、勢難辞候間承諾仕候、左スレハ安息日ニハ三度ノ説教ト相成、週間ニは殆ント毎夜集等有
 之、其外ニ生計上ノ事ノ為メ^{〔マメ〕}腦低^{アテ}ヲ煩ハシ候てハ誠ニ困り入候、新聞ニ投書スル事も定リテ仕候事難成候、靈南坂よ
 りハ或ハ十円内外ハ謝礼トシテ遣ハシ可申カ、乍然其ニテハ未タ不十分ニ候、尚外ニ十円も候ハ、凌キ相付可申と存
 居申^{〔候〕}、付テハ甚以申上兼候へ共もし先生御手元ニ右等ノ事ノ為メ御用ヒ相成べき金も候ハ、何程ニテも宜しく目
 下の急ヲ凌キ候為メニ御投助被下間敷や、或ル宣教師ハ伝道会社より増給ヲウナガシ候時^{〔マメ〕}すめ候へ共、目下ノ給デ
 サヘ地方ニある伝道士ノ給ニ勝ル事十数円ナル事ナレハ其点より云フても増給不宜、且貧会社ニ候へはとても力ニ不
 能事ト存申^{〔候〕}、右ノ都合ニ付不憚申上候、何卒御諭示可被成下候、多用中ニテ用事迄申上候、未タ小崎湯淺諸氏ニ
 面会して同志社ノ事咄し候いとま無之候、兩三日中ニハ相談可仕候

小崎ハ近頃リバイバルあるニより自ら火の如く相成居、平常ノ事ハ耳ニもせざる有様ニ御座候、私ハリバイバルニ付
 少々冷淡ニ候間、小崎ノ考ニハ大分もどかしく候と存居申候、徳富ハ痢病ニテ目下大分大患ト聞及申候、小弟風邪ニ
 て有之候間未タ見舞不申候、御全家様ニ宜敷御申上可被下候、妻よりも宜敷御礼申上候

十一月廿四日

伊勢時雄

新嶋襄先生

171 十二月十四日 杉田定一

①倫敦發牛便 ②Via San Francisco Sikiō Japan 日本 京都寺町丸太町
上ル ④黒インク ⑥新島朱筆「廿一年一月廿五日來着ス」

謹啓、爾來彼是御無音打過疎懶之段奉多謝候、益御清穆御起居被成候事ト奉拜賀候、生依然碌々勉学罷在候、当欧州之形況ハ新聞ニ而御承知ト奉存候、過般仏国内穩カナラザリシモ大統領交迭〔更〕以來先鎮靜之姿、フレシネー氏ハ此間何ニカ但撃セラレシ趣、当地ハ過般來貧民社会党之類で集会随分騒々シカリシモ何分多數人民中ノ事故ヘ外ニ聞コヘシ事程ノ事モ無之、唯ダ愛耳蘭ノ事件ガ何ニ箇ニ付ケ沸出ヅル有様ニ見受候、生モ初発之間ハ事物ノ新景広壮ニ驚キシガ、次第ニ穴隙相頭ハレ感心セザル事多ク有之候、概シテ製造工業等ノ事ハ盛ンナレトモ徳義風俗等ノ事ハ余リ感服セザル事多ク有之様思ハレ候、近來本邦ヘハ欧州ノ惡風俗次第ニ侵入之趣慨嘆之次第ニ有之候、内地形況如何、御次手モアラバ御報通奉願候、当地ハ近來例ノ深霧濃烟ニ而不氣候ニハ困却仕候
先ハ御起居伺迄如此ニ御座候、勿々頓首

十二月十四日倫敦堯午便

杉田定一
拜具

新島様

再啓、荊妻義此頃英学修業ノ為メ御地へ罷出候趣何ニ箇ト御配慮ニ預リ候事ト存申候、乍憚右宜敷御願申上候、乍末毫御令閨様及藤田愛帟君ニ御鳳声奉願候、生へ若し御用等有之候節ハ此封筒ノ表ニ押し有之町番迄御出状奉願候

172

〔十二月十七日〕

徳富健次郎

⑤『蘆花全集』第二〇巻所収 ⑥封筒欠 墨書

不肖之小生今日ニ至ル迄先生之御眷愛ヲ忝フシ、幾度カ過失ニ陥リ幾度カ先生之胸襟ヲ痛マシメ奉リタルニ拘ラズ、永ク忍ビテ訓育シ玉ヒシ鴻恩ハ小生天涯地角ニアリテ身苦辛痛酸之中ニ在ルモ決シテ忘却シ得ザル処ニ有之得共勢茲〔候脱カ〕ニ到リテ亦止ム能ハズ、見ス／＼下策ヲ取ルハ実ニ小生ガ深ク自ラ慙愧悲痛ニ堪エザル処ニ御坐候、既ニ京都ニ止ル能ハズ、亦東京ニ帰リテ父兄ニ対スルノ面目ナキ次第ニ有之候得者西去之一方法只小生ニ残ル事ト存候、既ニ良心之指示ニ背キ先生ノ鴻恩ヲ抛チ良朋ノ勸告ヲ退ケテ自ラ欲スル所ヲ為ス事ナレバ事ノ成否ヲ問ハズ再ビ先生之嚴顔慈容

ヲ拝スル能ハザル事ト存候、先生之御身ハ実ニ邦家之命運ニ関ス、願クハ自愛シテ永ク後進之望ニ添ヒ永ク邦家ノ柱礎トナリ玉ハン事ヲ

徳富乾

新嶋先生

玉几下

173

十二月二十二日

岡部 広

①福井県越前国阪井郡伊井村 越前桑蚕原社
②京都府寺町丸太町上ル十三番戸 親展 ④墨 ⑥日付は封筒裏書による

拝啓、逐日寒氣相加リ候処近来御無音ニ打過御起居如何御坐候哉伺上候、次ニ小生無事消光仕居候

〔扱〕

又手本年県会ニ於テ百五十円ヲ以テ西洋人老名中学校へ招聘ノ事ニハ可決仕候へ共、何レヨリ雇入ル可キヤニ至リテハ未定也、小生ハ何分先生ノ御紹介ヲ願上度旨昨夜モ県知事ト談示仕候共、何分仏教ノ盛ナル国ニテ都合能取扱ハサレハ大ニ紛々ヲ引起サンカナト同人モ心配罷在候事也、何レ此事ニ付テ学務課併ニ書記官ナトニモ十分ニ談示可仕旨申述へ、過日山口透上京、尚同人ノ目的モ相違スル様可然ニ御取斗被成下度、小生ハ春来朝夕農事ニ従事、殊ノ外多忙ニ有之候処、本年度県会ニテ副議長并ニ常置委員ニ撰挙セラレ一層任務ヲ打増シ候へ共、他年ノ目的此地位より可

相達様致度候、尚々来春ハ都合ノ上々京仕、種々御示教承度、御令室并ニ公義様御動靜如何、宜敷御伝ヘ被下度願上候、不一

新島先生

侍史

岡部 広

不相変品ニ候ヘ共雲丹三ヶ、かニ二ヶ御回呈仕候間御笑留被下度、かニハ大根ヲロシニテすつましニテ御笑味被下度

174

十二月二十八日

市原盛宏

①仙台区清水小路

②京都寺町通丸太町上ル

親展

④墨

爾来ハ絶而御無音仕候処、本年も最早余日少く相成申候、御起居如何被為在候哉奉伺候

扱先般寒父永眠之際ハ早速電報ヲ以て御慰問被下、尋而雲翰ヲ賜リ懇切ナル御吊詞御陳被下候段御厚情之至リ感佩仕候、父事も既ニ本年六月先生方御来仙之比ヨリ病体頗ル相重リ居候処、十一月上旬ニ到リ頓ニ一変致し、心気稍錯亂し又々中風ノ再発ナランカト怪ムベキ様態ヲ見ハシ申候、然レトモ医士之所見ニても中々今々之事ニハアルマジトノ

趣ニ而先ツハ安堵仕居候、越ヘテ十四五日之比ニ相成候ヘバ全く絶食之姿ニ相成申候故、是ニハ医士も稍心配之様子ニ有之候ヘ共未ダノ、生命ニハ懸念スルニ不及との話振ニ有之候、此際配剤之功驗ニハ有之候ヘ共、昼夜多分ハ睡眠勝ニ有之候故挙家何となく不安心ニ覚候ヘ共医士之説ニ睡眠ハ却而よろしかるべしと承申候儘左程懸念も仕居不申候処、廿日ノ朝ニ到り余り之睡眠も氣遣し、少しく暖氣ニ赴カバ起し參ラセヨト言遣し而食堂ヘ参り候間ニ病勢大ニ革リ候由、此時幸ニ医士も来合ハセ診察ニ及ヒ大ニ喫驚之体ニ而俄カニ小生へも通知有之候故矢之如クニ馳帰申候処最早言語ハ不通と相成居申候、十二時半比ニ到リ終ニ眠ルガ如クニ相果申候、右之次第ニ有之候故ニ実ニ平和ナル終焉と申スベク、憂愁之中ニも慰之一端と相成申候、尤信仰之趣も頗ルよろしく相成居候様ニ存申候、次ニ県立尋常中学廃校之事も先般来県会ニ於テ評議し、余程ハケ間敷議論も有之候由ニ聞及居候処弥廃校と決議ニ相成申候、然レトモ我東華学校ニ対シテハ県会之多数未ダ反对ノ地位ニ立ツモノ、ゴトク、今般廃校ト致候モ其主因ハ高等中学内ニ別科ト称スルモノヲ設立シテ試験之上、尋常中学之生徒ヲ引受クル事ニ決定致候ニアリト存申候、右別課ハ現今之予備科之下ニ置クモノニシテ尋常中学四五級ニ相当し、即チ我校之普通科老年式年級ニ相当スルモノニ御座候、而シテ其定員も四五百名之多数ニ有之候由ニ付、尋常中学校ヲ我ニ引受クル事ハ措キ却而我俊秀之生徒ヲ多分彼レニ奪ハル、ノ不幸アルヤモ難斗、小生等之所見ニ而ハ事必ズ此ニ出ヅルナラント今ヨリ覚悟仕居候、是恰モ前門ニ狼ヲ逐フテ後門ニ虎ヲ迎フルガ如キ状態ニシテ、人事之変遷モ亦奇妙ナリト云フ之外無之候、右之次第ニ有之候ヘ共小生等ニ於テハ内外教員トモ今後之処唯晩成ヲ期シテ耐忍スルノ決心ニ御座候、然レトモ耐忍ト同時ニ又充分工夫ヲ巡ラシ、一ニハ以テ我校之主義効用ヲ世間ニ知ラシメ、二ニハ以テ益々内部ノ改良ヲ遂ゲ、成ル丈ケ引力ヲ増加セザルベカラズと愚考仕候、就而ハ此際一層先生之御高論ヲも蒙り度く、且来二月比ニハ是非一ヶ月間程御来仙親しく生徒ヲ薰陶し又有

志輩ニ御親炙被成下度奉懇願候、高等中学内ニ別課〔科〕ヲ設置致候事ハ多分来年三四月ノ比ナラント臆測仕候、過日東京ニ而御噂被成候大日本名字書之儀ハ如何ニ御座候哉、相揃居不申候ハ、二冊ニテもよろしく候間早速通運便ニ而御送被下度候、又古庄三郎氏〔君〕ヲ当地ヘ招キ寄セ度存じ、先般来同兄と相談中ニ有之候間、於先生も充分御尽力被成下度願上申候、乍末筆内外教師及辱知之方々ヘよろしく又殊ニ御令闡様ヘよろしく御鳳声被成下度候、書余ハ後鴻ニ讓候、頓首拝晤

十二月廿七日夜

盛宏生

新嶋先生

明治二十一年（一八八八）年

175

一月二日

内藤兼備

- ①北海道札幌区北五条西巷丁目四番地 ②京都寺町通丸太町上ル 親展 ④
墨 ⑥別紙地図省略

謹奉賀新年候

明治廿一年一月二日賀

内藤兼備

新島襄様

玉机下

再伸、旧年中ハ御懇書被下候処当方よりハ常ニ御無沙汰而已罷過キ多罪々々、亦タ子供ヘハ結構なる御品々御
投惠被下、毎々御懇志之ほど深謝之至ニ奉存候、乍憚御内政様ヘ宜敷御鶴声奉相願候^{〔力〕}

一、昨年当地御滞在中、札幌区内ニ相応之地所有之候ハ、御購入被成度トノ事を毎々承居候処、近比ニ至リ別紙略図之地所ヲ売却致度云々申聞タル者御座候ニ付、御参考までニ御報告申上置候間、若し御見込も被為在候ハ、福士氏事雇工師(Charles S. Mark)メイク氏同行ニ而不日貴地其他へ巡回可相成筈ニ御座候ニ付、自然御面会之折万堵御相談相成候方可然ト被存候ニ付夫是御含迄申上置候

一、別紙宅地式ヶ所之内、若し御購入相成候ハ、其東之方位置宜敷様被存候、依テ自然売価モ五拾円丈増し居(三五〇円)候得共右ニテハ不相当之哉ニ被考候ニ付、若し御望ミなれバ御示報次第結局之処御相談可仕ト存候、亦タ九百坪ニテハ広き過キ候様なれバ図中飛点ノヶ所ハ小生譲受候様可仕哉、夫是御考案被下度候

一、家を新築スルニハ和洋造トモ大概中等ニテ畳建具トモ合テ老坪代九拾四五円位ト御見込相成候ハ、充分ニ可有之ト被存候間御参考迄申上候、頓首

一月三日

松本勘十郎

- ①群馬県西群馬郡倉ヶ野駅 ②京都府寺町通丸太町上ル町四拾番地 親展
④墨

謹テ奉新年賀候、陳ハ爾来意外之御無音ニ打移居多罪々々奉万謝候、扱過ル頃御尊来之際御内話申上置候我等ノ教会連絡之一条、兎角纏リ兼候所、昨年十一月中再會議ニテ組合一致ノ両会孰れ歟決スヘキ問題ニテ種々神ニ願、十二月ニ至リ投票候所僅ケ一致一票ニテ不殘組合教会合一ノ事ニ決定、牧師ヨリ其筋ヘ早速御届ケ及候筈ニ有之先以大悦此事ニ候、自今以後伝道拡張并ニ学校設立ノ志願も果スヘキ哉ト神ニ感謝仕候、殊ニ当教会も益盛況、昨年中ニ百名余ノ兄弟ヲ増殖シ、越昨元旦ハ拾八名ノ入洗アリ誠ニ忝事ニ御座候、然ルニ爰ニ困却ノ一事アリ、星野氏下谷教会ヘ轉スル事ニ決定、後任種々相尋ルモ更ニ無之殆ト心痛仕候、何卒先生ノ御見立ニテ上毛地方適當ノ好人物御振向ケ被下度偏ニ奉希上候○明治専門学校ハ方今如何ノ成行ニ候哉、御序ニ御洩ヲ願上候、先ハ右御伺迄如此ニ御座候、勿々拝具

明治二十一年一月三日午後八時

松本勘十郎

新島校長

再伸、当教員ヨリ貴校留学ノ生徒種々御尊命ヲ蒙リ忝奉存候、尚公義君ヘも乍憚宜敷御伝達奉願上候、勿々

177

一月三日

成瀬仁蔵

①新潟南浜通式番丁 ②西京今出川通同志社英学校 ④墨 ⑥消印は「新潟
二一・二・四」

拝啓、愛師常ニ主之恩下ニ御忠信感謝之至ニ奉存候、毎度当地之タメ御配慮被下難有奉大謝候、男女学校とも追々盛大ニ相成申候、女学校ハ已ニ七十名計ノ生徒有之候、過日加藤氏より教会之事ニ付御報道申上候由、是ハ一昨年二十名之信者相合はず終ニ分離せしより今日ニ至候迄其分子残り居リ、教会を〔併〕腦〔腦〕まし居候故ニ兩教会相方ニ難物有之候、是れ巧なる偽善者なり、之ニ由て中々「一」致六ヶ敷候、小弟当地ニ参りし以来「一」致合〔併〕并之為種々力を尽し、かつ〔Doreus Sudder〕スカッダ氏、デホレスト氏併海老名氏及今度参り候新宣教師らも大ニ尽力致せしも到底行れざるのみならで益々悪しく相成候、加之吾組合教会ニも一之偽善之分子有之、即ち毒を含むの分子ニ御座候、之が為一之党派之如きもの有之、義きものゝ運動を妨げ居候、昨年一度其者を教会を退けんと致せし時、悔改めし故赦したるニ□□□り、今度又被撰挙権言論權を褫脱ハクダツせり、然れども其が為中々困難有之候、併シ多数之信者は其が為信仰を練られ、また經驗をも得たると信申候

小生、先年愛師ニ御咄申候通、勉学之志アリシニ当地に参り而見ニ繁忙思ノ如く勉学出来ず、只原田君ら之来るを待ちしニ終ニ氏之参られず、到底小生ハかゝる難き教会創業之際ニ女学校、地方伝道、己ノ勉学一時ニ難相成、是非一方ニ専任して勉学する積にて女学校ハ手を引き、全く教会ノ為全身を入れんと考候へ共、到底之未信者之知事、裁判

長、及ヒ商議員ニテ今手を引く能はざる事情有之、然らば教会ニも手を出し両方兼務出来る乎と考れば中々□教会之為ニ尽すニは全力を入れざる可らず^{〔カ〕}と存して種々考之上、終ニ教会を辞じ^{〔バ〕}全くの教会ト地方伝道（是ハ時々）ト自分之勉強ニ掛る事ニ決心仕候、然れ共小弟辞表をいたせし後も益々教会六ヶ敷候、教師らも大ニ心痛致候、当地ハおく之地、伝道地広く、工人少く困居候、愛師常ニ当地之為御祈被下度候、又願くは相成次第暫く当地ニ来り男女学校教会之為御尽し御助被下度偏奉希候、草々不一

一月三日

成瀬仁蔵

新島襄先生

178

一月六日 中島末治

①新潟県新潟区学校町二番町八十八番戸 ②京都上京区寺町丸太町上ル 親
展 ④墨

追而、近頃面白き事ハ去ル十一月中学館ニ当県会議員総体ヲ招きて、^{〔五部〕} Henry Martyn Scudder^{〔五部〕} 私立学校之必要ニ

付演説有之候ニ、議員ハ大ニ感銘し、此頃之知事篠^{〔五部〕} 岩君之中学創立之計画ハ到^{〔五部〕} 庭無効ニ帰候様ニ御座候事ニ候
恭謹奉慶賀新禧候、時下益御清勝之段奉賀候、二ニ弊屋一同無異恩下ニ相凌居候間乍憚御放慮可被下候、近頃御病氣

如何被為在候哉奉伺候、来新以来御無音ニ經過多罪之段御寛容可被下候、錦地病院看病学校書籍館等之御開業有之奉賀候、過般は御光来之御評有之相樂居候御差支之為無之遺憾ニ奉存候

〔同志社〕

偕而小生儀女学校ニ二年從事致居候處、連年病氣余快之為被犯不都合千万ニ打感居候處、不図当地より之招相受、轉地ハ医師も相勸候ニ付之ニ決し、昨秋来北仕候後は氣候も至極佳適ニ有之、特恩ニ沐浴目下強健ニ至リ勞働罷在候間乍憚御安慮可被下奉願候、北越學館ハ資本内国有志之寄附ニ付、運動上面白き處有之殊ニ今ハ学校も小初ニ御座候間加藤勝弥氏其他数名之みにて充分維持相立、将来ハ幾程にても増集相成候見込ニ御座候、当春より本校舎建築致候計畫ニ候、生徒は今度之募集にて二百名計ニ可相成、目今ハ二年生（スウキントン万国史等）ガ最上級ニ御座候、当地方青年は質朴柔順ニ御座候、併し反而成育之後は天下之大器ト相成へきヤト相望申候、外国教師ニハ老ヘンリスカダ、若スカダ、オルブレット、ニウエル氏等にて何れも好人物ニ御座候、原田兄御来助六ヶ敷事如何にも残念ニ御座候、今分ハ丁度一杯に教授之手も相足候得共往々否来学年よりハ是共増員必要ニ御座候間何卒可然人も有之は御心ニ被掛度奉願候、今度白藤兄米國ヨリ帰朝にて錦地には御利益ト奉存候、彼は小生之親友ニ御座候、小生は東北ニ深く望を相屬シ申候様ニ相成候、人種も総し而屈強之様ニ堅忍之精神有之、殊ニ資産ニ富居候故今迄は寒國之冬籠ニ候處、晚くとも桜花の旭ニ匂ひ候時来り第二之帝國大人活劇は東北之役者ガ奏し候ヤト奉存候、近頃先生之小兒等なる市原、綱島、杵田、伊勢、其他森本氏等夫々東北ニ派し給ふは遇然にハ無之ト奉存候、過般北海道ニ御滞在中ハ該地之教会伝道之為（札幌）御週旋被下候由、該地之小寺兄等ヨリ感佩之由小生まで通知有之候○女学校之林外浪子は小生在勤之際、半ハ学校之助教致候も、半ハ彼女自分之為勉学之法を得度約にて相招候而、彼伯父林陸又君も其目的にて遣され候事ニ付、何卒其目的を達候様御序御注意被下度、小生より先生御始へ願上候約束ニ付宜敷願奉り候、乍末筆奥様

へ宜敷御伝声奉願上候、先は新年之祝辞旁御願まで如此候、頓首敬白

明治二十一年一月六日

中島末治

新島襄先生

尚時下別而御撰養之程奉祈候、一同よりも宜敷申上候

179

一月八日

富士成豊

戸 ①東京京橋区築地一丁目五番地 江潤静方 ②京都寺町通丸太町上ル拾三番 ④墨

謹賀新年、昨年ハ態々不厭遠路御来札被下候処彼是ト御不自由勝ニテ今更御申和解モ無之、然シ御帰京後ハ少シク御快キ方ニ被為在候由ニテ大ニ安神仕候、将過日一寸申上置候西南地方巡回之事モ夫々相運ヒ、旧獵廿六日メイク氏同(譯) Charles S. Martin 行札幌ヲ発シ同日午後一時之湊舟ニテ小樽港ヲ発シ函館ニ二日滞在、萩之浜ヲ経テ本月一日午後十時ニ横浜ニ着、翌二日上京ス、爾来御定マリ之休暇ニテメイク氏内地旅行之免状御下附相成次第四五日中ニハ横浜ヨリ東海道筋陸路名古屋ニ出テ、岐阜ヲ経テ敦賀港ヲ見セ、琵琶湖ヲ遮リ大津ニ出テ、貴地江出向疏水工事ヲ巡視シ、竜岡日滞在、大阪

ニ出テ川口築港之実況ヲ見セ、神戸港ニ出テ広嶋ニ舟航シ、同所近傍ノ呉港ニ立寄り、船便ヲ待ツテ長崎ニ廻リ、佐世保港之建築ヲ巡視シ、再ヒ長崎港ニ相回り、船便次第帰京之都合ニ有之候、帰京後諸用相整ヘ次第陸路仙台ニ出テ野蒜及女川湾之築港工事ヲ巡視シ、萩之浜ヨリ船便ヲ以テ函館ヲ経テ帰札之順路ニ御坐候、何レ帰札ハ三月下旬ニモ可相成哉ト想像致居候、尚不日拝眉之上万々可申陳候、早々拝具

明治廿一年一月八日

東京京橋区築地一丁目五番地 江潤静方

福士成豊

新島襄殿

追伸、貴地到着前ニハ敦賀又ハ大津ヨリ電信ヲ以テ着京之日ヲ可報ニ付御手数ナガラマイク氏相当ノ旅宿ヲ御周旋相願上候也

180

一月九日

不破唯次郎

①上州前橋神明町

②京都寺町通丸太丁上ル

④墨

謹賀新年、昨年中ハ種々御厚恩ヲ蒙リ奉万謝候、先日米御廻之金員十二円五拾九錢ハ本月六日ニ正ニ落手万々御礼申上候、此程ハ前橋地方も伝道之都合宜敷、何レ此春ハ多之人ヲ得度主ニ日夜奉祈候、先生之御不快ハ如何御尋申上

候、右ハ御礼迄、失礼

一月

不破唯次郎

新寫先生

御令室様へきよ〔薄〕ヨリ宜敷申上候

181

一月十三日

野尻岩次郎

①丹波北桑田郡大野村

②西京寺町通丸太町

③はがき

④墨

拝啓、御書面奉拝誦候、専門校ノ為金森様御派出之融通相付候趣了承仕候、然ルニ当地ハ村落散在ニ付、山坂ヲ越ヘ三里以外ノ地より有志家ヲ招集可致ニ付、夜分ノ衆会ハ出来不申候間、廿一日ノ午前より集り申度御差支無御座候歟、私モ来十六日一寸上京致候間、猶金森様ニモ御都合承可申、都合ニ依レハ道案内トシテ同道帰国可仕候、招集ノ通知ハ何時ニても差支ナキ義ニ御座候

追テ京都より行程六里未滿ナリ、以上

182

一月十四日

小崎弘道

- ①東京麹町下二番町三十番地 ②京都上京区寺町通り丸太町上ル ③はがき
④墨

貴書奉拝誦候、高崎教会之事ニ付御申越之趣拝承仕候、過日伊勢兄より已に其手数等ニ付先方へ申送置候間、近日公然其礼式執行可仕候、大島氏試檢ハ昨日無事ニ済申候、然シ他教会牧師等ノ勸告ニより組合教会ニテ其責任ヲ持ツ事ニ相成候

一月十三日^四

183

一月十六日

不破唯次郎

- ①上毛前橋神明町 ②西京寺町丸太丁上ル ④墨

貴翰十三日ニ相達シ奉万謝候、十三日ニハ幸ニ安中駅之大説教会ニ参リ、御申越之事杉田兄ト申合候、元来安中、前橋兩教会ニテハ高崎教会ヲ受ケル事ハ好ム所ニテ、杉田兄ト小生之連名ヲ以て、同教会ヲ速ニ東部諸教会ニテ受入度

事小崎伊勢兩氏宛廻申候

本日ハ上毛牧師伝道師会ヲ伊勢崎ニ開キ種々相談仕度候得^{〔カ〕}ハ星野氏ト能々談ジ速ニ組合教会ニ入度希望仕候、高崎ニ右議決之事ヲ聞キ本月三日、前、高岡教ノ聯合祈会ヲ高崎ニ開キ、前橋ヨリ五拾名程出浮、又六日ニハ高崎ヨリ四十五六名前橋ニ来ラレ、大ニ兩教ノ親交ヲ尽セリ、^{〔ママ〕}兩教会が組合教会ニ入ルハ上毛地方ニ取りてハ伝道上ニ又万事ニ好都合ト存候

星野氏本年ハ五月ヨリ東京下谷教会ニ転ラレル由ナレバ跡ニハ今日迄牧師之儀ハナキ由ニテ風評ニヨレバ^{〔熊二〕}木村氏ヲ希望スル人も有之由ニ御座候得共今日迄ハ定サル由ナリ、今日ハ種々取紛乱筆之程偏ニ御免被下度奉願上候、早々失礼

一月十六日

不破唯次郎

新寫先生

184

一月十六日

伊勢時雄

①東京本郷西片町十番

②西京上京寺町丸太町上ル

③はがき

④黒インク

先日ノ御念書（三度共）皆拜受候、小弟事実ニ多忙ニテ寸暇無之御返事遅引失礼奉申上候

御申越之件ハ奉敬承候、尊意遵奉可仕候、学校ノ御相談ノ事愚説ハ先達テ相陳仕置候間別ニ不申上候、小崎、湯浅ハ

別ニ申上候由ニ承リ申候、合併ノ下草案ハ大概出来、来月上旬神阪京ノ中ニ集リ総委員会相開ク筈ニ御座候、井上氏事同志社ニ移リ不申実ニ心痛ニ御座候、同氏ハ大学^{〔僕〕}医科ニ入り哲学ヲをさめ旁神学ヲ独学仕候目的ニ有之申候、先生御病氣心痛ニ奉存候御自愛奉願候、小弟伝道ノ都合追々宜敷、専ラ学生ノ為ニ働キ候筈ニ御座候、ソソデイニ三回説教、其ノ他昼夜隙閑無之、肉体ハ近年ニナキ壯健ニ御座候、小兒共迄無事ニ御座候

廿一年一月十六日

185
一月十六日 岡部 広

① 福井県越前国阪井郡伊井村 越前桑蚕原社 ② 京都府三条寺町上ル 親展

④ 鉛筆

此中ハ年賀状ヲ蒙リ奉深謝候、陳ハ西洋人一名雇入ノ義ハ廿一年通常県会ニテ可決仕、是非名タケハ月給百五十円ニテ招聘スル事ニ相決シタレハ、此義ニ付テハ県知事并ニ書記官ナト、モ昨年五六月頃ヨリ談示ノ上ナレハ元ヨリ異存無之筈ニテ直ニ認可セラレタリ、然ル処小生カ五六月県知事ト談示ノ折リ、既ニ此洋人ハ先生ノ照会ヲ以テ招聘セラレン事ヲ申述ヘ置キタル事ナレハ、今日ニ至リテ異存無之筈ナレトモ御承知ノ通り仏教ノ盛ナル国故ニ知事モ人民ノ氣向如何ト心配ノ趣キニ聞及ヒタルニ付キ、小生ハ飽ク迄前説ヲ執リテ動かス、過ル十一日ノ常置委員会ニ持出シ

テ曰、洋人其人ヲ得ルト得サルトニ由リテ大ニ中学校ノ盛衰ニ関スル義ナレハ此教師ハ学校監督等ニ經驗アリ學術アル同志社長ニ依頼セン事ヲ申述シタレハ、五名ノ委員惣賛成ニテ遂ニ五名、即チ委員會ノ意見ヲ以テ此洋教師招聘ノ事ヲ県知事ニ面会ノ上委曲陳述シ、尚且ツ昨年一月来小生共發起トナリテ私立英学校ヲ設立スル事ニ尽力セシ物語リ又タ先生トノ談示ノ模様モ大略申述、又其發起人ハ県會議員モ過半調印シ各戸長有志家モ大ニ賛成ノ趣キヲ陳ヘタレハ、茲ニ大ニ知事モ安心ヲ色ヲ表シタリ、其節県知事ノ答ニ何レ書記官トモ談示ノ上何分ノ返答可致トノ事故ニ小生ハ翌十二日朝直ニ第二部長書記官本部氏ニ談示候処、同氏ノ曰ク、宗教ト中学トハ關係無之ハ其辺ハ異存無之ト委曲談示ヲ遂ケタリキ、因ニ書記官ノ云ヘルニハ本春予ノ長女ヲ新島君ニ依^{〔托〕}セン云々ト、夫レヨリ小生ハ直ニ県知事ノ宅ニ至リ十一日ノ談判ヲ引続キ且ツ曰ク書記官ニ異存無之云々ヲ陳述シタレハ、県知事モ大ニ打解ケテ曰ク、昨年予カ拙女ヲ新島君ニ^{〔托〕}セント欲シテ上京ノ砌リ、立寄リタルモ同君ハ不在ニテ面会ヲ得ス、由テ本春ハ愚妻ヲ上京セシメ委曲其新島君ニ依頼シタキ云々、尚ホ本日ハ篤ト書記官ニ談示可致ト事也云々トテ小生ハ帰宅セリ、常置委員モ大ニ賛成シ、現ニ常置委員中尤モ勢力アル時岡又左^{〔門〕}ノ末女モ先生ニ依^{〔托〕}シタキトテ小生ニ依頼シタルカ如キ事ナレハ誠ニ民間有志者ノ者共ハ好都合ニ存候、来廿一日ニ委員會ニテ尚知事ノ確答ヲ得度旨昨昨日書狀ヲ以テ県知事ニ申送りタレハ其節ハ成否共判然可致候、幸ニ県知事ニシテ小生共ノ意ヲ採用セラレハ甚タ乍御手数先生ニテ十二分ニ御配意願上候、昨春ノ手続キトハ公私ノ別ハ有之モ洋人招聘ノ義ハ同シク民間ヨリ産出セシ義ナレハ何卒特別ニ御配意被成下度候様奉希望候、弥々先生ニ依頼スル義ニナレハ委員ト書記官ト上京スル事ニ致度旨県知事モ申述仕居候
東京或ル部分ノ^{〔ママ〕}處件為何ニモ本氣ノ沙汰トモ思ハレス、此際小生共ハ教育ト勸業ニ注意仕度候、新井毫氏ハ近比御通知モ有之候哉、旧冬来無音ニテ此頃ハ矢張り在東京ニ有之哉、幸ニ退去ハ免カレタルモノト存候、山口透氏ハ未タ

帰国不仕候へ共月末ニハ帰福ノ事ナラン、何レ来二月中ニ先ツ亜米利加ニ遊〔ニ〕ヒ心算ト承リ及候、此頃ノ日本社会ハ漫ニ退イテ耕作ニ従事スルカ、亦タ進テ欧米ニテモ遊ブ歟、何レトモ他ニ道ナキ事〔故〕頃各地方ノ壮士モ大ニ倦ミ来リタルハ誠ニ意外ナル結果ヲ他日ヲ見ル可キナラン、誠ニ困入りタル次第ニ存候、小生モ二月中ニハ何ニトカ都合ヲ得テ京坂地方へ罷越シ度、先ツ第一ニ洋人ナトノ御相談ヲ願上度、亦タ種々ノ御示教モ承リ度候、右此中ノ新状ニ対シ大略如此ニ御坐候、草々頓首

一月十六日

岡部 広國

新島先生

186

一月十六日

大沢善助

②閣下 ④墨

尊翰拝読仕候処真神御愛護ニ因リ貴社倍盛大ニ至リ欣喜此事候、就テハ今般社員御増加ニ相成御懇志以テ小弟御招キ被下難〔有〕在拝受仕候、然トモ愚昧 善助諸兄ト共ニ謀ルノ価値無之、唯貴命ニ従ヒ微力ヲ貴社ニ尽ノミニ有之候、冀クハ常ニ命令ト忠告ヲ与エラレン事、敬答

廿一年一月十六日

大沢善助④

同志社々員
御中

187 一月十六日 杉田 潮

④墨

拝啓、陳ハ先生過日来御病氣之由承り候ヒシガ如何ニ御坐候哉、当地ニ於テモ一同相変リタル義モ無之、伝道都合モ次第二宜ク御坐候間尚御祈り可被下候

却説、先日高崎教会ノ組合ニ加入之義ニ付御心配被下候テ御注意被下候御高意辱奉謝候、当地方之組合教会ニ於テモ不破君ヲ初メ私共モ一同此度之事ハ素ヨリ先方ヨリ申出シ事故敢テ一致ノ方ヘハ遠慮ナク星野君モ急ク事故近日中ニ可然順序ヲ経、其加入致度精神ヲ伺ヒ然ル後承諾致スヘキ事ニ略相調ヒ居候間左様御承知被下度奉願上候、猶嚴寒之候ニ候得ハ宜御玉体御加養可被下成候様奉願上候、右御返事迄、草々

一月十六日

杉田 潮

新島先生

188

一月十六日

橘 仁

①北海道札幌村二号十四番地

②京都寺町通丸太町十三番戸

謹賀新年、先以御両君様益御健全被為渡珍重之至リニ存候、下テ茅屋何レモ無異罷在候条乍憚御放情可被下候

〔被閱カ〕
扱仰越れ候地面の件、一昨日先方江参り候処、該地別人江貸付墾開成功之後、其中分を与ふる約定先月中ニ相済候由

ニて残念ながら帰宅仕候、併し当道の事他ニも地面ハ多分ニ有之、尤モ当時政府江松下を願出候者甚多く札幌近在ニハ既ニ松下ケの場所ハ有之間敷ト存候得共、人民所有の地所を購求致候ニハ随分可有之と存候間其内宜敷所見当リ候へば御報可仕、御承知の地面ハ右の次第ニて手ニ入兼候間此段惡からず御了承可被下候

〔題太郎〕
馬場氏ハ当地江御越相成候てより信者一同大満足、小生ハ未ダ深ク御交際不仕候得共御承知の如く誠ニ温厚、人々も

大ニ望を属し申候、殊ニ当時大嶋氏不在ニて一層御尽力願居リ候、大嶋氏も既ニ試験済ニ為成候赴電報有之候由昨日会堂ニて談御坐候、先ハ貴客旁申述度乍末御令聞様江宜敷御鶴声願上候、謹言

一月十六日

橘 仁

新嶋先生

閣下

二白、折角御身体御保養專一ニ存候、当年モ暑中ニハ当地江御慢遊被下度希望仕候

〔覆〕

一月十七日

小崎弘道

①東京麹町区二番町三十番地 ②京都上京区寺町通り丸太町上ル ④墨

拝啓、兼て御配慮之大島氏按手礼も本日無事相済み申候間御安心被下度候、却説、過日来三四回組合一致合併細則編輯委員之委員会相開かれ候に付、迂生無欠出席仕り意見申述候ニ、諸委員に於ても大ニ其意見を容るの心相見へ、頗る満足致し候、但し二三之個条ニ少々不同意致す所有之候得共是は何れ尚ホ勘考可仕候、今般神戸にて全委員之委員会を来月早々開かるゝ筈なれば、夫迄に彼之草案之中に御不同意之件々委細承り度奉願候、一致会にても植村、イム^(W)ブリーナド、随分他之説を容る心ある様相見へ申候、尚ほ又御地之諸兄とも十分御熟議被下度候

今般、迂生ニ同志社社員ヲ御依頼有之候処固ヨリ不肖之身何之御助にも相成らざる事と存し候得共先づ御請け申上置候、就テハ来ル廿一日ニ社員之会議御開場之旨御報有之候得共、此回は耆人も出席出来兼申候、尤モ来月初旬神戸ニテ開会ある合併委員会に生等^(伊勢、小崎、湯浅)三人共出席仕ル積ニ御座候間詳細之事其節開陳可仕候

先ハ御尋之ミツシヨンより本年度三千円譲受け之事ハ迂生一人は御同意申上候間其旨御承知被下度候、迂生には神学部其他に意見有之候得共此ハ御拝眉之上開陳可仕候、右要件迄如此、早々頓首

一月十七日

小崎弘道

新島襄様

二白、先般来御病氣之由、随分御養生專一ニ奉祈候、又先般御写真を御恵投被下難有御礼申上候、妻よりも宜く御礼申上候

190 一月十九日 不破唯次郎

①上毛前橋神明町 ②西京寺町通丸太丁上ル ④墨

一書奉呈上候、二三日跡一寸申上候通昨日迄上毛ノ伝道師会ヲ伊勢崎ニ開キ、幸ニ星野氏も出浮し、例ノ一条杉田兄小生兩人ニテ星野氏へ相談仕候処一日も速ニ組合ヘ入会志願之由ニテ、何レ其中組合各教会ヘ宛出スべく存候、併シ西部之諸教会ヨリ代人ハ六ヶ數事推察故、東部ノ組合諸教会ニテ万事不都合有之存候間、来月中旬ニハ高崎ニテ入会式ヲ行度願望ニ御座候、目今上毛各地伝道之様子ハ何もヨキ方高崎教会ノ入会定日之上ハ、先生ヘハ是非御都合之上御出浮ヲ奉待候、上毛伝道ニ付テハ種々工風も有之べく、又上毛大ナル学校ヲ起ス如ク最も必要ナル事、此度ハ是非先生之御上京ヲ願ヒ万事御相談ニ及度懇願ニ御座候、伊勢氏ハ近々御地ヘ行カレル由ニテ、高崎之事ハ御相談被下度奉願候、星野氏之後人ハ今日未定ノ由ニテ、原市ニモ甘楽ニモ牧師ナク余程困却之至ニ御座候、此程先生之御身体ハ如何御座候〔哉〕、右早々失礼、再拝

一月十九日

不破唯次郎

新寫先生

191

一月十九日

松本勘十郎

①群馬県倉ヶ野駅

②京都寺町通丸太町上ル四拾番地 親展

④墨

十五日付ヲ以貴答申上候得ハ御承諾被下候義ト奉存候、扱昨十八日水曜日集会ヘ伊勢氏返書相開候所、入会之義ハ組合教会各所々々ヘ日ヲ定メテ委員ヲ招待シ、然シテ上集会評議一決シテ互ニ入会式ヲ執行スル事、教会設立手續ノ如キ御通知ニ付一同承諾、来ル三月六日ニ執行スル事ニ決定、一兩日中ニ我教会執事ノ名義ヲ以組合各教会ヘ通達仕候間此段乍憚御安堵被遊可被下候、其節ハ御都合被成下尊君是非ニ御発向被下度與々も奉願上候、右三月二日ニテハ日延ニ不都合も不少馴トモ各所ヘ通達承諾ヲ得テ執行ヲ致ス事故延日ニ相成候、扱又右入会式相済候上ハ、諸委員ヘ対シ伝道上ノ事、牧師後任ノ事、相願候ハ勿論ニ候所、牧師後任ハ至急ヲ要スル事故右入会式已前ニも取究申度御配慮被下度、御見当御相談ニも相成候様ニ候ハ、小子ヘ御通知被下度、其上教会ヘ申出度此儀小子ヨリ別段尊君ヘ御依頼仕候、先ハ右之段申上度、書外後便ヘ相讓候、勿々拝具

明治二十一年一月十九日午前六時

勘十郎

新島長兄

拝

192

一月十九日

山岡邦三郎

①若松上野伏町 ②京都寺町通丸太町上ル ④墨

拝呈仕候、^陳は今回デホレスト氏等ヨリ毎月一人ニ三円宛ノ補助ヲナスヘケレハ二人ヲ別課神学ニ送ルヘシト心切ノ
勸告有之候テ、実ニ当地ノ為メ幸福之事ト存候、幸ニ勸告ニ応シテ行カント申出候者二人有之候、然ルニ彼等ハ皆資
金ニ乏シク、自力ヲ以テ一錢ヲモ出シ難キ有様ニ御坐候テ大ニ困却致シ居候、テフオレスト氏等補助ノ三円ノ外ニ毎
月ノ不足金ヲ同志社ヨリ御補助被下事叶ヒ間敷候哉奉伺候、又別課神学入校試験ノ都合如何ニ御坐候哉、御報知願上
度候

当地モ追々好都合ニ御坐候テ、兼テ御聞及ヒノ私立学校モ稍相談相調ヒ、明日ハ称^{〔弥〕}ヨ設立細則及ヒ資金募集順序等ヲ
議スルタメ相談会相開キ候^{〔趣〕}赴キ、其他馬車鉄道布設ノ相談モ調ヒ、目下政府ニ請願中ノ^{〔趣〕}赴キニ御坐候、伝道上モ追々
都合ヨロシク信者モ益々信仰ニ勸ミ居リ候、先ハ右御願ヒ迄、早々

一月十九日

山岡邦三郎

新嶋襄殿

①北丹は周山 ②京都寺町通丸太丁上ル 至急 ④鉛筆

昨日ハ大宮駅ニテ河原林、野尻両君ニ面会シ、籠屋ヲ廃シテ直ニ草鞋ヲツケ、北ニ向テ行程七里羊腸タル峠ヲ越ヘ三時ニ周山ニ着シヌ、扱昨夜以来天地暗淡^(曇)、花ノ如キ雪霏々トシテ飛ビ、北風稍寒キヲ覺ユ、然レトモ之レガ為メニ道路惡シケレバ今日前十時ニ開会ヲ告ゲアル由ナレトモ、田舎ノ慣ヒトシテ十二時ニ至ルモ未ダ揃ハズ、蓋シ二時頃ニ開会スベキ乎○小生ノ胸算ニハ今日ハ十二時過ニ会ヲ終リ直ニ帰途ニ就キ、途中一泊、明日ハ十二時迄ニ京都ニ歸リ直ニ奈良ニ奔ル積リナリシガ、思フニ今日ハ四時頃ニ散会ヲ告ルニ至ルベキ乎、然レバ仮令今日二三里出デ、一泊スルモ、京都ヘハ十二時ニ歸ル事頗ル六ヶ敷、去レバ奈良ヘハ七時迄ニ着シ難カラント奉存候、且ツ道路サヘ惡シキニ於テオヤ、而シテ小生ハ奈良ニ安息日ノ夕迄ニ歸リ説教スベシト申置候(尤モ前ノ日曜モ五条ニ行シ事ナレバ説教ニハ間ニ合セ度ト申シタルナリ)

然レ共、丹バノ有志諸君モワザ／＼二里ヤ三里ト出掛呉レタル事ナレバ充分ノ満足ヲ与ヘ度、去レバ勢ヒ四時ニモ至ルベシ、就テハ甚ダ御面倒ナレトモ奈良東寺林町磯田和藏宅届キ、執事森権六、磯田復藏外信者アテニテ、丹バニ行テ雪フリ、路遠ク為メニ閉会ノ延引ニテ或ハ日曜ノ夕迄ニ難帰候間、森、宇田川ノ両君説教致シ呉レ候様尊下ヨリ一書急ニ奈良ヘ御投ジ被下度偏ニ奉願候、トテモ今日会ノ都合ニテ帰奈間ニ合ハズト断念セバ、野尻君宅ニ趣^(赴)キ、例ノ狩ヲ致シ、月曜日ニ帰ルヤモ難計、何分右ノ趣^(赴)奈良ヘ葉書ニテモ宜投シ置被下度奉願候、勿々

廿一日正午

北丹ば周山ニテ 新しま公ぎ

伯父様

土曜日ノ夕ニ郵投セバ翌日八時又ハ三時ニ奈良ニ着スベシ、明日奈良ニ達スルヤ否ハ知レサレントモ当地ヨリ一葉書差出し置候

194

一月二十四日 岡部 広

①福井県 ②京都府寺町三条上 必親展

過日書状ヲ以テ委曲申上候通り洋人御聘一件ニ付テハ漸ク庁議モ取静候趣キニテ、此度弊県知事上京用済次第帰路京都へ立寄、先生ニ御面会之上可然御談示可願上旨今朝確答有之候へハ、定メテ三月中ニハ京都へ罷出候様存居候間、其節ニ御示談之上可然ニ御取計被成下度、為弊地方御依頼申上置キ候

却テ説ク、弊前県会議長当常置委員ニテ時岡又左エ門ノ息女、此度御校女学校へ入学致度旨ニテ小生より先生ニ御依頼申上呉レトノ事也、此人小生ノ政友ニテ到ツテ交情ノ深キモノニ有之候間、何卒御世話被成下間敷候哉、御採用被成下候へハ二三月中上京被致度旨申候ニ付、乍御手数御返答願上候、女子ノ年齢ハ十三歳ニテ小学中等課卒業ニ有之

候由也、右御問合せ迄、草々頓首

一月廿四日

岡部 広

新島先生
坐下

195

一月二十四日

上野松治郎

①羽前上山鶴屋町九十五番地

②京都府下寺町通丸太町上ル

④墨

嚴寒之時下主恩之下ニ益々御安康之段奉慶賀候、陳ハ小生が羽前ニ出張致候訳は、先ニ東京ヘ引越後、両国教会ニ属致候、商業も従前之通り営居候处、明治十八年之暮頃ニスコツチ ^(Robert Y. Davidson) ミシヨン之デビッドソン氏より、両国教会之牧師三浦徹君ヘミシヨンニ而今屯名之伝道者募り度、就而ハ両国教会ニ其人ハなき哉との語りしニ付、三浦君より小生ニ右之次第述ヘ而伝道者と相成而道之為ニ働く事を勸を受け、西京ニ在りし時 ^(of) ゴルトン教師よりも伝道者ニ成事を勸を蒙り、且山田良斎氏よりも同様勸られたれ共種々故障有リ而、且退校後故、ゴルドン教師之勸之如に入校致事ニもならず、残念ながら諸之御厚意無ニ致し、其後伝道者之事ハ断念致而東京ヘ引越しが、前陳之如く三浦君より之話有リしニ付、種々思考致、先ニ西京ニ在りし時ニハ故障有リ而伝道者と成事相成ず、然し今度ハ別段親族之故障も無之、此時にして此話しあるハ好都合なりと思しなれ共、此之不学者が今直ニ伝道ニ従事致事ハ中々六ヶ敷事と存候故一度

断りし処、三浦、松崎兩氏再度種々勸られ候故、再度思考致而思ニハ、今度ハ全く神之めし玉ふ事と思考致たる故、意を決て伝道者と相成、然る処兩三年ハ東京ニ在リ而勉強致事ニ相成候ハ募リニ応ず〔る〕様ニ答し処、其ニ而も宜しとの事故、十八年之暮より全く商業止め、伝道ニ従事致居しが、昨夏基督教新聞ニ記して在し如き都合ニ而、羽前上山ニ道之伝ハリしより、俄ニ小生か出張致さねばならぬ都合ニ相成、依而一昨年十一月中旬ニ当上山へ出張致候次第なり、然しながらスコチミシヨンニ於而ハ来ル五月之大会ニ而多分ハ日本の伝道を止る都合之由、又山形ニ在るマル氏之御話ニハ、先達ナツクス氏か米國へ帰路スコチミシヨンへ立寄、日本伝道を続事を勧められし故、或ハ続る事ニ相成哉も難計、右之都合故、若止めニ相成候ハ、小生ハ何れニ又伝し候哉ハ難計候、当地ハ御承知之通り温泉場之事故随分人氣も宜しからず、然し漸々ニハ進む姿ニ御座候、如何ニ頑固之土地ニ而も石をもアブラハムの子孫と成玉ふ、全能者之恩寵を蒙る時ハ必ず頑民も救を受る事と信、且祈禱而働居候、只恐るハ小生之愚どんなるが為、主之栄光を完全ニ願事能ざるを、願ハくハ御憐情を以而小生の弱者之為御祈禱被下度奉希上候、山〔形〕県下随分基督教ニ就而遅れ居しが、近頃ハ山形ニ英和学校出来、其為諸士来山有り而為ニ県下之思想も大分変し候様存候

昨年中より村山冷蔵貴校ニ入学致候由、万事宜し〔く〕奉希上候

明治廿一年一月廿四日

上野松治郎

拝

新島襄先生

二伸、御奥様へも宜しく御致声之程奉希上、当地日々六七寸或ハ巷尺ツ、雪降、寒氣殊ニ厳敷、米沢ハ降雪之為家根之上を往来致居る由

196 一月二十八日

杉浦義一

①土佐高知蓮池町 ②西京寺町丸太町上ル 平信 ④墨

先日は御年賀書ヲ賜リ難有拝読致候、貴校も先生其他諸教師の熱心ナル御尽力ニ依リ定テ生徒中ニ有為ノ才幹ニ富メル輩も多カル可シト属望致居候此の事ニ御坐候、貴地諸教会も松山兄の働ヲ添テ一層ノ振起ヲ促シタル事ト遙察致居候、本会も昨年教会設立後は面目ヲ一変シ、信仰心漸く熟シ主の恩恵ニ励マサレ主の為メニスルヲ第一トシテ務ル者ノ追時加ウルヲ日夜感謝致居候、近來世上ニ喋々スル所ノ三大〔建白〕事件ニ付キ、当信徒ニテ総代トナリ上京致タル者一人、一致会信徒ニテハ許多有リタリ、中五人は〔保安〕ニ抵触シ禁錮サレ居候、当信徒ハ退去ノ命ニ從テ無異帰省致居候、概シテ当地ノ信徒ハ婦女子ニ至ル迄信仰上ヨリ政事上ニ熱心シ易ク、壯年輩祈禱ノ中ニは伝道ノ為メニスルヨリ政事上ノ自由ヲ主ニ需ムル言葉多シ、是レ弟ノ憂トスル所ナリ、一朝何カ事起ルニ際シ、何ヨリモ先ツ生命ヲ棄ント考ヲ決スル氣風ニ教育セラレタル当地人ニテ、自カラ忍耐ニ乏シク過激粗暴ニ走り易シ、是レ必竟教育ノ度ノ低キ所以ニシテ、細言スレハ識量ノ浅キ原因ニ御坐候、本会ノ信徒ハ幸ニ主ノ福音ニ育テラレ、信仰ハ総ノ生命ニテ伝道事業ハ社会ノ幹ナリ、政事上ノ運動ハ支葉ノ結果ナルヲ曉リ、実着ニシテ主ノ恩下ニ従事罷在間御放念被下候、本県人は格別ニ政府ヨリ着眼疑念ヲ承ケル所トナリ、非常ナル警戒ヲ旋サルレ共左迄ノ事は決テ無御坐候、實際反撃ノ運動ヲ举行スルの材料は無之候、兼テ当地ノ信者ハ教ヲ方便的ニ用ユル者ノ如ク疑ワレ居候、折柄長老四人迄モ条例ニ抵触スル事トナリ、愈々一層ノ疑ヲ重タル如ク、一致会ニ於テハ説教ノ際ハ勿論祈禱会ノ時ニモ平服ノ巡查ガ混合シ

居候、本会ニ対シテハ頭名ノ人物無キ所以カ、政府ヨリ見ル所頗ル緩ニ御坐候、板垣氏ハ依然閑居致居候、近来は少々教ニ心ヲ傾ケ、稀レニハ聖書ヲ讀ミ居候様子ニ御坐候

(Annie Lyon Howard)

此の度神戸へ来着ニナリタルボー女教師ハ幼稚園の為メ従事セラルトノ報ニ接シ、荊妻は目下神戸ニ於テ同氏ニ就テ少く勉強致居候、当地ヲ発スルニ際シ信者ハ非常ニ愛別切ナルヲ表シ、情ニ於テ忍ヒ難事許多有タレ共将来ノ働上ノ為メ且ツ婦人信徒ノ依頼心ヲ挫キ各婦人ニ伝道ノ精神ヲ起サセン為メ断行致候所、其後老少ノ婦人奮テ伝道ニ従事致ス事ト相成候間御安心被下度候、当地伝道上ニ付テハ兼テ御厚意ヲ忝致タル次第ニ付キ、御感謝ノ中ニ添ラレ度ク現況申述候、如此早々

二伸、兼テ御設置ニ相成居候予備課へ何時ニテモ編入スル事ノ出来ルや否、予校内ニ寄宿ノ便利有之者也否、鳥渡端書ニテ御手数ヲ希上度候、乍末御令聞様へ呉々も宜敷御伝声被下度候

一月二十八日

杉浦義一

新島襄先生

閣下

197 二月一日 西邸保吉

①京都上京麩屋町姉ヶ小路上ル 終屋止宿 ②京都今出川同志社 御侍史
④墨

未だ拝姿を得ず候へとも謹て愚書拝呈仕候、自分ハ伊予国宇和嶋に生れ、当時同国松山ニ寄寓し松山第一基督教会の
席末を汚す等の義も至誠なる為ニ御座候処、数日前所用ありて当地ニ罷越候間此好機を幸ひとし予而雷名を拝聞して
常ニ其風氣を望想致居候閣下の御一瞥を被り親しく御高説を拝聴仕候て神ニ付ての智識を博め且冷かなる信仰をもや
すの幸福を得候半事を以て滞京中の義も重要にして且樂しき目的と致候処、承候へハ閣下には過日来病の為に家に
在て御自養被成居候様ニ御坐候故唐突罷出候てハ却て御静養の御妨と相成候半事を恐れ差控居候処、昨夜御校生徒富
田元資、渡辺教行二兄より閣下の御病氣も大ニ怠り昨日は御登校被成候事を承候得とも、今朝は既ニ当地出發致候事
ニ相決候ニ付最早拜趨仕候余時も無之実ニ遺憾之至ニ御坐候、閣下ハ世に益し世に福せんか為めに御尽力被成候御偉
蹟は今更自分等の喋々を要せざる処ニ御坐候へ共、混沌たる暗黒の世界に一点の灯光を与へ、多くの人々を救はんと
の貴き御志と且之か為ニ御計画被成候御事業とは遙かに余沢に沐浴致候自分等の殊更ニ尊敬し感謝仕候処ニ御坐候、
自分は素より至愚^カ浅劣にして賢識の大願を煩ハすニ足らざる至誠なるものニ御座候へとも、若し幸ひにして自分の愚
名をたに御記憶被下候ことを得候へハ如何計敷悦はしき事ニ御座候、時下寒威凜然為國家御自愛之程奉祈候、願くは
我等の父なる神及び主耶穌基督より資ふ処の恩寵と安康の常に閣下と共にありて御校の益々發達進歩せんことを、ア

明治廿一年二月一日

西邨保吉

新島様

閣下

筆拙にして意を竭さず御推読被下度候

198

二月二日

沢 茂吉

①北海道日高国浦河郡

赤心社出張所

②西京今出川通同志社

親展

④墨

寒威之候弥御多样欣喜之至奉存候、陳者昨年来一方ナラザル御尽力被下候聖書売兼伝道者ノ義ハ数日前東京築地英国聖書会社ヨリ先生之言ニ從ヒ服部氏ヲ以テ伝道傍聖書販売ノ為月俸金四円五拾銭雜費トシテ金壹円五拾銭合金六円宛月々払ベシトノ旨来状、当地ニ於テハ年末ヨリ日々相待居候事柄ニテ一同喜悅仕候、附テハ本月ヨリ服部氏ヲ伝道傍聖書販売ニ従事相托シ候ハ、近々当地之景況ハ可申上候得共不取敢御礼迄如此御坐候、頓首

二月二日

沢 茂吉

新島先生

机下

尚々、御令室様へ宜敷御伝奉憚候、当地方伝道上ハ格別著シキ進モ無之候得共、先々漸進之様ニ有之候
赤心社業モ漸進之姿ニ候、本年ハ積雪至テ少ナク目今五六寸計ニ候

199

二月三日

中村缸造

①岩代国北会津郡若松七日町 ②西京上京区寺町通丸太町上ル町百四十番地
親展 ④墨 ⑥同封の「会津中学校綱領、同校資本創立費予算及施行手続合
冊」「各郡創立委員」および印刷「若松中学校設立趣意書」は省略

拜啓、陳ハ天主御愛護ニヨリ益御安靜ニ被為渡雀躍此事ニ御坐候、降テ小弟無事ニ罷在候条乍憚御安心可被下候、愚
子〔衡平〕事ニ付テハ格別御厚情ヲ蒙リ奉鳴謝候、過日屢々御伺申上候当中学校設立之義、客月廿日より同廿八日迄創
立会相開キ、別紙之通綱領及資本募集手続相決シ申候、右書類共御一覽ニ呈シ申候、其綱領中不充分ナル事共ニテ有
之御承知之通素より教育上ニ人アリテ為ス事ニモ無之故ニ是迄種々の困難ヲ来シ日新館ノ弊害ヲ去ラントスルノ計画
もアリ其辺ニハ種々ノ都合ニヨリ兼而忠告も有之ナレトモ不得止知事干涉ヲ請ケル様ニ相至リ候へ共其実ハ然ラス綱
領起草セシモ官ヨリ出タルモノニ無之、各郡へ小弟ト同志モノ則、三浦信六、中島友八、秋山清八、村田耕作等ノ為

セシモノニ此人々ハ県會議員ニシテ小弟等ト共ニ事ヲ謀リ居候モノニ御坐候、尤モ此事ニハ熱心ニ尽力致居申候、第一資金募集事ニハ各郡ヘ一般より之ヲ徵収スルノ有様ナレハ当路官吏ナラテハ纏マルノ道ナク、依テ右之都合ニ相至リ申候、何レ綱領中第四十一条ニアル通、他日改正ヲ加ヘ私立ノ基礎ヲ立ツル外無之場合先以当今資本募集迄ニ着手致候事ニ御坐候、依テ此後御高見ヲ相同道候事共多ク有之、小弟も三月頃ニハ東京迄罷出可申都合ニ有之、錦地迄罷出度志願ニ有之候、其節拝顔之上縷々可申述、右不取敢御報導申上候義ニ御坐候間山本(覺馬)先生へも宜敷奉願上候先ハ要用迄申上度候、早々頓首

二月三日午前

中村缸造

拜

新島先生

坐
下

尚々、奥様へもよろしく奉願上候

200 二月六日 不破唯次郎

①群馬県前橋神明町廿五番地

②西京寺町丸太町上ル

④墨

先日願上候通来月上旬ニハ高崎へ是非御出浮被下度偏奉希候、上毛一般ニ関シ種々御相談致度奉存候、大ナル英学校

ヲ設立スル事、或ハ女学校も設立スル事、上毛ニ一ヶ所宣教師ヲ置事ハ如何ニ御坐候也、杉田、星野両氏共右之事ハ先生ト充分ニ御相談申度心組ニ御坐候、先生此度御出浮被下度奉祈候上毛ノ伝道ハ先ツ一般ニヨキ方ニ御坐候、伝道師ヲ置度所ハ多ク御坐候、原市甘楽両教会ニ人ナシ、高崎ニハ先生之御尽力ニヨリヨキ牧師ガ参ラレ候ヤニ承候、如何ニヤ、右ハ御依頼迄

二月六日

不破唯次郎

新瀛先生

201

二月六日

川上八三郎

①北海道札幌農学校

②京都寺町丸太町上ル

□^(平)安

④墨

春雪之候、尊殿始御内政様愈御清安御送陽之御事と奉謹賀候、扱、昨日大瀛氏(正健)無事帰札相成候、氏ハ牧師之礼相受ら

れ候事ニ而小子等大慶之至ニ御座候、是も尊殿御厚情之好果と奉深謝候、馬場氏(種太郎)も日々相働居られ候、就而は教会も

一層力を得るならめと存居候、扱御滞札之際拝見致候同志社創立始末書一部乍御手数御恵与被下度願望仕候、右は小子卒業論文之材料ニ相用ひ度所存ニ御座候、先ハ用事まで如斯ニ候、不尽

廿一年二月六日

川上八三郎

202 二月七日 新井 毫

- ① 群馬県下上毛山田郡大間々町式丁目 平安
② 西京寺町通り丸太丁上ル
④ 墨

客月廿六日ノ逐客令ニ逢テ翌日輦下ヲ去リ直ニ横港ニ至リ候処、長城居士ヲ始メ同ク其一網ニ羅ル友人数名自然該地ニ落合、風塵渦廻越年致候、為メニ新年敬賀之礼ニモ相欠キ候次第不知怠慢ニ打過申候段平ニ御海容可給候、小生モ客月五日無事ニ赤城山下ニ帰来シテ未タ閑居致シ居リ、近親一同無事消光罷在候間幸ヒニ御省念可給候、老父ヨリ新年ノ祝賀申上呉候様被申居候間、此之段御令闍様ニモ宜敷御致声奉願候、(小室・沢辺)紀念文庫ノ件、為メニ多少渋滞致候得共幸ヒニ和田氏が在京シテ周跑被致候故更ニ故障ハ無之取纏リ可申候ニ付、此之義御降神可給候、小生モ本月中ニハ種々ノ俗用ヲ相兼一旦錦地ニ趣キ度心組ニ御坐候、殊ニ先生ニハ開陳致度事情モ有之、本月中自然御東上被遊候ハ、横浜ニテ御面晤ヲ遂度存候、或ハ近々ハ御東上無之小生参館ノ頃迄御在宅ニ可有之乎、御近況得御回答度候、小生今回ノ羅禍ハ案外中ノ案外ニテ、大ニ事業上ニ影響モ可有之、是レ亦殆ント困却仕候、尚ホ拝顔ノ日御示教ヲ得テ更ニ前進之方針ヲモ相定メ度考案ニ御坐候、閑臥左七絶一首ヲ得タリ、御笑評可給候

逢逐客令有作

世変無期今古同

辛酸幾度未成功

寒梅不識逐臣事

含笑雪籬斜影中

短帚意ヲ秘シ不得、御近況相窺度如此、早々頓首

明治廿一年二月七日

新井 毫

新嶋愛兄大人

机右

再伸、ノルマントンノ為メニハ頭髮為メニ禿ト為リ、逐客令ニ逢テ却テ之ヲ再茂ス、一転一変小生是ガ理源ヲ悟ラズ、八重様ニ此之義御諮問被下度候、又初春ニハ参上サラダヲ数皿御馳走ニ預り度、沢山御準備成置キ被下様是亦御致声奉願候、呵々

203

二月十一日

市原盛宏

①仙台清水小路 ②京都寺町通丸太町上ル 親展 ④墨

謹啓、本年ハ新年之比より御病氣ニ被為在候由拝承致懸念仕居候処、目下如何ナル御容体ニ御坐候哉拝承仕度候、玆
 当地ニ於テハ客年中学廃校之議出テ、ヨリ我校ヲ敵視スルモノ漸ク其頭角ヲ見ハシ種々難多之批評ヲ下シ新聞紙上ニ
 も投書、社説等ヲ以テ暗ニ我校ヲ攻撃スル事ト相成リ、頗ル世人ヲ惑ハシ校内生徒ノ心ヲ乱サントスル勢ニ有之候
 間、拙劣ヲ不顧、昨日呈送仕候様ナル一篇ヲ起草仕候、加フルニ小生儀昨年来ハ病氣絶間無之、本年ハ早々種
 (腫)物ヲ煩ヒ始メ、甲治マレハ乙起リ現今四代目之相統者將サニ其暴ヲ極メントスル折柄ニ有之候、依而校内之事
 務丈ハ兎に角事欠キ無キ様取計ヒ居申候へ共、外商議委員ヲ始メ広ク志士ニ交際スル事能ハズ、旁以テ遺憾之至ニ存
 居申候、併先便ニも申上候通、本年ハ我校ノ為メニハ実ニ過渡之時ニして、此際一步ヲ過テバ其存亡ニモ関係アル折
 柄ニ可有之と存候故、先醒始メ富田先醒方ニも精々御助力被成下候様切望仕居候

元来我校創立之際ヨリ独リ地方ノ人心ヲ繋ギシモノハ、先醒方ノ名望ト外国教師ノ多キトニ有之候間、事新ラシク申
 上候迄ニも無之候へ共、此辺ハ深ク御含置被下度奉懇願候、近頃之如き状況と相成候てハ一層別ニ布教専任之牧師ア
 ラン事ヲ切望仕候、昨今ハ神戸ニ於テ多分彼聯合一致之問題ニツキ評議最中ナラント推察仕候が、小生ハ我全国之大
 勢ヨリ考フルトキハ勿論之事、特ニ当地方ノ一局部ニ注目致候ても、速カニ一致組合ノ聯合ヲ全フシ、共同ノ勢力ヲ
 以テ世ニ対スルノ必要ヲ感銘仕居候、先醒ニも予テ御用心ハ至極ノ御事ナガラ可成成功致候様御尽力被成下度候、万

一右一致相成り難候ハゞ、至急ニ彼古庄氏(註)ヲ当地ヘ御遣被下候様呉レ／＼御依頼申上候、先般願上候彼人名字書之義ハ如何ニ御坐候哉、毎度失礼ナガラ伺上申候、乍末筆御令聞始メ内外諸教師方ヘも御序之節よろしく御致声之程奉願候、勿々不尽

二月十一日夜

新島先生

膝下

盛宏

生

再伸、御老母様ニハ近頃御起居如何被為在候哉、是亦よろしく御伝声奉願候

204

二月十二日

福士成豊

①長崎区江戸町

丸屋方

②西京寺町通丸太町上ル拾三番戸

④墨

謹テ呈端書候、貴下益々御健康拝賀之至、將過日ハ貴地滞在中ハ厚キ御饗応ニ預リ芳情万々奉拝謝候、陳ハ御招介(ママ)ニ由テ万事好都合ニ奈良ヘ着ス、宿所モ殊之外便利ニシテメイク氏モ大ニ満足、別而公義君之御厄介ニ相成、大仏其他ノ名所ヲモ見物シ、廿六日午前十時ニ奈良ヲ発シ同午後五時ニ大阪ニ着ク、明テ廿七日府庁ニ出テ案内ヲ得テ安治川口改良之経画図面ヲ一覽シ、同日午後四時半ノ瀛車ニテ神戸ニ出テ、廿八日ハ海軍省及川崎等ノ造船場ヲ巡視シ終テ

午後六時ノ瀛舟ニテ吳港江向ケ出発シ、明レバ廿九日午後五時ニ吳ニ着ク、三十、三十一日ト同地ノ建築ヲ親シク巡見シ、終テ同日ノ午後二時ノ瀛舟ニテ広島ニ渡リ、二月一日ハ同地ヲ見物シ同日午後七時ノ瀛舟ニテ下ノ関ヘ向テ出発シ、二日ノ正午下之関ニ着ス、同地ニ一夜ヲ明シ当地ヲ見物シ、三日ノ午後二時ニ長崎ヘ向ケ定期舟横浜丸ニテ出発シ、四日未明ニ長崎ニ着ク、五日、六日、七日ノ三日ハ佐世保鎮守府ノ建築工事及早枝及大村、時津等ノ地ヲ巡回シ、再ヒ当地ニ歸リ諸方ノ見物モ既ニ終リ、明十三日定期舟横浜丸ノ便ニテ東京江向ケ出发之都合ニ御坐候、何れ不日着京之上ハ猶御報可申上候得共、先ツ無事ニ此巡回ヲ相済シ候ニ付御報知申上候

曾テ御噂申上候如ク、東京以南以西ノ各地ハ我国今日ノ実況ニ付テ述レハ平地丘地至ル所実ニ地積ト人口ノ割合ハ其当ヲ得サルカ如シ、日増民口ノ繁殖随テ營業ノ道ナク是ヲ救助スルハ我北海道ヲ除ヘテハ他ニナシ、益々我北海道ハ貴重之大地ニ御坐候、乍序御参考まで茲ニ述フ、宜敷御聞置、貴下ノ御奨励ヲ相祈り候、早々不備

明治廿一年二月十二日

長崎区江戸町 丸屋方

富士成豊

西京新島襄殿

乍末御妻君ヘモ宜敷御鳳声是祈ル

205 二月二十一日 新島公義

①平城水門村 ②西京寺町通り丸太丁上ル 平信 ④墨

久敷御無音、玉体如何被為在候ヤ奉伺候

彼ノ一致ノ件ニ付神戸集会ノ結果ハ奈何ニ成行候ヤ、誰カ平民主義ノ為ニラアファエツトタル者ゾ

扱、当奈良モ近來ハ伝道上何トナク春風吹キ來ルカに心地仕候様ニテ、私モ無恙神恩之下ニ動止罷在候、奈良県之判官十三名ハ相結ンデ吾ガ講義所ニ來リ研究会ヲ起セリ、前便ニモ申上タル如ク五条の二三信徒及ビ二三有志者ハ又タ相結ンデ是非共小生ニ毎月一週間ヅ、來条、以テ組合主義ノ伝道ヲ頼ミ來レリ、而シテ其往復ハ勿論費用ハ支弁スル

旨ヲ以テセリ、故ニ兼テ申上タル如ク毎月一週ヅ、彼の地ニ在留ノ事ヲ決行スル心得ニ御坐候、併シ伝道委員タル宮

川君^{〔経卿〕}ヘモ相謀リ候間、近日返書ヲ得ル事と奉存候、相楽郡上狛村ニ十二名相結ンタル青年ノ催シニテ明治専門校ノ事

及ビ教ヘノ事ニ関シ開キタル集会ハ、^{〔殊〕}守勝ニモ私演説ノ後、寄附金ノ事ヲ即決致し候、尤モ金額ハ極メテ^{〔輕〕}少ナル

由、近日私の所ヘ持參之筈ニ御坐候

○兼テ御懇命アリタル書物ハ伝道之為メ、別紙ノ如ク相求メ候間福音社ヘ宣布奉願候○専門校ノ事ニ関シ大方ヘ對シ先年來本部ニテ創立ニ勉力アル事ヲ公ニセン為メ草稿ヲ中村榮助君ヘ郵送致し置候義ナリ、思フニ京都ノ新聞ニモ相見ヘタルナラン、別紙ハ書記ニデモ御頼み御序ニ記録ヘ御清写被下度候○過日伝道費用ノ義ニ付御割愛被下候義ナルガ、若シ何レノ処ニカ出口候半々五條等南北ヘ奔走シタル旅費貳円五十錢計リ賜ハラバ幸甚ニ奉存候、此事伝道会

社へ申遣しタレトモ未ダ何ノ音沙汰モナシ○伝道会社ニテハ本月より私月手当テ十二円丈ニ増加致し呉レ候○専門校大阪着手ノ事ハ如何、到底人ニ放任シテハダメダト奉存候、宮川君ノ事モ候故小生未ダ岡崎氏等ニ書ヲ送ラズ、先ヅ尊下より岡崎へ寄書シテハ如何、南山城ニテハ柳沢三郎君ノ尽力ニテ同郡ノ山中ニテ今一回集会ノ積り、小生出席可致候○祖老母公如何ニ被為在候哉、八重様殿下へも宣布奉願上候、乱筆高免、頓首

二月廿一日

公義

拝

伯父様

尊下

尚ホ余寒甚敷、玉体如何ニ被為涉候ヤ、御自重奉願入候

206

二月二十三日

星野光多

①群馬県高崎宮元町

②西京上京区寺町通丸太町

至急

④墨

拝啓、陳者、三月六日入会式ニ御来会被下候哉、杉田兄之説ニヨレば先生ニは近来御病氣ニあられ候趣き、若し右様之次第ニては何とも致方無之候へども可成丈御光来を一同願上申候、万一先生ニ於て六ヶ敷候ハゞ、コルドン師ニは如何ニてあるべき、此儀御含置被下度願上候、又兼而願上置候後任之事も御含置被下度願上候、弊会は只々先生をた

よりニ致居申候

右地方旅行ニ先^{〔立脱カ〕}乱筆失礼之段御海容被下度願上候、頓首

二月廿三日

星楚光多

新嶋先生

207

二月二十七日

伊勢時雄

①東京本郷西片町十番地

②京都上京寺町丸太町上ル

平信用

④墨

前略、御仁免可被下候、今度御洋行ノ一件ニ付キ随行者之義大阪にて金森ト相談仕候際、金森ノ申候ニハ小弟ハ東京ニアル事ナレハ自分東京ノ事ヲ思ハザルヲ得ザレハ同志社ヲ思ふ事少ナガルベシ、主一ニ同志社ノ為メニ働ク事六ヶ敷カルベシ、然レトモ金森自身ナレハ同志社ト直接ノ関係アレハ主一ニ同志社ノ為メ寄附金募集スル事必ス出来ルベシ云々ト、小生も素より東京ニある事にて「インテレスト」ハ多く東京ニあり、乍然若し同志社ノ為メ行カバ主一ニ同志社ノ為メニ働ク事ハ誓テ可成覚悟有之申候、此点ニ於てハ小生も金森程ニ主一ニ働ク事不能トも存不申候、乍然後來ノ事、目下一般ノ事ナド相考候へは、同志社ハ可成同志社ノ人にて維持スル事宜しかるべく、若し金森ニして同志社ヲはづし候事出来候ハ、先生ニ随行スル事^{〔至〕}到極適當ト奉存候、小弟ハ東京方今暫く引はづし不申候方が或ハ便

利ト存候事も有之申候、因て金森より頃日書状参り不申前、已ニ此事ハ小崎ニ咄申事有之申候、其故若し同志社ヲはづし出来候て金森カ随行スル事可然トナラハ小弟ニは少しも御遠慮ニハ及不申候、乍然同志社ノ為ニ慟ク〔補〕小弟カ同志社ヲ思フ事ハ御信し可被下候」事ノ覚悟ニ到りてハ小弟金森ニ及ハずとハ存不申、其手形ノ功拙、成績ノ成否ニ到りてハ、或ハ金森ノ方が長する処もあらんか、若し先生ニして随行員ナクシテ可ナリト御見込被成候時ニも無御遠慮其旨金森等ニ御通知可被成候、御遠慮ニハ決して及不申候、今度ノ事ハ素より先生之十分の御賛成なくてハ不宜候事ニ御座候間、為念申上候、下村等ノ助アレハ別ニ〔補〕「随行員ノ」行クラ要せずと御見込被成候ハ、其趣ハ御遠慮なく浮田、金森等にも御相談可被下候、村井洋行ノ事ニ付先生ニ御相談申上候由、先生も御賛成被下候由にて、当人も不堪喜ひ申候段申遣候、付てハ先生より御書状御認先方に御申遣被下候や、或ハ御病中ニ候間村井ノ性質等ハ小生力相認メ、其ニ先生御添書被成下候て御送被下候や、若し小生認メ候事ナレハ先方ハ何方に当テ可申カ一寸御申越可被下候

小崎第二女小児昨日死去仕候、デフタリヤニ出候由、本日埋葬式執行仕候、誠ニ気毒ニ御座候、頃日、奥様より頂戴仕候〔被布〕ヒフお悦大慶ニ御座候、昨夜寒天ヲ犯し赤坂ニ説教ニ参り候節、お悦ガ申候ニは寒中故ニ右ノヒフヲ借し可申、是非衣て参れと申囀感涙ヲ催し申候、別て小崎ノ心中相察申候、植村ノ小女もデフタリヤニ似タル病氣ノ由、不破ノ男小児ハ先達より肺病ニカ、リ居候由、別して私方ノ二児共用心仕居候、幼稚園も当分休マセ申候筈ニ御座候、右は申上度、早々頓首拝

二月廿七日

伊勢時雄

新嶋襄先生

尚々、来月六日高崎教会加入式ニハ御臨席被下候や、寒中ニて定メテ御出六ヶ敷ト奉存候、当地ヨリハ湯浅、松山及小弟参り申候、小崎ハ如何ニヤ未タ分り不申候

208 二月二十九日 原田 助

①神戸下山手通六丁め ②西京寺町通丸太町上ル 貴答 ④墨 ⑥封筒裏書
新島鉛筆「麴丁区中六番丁二十七番木全多見」

貴簡拝誦仕候、高諭之趣古莊氏ニ相通し申候処、同氏ハ先日小崎、伊勢両氏来神之砌、東京第一教会へ略約束相整ヒ候由ニ付今更致方無之トノ事ニ候、古莊ヨリモ直ニ仙台ノ市原氏へ其旨通知可致様申居候

小生ノ身上之事ハ先日森田より御聞取被下候通ニテ当地教会之都合出来、且ツ達志ノ途相開ケ候ハ、本年中ニ決行仕度心願ニ御坐候、只新潟ノ一条甚タ懸念ニ御坐候、兩三日前ニモスカツダル氏ヨリ懇切ナル書状ヲ領シ候、実ニ同地ノ急ヲ思フトキハ吾身ヲ二分致度心情相起申候

只信ズ 主ハ別ニ尚適當ナル人物ヲ同地ノ為ニ送り玉フナラント、尚他日詳細拝眉之節拝陳可仕候、勿々

二月二十九日

原田 助

新島先生
貴下

追伸、先日御令聞より安藤方へ御托シノ金十円正ニ領掌仕候、其節尊翰御惠贈難有拝受仕候、近日先生御病状如何、御保養專一ニ奉祈候、乍憚御令聞ニ宜敷御伝声奉願候

209 二月二十九日 松平容大

②同志社英学校校長 ④墨

私儀

本年一月四日大坂江罷越候処、不図したる事より同地新町なる青林江立寄申候、其後御校之風習感想を察知するニ從ヒ、旧惡之大なる事を覺り今更後悔に不堪、此旨自首致し候間、御校則に照し何分御処置有之度候也

明治廿一年二月廿九日

二年生 松平容太

同志社英学校校長 新島襄殿

二月二十九日

望月興三郎・兼子常五郎

④墨 ⑥和野紙仮綴 封筒欠

哀願

今回松平容大氏不品行致候旨の自首有之候趣ニ付、正当の御処置ニ相成る事ハ確信致候得共、私共同人監督の依托を受け居る者に候得ハ一応、同人の実情及犯則の儀ニ付陳述致し哀願仕度候、扱て同人儀前に東京に在て諸所の学校に入り脩学致候処、成効無之且素行為不脩、同家及旧臣に於てモ同人に對し望を失ひ、家督相統の権も奪はざるを得ざる非常の場合ニ立到候折柄、御校徳育の盛を伝承致し善良なる感化を受けるに於てハ品性を改造は一個の人物となり得るやの希望を絶望中に起し、最後の一策として客歳末御校へ入学を相願候処、本年一月休業中、大坂へ下り候節不図旧友油小路某に遇ひ遂に同人の誘ふ所となり大罪を犯し候段誠に恐入りたる儀ニ御座候、然るに同人の入学致候ハ昨年十二月廿四日にて既に休業ニ属し、未だ一回の授業も不受、未だ一回の教訓も不承際にて、唯た名儀のみ生徒たる迄の事に有之、且其後同居致す寮長よりも不行蹟無之由聞及、加之同人も自首に及ぶ程に旧惡の大なるを悔悟致し、自今慥度謹慎致様申居候、右ニ付如何なる御処置ニ相成や存不申候へども万一逐校に相成に於てハ前陳の通り愈死地に陥る次第ニ御座候、而固は監督者たる私共の不行届の罪に有之候故私共も何分の御処置を受可申、猶又後來一層監督に注意可致候間何卒情状御酌料の上如何なる長期の謹慎にても不苦候故逐校丈ハ御免恕被為下度、此段哀願仕候

明治廿一年二月廿九日

兼子常五郎 印

同志社英学校長 新嶋襄殿

211 三月一日 井尻亀太郎

④ 墨

謹啓、私儀去一月廿九日頃ヨリ慢性腸加多里症ニ罹リ、爾来京都府立病院ニ於テ診断相受養生中、今日マデ出勤罷在候処、未全癒ニ至ラス候間、帰国療養相加申度候ニ付、明日ヨリ向一二週間御暇被下度、乍憚帰国之上速ニ全癒ニ至リ候ハ、直様上京出勤仕候ニ付、右之趣御聞届置被下度奉懇願候、頓首百拝

明治二十一年三月一日

井尻亀太郎

拝

同志社英学校長 新嶋先生

212

三月一日

岩田徳義

①東京麻布市兵衛町二丁目六十一番地

②西京寺町通丸太町

親展

④墨

拝啓、然は過般ハ御書翰御送付相成逐一了承仕候、就テハ小生帰郷ノ前予メ用意モ致度候付左ニ一応及御紹介申候

小生従来神学校ニ入テ修業致セシ事無之、且道ヲ奉スルノ日モ尚ホ浅クシテ甚タ未熟ナル次第ニ有之、併シ幸ニシテ

(Church Magdal)

日々ワデル氏ト共ニ勤学致居候ニ付、大ニ益ヲ受クルヤニ被考且今日政海ノ多忙ナルモ寧ロ暫ク宗教道徳ノ基本ヲ立

(界)

テ国家永久ノ計画ヲ為ス方ヲ責任ノ重キ事カト被考、又タ岐阜県下ハ暫ク住ミナレタル地ナレハ少ク風俗人情等モ分

リ居レハ、或ハ布教上ニ万一ノ便宜ヲ得ルモノモアランカト被考ニ付、略伝道ノ業ニ力ヲ尽度事ニ決心仕リ候次第ニ

御坐候、乍併元来神学校ニ入テ順序ヲ履ミタル儀ニ無之候得者未熟ノ程甚タ心配致候、右ニ付テハ同志社ニテ試験ヲ

受ケ若クハ拘束サル、約束等有之者ニ御坐候哉、其辺甚タ不案内ニ付前以伺置度奉存候、且飛タ国等ハ未開ノ地ニア

(カ)

(彈)

レハ当分ノ内余程困難ト被察、迎モ初より自給独立等無覺束奉存候ガ右伝道費、方法等ハ同志社ニ於テ御助力可相成

候哉、其辺篤ト一応相伺置度候

一、小生著述ノ書冊甚ダ拙ナキモノニ有之候ガ幸ニ御一読被下候ヘバ御序ヲ以テ充分ノ御高批ヲ付セラレ度相望居候

三月一日

岩田徳義

拝

新嶋襄様

坐右

追白、内藤氏ノ令息不相替勤学罷有候哉伺度候

213

三月三日

金森通倫

①山城丸 ②京都寺町通丸田町 要用 ④墨 ⑥本文の日付は二月三日とあるが、消印は三月三日であつて、Doshisha Faculty Records より三月三日確認できる

只今(十時半)乗船仕候、扱テ昨夜教員会ニテノ宣教師諸君ノ語氣ヲ伺ヒ候ニ何ニヤラ五万ドルモ得タナラ其レニテ満足スベシトノ様ニ、若シ^[John C. Berry]ベルー氏ノ説之如ク今 Board ヨリ其五万ヲ直チニ出シクル、ナラ最早米行ニ及バズト云ハンバカリノ有様ニ見受ケラレ候、然ル処、其五万ヲ得レバ Board ヨリノ年々ノ Help ハ直チニ止メラル、ハ先日クラーク氏ヨリ手紙ニテ明カナリト存候、サレバ僅々タル五万ノ利子ダケデハ現今ノ同志社ヲ維持スル事ダモ難シ、何ヲ以テ高等中学ヲ起ス事ヲ得マシヨウ、高等中学ヲ起スニハ今ノ年々ノ Help ノ上ニ少ナクトモ十万ヲ要スル事ニテ実ハ何ニモカモ入レバ是非十五万位ヲ要スルト存候、然ルニ僅カ其三分ノ一位ヲ得テハ実以テ迷惑千万ト存候、宣教師諸君ハ口ニハ高等中学云々ト申シナガラ僅々五万位ニテ満足スベシナドノ考ハ小生ハ考ヘレバ考ヘル程其迂ナル事ニ驚キ申候、然シヨク思ヘバ彼ノ先生方ニハ真実ニ我輩ガ目的トスル所ノ高等中学之事ハ余リ御存ジナイ事カト思ハレ候、只現今ノ同志

社ノニ少シ高キ所ノ位ヲ与エレバ其レニテ十分トノ考ナルベシ、是レ亦如何トモ致シガタシ、我輩ハ此間ニ有リテ、
 Wise as Serpent, Strong as Lion, Immovable as Mountain 之外ニ策ナシト存候、私共ノ目ニハ少ナクトモ十萬ト
 ハ申ス者ノ実ハ少ナクトモ十五萬乃至廿萬ト存候、其レダケハ是非得ネバワザ／＼大金ヲ費シテ米行スルノ甲斐ナシ
 ト存候、ワザ／＼兩人参リナガラ今ノ同志社ヲ維持スルニモ尚不足ナル僅々タル五萬位デ何ノ面目ガアリテ帰ヘレマ
 シヨウ、又タトヒ居ナガラ其五萬ヲ得マシテモ、若シ高等中学ヲ起ス事ガ出来マセヌナラ何ノ功ガアリマシヨウ、私
 ハ是ヲ思ヒマスト実ニ腸ノサクル様ニ感シ申候、先生願クバ是非トモ是等ノ路頭ニヨコタハル妨害物ヲ打ヤブリテ此
 大望ヲ遂ケ玉ヘ、何卒ヨキ機会ヲ見テ宣教師等ニモヨク是等ノ事ヲ覺ラサセ玉ヘ、昨夜モ浮田君ト先生ノ御宅ヨリ同
 車致シテ私ノ方マデ歸リ途々種々話シ致シ候、猶先生トモ御話シ申シ度ク存〔候〕エドモ今其事能ハズ、〔且一寸感セ
 シ事ヲ申上候〕彼ノベルー氏ノ事ハ先生可成ヨキ様ニ御取リ計ラヒ下サレ、是等ノ斷乎不拔之御決心ニヨリテ破レル
 事ト存候、又返ス／＼モ先生ニ切ニ願ヒタテマツルハ先生ノ御身ノ御保養ニ候、何卒是非此度ノ目的ノ為、同志社之
 将来ノ為メ、我国ノ救ノ為メ、神ノ榮光ノ為メニ先生ノ御身ヲ大切ニ御ナシ下サレ、是非トモ毎日半日ノ（特ニ午
 前）御遊ヲ願上候、私モ切ニ先生ノ御身体ノ為メニハ神ニ祈禱致居リ申候、実ニ彼ヲ思ヒ、是ヲ思フテ感情甚ダ迫
 リ、乱筆ナガラ一寸船中ヨリ申上候

二月三日午前十一時

船中ヨリ 通倫

新島先生

二仲、荆妻儀病中ノ事ニモ候間宜シク御愛顧之程奉願候

214

三月四日

三木正起

①大坂西区新町南通四丁目十四番地

②西京寺町丸太町

御親展

④墨

玉章拝読仕候処時下益御清適被為在奉欣賀候、陳去日ハ途中拝眉ヲ得幸ニシテ御来臨願上候処御許諾御光駕被成下候得共、何之風情モ無御坐御無礼仕候段平ニ御海怒被成下度候、其節御面謁相願候田中、馬島之兩人共、不図御面謁ヲ辱フシ相喜居候事ニ御坐候、何レ御礼書差上可申ト奉存候、其時御話シ被成居候書類五十部御回送被成正ニ入掌仕候、右様御了知置被成下度、先ハ乍延引御礼旁々御断マテ如此御坐候、頓首

三月四日

三木正起

新島様

拜

二仲、時下御保養專一奉祈候、馬島玉太郎ヨリモ宜敷御伝言申上候様申出候、以上余ハ拝顔ノ上可申謝候

三月六日

新島公義

④ 墨

東風吹き来テ梅花笑ヲ呈ス、年々歳々花相〔似タリ〕同シ歳々年々人同シカラズ、小生モ奈良ニ入りシヨリハヤ全ク一周年ヲ経過シヌ、想ヘハ早キ月日カナ

扱去ル一日ニハ講義所開設以来一年季祝会ヲ催シ申候、祝文アリ演説アリ日の丸の国旗門口ニ翩々〔翾〕タリ、紅白ノ梅花室中ニ馥イクタリ、来会スルモノ男女併セテ八十有余名満足ナル盛会ナリキ、頭ヲ回ラシテ去年の今ヲ憶ヘバ誰レ独リ来テ小生ヲ助クルモノモナカリシ、人情ノ冷談〔談〕ナル氷ヨリモ冷カナル当奈良ニハ幾分進歩ヲ呈シタルモノカ粗劣精神ヲ省ミ給ヒシ 主ノ清寵ヲ恩謝スルノミニ御坐候、幸ニ聊カ御慰み被下度奉願上候

兼テ申上タル五条伝道ハ彼の地ノ信徒有志者より小生ノ旅費、滞在ノ実費ヲ支弁シテ是非ニ毎月一週ヅ、来条ヲ懇望シ来リ候ニ付、愈々来ル九日より十三四日迄の間、五条ニ滞在可致候間、願クハ活ル神ハ其ノ成ス処ヲ愛護セラレヨ、我レ決シテ監督教会ノ近傍ニ講義所ヲ開カズ、我の会場ヲ開カントスルヲ彼レ聞クヤ、俄カニ其五条ノ西方ヘカマヘタル一の本城サヘ固カラザルニ棄テ置テ、ワザト我ノ講義所ニナス家ヲ前知シナガラ東方ニ来テ凡ソ一町半計リ距リタル所ヘ僅カニ毎月一度開ク憐レナル派出所ヲ設テ曰ク、基督教新聞ニ教報シテ曰ク組合講義所ハ近辺ニ設ケタリト、是レ誠ニ寔ニ事実ナル彼ガ我ニ対スル振リ合ヒナリ、何レガ礼儀ナル乎、不礼ナルカ、上帝の眼アリ小生ハ出来ル丈ケ礼儀ヲ重ンジ居リ候間此事実ニテ御休神且つ彼の伝道ノ有様我邦ニモ斯の白徒アルヲ御憐察アラン事ヲ奉願

上候、大阪のオルチン氏モ宮川氏モ小生ガ五条ニ参ルヲ賛成之由申来リ、近頃ハ大阪より安藤ヲ遣シテ兩三日間打続ケニ演説シタル由、又タ今ヨリ二週間計リヲ経テオルチン氏モ参条約束ニ御坐候

話頭一転、山城泊村ノ青年ハ耶蘇教聴聞常置委員ヲ置キ、毎日曜日ニ小生ノ所ヘ来リ学ビタル所ヲ其週ノ土曜日ニ十数名相集メテ伝教スルノ工風ナリ、珍シキ常置委員ナルカナ、妙ナルカナ○過日申上タル旅費三円丈御遣し被下候趣奉謝候、又タ書物ノ事モ一ニ拝謝ノ外ナキ事ニ御坐候、前陳ノ如ク以来五条ノ伝道ハ全ク彼の地ノ人が負担致し呉候間先以テ此方ハ好都合ナリ○米国行ノ事ハ御決定ナルカ、ハテ扱私ニ於テ思案スル事モ多ク御坐候

○国民之友十七号ノ一文ハ一字一句モ徳富の脳ヲ煉タ名論ト覺ユ嗚呼尊下ヲ知り又タ信ズルモノハ徳富ナリ、誰カ氏

〔福沢諭吉君と新島襄君〕

ノ如ク尊下ヲ善ク知ルモノアランヤ、小生ハ此徳富ノ眼光ヲ愛シテ止マザルナリ○月ヶ瀬の梅花ヘ御同遊ハ如何、八重上様モ籠ナレバ自由ニ散步出来候事と奉存候、思フニ廿三四日ガ満開ノ由、御意アラバ十六日頃迄ニ御一報ヲ乞フ○お老祖母様ヘ菓子一折差上タケレトモ幸便ナシ、得次第差上度と存居候、宣布奉願上候、勿々頓首

三月六日

公義

拝

伯父 襄様

○二白、玉体ハ断然ト御休養ニ奉願上候

○八重様ハ別ニ一書差上ベク候

○五条ハ五条須恵町保田一二郎方ナリ

三月七日 原 六郎

①横浜正金銀行 ②京都府下上京区同志社 親展 ④墨

拝啓仕候、時下春暖御坐候処益御勇勝旨奉拝賀候、次ニ小生去三日、四日市乗船、四日午前十一時無滞帰宅致候間乍憚御休神被下度候、錦地滞在中ハ一方御配慮を蒙り難有奉万謝候、早速御礼状可差出之処用事蜩集遷延ニ及ひ候、不本意ニ奉存候、サテスタンダード夫人より来書^(カ)ニ而物品贈与之謝礼申来候、右は予而御依頼致置候ニ付御手数被成下候事ト御礼申上候、御序代^(マヤ)に御洩し被成下度早速御送金可仕候、右御礼旁不取敢如此御坐候、乍端令夫人へ宜敷御鶴声被成下候様奉希候、草々頓首

三月七日

新島襄様

乍忽

217 三月八日 徳富猪一郎

⑤ 森中章光亨（孔版） ⑥ 「赤インキにて認む」とある

肅啓、追々尊翰御投与被成下拝読仕候、愈米国行御決心被成候由、我邦教育の爲めとハ申しながら御大儀千万と奉存上候、去りとてかく迄御決心被成候次第只た小生等ハ日夜先生ノ幸ニ御壮健を御保ち被成候様ニ祈り上候外無御座候、金森君ニモ面会仕候、委細ハ追テ同君より承聞可仕心得ニ御座候、固より微力ニハ有之候得共及ふ丈ハ御加勢申上度念願ニ御座候、国民之友ニモソロ／＼論書仕度存居り候、頃日一寸端緒丈相開き候心得ニて先生の教育主義と福沢君の主義とを対照致置候、無論福沢君の主義ニハ不満不同意ノ点山々有之候得共、余り他ヲ駁する時ニハ或ハ議論党派的に流れ、読者の感覚ヲ悪しくする様の事ありてハ折角の奥ノ手モ水泡ニ帰シ可申候間成る丈け及ふ丈け公平平穩ニ致置候、猶続々論書する積りに御座候

却説、今回ノ事業ニハ賛成者最も必要と存候、只今ノ処ニテハ天下ノ事業なれトモ、兎角 Provincial ノ事業に候得ハ頃日井上伯と御相談の事杯ハ尤モ急務と存候、然るニ御承知の陸奥氏ハ最モ斯る事業ノ御相談ヲナサルニハ適當ノ人物ト存候、同氏ハ我邦ノ ^(Joseph Chamberlain)チャンホレーン其人なれハ、兎角将来ニ於ても頼母敷人物ニ相違無之、目下和歌山ニ帰県中ナレハ御多忙中ナレトモ一寸御面会ノ上御打合せ被成てハ如何、井上、青木、陸奥ノ如キ人ハ是非共此ノ事業ニハ必要と存上候

又た大隈氏ハ彼是申しても甚た然諾ヲ重する人ニて、其ノ威勢ノ及ふ所モ甚た眇カラサレハ是非此人ニモ御打合必要

と奉存候、兎角先生洋行前当地ニ御滞在ノ上彼是御周旋被成ては如何かと奉存上候、先ハ思付ノ儘、甚た鳴呼〔鳥渡〕がまし
く候得共一片の永心丈申陳候、幸ニ御酌量被成下度、勿々頓首

三月八日

徳富生

新島先生

玉案下

呉々ニモ御健康ノ程奉祈上候、金玉ノ御身幸ニ御保護是祈る

218

三月九日

金森通倫

①東京麹町区中六番丁廿七番地 ②西京寺町通丸田町 要用 ④墨

拝呈、陳レバ小生儀一昨日高崎ヨリ帰京致シ、昨朝使ヲ以テ富田氏ヘ面会之時間ヲ尋ネ、今朝漸ク同君ヘ面会致シ
候、又同君ヨリノ書翰ヲ以テ今後大学ニ行キテ外〔正〕山氏ニ面会致シ、此度上京之目的並ニ前途之計画等ニ付テ種々相
談致シ候処、同氏モ悦ンデ助力致ストノ事ニテ先ツ第一ニ高等中学ノ方ヲ取リシラブル積リニ候、今朝ハ富田之宅ヨ
リ直キニ森文部大臣ノ宅ニ参リ、大臣ヨリノ紹介書ヲ願ヒ候処快ク承諾サレ、何レ今明日ノ内ニ私ノ宿マデ郵便ニ
テ送ルトノ事ニテ、其紹介書ヲ得次第直キニ高等中学之方ヘ参リ申ス都合ニ御座候、同中学ノ取調相スミ候ハバ前途

我同志社ノ為ニ如何ナル科程ヲ設クル方便利ナルヤ、其等ノ点ニ付テモ外山氏ト相談致ス話合ニ致シヲキ候○湯浅兄並ニ徳富氏トモ相談致シ候処彼等モ大賛成出来ル丈ケ助力スルトノ事ニ候○高崎〔教会〕ノ方ハ都合ヨク加入式モ相スミ、兩夜演説会ナドモ致シ頗ル盛会ニテ御坐候、然シ星野兄ノ後任ニ付テハマダ誰レトモ定ラズ随分困難ナル事ト思ハレ申候、然シ小崎兄ニモ何ニカ考ノアル由ニテ何レ其等ノ事モ近日中相談致ス心組ニ御座候、先日後宣教師諸君ノ模様ハ如何ニ候ヤ、甚ダ心ニカ、リ申候、何卒彼等ノ処宜シク御注意之程奉願上候、先日モ一寸船中ヨリ申上候通り何卒御体ヲ御大切ニナシ下サレ度偏ニ願上候、先ハ要用マデ

三月九日

通倫

新島先生

219

三月十一日

金森通倫

①東京麹町区中六番丁廿七番地

木全方

②西京寺町通丸田町

④毛筆(朱)

拝呈、陳レバ昨日ハ早朝ヨリ高等中学校ヘ参リ幹事今村某ト申ス者ニ面会致シ万事同校之事ニ付テ尋問候処、幸森大臣ノ〔添〕転書ヲ得候故誠ニ都合宜シク御座候、教務事務供ニ其主任ニ付テ明日ヨリ精シク取調べ申ス〔覚悟、以下同〕攪搭ニ候○昨夜徳富ニ面会致し候処、同人ノ申スニ此度ハ幸ノツイデナレバ同志社之名義ヲ以テ府下ノ五大新聞ヲ招キ懇親会ノ如キ者ヲ

開ラキ専門校ノ事忤ニ付キ、又同志社将来ノ目的等ニ付テ演説致シ此後彼等モ必分ノ助力ヲナシクレル様ニ頼ミヲキテハ如何ト申候、毎日新聞ノ如キハ何時ニテモ同志社ノ為ニハ助力スベシトノ攬括ナル故、此度彼等一同ニ招キ候ハバ、将来我校ノ為ニ大ニ益スル所アラント申候、素ヨリマダ此度マデハ直チニ寄附金ノ世話等ヲ依頼致スワケニハ無之候ニ共、先ツ近寄リトナリ後日ノ用意ニ致ス心願ニ候、是レマデ同志社之名ヲ以テカ、ル会ヲ開ラキタル事ハ余リ無之候故、此度ノ事ハ随分益アラシカト存候、此事ヲ小崎、湯淺ノ両氏ニ計リ候処、彼等モ同志社ニテ先ツ先生ヘ御相談申シテ、其御返答次第直キニ執行致ス方カ宜シカラント申候、未ダ伊勢ニハ相談申サズ候ニ共、今日小崎ヨリ同人ヘ相談致ス積リニ候、此度ノ会ニ先生モ御在席ナレバ至極ノ事ト存候ニ共、其儀ハ迎テモカナヒガタク候間、先ツ当地ニアル三名ノ社員ト生ニテ致ス心組ニ候、五大新聞ト申セバ東京日々○時事○朝野○報知○毎日ニテ是ニ国民之友ヲ加ヘ、特ニヨレバ他ノ民間ノ有志者モ招キ度候、其経費ハ凡ソ三十円位ト存候

右ハ荒マシニテ候ガ小生モヨク^{〔カ〕}考ヘ候処、是レハ随分面白キ方法ニテ幾分カ後來我同志社之為ニ益スル所アルベシト存候、今度ハ先ツ新聞屋位ノ事ニ致シヲキ、弥来ル七月渡米致ス時ハ更ラニ大懇親会ヲ開ラキ東京大頭カブ連ヲモ招キ、弥我ガ専門校ノ為ニ尽力致シクレル様頼ミヲカバ必ズ大ヒニ益スル所アラント存候、其時ハ素ヨリ先生モ御出席之事ナレバ大ニ都合宜シカラント存候、カ、ル次第ナレバ此度ノ事ハ至極其用意ノ為ニ宜シカラント存候ガ、先生ハ如何ニ思召ナサレ候ヤ、至急ニ御返答ヲ奉待候、何分至急ヲ要シ候事ナレバ此状着次第御同意、或ハ御不同意ノ御返答ヲ電報ニテ御聞セ下サレ度候、

同意ナラバ、シカリ 不同意ナラバ、イナ

右ハ生等ノ考迄申上候間宜シク御考ヘ下サレ度候

三月十一日

通倫

新島先生

此狀到着次第同志社ノ始末ト専門校ノ旨趣トヲ各二十部郵^〇便ニテ御送り下サレ度願上候

220

三月十七日

金森通倫

①東京赤坂榎坂町五番地 湯浅方

②西京寺町通丸田町上ル

④赤インク

拝呈、陳レバ先般御相談申上候事、早速電報ニテ御返答下サレ難有御礼申上候、其後直チニ湯浅、小崎、徳富ノ諸氏ト相計リ、昨日ハ徳富氏ノ紹介ニテ五大新聞ノ記者ニ面会致シ、同志社ノ拡張並ニ専門校之事ナドニ付テ色々話シヲキ候、毎日、報知、朝野ノ如キハ大賛成ドコマデモ助力スルトノ事ニ候、日報社ニテハ岡本定雄氏ニ面会シテ同シク依頼致シ候処、前三新聞ノ如クニハナキモ是レモ力ノ及ブ丈ケハ賛助スルトノ事ニ候、時事新報記者ハサスガニ福沢さんノ弟子丈ニテ随分冷淡ニハ御座候、是レモ先ツ敵ニナラネバ、ヨイト云フ積リ、是レニモ面会致候、既ニ毎日記者ノ如キハ今朝ノ新聞ニ我ガ同志社ノ事ヲ大ヒニ賛成シテ書キタテ申候、カ、ル次第故、今日早速同志社々員三名湯浅、小崎、伊勢ノ名義ヲ招書^デヲ出シ申候、其新聞社ハ左ノ如シ

日報社○知報社○朝野○毎日○時日○經濟○教育報知○教育時論○学校ノ指針○国民ノ友ニテ候

右ハ来ル二十一日午後六時富士見軒ニテ開宴仕ル心組ニ候、其時ニハ我同志社ノ起リ、現今ノ況狀、将来ノ希望并ニ

我校ノ主義精神ニテ一辺ノ演舌ヲナス〔覚悟〕攪括ニ御座候

「〔抹消〕実ニ此度官民兩海内ニ於テ」此度ハ種々大学並ニ高等中学ノ人物ニモ交リ、又文部大臣ニモ面会致シ色々ト話シ致

シ候エ共、小生ノ感じニテ将来我党ノ真ノ味方ニナリクレル者ハ、民間ノ有志家ト存候、官海〔界〕ニアル者ニテハ或ハ一

個人ノ資格ヲ以テハ我党ヲ贊助シクル、者アラシ、然トモ概シテ申サバ余リ頼モシキ者ニハ無御座候、官界ニテモ井

上、青木、陸奥ノ如キハ必ズ後來我党ノ味方トナルベキ者ナレバ、可成ク是等ト親交致ス方大益アラント存候、陸奥

氏ハ現今紀州若山〔和歌〕ニアルベケレバ、先生若シ御都合出来ナバ御面会下サラバ甚ダ都合宜シカラント存候、若シ小生ガ

在京中ニ彼レ帰京スル事アラバ、必ズ面会シテ将来ノ事ドモ語リラク積リニ候、実ニ今日ハ時機熟シタリト存候、此

機決シテ失フベカラズ、今進ンデ大ヒニ天下ノ有志者ヲツノルノ時ト存候、我輩渡米ノ事ハ最早世間ニカクレナキ事

ト相成リ申候、昨日モ文部大臣ノ宅ニテ話シタル中、大臣ヨリ新島君ハ此度洋行ナサルソウダガ左様カネト申サレ候

故、然リ特ニヨレバ渡米致ス積リニ候ト申シタル、又推シ返シテ君ヲモ御同行ナサルカトノ事故、左様特ニヨレバ行

ク積リデスト答ヘヲキ申候、早此事ノ大臣ノ耳ニマデ入リタル事ヲ驚キ申候、先日來小生ガ大学高等中学ノ間ニ屢往

來シタルハ著シク世間ノ目ニタチタル様ニ思ハレ候、今日モ是レヨリ富士見軒ニテ經濟会トカ申ス者ノ有ル由故、小

生モ交際ノ為ニ出席致ス積リニ御座候

何分右ノ次第二ニテ今一奮發致ス時機到來致候、何卒先生ニハ御身ヲ大切ニナシヲキ下サレ度候、可成御保養御遊ビナ
シ下サレ度願上候、小生ハ無事ニ働キヲリ申候、胃病モ余リ起リ申サズ候、毎日車ニテ東西南北ニカケマワリヲリ申

候

三月十七日

221 三月十七日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地

②京都寺町通丸太町上ル

④墨

兩度之尊書拝受、御安泰奉賀候、然ハ金森氏兩度御出被下御出京之御用向も拝承、即外山氏ニ書状さし添申候所未ニ様子之不承候、学校方追々御配慮之程敬服無窮候、隨身之義ハ無御遠慮御申越被下度候、仙台東華学校之方も世之變動ニ促レ多少之相違相生候様ニ候得共、是も一時之事ニ而決而可驚ニも可恐ニも無之と確信致居候得共、市原氏ニハ中々之心配と被察て、ちと心配ニ打過候半かと小生却而恐れ居候、千里之行程中ニハ山阪も有之、多少風雨之日ニも逢可申候得共、無間断一步ツ、相進ミ居候得ハ目的ニ相達候ハ必然ニ有之候、豈特リ学校維持之事ノミニ無之候、老兄如何御考按有之候哉

直知費用残金として三十円御返却、正ニ落手致候、柴田方江相届、同人より御受為致可申候、兩度之拝答草々如此ニ御坐候也、頓首

三月十七日

鉄之助

新島先生
坐下

222

三月十七日

湯淺治郎

①東京赤坂区榎坂町 ②西京寺町通丸太町上ル十三番戸 返答 ④墨

拝啓、本月十二日付之御書状拝読仕候、金貳拾八円貳拾銭五厘正ニ御預り申候、右ニ付代言人等ヲ要セシモノナレハ其費用等ハ元ヨリ此金額内ニテ支弁可致答ト存シ候、何卒無御遠慮御申越被下度候、国民之友ヘハ夫々入帳為致ヘク候、此度金森君之御出京ハ多少有益ナル働ト可相成ト存シ、且本年御洋行之事モ飽マテ賛成仕候、只々今ヨリ一層之御保養被遊度希望此事ニ候、御返答迄如此、早々拝、頓首

十七日

湯淺治郎

新島襄先生

二白、御家内様宜敷相願候也

①大阪北区若松町十一番邸 ②京都同志社英学校 侍史 ④墨

肅啓未得拝顔候へ共御尊名且先生ガ我国教育社会ノ為メ御尽力ノ事ハ予テ承リ欽慕致居候、然ルニ近頃先年先生ガ御地ニ同志社英学校御設立ノ節ノ始末ヲ書セラレタル書冊ヲ或人ヨリ得テ一読、益々欽慕ノ念ヲシテ止ム能ハザルニ至リ敢テ不敬ヲ顯ミズ茲ニ一書ヲ呈ズル事ニ相成申候

左ハ生ガ履歴ノ概略ニテ前以テ書記致候

生ガ父ハ予テ明治十三年ノ頃兵庫県ニ奉職致居候処、聊カ所感アリテ職ヲ辞シテ同県下播州姫路ニ一ノ士族授産場ヲ興シ専ラ同藩士族ノ貧窶者ヲ救フノ目的ヲ以テ陶器製造ニ従事シ、追々盛大ニ益々精巧ニ赴キ米国等ヘモ輸出スルヲ得ベキニ至リシニ不幸ニシテ中途廃止セザルベカラザルニ至リ候、然レトモ素志商工業ヲ興シ我国利民益ヲ謀ルノ精神ナレバ又肥前国唐津ニ於テ石炭輸出ヲ企テシガ輸出三四回ニシテ亦運拙ナク失敗セリ、其後種々ノ事業ヲ企テタリシカ不幸ニシテ其意ヲ果サズ、今尚年五旬ヲ過ギ事業ヲ興サンガ為メ斃レテ後止ムノ決心ヲ以テ東奔西走致居候

生本年十六才（明治六年四月十三日生）、去ル明治十六年三月姫路城南小学校全科卒業ハ致シタレトモ、其后前陳ノ不幸ニ際会シ其素志ヲ伸ブル能ハズ（尤全十八年二月長崎加伯利英和学校〔即チ米国メソジスト教会設立ニ係ルモノニテ当時校長ハ「ダブリュー・シー・キッチン」氏〕ニ入リタレトモ、僅カ六ヶ月余ニシテ退校セザルベカラ

ザルノ不幸ヲ蒙レリ、即チ学資ノ欠乏、今日マデ碌々事業成ラバ充分脩学ノ出来ベキヲ樂ミニ貴重ナル五ヶ年ノ星霜ヲ流離困厄ノ中ニ経過シ、一ノ学芸ナク一ツノ智識ヲ発達スルナク真ニ遺憾ノ極ニ御座候

生予テ御尊名ヲ承リ先生ノ御教育ヲ受ケ度存念ニ有之、且同志社英学校ナルモノヲ御設立相成候故、是非々々入学致御教ヲ蒙リ度存居候ヘ共、其資ヲ得ルニ乏シク実ニ多憾ヲ極メ居リタル処、同志社英学校始末ナルモノヲ見、先生ガ斯ノ如キ危嶮ヲ拒シ困難辛苦ヲ嘗メ始メテ素志ノ端ヲ開カレ我国教育ノ為メ尽サル、ノ御精神、真ニ生ヲシテ感慨措ク能ハズ益欽慕ノ念ヲ興サシメ其情禁ズル能ハズ、此ノ不敬ノ言ヲ申上候ハ他事ニアラズ、即チ前述ノ次第如何セシ、其志ヲ伸ブル能ハズ憂苦ノ淵ニ沈溺セントスルヲ救ハレン事ヲ願フ一事ニ御座候

已ニ前述ノ次第二付何卒我素志ヲ伸ブルヲ得セシメラレン事ヲ、又今一二年ヲ経過セバ父兄ノ事業モ成就シ学費ヲ投惠スルヲ得ルニ至ラバ尚進ンデ高尚ノ域ニ突入ルヲ得ベケレバ先生ヨ願クバ生ガ真情赤心ヲ憐憫シテ生ガ素志ヲ貫クヲ得セシメヨ、生不敏ト雖トモ又一箇ノ男子ナリ、必ラズ粉神^骨碎心奮励決シテ御高情ヲ空フスルガ如キハ天ニ誓テナサマル所、必ラズ素願ヲ貫キ先生ノ御高恩万分ノ一ニ報ヒ、先生ノ驥尾ニ從ヒ身命ヲ抛テ我社会ノ為メ力ヲ尽シ可申、御哀憐ヲ垂レ玉ヒタル御鴻恩ニハ必ラズ報ヒ可申候

余ハ先生ガ仁慈深ク人ヲ救フノ人タルヲ知ル、余ハ先生ガ憂苦ノ淵ニ沈溺セル余ヲ救フノ救世主ナルベキヲ信ズ、嗚呼上帝ヨ先生ヲシテ生ガ願ヲ容レシメヨ是レ生ガ終世ノ願ナリ

右ハ生態々出京御拝顔ヲ得直チニ御願申上候テモ宜シキナレトモ其意ヲ得ズ不得止楮上ヲ以テ御願申上候、何卒先生生ガ赤情ヲ汲察アラン事ヲ、幸ヒニシテ生ガ願ニシテ容レラル、アラバ豈ニ九死ノ中一一生ヲ得タルニ異ナランヤ、余ハ筆紙ノ尽ス能ハザル所宜シク御推了ヲ願フ、恐惶謹言、頓首

明治二十一年三月二十日夜

同志社英学校長

新島襄先生

玉机下

松村四朗

拝
印

御諾否ノ御答鶴首仕候

追白、若シ生ガ願御容諾修学セシメラレタル上怠慢ニシテ将来御見込ナキモノト御思召相成候ハ、何時ニテモ御断絶被下候共素ヨリ其覚悟ニテ勉励可致候

〔付紙〕

愚兄先日当地西区新町ノ三木正起氏ト申ス人へ御面会致候処、先生ト同氏ト御懇篤ノ御問柄ノ由承リタル旨申居候ニ付、松村四朗ナルモノヨリ如斯事申上候旨三木氏へハ御通知無之様偏ニ奉願上候、若シ御通知ニテモ相成候事ナラバ同氏ヨリ父兄へ御話無之様堅ク御禁シ被成下度、如何トナレバ別紙御願ノ趣ハ未ダ父兄ニ謀ラズ御願申上候故ニテ御座候

尤父兄ニ於テモ若シ先生御許容相成候ニ於テハ無論喜悅可致候ヘ共、今日ノ所ニテハ御許諾有之候ヤ否ヤ未ダ不分明ナル故態ト父兄エハ隠シ御願申上候、併シ御許容相成候上ハ素ヨリ父兄モ願フ所ニ御座候

224

三月二十一日

富士成豊

①東京築地壹丁目五番地 江間静方止宿 ②京都府寺町通丸太町上ル拾三番
戸 親展 ④墨

益御壮健拝賀之至、二ニ小生義去月十七日無事ニ当地江着ス、爾後当地之用向モ昨日までニ完備、本日十一時四十分
之上野発汽車ニテ仙台江向ケ出發仕候、何れ本月下旬ニハ着札可仕都合ニ有之候、其節ハ尚ホ御報知可申上候
乍末御折角御厭御專一ニ奉存候、乍蔭吳々モ相祈申候、早々不具

廿一年三月廿一日

東京築地一丁目五番地 江間静方

富士成豊

西京

新島襄殿

貴下

乍略儀同行之メイク氏ヨリモ宜敷申上呉候様伝言ニ御坐候、是又御聞置被下度候也

225

三月二十一日

長田時行

①神戸下山手通七丁目三百十五番屋敷 ②京都寺町通丸太町上ル ③ 墨 ④ 拝復

奉拜読候、過日来、毎度雨夜久め儀ニ付御申越ニ相成承知仕候、何分同人不在故致方無之、然し他分^{〔多〕}本月中ニハ婦神との事故其上面会可仕候、最も小生も先生と御同様にて、直接結婚之世話仕候事ハ好み不申候間、只ブライベートに關係仕度候、且小生元来信者と未信者之婚姻ハ不^{〔贊〕}讚成故、久めニ勸むる事は難仕、唯々先生よりの御書面之趣と岡部氏の人となりとを咄す迄ニ仕度候、最も久めの実兄ハ先生よりの御咄故喜居候得共本人之望ニまかすと申居られ候、然し先生之直接ニ御關係ある事を好む様ニ見受申候、右御返事迄申上度如此ニ御座候、勿々

三月廿一日

長田時行

拝

新島先生

坐右

猶々、先般原田兄へ御托ニ相成候金二円正ニ落手仕候、他ハ集り居候ハ、御送金相願度候得共、また集り居不申ハ当地にて都合致候間二円のみにて宜敷御坐候、何卒寄附されし御方へ可然御礼奉願候、其後御病氣ハ如何何卒御養生專一ニ奉願候

三月二十二日

金森通倫

①東京麹町区中六番丁廿七番地 木全方

②西京寺町通り丸田町

④墨

拜呈 陳レバ昨夜ハ兼ネテ申上ヲキ候府下五大新聞ヲ始メ其他二三ノ新聞社ヲ富士見軒ニ招キ候処、都合拾名程来〔觀以下同〕
 会仕候、報知社箕浦勝人・加藤政之助・森田文藏 朝野久松義典 毎日 青木匡 日報 岡本武雄 公論 村田政治 教育報知 松山某 教育時論 西村正三郎 学海
 ノ指針 山縣佛三郎 国民ノ友 徳富等 客ト亭主ヲ合ハセテ二十名足ラズニテ御座候、晚餐終リテ別席ニナリ、小崎君ノ
 紹介ニテ同志社現今ノ有様ヨリ其起源将来ノ目的又主義トスル所ナド凡ソ三十分間程演説致シテ来客ノ賛助ヲ仰キ度
 キ旨ヲ陳述致候、皆々満足ノ様ニテ出来ル丈ケ同志社ノ為ニ尽力セント申候、仲ニモ毎日記者、報知記者ノ如キ余程
 カヲソヘテクル、様子ニ見受ケラレ申候、先ツ昨晚ノ会ハ好都合ト存候、此上ハ如何事ヲ彼等ガ紙上ニナシクル、
 目ヲヌグウテ見度キ者ト存候、小生ハ此数日間ハ五大新聞トモ取リテ彼等ガ如何ナル事ヲ云ヒ出スカ、其コヲヲヨク
 氣ヲツケル心組ニ致シヲリ申候、右ハ昨夜ノ告報マテ

三月廿二日朝

通倫

新島先生

二伸、先生ノ御電報ハ甚タ残念ニテ来客ノ退散後ニ達シ申候、最モ報知社ノ記者ハ兩名残リヲリ候、又昨夜ノ
 演説ノ事ニ付テハ何レ伊セヨリ委細申上ベク候

227

三月二十二日

宮川経輝

①大阪中之島七町め

②京都寺町丸太町上ル

御依頼用

④墨

春暖追日増加仕候処益御壮康被遊御起居大悦之至ニ奉存候、陳ハ来四月三日午前九時弊会堂奉堂式執行仕候ニ付テハ御多忙中甚願兼候得共、御操合セ御臨場三四十分間御説教奉願度候、右ハ小生始メ會員一同之願出ニ御座候間、何卒御承諾被下度奉願候、勿々不整

三月廿二日

宮川経輝

新島襄先醒

228

三月二十二日

徳富猪一郎

⑤森中章光亨（孔版）

春色東山ニ笑ふの時節先生如何、伏して御清康是れ祈る

却説、同志社運動ノ模様ハ定めて金森、伊勢の諸君より追々御通知申上候次第と存上申候、思ふ様ニハ参り不申候得

共、先ハ可なりの景氣ニ候間幸ニ御休意被成下度奉願上候、昨夜の宴会も先ツハ都合宜敷有之候間、是れ亦御休意被成下度候、就てハ昨夜金森氏演説ノ大意及び同志社設立の始末専門學校設立の趣意の概略等今度来月六日発兌の国民之友ノ附録として出したらは、随分大なる広告とも可相成と存候得ハ湯淺兄、小生等ハ今回ハ同志社ノ為メニ先生ノ熱心ヲ賛成スル最初の手初めとして、其の費用ノ半額以上ハ差出し度候が、若し同志社ニ於て他の半額丈け御出し相成てハ如何と存上申上候、尤も同志社よりして五十円丈御出し被成下候ハ、他ノ五十円若しくハ七八十円位ハ民友社より弁し可申筈ニ御座候、元来国民之友ノ読者ハ大低日本ノ中等社会ニして、現今ニ於てハ勿論、将来ニ於て尤も有力なる人民を相手ト致居候次第ナレハ、此ノ人民ノ真心カラノ賛成ヲ得るハ先生ノ心事ヲ貫徹シ、同志社不朽ノ基礎ヲ築クに於て尤モ必要歟と存上申候、何卒御尊慮ノ所至急御示教奉仰候、勿論小生モ此の附録と共に社説欄内ニ於て今回ハ堂々と論述可仕覚悟ニ御座候

猶又先生御洋行前、少なくとも一ヶ月以上ハ是非東京ニ御滞在ノ上、御周旋被成ては如何と奉存上候、日本人ハ貧乏なれとも精神と直情とを以て先生ノ本領ヲ賛成スルノ日に於てハ決して其ノ効用ナキニアラスと存上申候、若シ日本ノ清潔ニして健全なる人民ノ同意同感ヲ荷ふて御渡航被成候ハ、必らず幾分の裨補ある可き歟と存上申候、何卒此の点ニハ予しめ尊慮ヲ勞し被成下度、先ハ右迄、草々頓首

三月廿二日

徳富生

新島襄先生

玉案

既ニ伊勢兄より申上候筈ナレトモ念ノ為メニ前陳ノ次第達御聴候、陸奥氏ニハ御面会ノ都合出来タルヤ

229

三月二十四日

不破唯次郎

①前橋神明町 ②京都寺町通丸太町上ル処 ④墨

春暖之候無恙御消光被遊奉大賀候、次ニ小弟儀無事罷在候間乍憚御安堵被下度候、扨大神範造兄病氣之処本廿四日東京大学医学病院ニ於テ死去被致候間此段奉御通知候也、先ハ右御報知迄、勿々頓首

三月廿四日

不破唯次郎

再拝

新島襄先生

侍史

230

三月二十四日

徳富猪一郎

⑤森中章光亨（孔版）

肅啓、先夜ノ Reception ノ結果ハ左の通りニ御座候、勿論今回迄ハ其の影響ハ甚た少なれとも他日ノ踏台とハ必らず可相成と存居申候、兎角今日ノ盛挙ヲ地方的ノモノト誤認致候人多く残念ニ御座候、何卒プロウキンシアルニあらすしてナシヨナルニ致度儀と存上候、而して是れ畢竟先生御精神も右ニ相違なき儀と存し申居候、明治専門学校ノ名

ヨリモ一層明快ニ同志社大学と致候方可然と存居申候、同志社ノ名天下ニ高く、之ヲ以テ大学ニ冠スル、万人ノ満足スル所と存候、委細ハ金森氏より言上可申上候、先ハ右迄、草々頓首

三月二十四日

徳富生

襄先生

玉案下

231 四月二日 伊東熊夫

①伏見 山城製茶会社 ②京都寺町通り丸太町上ル 拝酬 ④墨

拝復、去月三十一日出ノ貴幹^{〔翰〕}捧読、其前、客月之初メ御投書ニ預リ候処丁度東京滞在中ニテ全地へ回送モ成リ拝覽候

ニ、喜多川^{〔孝経〕}ト連名ニ御坐候間兎ニ角他出中之事故都テ幹旋ト共ニ嘱托ノ書面ヲ添、喜多川へ郵送仕り、いまた全氏ト

面晤致サル内、今回ノ貴簡ニ接シタル次第ニ御坐候、然ルニ昨日同氏へ面会仕候処、既ニ夫是順備^{〔準〕}相付ケ候間、本

月中旬迄ニは是非会同可致手順ニ相運候様承り候、何れ近々集会期日取極メ前広ニ可申上候間其際は御出張被下度、

先生ニも不遠御東上之由ナレバ、成ル丈ケ至急開会致シ、御発途前必ズ御臨会願候は必要之儀ト奉存候、右之集会は

今日迄ニ既ニ可相催答ニテ甚々等閑打涉り候段誠ニ汗顔之至リニ不堪、何共無申訳次第ニ御坐候得共、御承智^{〔知〕}之通り

身は常ニ他郷ニアリテ彼は繁忙ニ罷過キ候内、経済上其他郡内ノ形勢モ決テ従前ノ儘持續致シ居「ラ」ズ候ニ付、百事

意ノ如ク運び不申、都テ不充分ノ事ノミニ有之、何れ拝鳳ヲ得詳陳可仕候得共、不取敢愚簡ヲ呈ジテ御断リ旁事情大略開陳仕候、先は右拝酬迄、草々頓首

四月二日

伊東熊夫

新嶋先生

232

四月二日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

頃日ハ御示教被成下奉万謝候、御病氣御加減余リ宜敷からざる趣き、何卒非常ニ御加養被成候様祈上申候、陸奥君への御示し承知仕候、小生か出来る丈の力ハ尽し度と存申上候、同氏ハ聡慧明敏ナレハ話ヲスルニハ甚た都合宜敷敷と存候、唯今面会の旨申込ミたれハ不日面会の上其の結果ハ御報道可申上候、東京到る処同志社大学の評判アリ、今度若しも国民之友出てハ其の評判全国ニ蔓延可仕と存候、兎角少し御病氣ノ加減宜シケレハ一刻寸時モ速ニ御上京の上万縷御周旋被成ては如何と奉存上候、草々頓首

四月二日

徳富生

新島先生

玉案下

⑤ 森中章光写（孔版）

肅啓、概略ハ昨日電信ヲ以テ申上置候通り同志社運動の都合甚た宜敷相成申候、陸奥氏も非常の憤発ニテ伊藤、井上
 杯ニも彼是遊説致候由ニ御座候、御承知の通り伊藤ハ人物と云ひ位地（置）と云ひ如何にも謹慎過ぎる方の場合ニあるもの
 なれば、表向きニハ立ち不申候得共影武者ニテハ可ナリ尽力可致敷、尤モ井上ハ大胆不敵の硬漢ナレハヨモヤ此の挙
 ヲ賛成するニハ遲疑可不致と存申候、尤も陸奥氏より聴取致候処ニヨレハ井上ハ甚た此の一挙ニ熱心尽力すとの事ニ
 御座候、御承知の如く陸奥氏ハ聡慧なれハ基督教殊ニ同志社派ガ不日日本の表面ニ於て一大勢力となるを今日より既
 ニ識認致したる様ニ相覚ヘ申候、就てハ同氏滞在中ニ是非御上京祈上申候、同氏曰く、五万円ハ覚束なれとも其の
 半額丈けハ或ハ出来く可しと、兎角先生一刻も速ニ御上京の上万事御周旋相成候事非常ナル得策と存申上候、併し申
 上候迄も無之事ナカラ、井上等ノ此の挙ニ賛成することハ世間ニハ余り御吹聴無之方可然敷、現今の政事世界ニ於て
 ハ井上ハ第一敵の多く、第一不人望の人ニテ、朝野共ニ其ノ勢力ニハ辟易するものゝ、朝野共ニ此の人ヲ嫌惡致居候
 モ、此の人モ矢張り影武者として尽力せしむること非常なる得策歟と存申候、而して是れ双方の得策と存申候、今日
 ニ於て如何ニ同志社ガ井上等の加勢ヲ得タレハとて日本国多数の人ヲ敵とせハ甚た不都合なる可し、就てハ何卒世間
 一般の人氣ヲ悪クセサル為め此等の事ハ極く内輪ニなし置候方可然、尊慮定めて如何と存候得共、同志社ヲ思ふ婆心
 よりして不顧失敬右申陳候、何事モサテ置、少し御甘快の模様ナレハ何卒一刻も速ニ御上京偏ニ奉祈上候、先ハ右

迄、草々

四月四日

徳富生

襄先生

玉案下

二伸、此の書ハ御一覽の上御火中を乞ふ

234

四月五日

石黒 務

①越前国福井毛矢町二十九番地 ②西京寺町通^(丸)田町上ル 親展 ④壘

拝啓、此程ハ御答書ヲ賜リ洗手拝見仕候、爾後益御壮健奉敬賀候、一旦岡部広より教師之義相願先是御心配被成下候
処、千万難有奉拝謝候、猶此後共万々相願候事可有之宜ク奉願候、又手兼而御配意ニテ御設立被成置同志社女学校之
規則書老部御恵与被成下間鋪哉、此段願候、御承知被下候ハ、御郵送願候、小生ノ愚女当年十四才ニ相成、当時高等
小学校ニ入校仕居、本年中ニテ全科卒業可致期ニ相成居、此もの何レ貴同志社へ願度心算ニ御坐候、何レ其ハ愚妻上
京万々可奉願、左候て宜ク願上候、右御祈願ノミ時下御自愛奉專祈候、勿々頓首

四月五日

石黒 務

新嶋先生
玉几下

235

四月七日

新島公義

①和州奈良水門 ②西京寺町通丸太丁上ル ④墨

五日発之朶雲正ニ拝誦仕候、近来ハ東西南北より休暇漫遊之途次寓門ヲ叩カル、モノ少クモ十五六人アリテ甚ダ難有迷惑いたし居候、(Abby M. Colby)コルバー氏一週間伝道之為ニ来南、曰ク女教師之事ニ付大坂オルチン氏へ尊下ヨリ謀ラレタル事

ヲ、此事焉ゾ図ラン、月ヶ瀬梅花ノ下ニ前田正名、高木文平両氏ニ面会ノ際、文平告テ曰ク、(幕・奈良県)税所知事ノ話ト尊下へ相謀ラレタル次第ヲ以テセリ、而シテ文平奈良ニ来リ知事ニ(朱点・以下同)女教師ハアリト返答シ、前田氏ハ小生ヲシテ知事ニ面会

セシムル添書ヲ与へ呉レ候事ヲ約シテ別レケリ、扱昨日又タ、オルチン氏より京都在留シエンド婦人ヲシテ当地ニ来

ラシムル様相謀ラレタリト、此事成就セバ、欣喜雀躍手ノ措キ足ノ踏ム所ヲ知ラザルナリ、知事ノ準備ハ如何ニアルカ

知ル由モナケレ共、税所老爵ニ面晤ヲ得バ、好都合ト覺ユ、(ママ)センド婦人が奈良ニ来ラル、事ハ如何ニ思召サル、乎、奈

良ノ伝道モ先ツ都合ヨク御坐候

○専門学校ノ集會ハ、近日ニハナキカ、小生モ臨席致し度、一事ノ話シヲ有セリ○尊下ガ今ノ御身ニシテ歐洲ニ往カル、ハ蓋シ生死ニモ関スベキ乎、(朱丸)嗚呼命ヲ失ハネバ、専門大学ハ出来ヌモノカ、又タ命ヲ失ハハ果シテ廿三年ニ出来

ベキ乎、サ程ニ急速ニスベキモノカ、是レ一大問題ニシテ断腸又断腸シテ小生ノ痛心スル所ニ御坐候、唯小生ハ一年モ一日モ長ク尊下ノ生命ヲ明治社会ニ存セラレン事ヲ九死シテモ希フ所ニ御坐候、此一点ニ付テハ同志社ノ教員モ尊下ニ同意スルト云フハ頼同ニハ非ルカ、ベレー氏ハ尊下ノ洋行ハ生命ニ関スト明言ス、今ハ大洋ニ命ヲ投ズルノ秋ニ非ズ尊下平生寛鴻ナル胸宇ハ暫時忍ンデ大成スル不能乎、何分保養休養御專ニ偏ニ切ニ奉願上候、小生モ十日後ニ鳥渡帰京いたし度候、御出京以前ニ罷出度候、右乱筆いたし候、謹言頓首

四月七日

公義

生

愛敬、伯父君

貴下

皆々様へ宣布

236

四月九日

新井 毫

①群馬県山田郡大間々町

②^{〔西〕}京寺町通

^{〔丸〕}太町上ル

平安

④墨

嵐峽ノ桜ハ矣テ市人ノ狂遊ヲ促シ、東山ノ月ハ澄テ雅客ノ清吟ヲ媒ス、正是春色可賞ノ好時節ニ押移リ候処、益御清康ノ事ト過日ノ朶雲ニ倣テ知悉致スヲ得、為邦家万福ノ義ト奉賀候、却説、専門校創立ノ件ニ係リ、今回ハ尊意ヲ定

メ勇断決行被遊候趣、至極時機ニ応ズルノ処置ニテ前途期限モ切迫致候事故、最早如此活動ヲ被試候事、其緩急順序ヲ得タル者ト奉存候、小生モ可成の尽瘁シテ該校設立ノ期迄ニハ同志者ヲ募リ必ズ応分ノ義務ヲ全ス可シ、近來小生ハ俗境ニ入テ智徳並立ノ教育ノ我内地ニ必用ナル事ヲ一層切ニ感触仕候、嗚呼我國現今ノ状況ヲ見ルニ凡百ノ事都テ誤魔加司ノ時代ナリ、此時期ヲ一變シテ智徳煥發ノ清世タラシメント欲セバ完備ナル教育ヲ民間ニ布治スルニ在リ、夫レ今日我國ノ事物ハ一切改良セザル可ラズ、而シテ其目的ヲ達セント欲セバ如何ナル手段ニ出デンカ、他ナラズ其社会ヲ改良シ、生活ノ境遇ヲ改良シ、有形ニ無形ニ一切ノ事物ヲ改良セントスル人種ノ性情習行ヲ改良スル事はレナリ、但シ如此大任ヲ天下何物ニカ責メン歟、只夫レ専門校ニ望ム可キノミ、嗚呼専門校ニ頼ル可キノミ、豈ニ他アラシヤ、専門校ガ天下ニ對シテ負フ所ノ責任モ亦タ大ナリト云フ可シ、話頭一転、文庫ノ件ニ付日夜焦慮致シ居リ候、

〔紀念文庫〕

今回和田氏錦地ニ下向致候故、此際大本ヲ相定メ候事ニ存候、該件ハ伊東氏モ承知致時々御相談被下度候、又大坂ハ

松本、岡崎ノ両氏ニ向ヒ其請求ヲ煩度奉願候、当地ハ近々取纏メ回送可致候、小生モ来月中旬迄ニハ是非共錦地方ニ

趣度存候、近頃古沢氏貴館ヲ訪問致候乎、小生ハ只事業海ニ在テ社会ノ風潮以外ニ立テドモ、動モスルト俗氣分ノ身

辺ニ纏綿セントスルニハ困入申候、近頃大和ニ御面会ナリシカ、去年御申越被下候原六ノ一件ハ同氏ヨリ御聞取被下

候事ニ奉存候、西毛ノ風評ニハ、先生ハ大学設立ノ件ニ付、近々米國ニ渡航セラルト、果シテ信カ、可成ハ御出発

〔五〕

以前一回得拜晤度、否即刻御回旨奉候候、南越ノ美人誤テ余カ為メニ好意ヲ尽セリトノ俗談ハ去春岡部氏ガ来京ノ折

吹聴致候雜談ニシテ、真偽未分ノモノタリ、且ツ其美人ハ小生ニ多少ノ干係アル者ナラズ、永田一二氏ノ愛妓ナリ、

余曾テ福井ニ遊ビ席上演説ヲ試シ事アリ、坐中杯酌ヲ司レル二三ノ妓輩之レガ為メ遽然感發セシトハ當時該地方ノ

一奇談ナリシ、夫ノ差入物ヲ為タル美人モ其一人タル事ハ岡部氏ヨリ伝聞セリ、是レ該評ニ係ル因由ナリ、禿頭ノ寒

生、豈ニ美人ノ贈物ニ遇フノ資格アラシヤ、美人ノ贈物好キカ、サラダ好キカ、サラダ可愛、美人ノ贈物モ亦可愛、乍
去余ハ望テ不可得ノ贈物ヨリ亭口望テ可得ノサラダヲ愛スルモノナリ「〔寧〕社会ノ奇変余ヲシテ」赤城山下ニ退去スル
モ、豈ニ復タ東洋的空想者流ノ仲間ニ入ランヤ、先生請フ之ヲ諒セヨ、呵々大笑、多弁乱叙幸ヒニ御寛恕可給候、早
々頓首

四月九日

新井 毫

新嶋仁兄大人

研北

再伸、御令閨様ニ可然御伝声奉願候、殊ニ退去以後頭髮再茂、最早昔日ノ若年寄ナラズ、純然タル紅顔黒毛ノ
青年ト化シ去レル事ハ御再会ノ折舌頭ナラズ事実上証明可致ト誇張致シ居ル様御披露奉願候、又先般伊東氏ニ
托シテ新井捨次郎ト申ス者ヲ下向為致候間宜敷御示諭奉願候、深沢氏ハ是非喚回申度考案中ニ御坐候

四月十日 望月興三郎

①大坂北区堂島大橋南詰玉江町二丁目^(目)三番地 小野方
 丸太町上^(ル)□松蔭町 要急 ④墨

恭啓、陳ハ漸の事を以て十二時四十五分の汽車に間に合ひ二時過に着坂仕候、直ちに国文社へ参り掛合申候処、明後日十一時六分の汽^(車)氣にて差送るより外に致方無之、且つ甚た多忙にて持参致事難相成旨申候に付、野生持参上京致さんと存候処、金円引替ならでは品物不相渡社則の由に付、代価を宮川氏より借受、十一時六分の汽車に乗り上京致せハ十二時三十五分に着京可致候、夫より直様知恩院へ罷越セバ御間に可合存候(十一時六分の汽車にて物品のみ差立つれば十二時三十分^(合)に八条停車場へ達し可申候得共夫より御宅迄届る間に多分の時間を可要、又夫より知恩院へ御廻送相成に於てハ御間に逢ふ事六ヶ數かるべく存候)、余り至急に調製致す様の注文候ニ付代価を下けしめ兼候、一部にて九円即ち一部九厘と申出候、宮川氏より立替相願候金円早速返済致す様御話し有之に於てハ(未だ宮川氏へ不参候、明日中に参る心得に御座候)頂戴して帰坂致度候間其御用意為置被下度候、然し若し小生持参上京致すに不及に於てハ国文社より直接に送致する様に可仕候間御返答被下度候、(小生上京の事宜^(何の御返事にも不及候)敷候ハ、)○各新聞社の重なる人々に面会致し貴意を伝へ申候処、皆々心よく承諾被致候、唯た東雲新聞社にて猶相談の上御返答可致候、事に依れハ御無沙汰致ヤも難計旨申述候、○本日御宅迄拝借致居候バックルの文明史并に天啓教の非難に答ふる二書、御机の上に置参^(リ)御礼申上る事を失念致候段御免被下度候

四月十日

新島先醒

閣下

望月興三郎

拝

238

四月三十日

原 六郎

①横浜正金銀行

②東京麻布仲ノ町廿番地

親展

④墨

拝啓、日々鬱陶敷天氣ニ御坐候、陳者過日ハ拝鳳之折御不加減ニ付如何ト御案し申上候ゆえ、右御伺之為メ参趨可致
ト日々存候得共、何分多忙ニ而不能其事不本意ニ奉存候、全く一時之事ニして其後御障も無之トハ存候得共、余り御
無沙汰致候故、乍略儀書中御見舞申上候、何れ其中拝趨可仕ト奉存候、御自重專一ニ奉祈候、勿々頓首

四月三十日

原 六郎

新島襄様

五月二日 原 六郎

①横浜正金銀行 ②東京麻布仲ノ町廿番地 栗津殿方 親展 ④墨

過ル卅日付并昨一日付之貴報何レモ拝見仕候処日来追々御快方之趣欣喜之至ニ不堪候、先般以来老台之御病症ニ付而ハ甚タ懸念致候折柄、去ル廿七八日頃御見舞旁寸楮拝呈候得共御回答無之、尚更如何アラント心配仕候ニ付、過ル卅日午後一時頃、富子を見舞トシテ差出候得共御寓所不分明之由ニテ空ク帰り申候処、迂生も幸出京之折柄差向之用向を了り、同日五時富子同道陸奥君方ニ参り老兄之御起居ハ相伺候得共、御面語ハ御病氣之為メ不宜趣伝承候ニより、其次第を述へ兩人とも六時ノ汽車ニ而帰宅致し候、尚今少シ御快方之上ハ参上之積ニ候、折角御自愛專一ニ祈候、妻よりも同様申出候、先ハ右取急貴答旁併セテ前陳行違之次第申上度候、匆々

五月二日

原

新島君

240

五月二日

渋沢栄一

②麻布仲之町二十番地 粟津方 拝復 ⑤写真

懇篤之御細示拝読仕候、其後御伺もいたし度と存候得共何分多忙御疎情申上候、御病氣も逐日御快方之由拝賀仕候、過日之御模様にてハ頗ル御案事申上候義ニ候、尚御撰養專一ニ奉祈候、専門学校御設立之件ニ付而ハ曾而陸奥氏より種々承知せし事も有之、先頃来井上伯よりも更ニ御思惟する処縷々被申聞候次第ニ付、乍不及相応之御助力申上候覚悟ニ御坐候、其上小生も曾而心学上之事ニハ聊苦慮いたし少々愚説も有之候ニ付、其中拝光夫にて申上度と存候、兎ニ角過日之拝話ニ基き小生自身ハ勿論親友中ニも申談し義捐釀金之事共即今心配中ニ御坐候間、右等も尚井上伯へ申上候様可仕候、何れ御全愈之上ハ一日緩々拝眉相願度と存候得共不取敢奉復如此御坐候、不宣

五月二日

渋沢栄一

新島襄様

五月六日

三好退藏

①上二番町 ②麻布仲ノ町廿番地 粟津方寓 親披 ④墨

惠書拝読来示敬承、貴恙も追々御快方ノ趣敬賀此事ニ御座候、小生も此間より鳥飛渡御見舞申上度存シナカラ御無音罷在候、貴書中学校資金云々委細承知仕候、右ハ兼而金森氏出京以来承り居候義ニ付、御目的通相運ひ度企望罷在候間其内拝芝万縷相窺候事ニ可仕候、書外其節ニ譲り貴答ノミ、勿々頓首

五月六日

三好生

新島先生

時季不順病状変シ易シ、折角御自愛專要奉存候也

五月九日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

昨日〔伊勢時雄、小崎弘道、湯淺治郎〕三君同道陸奥氏ニ到り候処、同氏も欣然緩話ヲ致、彼是将来東京伝道上其他都合ヲ得ル事も可有之と存申上候

却説、同氏送別ノ一事も愈御申聞ノ通り十八日午後六時ヨリ山下町鹿鳴館と相極り候間左様御休神可被成候、右鹿鳴館ノ儀ハ陸奥氏ノ周旋ニて別紙ノ通り出来候間、無此上仕合と存申候、尤も別紙ノ間ニ準シ、左ノ如ク答書ヲ致置候、費用ハ二円より三円迄位、併シ右ハ万事陸奥氏ノ指図ニて増減勝手ニ依頼ス、御承知ノ如く鹿鳴館ハ少々高価ニ相成候故左ノ如く申し置候、勿論鹿鳴館ヲ撰ひシハ同氏ノ意ニ出候、又た新島先生ハテンポランス主義ノ人ナレハ、若シ陸奥君ニして酒杯ヲ把ル事ナクして相済ハ無此上大幸ト申置候、右ハ氣ノ毒ノ様ニて有之候しも尋常ノ宴会ニて無之、我党清浄派ノ事ナレハ遠慮なく申入置候、何卒此ノ儀ニ付てハ先生ヨリモ婉曲ニ一寸陸奥氏へ御断り置被成てハ如何、又た招待ノ人名ハ^{〔栄〕}渋沢、^{〔密〕}井上^{〔期〕}（若シ帰郷ナラハ）^{〔周蔵〕}野村、^{〔退蔵〕}青木、三好と昨日陸奥氏人撰致候、此ノ中強いて井上氏ヲ省ク訳ニモ行カスト存候マ、其ノ通りニ致置候、右招待状ハ先大隈氏へノ書状出来たらは御送リヲ乞フ^{〔密〕}御用体如何ニ候哉、何卒呉々も為天下、為我党御自愛を祈上候、頓首

五月九日

徳富生

新島先生

243

五月十四日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光（孔版）

大隈邸ハ霞関外務省官邸ニテ御座候

昨日ハ拜趨、御塩梅も大分宜敷様ニ見受け大慶ニ奉存候

却説、大隈氏より別紙ノ通り申来候、御容体ヲ察するニ如何ニヤ好機會とハ存し候得共、若し千金の尊体不測ノ御病症ヲ惹起スルニ到ラハ由々敷大事ニ付き実ハ心配罷在候、就ては先生ニ於て先生の身体か明日御来話ヲ許スと御断定相成候ハ、左様御返事小生迄被成下度、若し覚束なく御考思被成候ハ、御遠慮なく左様御申越し被成下度、小生より都合ヨク大隈氏ニモ御断り可致候、万事都合ノマ、御指図ヲ仰度、先ハ右迄、草々

五月十四日

徳富猪一郎

新島先生

若し大隈邸ニ御出て被成候ハ、御帰リハ御難儀と存候間、湯浅宅ニテモ御一泊相成てハ如何、是亦御示教ヲ

〔同封〕

御書拝見仕候處、新島君追々御快氣之由ニて来ル十七日頃御光来可被下ニ付而ハ、都合如何哉と之御念ニ御座候處、幸ひ明十五日ハ差支無之候間可相成ハ明午後四時頃御来駕可被成下様御伝言被下度奉願上候、此段拝答而已、不取敢如此ニ御座候、草々頓首

五月十四日

徳富猪一郎様

大隈重信

執事

244

五月十九日

陸奥宗光

⑤写真

⑥代筆

拝読、昨夜ハ御来訪相蒙リ難有奉鳴謝候、其節小生疲勞之体御見舞被成下御厚情之段是亦奉鳴謝候、今朝ニ至り大ニ元氣も回復候付此段御安神被成下候□□□ハ明日拝眉之上可申上候、来客中代筆を以拝晤仕候也、拝具

五月十九日

宗光

245

五月二十六日

三木正起

①西區新町南通四丁目十四番地

②西京寺町丸太町上ル三番戸

親披

④墨

薄暑之候過般モ愚書差上候筈ニ御座候得とも、其當時御所書見当り兼不取肯明治法律専門学校御在ト記し置候間、如何哉ト奉存候、左様候得者近頃御容体ハ如何被為渡候哉、乍蔭日夜御案し申上居候得共、俗務ニ取紛レ不得音問甚タ背其意候得共、何卒不惡御思召之程奉希上候、猶折角御療養專一ニ奉祈候、実ハ野夫一寸参館何カ御願申上度御座候得とも予而之御申聞ニハ医告ニヨリ接見謝絶スルトノ御事故態ト差扣居候得とも御模様ニテ格別ニ御面^(略)吾御許し被下候様之御報被下候得ハ、直様上洛可仕候間、御手数之段重々恐入候得とも、数行之御尊筆敬頂致度暮々モ奉待入候、先者御伺旁何レ尊願拝窺之節縷々ニ申上候、猶々御一同様へも乍憚厚ク御鶴声之程奉希上候

五月廿六日

正起

新島様

頓首

246

五月二十八日

高田義助

①滋賀県栗太郡草津

②京都寺町丸太町上ル

親展

④墨

恭啓、陳者愚弟恒之助儀、貴社英学校入学中ハ段々御眷顧ヲ蒙リ実ニ不堪感謝之至候、然る処同人客年来肺患症ニ罹リ永々休学加養仕居候処、医藥無其効一昨廿六日夜終ニ死亡仕候ニ付、不取敢此段御報道申上候、併而亡弟生前之御懇遇ヲ奉謝候、就而者同人病中ニ於而今般貴社明治専門学校御創設之趣伝聞罷在、自然病没之上ハ自分所持之書籍ヲ売却、該資金ノ内ヘ寄付致呉度、左候ハ、其書籍ハ不幸ニシテ我学業ヲ成スノ材料タラザルモ亦或ハ他ノ教育ヲ助クルノ一端トモ可相成云々、是同人疾危篤ニ瀕スル節ノ遺囑ニ有之候ニ付、乍些少不取敢別紙書面之通差上度候条何卒亡弟一片ノ微心ヲ諒シ御領受被下度奉願上候、將該金ハ何処ヘ差出可申哉、御指示奉仰候、先者右要略迄、如此ニ御座候、書外万緒尚期拝芝之時候、勿々頓首

五月廿八日

義助

拜

新島先生

台下

〔別紙〕

記

同志社英学校旧生徒 亡高田恒之助

一金拾円也

右ハ同人病中ノ遺囑ニヨリ御校御設立資金ノ内ヘ寄付致度候条御領納相成度候也

右高田恒之助実兄

滋賀県栗太郡草津村高田義助^印

明治廿一年五月廿八日

明治専門学校創立事務所 御中

247

五月二十八日

上原権太郎

①上州碓氷郡土塩村 ②京都寺町丸太町上ル 御親展 ④墨

其後は御無音に打過ぎ候得共先生目下御病氣如何差たる事も無之候哉、御自愛被成下度候、諸前々より御計画有之候明治専門学校設立之義に付き、過日知恩院に於て御演説相成北垣府知事も大に之れを賛成し其理由を述べられ候者当日集会之模様在同志社兄弟より送り呉候書翰及新聞紙にて委細承り、如此此挙之漸次好都合に相成候事実上帝之御祐助と感謝罷在候、小弟先生之御志望を承り大に感ずる処有之僅少にハ御坐候得共、金五拾円寄付仕候間費用之一端に御採用被成下度不取敢此段申上候、御送金之義ハ如何為すべき哉、何分之御通知被成下度候、早々頓首

明治廿一年五月八日

上州碓氷郡土塩村 上原権太郎

248

六月六日

湯浅吉郎

② Kyoto, Japan 日本 京都府上京区寺町通松陰町 ④ 墨、英文はペン書

拝啓、五月一日の家書によれば 先生益御壮健之由大慶ニ奉存候、且度々御心労相掛候預金も終ニ御まとめ被下候条御礼申上候、殊ニ迂生が在来の情実御察被下数多の金円御恵み被下候段、今更いなみ奉らんも却て恐多く落涙の外なく奉万謝候、何を以て此高恩ニ報い奉らん、只迂生が一心をさゝげ奉らんのみ、山村水郷何処ニても先生之御志ニ随ひ可申候、迂生が将来只先生の御導きニよらむ外別ニ希望も無之候

さて去ル六月一日オペリン大学の神学部を卒業いたしBDの学位を得申候、因より此神学士の学位を得ん為ニ迂生渡来ハ不仕、偏ニ聖書の文学を脩むとて当校ニ参りしが、始めハ新約書専門と定め、まづグリーキニて読めるまで学びしも、何分之をマストル致すにハグリーキの古文学を讀通し且羅馬の古史を脩る事迂生が生涯にハ不能べく、其上新約書ハ一般ニ牧師も信徒も学びおれバ学生としてハ旧約書専門の方可然と思ひ候、之も十分ニ学ぶにハエヂフト、バビロン、ユダヤの文学地理歴史ニハ通ぜねバ不相成候へ共、之ハ後の事に致し、先づ学びおかねバならぬ物ハヘブリウ語なりト存じ候、神学も組織神学のみにてハ仏法の哲理ニひとしく、実用神学のみにてハ儒道の政治ニ同しく相見

へ、歴史的宗教なる基督教、即ち奇跡の事実ニ基く天啓を我日本人々ニ長く伝ふに、その伝ふる人々より先その原文ニ入りこみ聖き神言を直ニ味ひおかん事最要ニ候、まして此へブリウ語を学ぶに於て西洋人よりハ東洋人なる日本人ニハ易く学び得るニ置てハ愈此語ニ通じおきたく思ひ起し候義ニ御坐候、当校の旧約博士バランタイン師ハパレステナ地方ニモ二年間滞在し、アラビヤ語にも能く通じ、昨今流行の独逸学士等のモウセの五書ニ向てとのふる反論ニハ至て委しき人ニ候、此博士より全く二年間へブリウ語をまなび少々ハ旧約書も原文にて読るやふニ相成候、またアラメツク語、アラビヤ語も少々ハ学び申候、且又迂生ハ兩回へブリウの夏学校ニまいり候て、かの有名なるプリンストンのドクトルグリーン師、またエールのハアポール師にも遇ひ親しくその教授をうけ申候、七月五日より Chautaugua ニ参り夏学校ニ行き、アシリア語を始め可申候、また三週間オベリンに帰り、九月まで休（夏）いたし、それより Yale ニ参り Graduate instruction ニ入り Cognate Semitic courses を通じ Assyrian, Arabic, Aramaic, Syriac, Ethiopia and Advanced Hebrew を専修致度つもりに候、此専門ハ六ヶ敷すぎるかとも存じ候へ共、神の御扶を思ひ、母兄の祈ニより固より智なく力なき事ハ自らも承知致居候へ共、只勉強心のつゝくたけやり通し可申候、さすれば何れ明年の春ハ帰国し鴨河柳畔嵐山花陰其時ニこそ先生の散歩ニ随ひ多年の高恩を謝するの期なれト今より樂み罷在候、何卒御家内様へも御老母様へも公義君へも一々よろしく願上候、また Yale ニ参る事等宜しくラウネデ師、デヒス師ニ御伝へ被下度候、両師へハ是非御手紙を差上度存し候へ共、多忙にておこたり居候、先ハ御恵み被下候金円の御礼かた／＼迂生が近況申上候、同志社将来の爲御自愛專一ニ奉願候、偏ニ先生の祈を請ふ、ふるさとの母のいのりハ草枕たびねする子の生命也けり、トいたし腰折を安中ニおくりし事も御坐候、切ニ先生の祈を願ふ、

以上

六月六日

新島襄先生

湯浅吉郎

249 六月十四日 原 六郎

①横浜正金銀行 ②東京麻布仲ノ町二拾番地 栗津殿方 親展 ④墨

拝読、陳者過日ハ御来訪被下候処碌々御構も不仕欠礼仕候、追々御病氣御快方ニ而一昨々日一先御帰京之趣賀上候、サテ紙包物(巾七八寸長二尺五六寸 縮緬洋服地)米国へ御送付之方法御尋相成拝承、右ハ郵便小包物ニは少しく大ニ過ぎ候ニ付、通常小荷物として送るの外なく、然る時ハ本港之税金ハ僅ニ代価二十分ノ一位なれとも米国之税金ハ十分ノ六ニして随分之苛税ニ有之、譬へハ代価四十円ニ而双方之税金ニ廿六円を要し、費用格外ニ相嵩ミ候間渡米之好便ニ託し御届被成候方可然哉ニ存候、尤も好便も無御座、矢張正当送荷之手続を経て御送り相成候ハ、本港ニ開通社なる者ありて諸荷物運送、本港税金納メ方等総而取扱可申ニ付右へ御託し、桑港当行出張所迄送り候時ハ、同出張所ニ於て該地税金納メ方并ニ先方へ御送付方等為致候而宜敷御座候間、何れニ而も御便宜取計可申候乍憚令夫人へよろしく御鶴声被下度奉^(ママ)候、時下御自重専一ニ奉存候、草々頓首

六月十四日

原 六郎

新島襄様
乍忽

250

六月二十一日

青木周蔵

⑤写真

前略

米人ポルトル此外名帝國旅行之際可提携「パスポルト」は必ず合衆國公使之手を經而本省より可申受成規ニ有之候間、本人来着前某米人より同公使之手を仮、免狀為申受置候方好都合ニ可有之奉存居候、右乍遲延回答申出度、草々敬具

六月廿一日

周蔵

新嶋様
梧右

251

六月二十一日

三好退蔵

墨 ①上州磯部浴泉場 林屋ニ於而 ②東京麻布仲ノ町 粟津方 至急親展 ④

惠書東京ニ於而拝読、謙テ来示ヲ了シ候ニ付、早速貴答ヲ呈スヘキ筈ノ処、當時宿痾^{頭部ノ偏痛ナリ}ニ悩ミ、転地療養ノ許可ヲ得、将サニ出發セントスルノ際ナリシヲ以テ無余義失敬致シ、当地着後も疾ク返詞ヲ呈スルヲ得サリシ段、幸ニ御容恕可被下候

偕、御申越ノ一条、兼而相心掛居候得共未充分可信ノ人ヲ得ス、右ハ曾て御談示ノ如ク、一会御催シ相成、其席ニテ充分貴台ノ御熱心ヲ御吹込ミ有之候上、直チニ賛成ヲ促シ其感覺ヲ未冷ナラサルニ喚起候方可然哉ニ愚考致シ候、不知貴意以為如何、右集会等之都合ハ小生飽迄周旋仕度、兼々相考居候処、不図宿痾ノ為メニ侵サレ今姑ク帰京六ヶ敷甚不都合ニ有之候、此義ハ実ニ遺憾無限次第ニ候得共、何共致シ方無之候間、^{〔補〕}「小生代理ヲ」岩崎小次郎江委細書面ヲ以て申遣シ候ニ付、御支無之候ハ、同人江御相談被下度奉願候、書外後鳴ヲ期シ此分貴答要詞ノミ申上度々々如此御坐候、頓首

六月廿一日

磯部ニ於而

三好生

新島先生
侍史

貴恙近頃如何被為入候哉、折角御愛護專要奉存候、令聞モ御出京ノ由、未拝芝ヲ得ス候得共、乍憚宜布御致声被下度願上候也

252

六月二十七日

渋沢栄一

②麻布仲ノ町廿番地 粟津方 拝復親拆
書簡二』所収
⑤『渋沢栄一伝記資料 別巻第四

拝読、過日ハ弊行迄御過訪被下候由之処出勤前ニて不得拝眉失敬仕候、小生も井上伯へ両三回訪問いたし候得共、生憎留守中のミニて今以拝晤を得ず、依而今日一書さし出御面話之都合打合置候間、右回答次第可相成ハ貴台又ハ青木君杯と井上伯之御宅ニて御一会相願度と存候、尤も小生ハ明日も明後日も、午後一、二時頃なれハ必ス弊行ニ在勤之筈ニ而、御通行之御序も御座候ハ、御過訪被下度候、右回答如此御座候、不宣

六月念七

渋沢栄一

新島先生

253

六月二十八日

渋沢栄一

②麻布仲ノ町式拾番地 栗津殿方 至急 ⑤『渋沢栄一伝記資料 別巻第四
書簡二』所収

拝啓、然者昨日奉呈之一書ニ、小生今日明日共午後ハ在行と申上候得共、明日ハ午後一時頃より他出之都合ニ相成候
間自然来駕を得候も拝眉仕兼候、尤も明後三十日ハ午後三、四時頃ハ在行之積ニ候、もしも御訪問被下候時又失敬と
相成候而者と存し、為念一筆申上候、勿々不一

六月念八

渋沢栄一

新島先生

玉案下

254

六月三十日

同志社別科神学第四年生

①京都同志社 ②東京麻布仲之町廿四番地 栗津方 ④墨

謹啓、御先生御病軀をも御厭ひなく神寵の下に御勤勞被成候由、小生等不肖遅鈍も猶感銘日に主の御前に跪きて先生

の安全と御成功とを祈らざるを得ざる事ニ御座候、小生等此度主の恩寵により遂に別科神学全課卒業の恩榮を荷ふに至り歎喜の中に亦既往将来の事を回想思慮して深く感慨に堪へざる事ニ御座候、顧れハ小生等先生の御洋行中本校ニ入るを得、四年間之長日月内外諸教師之懇篤なる教育を受け、且先生御帰朝の後小生等屢不平を訴へ尊慮を勞せしにも係らず、常に海岳の寛容を以て御祐導被成候段小生等感銘して不忘処ニ御座候、今卒業の時に方りて、先生の光容に接するを得ざるハ誠に遺憾之至リニ候得共、先生か我國の為、基督の爲になし給ふの大業將に成らんとするを承り且御病状を聞きてハ弟等の哀みも去りて感謝と祈禱を先生の為めに捧ぐるの外無之候、昨日卒業式の席上に於て五年生より懇篤なる御伝言の書状を拝聞し^{〔兩〕}感慨之至リニ御座候、小生等今より社会に出て主の為めに畢生の力を尽し優渥なる神恩に答へ、併せて先生の御誘導諸教師の教育の高恩に報ひん事を希望致居候、小生等の前途遼遠艱難途に当る事ニ御座候得ば猶将来も先生の御禱と御教導とを仰度候、今や秀麗なる京都の山水に別れ親炙せる我同志社を辞せんとするに方り胸間万緒の感情の一端を述へ、併せて希望する所を陳し、先生の座下ニ呈候、何卒小生等の心緒御推量被下度候、願くハ先生、主之為め、国の為め、益御保蓄ありて永く御勤勞なし下されん事を、頓首謹言

六月三十日

阿部 政雄^{〔恒〕} 塩見孝次郎

藤田 国松 留岡 幸助

片桐鱗太郎 富田^{〔元〕}之資

中山光五郎 高橋 優

阪田忠五郎 江浪亀四郎

255

六月

同志社予備校生徒

①京都同志社予備校 ②東京麻布仲之町 栗津方 ④墨

写真一葉謹テ先生ノ座右ニ捧呈シ、以テ尊容ノ違和ヲ慰メン事ヲ祈リ、略書一通謹テ先生ノ膝下ニ上啓シ、以テ報恩ノ微意ヲ尽サン事ヲ願フ、生等夙ニ尊容不一ノ由ヲ聞ク毎ニ未タ曾テ一日モ早ク尊恙ノ健全ナラン事ヲ同志社満校ノ生徒ノ為メ、同胞三千余万ノ為メ、在天ノ上帝ニ黙禱セズンバアラズ、巍々タル比馬拉亜ノ高キモ高シトスルニ足ラズ、洋々タル大平洋ノ深キモ深シトスルニ足ラザルハ夫レ生等カ先生ニ受ケタル恩沢ニアラズヤ、之ヲ念フ毎ニ未タ曾テ力ヲ竭シ身ヲ致シ拮据黽勉スルモ尚且ツ洪恩ノ一滴ダニ酬ヒザラン事ヲ之レ恐ル、今ヤ三期ノ業ヲ了ハルニ際シ、生等カ夙ニ祈ル所ノ者ト願フ所ノ者トヲ達センガ為メニ、予備校理事員教員諸先生ノ陪席ヲ辱フシ、一葉ノ写真ヲ採リ略書一通ヲ添ヘ薫沐再拝シテ先生ノ膝下ニ捧呈ス、嗚呼彼ノ瀟洒タル光風霽月ハ先生ノ高胸ニアラズヤ、彼ノ秀韻ナル高山流水ハ先生ノ幽襟ニアラズヤ、噫生等ガ親愛スル所ノ生等カ敬慕スル所ノ先生閣下ヨ、夫レ生等ガ愚衷ヲ容レ賜ハバ何等ノ幸福カ之レニ過ギン、何等ノ満足カ之レニ勝ラン、予備校生徒等恐惶再拝

明治二十一年六月

同志社予備校生徒惣代

社長新嶋襄先生

台下

篠田熊次郎 下 辰六

黒木 米吉 森 良雄

堤 門喜 福岡文太郎

256

七月三日

三好退蔵

①上州草津 山本別荘 ②東京麻布仲ノ町廿番地 栗津氏寓 親展 ④墨

去月廿九日ノ貴書当地ニ於而拝読、来示委細敬示、^{〔承力〕}兼而御企図ノ件モ御都合有之此節ハ小会ニ而御済マシノ御積ノよ

し、御健康上ノ事もアレハ堅固ニ御着手ノ方至極可然ト存候、就而ハ曾て御相談申上置候次第も有之候ニ付、該会御

催ノ節ハ帰京致し度万々企望候得共、小生モ宿痾兎角全快ヲ得ス候ニ付、此節ハ職務上別段ノ差支無之ヲ幸ひ其根治

ヲ得候迄転地療養致シ候事ニ決意、某医ノ言ニ従ひ此地江転浴此上数週間ノ湯治ヲ為シ候積ニ有之、既ニ其願ヲ為シ

候都合ニ御坐候間、何分本月中旬迄ニハ帰京難致候、外ナラサル御懇会ニ陪セサルハ遺憾千万ナレトモ此養療ヲ全ク

セサレハ復好時機ヲ得難キも難斗ニ付、公私百事ヲ放擲シテ他日ノ計ヲ為シ候決意ニ有之候間其分御承領可被下候

来示ノ如ク、小集ノ事ナレハ御都合も可有之候得共、過日申上候岩崎小次郎^{〔大勤人ニシテ目今法制局〕}ハ小生ノ旧友別懇ノ

者ニ有之候間、同人ハ可成御加へ被下度、其宿所ハ上ニ番丁ニ而、小崎氏モ承知ニ有之、且ツ小生ヨリ云々囑託致シ遣シ置くニ付無御腹藏御談合可被下候、尤同人ハ未受洗ノ場合ニ至ラス候得共道ヲ求ルノ意ハ充分有之候ニ付、万可然御指教被下度奉願候、書外後鳴ヲ期シ此分貴答要詞ノミ申上度、勿々頓首

七月三日

三好生

新島先生

侍史

二啓、時下折角御自愛專要奉存候、小生家族も此節当地江罷在候ニ付、令室江宜ク申上度旨申出候間乍憚宜ク御致声被下度奉願候也

257

七月十七日

松浦政泰

①伊与周布郡長野村

兼頭耕平殿方

②西京上京区松蔭町

御手披、侍史

④墨

拝啓、学院ノ規模益々拡張セサルノ已ヲ得サル時運ニ推シ移リ御多忙之程遙察仕候、殊ニ蒲柳ノ玉体ヲ以テ東西御奔走被成候事御心情嘸ト奉察候

扱此度生等ノ間ニ差起リタル一大兇變ハ本月十五日親友兼頭和策兄急症腦溢血ノ為忽然其郷里ニ就眠致候事ニ御坐候、同兄ハ中途ニシテ貴校ヲ退キ東京大学ニ転遊致候得共、其信仰ト勉強ノ精神トハ全ク同志社ノ賜ト自ラモ生平感佩仕リ居リ、殊ニ同兄專修ノ生物学研究モ大ニ基督教ニ関係アルヲ看破シテヨリ熱心勉強致居候処、図ラスモ此事變ニ逢ヒ誠ニ眷族一同小生等友輩ニ至ル迄悲嘆措ク能ハス候ヘ共、其中ニ云フヘカラサルノ喜ト慰ヲ覚エ候事ハ全ク同兄ガ信仰ト精神ヲ同志社ニ養フタルニ起因スル事ト信ジ詢ニ感謝ニ不堪候、今小生同兄ノ遺族ニ代テ其鴻恩ノ万一ヲ謝スルカ為茲ニ一筆ヲ呈シ候、筆紙ノ尽サル所ハ宜敷御高察被下度、先ハ右御報知旁御礼迄、勿々敬白

七月十七日

兼頭兄遺族ニ代テ 松浦政泰

百拝

新島先生

硯北

258

七月二十三日

陸奥宗光

②Via San Francisco, Tokio, Japan 東京赤坂区榎坂十五番地 民友社
徳富猪一郎殿経由 裏書「米國華盛頓」 ⑤写真 THE CHRISTIAN
INTELLIGENCER (July 11, 1888) 省略 ⑥新島筆「八月十九日来ル」

今便ハ甚タ多忙、唯御返事のミナリ

六月廿六日御発付之貴書到着、洗手拝読仕候、爾来老兄御病氣順次御快方之由大慶此事ニ御坐候、猶精々御愛護專一ニ奉存候、御書中之趣逐一承知、諸事御都合宜キ段欣賀之至ニ候、又タアメリカンボールトより貴社金云々之義何も指支無之ニ付、御申越之通り取計可申、尤も此件は可成は井上伯ヲ通シテ大隈伯、若クハ青木子へも御申通シ置被下候方更ニ都合よろしく存候○此比当地在留之馬場辰猪ナル者当国の耶穌教会ヲ煽動シ種々妄誕ナル義申触レシ候、尤も為損害ハ無之候へ共、何卒老兄より御知人之米国人ニ対シ同人等カ為メ煽動ヲ受ケサル様何とか御方便ハ有之間敷哉、別紙新聞切抜キ指上候、御一笑可被下候、^{〔補〕}「此事小生より申上候事ハ無論御秘シ可被下候」○小生着後先以万事好都合ニ御坐候、御安神被下度候

七月廿三日

宗光

新島君へ

259

七月二十五日

矢野文雄

④墨 ⑥封筒表書「梧右」

拝啓、一昨日ハ存し寄らす御盛饗ニ預リ緩々御話承リ愉快此事ニ御坐候、右御礼申陳候、旅行中御保養別して御大切と存候、尚ホ御帰京之上参上致すへき心得ニ御坐候、以上

七月廿五日

矢野文雄

新島襄様

梧右

260

八月六日

北垣国道

④墨

⑥封筒表書脇付「親展」

両度之芳墨拜読、如貴論井上大隈二伯之配神且委員諸君之尽力にて東京ニ於而は専門学校寄付金三万余円ニ達し御同慶之至ニ存し候、米国と云、東京と云如此好結果ヲ見ルに其根本地タル京都は未タ著シき功ヲ見ス遺憾之至ニ候、是レニは種々之原因モ有之候得共、小生之職分上ヨリハ之レヲ明露スル事ヲ好ミ不申候、乍去一昨朝モ下京区長ヲ召ヒ懇諭致し置キ候ニ付、其他委員ニ於テモ尚一層尽力致し候様可致候、委員は不断斡旋致し居候得共何分未タ振作之機会ニ達セサル義ニ有之候、併シ是レ等は早晚機会ニ達スル様尽力中ニ候間、何卒無御懸念寛々御保養為國家願上候、井上伯モ再ヒ内閣ニ入ラレ、世間ニは種々評説モ多々ナレトモ、方今日本之実況ハ新聞雜誌又政談家等之想像上より学理上より摸出スルカ如キ者ニ非ス、故ニ今日最急要ナル農商工之主簡ヲ井上伯ニ任しタルハ至極之幸と存し候、之レ等ニ付テは小生ニ於テモ将来井上伯ニ望ム処不少候得共筆紙ニハ尽し兼申候、右得貴意度、艸々敬酬

八月六日

国道

新島先生

愚息確義ニ付懇篤御示諭被下不堪万謝之至候、此少年は智ナク欲ナク平々凡々タル者ニ付、発達之鈍キ事甚敷ハ固より小生了知致し居候故ニ、幾回落第致し候共、同志社ニ而卒業致し候迄ハ御依頼申上度存し込候間、何分宜敷御敵撻被下度奉願上候、再白頓首

261 八月十九日 勝 安芳

⑤写真

当年之残暑強候へ共、不相替御勇猛ニ御教導可有之と佳々奉賀候、^{〔唯〕}扱予相願候本城安太郎氏、壮年ニ候へ共確乎之存意有之候者、貴君江御隨身修行いたし度志願之旨ニ而從小生紹介之義相話頼候、其志至極宜敷哉ニ考候間、可成は御聞取志貫徹様御教示御頼申上候、小拙当節難言場合ニ臨、甚閉口いたし居転末、^{〔願〕}当人身上は同人より御聞候様希候也

八月十九日

勝 安芳

新島大導師

机下

八月二十七日

増野悦興

④墨 ⑥封筒表書脇付「侍史」

近来ハ久々御伺モ不申上打過候段御宥免可被下候、残暑之砌ニ御坐候処御宿痾如何被為在候哉、降テ小生無異勤務罷在候、当五月伝道会社総会ノ節ハ上坂仕候ニ付先生ヘ拝顔之為上京仕度希望仕居候処、其砌御東上中ニテ御在館不被遊旨承リ候ニ付其儀ニ至ラズ帰任仕候、同志社校之儀モ愈盛大ニ赴キ且先年来御計画之専門学校御設立モ追々御好都合ニ立到候趣伝承雀躍之至ニ奉存候、何卒此上益々天父ノ擁護全校ノ上ニ在ラン事ヲ旦暮ニ祈求仕居候、先生ニハ申上候迄モ無之儀ニ候得共、国家ノ為メ大切ナル御身精々御加養之上校務御処理被遊度懇願仕候

〔高橋〕

当地方伝道ノ儀モ神恩ノ下ニ徐々進歩仕リ、終ニ去七月八日教会設立挙行ノ運ニ立到リ、其砌ハ松山高吉兄以下諸兄ノ来臨ヲ得、小生ガ按手礼式モ併セテ執行仕リ、万端首尾ヨク相済ミ地方伝道上一小段落ヲツケ申候、乍去設立后日尚浅キノ教会ヲ以テ茫々原野裔ナラザルノ地ニ孤立致候事ユヘ諸種ノ困難ハ続々起来リ、加之年少経験乏シキノ身、牧会ノ聖任ニ当リ候儀ナレバ諸事ニ不都合多ク只大能ノ御手ニ依テ日ヲ送ルノ外無之候、右ハ時下御伺迄一書如此ニ御坐候也

八月廿七日認

増野悦興

新島先生

再仲、乍憚御令閨様へ、モ宜敷御伝可被下候

263

八月二十八日

岩崎弥之助

④墨 ⑥封筒表書「托事」

御懇書被殺難有拝読、不相更御清適之御旨奉賀上候、小生も一昨夕参り込候処、途中より風邪にて昨日より熱発致し床臥罷在候、就てハ床臥中御来訪相願候も却て失礼之至ニ付、一、二日中全快之上ハ是より御伺可申上候、御了承可被下候、貴答迄、勿々拝具

二十八日

岩崎生

新島先生

侍史

264

九月七日

岩崎弥之助

⑤写真

昨今ハ少々御不勝被為入候由、至極御大切ニ御養生奉祈上候、小弟も弥明日帰京之心得ニ御坐候処、一寸御暇乞奉参上之筈ニ御坐候得共、御養生中却て御邪魔と奉存、過刻樗村氏ニ伝言相頼置候事ニ御坐候、不惡御了承可被下候、本城氏之書面態々御惠示被下難有奉謝候、文中之精神なれば必ス多少之実功相顯ハし可申と奉存候、来客中右ノミ、勿々拝答

九月七日

弥之助

新島先生

研北

二白、時下別て御自重奉祈候、御帰京之上ハ緩々御面会奉祈上候、本城之書面此ニ封入返上仕候、御落手奉願上候

九月十日

須田明忠

①北甘梁郡下仁田町

中野安資方

②西群馬郡伊香保

千明ニテ

④鉛筆

*一致神学校出版之事ハ或人ノ周旋により小生にハ定価の一二割引にて購求する都合あり

拝啓、過日は罷出て却て御邪魔を申上候、其後ハ愈御快き由にて欣賀にたへず候、前橋牧師伝道教会、星野氏解任式、説教会等ハ誠に盛會にて私どもを益し候○当地伝道の都合ハ過日私が留守中、東京より天台宗の僧なる水谷仁海大菩薩（大菩薩ハ内ノ僭称に御坐候、同人仏教と漢學にハ通し、該宗にてハ有名の僧なる由に候得共、非常の傲慢家にて仏教を改良すると云ひ、自を東洋のルーテルと称する快物に候、適き有為の僧があらと思へバス様の有様にて、仏教の運命も憐む可き事に御坐候）と申もの来りて、三昼夜の妄誕なる説教をなし、市中々等以下の多數人を教諭し、仏教々會といふものを設立せしより市中ハ何となくキリスト教を大に嫌惡するより、志あるもの之一時教を求る事を見合して外形ハ仏教に賛成する様な次第なり、右の都合ゆへ講義所またハ私の住の為に家を貸すものなく、不得已不充分ながらある信徒の樓上を集所且私の住所となし居り候、当時致し方なき故私ハ人々家々を訪ひて教を説く事を専となし居申候、然し主に感謝し将来に望ある所ハ、中より以上のものハ心にキリスト教を敬慕し、子女を東京横浜へ遊學せしむるに多分ハキリスト教の學校へ入れ、当時数名のものハ入學をなし信徒となり居り候○小生伝道のため何か有益の書を御恵与被下由有難奉存候、就て左に書名を申上候、組織神學ハ曾て國民の友も評して大部良き書物の由、パ、ロ、ン、ス注解ハ冗雜陳腐の所もあり候得ども他の注解に比して大に詳細なる所あり、教会史ハラールネデ師よ

り学しものより詳細なる所もあらんと存候に就き御購与被下度奉仰候○暑冷の交、随分御尊躰大切に被遊度奉仰望候、御令室様へも宜く奉希候、敬白

○組織神学 全 価一円 長崎出版 瀬川浅訳

○教会史 全 一円二十銭 一致神学校出版

○救拯学 全 八十銭 同

○天地創造論 全 四十銭 同

○人性論 全 四十銭 同

○新約聖書神学 全 一円 同

○パロンス四福音及使徒行伝注釈三冊(大本ノ方) 抜萃シタル小形ノ書ニアラズ候

御購与被給六冊代金の御定限ハ何程か不知候得とも、不取敢私の当時需要候ものを右に記し候

九月十日

新島襄先生

膝下

明忠
拝

266

九月十八日

金森通倫

① 西京新町今出川通下ル拾番地

② 東京赤坂榎坂町五番地

湯浅次郎殿宅

④ 墨

其後は絶へて御無音に打過ぎ候処、先生の御様子如何に候や、何卒主の為社会の為に御保養の専一と奉存候、扱て、先般来御心配下され候代理の儀も社員会に於て首尾よく相決し、御承知之通りに不肖短才なる小生に候得共先生の御為ニ及ふ限りの御助けを仕り度き心得に候間万事御遠慮なく御教示下され度候、小生の心情は先生の御承知の通り主の為社会の為に先生の御 life を一日も此世に長からしめん為に先生の御苦みを万分の一にても御分ち申したきのみにて、身の不肖を省ず悦んで此大任を承諾仕候、幸にして社員並に教員諸君との間柄もよき折角合に相成り候間是亦御安心下され度候、学校の方は森田氏が主監となりて万事を監督する事に相成り候て至極都合宜しく、小生はかげながら森田の為に十分力を尽して相助け申す〔覚、以下同〕覚悟に候、森田も今の処は如何にも悦んで其任に当る様に見受けられ申候、小生は単に社務を担当する事にて可成大学の事資本の事業に尽力する覚悟に御座候、附て是非とも至急に先生に御面会申上度事柄も沢山に有之、且ツ此後社会に推出して大学の為、我社の資本の為に尽力致すには東京の大あたま先生方にも可成く親く相成り、彼等の手引によりて大坂神戸其他の地方にも着手致し度く存候、迎ても私の如き無名の者が働くには先生の名を頭に戴き、又大頭先生方の手引によらざれば十分なる事出来がたと存候、其故此度は是非先生ノ東京に御帰りの節、小生も上京致して万事御打合せも致し又御手引を蒙りて彼の人々にも親み申し度く候間、何卒

先生の東京に御帰りの御都合により小生も上京致す様に御取計らひ下され度候、当地之方は何時にも出京出来候間、先生の東京へ御帰り時日を御通知下され候ハ、早速出発仕るべく候、此度は宣教師の方々にも大学の為、資本の為に全力を尽して働〔く〕事の必要を能々さとられたる様にて、小生の望の通りに第一期、第二期間は小生が全く学校の授業をやめて社務拡張の為に尽力する事を教授議會に於て承諾致し申候、夫故入学試験もすみ、経費予算之調も相済み候ハ、直ちに出兵致すも差支無之候、又私の出兵を急ぎ申上候は丁度東京に出てゝ歸りたる上ならでは何事も着手相成りがたき儀も有之候、東京より歸り候ハ、大学の資本又高等中学の為に例の社友を募りて二円講を設くる事、又一錢之拡張をも計る事等に早速着手致し、諸方を巡廻致す覚悟に御座候、専門校を同志社大学となす事には知事も差したる不同意なき事の由、誠に悦び申候、浜岡、田中等には私共より其辺の事を精しく話し申すべく候、已に明日は先づ浜岡に話す積りに御座候、一錢講の募りかた又二円講の事などに付て御面会の節精しく申上べく候、学校にも相変らず沢山の入学志願者有之候、今日まで申出たる三百二十名、其内にて本科二年級ニ志願者たる者三十名程御座候、別科神学生も二三十名はあるならんと存候、金谷氏を今度幹事心得として暫時用ゆる事に相成候、学校の事は通則の通り教務俗務両ながら教授議會にて引受る事に相成申候、食堂は生徒の自治にまかする事に相決し申候拙宅にも皆々相変らず無事にくらし居り申候、荊妻も段々と健康に相成り、小兒も次第に成長致し大分可愛らしく相成申候、当夏は暫時叡山に避暑致候処、非常に荊妻にも小兒にも適當致し、為に兩人とも余程丈夫に成り候、小生も滯山中宣教師諸子とも親しく交り大に都合を得申候

〔ラ・以下同〕

先生に願上度き儀御座候、ロールネツド氏之宅にまひり候処、先生が綱島君の為に御求めに相成り候書籍あまたまひり居候、内に Harris Self Revelation of God と申す一書有之候、該書は私が只今甚懇望致す者にて是非頂戴致した

く候が如何に候や、私共学校にて第三期ニ自然神学と証拠論を神学生に教ゆる事に相成り候が、右之 Self Revelation of God は是等の為に最も必要な書にて只今読み度候間、何卒私に御譲り下され度候、綱島君の為には今より直きに再び米国に申しつかわすも別に妨なからんと存候、彼の書は夏休等遙か以前よりロルネツド氏之宅にありし位なれば、同君の為に今差当りて必要と申す訳にも無之候間、彼ノ書は小生に御譲り下され度願上候、而して同君の為に別今より申しつかわしては如何、此事を至急に御返書願上候

末筆ながら御内室様へ宜しく御伝へ下され度願上候、先日社員会にて決議致したる後直ちに書面を以て先生の御意見を伺ひ、其返答電報にて願ヲキ、日々御待ち申候得共今に何の御返答もなく如何なる御様子なるや心配仕り候、先生よりの御返答を待ちて、然る後色々着手致したく存居り候間、可成速かに御返報之程奉願上候

ホワイト氏雇入レの儀は甚だ差急き候間御返答を待たず直ちに執行仕るべく候

米国より五万円の保証到着致候、先ツ其写を御送り申候、本書は如何致すべきや、当地にて本社に保存しておくべきか、又先生の御もとに御送り申すべきか、是れ亦御指揮を願上候

九月十八日

通倫

新島先生

267 九月二十日 井上 馨

⑤写真

謹読、一昨日御帰京被成候由、多少之御効能も有之候事と奉存候、陳又一兩日中御来駕被成度被仰下、明後廿二日午前十時頃御出被下候様奉願候、尤御病躰之都合ニ因リテハ從是參堂候而も不苦候間、無御用捨被仰聞度候、草々敬白

九月廿日

馨

襄老台

268 九月二十六日 岩崎弥之助

⑤写真

御懇書拝読、先日ハ御帰京、昨今山龍堂〔樫村清徳院長〕ニて御養生之由、漸々御快方之御事と奉存候、今明日中■小崎氏御同伴御来訪可被下旨御教示之趣拝承仕候、今日ハ無抛差支候間、明日十一時頃御来訪奉待上候、昼食も差上度と奉存候、右御返事迄、勿々拝啓

九月二十六日

新島先生
侍史

弥之助

269

九月二十七日

金森通倫

①京都 ②東京麻布中ノ町十番地 栗津様方 ④墨

細々之御書面昨日着、早速拝見仕候処、先生ニハ幾分力御快き方に御向ひなされ候由、何よりの事と存候、何卒此上も御保養專一に願上候、先生ノ御身ニ於て今日の御務は身体御保養と存申候、私も其後は別段変りたる事なく働き居り申候間御休神下され度候

扱て、先日来同志社大学名称の儀に付き府下諸子に相計り候処、何れも好都合にて北垣知事は素より浜岡、田中等に於ても更に異存なく、浜岡などは始談判致候節、直ちに四五年前には明治専門校〔学校〕ノ名義は社会に対して寄付をあつめるに都合宜かりしも、時勢は早一変して今日には同志社大学の方却て賛成を得易き有様となりしなれば、今名義を變更するは却て都合を得る事ならんと申され候、其他高木、内貴の諸子も更に異存なき由、雨森と西村にハ少し心配の様子に見受け申候、然し是れとても自ら不同意と云ふに非ず、只世間に対して如何あらんかと心配すると申され候、私は其後再び両氏の宅に行き其辺の利害得失を精しく述へて程よく頼みをき候故是れも別段に心配する程の事は無之

と存候、田中、浜岡には私は特別に此事を頼みをき、若し有志者の中にて彼れ是れ異儀〔感〕ヲ唱ふる者あらば、両氏より

能く其理由を説明しくるゝ様話しをき申候、今日は私自ら両区長又青山大沢の区書記にも面会致して是等の事を談す

る積リニ御座候、此名義変更の事は頗るデリケートなる事にて、私は実に薄氷を深淵にふむが如き心地致して奔走仕

り居り申候、然し今日迄は誠に好都合にて、何の申分もなく諺に思ふよりも産むが安ひとある如く、余程都合宜く御

座候、北垣氏田中浜岡の両君が始めに此事を賛成したるは実に妙中の妙と存候、此上は此三氏の助を得て私自ら理事

諸君に面会して熟談仕度積りに候間、何卒御休心下され度候

先日北垣氏に面会致して将来の運動に付き種々相談致したる氏の云へるゝ、此上は可成く広く交際して賛成者を多く

得るの他なし、其れ故先づ大坂にては高〔頼之助〕崙中将の如きに面会し、又此近所の府県知事にも面会して其々頼みをく方宜

しからんとて、氏が自ら添書を高崙と内海兵庫県知事等に与へられ候故、一昨日より大坂神戸地方へ参り候、高崙氏

には面会致し候へども、何分同氏は今上京ニ差廻り、甚だ繁雑の際にて有之候ゆへ後日をちぎりにて相別れ候、又内海

氏には昨日面会致し候処、此人は余り悦んで賛成する様には見受け申さず候、其節応分の力は尽すと申され候、其他

二三の人々にも面会致し申候、然し何分にも私は一応上京致して井上伯、大隈伯等に面会致してよき手引を得ざれば

十分の運動を出来難き事と存候、付ては可成当地の事を早くまとめ〔週〕水曜木曜の頃には是非上京仕る都合に御座

候間、何卒先生には其御積りにて御待ち下され度願上候

学校の事は先づ宜き方と存候、私は此期は少しも教授を致さず全く社務に尽力致しをり申候、末筆ながら奥様に宜し

く、又太郎よりは先生并に奥様へもキスヲ一チヨ可進呈仕候間、御受納下され度願上候、先は用々迄、早々

九月廿七日

通倫

270

九月二十八日

井上 馨

⑤写真 ⑥封筒表書「親展」

過日は態々御枉駕被成下奉謝候、其節御咄シ申上置候西洋建築屋御借受之義、何時モ相調候間、愈以御借受之方御都合ニ候ハ、御一報被下度、尤室中モ敷物等モ無之候間、少々は御手数とモ相考へ候得共、朋友中ハ如何様ニも御用立可申候、為其勿々、敬白

九月廿八日

馨

裏様

271 十月五日 三好退蔵

①上二番丁十九番地 ②麻布仲ノ町 栗津氏寓 至急親展、不煩貴答 ④墨

今夕ハ和田垣モ差支無之、七時ヨリ来会ノ筈ニ有之候間、御晩食後御枉駕可被下候、其節該憲法草案御持参被下度奉願候、我々ハ孰レモ彼草案ヲ所持セサル故ナリ、右要事ノミ、勿啓

十月五日

退蔵

新島先生

272 十月六日 人見一太郎

①東京々橋区日吉町廿番地 民友社 ②麻布仲の町 栗津方 玉案々下 ④墨

昨夜の御首尾如何なりしや、定めて成効の緒に相運ひたるべし、時節柄特に身体の御保養專要と奉存候、昨日両度杉田を訪ひ、一度竹越を叩き候へ共、皆留守にて本意を達せず、本日は杉田は青山英和学校に窮追し、帰路竹越を衝く

筈に御座候、不破氏は神田にありて宿処明ならず、其他上州連も杉田の事は格別之を意とせず、只上州に帰りたる上にて如何様ともなるべしと申す如き姑息の傾きあるは甚た掛念の次第に御座候、別封実印差出候間御手数教乍ら宜しく御取計奉願候、勿々頓首

十月六日

人見

拜

新嵐先生

玉案々下

273

十月六日

奈須義質

④墨

一致組合々併の一条上州及東京にかけてハ是非一と団結仕り度く、安中の事ハ一ツの心配に御坐候、此上ハ町寧懇切紅涙と祈禱に訴へて事業の成功を願ハん外無之と覚知仕り候、小生ハ分に応じ十二分クリストニ忠順せん事ヲ切望仕候、若し百敗事癪れなバ小生ハ日本国民中一個の組合教会自由共和の政治配下に立つ所の頑児に候ハん、今日に当り心の願ふ丈ケ実力なきハ残念なり、御過責なからん事ヲ祈る、此れヨリ牧会の実験を嘗め、地方政治の真情ヲ探り、学力一と通り相つきなバ進んで蜀ヲ望むに猶予せざるものに候、今回の事、禍を変して福となすの外なし、而して独立の鉄策ニとその方便に候へ、信仰薄く力行弱し御祈禱ヲ願上候、帰任の後ハ直ちに着手出来る丈ケの尽力ヲ致す積

に御坐候、以書面申述候、拝頓

十月六日朝

奈須義質

新島襄殿

274 十月八日 岩崎弥之助

①駿河台 ②麻布仲ノ町二十番地 栗津方 親展 ④墨

先日は山龍堂へ一寸御見舞之為相伺ヒ候処、已ニ昨日御出院と之事ニて不得拝顔事ニ御坐候、其後^{〔小〕}少生下総へ参り居、昨日帰宅御懇書拝見仕候、過日御話之専門校養成者小生心当リ之人指名可致儀ハ猶熟考も仕候処、昨年来京地ニても学校其他有志者之出金ヲ要シ候事統て有之、其と一二事件相纏リ兼候事も有之、旁多カラザル知人ニ対シ今日如何ニも申通候儀、小生ニ於て如何ニも取計兼候間、不惡御諒察被下度、近日御歸リニ付其前御来訪可被下旨御教示拝承仕候、一日前御通示被下候得バ在宅可仕奉存候、貴答迄

十月八日

弥之助

新島先生

肅啓、先日杉田は已に英和学校を出立し、前十一時の汽車より帰るとの事にて面会を得不申、併し杉田の母君の言に依れば帰途必ず先生を訪問するとの事^由なれば定めて確と御キメツケ相成りたるならんと愚想仕候、竹越には面会一撃を加へ置き候、且つ猶先生へも訪問いたす様申し置き候、彼れは小崎のインフルエンスの及ぶ事少なからず、殊に建^基白^{督教公許}一件以来は小崎に対して少々卑屈の感なきにあらざれば、猶々御蹈み込み首鼠兩端的の臭氣を脱する様御談し被成下度奉願候、三好の息子に就ては池本、内田迄早速送り候へ共、已に報知せし後にて詮方なく、多少御困りの事も之れ有りしならん、是れ全く小生の失策御海容奉願候

六日に東京を発し候へ共風波の爲め横浜発の社寮丸出航せず、七日の六時に漸く出帆し頗る遅鈍の運動二十五時間にして初めて四日市に着し、時方に八日午后八時過ぎなり、同九時半過ぎより腕車を飛ばして桑名へ向ひ候、昼間なれは名古屋や桑名へ便船有之由なれ共、夜中意の如くならず、遂に陸行と相決し候、拾一時頃桑名へ着し、直に二人船子の別仕立和船を賃し、同行一名と掛^{イビ}斐川を遡り、九日早朝に大垣に着し、七時半発の一番汽車に間に合わせん爲め大に船子を督促いたし候へ共、遂に間に合わす、十一時発の二番汽車にて午后一時長浜へ到着仕候、教会を尋ね候へ共、堀^貞氏は四五日前より神戸に赴きて留守、十四日ならでは帰るまじとの事なり、藤井太三郎氏は在宅にて教会の様など一通り聴き取り申候、平素教会の内政は先づ自由政治にして、教會員は決して牧師の面諾者にあらず、牧師の

意見と教会員の意見とは大抵五分五分の割合にて内政を運轉する由なり、併し憲法の事に関しては所謂例の無頓着主義なり、組合教会の重なる人、多数の人が賛成して善と認むる憲法に向て、只斯の眇々たる僅か四五十人に足らざる教会が彼れ此れ是非するは決して宜しきにあらず、得策にあらずと云ふか如きは教会中錚々たる人の考にして、その他は憲法か何やら拾一月の會議か何やら一切無頓着なり、牧師は未た一度も憲法の事に関して説話をなしたる事なく、相談をなしたることなく、教会員の独自一己教会の輿論の如きは全く之を輕蔑否之に無頓着にして過ぎ行き居るなり、堀氏は一人にて長浜、彦根、八幡、福井等の諸教会を兼担し居る故、一月の中一度の安息日丈長浜教会に顔出しする程の勢なれば、その用意の整わざるは当然の事と思わる、牧師と通常の教会員は無頓着の中に隱遁して、可もなく不可もなき有様なるに、之に加へて教会中錚々たる人々も教会員及教会の独自一己を立つること能はず、卑々屈々正理の存する所之を知りて言わす、黙々として委員及教会多数のなすがまに／＼順從放任するは甚だ残念の次第と存し候、併し藤井氏は大に奮興する所あり、從來今度の憲法は到底自由政治に慣れたる長浜教会には実行し難く、且つ将来多少の弊害ありと知り乍ら、之を黙々として打ち過ぎたるに引き換へ、今よりは可成之を教会の中に主張すべしと明言いたされ候、拾一月延期説の如きは氏の非常に賛成する所にして「此事に関して余は教会を代表して賛成する」と迄大言せられたり、果して教会を代表して賛成するや否や、兎も角氏一人丈は賛成者たるに相違なしと鑑定仕候、当時の執事は二人なれとも年若く経験少く今回の事に就ては先つ無頓着なるべしと云ふ、之を要するに長浜教会は天氣伺候的と無頓着的の二に分つべし、無頓着的は教会に力なき信徒にして、その骨子ニなり、その運動の指揮者となるものは天氣伺候的其徒なり、此徒は關西にて単一の獨立を可成避けんと欲すべし、然らずんば關東にて汎山なる獨立派の味方を欲するなるべし、若し關東の方大に定まることあり、關西二三の教会亦我味方となる所あらば、長

〔組合教会臨時總會〕

浜教会は決して我敵にあらざるなり、世の中は随分卑屈心なる天氣伺候的少なしとせず、堂々として整々として手際よく景氣よく運動を初め運動をなし、以て天氣伺候的の心を定むることは今回の運動に於て大に注意せざる可らざる事と愚考仕候

本夜九時半の汽船にて琵琶湖を渡り、大津に一泊、明朝西京へ赴く筈に御座候、委細は後便を待て具陳可仕候、匆々頓首

追伸、万金の尊体偏に御摂養を祈る

十月九日 后五時

人見
拝

276

十月十一日

人見一太郎

④墨 ⑥端裏書「第弐号」

肅啓、長浜の事は一昨日開陳したる次第、更に申し上げべき事無之候、昨朝大津より入都、直に同志社英学校に参り、御指教に従ひ先づ花畑〔花畑建起〕に談し候処、彼れは憲法に關して確乎たる意見未だ定らず、併し部会の權力の過大なること

と自由の精神の乏しきことは不同意なり、延期の事は彼れも賛成仕候、依て花畑の紹介を以て、昨夜広津〔友信〕、広瀬〔孝次郎〕、松尾〔音次郎〕、花畑及び露無と小集会を開き、例の事に付き談判仕候処、松尾を除くの外は皆延期説に同意し、且つ確定議をな

す以前、組合教会全体の輿論を定むることに賛成を表し候、松尾は修正なく今のまゝにて憲法を承諾するてふ考にはあらざれ共折角今迄委員が骨折りて出かしたる者を打毀す様な挙動は之を好まずとし、且つ拾一月の會議のときには組合教会は組合、一致教会は一致の考を捨て、一致教会は一致の考と組合に係らず只爰に新しき一の教会を組織することなれば別段教会全体の輿論を定むるの必要なしと主張し、又拾一月迄には金森の尽力次第、当教会は充分に用意出来く可ければ延期の必要なしと主張したるより其他の人々は皆之を駁論し、敵は一人味方は四人暫時議論せしに、松尾常に受太刀となり更に条理ある議論も出来ず、遂に自分の意見は前に申したる通りにて之を變する能はず、他に用事あればとて其場を立ち退き申候、跡にて四人のもの猶詳に打ち合せをなし且つ憲法に関する意見相叩き申候

広津は合併をば委員など少数人の意見にて行ふは甚た不同意、必ず教会員各己の考を定め、その考へに依りて之を行はざる可らずとの考へあり、又一一致の事には甚しく不同意にはあらざれ共、今度の憲法に従ふときは、後遂に一種馬鹿くしき物を化生することを恐れ、且つ部会の権力の過大なることには同意せぬなり、広瀬は信仰ケ条に就て不同意にして、裁判の事も之を好まず、監督政治の事は皆之を好まぬ方に御座候、露無は今度の合併より却て他にセクトを増すの恐れありて宜しからすと曰ひ、その曰ふ処各相合一せずといへ共、先つ今度の憲法には同意せぬものと思われ候、猶念を推し同志社教会の多数が延期に不同意のときは如何にするや、今夜集會したる人々は皆今夜の議論に責任あり、誰彼は延期説に同意なりと云ふことを他に公言するも差支なきかと相尋ね候処、可成力を尽して多数が不同意(延期に)になる様には決してナサざるなり、金森の爲めに説を枉くる様なことも決して之れなしと答へ、他に公言するも決して差支なしと答へ申候

山中は他出して昨夜の會に与かること能はず、本日談し候処、憲法の事に就ては大体不同意なり監督政治裁判の事な

どその説を聞くに随分不同意なり、延期論及組合教会の輿論を定むることに同意なり、今治の地は自ら尽力して之を動かす可しとの事に候、山路にも面会仕候、彼れは憲法には格別不同意なけれ共、多少の修正なければ承認出来る方なり、延期説及組合教会の輿論を定むることに同意いたし候、古賀（鶴次郎）には昨日面会仕候処、是れは先づ熱心なる憲法反対者にして、飽まで組合教会の精神をば憲法の上に發表するにあらざれば、決して合併を好まず、今の憲法の儘にては容易に合併を好まずと云ひ、延期説及び教会全体輿論を定むることに同意なりしなり、就ては四年生中の重なる四五輩小集会を開くことを約し、本日四時に相開き候、来会者八人、即古賀及波多野培根、横田安止、藤原直信、久永鉄蔵、浜田正稻、鬼塚友則（規）、古賀雀（規）、吉田清太郎にして皆悉く延期説に同意仕候、憲法に關しては別段深く考へ居られ共、概して不同意の方なり、小生推して金森牧師が延期説に反対し教会の多数が金森に同したるときには如何なる覚悟なる也と申せしに、皆我輩是丈は確乎動かす、他の如何に係らず我輩丈は延期賛成の有志として延期の事に尽力すべしと答へ候、一寸觀察したる処にても、四年生は他に比して一体質朴にして元氣あり、今回の事のみならず一体頼母しく見受けられ候

柏木（義四）に面談仕候処、是れは激烈なるアンチの方にて、如何に程よく讓合（九）合ひか出来ても、合併はドウモ不同意なりと曰ふ勢にて、延期説と教会全体の輿論を定むることも賛成なり、五年生の重なる人と小集会を開かんと申せしも、五年生には別段重なる秀てたる人なしとの事なりし故之を纏むることは柏木に一任いたし置候、之を要するにアンチ憲法にて最も頼母しきものは、花畑、山中、柏木、古賀の四人なるべし、併し延期の事に就ては広津はナカ／＼頼母しき人なりと被思候、其他大久保（真次郎）に談し候ひしに、合併の事に丸で反対なれ共別段其反対説を熱心に主張すると云ふ考へは少なし、甚だ冷澁に候、併し延期の事には同意にて可成尽力するとの事に候、但大江義塾生徳富助作外四五名

にも相談して、延期説を主張する様にいたし置き候、併し助作等は余り勢力なき方なれば別段の功能は有之間敷候、憲法に關して彼の教会の準備は甚不完全に御座候、憲法は五六人毎に一部つゝ之を配布し、且つその配布の時は已に七月の終りなりし故間もなく避暑休暇となりて之を調ふことも出来ず、漸く九月以来之が研究に着手したるよし、九月以来三度計り研究会ありて金森氏が説明などありたれ共、議論紛々として研究意の如くならず、且つ之に出席するものも甚だ少なく、一体に言へは無頓着の有様なりし故に近来此研究会を廢し、各級各自に之を調ふこととなせり、然し乍ら之も却て思ふ様に行かぬよしに候

神学生の人は多少他に比して憲法に考を廻らせ共、未だ深く之を研究せず、只僅に調へたる処は信仰ヶ条のみなりともいへり、斯の如く同志社教会員は先づ「教会の輿論は勿論、會員」一己の考へ定まらざるなり、金森の口先に從ては左とも右ともなるの恐れなきにあらず、併しコングレゲシヨナル共和平等主義は甚た之を尊重する傾きあれば、今少し各教会員が憲法の事に深く考へを及したらば必ず反対の考を起すに相違なしと被思候、今度逢ふたる人達に向ひ延期説は教会にて如何なるべきやと尋ねたるに、大概採用さる可しとの見込に御座候、サレド金森が少し蹈みハマリて延期説の反対するとせば、随分困難なることなるべし、就ては金森の帰らざる前に、内ワの下作り文を充分にコシラへ置く様相談いたし置き候、且つ金森が帰りたらは直に公然教会に計り、若し全体一致したるときは同志社教会より関西に檄を伝へ、且つ教会に依而は遊説する様手順を定め置き候、左れば関東の方にて可成早く各教会の輿論を一定し（上州連ラチアカズバ誰レカ出張シテ之ヲ纏メ）延期に同意する関東諸教会の輿論を一定し連署を以て檄を同志社外関西に伝ふることならば、同志社中の延期派は之か為め大に力を得、勢を得て同志社を動かし、同志社を我味方とすること決して難きにあらざる可し、同志社味方とならば関西の無頓着派、天機（氣）同候派は力を用ゐずとも自ら下る

べしと存候、故に何卒檄文は是非本日二十日までに関違なく遅緩なく発布する様にいたし度切望仕候、且つ今分にては運動の中心点なく通信報知及取り纏めをするに不都合なれば、速に東京にその事務所と云ふ様なものを御定め置き被下度候、又出来るならば誰れか仙台に赴き、彼の教会を連署に加へ、関東の勢力を可成燃し立て、関西を^{（吉治）}督する様^{（勘）}にいたし度候、組合教会の組織歴史の様のもの出^刊スの事当地にも余程賛成者あり、実に田舎は勿論何れの教会など甚必要と思われ候間、是れ亦池本御^{（吉治）}督促速に世に公になる様^{（勘）}切望仕候、同志社教会の事を会員より東京に通知するには当分鶴田三郎宛にて送り呉るゝ様頼み置き候間、左様御了知被成下、又鶴田君にもその旨御一言被成下度奉願候、本日四時四年生の会後、大久保発議熊本人懇談会あり、且つ大久保の経綸慷慨をば彼れの宅にて聞き、帰宿の時已に十二時頃、早々筆をとりて右大略開陳仕候、字の明了ならぬ処などは御堪弁被成下度奉願候、明日第一汽車より大阪へ参り、可成速に大阪の模様を探りて、神戸に出て帰熊仕るべく候、勿々頓首

十月十一日

人見
拝

拜啓、本月七日発御書面、去ル八日午後五時住吉屋方より御届被下慥ニ拝受、御厚慮之存する処縷々御伝へ被下、熟読数回、及はぬ小生等迄御眷遇之余榮を辱ふし且ツ御信任万事御赤誠を御露し被下候事、当前橋青年之面目として永く記憶ニ存し可申候、実ニ憲法の事たる其利害輕重之及ぶ処一地方一教会之小部分のみて止まるニ非ず、実ニ今日と将来とを併せ大關係の在る処、非常なる事にて尋常一樣の事ニ無之ハ今更申ス迄も無之候得共、反て此等之事を妄擲し、少しも痒痛を感ぜざる如き者有之候は実ニ痛嘆の外無之と存候、実ニ吾々ハ当世紀の今日ニ於て、此の大問題を附与せられ、其器械之利鈍精神の有無を試みらるゝを感謝する程ニ候、実ニ小生之如きは学力、經驗、信仰、位置一つとして取るニ足るもの無之候得共、此の幸運ニ向ひたる時代ニ生れ候ひしは誠ニ願ふても及ばざる幸福之事と存候、ヨシ微力薄弱數ふるニ足らぬ者と雖も其出来得る丈之力を尽すを得は以て人間之本分として幾分か其義務を尽せりと存候、御書面之御意見を拝見し、一ハ以て吾々を此く迄も深く眷顧せらる之厚きニ感し、一ハ以て鼓舞激励奮つて全力を尽さんとする之心を發し、何とも申すへき様も無之候、加ふるニ先日拝眉之節承候処より一層綿密周到御議論之程切々今日ニ離るべからざる事ト考へられ、実ニ当世紀自由、共和、自治之社会ニ於て斯の如くならざるへからざる之事実と断信仕候、左ニ聊御意見ニ対する愚考及小生之卑見失礼なから申上候

一、当世紀ハ自治、共和、平民主義之發達之時代ニ於テ中央政府、寡人政府、貴族的主義ハ時世後れ云々

実ニ今日ハ貴説の如く共和、自由、自治之精神及行為益進歩飛達すへき之時代と考へ候、今や吾々之居る処之家屋即ち組合ハ実ニ共和、共同、平等等之樂土と存候、然ルニ今や此樂土を去て代議政体貴族的、不平等權理及責任之不權衡之分配ある社會ニ移らんとする如き危急之場合ニ有之候得は、注意ニ注意ヲ加へ謹慎ニ謹慎ヲ加へ以て今日之時運ニ向ハさるへからざる事ト考候、特ニ吾々のみならず吾々の子々孫々、愛する兄弟姉妹をして此内ニ安樂ニ住居せしむへき必要之新家屋を建築する事ニ候得は、此時節ニ際会し在来最も愛する之共和、自由、平等等之樂土を去つて將タ何れの処ニか往くを得へき歟とも考候、小生ハ之れ等在来之処有ハ決して離散する事なく、又多くの愛する兄弟姉妹等ニも永久処有せしめ置き度考ニ候

一、聯合之相談之始まり之原因ニ付キ、アル兄弟か組合之自由を入れて一致之弊を矯めよと云ひし云々

ハ小生等之始メテ聞き及ひたる処ニ有之候、果して然らば今日憲法の有様ハ頭末相反せる甚だ不都合之者と存候

一、籠中の鳥云々

ハ全く之ニ相異なき事ト存候、最も窮屈なる、最も不自由なる籠を作り、己れ及び幾万之人を容れしむ、如何ニ自ら自由、快活を叫ぶも何処ニ其効ありや、或人ハ己れを其内ニ容るゝも所謂「^{ママ}ニル死地ニ入つて後ニ生くいへとも、之れ実ニ策の得たる者といふへからず、寧ろ死地ニ入らざるも、始メヨリ生地ニ在る之策あらは是れ実ニ上乘と云ふへき事ト存候、然リ、其上乘とは始メヨリ籠中ニ入らざるこそ必要ならんと存候

一、ユナイット、トゲザルニ非ス、ユナイット、インツーなる事ハ彼の信仰箇条之始終りを見るも其証拠を挙げられ候

一、中央集權、任地主義、寡人組織等ハ決して将来日本之元氣も維持し共和平等之焦点ニ向ひ其歩を早むる之時勢ニ當り如何ニして永統致スヘキ哉、少しく精神あるものは決して狹隘、有限、籠中等之文字之柵内ニ閉込めらるへき ○訴訟門を廢する事ハアル兄弟と相語り申候事ニ候、御説の処も有之候得は益其持論を確然たらしむるより外無之候 ○実ニ合併ハ大切なる事業ニ有之候、大切なる事を輕蔑し、大關係アル者を冷遇スルハ実ニ今日誤り之大なる者ニ候、今や此憲法ニ對シ日本之基督教徒果して多く調査了れりや、熟議討論了りたりや、是等之問題ハ少しく答弁ニ苦しむ処と存候、「民をして依らしむべし知らしむべから

ず」といふ如き有様ならばヨシ数歩を遡りて粗暴、不注意、専断、迂遠（前説之意）之根本より何之結果を生すべき、必スや早晚分烈、潰敗ヲ生シ、自由共和、実ニ特別之専断もなく特別之尊嚴もなき親睦平和之枝をして兄弟牆ニ「セメ」ぐ之浅ましき有様を生せん事計られ難き事ト存候、且是迄我々之組合教会として共存同立致す者も此不都合、不注意之合併より其後之有様ハ或ハ不平不満足より、或ハ今日既ニ一方ニ於てハ彼と合併し、或ハ此ニ独立を試み、互ニ堅軍防城、内自ら相攻む、焉ゾ基督ノ恩寵を外ニ振張するを得ん、果して如此き結果を生ス、之れ実ニ己れの手足を断つて猛虎ニ投げ与ふるニ類ス、其勢力運動を懸疎ニス、其幸福ヲ狭少ニス、合同一致其目的ハ勢力を^大ニ幸福を増すニ在て、其実之ニ反せば合同一致其利果して何クニアル、反て從來合併せざるの勝れるニ若かさるべし、党派を少なくせんとて党派を多くす、其目的之違する処何れニありや、合併する事ハ誠ニヨシ、其目的の如く成就するを得ハ誠ニヨシ、併し是れ決して容易ニ行ハれ難き事ト存候、もし果してユナイト、インツー之意味を以て合併する之時ニ至らば此前橋ハ是非とも（他ハトマレ）從來の組織を相保チ度前橋猶ホ合ス、自身ハ是非とも共和之主義ニ戻らざる之心組ニ有之候、御意見中救治法案ニあるが如く止むを得ざる事ニ有之候、此意見ハ嘗て^{兄弟}同友、或ハ憲法調査候委員之前ニも発表致シ候

左ニ聊カ憲法と合併ニ関スル愚見之大体を開陳致候、御聞覽被下候ハ、本懷之至ニ御座候

一、組合、一致両会とも悉皆旧來の習慣、遺伝等を改革し、吾々か欲する如く（自由、共和主義）一ツの新たな者を設立せば、合併しても差支なしと思ひ候、併し宗教上之事ハ政治、法律、学理等之如キ者とは大ニ異なり、善と知りて取る能ハす、否と知つて容易ニ去る能ハざるハ信仰上之常習ニ候得共、今日之日本ノクリスチャン未だ深く此習慣ニ染マス、早く

「己レ」ト「自分之信仰」なる者を光風霽月之下ニアラシム、然る後チ合併否ナ新規なる者を作るを得べしと被考候

一、寧ろ合併したる為め少数の者を遣し去る如き場合もあれば合併せざるも若かしと存候、之れ又新ニ其反体之甚しき者を作り出たす之方案之如く有之と考候、之を以て見れば其合併したる組合会之者を顧み望めバ見識、自治、持論等之なき者ノ如く認められ、反て從來組合会之内ニ在て兄弟姉妹相互ニ親睦したる者を打破るが如き傾向を生せんやも計り難き事ト愚察仕

候、果して如此き有様を生ず^るニ至る事もあれば到底完全無欠なる合併ハ望まれ難き事ト考候

一、前ノ二箇ノ事条をスベテ想像上より驅り放ち、退ひて全く合併之得る者と考ふる時ニ当リ、愈々憲法を作る之場合ともな
らば、極メテ寛大カ極メテ狹隘カノ二点ニ向ひて作らざるを得ず、所謂^{〔マ〕}ニ積極ト消極ノ如き有様の方が宜しから
んと存候、之ハ余り偏頗之如ク候得共、反て蛇のナマゴロシの如ク候得は何れとも付かずして如此き憲法ニ依て成り立ちし
者は其外面実ニ美妙精彩なるも、ヨシ其裏面ニ至れば少しも其実なきか如きハ実ニ鬨鬪之棺中ニ蟄居するか如き有様ニハ無
之カとも考候、到底彼のボシチーヴにもなく、ネゲーチーヴにもなき憲法を以てハ運動、信仰、勢^{〔力〕}を維持せん事覚束な
くと存候、彼ノ御意見中ニある米國ノ新克州北部之例之如きハ実ニ適例と存候、要するニ寛大なれば又以て充分の運動をな
すを得べし、極小ならば又以て運動を維持し權衡となる哉も不計と存候、只今之憲法之如きハ幾々模稜之中ニ流動したるニ
非ずやとの考を持ち居候得共、如何之者ニ^{御座}候哉

右之事、条ニヨリ左ノ事条を生し候

第(一) 合併するとハ互ニ旧來之習慣、遺伝ニハ^少所しも關係スル事ナク「一ツの新タナル者」なる觀念を作り出たすを得ハ真之合
併ハ得らるべし、(「新タナル者」の内ニハ、自由、共和主義アル事ニて吾々ノ欲する者なる事)

第(二) 此ノ如ク真底ヨリ合併スルナラハ兎マレ角マレ合併スルを得べし、否ナ自然如此キ場合アル事ならば名ヨリ実の先きニ合
併スルを見るべし、今ヤ之ニ反ス、如此ニシて如何で完全なる合併を望ムを得ン、(在京中^奈之諸氏之說ニハ、随分彼ノ内ニ入
ルも、アトにて改正するを得べしと論ぜらる方も有之候由なれとも、之れ決して^{十分其目}確定する^的ヲ達スルヤ否不可知之事ト思候

第(三) 憲法を作らば文字簡明、境界寛宏、説明体之文字、模糊ノ空氣を止メラレタシ○主權ト主義のある所を明ニシ、代人之權
力を軽くシ、兄弟を審判スルを止められたし○目下双方之組織を調ブルハ焦眉の急ト存候

要するニ、真底ヨリ合併するを得ハ速ニ合併したし、輕忽、不注意を以て早まつて合併をなすニも及ばずと存候、一步ハ數歩、
數歩ハ千里之差を生ズルハ蓋し今日ニ有之ト存候○憲法ノ如キも第三ノ主意ニヨリ度存候

右ハ愚見ノ大体ニ有之候

御意見之所謹で推考仕候処、左ノ御意^主ノ如く被考候、如何ニ候哉

一、今日ノ合併ハ弊害多ケレハソ一急速ニセズモ宜シク、首トシテ双方ノ教会組織ヲ取調ブベシ○一他人ニ任カスル事ナク教会員自身ナルベク多ク、ナルベク精密ニ調査ノ任ニ当ル事○自由、共和、平民主義ハ一步モ退カラサル事^{「ママ」}

一、延期スルノ精神ノ内ニハ相方ノ歴史経験ハ勿論取調フル事ナルモ其内ニ吾々ノ力ヲ養ヒ出来ル丈多クノ軍備ヲナシ「勝タザレバ退カス」ノ勇氣アルヲ存シ^且ハ多クノ人ニ組合組織ノ完全ニ近キヲ知ラシメ、以テ合併ノ結果^{「果」}ヲ善良ナラシメントノ博愛心ヨリ出テ、又自ラハ自由、平等、平民主義ナル組合会ノ誠忠ノ臣節ヲ失ハサル事

因より大人ノ意見、決して思想淺^淺なる小生の如きの考へ及はざる処なれと、其大^旨義ニ至りてハ当らずと雖も遠からずと存候、今や実ニ小生之腦中自由、平等、共和ノ主義ハ往來急忽万物ニ対シ其意見を發表スルニより当地保守的貴族的之傾向之人ニハ甚忌まれ申候、然れとも又自ら喜ひて己れ之意見、主義と共に存スル之心組ニ有之候、今度之合併之如きも愈其意を得ざる之時ハ、前橋教会ハ勿論ニ候得共、前橋教会もし容れされハ己れ一己なりとも最後之手段ニ相及之決心ニ候、御意見之如きハ実ニ金城湯地として防衛致^す又之心得ニ候、乍併決して雷同阿附以て貴意ニ合ふを求むるニハ無之候○右ハ小生之数ふるニも足らぬ愚見ニ候得共、大胆ニ開陳致候事如此御座候、御煩雜をも失礼をも顧みざる之段山海之御胸襟御宏宥之程奉願上候、百拝

廿一年十月十一日

永井 元

拝

新島先生

坐下

再白、逐日秋気相増申候、朝夕御起居御障りも無之候哉奉伺候、過日拝眉之砌ハ非常なる御愛願を被むり候ニ付、当地青年之代表として一寸御挨拶可申上之处、疎懶之罪申訳無之候、今又非常ノ御恩願を辱フするニ至り何とも申上兼候、御意見之处早速平賀勝三郎兄（彼ノ住吉屋ニて共ニ御面会申候）ニノミ御目ニかけ候、又御意見書ハ何卒平賀氏及小生迄御附与なし被下候ニハ相成申間敷や、もし別段之御差支も無之候得は何卒左様御願申上度奉切望候

御尊体願くハ今日日本及自由組合之為め御大切ニなし被下度奉願上候

御令閨様ニもよろしく御鶴声を奉願度候、住吉屋及青年諸氏へ御伝言之趣申候

278 十月十一日 渋沢栄一

②麻布仲之町廿番地 粟津方 拜復 ⑤『渋沢栄一伝記資料 別巻第四 書簡
二』所収

再度之尊翰拝見仕候、爾来御宿痾も漸く御快方之由拝賀仕候、然者同志社学校之事ニ付御代理金森通倫と申人御出京相成、此程弊行迄来駕之由ニ候処不在中ニて失敬仕候、東京醸金者之分、集金之都合ハ凡十月十一日位と兼而御打合も申上候次第ニ付、此際時日を定め小生より夫々通達致候方可然と存候間、尚右等之手順金森氏と御相談いたし度、

就而ハ明日ハ午後一二時頃ハ必ス在行之筈ニ付、右時間中ニ御来車被下候様賢台より同氏へ御通し被下度候、委細ハ同人面接之上御打合可申候、此段拝答如此御坐候、不宣

十月十一日

渋沢栄一

新島襄先生

虎皮下

279

十月十七日

松本勘十郎

④墨

尊書相達忝拝読仕候、今回部会ニ於テ決定候憲法一条ニ付委曲承知仕候、右ハ小生も繁忙ニ付憲法ノ意味も不調査候折柄、来月ハ本会ヲ開ク旨承リ候ニ付、右心痛致居候折柄ニ付、早速我教会へ一応延期申出候所、幸不破氏も来会、夫々評議之末会員過半数位ハ延期ニ決定仕候、引続開会之末、部会へ申出候積ニ御坐候、此段御含迄申上置候、前頭憲法之議ハ了解致兼候事も有之候間、尚篤ト不破、杉田両氏トも承合可申候

一、其後御病氣も逐々御快方之由承大慶此事ニテ候、過日御帰途御立寄も御坐候半哉ト一同奉待上候事ニ御坐候、方今御滞在ニ有之候哉、小生も来月ニ入候ハ、一寸出京之積ニ御坐候、兼而御承知被下候製糸所へ日勤寸暇無之、旁午存延引仕候、且過日中山氏^{〔光五郎〕}下毛出張ニ際シ夫々知己へ托し副書差出候、其後同氏ヨリも文通有之、至而困難之様子ニ

御坐候、追而ハ好果ノ景況ニモ可相成哉祈居候、当工場も専伝道、方今ニ到リ入信願出候者逐々有之全ク御惠故ト奉感謝候、右貴酬迄如此候、勿々拝具

明治廿一年

十月十七日

新島尊兄

松本勘十郎

拝

280

十月十八日

宮川経輝

①大阪玉江町壱丁目

②東京麻布仲之町廿番地

栗津氏ニテ

④墨

貴書忝拝誦仕候、来廿日前後ニハ東都御出立之由ニテ、尊容ヲ拝スルノ期モ近キニアルベシト御待申上候、陳ハ望月^(興三)氏一条ニ付テハ御意ノ在ル処ヲ伺ヒ誠ニ難有奉存候、同氏ノ約変ハ実ニ悲シムベキ義ニ御坐候得共、今回我女校ニ聘シタルハ教授ヲ専務トセラル、ニアラス、幾々ハ校長ノ職務ヲ委嘱致し度訳ニテ、目今ノ処ニテハ教授ハ一日二時間位ニ致し、其它ノ時間ハ右職務ヲ見習ハセ申筈ニ御坐候間、別ニ咽喉ヲ勞スル訳ニモ無御座候故、一旦教育ヲ捨テタルニ再ビ教育ニ従事セラル、ニ至リ候事ト御承知可被下候

浜岡氏ノ許ニハ前周ニ本間氏談判ニ赴キ、本校ニ於テ望月氏ヲ要し候故貰受ケ度旨申込候処、右ハ同氏ノ一生涯ノ事業ヲ定メ候大事ニ付キ、^(二)宍^(一)氏ニ面会致し度トノ事故望月氏上京面会致サレ候処、快ク承諾被致候間、此義ハ御安心

可被下候、此後之処ハ小生等ニ於テモ十分望月氏ヲ助ケ申度、且又同氏モ先生ノ御書状ニヨリ痛ク変心ヲ恥テ此度ハ何デモ動カスシテ働キ度シト申シ居候間、都合宜シカルベシト奉存候、委細ハ拝鳳ノ上ト奉存候得とも不取敢右迄申上候、勿々拝具

十月十八日

宮川経輝

新島襄先生

281

十月二十三日

小崎弘道

①東京麹町上二番町

②横浜弁天通り六丁目

和田彦方

④墨

先刻ハ失礼申上候、却説、一寸御考に迄申上置候ハ迂生舎弟之事にて御座候、同人義昨年五月神学校を卒業せし以来学資に欠乏せる所より Los Angeles へ罷越し二三の日本人と社ヲ結び、或る事業に致從事致し、資金を畜^蓄へ、本年九月より東方へ参る筈之処、只今落手したる書状によれば此夏以来商売甚た不景氣にて利益少く、到底東方へ出て掛る目的立ち兼ねる趣を申送候に同人も貴重之時間を碌々と送^{消費}る致すも甚た残念に存候ニ付、若し先生に於て何とか御明案あらば御教示被下度、又先生方にて何とか東方にて勉学の出来るやう御尽力被下候事ハ相叶ひ不申候や、御病氣之処、恐れ入申候得共一寸奉伺候也、新潟之事ハ此より伊勢氏方へ参相談可仕候也、早々

十月廿二日

小崎弘道

新島襄先生

二白、海上安全御安着を祈る

282 十月二十三日

人見一太郎

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆「十一月一日来ル」

肅啓、弥御清安奉大賀候、番町、榎阪両教会の都合大によりし由、自由の爲め大慶に存候、当地も合併の事に就ては例の無頓着の方なれ共、概して反対の空氣その多きを占むるものゝ如し、憲法に關しては研究会など開きて憲法を攻究したる事なく、否一通り憲法を読み終りたるものさへ少なき有様に御座候、サレは海老名氏初め田中賢道、草野門平（ママ）（教会と骨となるものは此兩人）等も大に延期説に同意仕候、奥氏（龜太郎）は福岡へ転し、その後任として大阪寫の内教会の辻氏来月初めに当地に来らるる筈に御座候

檄文は已に天下に伝へられたるか、上州の模様は如何なる乎、初めに同意したるものか変心さへせずして味方の氣勢を張らは今回延期の事は決して味方の敗にあらざるなり、併し延期は手段なり、目的にあらざるなり、関東の諸兄か

延期を遂けたるを以て其目的を遂けたる如く思ひ氣を弛めざる様、先生の御一針此際に必要と奉存候、匆匆頓首

十月廿三日

人見

拝

新嶋先生

玉案々下

283

十月二十五日

川本泰年

①神戸下山手七

②〔京〕都同志社学校

几下

④墨

⑥略図、はがき省略

寸楮拝呈仕候、然ハ今朝御奥様外部のミ御一見被成候家の内部略図、水谷氏より入手仕候ニ付、備御一見候、阿部、
〔時行〕
長田両氏も一見被致タルよし、別紙之通先方急き候趣ニ付、至急御回答被下度奉願候、尚又他に致探索宜敷候ハ、無
〔腹〕
御伏蔵被仰下度奉存候、取急き草闌筆、拝具

廿五日

川本泰年

拝

新島先生

几下

284

十月二十五日

竹越與三郎

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆「十月廿五日」

拝啓、当神戸、多聞の両教会にては近日来アツキンソン氏につきて三、四の役者たちにて憲法講究会相ひらき申候、就て去る廿四日より兵庫部会即ち七教会の會議を明石に開き、其節小生関東の模様を説明候処、大多数にて延期と相決し申候

大坂は意外之無神經にてトン■とプレスビテリアンの本相を見はし居り申候、同志社の松尾は小生共の意見に同意仕り、同志社にて同志を語らふ筈ニ御坐候、右申上度如此ニ御坐候

廿五日

〔朱異筆〕
「十月」

神戸内海岸通四丁目 島中方 竹越與三郎

新嶋先生

十月二十五日

渋沢栄一

②脇付「御直展」

⑤『渋沢栄一伝記資料 別巻第四 書簡二』所収

本月十八日付及廿日付兩回之尊書拝見仕候、且、令聞御持參相成候金壹千円も正ニ落手御預申上候、令聞当行へ御過訪之際ニハ小生欠勤中ニて不得拝眉不都合之至ニ候、来示ニよれハ廿二日頃当地御出立神戸へ向御帰航之由、従是も告別旁參上可仕之処多忙不得其義失敬仕候、御海容可被下候、然者御托之大学寄付金集募方之事ハ、来月十五日頃ニ弊行へ取纏總計金三万千円之中、貳万五千円ハ公債証書買入、殘金六千円ハ弊行へ利附預ケ金ニ被成度云々拝承仕候、寄付之人員及其金高等小生記憶不仕候ニ付、徳富氏へ御打合之上相分り候ハ、直ニ通知狀相発し、来月十五日迄ニ弊行へ集合相成候様取計、向後公債買入又ハ利附預ケ金之手続取扱其模様ハ一々徳富氏へ報告いたし候様可仕候、過日金森氏弊行へ御過訪ニて右金保存之方法愚見御尋ニ付、小生ハ公債買入候方万全之計と御答申上候処、其後井上伯ニ面會、右之事共御話申候処、伯之申ニハ、右者完全之取計ニハ候得共如何ニせん原資少くして収益多きを望む場合ニ付、可相成ハ年七分位之運轉之途を得申度、依而拙者ハ此保管を渋沢ニ托し、同人ニ於て年七分之利足を請合候ハ、整理公債を買入候よりハ収額増加候丈ケ都合ニ相成可申、而して堅固之点より論するも渋沢ニ於て譬へハ郵船会社又ハ鉄道会社之株を買入、此金額之殖利を計画するハ敢て危険と申辺も有之間敷と存候ニ付其辺ニ相談いたし候而ハ如何と新島君へ申述候との申聞有之候、依而小生ハ右伯之考案之如くなれハ此際之權道として或ハ不可と申ニも有之間敷、何分今一度新島君へ御示被下度と答置候義ニ候、併今日之処ハ既ニ来示ニ公債証書と銀行利附預ケとの御指

揮有之候ニ付、先以其御指示ニ従ひ取扱可申候得共、伯之詞も有之候間為念一言申上候、尚委細ハ湯浅、徳富之両氏と打合候様可仕候得共拝答旁此段申上候、勿々謹言

洪沢栄一印

新島襄様

尚々、御委任状ハ拝收候得共、各員へ差出すへき金員受取証書も御廻し無之、又公債名前等も誰氏ニ致し可申歟、夫是不明亮ニ付右等ハ湯浅、徳富両氏と御打合可申と存候也

286

十月二十六日 徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

肅啓、神戸御安着の電話に接シ漸く安堵仕候、途中の悪天氣にて定めて御迷惑と存申候、洪沢氏より本日寄付金の事ニ付ても相談有之、湯浅兄面会ノ上薦斗相弁シ申候、洪沢氏より先生ニ当タル書状と其ノ模様等ハ湯浅兄より申上候筈ニ候間何卒左様御承知ヲ乞ふ

アップピールモ既ニ一度ハ印版ニ取り候、右ハ明朝校正ノ上印行シタルモノヲ御目ニ懸ク可シ、各社共ニ大ニ義侠ノ精神ニテ賛成致候得共、独り読売と日々とは其の先約に反し募金取次丈ハ断リ出申候、読売尚可ナリ、日々ニ到りてハ

実ニ訳ノ解ラヌ次第二御座候、湯浅兄より金森兄ニ右通知致したれハ金森兄より井上伯ニ何とか可申出と存候、若し御序モ之レアリ候ハ、先生よりも井上伯ニ日々新聞ノ所、何とか論告の事御依頼如何ニ候哉、小生ノ愚見ニ於てハ今度ハ日々ニモ是非ヤラセ度存候、若シ都合次第二ハ小生か関(直彦)と最後ノ談判ヲ開く積リニ御座候、既ニ集金人名ヲ紙上ニ掲載スルニハ広告料ヲ払ふ以上ハ日々新聞ニ於て別段損する所ナシ、損スル所ハ少々ノ手数ノミ、此ノ手数ヲ口実として前約ニ背クハ実ニ訳ノ解ラヌ次第ナリ、併シ事ハ成就ヲ主トスレハ可成穩に相談可仕候筈ニ御座候以上ハ用事丈ケ申上置候、時下冷氣肌ヲ侵し千金ノ尊軀折角御加養千祈万禱此事ニ御座候、先生死セスンハ先生ノ志成ル可シ、切ニ御加養ヲ祈ル、再拝

十月念六 午後四時 民友社ニ於て

徳富生

新島襄先生

玉案下

乍末筆御家内様ニモ宜敷申上候、御帰の節老父母ニ御贈遣被成下候由奉万謝候

十月二十七日

望月興三郎

①大坂土佐堀裏町 池田多三郎方 ②京都寺町丸太町上る ④墨

宝章拝誦、御病中をも不憚種々申上候処不肖を御見捨なく御懇篤なる論書を賜り恐悦至極に奉存候、先つ過般、浜岡氏へ世話にならんと覚悟致候概略を開陳致度候、小生ハ何の幸か先生の御教訓御扶助に預り幾分か教育の何たるを承知致候、我国文明の源泉ハ実に茲に在りと覚知仕候故之を以て畢生ノ事業と仕度近來迄も志望罷在候処、其事業に必要ある機関不充分に相成迎も満足なる働出来間敷思へれ候、然るに猶ほ優柔只望を抱ひて日月を消過致さハ終にハ無用の人物とならんかとの恐を生し、早く生涯の方向を改定し身を処するに如かずと思起し、種々思考の末音声を勞せざる実業に就くを得策と存じ、終に浜岡氏の世話になる事に決定致したる義にて、御高評之通り従来の目的を貫く良法を考へ付かず、無抛処より決行致したる義に有之、夢裡にも願望致したる事なき業なることは先生の御熟知と存候、然し決心致して後僅の時日にて身を未だ先方に托せざる（一方より申せば）折に、大坂より申來候故變動致したる次第にて、若し上京後なれば決して動かさる処に有之候、（是とても前申上候通り容易に傾きたるものに無之候）先生より御申越の變心云々ハ今回第一に小生の心中に浮びたる問題に有之、一旦決したる事ハ是非決行致さんと存候処、或友人より變更すべき理由あらば宜く變すべし、理由有て變せざれば反て至拙なり、今度の事ハ汝か旧來の目的を達する一手段にして神の為に直接の働をなし得べく彼の商業にて神榮を彰すよりも一層大なるべし、宜しく靜かに神の召を回思せよとの忠告を受け、段々其理由及利害を対照比較致候処、左の如くに有之候

浜岡氏方へ行く時ハ

第一約を踐むべし

第二形而上の幸福を享くべし

第三商工業に適否不明なり

第四果して適當せずんば生涯の大失敗となるべし

第五浜岡氏の必要（小生を要する）ハ大坂よりも少し

大坂行ハ

第一約を破るべし（理由あるときハ道義上の責なし）

第二旧來の主義目的を貫くべし

第三神手我上にあらば、是迄の僅かなる教育上の經驗に加へ益々之を進張して成功を奏する事を得べし

第四形而上の慶福裕あるべし

第五信者の事業を助くるハ信者の為すべき事にして、且是非必要とある以上ハ奮て救援するの義務あるべし

第六恩人の志望に応ずる事を得べし

元來小生ハ身に經驗有之故、成業の後ハ故郷に帰り教育に従事せんと存居候故彼処に參らば一騎当千位の働を為さざるべからずと存し人手を頼む事なく可成獨立して働かんとの覺悟に有之候故、之が為に精々要器乃ち咽喉の治療を致候処、中々本復覺束なしと病院より聞き申候故、会津にて教育に従事するにあらずんハ心に快からずと存し、狹き考より又他に教授と教育事務との正別を思付かさるより失望の余、浜岡氏方へ參らんと致したる次第に御座候、然る

に此際計らずも大坂より容易ならぬ攻撃を受け段々回顧思料仕るに、小生が本月早々神戸を引払ふ不能して延引致し居り、また全く身を浜岡氏に委ねざる折に、斯く大坂より迫り来りたるハ神の摂理にあらずや、且小生の過去を回顧致せば敢て初より好みたる仕事と申すにハ無之候得しが、是迄の半生ハ全く教育の為に経過し来り候此等を思ひ合すれハ小生の後半生をも之か為に費ヤハ神意に叶ふ様に被存候、且つ恩人の志望如何を探らハ固より此辺にあることゝ存候処より、断然教育を以て終生の目的と致さんと決意仕候、此心ハ仮令身零落して小学校教員となるも抱持する決心に御座候、而して此度の難処ハ約束を破ることなくして円滑に解約仕るにあり事に有之候処、既に宮川氏より御申出相成候上被為候通り都合好く相運ひ申候故、決然当地に参りたる次第に御座候、猶ほ詳細ハ拝顔上可申上候、此後も御見捨なく御眷顧なし被下度奉願上候、乍末御帰路船などにて御病体に変動無之候へしや、爾後益々御保養あらんことを祈候、奥様へもよろしく願上候、早々

十月廿七日

望月興三郎

新嶋先生

閣下

288

十月二十八日

川本泰年

①神戸下山手七 ②西京寺町通丸太町 ④墨

御書拝読仕候、然ハ貸家他に都合好もの見当不申御氣之毒奉存候、過日之分にて御辛抱被成下候ハ、右家ハ新築未久家に候故戸障子ノ運転や且建合ニ間隙アル等ハ有之間敷察し候得共、明日長田、水谷両氏ニ依頼仕、右等之処相調可申候、万一不都合多きトキハ家主ヘ示談為直可申ハ勿論ニ候

一昨夕タツレー氏より荊妻迄被申聞候には、先生御借宅被成候ハ、同氏より煖室炉ヤ敷物ハ当分貸渡し御間に合せ申度旨被申居候よし、御承知置可成候、(被脱カ)不取敢右御答まで、草々拝具

十月廿八日

川本泰年

拝

新島先生

玉几下

289

十月二十九日

阿部政恒・長田時行

①神戸下山手通七丁目三百九拾八番邸 ②京都寺町通丸太町上る 平信 ④
墨

拝呈仕候、愈御清福 神恩下ニ御起居被成奉大賀候、 諸先般当港御着之砌は折悪敷生等明石教会奉堂式に赴きおり、
拜趨を欠き残念ニ存申候、 兼而川本氏江御依托之家屋之儀は種々搜索ニ尽力候得共、 恰当なるもの無之、 遂ニ過日御
一見被成候半西洋の家を借受る事ニ決申候、 就而は本日生等建具の工合抔見分いたし候処、 随分隙間有之、 外見の如
く美はしからざる次第にて折角之御養生なれば最少し好き所と存候得共、 只今の所にてハ相当の家屋も無之候付、 不
取敢右家屋を借受け、 隙間ハ丁寧に塞かせ置く様ニ致申候、 依而敷金貳拾円を入れ置き、 若し他に良き所有之候節ハ
半月の家賃にて転する（尤も来月十五日迄の中ニ）約定を結はしむる事ニ周旋人に托し置候、 充分御望に適しかたく
生等も満足いたしかたく候得共、 何卒御忍び被下候得は幸甚ニ存候、 先ハ右御報まで、 万縷御来神の時を期し申候、
頓首再拝

十月廿九日

長田時行

阿部政恒

新島先生

台下

十月二十九日

大迫真之

④赤インク

⑥追而書末尾に新島筆

「十一月廿九日」

歴史ハ取急ぎ出版スベシ○請求書数百枚普ク配付仕候○万事徳富等ト協議可仕候間、御安心被成下度し○沈思

静行又果断決行両ツナガラスべし、御安震切ニ祈ル○〔養力〕
爾來若シ玉書玉ハラバ
 鶴田宛ニ奉願候

〔吉次〕

玉書拝読、徳富氏等と相談の上外国新聞ノ所ハ早速池本ニ翻訳ヲ頼ミ、明后日発兌のキリスト教新聞ニ掲載致スヘク
 様取計ひ申候○小冊子編輯ノ儀早速着手可仕候、併シ去ル水曜発兌ノキリスト教新聞ニ池本論述したる事も有之候ニ

付、彼れを論拠として一枚刷りの者に合併の不可なる理由を記述致しても宜敷しからんと、徳富は申され候、何レニ

致せ、可然様尽力可致候も、実は先生御発途の後ち古莊君ニ上州行きを依頼し、例ノ鉄壁建築と出懸ケ申候処、あ也

〔三郎〕

悪ク伊勢、小崎、湯浅ノ三名とも古莊ノ後を追つテ上州ニ赴き情実三分、理屈三分ノ御説教被成候由ニテ、憫むべし

七

上州も少々遅疑ノ旗色相見ヘ候モ不図と被存候○然し幸にも上州各教会決議の上、今度古莊君ニ関西行きを依頼スル

事と相成、番町、赤坂へも同意にて明日より発途致す筈ニ候間、関西ニ於て延期説大賛成ヲ得ルの日ハ上州も決して

動き不申候○上州にも大ニ力を尽し決して変説致さぬ様ニ可仕候間、先生よりも否不破列ヘ御申聞け被成下度奉願候○

昨日神戸ノ人和田某氏より古莊ヘノ来状には神戸近傍ノ七教会ハ大概延期説ニ決議致し居候由ニ候間、今一度古莊ヘ

熱信と尽力トラ以テセバ或は関西ニ同意を得る敢て難きニあらずとも存候、委員ニ於ても（組合ノ）一時延期説ニ略

相決定致居、一致の委員と打合セ候処、一致ノ方中々意地悪るく手強くハ子カヘシ候赴きにて、今分にてハ伊勢氏等

も是非く、兎も角も十一月ニハ會議を開かざる可からずと唱へ居候由、併し組合教会過半数以上延期説ヲ提出するに於てハ伊勢氏等も断然延期するニ決すると公言致され候由○^{〔万〕}数事油断なく決行可致候間、左様御思召願上候、生等の心事ハ定めて御洞察被成下候ものと存候、先生ノ御意見ハ全く生等ノ心事と一点ヲ相違無之候間、今回の事必ず成効致す決心ニ候、只其成敗ニ至りてハ神意ノある所ろと覚悟致し居候○竹越與三郎関西漫遊中ニ候処、明日帰京致ス筈ニ御坐候、先ハ擱筆

十月廿九日認

大迫真之

新島襄先生

291 十月二十九日

徳富猪一郎

⑤森中章光亨（孔版）

肅啓、東京ハ只今非常の好天気ニて御座候、折悪く先生御在留ノ時ハ慘風苦月ニて今更遺憾の至リニ御座候、陳レハ上州の方ハ委員諸氏の遊説ニて少しく動く懸念も有之哉ニ聞き及び申候、若し御序も有之候ハ、何卒一筆御勵しの程祈上申候、兎角人心の薄弱ナルニハ困り入申候、併シ決して余りに氣遣ふ程ノ事ニモ無之歟と存申上候、別紙金森兄ノ方ニモ相廻し候得共、序ヲ以て差出申上候、御一読ヲ乞ふ、勿々頓首

十月二十九日

徳富生

新島襄先生
玉案下

292 十月三十一日

阿部政恒

④墨 ⑥端書、新島朱筆「十一月卅一日 神戸阿部」

一致組合兩教会合併事件ニ付、懇切ニ御意見御漏し被下、併セテ数ニモ入ラヌ小生ノ鄙見御尋問被下候事感銘ニ堪ヘ
ス、小生在校ノ砌ハ先輩諸氏ノ説ヲ丸吞ニシ漫然合併賛成説ヲ有シ居候処、当地ニアリテ教会ノ事務ニ従事スルニ至
リ、兩教会合併事件ノ大切ナルヲ感じ教会ト相談シ憲法草案調査委員三名ヲ撰挙シ小生も共ニ該草案ヲ調査イタシ、
其研究漸ク進ムニ從ヒ、益欠点ノ多キヲ加ヘ覺ヘ、^{〔到〕}倒底非常ノ修正ヲナスニアラサレハ合併ヲ遂クル能ハス、サリナ
ガラ吾人ノ意ノ如ク修正スレハ一致教会ノ制度ト相距ル事益遠キニ至ルベケレバ此度ノ合併論ハ遂ニ成就スル能ハサ
ランカト窃ニ思惟シ居リ申候、然ル処関東ノ教会ノ意見ヲ聞ニ及ヒ愈鄙見ヲ堅フシ、吾人ノ自由ト教会百年ノ光榮ト
ヲ犠牲ニシテ目下ノ安ヲ謀ルハ良心ノ快トセサル処、決シテ神ノ聖旨ニアラサルベシト信スルニ至リ候、憲法草案ヲ
研究致候ニ一致教会ノ根底タル大会ノ主權ヲ移シテ教会ニ置ク事ハ組合教会ノ精神ノ勝ヲ奏セシ処ナルモ、部会ニ依
托スルノ權限重キニ過キ、牧師ト信者ノ間甚タ疎隔シ平等ノ主義（是聖書ノ示ス処ト信ス）ニ悖ル事甚シク、殊ニ監

督ハ教會員ニアラスシテ教会ヨリモ上位ナル部会ニ属シ、戒規ノ所管ニ於テモ區別アルニ至リテハ人爲ノ階級ヲ作リ、監督ヲ以テ一種ノ爵位トナス事ニシテ、吾人ヲシテ天主教ニ化セシムルカト疑ハシム、吾人ハ既ニ人爲階級ヲ設クル事ノ神意ニ反スルヲ知り、且教会進歩ノ理ニ背クヲ知り、天主教ノ弊ヲ洗滌シテ今日ノ粹ヲ得タリ、然ルヲ安ンゾ再ヒ昔時ノ弊ニ復スルヲ望マン、加之神政府ノ中ニ裁判所ヲ担キ込ミ、代言人アリ裁判官アリ原告被告アリテ嚴然タル法^{〔廷〕}ヲ設クルトハ生ノ夢ニタモ望マサル処ナリ、福音ノ真理發揚セハ斯ル誤謬アル教会モ化醇シテ我組合ノ如ク單純ナル者トナルベント信スルニ、却テ組合教会ヲシテ退化セシムルトハ豈進歩ノ理法ナランヤ、若此憲法ニシテ行ハシメハ教会ノ精神ヲ阻喪スルノミナラス、上告ノ道ヲ設ケシカ爲ニ却テ訴訟ノ繁雜ト弊害ヲ惹起シ、他日法ヲ設クルノ弊何ソ此ニ至レルヤト歎スル事アラント存申候、何ニシテモ此憲法ハ文明ノ潮勢ニ反対シ社会進歩ノ理ニ逆フ者ト被考候ニ付、仮令一致合併ハ可望トスルモ、此憲法ニテ合併スル事ハ成し得サル処ニ御座候、当神戸教会ニテハ過ル日曜日全会一致シテ来月ノ大会議ヲ延期スル事ニ決議仕候

右小生ノ愚見ニ御座候、尚再説スレハ新憲法ハ社会進歩ノ大法ニ反スルカ故ニ之ヲ受容スル能ハス、敢テ一致ヲ不賛成ト云ハス、組合教会カ一致教会ニ吞マレタルカ故ニ不賛成ト云ハス、新憲法ハ福音ノ真理ノ發達ト共ニ併立スル事能ハサルカ故ニ不可ナリ、社会進歩ノ大法ニ悖ルカ故ニ不可ナリ、福音ノ真理發達ニ併行シ得サル者ハ今日ヨリ之ヲ棄ツルニ於テ何ノ不可アラン、況ンヤ社会進歩ノ大法ニ反スル者百年ノ後禍害アルニ於テオヤ

蒼卒、筆ヲ取リシ事ナレハ乱文意味通セサル処有之ベク候得共何卒御推読被成下度、書意ヲ尽ス能ハス心事御諒察之程奉願候、早々頓首

十月卅一日

政恒

昨夜熊本ノ海老名兄ヨリ教会へ送ラレタル書面ニ、ギユリキ氏ノ意見ヲ記載シアリ候、之ヲ熟読シテ更ニ小生ノ考ヲ深カラシメタル事ニ御座候

293

十月三十一日

阿部政恒

④墨 ⑥端書、新島朱筆「十月卅一日」

拝啓仕候、陳者御書面之趣き直ニ川本老兄と相談し金貳円を封して贈る前約を取消し候間御承知被下度候、右金員を贈与せし理由ハ約定の砌、既に先生の名義を頭はしたる事なれば何のあいさつもなく断候事ハ名譽に關係ある訳と存し、川本兄より取換置れ候間、何卒其理由御了承被成下度奉願候、頓首再拝

十月卅一日

政恒

新島先生
台下

謹ミ再拜シテ燕書ヲ新島先生ノ珠履下ニ奉ス、今天下ノ人士先生ノ偉名ヲ知ラサル者ナシ生等固ヨリ先生ノ風采ヲ想望スル事此ニ多年、常ニ以為ラク、幸ニ同志社学院予備学部ニ入学スルヲ得ハ一タヒ先生ノ警歎ニ接シ多年ノ望ヲ達セント、今茲九月科第二応シ新ニ入学スルヲ得、此ニ於テ生等皆心ニ期ス、多年ノ志望ヲ遂クト、然リ而ルヲ忽チ聴ク、先生宿痾ヲ東京ニ養ハルト生等皆失望ニ堪ヘサルナリ、然レトモ復タ如何トモ為スコラス、唯朝暮領ヲ引キテ東天ヲ望ミ宿痾全ク癒ヘテ其帰ルノ速ナラン事ヲ祈ルノミ、此頃先生帰京セラル、ヲ聞キ欣喜雀躍ニ禁ヘズ、一タヒ足ヲ先生ノ門下ニ移シ遙ニ其恩顔ニ接シ、一ハ以テ先生ノ病状ヲ伺候シ、一ハ以テ先生ノ鴻恩ヲ鳴謝シ以テ多年ノ宿志ヲ遂ケント欲ス、而シテ校之ヲ許サス、生等ノ胸中其レ如何ソヤ、因テ衷情ヲ筆紙ニ寄セ徒ラニ先生ノ左右ヲ煩ハス而已

伏シテ惟ミルニ、生等ハ無学猶ホ嬰兒ノ如キナリ、先生ハ盛徳猶ホ教育ノ父母ノ如キナリ、生等ノ此校ニ入リテ各其欲スル処ノ學術ヲ研究スルヲ得ルハ父母之力資ヲ給スト雖モ抑亦先生ノ賜也、先生夙ニ生等ヲ恤ミテ此校ヲ創立スルニアラスンハ父母家ニ千万ノ資財ヲ蓄フト雖惡ンソ此良校ニ在リテ學術ヲ研磨スルヲ得ンヤ、夫レ此ノ校ノ如キハ德育ニ體育ニ體育ニ完全ナラサルハナシ、実ニ天下ノ良校ト云フモ過言ニアラサルヘシ、生等幸ニ此校ニ入学スルヲ得、故ニ體育ニ德育ニ孳々トシテ怠ラス、他年功績ヲ奏シテ上ハ先生ノ鴻恩ニ報シ下ハ社会ノ為メニ一挙ヲ振

ハン事ヲ、應レハ前途ノ楽言フニ忍ヒサル者アリ、是レ先生ノ賜ニアラスシテ何ソヤ、故ニ生等伏シテ希クハ先生宿痾ヲ閑地ニ養ヒテ速ニ全癒シ、生等ヲシテ遙ニ恩顔ニ接セシメテ前途ノ目的ヲ達セシメハ徒タニ生等ノ幸ノミナラス亦天下蒼生ノ幸也、時恰モ寒ヲ迎ヘントス、自愛セヨ尊顔ヲ冒瀆シ恐懼止ムナシ

明治廿一年十一月一日

予備学部生徒中

新島先生

閣下

295
十一月一日 古莊三郎

④鉛筆 ⑥端書、新島朱筆「十一月一日神戸」

拝呈仕候、然ハ時下神の御恩下ニ御清康奉大賀候、偕而私義昨夜当神戸ニ到着仕候、尤も要用ハ曾テ御話申上置候一条ニテ、此度上毛及東京諸教会ノ代人ニテ関西地方諸教会ノ意見ヲ尋ル為メ、且東京部の卑見ヲ陳述の為メ罷越申候、昨夜到着来、神戸地方教会ノ意見ヲ尋ネ申候処未タ東京迄ニハ進ミ居不申候へども幾分カ考ヘ居候様子ニ御座候、已ニ延期ニ決シタルハ神戸教会ノミ御座候、実ニ未タ確タル定見ナク之ヨリ及ハズナガラ尽力可致ト存候、本朝モ村上先生及長田兄ヲ尋ネ申候、未タ充分ナラズ、幸、堀牧師ニモ面会仕候、之レも延期ハ同意ニ御座候、今日ハ幸、牧師及伝道師会堺ニ開カル由ニ付夫々出張仕候、尚一旦ハ御面会可仕候、岡山、イヨヘモ出張ノ計画致居候、実

ニ東京ノ熱心ニハ此度ハ感し入申候、^{inoney}ハ少々要し申候間、其御手当為し置キ被下度候、手紙ハ寸隙ナク汽車中ニテ相認メ申候、御推読ヲ乞フ、早々不一

十一月一日

古莊

拜

新島先生

296

十一月一日

中島末治

①新潟県新潟区東中通一番町六十五番戸

②京都府上京区寺町通丸太町上ル

松蔭町 煩親展 ④墨

敬愛 新島襄先生閣下

拝啓、時下清秋之候先生宿痼如何被為入候哉奉伺候、此程御帰京之由灰に承及候ニ付、御快方ト遙察奉欣賀候、奥様

御老北堂様益御壮健ト奉賀候、ニニ弊屋一同無異、九月十三日妻儀安産男子ヲ挙ケ兩人共至テ壮健ニ罷在、百太郎ト

命名仕候、是亦將御愛顧奉願上候、其後御無音ニ打過多罪之至ニ御座候、北越学館ニ付テハ略御承知可有之、必竟内

村君極端ノ新主義ヲ以テ隠頭策法ヲ以テ改革浸略致、或ハ生徒之望ヲ得ン事ヲ勉メ、手強キ方便ヲ以テ發起人ノ會議

ニ迫リ、生徒ニ結党ナシメタルハ氏之為取ラザル處、且ツ外国人ニ対シテハ見苦シキ所置種々有之、其器量ニ於テハ

感服ノ点多ク御座候得共、英雄崇拜ノ為メニ良心ノ明断不足ナル等ハ感心致難儀ニ候、外国人第一ニ手ヲ引キ、次ニ阿部氏辭職、次ニ小生も右陳ノ点ニ付共ニ為ス能ハザルノ人ト信候ニ付辭職仕候、此際彼ヲ免職シ能ハザリシハ彼レ強手段ヲ以テ多ク未信者ナル県会常置議員等ヨリ成立會議ヲ彼ノ意便宜ニ動かシタレバナリ、昨今此程ハ加藤勝弥氏モ共ニ為サザルノ決心ニテ内村氏ニ辭職ヲ勸メタレトモ更ニ聞カザルガ如シ、何ニセヨ發起人会ガ事情ヲ明覺致候ニ至ラズハ彼ヲ癡スルノ所分ハ決行ナシ難ク候、今日尚同氏ハ生徒中ニ盟約ヲ為サシメ團結ヲ造リ居リ、自分ノ舍弟(農学士)及ビ他ノ農学士等ヲ教員ニ招キ居候故ニ、今後ハ更ニ明カニ基督教主義ノ学校ヲ別立致スカ北越学館ヨリ同氏ヲ出スニ至ラバ、分離ノ姿ニテ多分党ヲ引テ出デ他ニ一校ヲ立テ候ナラント存候、伊勢君来新ノ由ニ付相待申居候、此事件ニ付尊意ノ程奉伺度候、御病氣ニ御故障も無之候ハ、御教示奉願上候、併シ全体ヨリ申セバ昨年ハ余リ伝道ニ傾キ、從テ宣教師ノ勝手モ随分有之候ニ付雨降テ地固マルノ譬ニ漏レス、学館主義ヲ明確ナラシムル為メノ大鍛鍊ト相成候、サテ小生一身ニ付申度儀ハ、小生来美術ヲ専好シ実ハ同志社ニ入校致候以前美術修業ニ着手致居候儀ニ有之、併シ我国今代ノ処ニテハ伝道ナリ教育ナリニ就事致サザル可ラザルモノト小兒心ニ思込、普通教育ト神學トヲ脩メ来候処今日迄是等ノ「インテレクチュアル」事業ニ執着致候時ハ何時モ暫時ニシテ腦病トカ失望トカニ陥ヒリ申甲斐無キ次第ニ相成候、之レモ全ク自性ニ違ヒ事故自然不得止候、又同志社入学以来今日迄八年間學問ヲ致シナガラ心ハ常ニ美術ニ向居候事ニ候、思ヘバ是全ク「ミステリアスプロヴヒデンス」ニシテ不知不識準備ヲ遂ゲ候事ト存候、宗教教育ナキ美術ハ何ノ益ニモ不相成候、故ニ小生ハ此際断決仕、将来ハ美術ニ全力ヲ供シ、之ヲ以テ神ノ為國家ノ為メ相尽候志ニ御座候、即チ我日本ニクリスチャンアトヲ開起候積ニ御座候、此レ小生本性ノ確信ニ御座候、此決心以来腦病モ弱神經モ飛散仕候、唯願クハ先生ヨリ一言ノ御賛成ノ御辭ヲ頂戴致度懇願之至ニ御座候、本月中旬

ヨリ実地取掛申候、何れ東京ニモ出デ外行ヲモ為ス積リニ御座候、右は時下御伺旁御報道御願まで申上候、頓首敬白
廿一年十一月一日夜
中島末治
拝

二白、奥様御始へ宜敷奉願上候、妻よりも宜敷申出候

297

十一月二日

古莊三郎

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆「十一月二日」

拝啓仕候、然ハ御病氣ハ如何ニ御座候や、昨日一寸汽車中ニテ相認メ申候処、小生関東諸教会ノ意見ヲ主張スル為メ、且関西諸教会ノ意見ヲ伺フ為メ一昨夜下神仕候、神戸ニテ直チニ阿部氏及飯田氏ニ面会仕リ候処、神戸教会ハ延期ニ相決シタル由、実ニ喜びニ堪ヘサル事ニ御座候、昨日朝ヨリ村上、長田両牧師の門ヲ叩キ段々話ヲ致シ候へども、未タ教会ノ輿論ハ纏リ居不申候、然レトモ延期ヲ望ムトノ事ニ御座候、夫ヨリ直チニ汽車ニ投シ堺ニ開ク京坂神諸牧師会ニ臨席仕候、就テハ小生より来遊の主意ヲ述べ申候処、皆聞度シトノ事、及ハスナガラ延期ノ主意ヲ陳述仕候、然ニ同意ヲ表シタルハ神戸教会ノミニテ、他ハ一言ノ同意ト云フ言ヲ聞カス、実ニ失望仕候、更ニ氣ヲ配リ直シテ繰返シ々々延期ノ主意ヲ吐露致し候処、宮川、本間、松山、金森等ノ一致論保護者ヨリ種々ノ難問ヲ問掛ケラレ、

殆ト一時ハ答弁ニ困難仕候、是彼等ノ意ハ小生ヲシテ語ヲ塞カシムルニ在ル事ヲ推シ申候、若シ小生ノ語塞カルトキハ大ニ彼等ノ勢力ヲ得ルナラント存タルナルベシ、夫ヨリ小生委員ニ向て段々相尋ネ且教会ノ代人ヨリモ種々委員ニ相尋ネ申候処、委員ノ答弁ハ左ノ如シ

来ル二十三日ニ開ク會議ハ則組合總体ノ臨時会ニテ、是ヲ以テ最終ノ（一致）ノ會議トハ思フ可ラズ、故ニ未タ輿論ノ纏ラサル教会ハ其旨議會ニ申出スベシ、議決ノ權ヲ委託セラレザル代人ハ發議スル能ハサレバナリ、又草案アル教会ハ之ヲ携ヘテ出ツベシ、且會議ニ之ヲ計ルベシ、一致ヲ是トスル（憲法草案ノ儘ニテ）之ヲ議會ニ述フベシ、如斯シテ是迄組合總會ノ慣例ニ由テ會議ヲ開キ互ニ討論熟議ヲ經テ尚教会ニ計リ、后チニ初メテ異議ナキニ至リ一致スベキモノナリ（委員ノ中ニモ、金森、松山ハ憲法草案ヲ至当トシ、宮川ハ修正スル処アリト云フ、然レトモ若シ修正シテ一致ガ出来サルナラバ之ヲ以テ一致スル差支ハナシト云ヘリ）、故ニ此度ノ相談会ニ於テ「^{〔朱〕}変名」多数ノ可否權ナキ代人アルトキハ如何トモスル能ハス、強ヒテ一致セシムル能ハス、又一ニテモ自カラ非一致説ヲ鳴ラシテ分離セサル限ハ、一ノ教会ト雖、之ヲ棄テ、合併ハ為ス能ハス、矢張今日迄ノシスターシツプヲ以テ之ヲ扱フ事ハ敢テ我儕ノ疑ハサル処ナリ、決シテ〳〵是ヲ「^{〔朱〕}六」終局ノ談判トハ思フ可ラスト、然ハ「^{〔朱〕}七」會議ハ臨時總會ナレバ是非トモ代人ヲ出サル可ラズ、是ヲ出サレバ組合ノ聯合ヲ破ルナリト

此委員ノ説明ハ大ニ説明シ得テ出席員ヲ籠絡セリ（中々油断ナラズ）、然レトモ表向キ如斯ナル故ニ諸教会ノ意見ヲ問フニ至テ左ノ如クナリタリ

延期ヲ請求スル分

- (1) 同志社教会、(2) 神戸教会（臨時總會ナレバ代人ヲ出シテ延期説ヲナシテ決議会ニハ出席セズ）、(3) 三田教会、(4)

長浜教会（神戸ト同シ）、(5)多聞教会（神戸ト同シ末太教会ノ輿論ハ分ラズ）、(6)兵庫（同上）、(7)岡山（今ヨリ憲法ヲ修正ス、然レトモ二十三日迄ニ出来ス、故ニ出席シテ延期説ヲトル）

以上七教会、然レトモ皆組合諸教会ノ捻会ニ出会スルハ至当トス

合併説

平安、四条（丸テ無氣力）、天満、浪華、島ノ内、大坂、郡山、岸和田、高鍋

以上九教会 主意雲ノ如シ

以上ノ如クナルヲ以テ小生ハ及ブ丈ケ延期ヲ請求シテ出席セサルヲ好トス、

故ニ今少シ

然レトモ関西地方ヲ奔走スル覚悟ニ御座

候、万一（関西ノ諸教会ガ組合教会ノ総会ナレバ出席（決議ノ権ナクシテ）スルト申ストキハ関東ハ如何ニスヘキ

ヤ、此事ハ少シ惑ヒ申候、何トナレバ関西諸教会（已ニ延期ヲ請求スルト決意セル者）ノ意ヲ悪クスル事ハナキヤ、

御意見アラバ御聞セ被下度候○実ハ万事参上御話申度候得共、委員等ノ小生ヲ視ル事蛇蝎ノ如ク、頻リニ小生ヲナタ

メテ帰ラセントスルノ風アレバ、或ハ秘密漏レテハ大切ト存候故、態ト参堂不仕候、今日ハ兎も角も同志社教会ノ人

々ト懇談仕ル筈ニ御座候、若し参堂スル事苦ラズハ実ニ幸ナル事ニ御座候、御返事被下度候

尚小生ハ今明日ニ神戸ニ帰り、中国地方、イヨヘ出立仕度存居候如何ニヤ、

大坂ハ本間ト宮川ニテ城ヲ築キ居申候、本間小生ノ教会ニ來ル事ヲ断リ申候、可笑

乍併御難

題暫時金員御立換被下度、上毛、東京ニテ集金出来候ハ、御返却可仕候、奔走ニハ随分入費ヲ要シ申候、是ハ宜敷候

ハ、便ニ御渡し被下度候

先ハ万事御返事相待居申候、早々以上

十一月二日

十一月二日

鶴田三郎

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆「十一月五日來ル」

神ノ御守リノ中ニ海上御無事御着之由奉欣賀候、陳は昨夜祈り会より帰宅致候へバ御電報承知致、今朝古莊君ノ宅へ参リ御書簡拝読致、只今より大迫兄ノ処へ持参致テ池本兄へ廻し、而シテ上毛諸教会へ廻ス様可仕候、近日聞ク処ニ由レハ過日差出シタル延期請求書ノ返答ヲ書面にてハ出ササル由、草案委員の内尤モ有力者タル菅人ガ教会々々ニ來ツテ返答スル由、若然ラハ私共ノ望ム処ノ返答デ無クシテ委員より私共ニ又請求スル処アル可シ、併シ其返答ハ延期請求ノ為メニ撰ハレタル委員ノミニテ受ル事ニ致シ置タレド、若シ安息日ノ如キ教会員ノ集リノ中ニ來ツテ委員ノ勇弁ニテ説付ケラル、時ハ無氣力ナル輩ハ又ウゴクならん、聞処ニ由レバ草案委員ガ教会ニ來リテ教会員ニ委員ノ苦難ナル事情ヲ説キ、而シテ委員ノ前にて委員より請求スル処ノ返答直チニ決義サスル由、然レ共已ニ御教指ニ從ヒ七教会ハ一個ノ運動セサル事ニ決シ置キタレバ安神ナレド、先日杉山兄ノ按手札ノ節、伊勢、小崎、湯浅ノ諸氏赴カレ弁ト情トヲ以テ説カレタルニ付、何分カノ元ノ氣力ヲ失ヒタル心チ致ス、如何トナレバ初メノ内ハ如何ニ成ルトモ會議ニハ一人モ代員ハ出サヌノ決心ナリシモ、今ハ七教会より菅人ノ代員ヲ（合併決議前ノ組合教会ノ集會ニ出ス事ニ成リタリ、此ハ伊勢君ノ勸ニ應ジタルナリ）然シテ又曰ク、我輩七教会モアマリ頑固ニ成ラサル様スベシト、又聞ク処ニ由レバ、前橋ノ有ル有力者ニ向テ伊勢君ノ謂ル、ニ、私モ組合教会ノ菅人ナルニ少シモ今回ノ事ハ御相談無キのみならず私ニカクシテ私ヲ仇敵ノ如ク成サル、ハ遺憾ニ堪ズトテ非常ニ説キ付ケラレ、其人モ今ハ少シク元氣ヲ失シタル赴（趣）、是レヲ以テ之レヲ見ルニ若シ今委員ノ勇弁ヲ

以テ上州諸教会ヲ説カル時ハ何分カウゴクならん、然ト雖、延期ノ主義ヲ曲ゲル如キ事ハ無之候、今関西延期賛成ノ諸教会ニ乞フ処ハ一日モ早ク委員ノ手元ニ延期請求ヲ御差出シ被下度し、然ラハ延期請求スル教会之数モ二十ニ近ケレバ委員ノ巡回モ又見合スルならント被存候、願ハクバ右之次第ヲ古莊君へも御報被下度願上候、私より古莊君へ報知願度存候へ共未タ宿所ヲ不存何卒／＼よろしく御願申上候、昨夜同志社教会よりノ御書面拜読致し大ニ喜ビ申居リ候右ハ用々迄、早々

十一月二日

鶴田三郎

新寫先生

尚々、氣候不順なれば御身体御大切ニ願上候、御病氣益々御快氣と信ズ、黒川つね姉よりもよろし^{〔ママ〕}、近日御尋申上べく候とのことなり

299 十一月三日 古莊三郎

④墨 ⑥新島朱筆「十一月三日」

拝啓仕候、昨日松尾氏ニハ面会致荒増^{〔カ〕}心情吐露致し申候、子も甚同意ニ御座候、然レトモ山中氏ニ面会セズ、実ニ残

念ナル事ニ御座候、何卒尚先生ヨリ関東ノ内情小生ヨリ御話し申タルトシテ、充分ニ御話被下度奉願候へト思フ程、此度ノ会議ハ危険ナル会議ト存ラレ候、如何トナレハ憲法ニ就テハ誠ニ幼稚ナル教会ヲ驅テ或部分ノ者ガ之ヲ籠セントスルニ在リ、今少シ尽力セサレバ憲法ノ修正も成ラス其儘ニテ一致スルニ至ルヤも難計被存候、実ニ自由主義存亡茲ニ在ルカ〔下〕存候、思フテ茲ニ至レハ感慨ニ堪ヘス、惟今日迄各教会ガ自由主義ノヲ以テ教育ヲ為シ居ラサリシ事ヲ残念ニ存候、小生ヨリ尚又山中、松尾ノ二氏ニハ依頼可仕候間（同志社教会ナリトモ関西ニテ自由主義ヲトリトメ度）、充分ニ御依頼被下度奉願候、昨夜一寸金森氏或人へ此度會議ハ決議会ニハアササル段話し居リシヲ聞キ取り申候、必ラス此手段ヲ施ス事ト存候、何卒先生宜敷御話し被下度奉願候
折角国家ノ為メニ御自愛專一ニ奉祈候、早々頓首

十一月三日

古莊三郎

昨夜汽車ニ乘リヲクレタリ、直チニ神戸明石等へ出張可仕候、小生ノ為メニ主ニ御祈り被下度奉願候

300

十一月四日

藤原直信

①同志社 ②寺町通 机下 ④墨 ⑥封筒裏、新島朱印判

清書も不致甚タ失礼ニ御座候へ共、御許容被下御推読奉願上候

謹呈仕候、秋冷之候、先生も段々快方に趣かせられ候由承り大ニ安心致し感謝仕居候、猶ホ時候変りの節に候へバ随分国家の爲メニ御養生專一ニ奉祈候、偕て、私儀先生の御帰京遊さるゝと聞及ひ候てより日々指を屈して御待ち申上、今度ハ愈々温顔に接して久しぶりの御高説を承り可申と心中に期し居候処、豈に図ん哉、皆壁画餅に帰し、実に残念至極之至りに存し候、併し全校の生徒皆御目ニ掛り度思ひ候へ共、教師ノ一言ヲ守り敢て御尋不申、只怨望致居候事なれば私一人衆目を忍ひて御目ニ掛る事ハ私の快とせざる処ニ御座候へバ御面会申す事ハ断念致候、就てハ私儀毎夜神父の御前ニて御目ニ掛る而已ニテハ朦朧として心ニ満足不致候間、是非先生の御真影を御授与被下度、且又其ニ添て私共青年が将来に日本の爲に働んとするに其覚悟ハ如何なる心持にて如何なる用意を致すへき哉ニ就て先生の御感し被遊候要点を一句にても宜敷御座候間御教諭奉願上候、若し此事の外ニ御忠告被下候へば此上もなく奉存候、終ニ御教諭を被下る御心組の爲メニ私の傾きを申上候へバ、全体より言ハ宗教の爲に働き度念慮多分ニ居り申候、併し晩学の上実ニ愚鈍なる者ニて自分ノ如き者が此の活潑なる世の中ニ出て何の益に立ッへき哉と思ひ、時々失望致す位ニて、恰も人間中ノ蝸牛か又ハ枝葉なき棒の如き者ニて御座候間、左様御察し被下、御忠告御教諭被下度候へバ猶難有奉存候、右ハ何時ニても御快き節御氣随ニ任せ申候間当地御出立後ニても宜敷御座候、早々敬白

十一月四日

四年生 藤原直信

新島先生

十一月六日

人見一太郎

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆〔^{ママ}十月十日〕

十月十八日及十一月一日発の貴書忝く拝誦仕り、大に関東の形勢将来の運動に關して覚悟する所有之大幸に奉存候、当地の模様は先つ好景氣の方にて、去る三日熊本講義所は全会一致延期に決し、福岡、高鍋、八代、宮の城の諸教会へは同処より延期の檄文を廻送いたし候、且つ合併の事にして委員三名を撰み、田中、草壁及蓑田（伝道に従事す）之に任し、不日延期請求書を差出す筈に御座候、八代は南遊の序にて江波及重なる人に向ひ延期の同意を得候、熊本講義所も前木曜日夜と前安息日に研法憲法研究会を開き候処、拾三四才の小兒さへも余程にインテレストを置きて熱心に研究仕候、海老名、田中、草壁、河田等は勿論全体不同意の個条甚^{〔初〕}太少からず、信仰個条に就て監督的専制政治に就て皆不同意に御座候、今度の研究会は甚た熱心に、甚た性急になし居候へは今一二回にて大抵終り可申候、その上にて教会全体憲法に關する意見を一定する筈の由に御座候、来る十一日には当講義所を教会となす事に就て大阪より宮川来熊可仕候^{〔調〕}へ共、之かために蹂躪せらることは決して有之間敷、田中、草壁等も宮川来熊前に^{延期}の事などは見事に結了いたし置く覚悟に有之、憲法に關する意見もそれ迄には十分反対の方に決定可仕候間、決して御懸念相成間敷奉願候、小子も来る十三四日頃より帰京の筈に御座候、路次高門を叩きて御教示拝聞いたしき度きこと万々に候へ共、民友社の方も急ぎ候間如何なるへき敷、予め申上兼候、時下次第に寒冷相催し候間、玉家の為め折角御自愛專要に奉祈候、勿々頓首

十一月六日

人見
拜

新島先生

玉案々下

302 十一月六日 井深梶之助

①東京麻布筆筥町三番地 ②京都府同志社学院 親展急用 ④墨 ⑥封筒裏
書、新島朱筆「○襄ノ回答〔草稿〕此中ニアリ」

拝啓、爾來御疎音ニ罷過候処御起居如何被為在候哉奉伺候、陳者両教会合併之大問題も愈本月中ニハ決定せらるべき
場合に臨候処、近來東京府下并ニ上州地方ニ於て新嶋先生ハ合併不賛成也、不同意と言触候者有之、其がため大に疑
心を懷き候人々も不少、ために伊勢、小崎之両兄ニ於ても一方ならず心痛之様子ニ見受られ申候間、何と歎責て數言
ニてもよろしからむと存候間先生之御意見を御表明被下候事ハ叶申間敷候哉、先頃得貴意候節之御咄、又金森兄之咄
ニよりも先生ニ於てハ合併御賛成之事と存候、されば右之風説ハ全く無根之風説にて先生之御意見を「ミスレプレ
セント」致候ものと存候、又其がために大に合併之妨害とも相成べくと存候間、何と歎合併御賛成之^{〔趣〕}赴を簡単に御表
明被下候事ハ叶申間敷候哉、既ニ御承知之通、関東之組合教会ハ十一月之総会を來年五月ニ延期候様請求致候由ニ座^{〔御説〕}
候、右之風説も其一原因と相成候様見受られ申候、左様之事有之候てハ万々先生之御趣意にも通申間敷、且誤解より

左様之事有之候てハ如何にも残念と奉存候、右ハ事之重大なるがために御病中をも不顧申上候段不惡御諒察御承諾被

下度奉願上候、謹言

明治廿一年十一月六日

井深梶之助

新嶋襄先生

梧下

303

十一月七日

大迫真之

④墨、朱 ⑥欄外、新島朱筆「十一月八日」

池本ハ全ク生等ト同心一体ニ候○上州へハ度々音信スレトモ何タル返信無之候処、如何ナル心持ニ候ものニ

や、何ニ致セ両三日中人ヲ遣ハシ可成是非トモ同一ノ運動ヲ致サスベシ

只今玉書拝読、東京通信云々ノ一件実ニ生等ニ取リテ意外千万ノ至リニ候、元来東京上州ノ延期請求委員中ニモ大坂

會議ニ委員ヲ出スガ至当ト主張スル者ナキニアラズ、然レトモ生等不肖ト雖、豈ニ黙々夫レニ甘伏仕ランヤ、生等ノ
素志定見ハ断乎トシテ（今ノ時ニ当リ）大坂ニハ委員ヲ出サヌニアリ、然シ廿三日大坂ニ於テ開ク組合教会ノ内會議

（長田ヨリ通報ノ分）点ハ止ム事ヲ得スンバ一人ノ使者ヲ差立テ（但硬直ナル）「関東七教会ハ既ニ延期ヲ請求セシ

以上ハ素ヨリ本日ノ決議会ニ出席出来兼候ニ付、此旨敬スル組合諸教会委員閣下ニ白ス、組合諸教会右七教会ヲ捨

テ、決議會ヲ開キ被下テモ今ヤ致シ方ナシ、只正當ノ正理ニ則トリ不本意ナガラ見捨ラルベク候ナリ」トノ數言ヲ陳セシメテ何ト云ツテモ裡ヲ^{〔ママ〕}払ツテ勇退致セサスルニ赤坂委員ハ決議仕居候、何レ明日番町ノ委員ト會議シ右ノ手筈ニ致サセ度、番町赤坂決定ノ上迅速使者ヲ上州ニ飛バセ右ノ様決定致サスル筈ニ御座候ニ付、漫リニ御心配被成下間敷候様切望不斜候、生等ヲ信シ被下ズトハ残念ナリ、小生等ノ考ユル処ロニテハ古^{〔朱〕}莊廿三日ノ會議迄大坂ニ滯ルハ我徒ノ為メニ不得策ト存候ニ付至急帰ル様電信セリ、若し滯ル様ノ事アラバ色々變事ナキモ保セズ、依ツテ此儀丈ケハ御説ニ反對ニ候

生等ノ考ニテハ大坂ノ組合内會議ニ出ス使者ハ名モナキ硬直胆氣アル青年ニテ適當ト存シ候

併シ正面カラハ右ノ青年ヲ差出サスモノ、潜カニハ関東ヨリ卷二名ハ廿三日前ニ大坂、神戸ニ参リ神戸教会等モ関東ト同^{〔朱〕}一ノ働キヲナス様ニ尽力致サスル覚悟最中ニ候

委細ハ都合ニヨリ案外ナ幸便御宿迄アルヤモ計ラズト存候ニ付、其^{〔朱〕}節^{〔朱〕}手紙^{〔朱〕}ヨリ^{〔朱〕}申^{〔朱〕}伝^{〔朱〕}ヘ^{〔朱〕}申^{〔朱〕}述^{〔朱〕}ブル事アルベシ、幸便ナリトモ又委細ハ^{〔朱〕}便^{〔朱〕}ニ^{〔朱〕}讓^{〔朱〕}ル

〔朱〕十一月七日夜認

大迫真之

委員曖昧ナ事モ申ストモ何カアラン、廿三日ハ全ク決議會ニ相違無之候、伊勢氏ヨリノ布達、廿三日決議會ヲ開クト明記セリ、生等ハ之ヲ信ズ、他ニ知ラズ、^{〔朱〕}又他ニ来ラズ

〔別紙、朱筆〕

案――

第二回総会ニ於テ決議セシ主意ニ従ヒ、一致教会ト合併スルノ事件ニ付憲法草案議定スルカ為メ、本年十一月廿三日大坂ニ於テ臨時総会相開候条此段御通知申上候

明治廿一年十月十九日

憲法草案編成委員

東京第一基督教会御中

尚々、代人御差立ニ付若シ會計上御差支ニモ候ハ、米国伝道会社ヨリ御助力可申上申来候
之レノ原書ハ葉書ナリ

304

十一月〔九〕日

古莊三郎

④墨 ⑥新島朱筆「十一月九日」

〔情〕

拝呈仕候、然は度々御書翰拝承仕候、神戸地方ノ状景ハ曩申上候通りニテ此度ノ事ニ就而ハ何トナク牧師トノ間ニ隔心アル様ニ相見ヘ申候、其故ハ牧師杯ハ大抵ハ一致論者ノ氣意アリ、之レ関西ニテハ二三牧師ニ勢力アリテ他ノ者ハ皆其論鋒ニ敵シ兼テ遂ニ降伏シタルモノト存候、然レハ憲法ニ就テ論スルトキモ何トナフ二三牧師ノ口氣ヲ真似ルガ如風アリ、実ニ言甲斐ナキ次第ト存候、之ニ引變ヘテ愉快至極ナルハ此度ノ事變ニテ教会員ガ睡眠ヲ破リテ進ンテ意見ヲ吐露シタル一事ナリ、大約教会員ト牧師トハ反対ノ意見アルガ如シ、神戸地方ニテ目撃見聞シタル状体ハ右ノ通

リ御座候、然ハ此度ノ議會ノ破烈ニ至ルハ必然ニシテ勢茲ニ赴キツ、アルナリ賀スベキ事ト存候

予州ノ景況ハ上々ナリ、曾テ神戸ヨリ二宮〔邦次郎〕及小松ノ長谷部〔倉蔵カ〕の二氏ヲ今治召集メ置キタル故、今治ニ到着スルヤ二宮氏

ハ先ニ在リタリ、又小松長谷部氏も到着セリ、夫々今治ニテ柳セ、増田、矢野等ノ諸氏、塩見氏等ト談論教刻ニ涉

リ、或ハ質し或ハ答ヘタル処、今治ニテ既ニ延期ニ決シ居レハ之ヲ決行スルトノ事ナリ、尤も延期書ヲ出スハ則チ出

席セサルト云フ事ニテ、タトヘ議會ヲ開クモ出席セサル事ニ定リタリ、又他ノ教会ハ延期ノ為メニ代人ヲ出スモ、今

治ハ遠方ニモアレバ神戸ナド、ハ同日ノ論ニアラサレバ決シテ惟延期ノ為メニ代人ヲ出スノ必要なし、松山、小松も

同論ナリ、故ニ予州ハ全ク関東ト同論ニテ全ク代人ヲ出サ、ル事ト相成申候、就テハ我党ノ勢力ハ先ツ勝ヲ制シタル

様ニ相見ヘ申候、然レトモ尚勝テ甲ノ緒ヲメヨト申事も有之候間、精々万事ニヌケ目ナク立働キ申候覚悟ニ御座

候

然ルニ茲ニ一ノ難義ナル事アリ、小生数日ノ汽車汽船等ノ旅行ニテ大ニ疲労ヲ致シ身体大ニヨワリタリ、又到ル処ニ

説教ヲ頼マレ、田舎人ノ癖トシテ物事ニ凝固スルノ性アルヲ知レハイヤトモ云ハレズ、説教ナド相勉メ大ニ精神ヲ不

活潑ナラシメ今日ニテ何分堪ヘ難ク相成申候、風邪先ツ御治リ申候へども咽喉充分ナラズ、旁々一先ツ休マサルヲ得

ザル場合ト相成申候処、実ハ斯ク永引クトハ思ハサリシ故次ノ日曜日ニ洗礼式ヲ執行致ス筈ニテ其用意致置候故、何

ヤ蚊ヤ氣ニ相掛リ候事も有之候故、岡山ハ先ツ残念ナガラ残し置キ、一先ツ帰京仕候、然レトモ此度ノ事ハ必ラズ相

貫ク精神ニ御座候間、又々何トカ工夫可仕候間、御安心被下度候、若し已ム得サル場合ニハ教会ヲ離レテモ仕遂ゲ可

申候、御手紙ノ趣ハ一々御同感御座候、尚一応御面晤仕度候へども明日船ニ乗込ミ申候、御面会ヲ得ス、サレハ御精

神ハ手紙ニ触レ居候間、能ク相語り申候、何卒後來ハ共ニ進退可仕候間、宜敷御教示奉願候、先ハ残念ノ手紙如此

ニ御座候、然レトモ望ハ充分達シ申候、此度ノ議會ノ破ル、ハ顯然タル事ト存候、其後又々計ル処アル、^(リ)早々以上
十一月

305 十一月九日 堀 貞一

①江州八幡池田町 京吉方 ②京都寺町九太町 平信親展 ④墨

拝呈、尊堂主之恩寵溢之御清祥奉欣賀候、近頃先生御病氣如何被為在候や、尚春御東上後時々御起居相伺度存居候所、何分僻地の悲サ御滞在之所名を知ル能ハず彼是遷延本日ニ至、謝するニ言なく平ニ御海容可被下候、兩三日前当八幡ニ罷越し候所、先生の御親書を寫田兄ニ賜たるを拝誦いたし、一ハ先生ノ御執筆被遊候事を祝謝し、拙生ノ怠罪を謝するの念生し、只今暫時の閑暇を得て愚札相認候次第ニ御座候、当地福音之模様ハ既ニ寫田兄之報せられし事と推察仕候、拙生着後ハ毎夜講義所ニテ説教仕り、昨今ノ兩夜ハ寄席ニテ説教会相催申候、昨夜ハ式百名以上之聴衆有之皆ナ謹聴いたし居候、来ル安息日ニハ洗礼聖餐礼執行の覚悟ニ御座候、願ハ主之聖^(カ)分当地の事御記憶可被下候
本月下旬ニハ上京拝願いたし度き存念ニ御座候、乍憚御老母様御内室宜敷御伝声奉願候、書外拝眉ニ^(ニ)養ル、恐々再拝

十一月九日

堀 貞一

拝

新島先生

閣下

時下不順猶ホ御自愛奉祈候、彦根教会も去月十七日新会堂落成奉堂式挙行仕候、総入費凡ソ五百五十円、内凡ソ百八十円ハ外内教友と未信者ノ寄付ニテ、外ハ凡テ会員之負担する所ニシテ、幸ヒ少々余金有之候次第誠ニ感謝之至ニ御座候、其建物坪数ハ凡ソ廿七坪強ニ御座候、而シ「ベンチ」ヲ用ヒ、凡ソ貳百貳十名を納レ得ル程ニ御座候、又求道者之都合ハ先ツ設立以来の好景と申居候、然ルニ拙者長浜ニ兼務ニテハ到底不充分ニシテ勢ヒ会員をして不足を感セしむの懼有之候ニ就き、一ト先ツ去月来辞表を差出し大坂辻兄を招き候覚悟ニ御座候、目下其運ヒいたし居候、是等も合セテ御承知置被下度奉願、二伸

306

十一月九日

井深梶之助

①アサフ タンス丁三ハンチ

②ドウシヤ

③電報 (送達紙)

デンシンデ。ヘンジヲ。チャウダイ

307 十一月十一日 池本吉治

④墨 ⑥新島朱筆「十一月十四日来ル」

拜啓仕候、陳ハ関東より一人ノ委員ヲ決議会ニ出席セシムル云々ニ付、頃日竹越、大迫ノ兩人迄御遣ノ御書拝読仕実ニ驚愕仕候、東京より誰人ガ此事ヲ先生ヘ通知致候や存不申候ヘ共、是れ全く右通信者ノ誤解カ然ラズバ先生ノ誤解ニアラザルカト愚考罷在候、教会ニ真正ノ輿論ナク意見ナキガ故ニ延期書ヲ請求致シタルモノナルニ、如何ニシテ決議会ニ代人ヲ差出スヲ得ベキ、是れ明白ノ事ニ御坐候、最も先頃ヨリ当地方にて左の如き議論ハ行ハレ申候、即チ若シ大坂ノ組合相談会ヲ以テ単ニ諸教会ガ延期説ヲ持出スノ會議ニ過ギストセバ何ソ徒ラニ一教会ヨリ一人ツゞ委員ヲ出スノ必要あらん、只関東七教会よりハ延期ノ事ヲ申出ツル為ニ一二人の委員即使者ヲ出シ、之ヲシテ関東諸教会ノ意向ヲ陳セシメ、該会若シ其言ヲ容レズシテ決議大会ニ出席スルガ如き事アラバ、右代人ハ決然袖ヲ振ヒ屑ク退テ関東ノ独立ヲ表セシムベキノミト、此説タル、決して決議会ニ委員ヲ出スト云フニ非ラズ、又憲法ノ可否ヲ相談スル組合会の相談会ニ委員ヲ出スト云フニ非ラズ、只組合会迄延期説ノ使者一人ヲ出シテハ如何トノ事ニ御坐候、思フニ先生ヘ通信シタル者ノ言、或ハ右ノ説ヲ誤解シタルニハ非ザルカト存罷^カ在候、別段ニ必要ハ之ナク候ヘ共只一言并し置申候

東京ノ憲法委員ノ手ヨリハ一昨日先ノ請求書ヲ聞届ケザル趣キノ返答書ヲ関東各教会ニ配布致候、併し東京両教会ノ委員ハ一昨々日会合仕、大坂組合会ヘハ断書ヲ関東連名ニテ差出シ、此書ヲ遊説且事情探知ノ為メ一人ノ使者ニ持タ

セテ大坂ニ出張セシムル事「決議会へハ委員ヲ出サバル事」及ヒ関東ノ臨時部会ヲ十三日高崎ニ開キ此事ヲ議スル事等ヲ決議仕、鶴田君昨日ヨリ上洲^{〔州・以下同〕}へ出張仕候、而して十三日ニハ小生若クハ竹越君、或は其他ノ者高崎迄出張致ス可ク談合申候、然ル処上洲杉田、杉山兩氏ノ許ヨリ又右ト同時位ニ、前橋ニ於テ相談会ヲ開ク旨右ト同時ニ通知来申候、仍て時日ト場所ノ議ハ鶴田君ト上洲諸君ト打合ノ上之ヲ定メ、直ニ相談ヲ開クノ手筈ニテ御坐候、今日目下伊勢氏ハ新鴻へ行キ不在中ニテ、湯淺氏へハ無頓着ノ如ク、只小崎氏一人にて色々心配ヲナサルレトモ氏ノ力或は及バザル可キカト存候、然れども決して油断出来申サズ候

非常ニ取急ギ居候へ共、実ニ意ノ如クナラズシテ困入候事ハ、^{〔会衆派教会政治摘要〕}会衆教会ノ議決書之儀にて御坐候、此書既ニ先般脱稿

仕目下印刷ニ着手ハ致居候へ共、此草稿ヲ一度丈小崎氏校閲サレテ其校閲ノ済分丈ツ、版屋へ廻ス事ニ致居候処、同氏も実ニ繁忙にて其校正甚タハカドリ不申、小生も又竹越君も常ニ催促致居候へ共、同氏も今回ノ件ニ付心配ノ上ニ繁忙ヲ重ネ實際火急ニ運ヒ兼候、今日ニ於てハ小生只々不文ノ為ニ右齟齬ヲ只今迄延引セシメテ先生ノ心ヲ痛メ又時機ヲ誤マラントスル事実ニ何トモ申訳無之悔憾罷在候、然れども火急取急ギ是非共急速ニ出来可致、若し又先生より小崎氏へ宛て至急御催促被下候ハ誠ニ万幸之至ニ奉存候、何れ又万端之事次郵ニ御報可申上、時期モ既ニ切迫仕候ヘバ唯々神祐ニ因リ是非共延期ヲ遂ゲサル可カラズト存罷在候、早略啓白

十一日

池本吉治

拜

新嵐先生

机下

十一月十一日

竹越與三郎

④墨 ⑥端書、新島墨筆「十一月十一日」

拜復、関東より委員を出すことに決したる云々につき御心配を煩はし候処右は小子輩の一向存知せざる事にて間違と存候

其間違と申す次第は、先きに伊勢、小崎諸氏が杉山の按手礼のため上州に至りたるとき、延期の不可を述べて非合併ならば非合併には議場へ出で、其事を陳述すべしと云へしに、表向は之に同意したる教会も有之候よし、其後に至り古荘氏が五教会に至りて大坂に聞く確定議会に先ちて同日に組合。会。の相談会有之が其会へは兄弟の好を以て一人の委員を出し、縷々と延期の理由を述べ、き旨に決議したるまでに候、右の大会と組合会の間違には無之や

右は兎も角も、小生等は今日番町会の委員と相談し人を上州に遣はして一切大会へ臨まざる様に決議する手筈ニ候、また実行御心配被下まじく候、併し組合。会。へは兄弟の好を以て一人の平。信。者。○宮川其他の人と情実の關係なきものを、出たして、此上にも関東の説を述べさする積に候、併し此代員は一切の権限を申し渡し、組合会に臨みて延期を陳述するの他何言も発する事の出来ぬ様、また決して大会に列せぬ様に委托する筈ニ候、ナホ上州との相談の模様は迫て申述べ候、兎も角も古荘は一旦御帰し被下度候、同氏は関西には重量無之、却て人をして嫌惡せしむるの点を發見候間、また同氏は権限外の事をなすやの恐あり候間御帰へし被下度候、今度の日曜の晩餐に列する様ニ御放帰被下度候

仰せの委員へのツキトメ○印刷物は今より着手可仕候

新嶋先生

竹越與三郎

十一月十一日

309 十一月十二日

藤原直信

①同志社 ②寺町通 御礼として ④墨

謹呈仕候、昨日ハ御恵与の御真影を頂戴仕り、且ハ御懇切なる御伝言難有御礼申上候、尤モ御尋ネ申上候事ハ何時ニテも先生の御教示を受け候ヘバ、其ニテ満足ニ存し候、決して只今私の身上ニ迫りたるものにては御座なく、将来に向ての覚悟の為ニ御座候ヘバ、何レ其内機会ヲ得て篤と私今迄の履歴を御話し申上、且ハ御教示を仰ぎ可申候

御真影ヲ一見セシ時ハ定テ二三年前ニ御写し被遊候ものならんと存候処、古賀より近頃の御真影と聞き及ヒ実ニ嬉數存候、如何となれハ一ニハ私ニハ近頃の御容体ニ就き案し居候間、可成當時の御真影を拝領仕度切望致居候時ニ御座候ノ故ニテ候、二ニハ御真影ニ対して私の心中ニ憂ヒヲ抱き不申、何乎靄然として先生の喜ヒと望に満チて被遊る様ニ思われ、御病氣ありとハ想像の及バざりし事ニテ御座候

私儀に近頃ハ献身の生涯と云ふ事が非常ニ力を与へ、四福音の内テも特ニ約翰伝を読む事を樂ミ、何卒基督と神との

關係の如く私と基督と親密になり度切リニ心ニ願ヒ神ニ祈リ居申候、四五年前よりソクラチース及ビフランス、ザウキエーを慕ヒ居候処、近来ニ至リテ一層慕敷相成申候、此ハ私の心中喜と望みを与ふる尤モ力ある基と存候、右御礼ニ添へ御報知申上候、早々敬白

十一月十二日

藤原直信

新瀛先生

310 十一月十三日 人見一太郎

④墨

小生住処 熊本区紺や今町三十一番地 山中方

東京の模様聞き度候誰れにか筆を取与賜ふて、関東、東京その後の都合、熊本へ御報被下度候

拝啓、その後病態如何に被為在候也、御養生專要と奉存候、昨朝大阪に着し辻、宮川、亀山等に面会、該当地の模様相尋ね候処憲法に關してその用意甚た不完全勝なる次第なり、教會員は委員及牧師を盲信し、是輩乃なす事には決して惡しき事有之間敷、役に立たぬつまらぬ我意、我説を立つるは決してよろしからずと断念し、一言半句も是非の声を発するの勇氣なく卑屈因循にして奴隸に甘んずるか如き、実に組合教派の精神たる獨立、自治てふものは少しも

無之候、是れ当地の教會員は商人多くして多忙（一己の事）、教会の事を自ら負ふことなきと、無智にして牧師と知識の懸隔甚しきこととに依るべしとはいへ、実に慨すへき次第に存候、牧師も亦教會員を見ること重むからず、教會員の独自を輕んし教會員の議論を輕んし動もすれば牧師自身及教会の少数人との輿論に従て教会全体を屈從せしむることなきにあらず、今迄一度も憲法に關して教會員打寄りて研究したることなく、相談したることなく、憲法草案は一教会に（百三四十人乃至二百人）拾余部を給しあるを以て、その草案は牧師執事委員等の役人めきたるもの共のみに分配しあるを以て、教會員は未た一度も憲法を見たる聞きたる事なきもの有之候、左れば教會員の憲法に於ける、一己の考へなどは絶へて無之、無關係無頓着の極、憐れむへき次第に御座候、如何に尽力したりとて、如何に講釈したりとて注入的 he 動的に依るの外、拾一月に教會員の考を一定することは出来ずと見受けられ候、辻は之に感ずる所ありて拾一月までには到着■真正の教会輿論を定むる能はずとなし、六ヶ月延期は賛成に御座候、憲法に關して確乎たる定説なきものゝ如しと雖、大抵不同意にして組合教会輿論を定むることは同意なり、龜山は教会教会輿論を定むるには同意なるも延期せずともよろし、拾一月までには^{〔は〕}教会の輿論用意出来ければ拾一月中に組合文の会と組合一致の会を兩方なすべしと申す、憲法の事は大抵同意なり、併し合併の爲め自治の精神を失ふか如きことはよき様かとの掛念は有之候、要するに龜山、辻共自ら言ふ如く、自ら憲法の事はワカラざるべし、只宮川の講釈を頼みとするなり、宮川は憲法の形の一致的なるは■^之を認む、併し組合教会の精神を以てすれば決して一致的にならずと考へ居り候、将来百年の後憲法の關係する所を問へば、一切御考へなきなり、御頓着なきなり、只合併てふ美名に瞞着せられ居るなり、拾一月までには必ず教会の用意を整へ得る積りにて、延期などは思ひもよらざるべし、宮川の説に依れば、組合教会合併の輿論は拾一月に定むる筈、即拾一月の中頃に之を定めて、其終に確定の會議をなすの順序になり

居るなりとの事に御座候、他の委員の考へも或は斯の如くなり^{るやも}とす計り難ければ、延期の理由書をするには先づ慥に之を問ひ合せ足下のモトのスカぬ様いたし度く、且つ理由書には仮令^{いひ}斯の如く輿論を定むるも、確定の期日の甚た速力早きに過ぎるてふ事を非難い^い「た」さる可らずと思ふ、アメリカンボードよりの送金は合併後も来るべしと宮川の説なれ共、是等は是非一応慥に委員より問合せ置くが正当なり、送り来るダロウてふ不慥なる答弁に瞞着せられて安心するは決して我々の好まざる処なれば、是等の問合せの爲めの拾一月までにて確定出来議^議をなす能ハさるべし、大阪に在る諸教会か向後用意の方法とする処は、各教会より代人二三名宛を択み、宮川之を集めて憲法の講釈説明をなし、代人はその講釈説明に依りて又之を各教会員に講釈説明し、以て教会員の輿論を定むるとの事にて、次の週間頃より着手する由なり、次の週間より拾一月までは時日もなきに、真正の輿論を定めんとするは大胆とも又た独自一己を輕蔑するの甚しき事とも申すべけれ、神戸には本日参り候へ共鈴木は他出、夕方にあらされは来らすとの事にて、土居（神戸教会執事）を尋ね候へ共又居らす、即ち同執事大林久造を^聞訪ひ候処、延期及全体の輿論を定むる事同意なり、ソレより同教会の憲法研究委員横田勝治及大林と多門教会牧師長田^聞と打ち寄り、当地の模様相尋ね候、神戸教会は関西には先づ頓着注意の届きたる方にて、憲法草案^{の不足する故}不足すれば之を印刷して四五日前出来上り居り、且つ専ら憲法を研究する爲めに委員を立て、その委員か飽まで之を研究し、然る後教会員にその説を吐てその参考に供することなし居るなり、併し教会員には一度も憲法に關して相談^聞したることなし、多門教会にては長田氏自ら組合一致の來歴を話し、憲法の解をなして教会員を養わるゝこととなり居れ共、未だ一度一回丈之をなしたるのみにて、未だ用意備わりたりとは申されず、兵庫教会も別段用意整ひ居らざる由なり、横田、長田共憲法に不同意、即ち裁判部会の事は共に不同意なり、長田は延期に關しては拾一月の模様次第にするてふ考へなり、即ち組合全体の輿論

を拾一月に定むる會議の模様次第にする考へに候、横田は全体の輿論を定むることは勿論同意にして、延期も六ヶ月以上を希望す、横田は監督即教師及只按手礼を受けたる監督か政治に関する事に不同意にして、之れは神戸教会の委員大抵同感なりと云ふ、要するに大阪、神戸にて先づ頼みとなり味方もするの望みあるは、神戸教会なり、之に次て多門^(四)教会、辻の島の内教会^(之)たるべしと被考候、思ふに何れの教会も本日に入りて初めて憲法に注意したるものゝ如く、而して憲法を善正なりと見認むる信者は延期に同意せざるべし、若し不同意の廉を見出すときには、「大^電此様なものか、是れは大変、容易に承知出来ず」と思ひツキて、延期を主張するに至るべければ、今日の要は研究の未だ届かざる今日の要は組合一致の組織を明らかにするも必要なれ共、亦之と共に今度の合併に致に^一関し、憲法に関し、是非得失のある処を論究したる論文書籍を各教会に配布して彼等の注意を引き、且つ注入的無理的に教へ込まんとするものを調和制検するに在りと愚信仕候、左れは何卒竹越又は他の人に^頼み、先生の御意見(他の人の意見として)及ひその他アンチの意見に基きて憲法に関する小冊子を発売しては如何に御座候也、教会に配布する丈なればその入費も別段な事にあらされば、^可成速に一日も早く之をなしては如何、小生は^大阪、神戸、京都を廻りて実にその必要を感じ申候、若し^然らされは基督教新聞に論する様いたし度候、延期の理由書延期の檄文は^も可成速に御配布可然と存候、先は右迄、匆々頓首

十一月十三日

〔以下欠損〕

人見

拝

十一月十四日

古莊三郎

④墨 ⑥新島朱筆「十一月十四日」

一書拝呈仕候、然は京坂神滞留中ハ種々御懇書ヲ戴キ尚小生ガ奔走中ハ毎々御力ヲ添へ御勵シ被下誠ニ難有奉存候、
 実ハ今少シ滞在奔走仕度存候得共、身体大ニ疲労致シタルト止ム能ハサル要用ノ東京ニ差起リタルト二個ノ訳ニ由テ
 帰京仕リ候、然レトモ関西ニテモ大ニ長夜ノ夢ヲ攪破シタルガ如ク、一致問題ハ等閑ニ付ス可ラサル事トノ心ヲ起
 シ、頗リニ討論且研究スルニ至リタルハ実ニ小生ノ満足スル處、又幾何カ西遊ノ実功ヲ挙げタルガ如キ思之アリ候、
 未タ充分トハ存候得共、延期説も荒々多数ニ至リ、今日ノ景況ナレバ決議会ノ相破^ルレ、ハ顯然タル次第ニテ何ノ疑も
 無之候、若シ、万ガ一決議会ヲ開クガ如キ事アルトキハ、関東ハ断然独立ノ覚悟調ヒ申候間、何も恐レナキ事ト存
 候、心大ニ濶々ト相成申候、貴兄も共ニ御喜び被下度候、倅、茲ニ一ノ問題アリ、仮リニ延期説多数ヲ占メタリトス
 レバ、此度ノ會議ニ延期説ヲ尚一層強クナラシムル為メニ多人數出張可仕候ヤ、或ハ頑固トシテ出張不仕ヤ、若し出
 席セサルトキハ二ノ恐レアリ、一ハ偶々^{（笑）}延期ニ同意セル人ノ變ル事ハアルマシキヤ、又関東ハ我儘ニシテ組合教会ノ
 聯合ヲ破ルモノナリト云フ説ハ起ルマシキヤ（良シヤ開クガ我儘ナルニモセヨ）、此ハ考へ処ニテ、若し関東ガ打揃
 テ花々シク延期説ヲ主張シ、万一議會ガ採用セサルトキハ（此事ハアルマシト小生ハ考へ申候、何トナレバ多ク同意
 者アル上ニ、又委員も大ニ今日ニテハ勞レ果テタル有様ニテ、東京ノ或一人ハ殆ント多数ガ延期説ナレバ致方ナシト
 申居候）断然決ヲ揮フテ起ツノ決心ナレバ、随分面白カラント存候、小生ノ思フ處ハ、何卒関東計デナク組合教会全

體ノ命脈ヲ続キ度心願ナレバ、此度ノ會議ヲ打ヤリニシテハ却テ我精神ノ貫カサル事ハ無之ヤト懸念仕候、臆病ニハ無之ヤト存候、実ハ初ノ考ニテハ大分恐怖先立候ゆへ、断然出席セサル事ニ相考ヘ居候得共、今日ニテハ少々打勝ノ模様相見ヘ申候故、少々心太クナリ、全体ヲ打破リ度存候、然レトモ勝テ甲ノ緒ヲ占ムルモ大切ト存候、何卒御意見至急ニ御申越被下度候、先ノ安息日ニ十三名ノ受洗者ヲ得申候、教会ハ先ツ都合よろしく候、御令夫人ヘ宜敷、先ハ右迄、早々頓首

十一月十四日

古莊三郎

新島大兄

312 十一月十四日 堀 貞一

①江州長浜錦町 ②京都寺町通丸太町 要書 ④墨

拝呈、御尊堂愈々主之恩寵ニ御清栄奉賀候、過日八幡より愚札差上候後、兩三日滞在、本日帰浜仕候、先生御容体如何被為在候や御自愛專一ニ奉願候

陳ハ過日来、東京及び京坂諸新聞ハ今回大学ノ御主意書を全国配布いたし候付き、生等先生ノ鴻恩を辱セし者如何してカ千万分ノ一なりとも先生ノ御大業ニ加り度き素願なれば、彦根岸本能武太氏と計り近々同志社大学ニ付き演舌会

を催し度き存念なるが、別ニ御差支ハ無之き乎、尤も岸本氏を初メ信徒一同同意いたし尽御差支無之とあれば、同志社設立始末書初メ演舌ノ材料とも相成候モノハ一通リ御送り被下間敷や、此段奉願候、必ず御主意ニ背かざる様注意いたす覚悟ニ御座候間、合せて御承知置可被下候、勿々頓首

十一月十四日

堀 貞一

新島先生
閣下

乍憚御全家様宜敷御伝声奉願候

313 十一月十四日 木村祐吉

①東京飯田町三丁目 明治女学校 明治女学校 ②京都寺町通丸太町上ル 親展 ④墨

秋冷之候ニ御座候処先生御起居如何ニ被居候や伺度、私事は明治十七年之頃、同志社ニありて先生之薰陶を蒙り候が、御記憶之内ニは止まらざるべしと存候、何卒木村熊二が一子として御気臆奉願候、私事当時明治女学校之教授従事罷在候、然れども固より微薄信之事故ニとても十分なる働は相かなわず候へども、唯 主之恩顧ニより維持いたし居候、幣校は唯有志者之發起ニより成立致候者故、府下ニ有之候他之校ノ如くならず、不完全なる者ニて候へとも、

昨年来より既ニ五十名之信徒をいたし、^{〔出〕}毎安息日ニは百名程学校ニ集リ聖書之研究いたし居候、現今生徒之数二百二十名余、内校内ニある者七十人、跡はみな通学生ニ有之候、何分ニも人々の大切なる子女を教育いたし候事故、唯た〳〵主之御祐助を仰ぐのみニ有之候

さて弊校之一女生徒ニして宮嶋まさと申す者有之、平素至て温和なる性質ニして人ニ愛せらるゝ人物ニ有之、既ニ教を信じよく万事ニ働らき候が、過る五ヶ月程前より重病ニて打臥し居候て、戸外ニも出てがたく、日々苦しみを以て暮し居候、然るニ四五日前東京各新聞紙ニ附ろくとして西京同志社之大学設立旨意を一読いたし候て、非常の感を起せしと相見へ、かつ先生が平素御病氣なるをいたく憂へ、別紙の如く申来り候、尤も橋本軍医総監之賞讃ありしは政子の目前ニて申されしとの事ニ候、私事は力なき我校ニ神の厚き感化之行われ候事、実ニ感謝の言葉なく唯た感泣之外無之候、政子は一週間前より少しく快方ニ趣き候よしニは候へども、医師の申す所ニ依れば当冬はトテモ其命を全ふする能はずと申候ヤニ承知いたし候、何卒先生は此の一小娘之如何ニ先生を思ふかの愛を御受納奉願候、別紙封入いたし候間御読み終の上は、御返却奉願候、取いそぎ候まゝ乱筆何卒御ゆるし被下度、何卒呉々も国家之為め御保養奉願候也、謹言

十四日午後

祐吉
拝

新島先生

〔別紙〕 ①まさ子 ②「愛兄 善治様 祐吉様 御許へ」

御願ひ申上度一筆申上ます、今日神戸より帰京致しました人より承りましたニ、同志社の新島先生が肺病にてお悪めとの事に

て、其人の友達ハもと同志社の生徒にて御見舞ニ行たいとの事で御座ゐましたが、新島先生ハ今ポーロともいハれ玉ふ位の御方

のよし、兼て人より承り、今日日本ニかかる御方のおへしますを歎ひ居りました、其うち先日七日の日ニ新聞の附ろくにて熱心ニ

私立大学設立^{セツ}の爲ニ御尽力遊バす事を承知致し、実ニうれしく早く其志を達し玉ふやう、又内の学校こと早く其様な地位ニ致る^{【到】}

やうニ祈つて居りましたら、今日思ひも掛ず、御病氣でいらしやるとの事を聞き実ニ驚きました、併乍全能の神ハ今日日本に於て

かゝる御方の実ニ有やうにておハさねハならぬ事を知り玉へハ、必らず御めぐみを玉ひて速ニ御全快遊ハします事と信して、是

から熱心ニ祈ります、夫ニ付てハ先日モ申上しました今度初めて渡来致しました丸薬ハ実ニよき薬にて、既ニ巖谷一六先生の御子

息が独逸ニ留学中肺病にて段々と肺が少くなり、逆もむつかしからんとの事にて帰つてゐましたが、途中にて皆んなが医師ニ見て

もらへと申ても^{【少】}少しも聞れず、独逸より持来られし彼丸薬を日々服薬被成しに、何処まで来られしか途中にてすつぱりなほり、

今何処へか御奉職とか伺ひ申したか、小妹も夫を服薬致しましてから未タすつぱり致しませんか、少しつゝハよい方ニ向つて参

りますが、橋本先生の仰にも、もふ是から肺病ニ死ぬ人ハあるまるといハれた程によい薬ゆへ、新島先生にもさし上度そんじま

すから、愛する兄上方にハ御入こんニいらせまいらせらるゝ事と存んじますれハ、何うか委しく御様躰御たつねの上、橋本さん

とよく御相談遊ハし、彼丸薬を御送り被下ますれハ如何ニうれしき事で御座ゐましょう、かゝる事を申上ますハ誠ニぶしつ

けがましふ御座ゐますが、皆真心より申上ますなればどうかおゆるし被下まし、今日日本の男子が新島先生を要する事ハこれ程で

しどうか、実ニ新島先生ハ日本の光りし方だと思ひます

昨日愛兄祐吉様のお貸し被下しましたエリサベス小伝、昨日直ニ拝見致しましたが実ニ感する事のみにて聞しに嬉しく己の信仰の

薄きを誠ニ悲しく存しました、どうか信仰がいよゝつよく、愛心か益すゝ深く成りますやう、どうか御祈り被下^{【補】}「な」さいま

し実ニエリサベスが申しました通り丈ふのたい日曜学校会堂へ参ります程楽しみは御座いませんでしたが、「此処まで昨晩書ま

したが十二時ニ成りましたらやめて今朝又是を致します」もふ、かふなりましてハ只聖書を読てたり皆様が御出被下ますのが何

より^{【ママ】}楽しみで御座ます、誠に恐入ますが又どうか彼やうなよい御本が御座ゐましたら拝借を願ひ度ふ存じます、申し上げ度の事ハ

山々御座のますが妹の昇校に後れますからもふやめます、此手紙は昨晚遅く書初めましたから、乱書のうへ紙がたらず、書直しを致しましよふと存じましたが、遅くなりました故夫を致さず、此まゝさし上ますからとうかおゆるし被下まし

愛兄祐吉様にハ御手紙被下ハうれしく御病氣も御快くいらされますとの御事、何よりハ御うれしふ存します、是から段々御

寒く相成ますからとうかよくハ御用心遊ハしますやう呉れハ最も愛なる兄上方ニ願上ます、小妹も両兄が益すハ御健康に

て御志を達し玉ふやう日夜ニ折つて居ります、エリサベス小伝うつし度存しますから誠ニ恐入ますがしハらく御貸被下ますや

う、とうか御ゆるし被下さいまし、乱筆故御めん被下ま(ママ)かしこ

十一月十三日

小妹

正拝

最愛なる兄上

善治様

祐吉様

314 十一月十五日 原 六郎

①横浜正金銀行 ②西京寺町通丸太町 親展 ④墨

拝読、陳者大学創設寄付金之義ニ付御申越之趣一応御尤もニは候得共、小生分ハ他之寄付者とハ自ら異り居り、已前ニも別口ニ寄付致候事も有之候故、過日北垣知事まで申上候通り今回分ハ年ニ利子金を差出し候事ニ致度、斯くてハ

他ニ差響き可申との御懸念も有之候得共、決して去る御懸念ニは不及ト存候、其故ハ他之寄付承諾者之金員を御集メ相成候而小生分ハ直ニ貴所へ相送り候事ニ申来候旨、洪沢氏へ御通し置被下候ハ、更ニ差響き候事ハ無之候故、右ニ御承知被下度候

頃日御不加減ニ御坐候由如何御坐候哉、向寒之候、別而御自重專一ニ奉禱候、草々拝復

十一月十五日

原 六郎

新島襄様

二白、乍端令聞へ宜敷鳳声被下度希上候、土倉ハ近日下坂之事ト存候、頓首

315 十一月十五日 小崎弘道

①東京麴町上二番町 ②京都上京区寺町通り丸太町上ル 親展 ④墨

御帰京後打絶て御無沙汰申上候、御病氣之程如何、定めて御快方に向ふ事と奉遙察候、偕て今回両教会合併事件ハ案外之困難を引き起し申候処、多分總會丈けハ無事に出来る事と存候、今回之會議にて合併延期に決するは勿論の事と存候が、何卒ぞ以後ハ組合教会の輿論方向を一定致し、何れにか決然たる運動を試度候、就てハ先生に於テは今回は

公然御意見之程を御発表あり度希望致す所に御座候、迂生も若し教会の輿論一定し、快く合併の出来る事にあらば十分賛成助力致し度存候得共、強^(ママ)して之を合併するは固より好まざる所、且つ他人はイザ知らず、迂生丈けハ組合教会の長所を譲て合併致すも快とせざる所に御座候、先生之御方向に付てハ人々彼此批評致し居候際なれば、明白憲法に付ての御不同意の件々御発表ある事、御一身の為、又ハ組合教会の為にも幸と存候、右得貴意度候也、早々

十一月十五日

小崎弘道

新島先生

御侍史下

316

十一月〔十六〕日

竹越與三郎

④墨 ⑥新島朱筆「十一月十六日来ル」

拝復 度々華翰に接して御返事申上ざる疎懶御ゆるし被下度候、十日出之御状に、井深云々此は何処となく自然に出し事と存候、或は伊勢等が上州へ行きし節何人か上州の老人どもが申せしかも知らず候へ共、何にも彼是と角立つて知れし事ニは無之と存候、スプリングフィールド新聞之事は小崎よりは一尙小生に尋問無之、よりて今日池本ニ聞合之上、何等の答をなせしか参考迄申上べく候

御送ニ相成候リーフレットは小崎に見せ、全文訳出之上新聞へ掲載の積之处、小崎は大に案じ候間、只此大意のみ訳

出仕候、今日は伊勢と小崎と二人にて小生と池本を呼びよせ、是非関西の會議へ各教会より代人を出す様に承知し呉れと申し懇々其利害を述べ候、併し小生は断然之を拒絶仕り、池本も番町教会は如何なる事情あるも出さざる約束なりと答ひ候、併し小崎も愈々奥の手を出し、実は関西の委員よりも今度の會議を相談会にしては如何と申し来り居候事もあり、且つ小崎自身も延期〔説〕節故、今度の會議は是非共相談会として且つ相談会ならずして決議会とならば延期の決議をなすに止まらしむべければ如何にしても委員を出しくれよ、其上に関西が延期と云ふことを聞かずんば、小崎自らも断然裳を払つて帰り、組合教會を脱するも毫も遺憾なし、因て是非共委員を出すことに尽力してくれよ、延期スル様に周旋スルハ吾等のヲノア Honour にかけて請け合ふからと、伊勢と小崎二人は熱心に真面目に頼み申候、可笑しきは伊勢氏が籠絡家と云はるゝも此度限りは籠絡せざるべしと申す程に候

然らば何故に委員を出すの必要あるかと云ひしに、唯々各自の議論も聞くべく、且つ単に出ぬとのみにては、組合會對して相談会をも開く事の出来ぬ様な意地の悪るき仕打にては後來一致と合併せずして已むとも内部の破裂を来たすの憂ありとの事ニ候

由りて小生等は前説を繰り返して出す事能はずと申し候へ共、色々ラドシツスカシツ仕候故、先づよく考へて見るべしと答ひをき申候、而して今日は恰もよし、上州にて今度の会へ人を出すか出さぬを公に決するため各教会より前橋に集まり居候日故、其決議の模様は追て可申上候

上州は一体に安心には候へ共、高崎のみは兎角人の云ふ事をきかぬ癖有之、今度は組合会迄人を出すもようのよし、是は東京にて遮りて其人を説きふする積ニ候、前橋の深沢〔利重〕もすこしく頑固の人にて、人の云ふ事をきかぬ人ゆへ、是も或は組合会まで人を出す説ニあるやも計り難く候、兎も角も東京にて要務仕るべく候間御安心被下度候、古莊氏は

去る土曜の夜帰京仕候、小生思ふに小崎は真に今度は延期説を議場に持ち出し、もし聞かれずは袋を払つて帰るの勇氣有之と見うけられ候

思ふに伊勢其他の人々が籠絡手段の効なきを知りしはスコシのものゝ如く思はれ候、此分にては延期は大丈夫と思はれ候、併し用心專一ニ可仕候、徳富兄御地へまいり候、去ル十日松尾音次郎氏に高崎より委員として出る様に頼むやも計り難く候間、よろしく御取計をき被下度候

新嶋先生

赤坂新町三丁目四十番 大谷方 竹越與三郎

317 十一月十七日 金森通倫

①倶楽部 ②寺町丸田町上ル ④墨

今夕始て会の初会ニテ大分人モ集リ申候処、交際ノ為メ好機会ト存候故今暫時留り度候、付テハ貴宅へ罷出申スヘキ処、右之都合ニ候故参上仕兼ネ候間、何卒不惡御承知下サレ度願上候、徳富氏へモ宜シク御断リ下サレ度候、何レ後刻ニハ御伺ヒ申スヘク候、右ハ御断リマで、草々

十一月十七日

通倫

新島先生

318

十一月十七日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光亨（孔版）

肅啓、昨夜ハ甚た御疲労ならんと実ニ痛心罷在候処、尊書ヲ拝シ太た安神申上候、陳レハ今晚ハ御籠招被成下奉万謝候、実ハ昨夜邦語神学生中の両三四名面会致度との事にて、略ほ約束仕置候得共、右ハ明晩ニも延し、兎ニ角拝趨申上候事ニ致度存し申候、先ハ尊答迄、勿々頓首、余ハ万々拝晤ヲ期す、謹白

十一月十七日

徳富生

新島先生

玉案下

昨日ハ密柑一箱御意ニ懸ケ被下、訪問の年少友人と相互ニ賞玩仕候、此ノ段御礼申上候、人見兄未た到着不仕候

二十一年十一月十八日 シカゴ府ニテ認ム

川本ヨリ最後ノ書信ニヨリ先生暫時神戸ニテ御療養ノ由承知仕候、御快方ノ程奉祈望候、小生日本発足後ハ御無音ニ打過キ候段御容謝被^{〔敬〕}下度候

扱、発足ノ頃ハ「エール」、「ハルトフオールド」両校ノ内ヘ入学仕度心底ニテ、当地ニハ只数日ノ滞留ニテ直ニ東方ヘ赴クベキ積ニ候処、着後当校教授及教友ノ中ニ滞在ヲ勸ムル人モアリ、且ツ又米國ノ此地方ノ様子モ觀察仕度、俄ニクラーク氏ヘ照会ノ上、此一年丈当地ニ止リ候事ニ致候、Resident ^(Licentiate)ノ格ニテ入学ヲ許サレ候間、二三ノ講義傍聴ノ傍ラ、余ハ自ラ撰撰シテ研究仕居候○客月上旬ハ「アメリカン、ボード」年会ヘ臨席イタシ、ストルス、クラーク諸氏ヲ始メ各地ノ高名ナル諸君ニ面会致シ、且又グリーン、ケレー夫婦、ガルデナー、ギユリキ夫人諸氏ニモ会合之機ヲ得、幸福此事ニ存候、同会ニテパルメリー女史ニモ面会致候(以下二十日ニ認ム)

大会之模様ハ新聞紙杯ニテ詳細御承知ト察候間、贅言ヲ附セズ、諸氏之中ニハ先生之近情ヲ問ハレタル人多人数有之候○近頃日本伝道ニ関シタル事柄ニテ新聞紙上ニ噴々タルハ一致組合合併之事トノイス氏按手札ノ一件ニ御座候、ノイス氏ハ又々本局ノプルーデンシャー委員ヨリハネラレタル由ニ候得ハ、多分独立ニテ日本ニ出掛ケ候事ト存候、現今ノ様子ヲ以テ見レバ往々ハ新神学派ノ連中ハ別ニ伝道会社ヲ組織スルニモ至リ申スベキカト考ラレ申候○今一ツ

ハ一致ノ事ニテ、当地方及桑港ノ「コングリゲーション」派ノ人々ノ中、非常ニ不同意ヲ唱ヘル人有之候、先日、本局ニ書ヲ送リテ日本ニ於ケル一致ノ事ヲ延引スル様ニ忠告セラレタシトノ書ヲ送リタル趣ニ候、其後本局ノ「プルーデシヤルコンミッチー」会ニテハ如何相決シ候哉、其様子ハ承知不仕候、併も右合併之大会ハ本月大阪ニ於テ会合之由ナレバ多分成功仕候事ト存申候、何卒好結果日本伝道上ニアラン事ヲ祈禱ノ至リニ候、時下折角御保養被遊度候、右ハ御伺迄、早々

十一月廿日認

原田 助

中村栄助氏ニハ新紐府ニ滞在中ノ由前週書状ヲ受ケ申候

新島先生

貴下

乍憚御令聞ヘ宜敷御伝ヘ被下度奉希候

320

十一月十九日

加藤勝弥

①新潟学校町二番丁

②京都府下九太町上ル

親展

④墨

拝呈、久々御不音恐縮ノ至ニ御座候、先生御病氣如何被為在候哉、主ノ御為御保養專要ニ御座候

扱北越学館ノ件ニ付、過日ハ御懇書并ニ電報ヲ辱フシ誠ニ難有奉存候、其時ニ何トカ可申上ハ必然ノ処ニ御座候得共、学館ノ紛乱タルヤ不肖ノ一身前后左右ヲ顧ルノ力量ナク、時トシテハ親友ニ面会スル事ヲ忌ン事サイ有之候次第ニテ、一定ノ思想ヲ定ムルノ勇氣ナク、為メニ可申上事柄ニ苦ミ、乍思今日ニ遷延仕候、今日ニ至リテモ同様ノ事ニ御座候得共、余リ長々ニ相成申訳無之故、不得止無定見ノ儘申上候、内村氏ノ所置ニ失策アリシ事ハ疑もナキ儀ニ候得共、敢テ外国諸教師ノ見ラル、如キ事ニハ無之、其働キ方ハ多少ノ變更ハ有之候得共、主ノ御為メニ忠義ノ働者ト信シ居候、其次第ハ伊勢氏実見被成下ニ付、近日中同氏ト御面会モ有之候筈ニ付幸ニ御聞取被成下候内村氏ノ抱キシ意見〔斷〕（学校ノ憲法中ニ基督教信者ヲ校長トスル事、德育ハ基督教ノ道徳ヲ基本トスル等ノ事ハ除キ去リ、単ニ館主亦ハ教頭等ノ働キ方ニ任スル事）ハ頃日ノ判談ニヨリテ其非ナルヲ悟リ、生ト同説ニ相成候、（此事ハ伊勢氏ニ御聞取〔被欠カ〕ニ可成候）然ルトキハ内村氏〔ママ〕ヲ去ルト云事ハ其名実無之、且同氏ハ教育上ニハ適當ノ人物ニテ忠義ノ信者ト相考候故、其名義ナクシテ去ル事ハ不相成候、亦外国諸教師も発起者ノ意見ト違ヘ不申、亦請求ヲモ被受候事ニ相成可申ト（此事ハ近日ノ會議ニテ決定ノ筈）相考候得は、是モ亦名実ナクシテ解約スル事ハ不可成ト相考候、何ヲ申も外国諸教師ノ好意ハ一方ナラザル事故、面目ヲ害シ、交誼ヲ破ル等ノ事ハ無之様可仕決心ニ御座候、何分神ノ御助ケヲ受

ケ、人事ヲ尽スハカリ外無之候間、何卒御祈り被下度候、事実多端、拙筆ノ尽ス所ニ非ス、委細伊勢氏ヨリ御聞上被下度亦々御教諭奉願上候、早々頓首

十一月十九日

加藤勝弥

新島襄様

二白、甚タ憚入候得共、松山氏ニ御面会被為在候ハ、本文ノ儀宜敷御伝話被下度候、亦近日中、俗用ノ為実弟加藤林吉尊門ヲ叩キ可申筈ニ付、其節ハ何卒御教諭被成下度奉願上候也^{〔カ〕}

321

十一月十九日

丸山福治

①東京本郷区龍岡町卅三番地 哲学館事務所 ②京都寺町通り丸太町上 ④墨 ⑥新島朱筆「一奇書 keep!」

拝啓、未タ拝光ヲ得ズ候得共、小生義耶蘓教旨ノ快味ヲ覚悟致度熱心ニ御座候モ、不幸ニシテ今ニ其意ヲ得サル義ト相成居候、尤モ該宗教ナルモノニ付テハ相応ニ疑団ノ廉モ有之候得バ、乍不尊左ニ愚見即チ疑団ノ大要ヲ奉申上候儘、此段御懇悔被成下度幾重ニモ奉伏願候^{〔マツ〕}

小生ハ耶蘇教ナルモノハ一種ノ宗教ナリトイハンヨリハ一種ノ病ナリトイハン事、寧ロ穩当ノ名称ナリト信ス、何ト云フニ耶蘇教信者ノ言ニ耶蘇教ハ學理ノ以テ論究シ得ベキモノニアラス、主トシテ情ノ支配ヲ受クルモノナリセハ到底汝等學理ヲ信仰スルモノ即チ主トシテ智ノ支配ヲ受クルモノ、覺悟シ得ベキモノニアラズト、抑モ社會ハ學理ノ方向ニ進歩シツ、アルモノニシテ、コレニ反スルモノハ廢滅ニ帰ス、然ラハ學理即チ主トシテ智ノ支配ヲ受クルモノ、眼中耶蘇教ナルモノ已ニ廢滅ニ帰セリ、而シテ耶蘇教信者、即チ主トシテ情ノ支配ヲ受クルモノ、眼中有之ノミナラス益々盛大ナルヲ覺ユルガ如キハ、恰モ神經病者カ幽靈ヲ實視スルノ思ヲナスト一般ナルベシ、夫レ情感ハ初等ニシテ智識ハ高等ナリ、情感ハ曲ニシテ智識ハ直ナリ、コレヲ以テ主トシテ情ノ支配ヲ受クルモノ、主トシテ智ノ支配ヲ受クルモノニ劣レル万々ナリ、且ツ信仰トハ二様ノ意味ヲ有スルモノニシテ、一ハ主トシテ智ノ支配ヲ受クル理想ト云フ意味ヲ有シ、一ハ主トシテ情ノ支配ヲ受クル無理想ト云フ意味ヲ有ス、小生ハ前段ノ信仰ヲ信仰ト云ヒ、後段ノ信仰ヲ迷信ト云フ、スベテ人一物ニ非常ニ信仰(信仰モ迷信モ混同ノ意ニテ用ユ)即チ主トシテ智ヲ要スルトキハ情意自ラヨリ平常ノ力量中ノ幾分ツ、ヲ智ノ力量ニ給与ス、主トシテ情ヲ要スルトキハコレニ反對ノ給与ヲ致スノミ、而シテ又其人ノ性質ト授受セル所ノ教育如何ニヨリ、或ハ(甲)(丙)ノ事ニ於テハ智ノ強大(情意ヨリ幾分ノ力量ヲ給与ス即チ主トシテ智ノ支配ヲ受クル故也)ヲ致スルモ、(乙)ノ一事ニ限り情ノ強大(智意ヨリ幾分ノ力量ヲ給与ス即チ主トシテ情ノ支配ヲ受クル故也)ヲ致スモノアリ、或ハ全ク之ニ反對スルモノアリ、例センニ、學理ヲ信仰(信仰)スル者ノ遊女ニ恋着スルカ如キ、或ハ耶蘇教ヲ信仰スルカ如シ、コレニ反シテ耶蘇教ヲ信仰(迷信)スル者或ハ遊女ニ恋着スルモノ、學理ヲ発見スルカ如シ、而シテ此二者遊女、耶蘇教ナルモノニツイテ非常ニ熱心即チ恋着信仰スルノ極、変性即チ腦力ノ運用法(智情意ノ割合)ヲシテ其取捨進退ヲ失ハシム(甲丙ノ事ニツイテカノ強大ヲ致スヲウラム、乙ノ一事ニ限り到底智ノ強大ヲ致スヲ得サルノミナラス熱情ノ強大ヲイタス如キコ)ルカ如キハコレ其腦作用ヲ損害セシモノナリ(通常狂

氣、馬鹿、神經病杯稱スルモノニシテ、コレニハ一時ト永時トノ別アリ、語ヲカエテ云ハ、心理的ノ發育方法及健全作用ヲ破乱シタルモノニテ、恰モ飲食動作ノ使用法（各割合ヲ云フノ意）ヲ誤リ為メニ發病セシモノト一般ニシテ、コレ小生ノ耶蘊教ヲ信スルモノハスベテ心ノ病ヒ、即チ神經病ノ一種ニカ、リタルモノト信スルヲ以テ、取りモ直サス耶蘊教其レ自身ハ宗教ニアラスシテ一種ノ神經病ナリト信スル所以ナリ、已ニ病トナリタルカラハ、到底學理ヲ信スルモノ、正理上ヨリコレカ解釈ヲ求メント欲スルモ得ベカラサルハ勿論ナリトス

附白、小生ノ今日マテ耶蘊教ヲ信スルモノ及遊女ニ恋着スルモノヲ觀察スルニ、皆始ハ其手段ニ信仰恋着スルヨリシテ、終ニハ其本尊心底ニマデ達スルモノナリトス、又本文ノ意ヲ保護セン為メ、コレゾ小生ノ宗教ナリト信スル所ノ考ヲ申サンニ、夫レ宗教ハ人生ノ目的（目的ト哲理）及心作用ヲシテ、コノ目的ニ合セシムルノ方法ヲ明示スルノ器ニシテ、道德ノ腦力トナルモノナリ、而シテ道德ハ宗教ノ腦力ニ支配サレ形而下、即チ行ヲ支配スルモノニシテ、宗教ハ形而上即チ心ヲ支配スルモノナリト信ス

322

十一月二十日

田中賢道

①熊本県熊本市新屋敷町傘三番丁百三十六番地
重慶君方届キ 急ギ ④墨

②大坂東区内平野町 本間

拝呈仕候、陳ハ今回両教会合同之事大臈上ヨリ論スルトキハ元ヨリ其美拳タル事ハ申迄モナキ義ト存申候得共、曩ニ編制相成候草案憲法ノ如キハ完全不完全ハ暫ラク措キ、熱心一意自由自治ノ精神ヲ練磨シ来リタルコロノ組合教会員ノ感情ヲ惡シクスルトコロハナキカ、唯終始合同ニ一途ナル内外先輩ノ眼ヨリシテ、合同ニ異論ヲ唱フルモノヲ目スルニ破壊説家杯ノ苛評ヲ以テスルハ又甚刻ナリト云フベシ

小弟等亦今日ニ至リ焉ンゾ憲法ノ不当、合同ノ不可ヲ喋々スルニ忍ビンヤ、独リ疑フ、斯々ニ新ニ日本基督教会ナルモノヲ創設スレバ果シテ組合及ビ一致教会ナルモノ我日本国ニ其跡ヲ絶ツヘキカ、或ハ恐ル今日日本基督教会ナルモノ起ルト同時ニ、極端ノ組合及ビ一致ノ両教会ガ益々全国ニ力ヲ効サン事ヲ、然ラバ最初合同一致ノ目的ハ一朝ノ烟霞消テ跡ナク、桃花ハ増々紅ニ、李花ハ弥々白ク、平斃レ源興リ、日本国宗派ノ分争ハ欧米ヨリ尚ホ一層ノ甚シキヲ見ルニ至ラン

一願スルニ我国基督教社会ノ現況ハ所謂創業建設ノ時ニシテ、未ダ決シテ守成保持ノ時ニアラス、則チ小康是安ンジ、宮殿堂閣ヲ經營スヘキノ時ニアラザルナリ、仰キ希クハ目下会合ノ諸先輩ヨ、諸先輩ノ明、能ク前後ノ形状ヲ察シテ、暫ラク合同ノ議ヲ停止シ、一躍以テ全国伝道ノ大運動ニ従セラレン事ヲ、草々頓首

十一月廿日

田中賢道

新嶋 襄殿

伊勢時雄殿

323

十一月二十一日

安部磯雄

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆「十一月二十三日」

華墨拝読仕候、先般来よりハ合併事件に関し一層思想を運らし候処、「ハンモンド」氏の演説御送り被下難有奉謝候、小生も大に発明する処有之段、早速御返事可申上之処伝道の為め他出仕り大に延引仕候、何卒不惡御推察被成下度奉願上候、岡山教会も先般より一致の儀に關してハ先つゝ延期の事然るべしとて已に決議仕候、故に来る廿三日に於て代人ハ送り候得共、飽く迄も延期説を主張する積りに御坐候、小生か一己の意見にてハ、今少し一教会の権力を大にし、又出来る丈憲法を簡単に致さは合併するも差支無之儀と勘考仕候、然し目今の如く、甲論乙駁其帰着する処を知る可らざる有様に候へハ、可成人々の考へをも聞きて教会の輿論をも越し、又小生の考へをも定め度存候、先ハ御返事迄、草々如此御坐候

十一月廿一日

安部磯雄

新嶋先生
閣下

二〇〇 就而ハ決して他言〔カ〕（以下欠損）

324 十一月二十一日 馬場種太郎

①北海道札幌北三条東三丁目三番地 ②京都寺町丸太町上ル 親展書 ④墨

謹啓、過日藤村信吉氏ヨリノ通知ニヨリ先生御不快之趣承リ、大島兄始メ其他ノ弟妹共其御病状如何被為在候哉ト相案し、遙ニ先生ノ健康ヲ祈リ居申候

扱、先般来御地ノ新聞紙ヲ以テ大学資金募集主意書御撤布相成リ、当道ノ如キ避遠ノ地ニ住スル人ニモ其義挙ヲ賛スル色相現レ、殊ニ教会員中ニハ奮テレプタ二ツニテモ設セン事ヲ望ミ候んモノ有之候、誠ニ我同志社ノ名ノ今日ノ如ク日本国民ノ尊敬愛慕セラル、ニ至リシ事感謝之不堪候、不肖種太郎如キ、数ナラヌモノモ亦先生ノ薫育ヲ忝シ、瓦石ニ均キ身ヲ以テ伝道ニ従事スルノ光榮ヲ得ル事ヲ思ヒ、如何ニカシテ我再生ノ家、第二ノ郷里タル同志社ノ為メ尽シ度と存居候、此度ノ義捐金募集ノ一条ニ付テモ、彼はへ話合ヒ居候處、北海道毎日新聞社ヨリモ進テ此義挙ヲ賛助

スル旨申参リタルニヨリ、早速電報ニテ御問合仕候次第ニ御座候、同新聞社ノ重ナル記者ハ農学校出身ノ人、札幌教
会員ニ有之、喜テ周施仕居候、又過日市来知ヘ参リ候処、空知教会員中ニモ此事ヲ聞キテ義捐セント申出、殊ニ同地
監獄署ノ看守長ナル原田正之助ト申ハ義捐ノ事ヲ望ミ居候得共、月々受ル給俸ノ外身ニ是ト申可キ蓄モナク、妻ノ西
京看病婦学校ヘ行キタルヘ学資ヲ送ル等ニテ其意ヲ果ス能ハサレトモ、家ニ伝ル名刀一振有之ニ付是ヲ売テ大学資金
ノ一部ニ加ヘ度ト申出候、其刀ト申ハ天正年間ノ頃ニヤ、伊賀入道ヨリ加藤清正ニ献シタル「サ文字」ノ太刀ニテ、
清正ハ又其刀ニ添フ可キ脇差ヲハ洞狸ト申鍛工ニ造ラセタル由ニテ、現ニ兩刀ニ其銘有之候、今日ハ刀劔類ノ珍重サ
レヌ世ノ中ナレハ、価モ少クトハ存候ヘ共、五十円位ハ必ス価スルト当人ハ申居候、併シ避地ニテ、今此刀ヲ売払フ
可キ手段モ無之、只同氏カ其微志サヘ先生ヘ通シナハ価格抔ハ問不申ト申候、何レニテカ売却致し可然哉、又ハ兩刀
ヲ其マ、差出可申哉、御伺申上候、素ヨリ当地ニテ集ルハ僅少ノ金額ニテ、所謂九牛ノ一毛ニハ有之候得共、北海ノ
端ニモ亦同志社ヲ思フモノ、在ル事ヲ現シ度と存居候

大島兄ハ不相變誠実ニ教会ノ為メ働カレ、按手礼ノ済し後ハ諸事頗ル整頓仕リ、本年中ニ主ハ四十名計リノ兄弟ヲ教
会ノ手ニ入レ玉ヒ申候、教会位地ノ事ニ付テハ兩教会合併ニ加ル可キ哉否考中ニテ、何レモ経験少キモノナレハ種々
心ヲ勞し、只管天助ヲ求メ居リ、来ル金曜日即十一月三十日夕ニハ公会ヲ開キ、一致ノ件ニ付、大体上ノ相談ヲナス
積ニ致居候、地方伝道モ門戸開ケ申候得共、役者足ラス小子ハ僅ニ一ケ月中四五日丈ケ、炭山及市来知ノ地ヘ参リ、
余ハ当中ノ為メ種々ナル集ヲ設ケテ相働居申候、大島兄ヨリハ勉学上ノ助ヲ受ル不少、幸ニ身神共ニ異状ナク相務
居申候、右貴意ヲ得度、勿々拝具

十一月廿一日

札幌ニ於テ

馬場種太郎

新島襄先生

玉机下

尚々、御令室様ニ宜敷御伝声奉祈候、当地モ降雪相初り、寒暖計ノ度数日毎ニ降下仕候

325

十一月二十二日

三好退蔵

①東京上二番丁十九番地

②京都寺町通丸太町 要親展

④墨

惠書拝読、来示逐一敬承、御帰京後貴恙漸次御快方ノ趣何寄ノ御義、欣慰無限、幸ニ此際無御油断御加養アラン事ヲ切望致シ候、陳者例ノ會議一条ニ付而ハ過日電報ヲ以ツて申上候通ノ次第ニ有之候処、御返電ノ趣ニ而安神致シ候、然ルニ彼レヲ知り己ヲ知ルハ今日ノ急務ニシテ、将来ノ運動上ニモ参考スヘキ事と存シ候ニ付、委員若クハ代人ニアラサル会員ヲ派遣シ置、緩急時機ヲ窺ヒ、臨機ノ掛引ヲ為サシムルハ欠ク可ラサルノ要件ト存シ候ニ付、池本生ヲ派シ総而先生ノ指示ヲ仰キ候事ニ内示致シ置候、委細ハ本人口頭申上候積ニ付、定而御聞取被下候半と奉存、万可然御指揮可被下候、実ハ同人江一書ヲ托シ候積ノ処、匆忙其義ヲ得サリシニ付茲ニ一書ヲ呈シ候、御承領是祈、諸小弟身上ノ義、既ニ御承知ノ通ニ相成欣躍此事ニ御坐候、長男ハ高示ニ従ひ御指定ノ内江遣シ候事ニ可仕候、弟ハ伯林江差遣ノ命ヲ得タルニ付該地江赴クハ無論ノ事ナレトモ少ク所思アリ、往路英京行、姑ク滞留致シ候積ニ御座

候、米國ヲ經過候積ニ付多分来月初旬ノ船ニ上リ候事ニ可相成歟、未定ニ御坐候、勿論荊妻携提ノ積ニ有之候、右之義ニ付小弟決意ノ在ル処ハ御承知ノ通ニ付茲ニ贅セス、御黙契是祈、曾て御協議仕候一条ハ事至難ニ属シ候得共、尚精神ヲ尽シ候積ニ有之候、貴兄ニモ御健康ノ許ス限リハ筆紙ヲ以て御尽シ被下度、伏而奉願候、書外後鴻ヲ期シ貴答要詞ノミ、勿々頓首

十一月廿二日

退蔵

新島賢台

時方ニ寒ニ赴ク、千万御自愛專要可被下候、令閨江モ宜ク御伝ヘ可被下、荊妻ヨリモ御伺申上候○次男末郎義ハ別して宜ク御指教可被下、此義ハ特ニ令閨江モ御依頼申上候

326
十一月二十二日
太久保真二郎

④墨 ⑥新島朱筆「十一月廿二日」

恐レナカラ前略御高免可被下候、偕私儀黙示スルニ忍ヒサル事アリテ今早朝当地ニ来リ候ニ折柄、明日ハ彼ノ組合、一致兩教会一致ノ会日ナル由、尤モ一致ハ大阪青年会館ニ於テ、我組合ハ大阪教会堂ニ於テ開会シ、先ツ兩教会各別

ノ異見ヲ一定シ、然ル後各委員ヲ定メテ議定スル由ニ候、幸ヒ臨席傍聴スルノ機会ヲ賜ワリタレハ小生ハ今日迄余リ冷淡ニテ本件ニ就テハ何モ聞込ミタル事サエモナカリシガ、其執柄返シト言フ訳ニハアラサレトモ 神ノ御恵ミヲ決シテ無ニセスシテ充分耳ヲ尖カラシ、他日ノ用意ニ備フルハ充分ナスヘキ事ト奉存候、故ニ明日ハ彼ノ音ニノミ聞キ及ヒタリシ一致教会諸大家方ノ會議ヲ傍聴セント存候、閣下ハ已ニ万事御聞キ及ヒモアリ、又御報道申上候人モ沢山ナルヘケレトモ、小生ハ小生丈ケノ新聞ヲ呈上スルノ積リニ御坐候

今夕ハ大阪教会丈ノ會議有之、集ルモノ五十二足ラサレトモ皆男子ノミナレハ開会スルノ權利有リトテ、遂ニ開會議事ニ取掛リシニ、異説百出ナレトモ帰スル処ハ唯該憲法ヲ直チニ彼ノ儘ニテ受クルヤ否、未タ研究届カサル故ニ延期スルヤ、已ニ受クヘカラサル諸点ヲ発見シタルカ故ニ修正シテ一致スルヤトノ問題ニ答フルニアリシガ、遂ニ第二説未タ研究届カサル故ニ延期ト決定セリ、宮川未タ「肥后ヨリ」^{〔上綱袖〕}帰阪セサルカ故ニ、執事ノ一人今村謙吉氏議長シタリキ、伊勢等ハ本日午後着シタル由、未タ面会セス

右ハ已ニ御旧文ナルヘケレトモ御報道申上候也

十一月廿二日

〔朱〕大坂北区富島丁 林八重吉方

大久保真二郎

拝具

新寫襄殿下

侍史

十一月二十二日

大島正健

①札幌北一条西三丁目一番地 ②西京寺町丸田町 ④墨

林檎は同志社へ^{〔宛〕}当て差出し候

向寒之時節に候処、主の御恩恵の下に御起臥被遊候事と遙察致し候、本年は御病氣再発にて東京近傍に御出之様伝聞にて承知致し、甚心配致し居候処、^{〔信吉〕}藤村よりの書状にて御帰京之由申来り候ニ付、御病氣御見舞旁拝呈仕候

此間是如何様の御様子に候や、甚心痛致し居候、大学校の御計画之様子は新聞にて承知致し、旁以て御病氣之御様子案じられ、本夜は例会の祈禱会に当り候故当教友と共に御計画之事及び御病氣の事等ニ付祈禱致し候、当教会は幸に天父の御愛護を蒙り、微力の小生等迄御憐れを受け着々進み居候、馬場君の働は益現れ、大に人望有之候

教会聯合の一条に付ては目下段々問題も起り居り、如何様に致して宜しか、中々浅薄之生等の力に余り、只祈を以て指示を待ち居候、生一個の考^はにては聯合の方に傾き居候得共、憲法の煩雜なるより了解に苦しむるヶ条もありて何となく自由の惜まるゝ様思考被致候、去りとて、如何に自由を愛するも目下人と金力の不足なるより伝道上に困難あるのみならず、両会合併の上は必ず当地方新教会の運動あるべく、左すれば当教会は空しく孤立の姿と可相成哉と思考致し居候、他の教友の心は兎も角も、小生の心は望と恐との二元素を以て満たされ居候○当地名産の林檎一箱本日差出し候間着之上は早速御開き被下度候、右御病氣御伺旁、不備

十一月廿二日

正健

拝

新島先生

328

十一月二十三日

古賀鶴次郎

④墨 ⑥新島朱筆「十一月廿三日」

拝啓 十二分^{〔果〕}之好結果なり、御安心可被下候、頓首

先生
坐_下

古賀
拝

329

十一月二十三日

新島公義

①大阪

②西京寺町通丸太丁上ル十三番戸

③はがき

④鉛筆

⑥封筒表書

「廿三日午後一時認ム、新島朱筆「十一月廿三日」」

今日午前ノ会ニテ愈々総起立ニテ延期説大勢力ヲ占メ可決仕候間不取敢御報知申上候、中々議場騒々敷、延期説論者ハ恰モ鉄ノ棒ヲ縦横ニ振り廻ス如クニテ御坐候、扱是より後ハ左シタル事ハ有之間敷と存居候、兎ニ角、此一報丈御急報ニ及候間山高ノ精神御休眠被下度候也

330

十一月二十三日

新島公義

④墨

⑥端裏書、新島朱筆「十一月廿三日」

廿三日

今日一寸葉書ニテ延期ノ事ニ決定致し候事御報道申上候通ノ次第ニ相運ビ申候、午後ニ至テ次廻^{〔回〕}之時ト処トヲ定ムル事ノ談論ナリシガ、遂ニ來年ノ五月ニ神戸ニ於テ開会スル事トハナレリ、去レトモ明年の五月トテモ亦延期説起ラ

バ、延期ノ出来ル性質ノ会ニ定メタレバ、扱て一致心醉論者の望ミハ何レノ日ニ達スベキカ、今ニ於テハ雲ヲ攫ムノ思ヒアリ、何レ私明日ハアメリカンボードニ対スル公ノ意見書ヲ呈スル事ハ這回ニ定ムルノ必要ヲ論出スル積リナリ、然シテ彼ノ委員ノ職務ニ関シテハ解放スル説アリテ、別ニ合併ニ関シテ事務ヲ委托スル人ヲ撰ム事ノ説アリ、未ダ充分定マルニ至ラズ、而シテ明日ハ臨時總會ヲ一先ヅ解散スル事ニ定マルニ至ラント存候、嗚呼実ニ不思議ナルハ松山君モ伊勢君モ金森君モ延期説ニ対シテハ何ノ一言モ無之事はナリキ、而シテ沈涼然タル有様ナリキ、今日ハ宣教師諸君モ別ニ議論モナカリキ、扱今日ハ延期説縦横ニ雷電ノ如ク鉄棒ヲ振ル如ク快活ニ延期説ニ可決シタリ、聞ク、一致教会ノ方ニテハ飽ク迄モ合併説ニテ、少々ノ脩正ヲナシテ先ヅ今ノ憲法ニテ這回ノ大会ニテ多分可決スルナラン、併シナガラ組合ニテ延期説ニ可決シタル事大会ノ耳朵に入ラバ、其感情ハ如何ニ現出シ来ルカ、今より知ラザルナリ

モハヤ尊下ノ高見モ見事ニ貫達シタレバ、目今ハ他ノ人々へ郵書ヲ投ズル事御見合せ御止メアル方尊下ノ為ニ宜シカラン、何トナレバ尊下ノ真心ハハヤ達シタレバナリ、此上彼是云フハ大人ノ重キヲ失スルノ患ヒアレバナリ、卑見一寸申上候、尚ホ明日後ノ形情ハ後報ニ申上ベク候

海老名、小崎両君来ラズ、宮川君ハ暴風ニテ熊本之帰リニ今治ニ吹附ケラレテ今晚帰リタリ、明日ハ差シタル事ハ多分ナカランと存ズ、一寸一筆如件

十一月廿三日夜十一時

公義

伯父様

硯北

十一月二十三日

大久保真二郎

④墨 ⑥新島筆「大坂西区江戸堀北通三丁目廿三番屋敷 堀井エイ方」、同
 朱筆「十一月廿三日」

前略御高免可被下候、正面ニ議長、左側ニ書記、満場U字形ノ二重ニ羅列シ、議員惣数八十内殆ント式十ハ白人外ニ番外席ニ白人及婦人等アリ、次ニ傍聴席アリ、又二階ニ傍聴席アリ、^{〔上欄補〕}「下ノ傍聴席ハ一致教会員ナリ、二階ハ他教会ノ傍聴ナラン」満場整タトシテ沈静人皆口アリト雖モ声ナキカ如ク、其アルモノハ唯一人ノ議長ノミ、及少数ノ議員ノミナル如キハ是レナン彼ノ青年会館ニ於テ開設シタル所ノ一致教会ノ臨時大会議場ニソアル、式終リタルヤ否、議長ハ開会ノ主旨ヲ演述シ、今ヤ全一致全教会ノ選挙ニ員ニ依ツテ推選セラレタル委員ハ茲ニ憲法ノ成ルヲ告ケ、已ニ六ヶ月前之ヲ全会ニ配布セリ、而シテ今組合教会ト合併スルニ先タツテ、先ツ我全会ニ於テ本憲法ヲ可トスルヤ、或ハ幾分カ修正ヲ加フヘキヤ、之ヲ確定セサルヘカラス、今ヤ之ヲ議スヘキヤ否ヤノ惣体会ヲ開ク、全会起立ニテ之ヲ可決ス、次ニ勅議アリ逐条審議ノ前ニ質問会ヲ開カント、中ニハ爰ニ質問会ヲ開キ今一度ニ尋ネサレハ后ニテハ尋問スヘキ事アルモ、セネハナラヌ事アルモ許サヌト言フ如キ事アツテハ、甚タ意見ノ伸縮ニ関スル事ナレハ、寧ロ之ヲ全廃スヘシト言フアリ、或ハ逐条審議ノ際ニ質問会ヲ開クヘシト言フアリ、区々ナリシト雖モ遂ニ多数ニ由テ質問会ヲ開会スル事ニ決セリ、勿論之ニ答フルモノハ之ヲ製シタル故委員ナレトモ殊ニ井深氏ヲ以專弁委員トセントノ事ニテ、遂ニ井深氏ハ議長席ヲ下リ答弁委員トハナリタリ、其質問ハ色々数多カリシナリ、其質問ハ皆要用トモ不^{〔前字〕}トモ

言フヘカラサレトモ、随分其時間ハ長カリシナリ、十一時半迄之ニ費シタリ、皆之ヲ記載スルハ尤モ不用ト奉存候、何トナレハ其記載スルニ及ワスト奉存候、唯此内ニ於テ生ノ特リ専ラ感シタル事ハ、満場テハナケレトモ少数人ノ甚タ議事ニ馴レタル事ナリ、一寸一見スレハ恰モ代言人ノ集会トモ思フヘカリシ事ナリ、而シテ尚殊ニ感シタル事ハ会場中一種奇妙無量ニシテ千言万語モ尽ス能ハサル、又如何ニ視嗅神經ヲシテ活動セシムルモ之ヲ発見スル能ハサル味アル事ナリ、タトヘハ一白人ノ論アレハ、凡テノ白人ハ皆之ヲ賛成シ之ニ起立スル如キノ風アルカ如キ、又今一ツノ例ノ如キハ議事多忙中、突然ニモ一議員建議シテ曰ク、今ヤ組合教会モ我レト合併センカ為ニ議事ヲ開キ居レリ、我レヨリ二三名ノ委員ヲ出タシテ其模様ヲ伺ワシムヘシト言ヒシニ「^{上欄補}忽チ一人ノ賛成アリタリ」、或ル若キ議員ハ遠慮ナクモ之ニ反對シテ曰ク、今ヤ此大憲法ノ尤モ大切ナル大質問会ノ真最中ニ、斯ル建議ヲ提出スルハ不用ナリ、若シ其委員ニ選ワレタルモノハ此議事ノ權ヲ失フモノナリ、斯タル不用ノ事ニ斯タル重大ノ時ヲ儉シテナスニ及ハスト論シタリシニ、（押川）一員之ヲ放言シテ曰ク、某議員ノ建議ハ已ニ一ノ賛成者アリテ已ニ動議トナリタリ、議長速ニ此動議ニ付キ決ヲ取レヨト、井深氏起立シテ曰ク、此動議ハ尤モ重要ナリ、速ニ決行アリタシ、而シテ其一人ハ押川君ニ依頼セント、此内或ル人何ノ為ニ之ヲ遣ワスヤト云ヘハ、井深氏答ヘテ曰ク^{（歌）}揆会杓ノ為ナリト、遂ニ之ニ決シ、奥野、押川両氏ハ其委員トナリ組合教会ノ会場ニ派出セシメラレタリ、吾人ハ耳モ遠ク所々聞キ洩ラシタル所モアリ、其何ノ主意ナルヤヲ了聞スル能ワス、曩キニハ探偵ノ如ク、后ニハ御訪問ノ如ク、何ノ意味トモ分ラスニ速カニ可決トナリ、速ニ実行セラレタリ、嗚呼何分ニモ一種無量ノ気味ハ何トナク該会場ニハ口舌ヲ以テ形容スヘカラサル勢力ヲ以テ流行スル事ヲ知ラサルヘカラサルカ如シ、午後ハ愈該逐条密議ニ止マレハ差シタル事モアルマシケレハ組合ノ會議ヲ聞カント奉存候

十一月廿三日

大久保真二郎

新寫襄殿下

侍史

332 十一月二十三日

須田明忠

①上野下仁田町百四十番地 ②京都上京丸太町 ④鉛筆

(為脱力)

拝啓、其後御安否如何被在候哉ト同度日々存じツ、兎角御無沙汰申上候所、此度ハ御書翰を賜り滞りなふ御帰宅にて御病氣も大部御快き由、歎喜雀躍紙墨の尽す所に御坐なく奉慶祝候○同志社大学設立の主意を此度全国に御告白被成、愈天下の賛成を被得候事ハ何とも喜悅の申上様御坐なく候、同志社の斯く好運に達候ハ即チ主キリストの既に我

(符字)

国に勝たまふ実証にて、小生ハ同志社の事と日本伝道に就き明治八年來のの有様と從來を追懷預想し、日々歎喜感謝に不堪候○御購与の書類につき御申越し被下有難く奉存候、扱て夫につき願度事有之、別の義に御坐なく、先般申上

候書類の代価ハ殆と十円足ずに候故寧ろ同金格なれば後來に最も為になる書類を御購与被下度存候、(且又先日願候書類ハ小生知己の者モ大抵(低)所有致し居り、借る事之自由に候故)小生が御購与願度候書物ハ、シャツフ氏四福音、使

徒行伝、羅馬書注釈とワイシヤル氏基督教会史にて、其代金ハ或人より承り候に十円足ずの由に御坐候、然し御購与被下候節ハ東京横浜にハ該書を販売なし居る所無く候故、申上兼候得とも、乍憚様先生の御手より御購求被下度奉懇

希候○小生説教に就き御懇諭を被賜真に有難奉拝謝候、夫事につき是迄之先生より数度仰せ被下候事ハ記憶致し居り候得とも、兎角愚鈍の性にて習慣を破る事難く、遂存じツ、下手の長談義を致し候、以来ハ屹度遵奉仕り候○当地伝道も不相変困難にして、公衆が自由に集り得る講義所を設けんと手を尽し候得とも、世間を恐れて常人として家を貸す者なきハ遺憾に御坐候、(当時小生の住居を仮に講義所となし候得とも、不便なる所ゆへ自由を得ず候)夫故当時伝道の方法ハ重に人々戸々を訪問して教を話し候、単に要する所ハ、主の靈私に在りて神より福音の爲め被遣の一事に御坐候、何卒信仰薄き小生に主の靈在りて忠善ならしめん事を御祈念被下度奉仰候、日増に寒氣を加候得バ随分御自愛被下度奉仰候、乍末筆御令室様へも宜しく御鶴声を奉希候、敬白

十一月廿三日

明忠

拝

新島襄先生

333

十一月二十四日

杉山重義

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆「十一月廿四日」

御懇書奉拝誦候、陳ハ御教諭之趣逐一承知仕候へども、已に御聞及之如く臨時総会に於ては其目的なく決議の会を来年五月に延期することに決し、且つ起草委員之権限等さへも唯だ今迄に成立てる草案の上のみに制限せられて其議事

之完結を告るに至りたるを以て、小生等ハ兎に角に総会は解散することを主張したれども唯た池^{〔吉也〕}本氏と二人のみにて、多数にて総会の議事を中止し、其間に懇談会を開くことと相成り、已に本日之如きはラネツド、デフォレスト氏等の一致論も議場に現出し、無主義なる代人等にハ多少之影響を与へしことと存候に付、此上は小生等力之及ん限り胸中勃々の感懷を吐露し諸人之注意を喚起すべきは洵に亦た已を得ざる所と存候、且つ小生等二人（杉田と）之拳動は尤も諸人之注意する所にして、今迄関西之牧師又ハ教会員中にハ小生等関東之者は一揆の教唆者、謀反の張本の如く思ひ居候事故、此際は飽くまでも鳩の如くなり居り、又時々は電の如くも蛇の如く、又時としてハ龍の如く相成候も必要乎と存候、就てハ唯デフォレスト氏等の輕薄なる議論を挫くにハ、若しデビス氏にても下阪あらバ^{〔カ〕}実心力ありと存候、然しながら尚ほ杉田とも相談の上、去るべき好時機あらバ直に之を去り決して大阪に恋々する心^{〔カ〕}にハ無之候、帰路ハ御地に出で拜顔を得て御別後之事を一々申上度考に御坐候、目下上州安中、原市等ハ極て單純なる考に御坐候、唯だ一のアンテ主義に御坐候

十一月廿四日

重義

十一月二十五日

海老名弾正

①大坂高麗橋四丁目 前上方 ②京都寺町通り丸太町上ル ④墨

尊翰拜誦、陳者今回之聯合ニ付種々御煩慮之段、逐一承知大痛心致居候、伊勢等ヲ始メ決テ粗忽之舉動も思想モ万々無之候間決テ御心痛有之間敷候、小生も延期說ナリシガ曩ニ熊本ニ於テ宮川氏ニ面談シ、如何ニシテモ延期セネハナルマイト被申候ニ付、出席ニハ及ス間敷、若シ金森ヤ伊勢ヤ宮川ヤ万々小生ノ見込ト反對シ延引モセザル様子ナラバ、小生ハドコマデモ出席シテ爭論致積ナリシガ延期之点ニ至リテハ同意ノ趣宮川より承知致候故ニ出席致スニ及ハズト決心致候処、先生ノ電報ニ付何様出席可致ト即坐ニ決心致候、伊勢ト面談致候へは、此は固ヨリ一致主張家ナレトモ無訳無理ニ一致スルトノ謂ニアラズ、ドコ／＼迄も自由主義ハ取り被居候間、小生ノ議論トハ小異ハアルベケレトモ大相違ハアル間敷ト存候、小生ハ信仰之自由ト政治ノ自由ハドコ／＼迄モ主張シテ決テ止マザル所ナリ、先生ハ事情不分明ヨリ、或ハ風説臆測無用之御心配モアランカト愚考仕候、伊勢モ小崎モ湯浅モ先生ノ精神ヲ悩スヲ恐レテ御相談申上ズ候由、ゆめ／＼御疑有之間敷候、孰レ其内御面会可申上候、右聊御心情ヲ慰メント欲シ一寸申上候、敬白

十一月廿五日

新島先生

弾正

拝

伊勢よりモ宜敷申上候也

335

十一月二十五日

池本吉治

④墨 ⑥端裏書、新島朱筆「十一月廿五日」

拝啓仕候、今日杉山氏迄御申越之趣了承仕候、実ハ私儀も本日朝花島、古賀両君ト御地迄引上クルノ覚悟ニ罷在候
処、昨日来ノ懇話会ノ模様ニ因リ今明日中ハ滞在致候て彼此奔走可致事必要ト相考申候ニ付、暫ク見合セ申候、此總
会ヲ昨日中ニ解散可致儀ハ出来ル丈主張^{〔致〕}至候ヘ共、少数にて行ハレズ、只議事ノミヲ中止スル事ニナリ、昨日より一
己人ノ資格にて懇談会ヲ開キ申候、然ル所、デフォレスト、ラーネツド諸氏之合併賛成論ノミヲ陳述セシメタルハ実
ニ大ニ不快ヲ感ジタル次第ニ有之、就てハ今朝山中氏迄御申越之通り、ギユリーキ氏等ノ意見ヲも陳述ヲ乞フ事、誠
ニ公平至当ノ事ト既ニ私共方にてても話居候次第ニ御坐候、幸ヒ海老名氏も来会有之此事大ニ賛成にて、早速今晚同氏
よりギユリーキ氏ヲ呼ブ事ニ相談相整申候、又此懇談会ナルモノヲ明日若クハ明後日迄ニ終結セシムルニ發議実行致
度相談^{〔致〕}至候、兎ニ角意ノ如クナラサル事も有之候ヘ共、先ツ今回延期ノ事タル充分ノ結果ト申テ可ナリト愚考罷在、
此上ハ早速五ヶ月間ノ用意ニ精神氣力ヲ新ニシテ従事可致儀ト愚考罷在候、目下ノ事又以後五ヶ月間之事ニ付御高説
モ有之候ハ、拝承仕度存罷在候、私儀も色々一己人上ノ用事も有之候ニ付、今後一寸同志社迄罷越度存罷在候ニ付、

若シ先生方へ御差支無之候ハ、一寸拝面之上御話承申候へバ幸ニ奉存候処、御病氣或は同志社等に対して御不都合共には無之候や、若シ御宅伺候之事不都合之事ニ御坐候へば、追テ書面にても御意見ヲ承度存候間右御都合之時、一寸御報知被下度、又目下之會議に付キ御意見之程も承度希申候、要用迄、(敬)啓具

廿五日

池本吉治

新島先生
机下

336

十一月二十五日

大久保真二郎

④墨 ⑥新島朱筆「十一月廿五日」

宣教師ハ吾人ノ奉教上ニ於テ教師トスル処ナリ、手本トスル所ナリ、其敬愛スル事ハ無論当然ナル事ナリ、然ルニ何ソ計ラン、一昨日ノ懇談会ニハ五教師ノ人々代ル／＼起立シテ合併ノ得策ナルヲ丁寧反復ニ吾人ニ教ヘラレタルニモ拘ワラス、同シ宣教師ノ内ニ、彼ノ両ギユリーキ氏ノ如キハ断然之ト全ク反对ノ説ヲ主張シ、殊ニ尤モ明細ニ書面ヲ以テ吾人ニ教ヘラレタリ、吾人ハ双方ノ教師トモ同シク敬愛スル所ナリ、然ルニ一ハ可ト云ヒ、一ハ否ト云フ、吾人甚タ惑ヒナキ能ワサルナリ、蓋宣教師中明カニ二タ派則全ク反对ノ異見ナレハナリ

ラーネツド教師ノ説ヲキケハ、ギユリーキ氏ノ説ク所ハ嘘ニアラサレトモ大ナル誤リトセラル、ニ似タリ、然ルトキ

ハギユリーキ氏ハ吾人ニ向ツテ仮初ニモ大ナル誤リヲ伝ヘラル、ヤ、アメリカンボルドハ斯ク大ナル誤リヲ伝フルモノヲ日本ニ送ルモノナルヤ、是レモアメリカンボルド心広ク度量ノ大ナル所ナルヤ、若シ然リトセハ吾人ハアメリカンボルドニ對シテモ惑ヒナキ能ワサルナリ

吾人ハ信ス、アメリカンボルドハデフオレス氏ノ言ノ如ク心モ広ク度量モ大ナル事ヲ信ス、然リト雖モ、大ナル誤リヲ吾人ニ教ユル為ニハ一人ノ宣教師ヲモ送ラサル事ヲ信ス、然ラハギユリーキ氏ノ教ユル所ハ悉ク皆大ナル誤リナリトノ言ハ吾人容易ニ接ケ入ル能ワサルナリ

賢明ナル宣教師諸君スラ尚且ツ斯ノ如ク見解ヲ異ニス、況ンヤ吾人ヲヤ、吾人ノ見解ヲ異ニスルハ当然ナリ、何トナレハ吾人ハ自ラ吾人ノ愚ナルヲ知ル、然ルニ此度ノ事件ハ希有ノ一大事件ニシテ一ヒ決スルトキハ其閑スル所甚タ広ク、而シテ之ヲ回復スヘカラス、我邦自由ノ伸張ニモ閑シ、勿論布教上非常ノ關係アレハナリ「今ヤ我組合教会ノ政事ノ甚タ自由主義ニカナヒ其内ニハ門閥モナク牧師輩ノ压制モナケレハ天下ノ自由主義、改進黨主義ヲ取ルノ政事家モ今ハ殆ント我組合教会ノ政度ヲ標準トシ、手本トシ、政治界モ商業界モ實ニ是ノ如クナラシメ、之ニ倣フシメントシテ、大ニ勇ミ立ツテ我レニ眼ヲ注キ我レニ耳ヲ傾クル所ナリ、天下ノ注目スル實ニ斯ノ如ク、盛大ナル事ハ諸君ノ明知スル所ナラン、彼ノ同志社大学ノ建設ガ組織ガ全国ノ輿論トナリ大賛成ヲ得ルニテモ知ラル、ナラン、然ルニ其本

〔制・以下同〕

尊タル我組合教会ガ從來ノ政度ヲ止メ、頓ニ一變シタル政度ヲ取ル如キ事アラハ、從來我レヲ標準トシタルモノハ誰レヲ頼ムヤ、全国ノ我レニ耳ヲ傾ケ、眼ヲ注キシモノハ如何セントスルヤ、吾人ノ一決定ノ閑スル所ハ斯クノ如ク大ナリ、思フテ茲ニ至レハ、吾人ノ責任甚タ大ナルヲ感シ、吾人ハ戰々恐々タラサルヲ得サルナリ、故ニ吾人ハ唯合併論ヲ主張スル宣教師ノ説ノミヲ拝聴シテ容易クシテ不合併ヲ主張スル宣教師ノ説ヲキカサルハ甚タ不得策ト存ス

〔統〕

ルナリ、何トナレハ吾人ノ僻トシテ教師ヲ信シテ其朝寝迄モ信スルニ至ルハ争フヘカラサル事ナレハナリ、サレハ今此合併論ノミヲ聴シテ止ムトキハ他日ノ決定ニ大關係アルヲ信ス、故ニ吾人ハ是非トモ爰ニギユリーキーヲ招聘シ、或ハ其他ノ不合併論者其高論ヲ承ワラン事ヲ希望ス

終リニ望ンテ一言ス、ギユリーキー氏ハ大ナル誤リヲ伝フル人ニアラス、何トナレハアメリカンボルドハ斯ナル馬鹿ラシキ事ヲスル人ヲ送ルモノニアラサル事ヲ信スレハナリ、然ラハギユリーキー氏ノ説ヲキク何ソ其価値ナキトスヘケンヤ、何ソ聞クニ足ラストスヘケンヤ、若シ真議員ノ一名ナレハ前文ノ儘ヲ提出シテ是非ギユリー氏ノ演舌ヲ希望致候積ニ御坐候也

十一月廿五日

新寫先生

閣下

大久保真二郎

拝具

乱筆乍恐真平御高免被下度奉願候也

十一月二十五日

大久保真二郎

④墨 ⑤新島朱筆「十一月廿五日夜」

天運循環往ヒテ帰ラサルナシ、皇天后土何ソ吾人ヲ憐ミ吾人ヲ護リ玉ハサランヤ、今謹テ其優渥ナル御恵ミヲ感謝ス、昨日今朝^{（朝）}ジヨンオー、エーチ、ギユリーキ氏及海老名弾正モ着阪シタル由、就テハ申ス迄モナク一同ヨリ必スギユリーキ氏ニ向ツテ彼ノ書面ノ意味ヲ猶ホ明カニ説明ヲ請フナラントハ雖モ、万一ノ事アツテハ不都合ユヘ尚ホ念ヲ入レ、花畑^{（島・以下同）}ヲシテ是非明日ハO・H・ジヨンギユリーキ氏及シドネー、ギユリーキ両氏ノ懇談ヲ請求セシメント奉存候、然ルトキハ会場ニ於テ此花畑ノ建議ハ多数ノ同意ヲ得シテ倒レテ両氏ノ懇談ナキニ至ルモ、反対党ニ於テ充分ノ卑怯ヲ顕ワス事ナレハ我レノ甚タシキ底強氣トナルハ必定ナリ、又凡テ計画通りニ行レ花畑ノ演舌ハ忽チ大多数ノ賛成ヲ得、両氏ヲシテ演舌セシムルニ至ラハ此上モナキ事ナリ、（又必ス此運ヒニ至ラシメントハ勿論飽迄用意罷在候）、我レノ主義顕ワレテ多数人ノ耳底ニ達セン、兎角一步ハ幸都合トナリタリ^{（好）}

窃カニ思フ、彼等此度幾何尽力スルモ到底再ヒ憲法ノ逐条審議ニ取り掛ル事ハ出来間敷、唯此多人数殊ニ各地教会ノ勢力家共ヲ^{（藩）}憑着シテ合併ノ輿論ヲ組織セント企ツルニ過キサルナリ、サレハ五月迄ノ延期ハ最早確ト我手ニ入レタルモノナレハ、今強ヒテ余リ抗論セストモ宜シカラント存候、余リ手痛ク抗論スレハ却テ反動ノ勢ヲ養成シ、殊ニ昨日五人モ宜教師輩ノシヤベリシ後ニシテ、今尚ホアリノト耳ニ覺ヘ居ル事ナレハ、余リ手痛ク攻撃セハ却テ彼レヲ真ナリト思フモノアリテ、我レノ藩籬ヨリ漏レ出ツル恐レナキニアラス、故ニ一番此処ハ先ツ出来クレハ両氏ヲシテ一

応ノ演舌ヲナサシメタルニ止メ置キ、其余ノ事ハボンヤリト打過コシ、二三十日経過シテ彼ノ宣教師ノ説キタル所ヲ大分忘レタル時分ニ、ジリ／＼トシメカケタラハ甚タ利益多カラシ、殊ニ大事ナル所ハ、彼等モ此度ハ失望シテ居リシ処ニ再ヒ春ヲ得タル心地トナリ居ル最中ナレハ、必ス此後モ此機ニ乗シテ各地教会ニ向ツテ一鞭ヲ試ミルニ相違ナカルヘシ、然レトモ彼等ノ事ナレハ所詮永クハ続クマシ、故ニ殊ニ大事ナル所ハ来ル五月前、二三月ヨリ后ニアリ、其際ハ或ハ書ヲ以テ、演舌ヲ以テ、充分公然ト之ニ反対ノ輿論ヲ組織スヘキノ時節ナリ、今ヨリ二三ヶ月ノ処ハ彼等ノ公然ト運動時間ニ与ヘ置キ、我レハ常ニ陰ニ働クコソ可ナラント奉存候、則チ彼レ等演舌セハ、我レハ有力者ノ家毎ニ戸毎ニ説クヘシ、彼レ大阪ニ於テスレハ、我レハ熊本、奥州、上野、東京ニ於テスヘシ、彼レ東京ニ於テスルトキハ、我レハ其他ニ働キ、兎角二三ヶ月間ハ常ニ陰ニマワリ鋒ヲ避ケテ公戦セサルコソ得策ナレ、弥厄前トナリタルトキニ、息ツク隙モナキ時ニナリタルトキニ、忽然トシテ起立シ、公然ト戦場ニ出現シ、或ハ書面ヲ以テ、演舌ヲ以テ、遠慮モナク用捨モナク、彼等ハ顔ヲ覆フテ喪家ノ犬ノ如クナリテ、片隅ミニ縮マネハナラヌ様ニ、内外ヨリ一度ニ攻メ立ツルコソ得策ナラメ、サレハ是レヨリ暫時ハ負ケテ恐レ入ツタル如クシテ此機ヲ過コスモ、既ニ実益ハ我レニ得タル事ナレハ、些シモ恐ル、ニ足ラス、来年五月ニ最后ノ勝、則断然我同志中ハ合併致サヌナリ、ナシタキモノハ吾党ヲ捨テ、遠慮ナク合併セヨ、吾人ハ一步モ動カサルナリ、組合ノ政治ハ易ユル能ワサルナリト潔ク言放チ、吾教会ヲ一掃スルニアリ、此儀如何ニ可有御坐ヤ、若シ此議^議採用アルトキハ此度ハ格別意地惡ヲナサス、却テ此方ニテ喪家ノ犬ノ如ク、縮タトシテ無念ノ涙ヲ飲ミ居ルモノ、如クナリテ、彼等ニ一笑セラル、コソ非常ノ得策ナラメト奉存候、其レ迎モ幾分力実益ヲ失フ事ナレハ、決シテ許ルスヘカラサル事ナレトモ、已ニ第一実益則延期ノ一事件ハ已ニ確乎ト掌握シタレハ、彼等タトヒ七転八倒スルモ、決シテ各地ノ教会ヲシテ一週間ノ内ニ其輿論ヲ替エシムル能

ワス、サレハ此延期ノ事ハ最早動スヘカラサルナリ、然ルトキハ、我レニ損スル所ハ此度出席シタル僅カノ惣代共ノ心ヲ一時彼等ノ望ミノ場所ニ預ケ置ク丈ケノ事ナリ、其レ迎モ両ギユリーキ氏アリ、殊ニ先生ノ威靈アル以上ハ、決シテ対シタル事ハアル間敷、況ンヤ前述ノ最期ノ手段アル事ナレハ、此処ハ却テ間ヌケテ泣キ面ヲ此方ニテナシタ方ガ、而シテ彼等ヲシテ驕ラシメタル方ガ得策ニハアラサルヤ、恐レナカラ 閣下ノ海量ニアマエ敢テ愚意ヲ奉建白候

本日、伊勢青年会館晚餐ノ説教ニ、非常ニ勉強シテ一致スヘキ事ヲ説教シタルヨシ、勿論歴史等ヨリ引用シタリト、随ツテ大分ノ感覺ヲ聴衆ニ与ヘタリト彼レハ嘸満足ナラン、我レハ泣ヒテ実ハ喜ヒノ本源ト奉存候

〔花島〕健起ハ何処ヲ歩行スルヤ、今ニ出会スルヲ得ス、遅クモ明朝出会決シテ図ハ失ワサルナリ、神慮ヲ休メ玉ヘ、古賀ハ帰京シタリ、其他ノ同志モ略尋ヌレ共中々相分ラス、何トナレハ所々ノ説教ニ出テ行キタレハナリ、右ハ極乱文乱筆御高免被下度奉願候也

廿五日夜

大久保真二郎

新島先生

閣下侍史

拝具

十一月二十五日

柴原宗介

②御愛展 ④墨

拝啓、本日今治教会代理塩見孝太郎氏罷越大坂會議之模様承り候処、延期説は大多勢にて決定セシハ御承知之至ニ候
 へ共、此ニ憂フ可キハ各宣教師方頗ル一致之利ヲ弁明スル趣キ有之、何レノ教会より代理スル人々も今は大ニ躊躇シ
 テ半信半疑之内ニ迷惑罷在候由、之レニ加エテ尤可歎之一条ハ、貴各教会之代理人ニ往々憲法ニ通スルモノ少ナク、
 長老教会之政治ト我教会之主義トハ何レも音（音）の中ニアリテ、是非ヲ判断スルノ明光ナク、甲説ケハ甲ニ雷同し、乙説
 ケハ乙ニ雷同スルノ有様ニ御坐候、右ニ付大体より概して評スルナレハ、今の勢力ハ一致説ニアリト申聞ケ候ニ付
 テ、同氏へは私より懇々我主義之重ンス可キヲ説破仕候処、先生之御意見も同度申出、過刻貴邸へ参館仕候処、御
 午睡中、四時より御面会トの事ナレハ帰坂ヲ急キ、終ニ其意ヲ果サ、ルモ、私より閣下ノ御高説ヲ申聞尚精神を堅め
 させ置申候、右之次第故、今日急務の策ハ我カ主義ノ重ンス可キノ理ト、今日之憲法之採用ス可カラザル趣意ヲ各教
 会之信徒ニ普ク説キ示シ、自己之説ヲ堅メサセルハ尤モ必用ト被存候、此事ニ付御相談申上度義候へば、先キ程一寸
 罷出候処、生憎御来客之御模様ニテ差扣へ申居候、全体明日私共下坂仕候而十分奔走致度ト覚悟候へ共、悲と哉此間
 中より齒痛ニ苦ミ、本日は色々相補ひ罷在候へは弁舌之不具者トナリ、乍残念貴意ヲ果ス事能ハズ、只此際公平ナル
 天父ノ摂理ヲ千祈万禱罷在候、先は右之段上申迄、草々不具

廿五日

宗介

拝

新島先生
坐下

339

十一月二十六日

松尾音治郎

①大坂

②京都寺町通り

③はがき

④墨

⑥新島朱筆「十一月廿六日」

拝呈、シトニ、グリーキ氏よくも弁論せり、満場之れか為め感服するの觀を呈し候也

340

十一月二十六日

大久保真二郎

④墨

⑥新島朱筆「十一月廿六日午前」、「十一月廿六日午後」

昨夜遂ニ山中、古賀ニ面会致シタレハ彼等モ充分ニ奮発致居候由ニテ、其時ハ已ニギユリーキ、デビスノ両氏ニ電報打チニ山口ハ出テ居タルノ程ノ事ナリキ、大分遅ク迄色々話シ合居リタレ共、健起ハ帰ラサルニ付、帰宿仕レハ健起ハ小生ノ宿ニテ待居タリ、一言ニテ之ヲ尽サントスレハ万事都合ヨク運ヒタリ、又運ヒノ順序モ定リタレハ御安神遊

サレテ然ルヘク奉存候

健起ハ其前池本同道ニテ海老名ノ宅ニ打合ワセノ為ニ行キタル処、豈計ラン伊勢ト同宿致居候ニ付、海老名ノミ下ニ
呼出シ話セシニ、海老名ハ非合併ニナレトモ聯合論者ノ由、則兩方ノ教会ノ其儘ニテ幾分カ布教上ニ聯合シテ働カ
ントノ意味ナル由（利巧ノ説ニテ却テ恐ルヘキニ似タリ）、偕、話シ合ヒ中、伊勢モ其処ニ来リ甚タ不都合ナレハ、
遂ニ共与ニ二階ニ上リ伊勢ノ前ニテ談シタリ、其意ハ我々ハ已ニ合併説ノ事ハ常ニ幾度トナクローネツト氏等ヨリ聞
キテ昨日ノ言ノ如キニ一向珍シカラス、唯此上ハ反対ノ側、則ギユリーキ、デビス氏等ノ事ヲ聞キタシ、然ラスシテ
唯片言ノミヲ聴キテ大事ヲ判スルハ不可ナリ、殊ニ教会ヘノ土産ニハ是非兩方ヲ聞キタシト主張セシ処、海老名ハ勿
論伊勢モ至極同意ナリ、明日会場ニ呈出スヘシ、必ス誰レモ其公平ナル論ニ反対スルモノハアルマジケレハ直チニ電
報ニテ兩氏ヲ召喚スヘシトノ事ニナリ、遂ニ健起ノ名ニテデビス、海老名ノ名ニテギユリーキ氏ヲ召ビタリト、是レ
ハ却テ淡泊ナリシガ故ニ上出来ナリシト思ワル、然シ如何ナランモ計リ難ケレハ今朝充分ニ賛成者ヲ製シ置ク様飽迄
話合置キタリ

〔欄外〕

「オー、エーチ、ギユリーキ氏来着セリトハ誤聞誤伝ノ由ニ御坐候、必ス反対諸宣教師等モ又一駭ヲ試ミント申立ツ
ルモノアラン、此後ハ然ル事アリタラハ一同之ヲ大ニ不同意ヲ唱ヘ、決シテ再ヒ宣教師ヲ立テ、本会ヲ蹂躪セシメサ
ル様スヘシト、山口等モ奮発罷在候」

思フヨリ産ムハ易キモノナリ、今日ノ模様ハ如何アルヘキヤノト思ヒツメタル事モ今ハ過去トハナリニケリ、午前
ノ会場ニ於テ、第一クラーク氏（オ、エチ、ギユリーキ氏ト）ハ心霊上ノユニオンハ美ナリ、形体上ハ不可ナリト概論アリタ
リ、次キニギユリーキ氏ハ徐々トシテ壇ニ上リ、海老名彈正通弁タリ、而シテ其論スル所ハ細記スルノ間ヲ得サレト

モ、兎ニ角氏ノ整々タル陣ヲ張り、堂々タル論ヲ取り、激スル事ナク憶スル事ナク、時々反對諸宣教師輩ヲ睥睨シテ巧妙ニ論ヲ進メレハ中々千万無量ノ味アリキ、〔デフォレスト、ラーネッド、ゴルドン、ペティ、オルチン〕一昨日ノ五氏ノ演舌トハ比スヘキモノニアラス、是レ演舌ナレハ彼レハ茶話ナリ、彼レ墨ナレハ是レハ雪ナリ、中々比較スヘキモノニアラサリキ、而シテ其演舌ハ未タ終結ニ至ラス、午後一時半ヨリ尚引続キ発申候、之ニ由テ有志者アリテ閣下ノ御議論ヲモ拝セ^{〔ママ〕}拝聴シタシト言フモノサエ勃興スルニ至レリ、故ニ該電報ヲ発スル事トナリタルナリ、生之ヲ聞キ込ミタレハ早速本書ヲ差上申候、兎角此事情ノ際、如何様卒御神算有之度奉願候

恐ル、処ハ、余リヒドクナリタラハ此後彼等非常ニ狂奔スヘシ、最終ノ勝利ハ来五月ナレハ今度ハ成ルヘク此位ノ処ニテ、本日迄ニテ明午前ハ成ルヘク開散スル様致サント計畫罷仕候、御神算ノ程奉伺候、恐々

廿六日

大久保真二郎

拝

新島襄殿下

侍史

341

十一月二十六日 山中 百

②京都寺町通丸田町上ル

③はがき

④鉛筆

昨日四時四十五分ノ汽車ニテ古賀、塩見両氏ト伴ヒ下坂仕申候テ、種々談議ヲ遂ケ、終ニ今朝第一着ニ小生発言シ、

満場ノ賛成ヲ得テクラーク氏ノ演説アリ、コレニハ一致ノ不利ナルヲ解ケリ、シドニー、ギユリキノ演説ハ中々ノ賛評ヲエタリ、充分合併ノ不利益ナルヲ述ヘタリ、青年輩ハ欣然トシテ生命ヲエタリトテ喜ヒヲレリ、茲ニ又タ新島氏ノ意見書ヲ朗読セバ必ス各地議員ノ心ヲ動カスニ足ルベシト皆々申居レリ、午后^{〔デ〕}デヒス氏ノ来ルヲ待チヲレリ

山中 百

342

十一月二十六日

渋沢栄一

⑤『渋沢栄一伝記資料 別巻第四 書簡二』所収 ⑥「西京寺町通丸太町上ル
十三番戸 消印 武蔵東京」

十六日付尊書拝読仕候、爾来御宿痾も追々御快方之由拝賀之至ニ候、右者一時之事ニも無之と察上候間、御快方ニ馴れ御無理無之様企望仕候、同志社寄附金取集方ハ兼而御垂示ニ従ひ夫々へ通達いたし候得共、岩崎両家、平沼八太郎、小生分ハ去ル十五日限り払込候得共、其余者未タ払込無之ニ付、近日又催促可致と存候、原六郎氏ハ何か別ニ考案有之候由被申居候間、或ハ現金払込如何と被存候、併尚大隈、井上兩伯へも程能申上、何とか都合を得候様取計可申と存候、右集合之金額ハ、井上伯之考案ハ、小生ニて引受、七分以上之利子ニ相廻り候様取計度と被申候得共、小生ハ貴案之如く、其中貳万五千円ハ公債買入、残金ハ弊行定期預ニ振替候方可然と存候ニ付、悉皆入金いたし候ハ、

其都合ニ取計、計算書等ハ銀行より湯淺、徳富両氏へ御引合可申上候

小生も本年ハ西京へ罷出度と心掛候得共、何分多忙其余日無之と存候ニ付、来春ニ至り一遊可仕と存候、其節ハ学校へも罷出拜見致度と存候、兎角匆忙ニ罷在来示ニ対する拜答も延引いたし且粗脱之事共多く恐悚之至ニ候、右奉復如此御坐候、勿々不一

十一月廿六日

渋沢栄一

新島襄様

343

十一月二十七日

本城安太郎

①長崎高島 ②西京同志社 御親展 ④墨

謹啓、菊花傲霜之佳節、御恩寵之御下ニ御消光之段奉大賀候、陳者当地モ一向日蓮淨土禅并神道黒住教等有之、四宗聯合○○退治ト歟号シ仏教演説致シ、殊ニ西本願寺大教校教師友好法眼ト申、暉僧木島致南無阿弥陀仏派之信者婆々祖父等之俗物ト团结仕候テ大ニ私之前途ヲ障碍仕、折角教養仕居候子弟等モ右偽信者之父兄等ニ檢束サレ、邪宗支理^{〔切支〕}丹宗ト云触シ、遂ニ妨害ヲ受候、併シ此位之事ハアリガチト素ヨリ準備仕居候間、反テ前途ニ冀望ヲ大ナラシメ候、幸ニ今回岩崎氏来島有之候ニ付、会堂新築之事御相談申上、盤梯山破裂并ニ同志社大学設立之義捐金ハ外面之美挙ニ

シテ、該地新築會堂之如キハ内面之事ニ候間、是非々々新築被成下候様淡洵ナル御訴申上候処、略ホ領承有之候、委細は御帰帆之際、愛先生台下へ御相談申上へく候ト御返事ニ相成候ニ付、宜敷御賛成之程偏ニ奉願上候、先は要用迄、余は後便ニ可申上候、草々謹言

十一月廿七日

在高島

本城安太

九拝

新島襄愛先生

台下

追啓、為道御自愛奉祈候也

(別紙)
二三白、御監誠御願申上候知己之諸彦へ宜敷御鶴声奉」

344 十一月二十七日 川本泰年

①神戸下山手通七丁目 ②京都寺町通丸太町 用書平安 ④墨

近日ハ寒冷相覚候、益御平康御起居被成奉拜賀候、然ハ過日阿部氏へ御借家ノ件被仰聞、同氏も此頃出坂や彼是にて小生へ被囑候ニ付、今年後横田勝治、大林久蔵、永見八十姉等同伴処々探索ニ出かけ候処、隈内村^{布引澤ノアル村}内に都合好家アリト聞候得共、遠方故如何と為見合申候、先日一先借入候家ハ有之候得共、近処へ一軒六疊^{床押込アリ}(^{床押込})、四疊半三疊

以上最健具
附圖セリ

二階 西洋風
燒造

十二疊 十疊

此分敷物
ナシ

(雪隠上下アリ
月十三日 敷金貳十円)

と申家アリ、さレトモ二階敷物調物随分失費相掛リ申候、

此他今日ハ見当不申候、帰路ノ談話中ニ一戸御借受被成候よりハ寧ロ二階座敷ノ適宜ナルモのアレバ仕出賄、即チ西洋ナリ日本料理ナリ日々御随意ニ御取被成候方、乍失敬御經濟上御便利ナラント永見老婦の笑話ニ而、或ハ妙按ナラシ乎、若シ都合好家不見当トキハ二階座敷探索仕べき哉、御賢慮伺上候、先ハ当用のミ、勿々不具

十一月廿七日夜

川本泰年

拝

新島先生

玉几下

345

十一月二十七日

徳富猪一郎

⑤森中章光写(孔版)

肅啓、頃日ハ不料尊顔ヲ拝シ大慶此事ニ奉存候、特ニ不浅御篤情ニ預リ奉万謝候、生等廿二日掛川ニ泊シ、廿三日沼津ニ泊シ、廿四日孤筈双鞋函嶺ヲ越へ、終ニ午後五時東京ニ到着仕候、且又井上伯ニハ早速面会の上委細申候処、同伯ニ於ても至極尤ノ事ニて自分確かに受負たり、自分より原ニ委細可申込、渋沢氏ノ手ニ入金スルカ、正金銀行ニ入金して原自身ヨリ同志社ニ預リ証書ヲ出シ、同志社ノ都合ニヨリテハ直ニ現金ヲハ正金銀行ヨリ引き出ス様ニカ、二者何レニカ可致との事ニ御座候、小生ハ可相成ハ原氏ノ現金ヲ渋沢氏迄振り込む様御周旋相成度と申して相分れ申

候、大隈伯ニモ尊翰ヲ携へ面会仕候処、同伯ニモ此レハ至極ノ思附ナリ、自分ヨリ当人ニ申シ通す可シ、此人ハ大和ノミナラス近畿ニ勢力アル人ニして同志社ノ朋友として至極有益、且つ適當ノ人物ナリと被申候、小生モ機会モアラハ面会ス可しと被申候ニ付、委細承知と申し置候

以上ハ御申聞ケノ用事ニ付御返答申上候次第ニ御座候、本日田中平八氏ニモ不図面会仕候間、色々相話し申候、同氏も明春ハ是非京都ニ遊ヘハ同志社一覽ス可シと被申候、御尊申上候写真ハ是非其ノ運びニ被成下度候、同志社一覽の編輯ニ付てハ追て可得貴意候、始末、旨趣五千部宛目下印刷中ニ御座候、始末未た到着セサル旨金森君ヨリ電信有之、右ハ確かに民友社より小生出立前川崎屋ノ廻漕店ニ出したる由、如何ノ間違ニヤ、併シ通常便ナレハ少シハ延引可致歟、何ニセヨ次回分ハ入費稍嵩ミ候得共至急ニ而御届可申候、小生ハ国民之友購読者ニ寄附金催促ノ一書（右ノ中ニ旨趣始末新聞弘告文書狀）ヲ発シ申候、何卒御地方よりして東京ノ基督教界ノ諸新聞ニ寄附金申込ミ候様御序もアラハ周旋の程金森君達迄御申向ケ被成下度奉願上候

以上勿々如此御座候、二週間ノ遊案ニテ用事如山御一笑奉願上候、勿々頓首

十一月廿七

徳富生

新島先生

玉案下

追々の尊翰奉万謝候

十一月二十九日

阿部政恒

- ①神戸下山手通七丁目三百九十八番邸 ②京都寺町通丸太町上ル ④墨 ⑥
別紙図面略

拜啓仕候、先般は芳墨御恵^マ難有奉拝謝候、予て心中如何と懸念罷在候大阪會議も無事に終り、殊ニ内外諸兄の意見^マを就き蔭より想像せし所とハ大ニ異なる所あるをも発見し得たる次第ニ御座候、小生の愚考にハ来年五月ニハ大ニ此憲法を修正して各教会の自治独立を鞏固にし、上告審判御条目を付録となさバ即自由平等の主義を保有したる一教会となすを得候半歟と存候、乍去謫劣なる青年の鄙見未た社会の大勢を知る能ハす、且神の国の進歩ニ付ての実験もなき事なれば、必ず疎放にして緻密なる所なし、願くハ御精神爽快なるの時、御意見を漏し被下度候、御病勢に影響^マを及ぼるなれば強て御願申上候には無之候

偕、御依頼之家屋之儀小生坂府滞在中も川本、横田其他の諸兄姉等の尽力にて所々鑿穿^{ママ}いたし呉られ、既ニ一昨日も川本兄より御通知致され候由、小生昨日婦伸仕候処、横田、塚本両氏より更ニ恰当の家屋見当り候旨申来られ候ニ付別紙図面相添御報道申上候間、何れか御択ひ被下度候、第一回^図の家屋ハ諏訪山ニ密接し、少シ高キ所ニありて、南方神戸市街及海上の景、紀州の遠山をも一時の中ニ入るゝ程の好地位ニ御座候、家賃拾円、炊事ハ他より取寄すも家内にてなすも自由ニ出来申候、第二回^図ハ英和女学校の裏手にして、眺望ハ少し損し候得共、広き庭苑ありて運動の快楽ハ自在ニ御座候、家賃ハ拾貳円、炊事ハ前ニ同し、此他ニ六円の家有之候得共、御養生の為にハ如何歟と存候、先づ

右申上候者よりハ恰当の家無之、右の二ヶ所ハ何れも御養生にハ頗る適當の地と存候間、家賃ハ少し高貴なれども小生等ハ御勸申上度存居候

大坂會議ニ付てハ余程御配慮被遊候儀と存候、^{〔ママ〕}悉敷ハ花島君より御聴取被下度奉願上候、先ハ右要用のみ、頓首再拝

十一月廿九日

政恒

新島先生

玉案下

347

十一月二十九日

金森通倫

①大坂淀屋橋南詰西へ入る、北川芳助宅

②西京寺町丸田町上る

親展

④

墨

拝呈、陳者一昨夕当地へ着後、直に宮川氏と同道にて府會議員菊池侃二氏の宅に行き、大坂府会一同へ相談致す手続等を依頼致し、又昨日は府會議事堂へ参り大三輪、砂川の諸氏に面会致し、同様の義を依頼致しをき候、此時も宮川氏と同僚仕候、何れ今日中ニ何とか返答ある事と存候、又昨夜六時二十五分発の汽車に神戸へ下り、鹿島氏に面会致し、同しく兵庫県会一同へ依頼すべき手続等を談し置き候間、是れも亦不日に何とかの返答ある事と相待ち居り申候、尚此外二三の要件は永岡氏迄申送りをき候間同氏より御聞取り下され度候

扱て、此に一事件至急申上度儀御座候、先夜御宅ニて浮田、加藤、市原の諸氏と会合之節、偶下村の書翰之事に談及致し候が、其時先生の御言の中に當時計画中の同志社大学は無宗派的の学校になす積りなれば例のバプテストの先生〔註釋〕「が是に投金すればに」〔補訂〕「に同志社大学は全ク」ランデノミネーションナルスクールなる故、如何なる宗派の御方より

も御寄付を仰ぐと申遣すも可なり、然し現今の同志社は大学と異なり、アメリカンボードの世話になりたる故、是はランデノミネーションスクール（無宗派的）にあらず、Congregational School なり、故に例のバプテスト先生に是は無宗派的なる学校なれば如何なる宗派の御方よりも御寄付を仰ぐと申す事少し出来難とて有之候事と存候が、其時は他の事柄に取りまぎれウカト拝聴致候が、能く／＼後にて考へ見れば、是れは小生共が今日迄同志社に付ての見解と少しく異なる所の様に思はれ申候、生等は始めより同志社は無宗派的の学校なりと思ひ、今に同志が思ひ居り候が、他の社員教員等にも生と同様の見解を下し居る者有之ならんと存候、又最も学校の如きは全く宗派の外に中立すべく、特に我同志社の如きは将来の發達の為め弥可然と存候、かゝれは先日のお話とは少く相違する所はなきかと存候、然し先生の御考も我同志社を以て宗派的の学校なりとの事にては是れなかりしと存候、只其時下村に答ふるに、是をバプテストの学校に致す事は出来難と云ふ理由を挙るに当り、是迄アメリカンボードの世話になりたる者なれば今更彼れは是れ致す訳には行かずと云ふ事を述る所より、先生の語氣終に前陳の如く相成候事と御推察申上候、先生も決シテ同志社ヲ以テ純然タルC派ノ学校とは御思召さぬ事と存候、生等も是非我同志社は一派一党の機関に致す事なく、広く天下一般の有志者の望を繋ぎたく存候、タトヒ此度日本基督教会が成就致し一致組合合併するの日あるも、我同志社は尚其局外ニ中立し諸派諸宗の子弟を教育する高等学校たらしめん事を希望致、況ヤC一派の機関たる事は最も同志社の為に不得策ニ存候、素より先生に於ても御同感とは存候ニ共、先日のお話ありしを以て一寸

御注意迄申上置候、且又下村氏への御返書中にも何にとか同志社をC派の学校なりと云ふ様なる御言のなき様に御注意願上度候、若し自然左様の言葉ありて其事が世間に知れ、其より誤解を生する様なる事か在ては甚だ不都合と存候間、何卒其辺に御注意被成下度願上候、右は一寸御注意の爲申上候間不悪御思召下され度願上候、頓首

十一月廿九日

通倫

新島先生

二伯、今明日位は当地に滞在致し、其より神戸へ参る都合に御座候

348

十二月二日

徳富猪一郎

⑤森中章光写（孔版）

肅啓、仰ニ従ひ三好、後藤、勝、榎本等の諸氏ニハそれ／＼ト、ケ申置候、且又九州地方ニハ既ニ頃日二百五十余通の書状ヲ出し置き申候、猶追々も可出積リニ御座候、猶又別紙左右ニ差出申上候、右ハ同志社ニ於て演説したるものと其の意ヲ同ふすれとも、其の語氣ハ多少修正仕候、単ニ生徒諸氏のミニ訴ルと全国に訴ルとハ少しく加減セネハナラヌ事と存し、業と修正仕候、幸ニ御一覽被成下度奉願上候、目下多忙中、匆々頓首

十二月初二

徳富生

襄先生

玉案下

未だ神戸ニ御出てはなきや、昨日ハ青木氏ニ面会仕候

349

十二月二日

富永冬樹

②「金子入」

④黒インク

弥御清榮奉賀候、昨夜巡回より帰京、一兩日中ニ繰合セ下坂之積ニ御坐候、募金之儀^{〔抵〕}庁内ハ大低纏^{〔抵〕}り申候、尚不日御報道ニ可及候

奈良河合淡ニ面会、同人も随分尽力之様子ニ有之候、別紙金子入書状被^{〔カ〕}記候間則御届申上候御査収可被^{〔カ〕}下候、右付ノミ、草々頓首

十二月初二

冬樹

新島老牧師

坐下

350

十二月三日

阿部政恒

①神戸

②京都寺町通丸太町上ル

③はがき

④墨

⑥表全面新島朱書込

昨日は奥様御来神、何の風情もなく汗顔ニ堪へず候、何日ニ御下神なされ候哉、御確定之上ハ御報知被下度候、御回状之趣難有奉存候、小弟及飯田、横田両委員共同意仕候ニ付、御了承仕候、尤も部数ハ跡より御報可申上候、先は右御答迄、早々拝復

十二月三日

351

十二月三日

本城安太郎

①長崎高島

②西京同志社

御親展

④墨

謹而一楮啓上仕候、客月廿八日ヲ以テ教会堂新築之事御賛成被成降度候様御願申上置候末、委細は岩崎弥之助殿ヨリシテ愛先生台下へ御憫談有之候様御然諾ニ相成居候、当地ニ会堂設立仕候モ素ヨリ同志社之所轄ニシテ御指揮は万事教会本部諸先輩之御公見ニ随ヒ可申上候心得ニ御坐候、当地へ会堂モ建築風俗モ善良殊ニ養成之子弟等モ御成人後同

志社へ入校仕候へハ稍ヤ私之目的モ相立タルモノニ御坐候ニ付、是ヨリ愛先生台下へ御相談申上候テ福岡ナル私之郷里之風俗ヲモ改良仕度候考ニ御坐候、当地へ會堂新築之義は炭坑舎ヨリ輿論ニ対峙シテ一大名義ニ御坐候間、魏々乎會堂建築御賛成偏ニ奉願候、道之為メニ御自愛奉祈候、同志社大学へハ私モ応分之義捐仕度候、先は要用迄、如斯ニ御坐候、草々謹言

十二月三日

在高島

本城安太郎

拝

愛

新島先生

台下

追啓、奥様ヲ初メ知己之諸君へ宜敷御伝声奉祈候

352
十二月四日
安部磯雄

①備前岡山門田屋敷

②西京寺町通丸太丁上ル

③はがき

④墨

前略、今朝華墨拝読仕候、唯今教会全体の意見を問ふ事ハ余程時日を要し候へとも、彼の総会の代人として、且つ教会の牧師としてハ別に異存も無之候、何卒御出版被成下度奉願上候、又右ハ教会へ相談いたす迄もなく至極結構なる事と相考へ候へハ此段鳥渡御返事申上候也

十二月四日

353

十二月五日

村上俊吉

- ①兵庫教会 ②京都寺町通丸太町上ル ③はがき ④墨

廻文ヲ以テ御示諭被下候キヨリ^(ユ)キ氏之演説ヲ上梓スル事ハ至極可然義ト弟等ニ於テハ御同意仕候ニ付、端書ヲ以テ速ニ御回答仕候、右宜敷奉希候、頓首

十二月五日

兵庫教会 村上俊吉

354

十二月五日

長田時行

- ①神戸坂本村 ②京都寺町通丸太町上ル ③はがき ④墨

拝答、陳者本日当地方諸教会へ御廻しニ相成候ギユリツキ氏の意見書云々ハ一応拝見仕度候ニ付、可然御執計被降度

候也

十二月五日

其後御病氣如何被在候哉、御見舞申上候、当地方へ御出ヲ奉待候也

355

十二月六日

吉富簡一

①山口県会議場

②京都府相国寺門前同志社

貴酬

④墨

⑥代筆

華墨拝誦、益御安康奉賀候、陳ハ同志社大学御設立旨趣書七十部御送付相成正ニ落手、幸此節県会開設中ニ有之候ニ付、議員其他知己之人々へも頒布致置候、何れも御計画を賛し感奮仕候、乍去県下ニ於而も種々計画有之、義捐金之廉極めて多ク、人々困難之秋ニ御坐候間、寄付金之義予め難期、精々尽力ハ可仕候得共前陳之次第御承知置是仰、右不取敢貴酬申上度、以代筆如此ニ御坐候、其中時下御自重奉祈候、拜敬

廿一年十二月六日

吉富簡一

新島襄殿

追テ貴影荅葉御送付被下難有拝受仕候

356

十二月七日

有吉 涉

①京都府(木版)

②寺町通丸太町上ル

親展

④墨

拝啓、過日は御病氣中態々御来訪被下候処、異約仕候段御海容被成下候、亦昨日金森君御尋被下奉謝候、其際明後九日商工会議処總會へ御出向之義御示談致置候、尚其跡ニ而浜岡氏ト協議致候処、右總會席江御臨ミ被下候共、其功無之様見認候ニ付、今回ハ見合、不日浜岡氏大宴会相催、凡五百名程集ムル見込ニ付、其節ニ縷陳候方可然様申述、最ノ事ト存候間、若金森君ノ御出向先相分り居候ハ、電信ニ而九日帰京ヲ要セヌト御通報奉願度、總會ニハ小生乍不及縷陳可致候、右申上度取急、草々拝具

十二月七日

有吉生

新島先生

侍史

十二月八日

無名居士

①下京区十七組 ②京都上京寺町丸太町上ル東側同志社大學設立仮事務所

忠告書 ④墨 ⑥封筒裏書「廿一年十二月八日發ス、無名居士」印刷物

〔『隔夕報知』(明道館發行) 第五号附録 明治二十一年十一月三十日〕

「兄^{〔ママ〕}熟読シテ速ニ護法居士ニ屈伏シテ其身之罪惡ヲ江湖諸彦ニ対シ過ヲ改ニ憚ル勿レ」

同志社大學の設立は吾人の賛成すべき者が將た賛成すべからざる者乎〔印刷〕

耶蘇教牧師の同志社々長なる新島襄君が今般私立大學を設立せんと企てたるは一日に非す而して之れか爲めに經營辛苦せし事も亦一日にあらざるべし今や漸くにして其の計画略は熟せんとすれども尚未た及はざる所もあれば実に新島君は今日耶蘇教信者の微力を措き先づ此を全天下に訴へ全国兄弟の力を藉り當に其の計画を成就せすんば再び其の時期は無かるべしと熱信せり仍て新島君が從來計画し居らるゝ所の顛末を陳し併て之れを設立せらるゝ所の目的を告白し而して之れに由て以て吾人は明治専門學校設立の可否を推究し之れか賛成と不賛成との意見を立てざる可からざる所以なり

回顧すれば既に二十余年前、幕政の末路、外交切迫して人心動揺するの時に際し彼れ新島君は海外遊学の志ありや否

やは知らざれとも何様本国を脱走して函館に赴き先づ魯国公使附屬館の希臘教師ニコライに至りて一身の救助を求めたりしも其の意を果す事の能はずして遂に止を得ざるの場合より元治元年六月十四日の夜、窃に国禁を犯し、米国商船に潜み、該船出帆数日の後に至りて甫て其の身を船中に現しければ該船の者共之れを如何ともする事の叶わぬより一時は或島に放り上げられしと聞き及ひたれとも新島君自身が米国商船に搭し、水夫となりて労役に服する凡そ一年間と謂へば果して真説なるやも斗り難し去る程に彼れ新島君は幸にして米国義侠なる人志の助けを得て、アンドヴァの耶蘇教学校に入り茲に多年の苦学を積みし由而して米国文明の花を見て是れは之れ一朝偶然にして生したる者に非す必す由て来る所の者ありと感し、而して其の来る所の者は偏へに基督教の教化より生したる者と妄信し、始めて耶蘇教の国家に大関係あるを信し、心窃に一身を耶蘇教拡張の為に擲んと決せしは実に米国人民の賞すべき事なれとも其の米国人民の賞すべき働きを以て今之れを我帝国に致さんとするは我國の成立と米国の成立とを弁別せざるの誤にはあらざるなき歟

明治四年新島君米国アンドヴァの耶蘇教学校に在て勤学せられし時故文部理事官田中不二麿君の随行を致し理事官と共に北米より歐洲に赴き各地方を巡視するの際凡その学制に関する者は、聊か之れを觀察講究するを得て愈よ欧米文明の基礎は、国民の教化に在ることを認め、而して我日本をして欧米文明の諸国と対立せしめんと欲せば必ず先づ其の根本なる耶蘇教に向つて力を尽さざる可からずと信せり此の故に新島君は躬親から謂へらく他日我邦に帰らは必ず一の耶蘇教大学を設立し、以て我が国家に対し此の耶蘇教を拡充せんと誓ひしものならん歟

果して然らん、明治七年新島君が米国より帰朝するに際し適ま北米合衆国外国伝道会社の集會に遭遇せり、米国の紳士貴女即耶蘇教の男教師及女教師等の会する者三千余名もありし其の時新島君の教友にして此會に集る者頗る多きに

より教友新島君を要して臨会せしめ且つ訣別の辞を求めらると聞きたれとも、若しやこの集会を幸に新島君は教友に頼て臨会を許され当に訣別の謝辞に托して大に成す所あらんとの精神に出てたる者ならん歟、何には兎もあれ新島君はこの集会に於て始めて平生の宿志を開陳して曰く、今や我日本ハ社会の秩序破れ、紀綱乱れ、人心帰着する所を知らず、今日に於て、我日本に文化の美光を来さんと欲せは、宜しく欧米文化の大本たる耶蘇教に力を用ゐざる可からず、顧ふに我か同胞三千余万、将来の安危、禍福は、独り政治の改良に存せず、独り物質的文明の進歩に存せず実に専ら国民教化の力にあるを信す、又更に一步を進めて曰く、新島若し我邦に帰りたらは誓て此の耶蘇教拡張の事業に向て力を尽さんと欲す、満場の諸君新島が赤心を看取し、幸に翼賛する所なき乎と、語末だ尽きざるに忽ち満場諸君の激讃する所となり、即席に数千円の義捐金を得、茲に於て明治七年の末、胸中一片の宿志を齎らし、我が国に帰着せりと、抑も新島君が米国にありて訣別の辞を求らるゝの時我日本は社会の秩序破れ、紀綱乱れ、人心帰着する所を知らずとの主意は何等の事情を述べられしかは知らざれ共、吾人が此の意のある所を察するに先つ社会の秩序破れ云々との事は吾人等の尤も注目せねばならぬ事と存する也

夫れ社会とは人間集合の総称にして秩序とは尊卑大小軽重の別あるを謂ふなるべし然し彼れ新島君のいふ所の社会は吾人が謂ふ所とは敢て異ならざるを知ると雖とも秩序の辺に至りては吾人が講く所とは大に異なる所あるべしと信するなり如何となれば吾人が説く所の尊卑大小軽重なる者は喩へは尊は君にして卑は臣なり大は親にして小は子なり重は師にして軽は弟なりと云ふが如し左れば我が国は君々たららずと雖とも臣々たり父々たらすと雖とも子は子たり師は師たらすと雖とも弟は弟たりとの教を以て成り立ちたる国体なれば米国の成り立の如く天下の天下は一人の天下にあらずして天下の天下なりとの惡平等見を主張する所の耶蘇教より之れを推究したらんには如何にも社会の秩序が破れた

る如くに思ひしならん又紀綱乱れ云々との事は当時未だ法度の全備せざることを謂ふたる者の如く思へとも更に新島君の胸中に入りて淨玻璃鏡に懸けたらんには案に違はす我国王制の甚しきを指したる者ならんかそは我國(ママ)は從來耶蘇教を禁して之れか嚴刑を置れし等の法度ありて猶未だ新島君か帰朝するも思ふ儘に耶蘇教拡張するの便を得ざるを歎きし言なるべしと察するなり又人心帰着する所を知らすとの一句に至りては是そ新島君か帰朝せらるゝ時に際し多くの教友に謀りて即席に数千円を取り上げたるの方便なるへし如何となれば新島君は当時未だ新教の我國に入りしよりの日甚浅きを以て彼の米人か挙て該教の我國に蔓延せしめんと苦慮し居る所を先見して早くも教友等の心を攬りしが故に斯くは胸中一片の宿志を齎して帰朝する事を得たる者ならん然と雖とも新島君か其の初め教友に謀りて数千円の救助を得たる方便の一句即人心帰着する所を知らすとは蓋し何らの意味ある者かは他人の得て知るべからざる所なり夫れ是れを知る者は其れ唯た一味の教友若くは信者に非らずんは知る能はざる所なり然は則一味の教友若くは信者をして相互に談合したらんには其れ唯た他なし我日本国は人造に由て成り立たる神道儒道仏道等の教を信して之れに救を求め之れに罪の赦を願ひ又は神仏に誓を立て吉凶禍福を祈り居る者なれば如何に此等に向て願ひ願ふとも其功驗はあるべからずそは是れ日本の神達を造り支那の孔子を造り天竺の釈迦を造り而して此等の人々に智慧才能と其の生活を与へし天主耶蘇を信仰せざる者なればなりと又日本杯は多く死者の靈魂を祭りて或時は神に配し或時は仏に祀りて祭典供養等を致すも皆是れ無益の所業なり何となれば天主耶蘇を信せざる人々の靈魂は皆地獄に墮して天主耶蘇の罰を受くべき人なるに此れを却て神じや仏じやとして祭らるゝなれば嘸々死人の靈魂は天主耶蘇に対して愈よ苦み居るならん加之死者の靈魂を祭る杯の事は唯に無益有害のみならず実に野蛮人の成す所なればなり其れ然り日本人は猶未我國の天照太神を始め八百万神を祭り仏菩薩杯を祭りて居ることなれとも皆之れ目的違の信心なるか故如何に意を尽し

性を尽して吉凶禍福を祈るとも皆徒らこととなりつらん斯く徒らことに力を竭して神仏等に仕へ居るは実に其の人の心の帰着する所を知らずと云ふも無理なき事ならずや若しも諸人の悟る所ありて人々一心の帰着を定めんとならは先づ日本国の三柱の神を始め天照大神及八百万神より官社国社仏菩薩等を捨て此等に唾して而して後天主耶穌を信するに至りなは是れそ其の人の一心帰着は定まりたる者と謂ふべき杯の意味合を以て米人宣教師及該の信者等に対し相互に相謀る事のありしとならば定めし彼等の激讃する所となりて即席数千円の助成をするあるも亦無理なき事と察せらる、なり左は去りながら新島君が真に耶穌教主義にあらずして全く普通の教育に力を尽し全く我國の爲めに将来を慮りて天下人志の助を求めらるゝ事なれば先づ耶穌教主義の看板を放擲して自今同志社を我國教の学社となし次て我國教主義の私立大学を設立せんと公言すべし然らば則ち忽ち百万の金塊立ちに成就して君が欲する所に隨て其の欲する所を成就せらるゝや必然として疑を入れざるなり左れは何ぞ外国信者に向て俵弁を費し此等教友の六万弗や我兄弟信者等の臍操（續）金を持て以て汲々せらるゝに及はんや

新島君と山本覺馬氏と結社して明治八年十一月廿九日私塾開業の公許を得て直ちに同志社英学校を設立したりと云ふ夫れ新島君が最初京都に來りて耶穌教を播布せんか爲めにこの地に一の集會堂を新築して追々該教の手蔓を全国に及さんとの計画なりしが當時京都府は榎村正直君の知事たるを以て中々外教主義の會堂若くは神學校杯の許可を得る能はざる処より百方手を尽して新嶋君が素志を達せんと図りしかとも到底思ふ儘に拂らねは何とかして其の基礎を定めんものと千辛万苦の其の末に不図新島君が耶穌教主義を其の儘にて京都に播布するの手引を得たるは専ら山本覺馬氏の力に藉る者とす顧ふに此の時山本覺馬氏は榎村知事の顧問ともいふべき程に親密の間柄なり且つは新島君と山本覺馬氏は同國人の好みもあり其の上何の好因縁にや新島君は山本覺馬氏の令嬢と結婚の次第もありて其れ此れ切に切

られぬ間柄なれはいつしか新島君と山本氏は二体一性の者となりしよりこの機を幸に新島君は山本氏に己のか素志宿望を談合したる者か山本氏も非常に力を尽して新嶋君の素志を楨村知事に説き付けれとも如何に顧問のいふ事にもこの仏法原の位地に於て公然耶蘇教主義の学校や若しくは会堂を建立せしむることは不同意との事にて如何に山本氏の尽力もこの事斗は及び難しと断念しそれより更に名目を変へて一の英学校を開設せんことを謀りし処今は楨村知事にも設令内心耶蘇教主義を以て起す所の学校にもせよ此れを拒むも不本意と思はれけん不得止公然彼の英学校を設立することを許されたりこの訳柄なるを以て新嶋君も亦止を得ず耶蘇教主義の看板を隠蔽して表面には私塾開業の名目を以て英学校を設立する事とはなれり是れ即現今同志社の設立したる創始なり、是に由て之れを觀れば今般新島君か京都に於て同志社大学を設立するは耶蘇教拡張の主義にあらずして全く普通教育の主義なりと云ひ合へるも矢張同志社を發起する時の如く耶蘇教主義を隠蔽して表面に英学校の名目を以てせしも最早今日の有様では京都同志社をして教育英学校といふ者は甚た少にして挙民皆同志社はヤソ教主義の学校なり耶蘇教々師を養成するの場所なりと認識せり加之其の社長始め其の生徒等も挙て耶蘇教主義に相違なきことは躬親ら之れを誇言せり然らば則此度企て居らるる所の明治専門^{〔ママ、以下同〕}学校も亦同志社建立の最初の如く普通学科の看板を掲げて全国民の膏血を集め而して一の大学を設立し終には又純全たる耶蘇教主義の真面目を振り廻の策略に過ぎざるなり若し新島君が真実に耶蘇教を信して該教を拡張播種せしめんと欲せば先づ天主十誡中の妄語する勿との箴言に基ひて之れを確守し他人をして計略妄語の牧師となることを止め玉へ是れ切に新嶋君に忠告する所なり

右様果して新嶋君は計略妄語の牧師となりて先きに同志社を設立せしや否や又計略妄語の牧師となりて同志社大学を企てんとするや否やの証明を請へんと欲せば彼れ新嶋君か躬親ら公言せし一端にて知り得へきなりその言に曰く

同志社設立の目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず斯の如き教育は決して一方に偏したる智育にて達し得可き者に非ず又既に人心を支配するの能力を失ふたる儒教主義の能くす可き所に非ず唯に上帝を信じ、真理を愛し、人情を厚くする基督教主義の道德に存することを信じ、基督教主義を以て徳育の基本と為せり、吾人が世の教育家と其の趣を異にしたるも茲に在り云々との意見あるに於ては正しく耶蘇教主義を以て最初よりこの同志社を設立せしことは多言を要せずして明白なり然るに此の同志社の^{〔蘇〕}立の意を續きて又復この耶教^{〔蘇〕}教主義の意見を拡充せんか爲めに更に明治専門学校を設立せんと企て居ることは自らも之を知り他人も之を知り天主も之を知り米国教友も之を知るの今日にも拘はらず尚も明治専門学校は耶蘇教拡張の手段にあらずと公言し且つ之れを印刷して世に流布せし事杯の所業は愈以て新嶋君は計略妄語を基礎として明治専門学校を設立するならんといふも不当の言にはあらざるなり、新嶋君は天下の輿論一変して、躬親ら基督教を信せざる人にても基督教は實に一国の道德を維持する勢力あることを識認し、天下の輿論基督教を賛成するの勢ひとなり云々と公言せられしか此等の輿論と指されしは何等の国体上より明言せられし者乎、思ふに彼れ新嶋君は其身日本にありと雖其の心は米国に在りて働き居る人の如くなれば斯くは右様の云々を主張するに至りたるならん夫れ我日本国内の輿論より基督教の如何を云はざる必すや神儒仏の三道を信じて耶蘇教を信すべからず耶蘇教を公許すべからずと謂ひ合へるは是れ即ち即今天下の輿論なり然は則ち新嶋君か躬親ら天下の輿論既に基督教を賛成せりと云はれしは余り精神錯乱の言と云ふへき乎然らずんば世上に暗き人物の想像とこそ謂へきなり

諺に云はすや耶蘇教の眼鏡を懸て之を見れば皆耶蘇に見へると云ふに等し君若し耶蘇教主義の眼鏡を捨て天下の景況を一見し玉へ左すれば始めて天下の輿論は皆是れ神儒仏三道の大同団結たる事を認識せらるゝならん而して又基督教

は一国の道德を維持すの勢ありと云れしかとも国には色々の成り立ちがありて米国は米国の成立あるべし英も仏も独も魯も亦此の如くなるべし左れば我日本には又復日本帝国と賛揚せられ来る所の成立は現然として存在するならん、君知らずや我國の成り立ちハ君臣大義の明分(名)と云ふの成立ちがあるありて之れを確乎不拔に万世無窮と維持擁護するの勢ある者は神儒仏三道の道德の外更に他の道德を要せざる所なり然るに今や君臣大義の明分(名)を紊亂し若くは国情を破壊して優勝劣敗の基督教を以て眞の道德と誤認し而して此の偽道德を以て我帝国を維持せんと企てたる者は抑も惑へるの甚しき者にして是れそ国家の逆臣賊子と云ふも決して誣言にはあらざるなり然と雖とも基督教主義を以て成り立たる欧米の如きは其の一国の道德を維持するの勢ありと云ふも聊か其の理なきにはあらざれとも我帝国内に於ては断乎して一国の道德を維持する者にあらずして却て一国の道德を紊亂破壊せしむる者なり何ぞ此等国害となるべき者の繁殖を計画し居る所の学校若くは塾(塾)社に入りて其の業を卒るも実に嫌ふべく惡むべきこそあれ決して喜ぶべき者にはあらざるなり尚ほ此等学校の専門科を加へて増邪徒の魁首を養成するの企を好まんや況や此等学校の賛成者となりて其の事業を補翼するの理あらんや

夫れ然りこの私立大学は実に一大難事なり之れを設立するには多くの人を要し多くの金を要すと雖とも新嶋君は誰れに向てこの志を談し誰れと共に此事を行はんと苦慮せしか幸にして或る部分(此の部分と云ひしは外国宣教師か若くは井上氏等の事を指したるならんか)の人の信用を得たるも新嶋君が當時の有様は全く孤立なり然れとも黙して止む時は宿志大望も水泡に飯せんことを憂ひて此の時より同志と相識し頻りに同感の士を天下に求めんか為めに明治十七年四月始めて京都府會議員を招待し数回の演説を為し、私立大学創立の次第を發言し茲に於て明治専門学校設立の旨趣と題し大学創立の目的を記したる小冊子を發行して賛成を天下に求められたり是れ私立大学の第一着手なり

此の企ては天下諸士の賛成を得たるか得ざるかは確知する能はずと雖とも何分賛成者の名ありて寄附するの人なく寄附金の約束ありて納金するの人なし此故に新嶋君の企ては殆んど中止の有様なり而して新嶋君は七転八倒苦心の余り先づ海外に航して同志社大学設立の助力を求めしかとも別に差したる程のこととあらざりし由猶又本年四月京都智恵院に於て一大会を開き六百五十名の京都府下諸紳士を招き私立大学設立の助成を得んことを求めたりし処全体此の会に集る六百有余の紳士は何気なく来りし位の事なれば如何に北垣京都府知事か張儀の弁を振て府民の賛成せんことを求とむるの演説を致されしかとも何れも皆手持不沙汰の心地にて相互に顔と顔とを見合す斗のこと故差して誰一人の率先して尽力加勢せんと発言する者もあらざりき然し其の後京都倶楽部に於て理事委員会を開き今や頻りに資金を募集し居れとも尚未た金高の幾何なるを明白ならざりしは実に無理なき事と察せらるゝなり

新嶋君は斯く京都に於て大学設立の釀金を計りしかとも一向思ふ儘に賛成者もあらざるより本年四月東京に出て大隈伯、井上伯、青木子等に見へ宿志を開陳せし処幸に其の賛成を表せられて若干金を恵まれたり次て後藤伯、勝伯、榎本子の如きも皆新嶋君の志を翼賛して多小の寄附金を為す可しと約されし由、抑も大隈伯、井上伯、青木子、後藤伯、勝伯、榎本子、等は何等の意見を以て新嶋君の志を翼賛せらしや得て知る能はずと雖とも恐くは新嶋君の計略妄語に籠絡せられたるにはあらざん歟、然し大隈伯は外務大臣なり井上伯は農商務大臣なり勝伯は枢密院の顧問なり榎本子は通信大臣なり後藤伯は目下無雙の政党和国家なり何れも皆天下屈指の人物なるに漸く基督教を以て其の名を知られたる新嶋君の為に籠絡せられたるとの言句は甚不当のことと思はるゝかは知らざれとも果ちに聖賢君子と雖とも迷惑なしとは云ふべからず見よや新嶋君か今に基督教主義を以て基督教の拡張手段に此の明治専門学校を設立せんと企てたるの次第か判然したらんには甫めて大隈伯も井上伯も後藤伯も勝伯も榎本子も皆夢の醒めたるか如く忽ちに其の

顔色を變し既に寄附せし所の金匁に對し其の利潤を加へて之れを取り戻さるゝの時節もあるならん歟と察するなり此等力量ある人々は斯くは自在に与奪の威權もあるか故に差して一時出金の心配もなきことなれとも吾人輩か膏血を搾りて一度出金したらんには其の時如何に悔ゆるとも最早や取戻しの出来ぬことなれば先つ出金せざるの時に當りて篤と勘考し而して後に寄進なり加勢なり致すが上策なりと婆心の儘を記るせしなり諸君よ不得止して出金の場合に遭るとも先つく十二分の注意ありて而して後に寄進せらるゝとも亦遅きことにはあらざるなり

新嶋君が設立する私立大学は耶蘇教拡張の手段なり伝道師養成の目的なりと云ふ者は未だ新嶋の心事を知らざる人なり新嶋か志す所は尚ほ其上に在り基督教を拡張せんか爲めに大学校を設立するに非すと其の舌の未だ乾かざるにも憚らず自語相違のことを喋々して曰く唯だ基督教主義は実に我か青年の精神と品行とを陶冶するの活力あるを信し、この基督教主義を以て教育に適用し、更にこの耶蘇教主義を以て品行を陶冶する人物を養成せんと欲するのみと左すれば矢張新嶋君か、この大学を設立せんと欲するの目的は漸次に政事、經濟、哲學、文學、法學等の教授をなすの心算なれとも先つは現今同志社に在る所の神學即耶蘇教の拡張を図るに在りと云ふならん又曰く

歐洲文明の現象は繁多なりと雖とも概して之れを論すれば基督教の文明にして基督教の主義は血液の如く万事万物に皆注入せざるはなし而して我邦に於ては唯外形の文明を取つて之の耶蘇教主義を取らざるは是れ猶ほ皮肉を取つて血液を遺す者に非すや今や我邦の青年は皆な泰西の文學を修め泰西の科學を修め我邦を扶植する第二の國民と成んとせり然も今の教育たるや帰着する所なく皆その岐路に防徨する者あるに似たり吾等は之れを見て実に我邦將來の爲めに浩歎に堪へざる者あり天主若し吾人に幸を下し世上の君子が志を助くることあらば吾人不肖と雖も必ず此大任に當らんと欲するなり之れを要するに吾人は敢て科學文學の智識を學習せしむるに止まらず之れを學習せしむるに加へて更

に是等の智識を運用するの品行と精神とを養成するは決して区々たる理論区々たる揅束法の能く為す所に非ず實に生ける力ある基督教主義に非ざれば能はざるを信す是れ基督教主義を以て我か同志社大学徳育の基本と為す所以ん、而して此の教育を施さんがために同志社大学を設立せんと欲する所以なりと、身親から明言したる以上はこの明治専門学校は徹頭徹尾耶穌教擴張の手段なり耶穌教の伝道者を養成するの学校なることは毫も疑すべからざる所なり然るを其の意然らずと謂て尚ほも脅迫手段の策略を廻し異教者迄も寄附金を促して止まざるか如きは實に誠に計略妄語の宣教師と謂はざるを得ざるなり

全体余輩が斯の如く新嶋君の刻苦勉強して二十有余年間も工夫に工夫を凝して今や其の時期熟せんとする明治専門（ママ・以下同）学校に対して喋々意見を加へ若くは之れか印刷を播布するは予て新嶋君か同志社大学設立の旨意と題する一葉摺を以て此を全天下に訴へ全国民の力を藉り云々又曰く全国民の助成を仰ぎ全国民の力を藉らずんば其成就實に覺束なきなり是れ吾人か今日に於て沈黙する能はざる所以なり云々又曰く天下に訴へ全国民の力を藉り以て吾人年来の宿志を達せんとす願くは世上の君子吾人か志を助け吾人か志を成就するを得せしよと公言せしからは余輩も亦止むことを得ず新嶋君か宿志を加勢贊助して其希望を達せしむるに於ては我国典情義を紊乱するの恐れはなきか、国民の元氣を弱くして優勝劣敗風の氣性を現出するの恐れはなきか、国家将来の運命は共和政治にする杯の恐れはなきか

我国教の神儒仏を破壊し耶穌教を以て国教となさんとの恐れはなきかと此等の仔細は能く点検審査を遂けて而して此れが大学設立を賛成するとせざるとを決せざる可からざる処なり顧ふに新嶋君か此の私立大学を設立せらるゝ目的は業に已に縷々陳述せし如く彼れは徹頭徹尾耶穌教主義を以て之れを起し耶穌教主義を以て之れを拡充せんとするの大学校なれば終に我国教の三道を破壊して耶穌教を国教と致さんとの事は最早公然世人の知る処なるか故に此の辺は今更

多弁を費すに及ばざる所なり然れは其の余の三件即ち国典情義を紊亂し、国家の元氣を傷け、共和政治の遠慮は如何、是れ又耶蘇教を以て国教と為さんと図り居る所の意中に含有するならんと信するなり果して然ば、彼の所謂一年の謀ことは穀を植ゆるに在り十年の計ことは木を植ゆるに在り百年の計ことは人を殖ゆるに在りと、蓋し新嶋君か大学設立の如きは実に百年の後に至りて我国滅亡の中保ともなるべき事業にはあらざるなき歟今や二十三年も既に近きに迫り我邦未曾有の国会を開き我国人民に於ては未曾有の政權を分与せらる是れ実に我邦千載の盛事なりこの時に當りて邪教の徒党輩出して一國の憲法を紊亂し国家の大義を破壊せんと企つるか如きの大学なれば挙民力を竭して迅に之れを破却しその根基を抜き去らんことを誓ふ者は是れ即ち国家の忠臣なり今や国害ともなるべき大学なれば挙民性を尽して速に打破しその基本を絶断せんことを誓ふ者は是れ即ち国家の仁人なり

吾人か明治専門学校設立の可否に對して意見を建る事斯の如し吾人は嘗て西京同志社々長の耶蘇宣教師なる新嶋襄君か發起に係る私立大学校は羊の頭を看板に掲げて狗の肉を売るの類では無き歟との批評を記載したることもありしか果して批評の直言の如く新嶋君は身親ら明治専門学校は耶蘇教主義を以て設立する所の者なりと公言せらるゝことなれば吾人も亦これに對する応分の意見を吐露して之れを同感の志士に議するは止むを得ざる所なり知己朋友の知らず識らずこの大学を翼賛して今にその後悔するを見過すに忍びざる場合もあれば此又止む事を得ずして十分の注意を与へざるを得ざるなり吾人熟此の明治専門学校設立の主意を觀察し来れば愈以て将来は大いに国害なる者と認識するか故に自今余は一身を犠牲と為してこの大学設立の事業を拒まんと欲するなり然りと雖とも新嶋君か仮にもこの大学設立の目的は耶蘇教擴張の手段にあらず伝道者養成の主眼にあらずとの意に基きて一朝本心に立帰り真に公平無私の私立大学を設立して増国典情義の隆盛を図り、国民一般の元氣を培養し、君臣大義の明分ある国体(名)を無窮に愛護し、神

儒仏の三道を信して大學設立の基本となしたらんには此又吾人か身命財を捨て賛助協力するは勿論身親ら東奔西走の勞を厭はす當に國民に相計りて必ず君か二十有餘年來の宿志は一時に成就せしめんと誓ふなり新嶋君よ余輩の意見をして之れを如何と感し玉ふや幸に答弁を吝むこと勿れ更に一步を進て余輩の意見を天下の人志に訴へんとす天下の人志其れ之れと如何と感し玉ふや幸に教示を吝む事勿れ

兵庫縣神戸區坂本村七百九十六番地

目加田護法謹白

發行人 目加田 榮

編輯人 脇 種 熊

印刷人 安岡竹三郎

兵庫縣神戸區相生橋北詰

發行所 明 道 館

358

十二月八日

渡辺洪基

④ 墨

去月中御認之御書披見仕候、益御壯康之由奉欣賀候、陳者兼而御企之私立大学之義漸次其緒ニ就キ候趣ニ而諸新聞ニも其御旨意掲載閲読仕り、如何ニも美挙ニ有之、為國家如此之事ハ多々益宜敷義ニ有之、成就之義企望仕候ヘ共、如何ニセン小生之如キ他ニ企図スル事業数多有之、何共義捐金等行届不申、依而此義乍遺憾美挙ニ加入難致、尤小生而已ナラス大学之諸士ニ於而も他之手段ヲ以可成御援助致候義ト申迄も無之義ニ御坐候、知己縁故之諸人ヘ小生より周旋奨励仕候様御委嘱之趣、万々御注意候得共其旨意等委細新聞上ニ而貫徹致居候次第ニ而、拙弁ヲ煩候迄ニも無之、且又小生より申入候他之事業も数多有之、余り芸蠅ク申候時ハ却而汙美挙之恐も有之、依而好機次第嚙坏致候ニ相止め申候、此儀御了解被下度奉存候、右御答迄、草々拝具

廿一年十二月八日

渡辺洪基

新嶋襄様

〔十二月十日〕

後藤象二郎

④墨

文祉益御清健奉大賀候、過日来同志社設立ニ付、同旨趣書并ニ設立始末案等拝読仕リ候、貴契カ我邦家ノ為ニ我教育ノ為ニ御斡旋ノ精神実ニ嗟嘆ノ至ニ不堪候、右同志社設立ノ義ニ今日愛国者ノ務ニシテ生ニ於テモ十分ニ翼賛致スヘキ志ニ有之候、然ルニ近年来自己ノ費用ヲ投シテ政事上ノ運動ヲ始メ、為此不絶意外ノ入費山積致、余地無之十分ニ貴契ノ志ニ報ユル事ヲ得ズ、甚タ遺憾ノ至ニ候得共唯生賛成ノ意ヲ表スル迄トシテ金百円寄付仕リ候間御領収被下度候、右拝答迄、草々不具

後藤象二郎

新島襄殿

追白、但シ金子ノ義ハ第一銀行渋沢栄一氏へ振込候間、御亮知被下度候

360

十二月十日

小崎弘道・池本吉治

①東京肴町教会

②京都府寺町通丸太町上ル十三番地

③はがき

④墨

⑥

日付は消印による

拝啓、陳ハギユリーキ氏ノ合併ニ関スル草稿出版之儀、至^ニ極賛成仕候、就テハ同氏より先ニ配布ナリシ七個ノ廻文も合テ出版致候てハ如何ニ御坐候や、右書状中にハ、或ハ事実の相違之所も少ハ有之やニ見受申候ニ付、右等校正之上、皆取纏めて出版せは宜カラント存候、御注意迄ニ一言仕候、拝復

361

十二月十日

日下義雄

④墨

愈御清栄奉敬賀候、次段小生義幸^{〔カ〕}ニ無異、乍外事御放念被成下度候、先キ頃帰京之途次、暫時西京江罷越候得共少時日之滞在故御伺候も不仕失敬礼候、幸ニ船中ニ於而金森君江会晤、略御模様を承知仕候、過日ハ小生妹入学之折別而御高配を煩候義万謝不啻候、両度煩尊翰候老兄発起大学校御設立之儀、小生ニ於而も至極賛成可仕候得共、唯今直チ

ニ金員申入候義ハ御猶予被成下度、尤も応分之損金ハ致ス考ニ御坐候、他人説勸之義ハ徐ニ相試み申度、長崎ハ御承知之通り守金の之人物多数ニ而、進取之氣力ニ乏數此義前以篤と御承知置被下度候、草々頓首

十二月十日

日下義雄

新島先生
侍史

二白、令夫人江可然御致声被下度候、敬白

362

十二月十一日

伊勢時雄

④墨

寒氣日ニ熾ニ相成候処、御病軀如何被成御坐候や、御撰養の功 上天加護ニよりて現ハレ、御甘快之御事ト希望ニ堪ヘ不申候、扱毎々色々ノ事申出し御心配相懸候事ニ御座候が、茲ニ又一事件之御相談申上度事有之候、他ノ儀ニ無之小生負担仕候本郷伝道ノ一事ニ候、熟々惟ミレハ学生ノ仲間、世間有力者ノ仲間之輿論ハ殆ント將ニ基督教ニ向ハんとし、日本之公論も亦之ニ帰せんとする之今日ニ於て、我儕信者之社会ニ於て此時勢ニ乘し此時機ニ応せんとする如何之策ヲ立、如何の方法ヲ施し候事有之候や、実ニ恬ントシテ小策ニ安んずるを見るのみニ御坐候、尤も東京ニ於て

ハ、一ノ大教会ヲ設立して上下ノ人ヲ誘勸し、世間の衆生を刺動スル事必用ニ有之候、此義先生尚春より秋ニ到迄御在京ノ節ニも屢々御高慮有之候事にて、別ニ言上不仕候て宜敷事ニ御座候、付てハ曩ニオルカンの為メ百三十四円之御寄付も有之（オルガンハ一両日前到着上等ノ品ニテ甚大慶）一候事ニ御座候、爾後頻ニ寄付金募集ニ従事仕候へ共、漸クニシテ七八百円之外上リ不申、今ノ有様にてハ日本ニテ募集仕候ノミニテハトモ一千円以上ニハ上リ申問敷候、当初ノ考ニテハ一千円内外ニテ十分ナリト相考申居候へ共、追々時勢ノ赴ク処ヲ考へ候ニ、漸進ノ方針ヲ取り是より漸クニシテ三五年ノ後ニ至リテ大教会ヲ設立仕候てハ時勢ニ後れ大計ヲ誤リ可申、二十三年ノ国会ノ節迄ニハ吾人十分ノ用意ヲ整へテ人々ヲ待チ、二十三年ハ即チ日本ノ「ペンテコステ」ト仕度事ニ御座候、付テハ目下大教会ヲ立ザルベカラス、其ニハ一万円ノ資金ヲ要し可申候、小生ノ考ニテハ神田万代橋辺ニ地面ヲ買ヒ、一千人ヲ納ルベキ大堂ヲ建築し、毎安息日ニハ朝夕福音ヲ説キ、週間ノ日ニはレクチュールナドヲ致し、諸方より有力ノ人々ノ助ヲも求メテ、此処ニキリスト教ノ勢力ヲ集合仕候時ニは、日本伝道上一面目ヲ新開スルニ至リ可申と存申候、或ル宣教師ノ人々ニテ少々ハ米国ニテ募集し呉レ可申候へ共、千円カヤツト、二千円ノ事ニテ有之、とても間ニ合兼候事ニ御座候、ソコデ小生ハ此度志ヲ決し、往復六ヶ月間ヲ期シ米国ニ渡行して、自ラ此事ヲ該国博愛慈善ノ人々ニ訴へ申度御座候、上天若し幸し玉ふ時ニハ、一万円ノ金ヲ携へテ来六月ニは帰朝可仕、来秋九月十月頃ニは会堂落成ヲ告ケ可申候、如斯ノ果斷ノ処置ヲ行ヒ不申時ニは今日教化ノ大問題ヲ解釈スル事不能ト相考申候、之ヲ再言スレハ第一、日本教化ノ時代ハ目前ニ迫り来リ候へは活眼ヲ以テ此時勢ニ當リ候事、実ニ必要ト存申候、第二、之ヲナスノ一方法ハ東京本郷近傍ニ一大会堂ヲ建築スルニアリ、第三、此費用一万円ヲ要スベシ、第四、之ヲ募集スルハ米国ニ於てすべし、右ノ通ノ理由ニより来月上旬ニは出立仕、可成速ニ成功帰朝仕度御座候、其ニ付テ先生ニ奉願度事ハ紹介状ヲ頂戴仕度事ニ御座候、ボストン、

ニニューヨークニ於て、アントワニ於テ、先生ノ御知己ニテ或ハ金あり或ハ勢力ある人々ニ向テ御紹介被下間敷や、御病中ニ付御書状ハ他人ニ御写サセ、之ニ御記名丈被下候へは十分ト奉存候、先方ニテハグリーン氏ノ助ヲ働キ候筈ニ御座候、又テホレスト、デヒス、ラーネット、ゴルドン、アツキンソン諸氏よりも紹介状ヲ仰度御座候

或人ハ此ノ企図ヲ目シテウイジヨナリト可申、又自信自負ニ過キルモノト可申候、乍然小生ハ神ノ御助ニより神ノ御

栄ノ為メニ大事ヲ求メ候事ニ御座候、小生若シ此大堂ニ説教スルノ任ニ当ラザレハ神ハ別ニ造化ノ人ヲ起シ可申候、

目下此時機ヲ感シ、之ニ当リ候事ハ是小生ノ分ニ候間、只たの任ヲ尽し候のみニ御座候、成敗ハ只神知り玉ふ事ニ御

座候、何卒〳〵御賛成被下度、御助力被下度、偏ニ奉願候、若し御不同意ニ候ハ、或ハ又十分御賛成無之候ハ、

直ニ電報ニテ御申越被下度候、左候へは直ニ参京直ト開陳可仕候、時日無之（冬ノ中ニ米國ニテ働クガヨイトノ事故、且一日も早く成功シテ帰朝シ度ノ希望よりして出立ヲ急申候故なり）

可成ハ出京不仕して済し度候、止ヲ得ざレハ参上可仕候、左スレハ来週月曜日ニ出立可仕候間、電信ニテ御一報奉願

候、右ノ趣、金森江も御相談被下度、不在ナレハ先生御一己ノ御見込ニテ宜敷候

十二月十一日

伊勢時雄

新嶋先生

尚々、奥様ニ宜敷奉願候、頃日平馬ジフテリヤ類似ニテ大ニ心配仕候処、只今快路ニ相成申候〔カ〕

363

〔十二月十二日〕

不破唯次郎

①上州前橋本町
付は消印による

②京都府上京区寺町通丸太町上ル

③はがき

④墨

⑥日

恭啓仕候、愈御多祥大慶至極之至ニ奉存候、扱大坂総会之節、キユリーク教師意見書今般出版之事ニ付御報ニ接シ、前橋教会ニ於テモ元ヨリ賛成希望致居候事ニ御坐候間、何分御加へ被下度奉願候、先ハ急御返事迄、草々不一

364

十二月十二日

杉田 潮

④墨

拝啓、先日は罷出御厚待ニ与リ奉多謝候、去ル六日無難ニ帰宅致候、乍憚御安心被下候、先生近日御病氣如何ニ候哉、尚嚴寒ニも可差向御養生專一与奉存候、偕、御回文之義当教会員一同拝見致度意ヲ表シ候ニ付宜敷御依頼申上候、早速御答可申之処、小生帰宅後風邪氣味ニテ引籠延引仕候、又兼テ御嘶之ポルトル氏昨十一日御立寄ニ相成、夜分教会之為メ説教被下、聴衆信者未信者ヲ不問、大ニ感情ヲ起シ候、同氏モ大ニ喜悅被成、今朝は新邸之先生之旧家

及ヒ先生之説教アリシ妙光院等參觀ニ相成、其ヨリ十時四十分之汽車ニテ越後之方被赴候、先は御依頼旁申上候、草々

十二月十二日

杉田 潮

新寫先生

机下

365

十二月十二日

徳富猪一郎

④毛筆（赤インク）

肅啓、追々尊書被成下奉万謝候、多忙中貴答相怠り候段不惡御了察ヲ乞ふ、頃日、尊書ヲ得サル前ニ九州地方と越中越後ニ書状ヲ発したり、上州ニハ小生も湯浅君と同県会議員ヲ招待するの坐ニ臨ミ候、其節新井毫氏ニモ面会仕候、同氏ハ右の坐ニハ臨ミ不申候得共、其の郷里ニ於てハ大ニ尽力ノ覚悟と申し居り候、最早同氏も東京ニ来る筈ナレトモ彼は明年ニナル可し、後藤伯ハ御申越ノ時ハ既ニ発途仕居候しを以て終に面談ノ期ヲ得不申、後藤婦京ノ上ハ必らず面談可仕積リニ御坐候、小生ノ愚見ニヨレハ、本年ハ既ニ歳末ニ迫りたれハ新年早々書状ヲ出ス方可然と存候、併し右ノ準備ハ目下致置積リニ御坐候、目下歳末社務繁忙、為めに貴答延引不惡御承引ヲ奉請候、匆々頓首

十二月十二

徳富生

襄先生

玉案下

366

十二月十三日

市原盛宏

④墨

過日參堂御厚

〔欠 頼〕

奉鳴謝候、其後再三尊書に接し早速拝答可仕候處、帰仙後直様競技会なるものを相開き、生徒

をして英和演説、作文并ニ木馬、鉄棒、高飛、巾飛等戸外之遊戯を演ぜしめ、県知事始メ商議員、県會議員

（但議事非常
に多忙にし

て來客者なし、
書中ノ返礼ナリ）各學校長等を招待致候為メ其前後極メテ多忙に御坐候儘乍不本意延引仕候間、不惡御海恕被成下度候和

田、押川之二氏へハ銘々より拝答致具候様依頼仕置候ニ付、左様に小生之卑見を申上候

一、過日參堂之節伊勢兄等を始メトシ小生に至るまで今回之大事件に付き更に御相談不申上候訳ハ、全く先生之御病氣を恐れたる故に御坐候、実ハ大坂に於て親友等相会候折にハ、度々先生に面談するの得失を相謀申候へ共、金森より斷じて差止申候故一同態ト思止リ候次第に御坐候、依而現今之如く却而先生之御心痛を起候を見ては再度までも拝謁しながら遂に言の此事に及ばざりシを遺憾至極に存候、右之如き次第に御坐候間、啻に小生之為メノミならず諸兄等の為にも此儀丈ハ不惡御了察被下候様奉懇願候

一、今回之大事に付而ハ、徒ラニ一致之美名に迷ハされて輕卒之舉動を為すべからざる儀ハ勿論にして、現今我組合

諸教会に於て行ハル所の独立自治の美風ハ、何処ノ／＼までも維持し度ものに奉存候、又彼起草委員の手より出タル憲法草案の儘にして一致する事ハ到底出来るべき事にもあらず、亦望ましきことにあらずと存申候、去レトモ我組合教会なるものハ元来「コングリゲーションナル」とか「プレスビテリアン」とか云ふ如き宗派を主とせるものにあらずして、実に所謂基督教会の組合たるに過ぎず、始メより宗派心を厭忌し来れる事ハ既往十余年間の歴史に於て昭然たる所と存申候、依而若し我國に於て最も早く、最も広く福音之道を宣伝ヘ、以て我同胞を救ひ、且主の教会をして健康清潔ならしむるに足るべき方法を以て合併せんと欲するの教会あらバ両手を拈げて之レニ応じたまものと存申候、且今回の一致ハ僅カニ一致組合ニ教派丈の一致にして、其他に及バザルハ遺憾之事に御坐候ヘ共、他の教派とハ到底急速の一致を望ミ難く、仮令ニ教派たりとも一致せざるに勝ると確信仕候、特に此二派ハ信仰、礼式、政治之三点に於て大に相類似する（他ノ教派に比すれば）処有之、若し組合教会の自治独立と一致教会の協同一致とを都合よく調合するトキハ実に善美なる結果を呈するならんと希望仕候、小生ハ決して此二者を以て水、油の如き関係ありとハ信じ得申候、心霊の一致ハ衆人皆之レヲ望まざるなし、小生も亦之レヲ以て外形との一致に勝ること百倍千倍なりと信申候、然レトモ外形との一致ハ、心霊との一致を助成するの一大方便なることをも確信仕居候、憲法中修正を要する条々ハ随分見当リ候ヘ共今省略仕候

一、ギュリキ氏の演説を印刷して諸教会に配達候儀ニ付而は左之如く愚考仕候、小生に於ては不肖ながら余り同氏の演説にハ感服不仕候ヘ共、若し之レヲ見ント欲スル人々諸教会中にあらバ勿論其自由に任すべし、然レトモ乍憚俚合諸教会が父の如く仰慕する所の先生に於て、^{〔恭〕}啻に同氏の演説筆記をのミ印刷配布する様に御周旋被成候事ハ最も痛ましき次第に奉存候、余人ハ知らず、責メて先生丈ハ公明正大、不偏不党之位地に立ち、利害得失とも善く双方

之議論を諸教会に聴かしめ、鄭重に判断致候様御周旋被下コソ至当之事ならんと思考仕候、特に御書中にも有之候通、先生と雖トモ強ち今般の一致に御不同意と申す訳にも無之、唯後進者を誠めて所謂 “Caution, precaution, and circumspection” せよと御勸告被成候外別に御異存なきに於てハ、若しギユリキ氏の為メに御周旋被成候ハ、亦ゴルドン、ラルネツド諸師の意見をも御請求之上、同じく印刷配布せしめ給ふてコソ公明正大、先生之位地に適し、先生之趣意に応ずる訳にハ無御坐候哉、尚御一考を奉願度候、何分近日の状況にてハ先生が隠然一方之議長となり、伊勢輩の如きの相手として党派様の争を被成候哉に見受られ、先生の為にも我組合教会の為にも甚面白からぬ事と思考仕候

一、今回之事件に付き慎んで先生之御処置を拝察するに、所謂千慮の一失、先生にハ御氣付無きにやと憂慮仕候へ共、畢竟小生之暗愚たる未ダ先生之御深意を了解し得ざる故ならんと存候間、予メ御叱正を願置候儀ハ他にあらず、成る程委員諸氏の中にハ今回の事件に付き随分手抜ケもありしならん、或ハ行過ぎもありしならん、其辺ハ僻遠の地にある身なれば小生の詳カニ承知せざる処に御坐候へ共、兎ニ角今回頂戴致候貴書中にも、頗ル伊勢輩を御攻撃被成、先日大坂総会之節海老名列に御遣被成候書の如きハ極めて激烈なるものに被思申候、固より彼等限に御遣被成候事なれば何仔細も無之候へ共、彼貴書をバ会衆の前に朗読すべしと御申越（後刻御取消にハ相成候へ共）被成候に至てハ小生如何にも先生之御趣意を了解仕兼候、尤モ組合教会中に益々自治独立之精神を御吹込被成候思召ならんとハ存候へ共、先生にして彼様なる事を衆人に対して御吹聴被成候晩にハ此まで先生の股肱として働来り組合教会中先輩として仰慕せられたる彼委員諸氏ハ遂に其適當なる勢力名望をも失ふに至らん、是れ或ハ忍ぶべきも、若し教会内に從來未曾有之波瀾を生じ先進後進の間に軋轢を起すに至りてハ実に由々しき大事にして、是程忌ま／＼しき事ハある

まじと存申候、先生之御精神ハ了解仕候へ共、其実施法に至テハ小生甚疑惑仕居候

右之条々ハ何レモ非常之大事と存候儘、尊威を憚からず愚衷之程服藏〔敬〕なく申上候ニ付不惡御海容被成下度奉懇願候

也、頓首再拝

十二月十三日

新嶋先生

膝下

盛宏〔カ〕
拜

尚々、前書之通愚考仕候ニ付、教会当〔宛〕之御書翰ハ和田、片桐〔禮治〕に相見セ候ノミにて未ダ一般之兄姉等へハ吹聴不

仕候、然レトモ直様通達すべしとの貴意に候ハ、御一報次第早速左様可仕候、昨日森田兄へ一書を呈し小生が

同志社に於て卒業し且某年間教員相勤候事を英文にて御証明被下候様願上置候処、右ハ洋行之支度ニ付是非入

用ニ有之候間、何卒よろしく御取計被下候様奉懇願候、大学資本金募集之事ハ夫レ／＼相頼ミ居申候、不幸に

して県會議事非常に忙しく為メに議員諸氏へ熟談仕兼候、乍末筆御令聞様へよろしく御致声被成下度候

367

十二月十六日 新井 毫

④ 墨

朔風捲飛雪ノ候ニ相成リ候處、益御清榮之段奉賀候、却說、兼々厚ク御配慮ニ預リ候退去モ警視庁ヨリ特赦サレ、去ル三日午前八字群馬県庁ヲ經テ令狀下付有之候、其際一寸電報ヲ以テ御報知申上候處、速刻御返電ニ預リ奉謝候、今回之特赦ニ逢フ、全ク先生ノ御余光ニ由ルモノト深ク奉感銘候、大学ニ係ル紙面両通共正ニ落掌、尤モ其前ヨリ議員紳士ニ向テ頻リニ遊説ヲ試ミ居リ候際、兩箇ニ接シ候故一層奮勵致候處、我県内ニハ一人ノ反对者ハ無之、兼テ多少ノ賛成ヲ表シ候、其結果ハ詳細ニ湯淺氏ヨリ詳報可有之候、我南勢、山田ノ兩郡ハ山田藤十郎氏主トシテ其任ニ當リ候事ニ相定メ候間、大学ニ係ル書類及ヒ通信往復ハ(大間々町三丁目 大間銀行同氏當)ニ御発送奉願候、去ル六日、徳富氏モ来橋セラレ候、関西ノ情況ハ同氏ヨリ伝承仕候、小生ハ七日ニ前橋ヨリ一旦帰郷シ、諸事一段落ヲ相付ケ、一昨十四日漸ク入京致候、徳富氏ニハ兩三日内ニ会晤万事相談可致胸算ニ御坐候、土倉氏モ尚ホ滞京、上毛ノ山林事業ハ十二八九ハ好果有之ト奉存候、同氏モ四五日内ニ西下可被致、尤モ路ヲ海道ニ取ラレ候由、其折小生モ同伴一旦西下致候心組ニ御坐候得共、或ハ小生ハ留東ノ役割ニ可相成トモ被存候、塵事山ノ如ク寸暇無之、余情細報ハ徳富氏ト会合ノ後、明白ニ可申上候、右不取敢御礼旁、現下ノ概況申上度如此ニ御坐候、早々頓首

十二月十六日

新井 毫

新嶋先生
侍童

付伸、偕、近頃ハ御病情モ稍く輕快ニ被趣候由、欣喜此上モ無キ事ニ御坐候、猶ホ百事御抛棄為邦家御撰養專

一ニ奉祈候、八重様ニ別紙同様御礼申上候間、可然御鶴声奉願候

368

十二月十六日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光享（孔版）

⑥ 受信地は「神戸山手通英和女学校気付」

寒氣酷敷相成候処如何御暮し被成候哉、頃日より追々尊翰ヲ辱ふしたれとも貴答ヲモ毎々不仕欠礼申上候、是レと申

スモ歳末ニ際し明年より月三刊と相成、加之湯浅兄県会留守中ニて彼是多忙の致ス所ニ御座候、陳レハ明年早々書信

ヲ発する為めに既ニ一千の書面印刷ニ付し申し候、岡山県ハ幸ニ其の知事ハ小生ノ親類ニして、県會議長ハ充分小生

ノ懇親ノモノニて有之候得ハ多少の手掛りも有之候、東京府会丈ハ早速田口君と相談可仕候、同君ハ最も該会ニ於て

信用アリ勢力アル人ニ御座候、関東諸県ハ大分手掛り有之候間、右ハ湯浅兄と相談の上致ス可く候、改進黨派ノ「イ

ンテレスト」ノアル県ハその手掛りより可致候、埼玉ハ加藤政之介議長、長谷川敬介書記官兩人ニ手掛り有之候、万

事明年ヲ御待チ可被下候、明年ヨリハ教育上の問題ニ付き機ヲ見て堂々と議論可仕覚悟ニ御座候、阿部兄昨日帰熊の

途に就けり、大迫兄同行ニ御座候、定めて今夜若くは明朝ハ拜趨の上御示教ヲ辱ふすることならん、幸ニ御自愛し同

志社のために我等ののために御自愛千万祈上申候、草々敬白

十二月十六

徳富生

新島先生

玉案下

369

十二月十七日

奈須義質

①上州富岡町

②西京同志社学院

③はがき

④鉛筆

シトニ―宣教師意見書活版の事ハ至極御賛成申上度可成急速ニ奉願上候、右迄、匆々
十二月十七日

十二月十七日 下村 房

墨 ①熊本新屋敷丁四百拾番地 ②京都府寺町通丸太丁上ル十三番戸 平信 ④

御しんもじの御手紙ならびに金子五円御送り被下、誠に／＼有がたく奉存候、先々 先生へハ長の御病氣にておハしまし候御事、如何あらせられ候やらと夫のみ／＼存上候処、早御快氣あらせられ候御事、方々御目出度奉存候、然は増々寒氣つよく相成候間、どふぞ／＼御さわりなきよふ神かけ祈上奉候、此度海老名様へ御こと付金子五円御送り被下候事、誠に有がたく存上候、此夏ハ久しく私病氣致候、其上長崎へ参り居候娘まで病氣にて帰り、色々と物入致、此十二月と相成候へバこまり居候処、御助金被下候間、猶さら有がたくいたゞき申候事にて御座候、然処此夏の物入の事を〔浮田〕和民さつし候て同志社へ頼ひ申候よふすにて、金子二十円、同志社より御恵み被下候事にて、実に存がけもなき実ニ有かたくも拝領致候、私病氣後、よそより金拾円をかり候て暮居候間、右之二十円のうち拾円ハ早速返し候事にて御座候、誠に安心致候、残り金拾円御座候間、実ニゆたかなる年をむかへ申候事にて御座候、実ニ思ひがけなき御恵み、これ皆御元様の御蔭にて御座候事、何とも／＼御礼の申上よふも御座なく、只々恐入奉候、御蔭にて養生もおこたり不申、無事ニ暮居候事にて御座候、乍憚佐様思召被下候、扱とや孝太郎事、三年もなり、四年となり、ぬび／＼ニ相成候間、来年帰ると申ても如何ならんとうたがひ居候処、此度先生より来年ハ孝太郎帰るとの御事にて実ニ嬉しく、早年あけなバ此年と、待た無たのしみ二月日のおそき心ち被下、いかにも数ならぬ物と思召御わら

ひ遊ハすならんと存上候、かなはぬ筆にて長々と申上嘸々御免どふに思召被成候事ならん御すひもじ御覽被下度奉願候、御目出度かしく

十二月十七日

房

新嶋先生

御奥様

筆末なから皆々様へ御よろしく御つたへ被下度奉願候

371

十二月十八日

金谷 充

①京都上京区今出川上ル室町東側 ②神戸諏訪山和楽園 侍史 ④墨

益御清適奉拝賀候、陳ハ御着神後ハ早速御起居可相伺筈之処、彼是多忙之折柄、不図御無音実ニ申訳無御坐候、御地ハ当地ト違ヒ氣候極メテ温暖ニ有之候得ハ御養生之為ニハ最適当之場所ト存候間、此際尚一層御自愛御加養之程只管奉禱候

御出發後学校異状無之、其後野村兄モ日々精勤相成居候間御安心被下度候、兼而御噂有之候岩崎弥之助君、去十二日

午後ニ至リ突然来校相成候ニ付、小生森田氏(久万人)ト共ニ丁寧ニ案内致、書籍館、彰栄館其他校舍并ニ教授之模様等逐一巡

覧之上被立返候、先生過日御来校之砌御談有之候同君旅宿御尋相成タル事抔委細伝言仕置候、同君よりモ先生へ宜敷
申上呉候様伝言有之候、過日御付托之貴翰直ニ大久保へ相渡候処、同人義御恩賜之一段難有感佩罷在候、右御近況御
伺旁申上候、草々頓首

十二月十八日

金谷 充

新島先生

閣下

追啓、乍筆末令夫人へ可然御致声奉願上候

372

十二月十九日

安部磯雄

①備前岡山門田屋敷

②神戸諏訪山和楽園

乞御親展

④墨

前略、御申越の筆記ハ唯今見当リ不申、多分紛失いたしたるなるべし、又先生より下されし赤インキの御手紙ハ杉山
氏へ渡し申候、又明白に記憶不仕候間、唯今筆記して差出す訳にも不参、誠に恐縮仕候、然し若し記録が出版になる
事ならは其前に小生も一応閲覧仕度候、若者先生御高覧の上誤謬有之候ハ、何卒乍御面倒小生迄御申越し被下度候、

小生屹度先生の為に弁護仕度候、又先日ハよく／＼杉山君と相談仕り而して総会の前に於て陳述いたしたる事なれハ、あまり誤謬ハ無之と存じ候間御安心被成下度候、若し筆記に誤謬有之候ハ、小生飽く迄も訂正可仕候、此段不取敢御返事申上候

十二月十九日

安部磯雄

新嶋先生

時下折角御自愛被成度候、小生も及ハすなから先生の御為めに天父に朝夕祈願仕居候

373

十二月十九日

花島健起

①同志社教会

②神戸諏訪山和楽園 御侍史

③はがき

④墨

御方書被下難有拝誦仕候、目今神戸ニ於テ御加養ノ由、可成十分ニ御保養被遊度奉希望候

却説、御回状ノ趣早速当教会ニ相談存候処、全会皆御同意申上候間乍憚至急御手数被成下度奉拝願候、本校モ無事目下期末ニ差迫り一同皆試験ノ用意ニ熱心致居候、御安神有之度、只毎朝先生ノ空席ヲ礼拝堂ニ望ムコソ何カ心足ラザルノ感禁スル能ハズ、速ニ御全快ノ程伏テ全能ノ主ニ拝祈仕候、拝草

十二月十九日

374

十二月十九日

本城安太郎

①同志社大学創立事務所（回送元）
み転送

②神戸諏訪山和楽園

④墨

⑥本文の

謹啓、愈 御全配之御下ニ御消光之御義奉万賀候、陳者私義モ 御恩下ニ消息罷在候乍憚御放懷奉祈候、就テハ同志社大学設立旨趣書ハ長崎深堀佐賀福岡久留米柳川等へ配布仕候間今五六冊御郵送奉願候、当炭坑舎員へモ義捐之義ニ付承諾ニ相成居候、私申入置候人々ハ少シク地方ニテ名望御坐候間多少ニハ不関追々払込可仕候、却説当地へ教会堂新築之義岩崎殿ト如何御示談被成候タルヤ、当地ハ妖僧等跋扈致為ニ愚民等モ雷同シ随分困難ニハ御坐候得共、私ハ一身之守備ヲ敵ニシ品行之万里城ヲ建築仕居候ヲ、 御聖靈之御祐助ニテ堅固ニモ当村之戸長難波安積ト申候老人ヨリ伝道上彼是之世話ヲ受、小学校教員中ニモ又タ納屋頭ノ溫柔ニシテ略ホ時勢ヲ知リタルカ如キ人々及ヒ、其子弟等ト益ス勉学罷在候処、妖僧等之為ニ毎々障害ヲ受夜中私之住居ヘ石又ハ木切塊等抛入仕不埒ナル事モ候得共、素ヨリ争ハス泰然トシテ読書等仕居候、就テハ教会堂新築之義時機トモ相成居候ニ付、 愛先生台下ヨリ岩崎殿へ御示談之末如何相成候哉、至急御一報奉願候、尤モ私ハ完全ナル神学校之教育ヲ受タルモノニ無之候間、仮令当地之会堂ニテ

其伝道上覚束ナクト思召候ハ、相当ナル牧師御送奉願上候、私ハ必ス虚心ニシテ 道之為ニ師事可仕候、恐縮之義ニ
ハ御坐候得共至急御回報奉願候、時候向寒道之為御自愛、知己之諸彦へ宜敷御鳳声奉祈候、頓首謹言

十二月十九日

在高島

本城安太

拝

愛

新島先生

台下

375

十二月十九日

岩崎弥之助

⑤写真

拝啓、其後ハ引続御快方之儀欣賀之至ニ奉存候、小生長州行之途中御懇書ニ預リ、帰路拝顔ヲ得ル之心得ニ而貴答も
不仕、本月十二日西京へ相伺候処、丁度其節神戸へ御養生之為メ御出向相成候跡ニテ甚残念之至ニ存候、尤加藤君其
他諸子之御懇待ニテ学校其余共拝見仕候、漸次御盛大之段感服之外無御座候、高島ニテ本城氏ニも面会、至極都合好
尽力致居候様子ニ御座候、小生滞在中会堂建築之儀申出有之候得共、同所ハ種々之宗教家蝸集互ニ嫉妬之有様ニテ本
城之為メ建築致候テハ他之関係ヲ惹起シ可申、且本城氏も同地ニ在ル日猶浅ク、今急ニ会堂ヲ要スト之発言ハチト匆
急ニ涉リ候訳ケニハ無之哉ニ愚考致候、就而ハ右等之事情本城氏より老台へ通知も可有之候へハ可然御指示可被下
候、来春ハ小生坂神地方ニ要事も御座候而出張可致候ニ付、其節緩々御伺可申上、時下寒威之折柄御手厚御養生祈上

申候、勿々不備

十二月十九日

新島襄様

岩崎弥之助

376

十二月二十一日

加藤勝弥

① ニイカタ、ドリマス方 ② マルタ丁 ③ 電報（送達紙）

キヤウトウノミタノム

〔送達紙書込（墨筆）〕
「ウチムラドウシタクワシキテガミヨコセ」

377

十二月二十一日

児玉仲児

①和歌山県会議場

②神戸諏訪山和楽園

④墨

謹白、昨廿日御投与之尊翰拝受仕候、近来貴恙逐次御輕快之御趣為邦家奉大賀候、過般ハ同志社大学設立ニ関スル書類御送越ニ相成、本県會議員ハ勿論同友へも便宜相示シ有之義ニ御坐候、猶亦過日電報之次第モ有之候ニ付、県会開場中貴社員ノ御出モ可有之事ト推側罷在候處、今般之尊書ニヨレハ不得已御都合ニテ暫時御見合有之趣承知仕候、當議會ハ多分今明兩日中ニハ悉皆結了之合ニ有之、依テ今日之処ハ小生より御來書之趣旨篤ト申含置、猶將來折角頼力可仕候、拝答迄、草々忽略

十二月廿一日

和歌山県会議場ニテ

児玉仲児

再拝

新島先生

侍史

再白、時下逐日寒天ニ赴キ候ニ付切ニ御自愛奉祈候、小生モ廿五六日比より郷里那賀郡中山村へ引取候ニ付、自今御文書等御投寄ヲ要スルトキハ同所へ御遣シ可被下候

十二月二十一日

宮川経輝

①大阪玉江町 ②神戸諏訪山和楽園 侍史 ④墨 ⑥同封 伊勢時雄宛宮川
経輝書簡

日々御快復ト拝察奉大賀候、陳者今回伊勢兄会堂建築之資金募集ノ為メ米国ニ赴カレ候由伝承仕リ喫驚致候、何トナレバ同志社大学ノ資金募集之事モ到底内地ニテハ十分相調ヒ可不申、ダウデモ米国兄弟ノ助力ヲ仰ガズシテハ相成不申次第ニ御座候、而シテ彼ノ地ニ於テモ三百内外ノ大学ヲ始メ教会伝道等頗ル資金ヲ要スル事業多々有之可申候得バ、大学ノ資金サヘ得難カルベキニ、未タ其サヘ募ラサル先キニ、壹万円也貳万円也少し宛貰ニ出懸候時ハ大挙資金ヲ募ルベキノ時ニ際し如何有之可申歟ト焦心仕候、多分伊セ氏ニ於テハ且下東京ニ一大会堂ノ必要ヲ主張セラレ可申ナランカト奉存候得共、教会ノ事ハ時ト場合ニヨリテ異ナル処モ御座候得共、先内部ノ生長ヨリ初メ遂ニ外部ノ建築ト出懸候事至当カト奉存候、ダウカ此度ノ洋行ハ御釣留メ被下度切望仕候、甚恐縮之至ニ候得共別紙御渡可被下候
勿々拝具

十二月廿一日

宮川経輝

新島襄先生

〔同封別紙〕

端裏書「伊勢時雄様 宮川経輝」

伝聞スル所ニヨレバ、東京ニ一大會堂建築ノ資本ヲ得ンガタメ大洋ヲ御渡船被成候御企ノ由、雄志ノ程感心仕候、然し今茲ニ熟考ヲ要スル件ニ御座候間御参考迄ニ申上候、大兄モ既ニ御經驗ノ事ナルベキガ、教會ハ内部ヨリ生長スルモノニシテ外部ヨリ生長スルモノニ無御座、仮令広大壯麗ナル會堂出来タレバトテ内部相整ハサルトキハ如何可有之歟ト焦心憂思仕候、今大兄ノ講義所ニハ果シテ壹万円ノ會堂ヲ要スル歟、ヨシ要スルトシテモ先ヅ教會ヲ組織し獨立ノ基本ヲ堅固ニシ、然ル後広大壯麗ナル會堂ノ建築ニ從事致サレテハ如何、決シテ晩カラジト被存候、尤モ末大兄ニ面接シテ直話ヲ承リタル訳ニモアラサレバ御企ノ程モ相分リ不申候得共、會堂建築費募集ノタメ米國行御企被成タルダケハ事實ナルガ如ク被考候、此事ハ是非思止リテ貰ヒタシ、何トナレバ同志社大學ノ資金モ到底内地ニテハ十分相調不申ハ鏡ニ掛テ見ルガ如シ、左スレバ是コソ必ズ米國兄弟ノ助力ヲ仰カサルベカラズ、未タ此募金ニ着手セサル以前ニ壹万円也貳万円也ト価ニ募金ニ出懸候得ハ百年ノ大計ヲ誤ルニ至ルベキ歟ト心配仕候、將又大兄ハ伝道本局トノ關係ハ如何ニシテ洋行被成候積ニ御座候也、本郷講義所ハ既ニ壹万円以上ノ會堂ヲ維持スルノ資力アルモノト見做サ、ルベカラズ、左スレバ本局ヨリ其伝道師ニ向ヒ月手當ヲ支給スルニモ及ス乍ト被存候、尤モ洋行ト御定メ被成候得バ本局トノ關係ハ絶チタル上ノ事ナルベシ、明日ハ残念ナカラ下神出来申サズ候間、此辺ノ処奉伺度候、不顧失礼思付ノ儘御尋申上候、万一小生ノ推測正皓ヲ失シ居候ハ、御許容被下度候

十二月廿一日

宮川経輝

伊七時雄殿

十二月二十一日

植木枝盛

④墨

本月八日付教墨拝読致し候、先般は図らずも金森君の御指導を忝し、貴社学校詳細ニ拝見致し難有存し申候、〔麻・以下同〕願節は幸にして拝顔を得候得とも、勿々之場合にて御座候故、猶又重而慶閔に伺候致し色々御高話承度とは存じ候ひしも、折柄御病氣之場合にて有之候故、却而御妨に相成候事ニ遠慮いたし差扣申候、願后貴恙如何にて御座候耶、乍蔭御案じ申上候、小生儀ハ過日来鳥渡帰県致し居候得とも、間も無く再び上阪仕候処御書簡は幸に小生在郷中ニ彼地へ到着致し候ニ付、御送致之御書類は御吩咐に従ひ、其れ／＼県會議員の者へ遞与致し候

大学設立之御企図は実に絶大之御美挙にて御座候故、県下に於ても小生共平生之同志は勿論之事、願他之輩と雖も之を賛成せざるものは幾んど有らざるべしと存じ候得とも、之れが為めに実地に捐資致す者果して如何計可有之耶否耶、甚御恥かしきことには候得とも今より已に煩慮いたし申候、全体本県下に於ては小生共同志之者は十余年来国事上之奔走に資力を抛ち、今日にてはやゝ余裕あるものとは至而僅少ニ有之、又他之一般人民に於ても、数年来一県之事の為め種々義捐金之約束いたし、願皆約のものさえ未だ実践せざるもの多く有之位之景況に御座候故、十分高意を満足せしむるほどの運びに至兼候耶も難測候、併し小生共に於は可及的之尽力仕候は申迄も無之事ニ御座候間、此段のみは御承知置被下度候、大学設立之御趣意書は先頃県地之土陽新聞にも転載仕有之ニ付、猶此上は右新聞社にて義捐金之取次致す様仕度、実は此事も小生帰県致居候間に話方致し置ク心得にて御座候処、県地滞在之日数極而少ク

何事をも勿々に付し去り上阪致し来り候ニ付、更ニ当地より彼地へ申遣る考ニて御座候、猶又場合ニよりては彼地之者より御通報申上る事も可有之、先は右之次第得貴意度如斯御座候、不宣

十二月二十一日

於浪華 植木枝盛

新嶋襄先生
侍史

380

十二月二十五日 金森通倫

①京都 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

風力ニ承り候得ハ我政府ニ於テハ総理大臣ヲ始メ各大臣ニモ大ニ經費節減之義ヲ主張セラレ、各省之費目等ニモ多少之減額有之由、就テハ我同志社之如キモ明治政府之下ニアリ殊ニ校庫欠乏、財政困難之際ナレハ、宜敷政府之御主意ニ則リ節儉相励度候間、本年ヨリ八年末年始之進物取交ハシ等廃棄仕候テハ如何ニ候哉、此段謹ンテ動議ヲ呈シ候間、伏シテ御賛成御採用被成下度偏ニ奉希望候、敬白

第十二月

新寫先生

金森通倫

拝

381

十二月二十七日

加藤勇次郎

① 京都室町上立売南

② 神戸諏訪山和楽園

④ 墨

唯今滋賀県高島郡勝野村より帰宅いたし御書簡拝読仕候、先生愈神港之風光之間ニ病魔追討ニ着々御従事被遊候由恭賀仕候、園田富永山口云々ニ付巨細仰越ニ相成敬承仕候、実ハ昨夜ハ園田氏宅ニ一泊仕り、令息精一氏之事も小生之意見丈ヲ開陳致置申、未だ勉強之心を興さざる幼童を予備校ニて鞭撻奨励するハ、或ハ精神を奮起せしむるの機会となることもあらぬが、是ニ勝りたる策ハ矢張り金森之令閨之如き学問あり信仰あり教育ニ熱心なる人物ニ三五人を委託し、別ニ監護之人を置き教育するニ如ざるべし云々の意を以て園田之細君まで（同夫人ハ随分心配いたされ居らるゝ様子なりし故、予め一言申置たる次第ニ御坐候）申陳置候、富永氏をも一度相訪之心得ニ御坐候、山口ハ転宿いたし療養中ニ御坐候、是又注意可仕候

今回勝野村ニ於て鳥群と合戦之模様を物語可申上、同行三好末郎^{〔末〕}（二年生）、末光類太郎（三年生）、予而園田氏之教示ニより地理を察し払曉旅宿を出発して鳥群之牙営を襲撃セリ、目ニ触るゝもの雁あり鴨あり白鷺あり雉子あり鳩あり其他小鳥之如きハ屈指ニいとまあらず、偕我輩之分捕いたしたるものハ鶉ニ啄木鳥鳩之類ニして、末光鳩七羽ニ小

鳥十一羽、三好小鳥四羽、小生鳩十三羽ニ小鳥十一羽、近頃之一快戦と存申候、都合出来候ハ、今一回位富永氏等之出張を待ち一大快戦を試るの心算ニ御坐候、右貴答まで頓首々々

十二月廿七日

加勇

新島先生

玉几下

拝頓

二白、御令聞さまへ宜敷、先夜被仰聞られ候書物ハ未だ其借主を聞出し不申候、何れ聞出し次第永岡氏へ相伝可申候、再白

382

十二月二十九日

中村栄助

④インク ⑥「起立工商会社」用箋使用

尚々、下村君ハ今一兩日新育ニ滞在被致候ト奉存候、私シノ下宿ニテ同宿相成、昨夜ハ津田君モ止宿被致候
拜啓、陳者本月二十二日ブルテモールノ下村君ノ方へ罷越面会ノ上種々ノ御相談有之、予テ大学校ノ件ニ付テモ尽力
相成居候処、今般或ル人ヨリ新育ニテ巨商ノスタンダー「ド」ライルコンパニー、ロクカファイルド氏ノ展書ヲ被得候
間、同君ト同道シテワシントン及ヒヒラデリヒヤ見物致、引続キ新育ニテ兩三日滞在、漸ク下村君ハ今朝ロクカフイ

ルド氏ニ面会相成リ、都合ハ随分宜敷キ方ニ付三万円位イハ得ラル、見込ミナレ共、何分ニ已後数回ノ面会ヲ得テ好結果ヲ得ルノ積リニ御座候、且ツ其他ニモヒラデ〔ル〕ヒヤノ信者ニテ有志家有之、来月五日ニハ面会セラル、都合ニ候、何レ十名計リノ巨商有志家ニハ是非共面会スル積リノ由、詳細ハ帰朝ノ上可奉陳述候

陸奥公使ニ面会仕候処、五百円寄付ノ件ニ付徳富君ノ方江書面被差出候件ニ付、迂生江態々御言付有之申候、何レ御話シ申上度ト奉存候、下村君ヨリ中島君及ヒ家永君ノ事及ヒ湯浅氏ノ事ニ付種々承リ候件其他ニモ有之候得共、筆紙ニ尽シカダク且ツ近内ニハ帰朝スルノ都合ニ相成可申候ニ付帰朝ノ上ハ緩々申上度ト奉存候、尚々此間中湯浅氏ハ病氣ニ有之、漸ク此頃ニ書面ノ往復等出来、現今ニテハ全快相成申候、度々便モ有之申候

明治二十一年十二月二十九日

関西貿易会社 中村栄助

新島先生

閣下

尚々、御令閨江宜敷御伝声奉希上候、会社用万事都合克相片付可申与存候、御安慮被下度、且ツ上野君ヨリモ宜敷申上呉様被申居候、此段申添候也

〔明治二十一年〕

新島公義

①奈良押上町東へ入ル水門村四番地 ②寺町通丸太丁上ル 親展 ④墨 ⑥
端裏書「河井環君ニ依テ」

愈々河井君之令息モ本日出發登京被致候、試験不合格ナレバ予備校ニ入ルノ精神ニ御坐候、他方ヨリ来校スルモノ試験ノ容易ナラザル事、ヨ備校ニ入ルモ損ナキ事、又順学ナル事等委曲大人に申陳べ置候間、第二ノ決心モいたし出京仕候事ニ御坐候、ヨ備校ニ入ル上ハ寄宿所加藤寿君へ委託仕度、其書面差出し申候、浮田、加藤両君モ寿君ノ所江出来ルベシト被申候間、特ニ両君へ寿君ニ願度義モ委嘱仕置候、両君御承引ノ事、扱河井君モ少年始メテ洛陽ノ遊学旅宿ナド心配被致候間、差当リ五日ノ一夜、二階へ御泊メ被下度偏ニ奉願上候、六日ヨリハ加藤君宅へ宿泊致ス様頼み候ニ付、夜具持参被致候、一夜ノ所ハ御心配奉願上候

話頭回転、一月一日ミツシヨソノ御話シハ感ニ入り候ニ付、新神ヲ激励シ二十一年ノ光陰ハ願クハ此感ヲ以テ勵止可致候、奈良ノ祈禱会モ少数ナレトモ余程盛ソニ御坐候、昨夜ノ如キハ堂中皆ナ涙ヲ払ヘリ、私モ毎度ナガラ又タ復タ昨日水門村四番地へ転宅候、此度ノ所ハ清潔〔ニ〕シテ閑静宜布所ニ御坐候間、ケツト、シーツ少々ノ食物御持参、御休養ニ御来南被下度切望仕候、牛肉ハチープニシテ佳良、牛乳モアリ鶏卵位ヒハ易々御馳走可仕候間暫ク当地へ御退養アリテハ如何、私ハ海山ノ恩モ容易ニ酬ひがたく候間セメテハ御休養ナリトモ充分ニ為致度奉存候、一間御渡し可申上候間、二三週間春日野辺 水門村の学庵鹿友寓宅へ御退養奉願上候、小事ノ御六理ハ大事ノ敗、現今ノ時節生命

是レ大事、嗚呼吾党ノ大事トハ生命ヲ保存スルニアル哉、ソレ奈良ハ閑雅ナリ山ニ雉子アリ池ニ鴨アリ、嗚呼鹿友ノ学庵ハ英養ノ地ナル哉くく、敢テ乞フ、草々以上

○願クハ老祖母様始メ八重様尊下江宣布奉願上候

○角定ハ懇意所、風呂ハ第一番ニ御入レ可申候而シテ私の寓より角定ヘハ一町半ナリ

〔別紙〕
○八重様ニ申上候、羽織ハ黒ニテモ白ニテモ何ニテモ宜敷貴意ニ任セ候間一日モ早ク御仕立奉願上候、但シ三月ニ可申上候

384

〔明治二十一年〕

杉山重義

④墨

御教書只今相達奉拝誦候、高崎遊説之事ハ兼て御談も有之たる事に付前橋にて不破と相談之上不取敢同氏出張之事と致し、小生ハ直に帰会致したることにて、是と申すも原市等之事も至急に相計はずしてハ叶ざる事情ありし為なり、御推察被下度候○然るに過日不破氏同地へ行し時之模様事ハ未だ承知せず、只今先生及び大迫氏之御書面にて霍田生〔鶴〕之行し時、同地教会の捺印する手順に運ばざりしを初て承知したる訳に御坐候○小生ハ過日以来所々に奔走し、且つ一昨日よりスカッドル氏と共に東西を歩き廻り、昨日来ソレガ為め病氣にて打臥り居たれども、先生の御書面にてハ

何分捨て置き難く、病を犯して只今安中迄参り杉田にハ色々相談し申候、同地へ仮令ひ湯浅来るも氣使なかるべしと存候○只今又た不破に書状を出し、明日ハ高崎へ出で同地教会を遊説して捺印せしむる様尽力すべきことをを送り置候○小生も今より最終汽車にて高崎へ参り、大谷等二三名の人に逢ふて勧告する積に御坐候、然し若し小生留主中湯浅来りて（同氏ハ非常のインフルエンスを安中原市に持てり）落城してハ大変ゆへ、今夜人力車にて遅くとも帰村せざるを得ず、夫故明日同地に止るをハ到底六ヶ敷と存候○若し今夜行て遊説して、且つ明日不破氏来りて勸めて聞かぬ位ならば仮令ひ小生が会衆之前にて湯浅氏と激論するとも高崎教会のソレガ為めに動くことは覺束なし、小生等の考にてハ他さへ既に連合し居れば、仮令ひ万々一不幸にして手を尽したる後高崎教会一個が不同意にても少しも落胆する訳ハ無之と存候○委員にして已に先生之御書状の如き庄制あらば小生等ハ飽くまでも之に反対せざる可らず、取急候故茲に閣筆仕候、御自愛專一に御坐候

土曜日夕出立前

安中杉田氏方にて

杉山重義

新島先生

過刻御教書を戴くや否なや当地へ出張し、其節不取敢一書を差上置候、定而御落手御披見被下候事と奉存候、偕て夫より大谷氏方を訪ひ種々相談じ候処、同氏も予て大に之を賛成し居り、同氏之申すには此間〔船〕霍田氏之来られし節ハ未だ相談一決せざりし為め調印することを得ざりしが、此間不破氏之来りて種々勸告せられたる等にて略々輿論ハ延期に決し居れば、明日の午後会議法を以て愈々之を決し、直に調印し大迫氏方迄送るとの事に御坐候、尤も明日説教の爲め星野氏が来る筈なれども、已に輿論ハ定り居れば如何に同氏が能弁を以て説くとも決して動かさるゝことハ非ざるべしとの事に御坐候間、小生も安心して帰村致し候、尤も先生〔カ〕へ書状を差上しと同時に、不破氏へも可成ハ明日高崎に來り尽力致し呉るゝ様頼み置候間、多分同氏来るならんと存候、夫故小生ハ帰村の上益々教会を固め、千万の湯浅氏來りてデモセ〔ママ〕ネスの能弁を揮ふとも決して氣遣無之様可致と存候、右ハ事情御報導迄如斯に御坐候、勿々大迫氏にも宜く御伝へ被下度奉願上候

土曜日夜

重義

新島先生

虎皮下

新島襄全集編集委員

委員長

同志社前総長・理事長

同志社総長

委員

同志社大学名誉教授

同志社大学文学部名誉教授

同志社大学文学部名誉教授

同志社大学前工学部教授

同志社大学人文科学研究所
名誉教授

同志社本部庶務部長

同志社社史資料室室長

上野直蔵(永眠)

松山義則

高橋虔(永眠)

オーテス・ケリー

北垣宗治

島尾永康

杉井六郎

木村健二

河野仁昭

新島襄全集9 ■ 来簡編上

1994年9月25日 初版第一刷印刷
1994年10月1日 初版第一刷発行

編集者——新島襄全集編集委員会

発行者——今田 達

発行所——株式会社同朋舎出版

〒604京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428
電話075—212—5900
東京支社 〒101東京都千代田区神田駿河台2—11—1
電話03—3292—2021
振替京都5—22982

印刷——株式会社図書印刷同朋舎
製本——大日本製本紙工株式会社

*THE COMPLETE WORKS
OF
JOSEPH HARDY NEESIMA*

9
Part 1

Letters Received by Neesima

DOHOSHA
1994
KYOTO•JAPAN

新刊子伏丁甘一書

大坂

(m. c. Leavitt.
Latham) (11 years)
Latham. (Latham.)

Sept. 1886.

押所通車而甲

市上為堅元

五夢丁二至先

示方組

柿木丁

柿木東

大之保

牙女至人

西，旧院

凡下地入

河多古

○ 刻 唐 川 修 元 坐

同志社大学学術情報センター



9410058208